HP ALM

ソフトウェアバージョン: 12.00

ユーザーズ・ガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 3 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 3 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は，Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の登録商標です。

Intel® は米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®，Windows® は，Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Unix® は，The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。**http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals**

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。
http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。**http://support.openview.hp.com**

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは
http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp です。

目次

目次 3
はじめに 22
本書の構成 22
ALM ヘルプ 23
ALM ヘルプのガイド 24
トピックの種類 27
その他のオンライン・リソース 28
ALM の拡張機能のガイド 29
第 1部: ALM の基礎 31
第 1章: ALM の概要 33
HP ALM の概要 34
アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ 36
第 2章: ALM の概略 39
ALM プロジェクト 40
ユーザ権限 40
プロジェクト履歴管理 40
Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート 40
Word からのデータのインポート 40
Excel からのデータのインポート 41
ALM の起動方法 41
パスワードのリセット方法 44
管理者メッセージの表示方法 45
ALM 共通ユーザ・インタフェース 45
ALM 共通領域 46
ALM のオプション 50
ALM フィールド 52
ALM アイコン 53
[ユーザのプロパティ] ページ 53
[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス 55

[タスク マネージャ]ダイアログ・ボックス 56
[エラーの詳細の送信]ダイアログ・ボックス 59
第3章: ALM 共通機能 61
ALM 共通機能の概要 62
ALM のデータの表示方法 62
複雑なフィルタの使用 - ユースケース・シナリオ 64
添付ファイルの変更方法 66
ALM データの検索および置換 67
ALM 共通機能のユーザ・インタフェース 67
[フィルタ]ダイアログ・ボックス 68
[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス 79
[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス 81
[検索]ダイアログ・ボックス 82
[置換]ダイアログ・ボックス 84
[テキスト検索]表示枠 86
[履歴]タブ 88
[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス 90
[添付]ページ 94
[スナップショット]ダイアログ・ボックス 96
[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス 97
[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス 99
[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス 100
固定項目パネル 103
第4章: 警告およびフラグ 105
警告の概要 106
フォローアップ・フラグの概要 107
警告の使用方法 108
警告およびフラグのユーザ・インタフェース 109
[警告]ダイアログ・ボックス 109
[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス 111
第5章: お気に入りビュー 113

お気に入りビューの概要 114
お気に入りビューの使用方法 114
お気に入りビューのユーザ・インタフェース 116
[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス 116
[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス 117
第6章: 固定項目 119
固定項目の概要 120
固定項目パネル 120
第7章: バージョン管理 123
バージョン管理の概要 124
バージョン管理の使用方法 125
バージョン管理フィールドによるフィルタ処理の方法 128
バージョン管理されないフィールド 128
チェックアウトされたエンティティの移動, コピー, 削除 129
バージョン管理のユーザ・インタフェース 129
[バージョン]メニューおよびボタン 130
バージョン管理フィールド 131
[チェックイン]ダイアログ・ボックス 132
[チェックアウト]ダイアログ・ボックス 133
[未チェックイン]ダイアログ・ボックス 134
[バージョン]タブ 136
第8章: ALM のエディション 139
エディションごとの ALM の機能 140
第2部: 管理 147
第9章: リリースおよびサイクル 149
リリースおよびサイクルの概要 150
ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法 150
リリースおよびサイクルのユーザ・インタフェース 153
[リリース モジュール]ウィンドウ 153
リリース・モジュールのメニューおよびボタン 155
リリース・モジュールのアイコン 159

リリース・モジュールのフィールド 160
[新規リリース]/[リリース詳細]ダイアログ・ボックス 161
[新規サイクル]/[サイクル詳細]ダイアログ・ボックス 163
[進行状況]タブ 164
[品質]タブ 166
[未解決の不具合の設定]ダイアログ・ボックス 167
[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス 168
[リリースを選択]ダイアログ・ボックス 169
[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール]ダイアログ・ボックス 169
第 10章 : プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース 171
PPT リリースの概要 172
PPT の使用方法 172
KPI タイプ 174
PPT リリース・スコープ・アイテムに含まれる不具合内容 175
PPT のユーザ・インタフェース 176
PPT フィールド 177
[リリース スコープ]タブ 178
[新規スコープ アイテム]/[スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックス 181
[新規マイルストーン]ダイアログ・ボックス 182
[マイルストーン スコープ]タブ 183
[KPI]タブ 185
[新規 KPI]/[KPI 詳細]ダイアログ・ボックス 187
[しきい値]ページ 190
[新規しきい値]ダイアログ・ボックス 192
[マスター計画]タブ 193
[マイルストーン詳細]ダイアログ・ボックス 194
[スコアカード]タブ 195
KPI ドリルダウン・グラフ 197
[KPI のドリルダウン結果]ダイアログ・ボックス 198
経過時間ごとのブレークダウン・グラフ 200
[スコアカード レイアウト]ダイアログ・ボックス 202

[テンプレートからの新規リリースの作成]ダイアログ・ボックス 203
第11章: ライブラリおよびベースライン 205
ライブラリの概要 206
ベースラインの概要 207
固定されたテスト・セット 208
ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法 210
ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース 214
ライブラリ・モジュール・ウィンドウ 214
ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン 216
ライブラリ・モジュールのアイコン 218
ライブラリ・モジュールのフィールド 219
[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス 220
[コンテンツ]タブ 221
ベースラインの作成ウィザード 223
[ベースラインの検証]ページ 223
[新規ベースライン]ページ 224
[ベースライン比較ツール]ダイアログ・ボックス 224
[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス 227
[比較の設定]ダイアログ・ボックス 229
[ベースライン]タブ 230
[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス 231
第12章: インポートされたライブラリ 233
インポートされたライブラリの概要 234
ライブラリ同期化の概要 235
ライブラリ検証 236
ライブラリの共有方法 237
インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース 240
ライブラリのインポート・ウィザード 240
[ベースラインを選択]ページ 241
[ライブラリ検証]ページ 242
[ターゲット ルート フォルダの選択]ページ 243

[インポート実行元]タブ 243
[インポート元]タブ 245
[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックス 246
[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックス 248
トラブルシューティングと制限事項 249
第3部: 要件 251
第13章: 要件の紹介 253
要件概要 254
ALMの要件の使用方法 254
第14章: 要件の定義 259
要件定義の概要 260
要件の作成方法 260
要件ユーザ・インタフェース 261
要件モジュール・ウィンドウ 261
要件モジュール・メニューとボタン 264
要件モジュールのアイコン 271
要件モジュール・フィールド 273
要件の詳細ページ 280
[新規要件]ダイアログ・ボックス 281
テストへ変換ウィザード 282
[自動変換メソッドの選択]ページ 283
[手動変更変換]ページ 284
[宛先パスの選択]ページ 285
第15章: 要件トレーサビリティ 287
要件トレーサビリティの概要 288
要件のトレース方法 288
要件トレーサビリティのユーザ・インタフェース 289
[関係]タブ 289
[影響分析]タブ 292
第16章: トレーサビリティ・マトリクス 295
トレーサビリティ・マトリクスの概要 296

トレーサビリティ・マトリクスの使用方法 296
トレーサビリティ・マトリクスのユーザ・インタフェース 297
トレーサビリティ・マトリクス・ビュー 297
トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード 300
[ソース要件の定義]ページ 301
[リンクされた要件でフィルタ]ページ 301
[リンクされたテストでフィルタ]ページ 303
第 17章 : リスク・ベース品質管理 305
リスク・ベース品質管理の概要 306
リスクの評価方法 306
リスク・ベース品質管理のユーザ・インタフェース 308
[リスク評価]タブ 308
[リスク アナリシス]タブ 312
[レポートの生成]ダイアログ・ボックス 316
第 18章 : ビジネス・プロセス・ モデル 319
ビジネス・プロセス・モデルの概要 320
ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート 320
モデルの再インポート 321
ビジネス・プロセス・モデルのパス 321
ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法 322
要件とテストのモデル・エンティティへのリンク 325
ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース 326
ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ 327
モデル・アナリシス・ビュー 330
ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン 334
ビジネス・モデル・モジュールのアイコン 338
ビジネス・モデル・モジュールのフィールド 339
[モデルのインポート]ダイアログ・ボックス 341
[インポートした属性をユーザフィールドにマップ]ダイアログ・ボックス 343
[モデル詳細]/[モデル アクティビティ詳細]ダイアログ・ボックス 344
[新規モデル パス]/[モデル パス詳細]ダイアログ・ボックス 346

[リンク]タブ 347
要件ツリーとテスト計画ツリーの表示枠 350
[代理項目]タブ 351
第4部: クラウド設定 353
第5部: ラボ・リソース 355
第19章: ラボ・リソースの紹介 357
ラボ・リソースの概要 358
ALM でのラボ・リソースの使用方法 358
第20章: テスティング・ホスト 359
テスティング・ホストの概要 360
第21章: AUT 環境 361
AUT 環境の概要 362
AUT 環境の CDA へのリンク 362
AUT 環境の使用方法 363
AUT 環境のユーザ・インタフェース 366
AUT 環境モジュール・ウィンドウ 367
AUT 環境モジュールのメニューとボタン 368
AUT 環境モジュールのフィールド 371
AUT 環境モジュールのアイコン 371
[AUT 環境の詳細]ダイアログ・ボックス 372
[新規 AUT 環境]ダイアログ・ボックス 373
[AUT 環境設定の詳細]ダイアログ・ボックス 373
[新規 AUT 環境設定]ダイアログ・ボックス 374
[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックス 375
[AUT パラメータ詳細]ダイアログ・ボックス 375
[CDA にリンク]ダイアログ・ボックス 376
第6部: テスト計画 379
第22章: テスト計画の紹介 381
テスト計画の概要 382
アプリケーションをどのようにテストすればよいか 382
どのようなリソースが必要か 382

ALM でテストを計画する方法 382
第23章: テスト計画の仕様 387
テスト計画の仕様の概要 388
テストを作成する方法 388
テストのタイプ 392
テスト計画のユーザ・インタフェース 393
テスト計画モジュールのウィンドウ 394
テスト計画モジュールのメニューとボタン 397
テスト計画モジュールのアイコン 406
テスト計画モジュールのフィールド 407
[テストの詳細] ダイアログ・ボックス 410
[新規テスト] ダイアログ・ボックス 412
[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート] ダイアログ・ボックス 414
[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス 415
第24章: 要件とテスト・カバレッジ 417
要件とテスト・カバレッジの概要 418
カバレッジを作成する方法 418
要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース 420
カバレッジ・アナリシス・ビュー 420
[要件カバレッジ] タブ 421
[設定カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス 425
[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス 426
[ビジネス モデル リンク] タブ 426
[テスト カバレッジ] ページ 428
[アナリシス設定] ダイアログ・ボックス 432
[カバレッジ アナリシス] ダイアログ・ボックス 433
[条件カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス 434
第25章: テスト・パラメータ 435
テスト・パラメータの概要 436
テスト・パラメータの使用方法 436
テスト・パラメータのユーザ・インタフェース 438

[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス 438
[新規テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳細]ダイアログ・ボックス 442
[呼び出されたテスト パラメータ]/[テストのパラメータ]ダイアログ・ボックス 443
第26章: テストの設計 445
テストの設計の概要 446
テストの自動化 446
テスト・ステップの設計方法 447
デザイン・ステップのユーザ・インタフェース 450
[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス 451
[テスト スクリプト]タブ 456
[テストを選択]ダイアログ・ボックス 457
[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け]ダイアログ・ボックス 458
[条件]タブ 459
第27章: テスト設定 461
テスト設定の概要 462
テスト設定のデータ 463
テストのタイプとテスト設定データの関連付け 463
テスト設定の使用方法 464
静的データを関連付ける方法 466
動的データを関連付ける方法 467
テスト設定のユーザ・インタフェース 470
[テスト設定]タブ 470
[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス 472
[データ]タブ: 静的ビュー 473
[データ]タブ: 動的ビュー 475
[テスト コンフィグレーション設定]タブ 477
[テスト設定]表示枠 478
[テスト設定ステータス]タブ 479
[テスト設定の生成]ダイアログ・ボックス 480
[パラメータのマップ]ダイアログ・ボックス 482
[データ リソース設定]ダイアログ・ボックス 483

第 28章 : システム・テスト 487
システム・テストの概要 488
システム・テストの作成方法 488
システム・テストのユーザ・インタフェース 489
[テスト スクリプト] タブ - システム・テスト 490
第 29章 : テスト・リソース 491
テスト・リソースの概要 492
エンティティの依存関係の概要 492
テスト・リソースの使用方法 493
テスト・リソースのユーザ・インタフェース 494
テスト・リソース・モジュールのウィンドウ 495
テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン 496
テスト・リソース・モジュールのアイコン 498
テスト・リソース・モジュールのフィールド 501
[リソース ビューア] タブ 502
[アプリケーション領域ビューア] タブ 503
[依存関係] タブ 503
[新規リソース]/[リソース詳細] ダイアログ・ボックス 505
[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス 506
第 30章 : VAPI-XP テスト 507
VAPI-XP テストの概要 508
VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法 508
VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法 516
その他の編集機能 519
VAPI-XP で AUT 環境を使用する方法 520
VAPI-XP API の使用方法 521
TDHelper オブジェクトの使用 521
TDInput オブジェクトの使用 523
TDOutput オブジェクトの使用 523
XTools オブジェクトの使用 524
デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法 524

テスト・モードでのVAPI-XPテストの実行方法 525
テスト・モードでのVAPI-XPテスト・スクリプトのデバッグ方法 526
VAPI-XPユーザ・インタフェース 528
HP VAPI-XPウィザード 529
[テスト スクリプト]タブ 529
第7部: テスト・ラボ 531
第31章: テスト実行の紹介 533
テスト実行の概要 534
ドラフト実行 536
ALMでテストを実行する方法 536
ドラフト実行の使用方法 538
ALMでのアプリケーションのデプロイおよびテスト 539
テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース 542
テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ 542
テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン 544
テスト・ラボ・モジュールのアイコン 562
テスト・ラボ・モジュールのフィールド 563
第32章: テスト・セットの仕様 573
テスト・セットの仕様の概要 574
テスト・セットを作成する方法 576
テスト・セットのユーザ・インタフェース 580
[実行グリッド]タブ 581
[テスティング ホストの選択]ダイアログ・ボックス 584
[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス 585
テスト・インスタンスの詳細 - 実行ビュー 586
テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー 589
[要求されたホスト]タブ 593
[オートメーション]タブ 596
[新規テスト セット]ダイアログ・ボックス 599
[テストの選択]表示枠 600
[テスト セット詳細]ダイアログ・ボックス 603

[テスト失敗時]ダイアログ・ボックス 604
[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス 606
第33章: テスト実行のスケジュール 607
テスト実行のスケジュールの概要 608
テスト実行をスケジュールする方法 608
テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース 609
[実行フロー]タブ 610
[実行の条件]ページ 611
[時間依存]ページ 612
第34章: 機能テストの実行 615
機能テスト実行の概要 616
機能テストの実行方法 618
機能テストに関するトラブルシューティング 620
機能テスト実行のユーザ・インタフェース 620
[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス 621
[推奨される継続時間]ダイアログ・ボックス 624
[実行レポート]ページ 625
第35章: 標準設定のテストの実行 629
標準設定のテスト実行の概要 630
手動テストの実行 630
手動テストの実行の概要 630
HP Sprinter概要 631
テストを手作業で実行する方法 632
手動テスト実行のユーザ・インタフェース 635
[手動テスト実行]ダイアログ・ボックス 635
マニュアル・ランナー・ウィザード 636
マニュアル・ランナー: [実行の詳細]ページ 637
マニュアル・ランナー: [ステップの詳細]ページ 639
自動テスト実行 641
自動テスト実行の概要 641
テストを自動で実行する方法 642

Unified Functional Testing(UFT) GUI テストの実行方法 644
自動テスト実行のユーザ・インタフェース 645
[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス 645
[ホスト マネージャ]ダイアログ・ボックス(標準設定のテスト・セットの場合のみ) ..647
[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックス 649
[実行ログ]ダイアログ・ボックス 650
第8部 : ビルド検証 653
第36章 : ビルド検証スイート 655
ビルド検証の概要 656
ALM でのビルド検証スイートの使用方法 656
ビルド検証のユーザ・インタフェース 658
ビルド検証モジュール・ウィンドウ 658
ビルド検証モジュールのメニューおよびボタン 659
ビルド検証モジュールのアイコン 661
ビルド検証モジュールのフィールド 662
[機能テスト セット]タブ 663
[パフォーマンス テスト]タブ 664
[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックス 666
[新規ビルド検証スイート]ダイアログ・ボックス 667
[ビルド検証スイートのテスト セットの詳細]ダイアログ・ボックス 668
[テスト セット ツリー]表示枠 668
第9部 : タイムスロット 671
第37章 : タイムスロットの予約 673
タイムスロットの予約の概要 674
タイムスロットの予約のタイプ 674
自動タイムスロット 676
自動タイムスロットの予約のベスト・プラクティス 676
タイムスロットの予約の延長 677
機能テストとビルド検証スイートのタイムスロットの予約の延長 677
パフォーマンス・テストのタイムスロット予約の延長 678
タイムスロットの予約の変更 678

タイムスロット障害について 679
ホストの割り当て 679
ホストの割り当てと再シャッフルの例 680
ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法 684
タイムスロットの予約のユーザ・インタフェース 685
タイムスロット・モジュール・ウィンドウ 686
タイムスロット・モジュールのメニューおよびボタン 692
タイムスロット・モジュールのフィールド 697
タイムスロット・モジュール・アイコン 700
[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス 701
[特定のホストの選択]ダイアログ・ボックス 712
[タイムスロットの予約 : データ処理]ダイアログ・ボックス 714
[Controller の選択]ダイアログ・ボックス 716
[自動適合 Load Generator の選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックス 717
[特定の Load Generator/ホストの選択]ダイアログ・ボックス 718
[タイムゾーンのオプション]ダイアログ・ボックス 720
第 10部 : テスト実行 721
第 38章 : テスト実行の表示 723
テスト実行の概要 724
テストの実行を表示する方法 724
テスト実行のユーザ・インタフェース 727
テスト実行モジュールのウィンドウ 728
テスト実行モジュールのメニューとボタン 731
テスト実行モジュールのフィールド 734
[実行詳細]ダイアログ・ボックス 737
[実行ステップ詳細]ダイアログ・ボックス 740
[テスト セット実行の詳細]/[ビルド検証スイートの実行の詳細]ダイアログ・ボックス 741
実行の削除ウィザード 742
[削除するテスト ステップの選択]ページ 743
[削除タイプの選択]ページ 743
[削除リクエストの確認]ページ 744

第11部: 不具合 745
第39章: 不具合追跡 747
不具合追跡の概要 748
不具合のリンク 748
ALM での不具合の追跡方法 749
不具合の検索方法 752
不具合のリンク方法 752
不具合のユーザ・インタフェース 754
不具合モジュール・ウィンドウ 754
不具合モジュールのメニューおよびボタン 756
不具合モジュールのアイコン 760
不具合モジュールのフィールド 761
[新規不具合]ダイアログ・ボックス 764
[不具合詳細]ダイアログ・ボックス 765
[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠 767
[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ 768
[リンクする不具合]ダイアログ・ボックス 771
[要件の選択]ダイアログ・ボックス 772
第12部: Analysis 775
第40章: Analysis の紹介 777
Analysis の概要 778
ALM でデータを分析する方法 778
ダッシュボードのユーザ・インタフェース 780
[アナリシスビュー]ウィンドウ 780
[ダッシュボード ビュー]ウィンドウ 782
アナリシス・ビューのメニューとボタン 783
ダッシュボード・ビューのメニューとボタン 788
ダッシュボードのアイコン 790
[詳細]タブ 791
[アナリシス項目の共有]ダイアログ・ボックス 792
第41章: グラフおよびダッシュボード・ページ 793

グラフおよびダッシュボード・ページの概要 794
ビジネス・ビュー・グラフの概要 795
グラフを生成する方法 796
ダッシュボード・ページを生成する方法 800
エンティティ・グラフの種類 801
グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース 805
[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ 805
[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ 811
[設定]タブ - ダッシュボード・ページ 816
[表示]タブ - ダッシュボード・ページ 817
グラフ・ウィザード 819
[グラフの種類を選択]ページ 819
[ビジネスビューの選択]ページ 820
[エンティティの種類を選択]ページ 820
[プロジェクトの選択]ページ 821
[テスト セット オプションを選択]ページ 822
[フィルタの選択]ページ 823
[グラフ属性の選択]ページ 824
[カバレッジの選択]ページ 825
[新規グラフ]ダイアログ・ボックス 826
[ビジネスビューの選択]ダイアログ・ボックス 827
[新規ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックス 827
[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックス 828
[＜タイプ＞カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス 829
[グラフの外観]ダイアログ・ボックス 830
[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス 831
第42章：プロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ 833
PPT グラフの概要 834
PPT グラフを生成する方法 834
PPT グラフのユーザ・インタフェース 835
[設定]タブ - PPT グラフ 835

[表示]タブ - PPT グラフ 838
第43章: プロジェクト・レポート 841
プロジェクト・レポートの概要 842
プロジェクト・レポートを作成する方法 842
カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法 845
定義済みのプロジェクト・レポート 846
プロジェクト・レポートのユーザ・インタフェース 851
[設定]タブ - プロジェクト・レポート 851
[新規プロジェクト レポート]ダイアログ・ボックス 859
[レポート セクションの追加]ダイアログ・ボックス 859
[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集]ダイアログ・ボックス 860
第44章: Excel レポート 861
Excel レポートの概要 862
データベースの保護 863
SQL クエリのパラメータ 863
後処理スクリプトを作成する際のガイドライン 864
Excel レポートを生成する方法 864
Excel レポートのユーザ・インタフェース 866
[設定]タブ - Excel レポート 866
[クエリ]タブ 867
[Excel レポート クエリビルダ]ダイアログ・ボックス 869
[後処理]タブ 873
[生成設定]タブ 874
[新規 Excel レポート]ダイアログ・ボックス 875
[新規クエリパラメータ]/[クエリパラメータの編集]ダイアログ・ボックス 875
第45章: ビジネス・ビュー Excel レポート 877
ビジネス・ビュー Excel レポートの概要 878
ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法 878
ビジネス・ビュー Excel レポートのユーザ・インタフェース 880
[設定]タブ - ビジネス・ビュー Excel レポート 880
第46章: ライブ・アナリシス・グラフ 883

ライブ・アナリシス・グラフの概要 884
ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法 884
ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース 885
[ライブ アナリシス]タブ 885
ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード 887
[グラフの種類を選択]ページ 887
[グラフ属性の選択]ページ 888
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。 889

はじめに

HP Application Lifecycle Management(ALM) にようこそ。ALM は，要件からデプロイメントまで，主要アプリケーションのライフサイクルを管理するために組織を強化し，最新アプリケーションの予測可能かつ反復可能で適合性の高い展開のために重要不可欠となる可視性と協調性をアプリケーション・チームに供与します。

本ガイドでは，ALM アプリケーションの使用方法を説明します。また，概念的な内容，アプリケーションの詳しい操作手順，参考資料も紹介します。

本書の構成

『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』本書の構成は次のとおりです。

部	説明
「ALM の基礎」(31 ページ)	ALM の機能と手法の概要を説明します。また，ALM の共通機能と，利用可能な ALM のエディションについても説明します。
「管理」(147ページ)	アプリケーション・ライフサイクル管理で使用するリリースとサイクルを定義する方法について説明します。また，プロジェクトの変更内容の追跡，エンティティの再利用，複数プロジェクトによるエンティティの共有で使用するライブラリを定義する方法についても説明します。 **関連タスク**: • 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ) • 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
「要件」(251ページ)	アプリケーション・ライフサイクル全体にわたって，要件を定義および管理する方法について説明します。 **関連タスク**: 「ALM の要件の使用方法」(254ページ)
「クラウド設定」(353 ページ)	パフォーマンス・テストに使用するクラウド・ホストをプロビジョニングするためのクラウド設定について，その概要を紹介します。 **利用可能な場所** : Performance Center Editionのみ。
「ラボ・リソース」(355ページ)	サーバ側の実行に使用されるリソースを定義および管理する方法について説明します。 **関連タスク**: 「ALM でのラボ・リソースの使用方法」(358ページ) **利用可能な場所** : ALM Edition のみ。

部	説明
「テスト計画」(379ページ)	テスト・プロセスを計画する方法について，テスト計画ツリーの作成からテストの作成までの過程を説明します。また，VAPI-XP テスト・ツールの使用方法についても説明します。 **関連タスク**:「ALM でテストを計画する方法」(382ページ)
「テスト・ラボ」(531ページ)	テスト・セットの作成方法，手動テストと自動テストの実行方法，テスト結果を確認する方法について説明します。 **関連タスク**:「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
「ビルド検証」(653ページ)	テスト・セットのバンドルを作成してデプロイメントおよびテスト・プロセスを自動化する方法について説明します。 **関連タスク**:「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ) **利用可能な対象**: ALM Edition のみ。
「タイムスロット」(671ページ)	サーバ側のテスト実行に使用されるタイムスロットを予約する方法について説明します。 **関連タスク**:「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ) **利用可能な場所**: ALM Edition のみ。
「テスト実行」(721ページ)	テスト実行の結果を表示する方法について説明します。これは，アプリケーションで不具合が検出されたかどうかを判断するときに役立ちます。 **関連タスク**:「テストの実行を表示する方法」(724ページ) **利用可能な場所**: ALM Edition のみ。
「不具合」(745ページ)	プロジェクトに不具合を報告し，不具合が解決されるまでの間，修正プロセスを追跡する方法について説明します。 **関連タスク**:「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)
「Analysis」(775ページ)	グラフ，Excel レポート，ダッシュボード・ページの作成を通じて，アプリケーションのライフサイクル管理プロセスの分析方法を説明します。 **関連タスク**:「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)

ALM ヘルプ

ALM ヘルプは，ALM の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。ALMには，次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ALM のメイン・ウィンドウで[**ヘルプ**] > [**ALM ヘルプ**]を選択すると，ALM ヘルプのホームページが開きます。このホーム・ページには，主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。

- ALM マストヘッドで ? をクリックすると，ALM ヘルプで現在のページを説明するトピックが開きます。

ALM ヘルプのガイド

ALM ヘルプは，次のガイドとリファレンスで構成されており，オンライン，PDF 形式，またはその両方で提供されています。PDF の表示や印刷には，Adobe Reader を使用します。Adobe Reader は，Adobe 社の Web サイト(http://www.adobe.com/jp) からダウンロードできます。

リファレンス	説明
ALM ヘルプの使用方法	ヘルプの使用方法および編成方法について説明します。
新機能	最新バージョンの ALM で新しく提供される機能について説明します。 アクセスするには，[**ヘルプ**] > [**新機能**] を選択します。
ムービー	主な製品機能を説明する短いムービーです。 [**ヘルプ**] > [**ムービー**] でアクセスできます。
Readme	ALM に関する最新のお知らせと情報が含まれます。

HP Application Lifecycle Management(ALM) ガイド	説明
HP ALM ユーザーズ・ガイド	ALM を使用してアプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を整理し，実行する方法について説明しています。リリースの指定，要件定義，テスト計画，テスト実行，および不具合追跡を行う方法について説明しています。
HP ALM 管理者ガイド	サイト管理機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法や，プロジェクト・カスタマイズ機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法について説明します。
HP ALM ラボ管理ガイド	リモート・ホストでの機能テストとパフォーマンス・テストに使用するラボ・リソースを，ラボ管理を使用して管理する方法を説明しています。
HP ALM チュートリアル	ALM を使ってアプリケーション・ライフ・サイクル管理プロセスを管理する方法について，自分のペースで学べるガイドです。
HP ALM インストールおよびアップグレード・ガイド	ALM サーバをセットアップするためのインストールおよび設定のプロセス，またプロジェクトのアップグレード・プロセスについて説明します。
HP ALM ラボ管理トラブルシューティング・ガイド	HP ALM ラボ管理の使用中に発生する問題のトラブルシューティングについて説明します。

HP Application Lifecycle Management(ALM) ガイド	説明
HP ALM External Authentication Configuration Guide	外部認証を使用して ALM にアクセスするために必要な設定について説明します。
HP ALM Business Views Microsoft Excel Add-in User Guide	ビジネス・ビューの Excel レポートを作成および設定する機能を備えた Business Views Microsoft Excel アドインをインストールおよび使用する方法について説明します。
Business Process Testing ユーザーズ・ガイド	Business Process Testing を使用してビジネス・プロセス・テストを作成する方法を説明しています。

HP ALM Performance Center ガイド	説明
HP ALM Performance Center クイック・スタート	Performance Center ユーザが，自分のペースでパフォーマンス・テストの作成と実行の概要を学べるガイドです。
HP ALM Performance Center ガイド	Performance Center のユーザを対象に，パフォーマンス・テストの作成方法，スケジュール設定方法，実行方法，監視方法を説明します。Performance Center の管理者を対象に，Performance Center プロジェクトの設定方法，管理方法を説明しています。
HP ALM Performance Center インストール・ガイド	Performance Center Server，Performance Center Host，その他の Performance Center コンポーネントをセットアップするためのインストール・プロセスについて説明します。
HP ALM Performance Center トラブルシューティング・ガイド	HP ALM Performance Center で発生した問題のトラブルシューティングについて説明します。

HP ALM ベスト・プラクティス・ガイド	説明
HP ALM Agile Testing Best Practices Guide	アジャイルなテスト方針を実装する際のベストプラクティスを提供します。

HP ALM ベスト・プラクティス・ガイド	説明
HP ALM Business Process Models Best Practices Guide	Business Models モジュールを使用する際のベストプラクティスを紹介します。
HP ALM データベース・ベスト・プラクティス・ガイド	ALM をデータベース・サーバにデプロイする際のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Entities Sharing Best Practices Guide	エンティティ共有のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Project Planning and Tracking Best Practices Guide	リリースの管理と追跡についてのベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Project Topology Best Practices Guide	プロジェクトを構築する際のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM アップグレードのベスト・プラクティス・ガイド	ALM のアップグレードを準備し計画する方法を提供します。
HP ALM Versioning and Baselining Best Practices Guide	バージョン管理の実装とベースラインの作成のためのベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Workflow Best Practices Guide	ワークフローを実装する際のベスト・プラクティスを提供します。

HP ALM Performance Center ベスト・プラクティス・ガイド	説明
HP Performance Center のベスト・プラクティス	Performance Center of Excellence を効果的に構築および運用するためのベスト・プラクティスを紹介します。
HP パフォーマンス監視ベスト・プラクティス	テスト中のアプリケーションのパフォーマンス監視に関するベスト・プラクティスを紹介します。

HP ALM API References	説明
HP ALM Project Database Reference	プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスです。
HP ALM Open Test Architecture API Reference	ALM の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。ALM のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して，ユーザ独自の設定管理ツール，不具合追跡ツール，自社開発のテスト・ツールを ALM プロジェクトに統合できます。
HP ALM Site Administration API Reference	サイト管理 COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。サイト管理 API を使用して，アプリケーションを編成，管理し，ALM のユーザ，プロジェクト，ドメイン，接続およびサイトの設定パラメータを保守できます。

HP ALM API References	説明
HP ALM REST API Reference	ALM の REST ベース API のオンライン・リファレンスです。REST API を使用すると，ALM データへのアクセスと操作が可能になります。
HP ALM COM Custom Test Type Developer Guide	独自のテスト・ツールを作成し，そのツールをネイティブ COM 開発ツールを使用して ALM 環境に統合するための完全なオンライン・ガイドです。
HP ALM .NET Custom Test Type Developer Guide	DCOM クラスと.NET クラスの組み合わせを使用して，独自のテスト・ツールを作成し，そのツールを ALM 環境に統合するための完全なオンライン・ガイドです。

HP ALM Performance Center API References	説明
HP ALM Performance Center REST API Reference	ALM Performance Center の REST ベース API のオンライン・リファレンスです。REST API を使用することにより，自動化をサポートし継続的な統合を可能にするアクションを実行できます。

トピックの種類

上記の ALM ガイドは，トピックごとに編成されています。主なトピックは，**概念**，**タスク**，**リファレンス**の 3 つです。

トピックの種類	説明	使い方
概念	背景や説明，概念的な内容です。	機能に関して全般的な内容を理解できます。
タスク	**指示タスク**：アプリケーションを操作して目的の機能を実行するための詳しい手順を示します。 タスクには，番号付きと番号なしの手順が含まれています。 • **番号付きの手順**：連続した順番に従ってタスクを実行します。 • **番号なしの手順**：自己完結型の操作のリストであり，任意の順序で実行できます。	• タスクのワークフロー全体を理解できます。 • 番号付きの場合，手順に従ってタスクを完了します。 • 番号なしの場合，操作を個別に実行します。
	ユース・ケース・シナリオ・タスク：特定の状況下でタスクを実行する方法を事例で紹介します。	現実的なシナリオにおいて，タスクを実行する方法を学習できます。

トピックの種類	説明	使い方
リファレンス	**一般的なリファレンス**: 参考資料の一覧と詳しい説明が記載されています。	特定の内容に関するリファレンス情報を調べることができます。
	ユーザ・インタフェース・リファレンス: 特定のユーザ・インタフェースについて説明したリファレンス・トピックが記載されています。マストヘッドで ? をクリックするか，製品の[ヘルプ]メニューから[このページのヘルプ]を選択すると，ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。	1つまたは複数のユーザ・インタフェース要素(ウィンドウ，ダイアログ・ボックス，ウィザードなど)に入力する内容や使用方法に関する情報を調べることができます。
トラブルシューティングと制限事項	**トラブルシューティングと制限事項**: よく発生する問題とその解決方法，機能や製品領域の制限事項を説明したリファレンス・トピックが記載されています。	機能を初めて使用する場合やソフトウェアの操作で問題が発生した場合に，重要度の高い問題に関して理解を深めることができます。

その他のオンライン・リソース

[ヘルプ]メニューから，次のオンライン・リソースも利用できます。

リソース	説明
トラブルシューティングとナレッジ・ベース	HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティングのページにアクセスします。このページでは，セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[**ヘルプ**]＞[**トラブルシューティングとナレッジ ベース**]を選択します。この Web サイトの URL は，http://support.openview.hp.com/troubleshooting.jsp です。
HP ソフトウェア・サポート	HP ソフトウェア・サポート Web サイトを開きます。このサイトで，セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また，英語版のサイトでは，ナレッジ・ベースの参照，独自の項目の追加，ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索，パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。[**ヘルプ**]＞[**ソフトウェア サポート オンライン**]を選択します。Web サイトの URL は http://support.openview.hp.com/ です。 • 一部のサポートを除き，サポートのご利用には，HP Passport ユーザとしてご登録の上，サインインしていただく必要があります。また，多くのサポートのご利用には，サポート契約が必要です。 • アクセス・レベルに関する詳細は，次の Web サイトにアクセスしてください。http://support.openview.hp.com/access_level.jsp • HP Passport ID を登録するには，以下の Web サイトにアクセスしてください。http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

リソース	説明
HP Software Quality Center Web サイト	HP ソフトウェア Web サイトにアクセスします。このサイトでは，HP ソフトウェア製品に関する最新の情報をご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース，セミナー，展示会，カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。[**ヘルプ**] > [**HP Software Quality Center Web サイト**] を選択します。この Web サイトの URL は，http://support.openview.hp.com/ です。
HP Application Lifecycle Management Web サイト	HP ALM Web サイトにアクセスします。このサイトでは，HP ALM に関する最新の情報をご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース，セミナー，展示会，カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。[**ヘルプ**] > [**HP Application Lifecycle Management Web サイト**] を選択します。この Web サイトの URL は，http://www8.hp.com/us/en/software-solutions/software.html?compURI=1172141#tab=TAB1 です。
アドイン	[アドイン] ページからは，HP およびサードパーティー・ツールとの統合と同期に関するソリューションを入手できます。
ALM ツール	[ALM Tools] ページが開きます。このページからは，ALM とともに ALM サーバ上にインストールされる HP およびサードパーティが提供するツールとの統合と同期に関するソリューションを入手できます。

ALM の拡張機能のガイド

拡張機能は，HP ALM に追加機能を提供します。ALM の拡張機能のライセンスをお持ちの場合は，プロジェクト単位で拡張機能を有効にすることで，追加された機能を利用することができます。拡張機能の有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ALM 12.00 で利用可能な拡張機能の一覧表示や，ALM の拡張機能に関するドキュメントのダウンロードは，HP ALM の [アドイン] ページ ([**ヘルプ**] > [**アドイン**]) を参照してください。

第1部: ALM の基礎

第1章: ALM の概要

本章の内容

HP ALM の概要 34
アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ 36

HP ALM の概 要

HP Application Lifecycle Management(ALM) は，要 件 からデプロイメントまで，主 要 アプリケーション のライフサイクルを管 理 するために組 織 を強 化 し，最 新 アプリケーションの予 測 可 能 かつ反 復 可 能 で 適 合 性 の高 い展 開 のために重 要 不 可 欠 となる可 視 性 と協 調 性 をアプリケーション・チームに供 与 し ます。

アプリケーションのライフサイクル管 理 は複 雑 なプロセスです。組 織 の大 部 分 がアジャイルであるか，ま たは反 復 的 で順 次 的 な手 法 を使 用 しているかにかかわらず，効 果 的 なライフサイクル管 理 の目 的 は，優 れた予 測 可 能 性 ，高 い再 現 性 ，品 質 の向 上 ，変 化 への順 応 性 の確 保 などです。プロジェク トのマイルストーン，成 果 物 ，リソース，予 算 要 件 について理 解 し，プロジェクトの稼 働 状 況 ，標 準 ， 品 質 指 標 の追 跡 を行 うことにより，展 開 マネージャが目 的 を達 成 することができます。

ALM では，プロセス全 体 を体 系 的 に管 理 することによって，アプリケーション管 理 の簡 素 化 と組 織 化 を可 能 にします。セントラル・リポジトリにおけるアプリケーションのライフサイクル管 理 ワークフローの枠 組 みと基 盤 の形 成 に役 立 てることができます。

リリースの追 跡

ALM にはアプリケーションのリリースを整 理 して追 跡 するためのシステムが組 み込 まれているため，ビジ ネス優 先 度 および品 質 の期 待 値 をプロジェクトの要 件 ，テスト，および不 具 合 に連 携 させることがで きます。ALM は，リアルタイムの主 要 業 績 評 価 指 標 (KPI) により，情 報 に基 づいたリリースの決 定 を 手 助 けします。

要 件 とテスト

ALM を使 用 すると，要 件 およびテストのリポジトリを定 義 および維 持 できます。要 件 は，ビジネスおよ びテストのニーズをカバーするのに役 立 ちます。次 に，アプリケーションの正 しい側 面 がテストされること を保 証 するために，これらの要 件 からテストを自 動 的 に生 成 できます。また，プロジェクトのさまざまな 目 標 を達 成 するために，プロジェクトで行 うテストを個 別 のグループにまとめることができます。ALM は， テストのスケジュール設 定 と実 行 ，テスト結 果 の収 集 ，およびデータの分 析 を行 う手 段 を備 えていま す。

不 具 合 追 跡

不 具 合 および不 具 合 の傾 向 を分 析 することにより，決 行 か中 止 かを効 率 的 に決 定 できます。ALM には，不 具 合 を追 跡 するシステムが組 み込 まれており，不 具 合 の最 初 の検 出 から解 決 までを詳 細 に監 視 できます。また，プロジェクト間 で不 具 合 を共 有 して，開 発 者 が不 具 合 を発 見 し，優 先 順 位 を付 け，可 能 な限 り迅 速 に解 決 するのを支 援 することにより，リスクを軽 減 します。集 中 型 の不 具 合 リポジトリにより，不 具 合 のステータスやプロジェクト間 の傾 向 を集 計 したレポート作 成 も行 えます。

分 析 ツール

アプリケーションのライフサイクル・プロセス全 体 の進 行 状 況 を追 跡 する機 能 は，予 測 可 能 性 を保 つ ために非 常 に重 要 です。ALM には，アジャイル・プロジェクト (たとえば，バーンアップ・チャートやバーン ダウン・チャート) 用 の固 有 の計 測 ツールなどの，プロセスの各 段 階 を分 析 するツールが含 まれていま す。ビジネス・パフォーマンスをさまざまな観 点 から示 すインタラクティブなグラフを生 成 したり，データの 断 面 を示 すレポートを定 義 したりできます。また，単 一 のビューに複 数 のグラフを並 べて配 置 すること により，複 数 のビジネス・メトリックスを監 視 できます。

アセット・ライブラリ

ALM では，プロジェクト間 でのアセット・ライブラリの共 有 および再 利 用 がサポートされています。共 有

可 能 なライブラリにより，複 数 のアプリケーションを使 用 した活 動 を管 理 し，あるアプリケーションの変 更 がほかのアプリケーションに悪 影 響 を及 ぼさないよう確 認 することができます。また，アセットの再 利 用 を強 化 することにより，一 貫 性 と再 現 性 の向 上 に役 立 ちます。特 定 の変 更 は各 プロジェクトの共 有 アセットに適 用 でき，これによってライブラリの完 全 性 を維 持 できます。

ALM との統 合

ALM は，HP のツール(Unified Functional Testing や LoadRunner など) をはじめとして，サード パー ティ製 のテスト・ツールや自 社 のカスタム・テスト・ツール，要 件 管 理 ツール，構 成 管 理 ツールと統 合 で きます。ALM では，選 択 したテスト・ツールと通 信 を行 い，アプリケーション・テストを完 全 に自 動 化 す るソリューションを実 現 できます。

注 : HP Unified Functional Testing(UFT) は，以 前 は HP QuickTest Professional と HP Service Test と呼 ばれていた製 品 で構 成 されています。

- QuickTest の機 能 は，UFT では GUI テストと呼 ばれます。
- Service Test の機 能 は，UFT では API テストと呼 ばれます。

HP Project and Portfolio Management(PPM) Center ソフトウェアは，組 織 全 体 のポートフォリオ，デマ ンド，インフライト・プロジェクト，プログラムのダッシュボード・ビューをエグゼクティブと PMO を提 供 し， ポートフォリオについて賢 明 な投 資 意 思 決 定 を可 能 にします。PPM Center と HP ALM の統 合 ソ リューションおよび設 定 手 順 については，『HP Solution Integration Guide for PPM Center version 9.20』を参 照 してください。このドキュメントを入 手 するには，HP ソフトウェア製 品 マニュアルのサイトを 参 照 してください。

Performance Center 機 能

ALM には Web 経 由 でアクセスできる一 元 集 中 管 理 された場 所 から，リソースの割 り当 てやスケ ジュール設 定 を含 む大 規 模 なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関 するすべての側 面 を管 理 できる 機 能 が含 まれています。ALM は，テスト・プロセスの合 理 化，リソース・コストの削 減，操 作 効 率 の向 上 を支 援 します。詳 細 については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参 照 してください。

ラボ管 理 機 能

ALM には，リモート・ホストでのテストの実 行 に使 用 できるリソースを管 理 できる機 能 が含 まれていま す。ALM はデプロイメントとテスト・プロセスの自 動 化 を支 援 し，これによって信 頼 性 と利 便 性 が向 上 します。詳 細 については，『HP ALM ラボ管 理 ガイド』を参 照 してください。

ALM のエディション

ALM にはさまざまなエディションがあります。各エディションで利用できる ALM の機能の詳細については，「ALM のエディション」(139ページ) を参照してください。

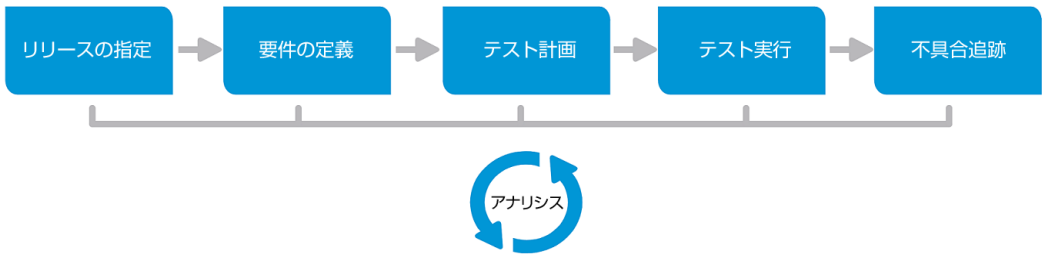
HP ALM のエディション	説明
HP ALM	プロセス，アクティビティ，資産を管理および自動化し，アプリケーションの構築，テスト，展開，管理を行うための統合プラットフォームです。これには，要件，テスト，不具合，開発などの各種管理に関するモジュールと，全体的なリリースとプロジェクト計画に関するモジュールが含まれています。HP ALM を使用することで，組織はプロセスの一貫性の確保，ベスト・プラクティスの共有，プロジェクト間での資産の共有を実現できます。
HP ALM Essentials Edition	HP ALM 製品機能のサブセットであり，比較的小規模なチームが短時間で準備し実行できるように設計されています。要件管理，テスト管理，不具合管理のコア機能を利用できます。
HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM と同じ統合プラットフォーム上に配置されます。品質管理に関するコア機能を利用できます。HP Unified Functional Testing，HP Business Process Testing，HP Sprinter との密接な連携により，クオリティ・センター・オブ・エクセレンスの構築をサポートします。
HP ALM Performance Center Edition	パフォーマンス・テスト・スクリプトの管理，スケジューリング，実行，監視に関する完全な機能を備えています。HP ALM と同じプラットフォーム上にあり，HP ALM および HP LoadRunner と直接統合されます。

サマリ

ALM では，アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階をサポートしています。アプリケーション管理に関するあらゆる作業を統合することにより，をビジネスのニーズに合わせて活用し，効率性を最適化できます。アプリケーションのライフサイクル管理の段階に関する詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ) を参照してください。

アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ

ALM によるアプリケーション・ライフ・サイクル管理プロセスには，次の段階があります。



段階	説明
リリースの指定	リリース・サイクルの管理計画を作成し，アプリケーションのリリースとサイクルの管理を効率化します。アプリケーション・リリースの計画に基づいて進行状況を追跡し，リリースが順調に進んでいるかどうかを判断できます。 タスクの詳細については，「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ) を参照してください。
要件の定義	ビジネスおよびテストのニーズに合わせて要件を定義します。要件を管理し，複数のリリースおよびサイクルにまたがる要求，テスト，不具合の間の多元的なトレーサビリティを実現できます。ALM では，要件カバレッジおよび関連付けられた不具合をリアルタイムで表示し，品質やビジネス・リスクを評価することができます。 タスクの詳細については，「ALM の要件の使用方法」(254ページ) を参照してください。
テスト計画	プロジェクトの要件に基づいて，テスト計画の作成とテストの設計ができます。ALM では，手動テストおよび自動テストの両方のリポジトリを備えています。 テスト計画の作業の詳細については，「ALM でテストを計画する方法」(382ページ) を参照してください。 **Performance Center**: タスクの詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』のを参照してください。
テスト実行	プロジェクト内で，特定のテスト目標を達成するように設計されたテストのサブセットを作成します。ALM では，動作確認テスト，機能テスト，回帰テスト，詳細テストがサポートされています。スケジュール設定されたテストを実行し，問題を診断して解決します。 タスクの詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) を参照してください。 **Performance Center**: タスクの詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』のを参照してください。 **ラボ管理** : 機能テスト・セットのサーバ側の実行を行うことができ，直ちに実行したり，将来実行するためにスケジュール設定したりすることができます。機能テスト・セットは，自動的に実行され，デプロイメントとテスト・プロセスを自動化および合理化するためにビルド検証スイートの一部として実行できます。タスクの詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ) を参照してください。
不具合追跡	不具合を報告し，修正の進行状況を追跡します。不具合および不具合の傾向を分析することにより，決行か中止かの決定を効率的に行うことができます。ALM では，初期の問題検出から不具合の修正，修正の確認まで，不具合のライフサイクル全体をサポートしています。 タスクの詳細については，「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ) を参照してください。

アプリケーションのライフサイクル全 体 を通 して，レポート やグラフを生 成 し，戦 略 上 のポイントを監 視 および管 理 できます。タスクの詳 細 については，「ALM でデータを分 析 する方 法 」(778ページ) を参 照 してください。

ALM の概 要 については，「HP ALM の概 要 」(34ページ) を参 照 してください。

第2章: ALM の概略

本章の内容

ALM プロジェクト 40
ユーザ権限 40
プロジェクト履歴管理 40
Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート 40
ALM の起動方法 41
パスワードのリセット方法 44
管理者メッセージの表示方法 45
ALM 共通ユーザ・インタフェース 45

ALM プロジェクト

ALM プロジェクトを作成する場合，ALM によって作成および収集されたデータを格納および管理する必要があります。各プロジェクトは，プロジェクト情報を格納したデータベースによってサポートされています。

ALM プロジェクトの作成および管理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザ権限

ALM では，プロジェクトへのユーザ・アクセスを管理できます。アクセスを許可されたユーザのリストを作成し，各ユーザにパスワードとユーザ・グループを割り当てることで，各ユーザがプロジェクトに対して行う追加や変更を制御できます。プロジェクトにおける各ユーザの権限はユーザが属するユーザ・グループによって決まります。ALM には，プロジェクトのフィールドごとにルールを作成するために必要な権限や許可の仕組みがあります。

ALM で利用できるユーザ・グループ，パスワードや権限の割り当ての詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト履歴管理

プロジェクトをカスタマイズする場合，システムおよびプロジェクトのユーザ・フィールドの値をログに保存するように ALM を設定できます。フィールドの履歴の有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

履歴データが不要になったら，このデータを ALM プロジェクトから削除できます。たとえば，作成したテスト・セットを正常に実行できた場合，テストの履歴をプロジェクトからクリアできます。

すべての履歴データをクリアすることも，特定のエンティティまたはフィールドを選択してその履歴をクリアすることもできます。さらに，特定の日付までの(当該日付のデータを含む)履歴データを削除することもできます。ALM により，対応するモジュールの[履歴]タブに表示されるデータがクリアされます。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[履歴のクリア]ダイアログ・ボックス」(55ページ)を参照してください。

Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート

Word ドキュメントまたは Excel ワークシートから ALM プロジェクトにデータをインポートできます。

Word からのデータのインポート

要件やテスト計画のデータを Word ドキュメントから ALM プロジェクトへインポートできます。Word からインポートするには，まず Microsoft Word アドインをクライアント・マシンにインストールする必要があります。Microsoft Word Add-in をインストールするには，[**ヘルプ**] > [**アドイン**]を選択して[アドイン]ページを開き，該当するアドインのリンクをクリックします。

詳細については，Microsoft Word Add-in ページを参照してください。

Excel からのデータのインポート

要 件，テスト計 画，不 具 合 などのデータを Excel ワークシートから ALM プロジェクトへインポートできます。Excel からインポートするには，まず Microsoft Excel アドインをクライアント・マシンにインストールする必 要 があります。Microsoft Excel Add-in をインストールするには，［**ヘルプ**］＞［**アドイン**］を選 択して［アドイン］ページを開き，該 当 するアドインのリンクをクリックします。

詳 細については，HP ALM Microsoft Excel Add-in のページで入 手 できる『HP ALM Microsoft Excel Add-in Guide』を参 照してください。

ALM の起動方法

このタスクでは，自 分 のマシン上 で Web ブラウザを使 用して ALM を起 動する方 法について説 明します。クライアント・マシン上 で ALM の複 数 バージョンを同 時 に稼 働できます。たとえば，バージョン 12.00 以 降 の複 数 の ALM クライアントを異なる ALM サーバに接 続したり，Quality Center 10.00 または 9.2 クライアントを単 体 で使 用することが可 能 です。

注 : ALM を HP テスティング・ツールおよびサード パーティ製 のテスト・ツールや自 社 のカスタム・テスト・ツールとともに使 用 できるようにするには，クライアント・マシンに管 理 者 権 限 でログインし，ALM を登 録 する必 要 があります。詳 細 については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参 照してください。

ALM を開 始 するには，次 の手 順 を実 行 します。

1. Web ブラウザを開き，ALM の URL を入 力します。
   `http://<ALM サーバ名 /IP アドレス>[<:ポート番 号 >]/qcbin`。正しい URL が不 明 な場 合 は，システム管 理 者 に問 い合 わせてください。

   HP Application Lifecycle Management のオプション・ウィンドウが開きます。

2. ［**ALMデスクトップ クライアント**］リンクをクリックします。ALM が実 行 されるたびに，バージョン確 認

が行われます。新しいバージョンが検出されると，必要なファイルの最新バージョンがマシンにダウンロードされます。

- **Windows 7/8/2008 R2/2012 の場合 :** 管理者権限が割り当てられていないユーザの場合，セキュリティの警告メッセージが表示されたら[**インストールしない**]をクリックします。インストール画面にリダイレクトされます。
- ブラウザを使ってファイルをダウンロードすることが禁止されている場合は，HP ALM の[アドイン]ページ([**ヘルプ**] > [**アドイン**]) からアクセスできるHP ALM Client MSI Generator Add-in でファイルをインストールできます。
- Citrix や VMware などの仮想環境から ALM を実行する場合，新しいバージョンをインストールできるのはシステム管理者だけです。
- [**全画面モードで開く**]アイコン をクリックして，ALM を全画面モードで開きます。全画面モードにすると，ALM を画面全体で操作できるので使いやすくなります。

3. 画面の指示に従ってください。

注 : ファイルがダウンロードされてもログイン・ウィンドウが表示されない場合は，お使いのマシンに Microsoft 修正プログラムをインストールする必要があります。詳細については，HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM905289 (http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals/KM905289) を参照してください。

ALM のバージョンが確認され，必要に応じてファイルが更新されると，ALM のログイン・ウィンドウが表示されます。

注 : ALM が外部認証を使用するように設定されている場合，名前とパスワードのフィールド

はこのウィンドウには表示されません。ステップ 9 に進んでください。

4. ［**名前**］ボックスに，ユーザ名を入力します。

5. ［**パスワード**］ボックスに，サイト管理者から割り当てられたパスワードを入力します。パスワードを思い出せない場合は，［**パスワードを忘れた場合**］リンクをクリックします。詳細については，「パスワードのリセット方法」(44ページ)を参照してください。

6. 前回作業していたプロジェクトに ALM が自動的にログインするようにするには，［**このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする**］チェック・ボックスを選択します。

7. ［**認証**］ボタンをクリックします。ALM によりユーザ名およびパスワードが検証され，ユーザがアクセス可能なドメインおよびプロジェクトが決定されます。自動ログインを選択している場合は，ALM が開きます。

8. 認証に失敗した場合は，ユーザ名とパスワードが正しいことを確認し，再度実行します。

9. ［**ドメイン**］リストからドメインを選択します。標準設定では，前回作業していたドメインが表示されます。

10. ［**プロジェクト**］リストからプロジェクトを選択します。標準設定では，前回作業していたプロジェクトが表示されます。

    デモ・プロジェクトが ALM サーバにインストールされている場合，**ALM_Demo** プロジェクトを選択できます(［**ドメイン**］リストで［**標準設定**］を選択している必要があります)。プロジェクトにはサンプル・データが含まれており，ALM について学ぶことができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management チュートリアル』を参照してください。

11. ［**ログイン**］ボタンをクリックします。ALM が開き，前回のセッションで最後に使用していたモジュールが表示されます。

    ALM を初めて実行すると，［ようこそ］ページが開きます。

    ［ようこそ］ページから，ALM ドキュメントに直接アクセスできます。ALM にログインするたびに［ようこそ］ページを表示したくない場合は，［**次回から表示しない**］を選択します。

12. 終了して ALM のログイン・ウィンドウに戻るには，ウィンドウの右上にある［**ログアウト**］ボタンをクリックします。

または，ALM のマストヘッドで，**＜ドメイン，プロジェクト＞**をクリックし，［**選択**］を選択して別のプロジェクトにログインします。

> **注：** ALM ユーザ・セッションが一定期間非アクティブな場合，そのセッションは有効でなくなります。これにより，使用していたライセンスが解放され，別のユーザが利用できるようになります。
>
> セッションが期限切れになると，再接続を求められます。ALM ログイン・ウィンドウからログインすると，プロジェクトのカスタマイズ内容がロードされます。ただし，プロジェクト管理者がプロジェクトのカスタマイズに大きな変更を加えていなかった場合は，再接続してもカスタマイズ内容は再ロードされません。こうして，すばやく再接続し，中断していたところから作業を続行できます。
>
> 再接続オプションは，［サイト設定］タブで **FAST_RECONNECT_MODE** パラメータを変更して編集できます。再接続時にはユーザは常に認定される必要があるため，このパラメータは外部認証に対して無効です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

パスワードのリセット方法

ALM にログインするときにパスワードを思い出せない場合は，パスワードをリセットして新しく作成できます。

> **注：** 次の状況では，［**パスワードを忘れた場合**］のリンクが無効となります。
>
> - **PASSWORD_RESET_DISABLE** サイト設定パラメータによって無効化されている場合。を参照してください。
> - LDAP 認証が有効化されている場合。を参照してください。
>
> 詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

パスワードをリセットするには，次の手順で行います。

1. ALM のログイン・ウィンドウで，［**パスワードを忘れた場合**］リンクをクリックします。［**パスワードを忘れた場合**］ダイアログ・ボックスが開きます。
2. ［**ログイン名**］ボックスに，ユーザ名を入力します。標準設定では，ALM のログイン・ウィンドウに入力した名前が表示されます。
3. ［**OK**］をクリックします。ALM によって，ユーザ名に割り当てられている電子メール・アドレスにメッセージが送信されます。リンクをクリックして新しいパスワードを設定します。

   新しいパスワードを設定すると，ALM のログイン・ウィンドウが開き，新しいパスワードを使用してログインできるようになります。

管理者メッセージの表示方法

サイト管理者は，ALM プロジェクトに接続されているユーザに，重要なメンテナンスやその他の問題を通知するメッセージを送信できます。たとえば，ユーザが接続しているプロジェクトへの接続が解除されるという警告メッセージを送信します。

サイト管理者からのメッセージ送信の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

管理者メッセージを表示するには，次の手順で行います。

1. サイト管理者がユーザにメッセージを送信すると，ユーザのコンピュータでポップアップ・ウィンドウが自動的に開き，メッセージ・テキストが表示されます。

2. 複数のメッセージがある場合は，[**前のメッセージ**]ボタンおよび[**次のメッセージ**]ボタンを使用して，それぞれのメッセージを表示します。

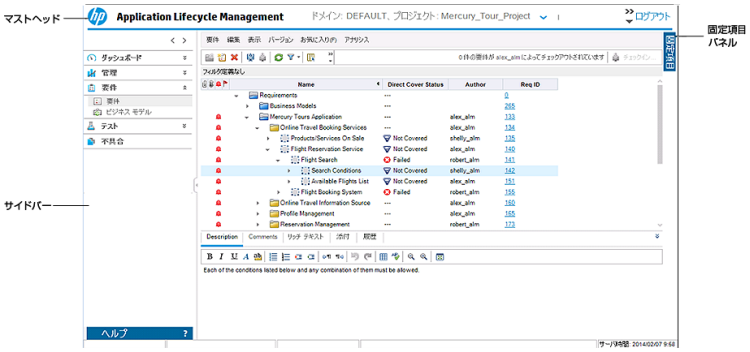
ALM 共通ユーザ・インタフェース

本項の内容

ALM 共通領域 46
ALM のオプション 50
ALM フィールド 52
ALM アイコン 53
[ユーザのプロパティ]ページ 53
[履歴のクリア]ダイアログ・ボックス 55
[タスク マネージャ]ダイアログ・ボックス 56
[エラーの詳細の送信]ダイアログ・ボックス 59

ALM 共通領域

ALM マストヘッド，サイドバー，固定項目パネルはすべてのALM ビューに共通です。



アクセス方法	共通領域は，すべての ALM ビューからアクセスできます。
関連タスク	「ALM の起動方法」(41ページ)

マストヘッド

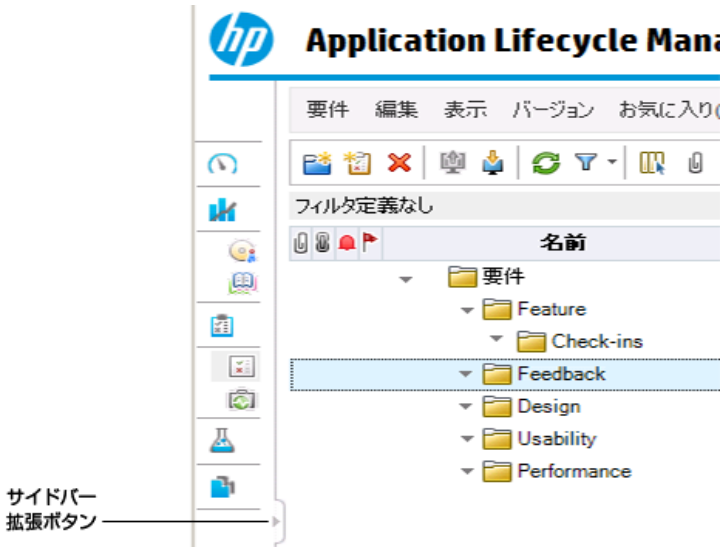
現在のドメイン，プロジェクト，ユーザ名を表示します。他のプロジェクト，共通ツール，ドキュメントにアクセスするためのボタンも用意されています。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<ドメイン，プロジェクト>	現在のドメインとプロジェクトの詳細を表示します。 クリックして同じマシンで開いている別のプロジェクトに切り替えるか，または[ログイン]ウィンドウから別のプロジェクトを選択します。
<ユーザ>	現在のユーザの詳細を表示します。
	各 ALM モジュールで実行できるコマンドがあります。詳細については，「ALM のオプション」(50ページ) を参照してください。 **ヒント：**[**ツール**]メニューのカスタマイズ方法については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。
	現在のページのヘルプを表示します。
ログアウト	現在のプロジェクトをログアウトし，[ALM ログイン]ウィンドウを表示します。

サイドバー

この領域には，ALM ビュー間の移動，ALM モジュール間の切り替え，各種のオンライン・リソースへのアクセスのためのボタンがあります。

重要な情報	ALM のエディション: ALM は，いくつかのエディションとしても提供されており，それぞれ ALM 機能のサブセットを備えています。ALM Essentials Edition，Quality Center Enterprise Edition，Performance Center Edition。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 サイドバーが表示されていない場合は，展開ボタンをクリックしてください。 

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
< >	ALM で，前または次のビューに移動できます。 **ヒント:** 前のページに移動した後は，[**進む**]ボタンを使用します。
ダッシュボード	次のモジュールにアクセスできます。 **アナリシス・ビュー:** グラフ，レポート，Excel レポートを作成できます。 **ダッシュボード・ビュー:** ダッシュボード・ページを作成し，1 つの画面に複数のグラフを表示できます。
管理	次のモジュールにアクセスできます。 • **リリース:** アプリケーション管理プロセスのリリースおよびサイクルを定義できます。 • **ライブラリ:** ライブラリの定義によるプロジェクトでの変更の追跡，プロジェクトでのエンティティの再利用，複数のプロジェクト間でのエンティティの共有ができます。

UI 要素	説明
要件	次のモジュールにアクセスできます。 • **要件**: 要件を階層ツリー構造で管理できます。要件は，他の要件，テスト，不具合にリンクできます。 • **ビジネス・モデル**: ビジネス・プロセス・モデルをインポートし，モデルおよびそのコンポーネントの品質をテストできます。このモジュールに対するアクセスは，ご使用の ALM ライセンスによって決まります。
クラウド設定	次のモジュールにアクセスできます。 **クラウド・アカウント**: 外部のクラウド・アカウントを ALM に追加できます。これらのクラウド・アカウントを使用してクラウド・テスティング・ホストをプロビジョニングできます。 **ホスト・テンプレート**: クラウド・ホストをプロビジョニングするために使用するテンプレートを作成，変更できます。

テスト	次のモジュールにアクセスできます。
	• **テスト・リソース**: テスト・リソースを階層ツリー構造で管理できます。テスト・リソースはテストに関連付けることができます。
	• **ビジネス・コンポーネント**: お使いの ALM ライセンスに応じて，[**ビジネス コンポーネント**] モジュールにもアクセスできます。このモジュールを使用すると，非技術分野の専門家が Business Process Testing を使用して，品質の最適化プロセスを行うことができます。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	• **テスト計画**: テストを階層ツリー構造で開発および管理できます。要件および不具合にテストをリンクできます。
	• **テスト・ラボ**: テストを管理および実行できます。
	• **ラボ管理**: **ビルド検証**: 1 つのパフォーマンス・テストとともにまとめてバンドルされる自動機能テスト・セットのスイート (ビルド検証スイート) を定義し，エンド ツー エンドのデプロイメントおよびテスト・ソリューションを実現できます。
	  ▪ **利用可能な対象**: ALM Editionのみ。
	• **ラボ管理**: **タイムスロット**: パフォーマンス・テストを実行する目的で，またはテスト・リソースのメンテナンス作業を実行するために，テスト・リソースを確保します。
	  ▪ **利用可能な対象**: Performance Center Edition と ALM Editionのみ。
	• **テスト実行**: テストの実行結果を分析できます。

UI 要素	説明
ラボ・リソース	次のモジュールにアクセスできます。 • **テスティング・ホスト** : パフォーマンス・テストおよび機能テストのホストの割り当ておよび可用性を管理できます。詳細については,『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 • **AUT 環境** : パフォーマンス・テストおよび機能テストに使用できる AUT 環境パラメータを管理できます。 **利用可能な対象** : Performance Center Edition と ALM Editionのみ。
不具合	不具合の追加, 修正の優先度の指定, 未解決の不具合の修正, データの分析を実行します。
Performance Center	次のモジュールにアクセスできます。 **使用状況レポート** : パフォーマンス・センター・サイトのユーザおよびリソース使用状況を分析できます。 **パフォーマンス・ライフサイクル**:トレンド分析およびパフォーマンス・アプリケーション・ライフサイクル(PAL) ・レポートにアクセスできます。詳細については,『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **AUT ホスト** : AUT(Application Under Test) を構成するホスト・マシンを管理できます。詳細については,『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **トポロジ** : テスト対象アプリケーション(AUT) を構成する論理コンポーネント, およびコンポーネント間の関係を視覚的に表示するトポロジを作成します。詳細については,『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
ヘルプ	その他のオンライン HP Application Lifecycle Management リソースを開くことができます。詳細については，「その他のオンライン・リソース」(28ページ) を参照してください。 各 ALM クライアント・コンポーネントのバージョン情報を表示します。 **注：** バージョン情報の詳細については，HP サポート・サイト (http://support.openview.hp.com) の「Obsolescence Policy」を参照してください。 エラーが発生した場合，ALM によってシステムおよび使用状況の情報が収集され，それを電子メール添付ファイルとして送信できます。この機能は，ALM サポートに連絡する際に役立ちます。エラー・レポートを送信するには，[**ヘルプ**] > [**エラーの詳細の送信**] を選択します。詳細については，「[エラーの詳細の送信] ダイアログ・ボックス」(59ページ) を参照してください。 URL アドレスにリンクする [ヘルプ] メニューにカスタム・エントリを追加できます。たとえば，標準設定で外部の Web サイト上で利用できる ALM 製品ムービーへのローカル・アクセスをユーザに対して許可する場合，そのムービーをサーバ上に保存し，ムービー・インデックス・ページへのリンクを作成できます。エントリを追加するには，サイト設定パラメータ **CUSTOM_HELP_MENU_LINK** を定義します。 **ヒント：** [**ヘルプ**] メニューで項目の名前変更，並べ替え，または削除を行うには，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

固定項目パネル

[**固定項目**] の上にマウスのカーソルを置くと，パネルが開き，固定した ALM 項目が表示されます。固定された要件，テスト，不具合をクリックするとすばやくジャンプできます。

- 要件，テスト，不具合のいずれかを固定するには，固定する項目を選択して [**固定/固定解除**] ボタンをクリックします。[**固定項目**] タブに項目が追加されます。
- 固定した要件，テスト，不具合を固定解除するには，固定解除したい項目を選択して，[**固定/固定解除**] ボタンをクリックするか，タブで固定解除したい項目の ✕ をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「固定項目パネル」(120ページ) を参照してください。

ALM のオプション

アクセス方法	マストヘッドの をクリックします。
参照情報	「ALM 共通領域」(46ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
カスタマイズ	[プロジェクト カスタマイズ] ウィンドウを開き，プロジェクトをカスタマイズできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 **ヒント：** [プロジェクト カスタマイズ] ウィンドウでは，ALM パスワードおよびユーザの詳細を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ユーザのプロパティ] ページ」(53ページ) を参照してください。
履歴のクリア	[履歴のクリア] ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトから履歴データを削除できます。履歴をクリアするには，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，「[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス」(55ページ) を参照してください。
タスク・マネージャ	[タスク マネージャ] ダイアログ・ボックスが開き，プロジェクトで実行されている非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。詳細については，「[タスク マネージャ] ダイアログ・ボックス」(56ページ) を参照してください。
スペルと文法	**スペル・オプション：** [スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き，ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。 **類語辞典：** [類語辞典：英語] ダイアログ・ボックスが開き，選択した語の類義語，反意語，関連語が表示されます。選択した単語を置換したり，新しい単語を調べたりすることができます。 **スペル・チェック：** 選択したテキストまたはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。誤りがなければ，確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は，[スペル] ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。
新規不具合	[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開き，新しい不具合を追加できるようになります。詳細については，「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(765ページ) を参照してください。
イベント・ログ	**Performance Center：** パフォーマンス・テストの実行中に発生したすべてのイベントに関する情報を表示します。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
スタンドアロンのアプリケーションのダウンロード	**Performance Center：** [アプリケーションのダウンロード] ウィンドウが開き，Performance Center に必要なスタンドアロン・アプリケーションをダウンロードできます。
ラボ設定	[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックスが開き，プロジェクトのラボ管理設定を設定できます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な対象：** Performance Center Edition と ALM Edition。

UI 要素	説明
Performance Center Controller のオプション	**Performance Center**：［Performance Center Controller のオプション］ダイアログ・オプションが開き，Performance Center プロジェクトの Controller のグローバル・オプションを設定できます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
My Performance Center	**Performance Center**：［My Performance Center］ダイアログ・ボックスが開き，毎日のパフォーマンス・テスト・アクティビティの実行を容易にすることができます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALM フィールド

本項では，ALM で利用できるフィールドの一覧を示します。

モジュール名	説明
ビジネス・コンポーネント	詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ビジネス・モデル	「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)
ビルド検証	「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ) **利用可能な対象**：ALM Edition のみ。
不具合	「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)
管理	「リリース・モジュールのフィールド」(160ページ) 「ライブラリ・モジュールのフィールド」(219ページ)
ラボ・リソース	詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) **利用可能な対象**：Performance Center Edition とALM Editionのみ。
要件	「要件モジュール・フィールド」(273ページ)
テスト計画	「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) **Business Process Testing**：詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
テスト・リソース	「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(501ページ) **Business Process Testing**：詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
テスト実行	「テスト実行モジュールのフィールド」(734ページ)

モジュール名	説明
タイムスロット	「タイムスロット・モジュールのフィールド」(697ページ) **利用可能な対象**：Performance Center Edition とALM Editionのみ。

ALM アイコン

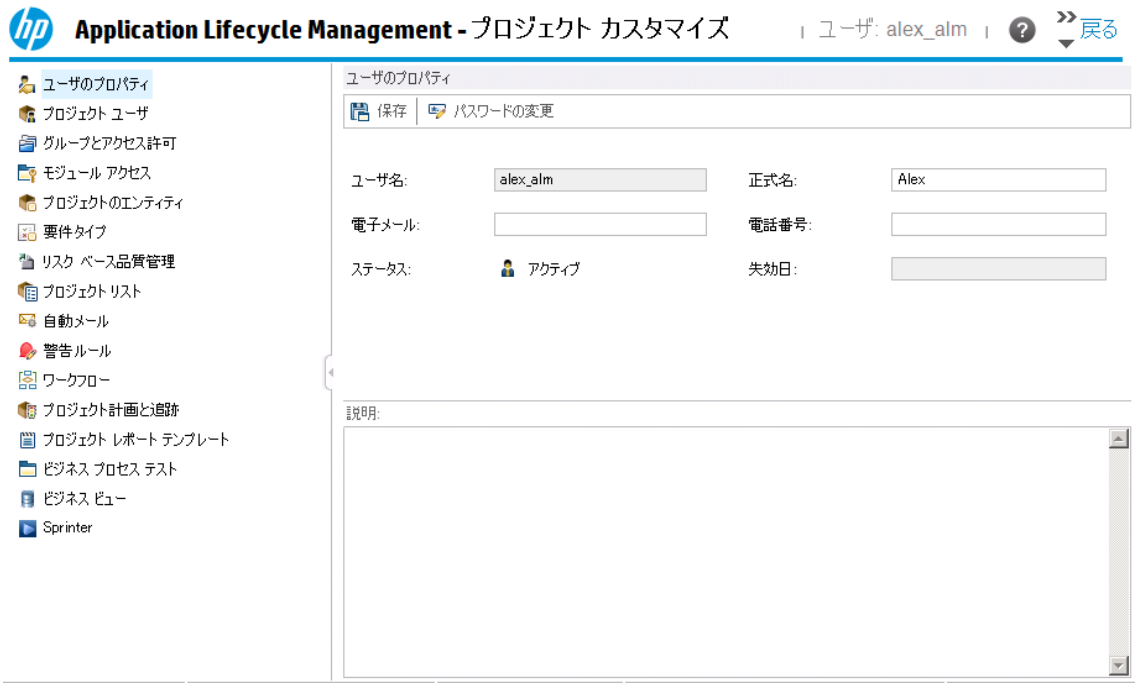
本項では，ALM で利用できるアイコンの一覧を示します。

モジュール名	説明
ビジネス・コンポーネント	詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ダッシュボード	「ダッシュボードのアイコン」(790ページ)
管理	「リリース・モジュールのアイコン」(159ページ) 「ライブラリ・モジュールのアイコン」(218ページ)
要件	「要件モジュールのアイコン」(271ページ)
テスト・リソース	「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(498ページ)
テスト計画	「テスト計画モジュールのアイコン」(406ページ)
テスト・ラボ	「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)
タイムスロット	「タイムスロット・モジュール・アイコン」(700ページ) **利用可能な対象**：Performance Center Edition とALM Editionのみ。
ビルド検証	「ビルド検証モジュールのアイコン」(661ページ) **利用可能な対象**：ALM Edition のみ。
不具合	「不具合モジュールのアイコン」(760ページ)

[ユーザのプロパティ] ページ

このページでは，氏名，パスワード，電子メール・アドレス，電話番号，その他の詳細を含むユーザ・プロパティを変更できます。

注：[プロジェクト カスタマイズ] ウィンドウの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。



アクセス方法	1. 共通ツールバーで，[**ツール**] > [**カスタマイズ**]を選択します。 2. [プロジェクト カスタマイズ] ウィンドウで，[**ユーザのプロパティ**] リンクをクリックします。
重要な情報	• 電子メールによる通知および警告をメール・ボックスに直接受信できるようになるため，電子メール情報は重要です。 • サイト管理者はユーザのプロパティまたはパスワードの変更および上書きができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
戻る	[プロジェクト カスタマイズ] ウィンドウを終了し，ALM ウィンドウに戻ります。
保存	ユーザ・プロパティの変更内容を保存します。

UI 要素	説明
パスワードの変更	[＜ユーザ名＞のパスワードを変更]ダイアログ・ボックスが開き，ログイン・パスワードを変更できます。 **注：** パスワードの最大文字数は 20 文字です。 LDAP または外部認証ユーザの場合，このフィールドは利用できません。
ユーザ名	ALM ログイン名。 **注：** このフィールドは読み取り専用です。
正式名/説明	ユーザの詳細。
電子メール	通知および警告の送信先となる電子メール・アドレスを指定します。
電話番号	電話番号。
ステータス	ユーザのステータスは**アクティブ**と表示されます。アクティブなユーザのみが ALM プロジェクトにログインできます。
失効日	ユーザが非アクティブ化される予定の日付。非アクティブなユーザは，ALM プロジェクトにログインできません。 **注：** このフィールドはサイト管理者によって設定され，読み取り専用です。

[履歴のクリア]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，履歴データを削除できます。

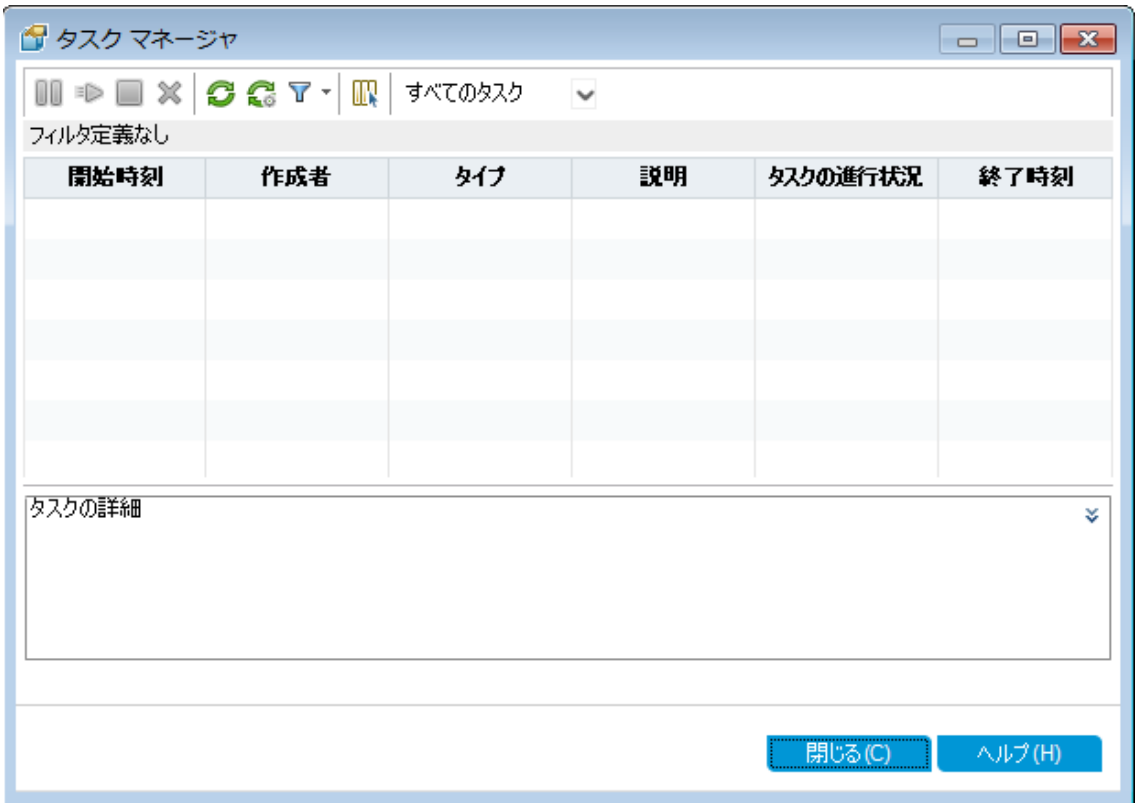
アクセス方法	マストヘッドで，をクリックして[**履歴のクリア**]を選択します。
重要な情報	履歴のクリアを行うには，適切なユーザ権限が必要です。
参照情報	「プロジェクト履歴管理」(40ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
エンティティ	履歴を削除するエンティティを選択します。 **注：** すべてのエンティティから履歴データを削除するには，**すべて**を選択します。
フィールド	履歴を削除するフィールドを選択します。 **注：** 選択したエンティティのすべてのフィールドから履歴データを削除するには，**すべて**を選択します。
次の日付まで	選択した日付までの(選択した日付を含む)データが削除されます。

[タスク マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，プロジェクトで実行されている非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。たとえばベースラインを作成する場合は，ALM によりバックグラウンド・プロセスでタスクが実行されます。タスク・マネージャでこのタスクの進行状況を確認できます。



アクセス方法	マストヘッドで，をクリックして[**タスク マネージャ**]を選択します。
重要な情報	ALM では，完了したタスクは 2 日後にタスク・マネージャからクリアされます。

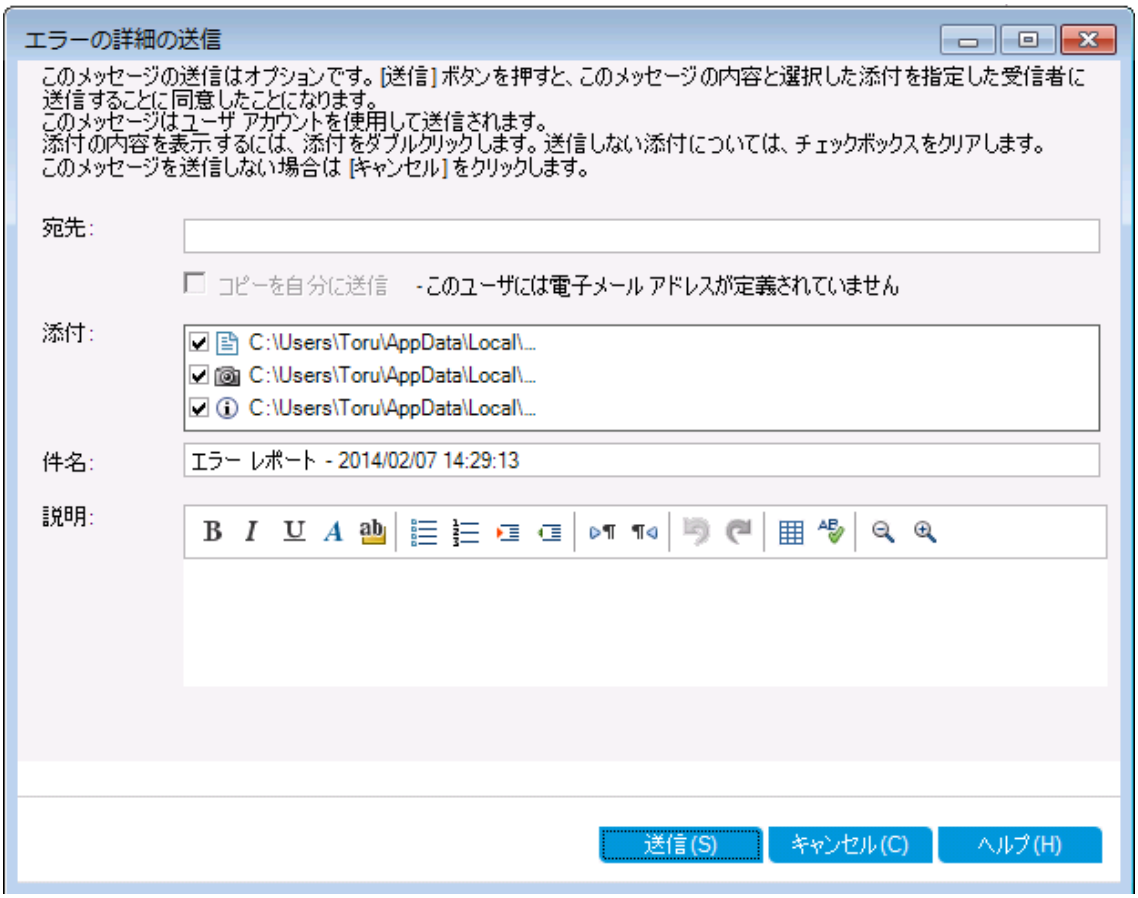
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	一時停止：現在選択中のタスクを一時停止します。 **注：** 一時停止できるのは実行中のタスクのみです。
	再開：現在選択中のタスクを再開します。 **注：** 再開できるのは一時停止中のタスクのみです。
	中断：現在選択中のタスクを中断します。 **注：** 中断できるのは実行中のタスクのみです。
	削除：現在選択されているタスクをグリッドからクリアします。 **注：** • 完了したタスクのみ削除できます。 • タスクをクリアできるのは，そのタスクを実行したユーザ，またはプロジェクト管理者のみです。
	すべて更新：最新のタスク情報が表示されるように，グリッドを更新します。 自動更新が有効になっている場合，このボタンは無効化されます。
	自動更新をオンに設定/自動更新をオフに設定：有効にした場合，最新のタスク情報が表示されるように，グリッドを 5 秒ごとに自動更新します。
	フィルタ/ソート：[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示されたタスクのフィルタ処理とソートを実行できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
フィルタ	グリッドに現在適用されているフィルタを表示します。グリッドのすぐ上に表示されます。
開始時刻	タスクが開始された時刻。
作成者	タスクを実行したユーザの名前。
タイプ	タスクのタイプ。たとえば，**ImportBaseline**などです。
説明	タスクの説明。
タスク進行状況	タスクの完了した割合。タスクが完了すると，[**成功**]または[**失敗**]の結果が表示されます。
終了時刻	タスクが完了した時刻。
タスクの詳細	選択したタスクの詳細を表示します。 この表示枠の表示と非表示を切り替えるには，**表示/非表示**の矢印をクリックします。
タスク ID	ALM によってタスクに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
タスクの状態	次のオプションがあります。 • **実行中**：タスクは進行中です。 • **一時停止**：タスクはユーザによって一時停止されました。 • **完了**：タスクは完了しました。 **注：**タスクがユーザによって中断された場合，[タスクの状態]の値は**完了**となり，[タスクの進行状況]の値は**失敗**となります。

[エラーの詳細の送信]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，エラー・レポートを電子メール添付ファイルとして送信できます。これは，ALM サポートやローカル・システム管理者に連絡する際に役立ちます。



アクセス方法	[**ヘルプ**] > [**エラーの詳細の送信**] を選択します。
重要な情報	• [**エラーの詳細の送信**] コマンドを有効にするには，「サイト管理」の [サイト設定] タブで **SEND_EXCEPTION_ENABLED** パラメータを設定します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ALM ユーザ・アカウント情報を使用して，メール・メッセージが送信されます。 • 収集された情報は電子メール添付ファイルとして送信されます。送信する前に，添付ファイルを確認し，送信しない部分を削除できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
宛先	有効な電子メール・アドレスを入力します。
添付	添付ファイルには，システムの詳細，エラー発生時点でのマシンのスナップショット，生成されたログ・ファイルが含まれます。 添付ファイルをダブルクリックすると，コンテンツが表示されます。対応するチェック・ボックスをクリアすると，その添付ファイルは送信されません。
件名	レポートを送信する日時。
説明	エラーの説明。

第3章: ALM 共通機能

本章の内容

ALM 共通機能の概要 62
ALM のデータの表示方法 62
添付ファイルの変更方法 66
ALM データの検索および置換 67
ALM 共通機能のユーザ・インタフェース 67

ALM 共通機能の概要

HP Application Lifecycle Management(ALM) では，グリッドおよびツリーでデータの整理や表示を行います。カラムの再配置，フィルタ処理，ソート，グループ化など，さまざまな方法でデータを操作できます。また，レコードへのファイルの添付，レコード内の特定のテキストの検索，さまざまなエンティティの履歴の表示もできます。

> **注:** ALM のグリッドやツリーはそれぞれに表示内容が異なるため，本章で説明するタスクやリファレンスがすべてのグリッドとツリーに適用できるとは限りません。

タスクの詳細については，「ALM のデータの表示方法」(62ページ)，「添付ファイルの変更方法」(66ページ)，「ALM データの検索および置換」(67ページ) を参照してください。

ALM のデータの表示方法

このタスクでは，ALM データの操作方法を説明します。

- 「レコードのフィルタ」(62ページ)
- 「レコードのソート」(63ページ)
- 「レコードのグループ分け」(63ページ)
- 「カラムの並べ替えとサイズ変更」(63ページ)
- 「ALM 履歴の表示」(64ページ)

レコードのフィルタ

- ALM のデータをフィルタ処理して，定義した条件に一致するレコードだけを表示するには，[**フィルタ/ソートの設定**] ボタン をクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。[フィルタ] タブで，単一または複数の条件を割り当てます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。

  > **例:**
  >
  > テスト・ラボ・モジュールで，[ステータス] フィルタを「Failed」と定義し，[テスト担当者] フィルタを「David Or Mark」と定義することができます。この場合，David または Mark が実施して失敗したテスト実行のみが表示されます。

- データをさらにドリル・ダウンするには，クロス・フィルタを定義します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスで，[**クロス フィルタ**] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。

例:

テスト計画ツリーで，関連付けられたテスト・セットのクロス・フィルタを「Open」として定義できます。これにより，ステータスが「Open」であるテスト・セットに属するテストのみが表示されます。あるいは，関連付けられたテスト・セット・フィルタを定義して，テスト・セットに属していないテストを検索できます。

フィルタの構築に関するユースケースについては，「複雑なフィルタの使用 - ユースケース・シナリオ」(64ページ)を参照してください。

フィルタの構築方法に関するムービーを表示するには，ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

レコードのソート

ALM のツリーおよびグリッドに表示されるレコードのソートの優先度を設定できます。標準設定では，レコードは追加された順に ALM に表示されます。[フィルタ]ダイアログ・ボックスで，[**表示順序**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

例:

テスト・グリッドで，[**設計者**]カラムのソートの優先順位を最高にすると，レコードは[設計者]カラムに表示される名前の ASCII コード順に並べられます。[**テスト名**]のソートの優先順位を次に高い優先順位にすると，[**設計者**]カラムに表示される名前が同じテスト・レコードは，テスト名の ASCII コード順に並べられます。

レコードのグループ分け

指定した条件に基づいてグリッド・データを分類し，グループ分けできます。[フィルタ]ダイアログ・ボックスで，[**グループ**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

例:

不具合グリッドの[**責任者**]カラムのグループ化の優先順位を最高にすると，レコードは[**責任者**]カラムに表示される名前に従ってグループ化されます。[**ステータス**]および[**重要度**]の優先順位をそれぞれ次に高い優先順位にすると，[**責任者**]カラムと同じ名前が割り当てられた不具合は，それぞれのステータス，次いで重要度に従ってグループ分けされます。

カラムの並べ替えとサイズ変更

ALM に表示するカラムとその順序を指定します。[**表示**] > [**カラムの選択**]を選択します。[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。

マウスを使用してカラムのサイズを変更します。カラムの見出しの右端をクリックし，ドラッグして幅を調節します。

ALM 履歴の表示

ALM エンティティに加えた変更のリストを表示します。また，特定のベースラインに格納されている以前のバージョンのエンティティを表示することもできます。

[**履歴**] タブまたはボタンをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[履歴] タブ」(88ページ) を参照してください。

複雑なフィルタの使用 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは，複雑なフィルタを作成し配布する方法について説明します。

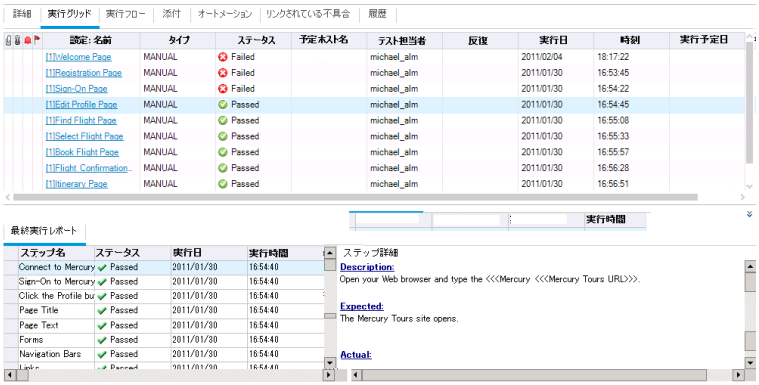
> **注:** このシナリオに関連するタスクについては，「ALM のデータの表示方法」(62ページ) を参照してください。

このシナリオは次のステップで構成されています。

- 「基本フィルタの作成」(64ページ)
- 「ワイルドカード付き条件の追加」(65ページ)
- 「クロス・フィルタとブール演算子を使用したドリルダウン」(65ページ)
- 「テスト・インスタンスのグループ分けとソート」(65ページ)
- 「他のユーザへのフィルタの配布」(66ページ)

1. **基本フィルタの作成**

   次に示すのは，テスト・ラボ・モジュール内でテスト・インスタンスの**実行グリッド**をフィルタ処理する例です。**実行グリッド**にアクセスするには，「[実行グリッド] タブ」(581ページ) を参照してください。



   失敗した手動テスト・インスタンスを表示します。これらのテスト・インスタンスは，その領域を修正する開発者が手すきなため，直ちに対処する必要があります。

- [テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスの[**タイプ**]フィールドで[**手動**]を指定します。
- [**ステータス**]フィールドの[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスで，ステータス[**失敗**]を選択します。

フィルタの設定が，[テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスの上部に次のように表示されます。

```
フィルタ: タイプ[MANUAL];ステータス[Failed]
```

2. **ワイルドカード付き条件の追加**

一定のパターンが見え始めました。失敗したテスト・インスタンスの多くは，フライト予約システムのログインまたはログアウトに関係しています。ログインとログアウトに関係しないテスト・インスタンスは，除外したいと考えます。

[**テスト: テスト名**]フィールドの[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスに，文字列「***log***」を入力します。名前に文字列 **log** が含まれないテストがベースとなっているテスト・インスタンスは，すべて除外されます。

フィルタの設定は，次のようになります。

```
フィルタ: ステータス[Failed];タイプ[MANUAL];テスト: テスト名[*log*]
```

3. **クロス・フィルタとブール演算子を使用したドリルダウン**

この時点で，ログインとログアウトの手順について作業が必要であることが確認できました。その作業に優先順位を付けるため，失敗したテスト・インスタンスの中でも，優先度が高い要件でカバーされているものを表示します。

優先度は別のモジュールに保存されているため，クロス・フィルタを定義します。

a. [テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスで，[**クロス フィルタ**]タブをクリックします。

b. [要件]セクションで[**<フィルタ定義なし>**]の横のラジオ・ボタンを選択します。

c. [ブラウズ]ボタンをクリックし，[**優先度**]フィールドの値を設定します。高い優先度([**4 - 非常に高い**]および[**5 - 緊急**])を持つすべての要件をフィルタの対象にするため，これらの優先度の間に[**または**]演算子を挿入します。

フィルタの設定は，次のようになります。

```
フィルタ: ステータス[Failed];タイプ[MANUAL];テスト: テスト名[*log*]
クロス フィルタ: <クロス フィルタ テスト インスタンス-要件>優先度[4-非常に高い Or 5-緊急]
```

4. **テスト・インスタンスのグループ分けとソート**

[テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスの[ソート順序]タブと[グループ]タブをクリックして，残ったテスト・インスタンスを実行グリッドに表示する順序を定義します。

たとえば，テスト・インスタンスをテスト設計者ごとにグループ分けし，テスト・インスタンス名でソートする場合，フィルタの設定は次のようになります。

```
フィルタ: ステータス[Failed];タイプ[MANUAL];テスト: テスト名[*log*]
クロス フィルタ: <クロス フィルタ テスト インスタンス-要件>優先度[4-非常に高い Or 5-緊急]
ソート基準: 設定: 名前[Ascending]; 右によりグループ化: テスト: 設計者
```

5. **他のユーザへのフィルタの配布**

   複雑なフィルタの作成後に，そのフィルタを保存し，他のユーザに提供することにしました。

   [テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスで，[**フィルタ設定をコピー**]ボタンをクリックします。フィルタ設定が，クリップボードにテキストとしてコピーされます。クリップボードの内容は，電子メールに貼り付けて送信できます。

   受信者は，自分の ALM クライアントで[テスト インスタンスのフィルタ]ダイアログ・ボックスを開き，[**フィルタ設定の貼り付け**]ボタンをクリックして，同じ複雑なフィルタを使用できます。

添付ファイルの変更方法

このタスクでは，ALM 添付ファイルの変更方法を説明します。

添付ファイルを開くと，添付ファイルがクライアント・マシンのローカル・ディレクトリにダウンロードし，関連付けられたアプリケーションで開きます。添付ファイルに変更を加えた場合は，2 回保存する必要があります。最初に，アプリケーションで添付ファイルのローカル・コピーを保存します。次に，添付ファイルを ALM プロジェクトにアップロードします。

添付ファイルを変更するには，次の手順を実行します。

1. 選択した ALM レコードの[添付ファイル]ページに移動します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

2. 選択した添付ファイルをダブルクリックします。関連付けられたアプリケーションでローカル・コピーが開かれます。

3. 添付ファイルに変更を加えます。

4. アプリケーションで変更内容を保存します。これにより，添付ファイルのローカル・コピーが保存されます。

5. 添付ファイルを閉じます。

6. ALM で，[**アップロード**]ボタンをクリックして，ローカル・コピーを ALM プロジェクトにアップロードします。

ALM データの検索および置換

次のステップでは，ALM データの検索および置換の方法を説明します。

- 「レコードの検索」(67ページ)
- 「レコードの置換」(67ページ)

レコードの検索

[検索]ダイアログ・ボックスを使用して，ツリーまたはグリッドの特定のフィールド値に基づいて，レコードを検索できます。特定のサブフォルダまたはレコードのフォルダも検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。

利用できる場合，キーワードやキーワードの変化形を，テキスト検索を使用して検索できます。[**編集**]＞[**テキスト検索**]を選択します。ウィンドウの下部に，[テキスト検索]表示枠が開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。

レコードの置換

[置換]ダイアログ・ボックスを使用して，選択したレコード，またはツリーやグリッドのすべてのレコードのフィールド値を置換できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)を参照してください。

[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを使用して，グリッドやツリーの複数レコードのフィールド値を更新できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。

ALM 共通機能のユーザ・インタフェース

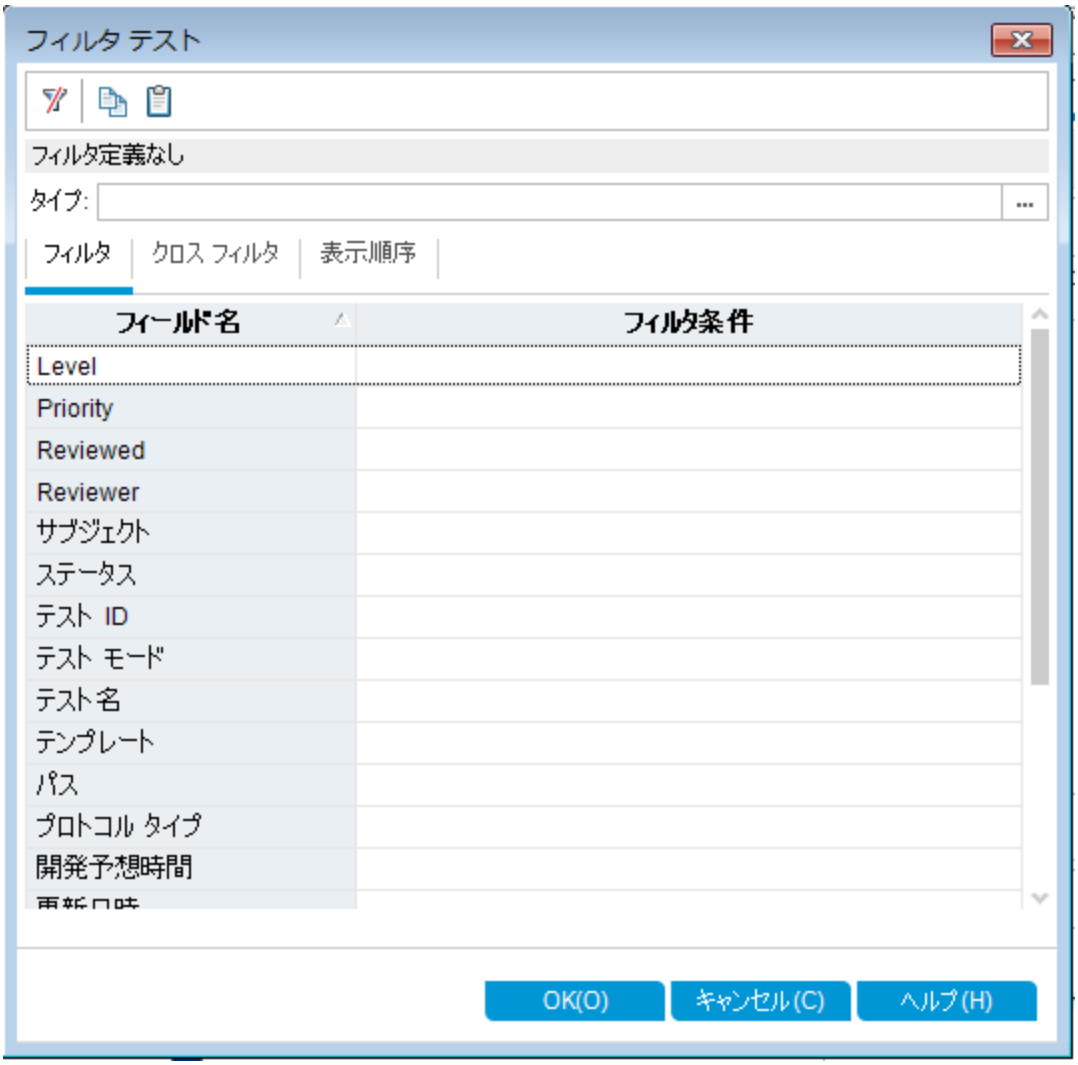
本項の内容

[フィルタ]ダイアログ・ボックス 68
[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス 79
[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス 81
[検索]ダイアログ・ボックス 82
[置換]ダイアログ・ボックス 84
[テキスト検索]表示枠 86
[履歴]タブ 88
[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス 90
[添付]ページ 94
[スナップショット]ダイアログ・ボックス 96
[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス 97
[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス 99

[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス 100
固定項目パネル 103

[フィルタ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ALM データのフィルタ処理，ソート，グループ分けを行い，定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。



アクセス方法	[**フィルタ/ソートの設定**]ボタン をクリックします。

重要な情報	• **ヒント:** フィルタおよびソートの設定をお気に入りビューとして保存し，後で必要に応じて読み込むことができます。お気に入りビューとして保存するには，[**お気に入り**] > [**お気に入りに追加**] を選択します。[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックス」(116ページ) を参照してください。 • ALM のエディション: 一部のフィールドおよび機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)
参照情報	「ALM 共通機能の概要」(62ページ) 「複雑なフィルタの使用 - ユースケース・シナリオ」(64ページ)

[フィルタ] ダイアログ・ボックスの共通要素

次に，共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタのクリア: [フィルタ] ダイアログ・ボックスで定義したフィルタ，ソート，グループ分けの設定をクリアします。
	フィルタ設定をコピー: フィルタ，ソート，グループ分けの設定をクリップボードにコピーします。
	フィルタ設定の貼り付け: フィルタ，ソート，グループ分けの設定をクリップボードから別のプロジェクトに貼り付けます。また，電子メールまたはテキスト・ファイルに設定を貼り付けることによって，ほかのユーザと設定を共有できます。 • 別のプロジェクトに貼り付けるには，設定を貼り付けるプロジェクトにログインして適切なモジュールを表示し，[フィルタ] ダイアログ・ボックスを開きます。[**フィルタ設定の貼り付け**] ボタンをクリックします。 • 電子メールまたはテキスト・ファイルに貼り付けるには，ターゲット・アプリケーションの貼り付けボタンをクリックします。

UI 要素	説明
タイプ **要件タイプ**(要件用) **サブタイプ ID**(コンポーネント用)	選択したエンティティ・タイプによるフィルタを定義します。 [**タイプ**]ボックスで，参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスが開きます。タイプを選択して，**OK**をクリックします。[フィルタ条件]タブに関連するフィールド名が表示されます。 **注:** 特定のモジュールでのみ利用可能。
＜エンティティ・フィールド＞の非表示	エンティティ・フィールドを非表示にします。フィルタ条件が設定されていないフィールドだけが非表示になります。 **注:** 特定のモジュールでのみ利用可能。 **要件モジュール**＞[**要件**]:リスクベース品質管理に関係するフィールドを非表示にできます。 **テスト・ラボ・モジュール**＞[**実行グリッド**]＞[**テスト インスタンス**]:テスト・フィールドやテスト設定フィールドを非表示にできます。

[フィルタ]タブ

このタブでは，ALM のデータをフィルタ処理して，定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。

重要な情報	• **要件ツリー**: 要件ツリーでフィルタリングを行う場合，フィルタされたエンティティの親でフィルタに一致しないものには，アイコンが表示されます。 • **テスト計画ツリー/テスト・セット・ツリー**:テスト計画ツリーまたはテスト・セット・ツリーでフィルタ処理する場合，フィルタに一致しないツリーのフォルダはツリーに表示されません。フィルタの適用後，空のフォルダは表示されません。 • **バージョン管理**:バージョン・コントロール・フィールドに基づくデータのフィルタ処理の詳細については，「バージョン管理フィールドによるフィルタ処理の方法」(128ページ)を参照してください。 • **データ非表示**:[プロジェクト カスタマイズ]の[データ非表示]タブでのフィルタ処理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)
参照情報	「ALM 共通機能の概要」(62ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明

フィールド名	フィルタリングに利用できるフィールドのリストです。
	
	ヒント: [フィールド名] カラムのフィールドを検索するには, [**フィールド名**] カラムでボックスをクリックして, フィールド名の最初の文字を入力します。最初に見つかったフィールド名が強調表示されます。
	
	フィールドの詳細については, 次を参照してください。
	
	• 「要件モジュール・フィールド」(273ページ)
	• 『HP ALM ラボ管理ガイド』
	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)
	• 「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)
	• 「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(501ページ)
	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)
	• 「タイムスロット・モジュールのフィールド」(697ページ)
	• 「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ)
	• 「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)
	• **Business Process Testing**:
	  ▪ 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』のビジネス・コンポーネント・モジュールのフィールド
	  ▪ 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』のBusiness Process Testing 用テスト計画モジュールのフィールド

UI 要素	説明
フィルタ条件	フィールドのフィルタ条件を定義します。 対応する[フィルタ条件]ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 代わりに、[フィルタ条件]ダイアログ・ボックスに直接入力することも可能です。 **注:** • 複数の語から成る項目を入力する場合は、引用符で囲む必要があります。たとえば、テスト `Login Boundary` を検索するには、[**条件**]ボックスに「`"login boundary"`」と入力します。 • 項目名の一部のみを入力する場合は、アスタリスク(*)を使用します。たとえば、`Login` という語が入ったすべてのテストを検索するには、[条件]ボックスに「`*login*`」と入力します。「`Insert New`」という語で始まるすべてのテストを検索するには、[条件]ボックスで「`"insert new*"`」と入力します。 • 空のカラムを指定するには、「`""`」と入力します。 • 空ではないフィールドを指定するには、「`not ""`」と入力します。 • フィルタ条件では、ブール演算子(And、Or、Not)および関係演算子を使用できます。 • 論理演算子または関係演算子を文字どおりに解釈させるには、その演算子を引用符で囲む必要があります。たとえば、「<MyTest>」という名前のテストを検索するには、「"<MyTest>"」と入力します。

[クロスフィルタ]タブ

このタブでは、要件、テスト、テスト・セット、不具合などの関連付けられた項目に対して、2次的なフィルタを定義できます。

重要な情報	[クロスフィルタ]タブが表示されるかどうかと、そのタブユーザ・インタフェース要素は、ALM のモジュールによって異なります。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)
参照情報	「ALM 共通機能の概要」(62ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
警告	警告は，次のいずれかになります。 • **不具合を警告と共に表示**:呼び出された警告を使って，不具合をフィルタ処理します。このオプションは，不具合モジュールのみで利用できます。 • **警告を持つモデルを表示**:呼び出された警告を使って，ビジネス・プロセス・モデルをフィルタ処理します。このオプションは，ビジネス・モデル・モジュールのみで利用できます。 • **要件を警告と共に表示**:呼び出された警告を使って，要件をフィルタ処理します。このオプションは，要件モジュールのみで利用できます。 • **テスト・インスタンスを警告と共に表示**:呼び出された警告を使って，テスト・インスタンスをフィルタ処理します。このオプションは，テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドのみで利用できます。 • **テストを警告を共に表示**:呼び出された警告によってテストをフィルタ処理します。このオプションは，テスト計画モジュールのみで利用できます。
不具合	次のいずれかを行います。 • 要件に直接または間接的にリンクされている不具合を使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 • リンクされている不具合を使って，ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで利用できます。 • テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って，テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで利用できます。 • テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って，テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ]タブ」(70ページ)を参照してください。
モデル・アクティビティ	モデルに含まれるアクティビティによって，モデルをフィルタ処理します。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ]タブ」(70ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
モデル・パス	モデルに含まれるパスによって，モデルをフィルタ処理します。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。
要件	次のいずれかを行います。 • リンクされている要件を使って，ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで利用できます。 • 対象となる要件を使って，テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで利用できます。 • 選択した要件を対象とするテストを使って，テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで利用できます。 • リンクされている要件を使って，不具合をフィルタ処理します。不具合モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。 いずれの要件もカバーしないテストをフィルタ処理するには，**要件カバレッジなしのテスト**を選択します。たとえば，重複しているテスト，または要件カバレッジ・リンクが存在しないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは，テスト計画モジュールのみで利用できます。
要件 : トレース元	トレース元要件を使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。
要件 : トレース先	トレース先要件を使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
実行数	次のいずれかを行います。 • テストの実行によって，テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで利用できます。 • テストの実行によって，テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。
テスト設定	次のいずれかを行います。 • テスト設定を使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 • テスト設定を使って，テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで利用できます。 • テスト設定を使って，テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。
テスト条件	テスト条件を使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。 **Business Process Testing**: テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
テスト・インスタンス	テスト・インスタンスの詳細を使って，テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで利用できます。 テスト・セット・ツリーに適用されるフィルタは，実行グリッドにも適用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ] タブ」(70ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
テスト・セット	次のいずれかを行います。 • そのテストが含まれているテスト・セットを使って，テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで利用できます。 • そのテスト・インスタンスが含まれているテスト・セットを使って，テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ]タブ」(70ページ) を参照してください。 どのテスト・セットにも属さないテストのフィルタ処理を行うには，**どのテスト・セットにも入らないテスト**を選択します。たとえば，実行されていないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは，テスト計画モジュールのみで利用できます。
テスト	次のいずれかを行います。 • 対象となるテストを使って，要件をフィルタ処理します。要件モジュールで利用できます。 • リンクされているテストを使って，ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで利用できます。 • 含まれているテストを使って，テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで利用できます。 • リンクされているテストを使って，不具合をフィルタ処理します。不具合モジュールで利用できます。 フィルタを定義するには，**<フィルタ定義なし>** を選択します。[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[フィルタ]タブ」(70ページ) を参照してください。

[表示順序]タブ

このタブでは，ASCII コードの順に従ってレコードをソートできます。

重要な情報	• [表示順序]タブが表示されるかどうかと，そのタブユーザ・インタフェース要素は，ALM のモジュールによって異なります。 • [表示順序]タブでは，数値で始まるレコードより，空白または文字で始まるレコードが優先されます。また，小文字より大文字が優先されます。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)
参照情報	「ALM 共通機能の概要」(62ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
利用可能なフィールド	表示可能なすべてのフィールドの名前が表示されます。
ソート済みフィールド	ソート優先順位が現在割り当てられているフィールドの名前が表示されます。
	[ソート済みフィールド]表示枠でのソートの優先順位を設定します。 **ヒント:** また，フィールド名をドラッグして上または下に移動することもできます。
	選択したフィールドを，**利用可能なフィールド**と**ソート済みフィールド**の間で移動します。 **ヒント:** 表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり，フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。
	すべてのフィールドを，**利用可能なフィールド**と**ソート済みフィールド**の間で移動します。
	[**ソート済みフィールド**]表示枠で，選択したフィールドを昇順または降順でソートします。

[グループ]タブ

このタブでは，指定した条件に基づいてグリッド・データを分類し，グループ分けできます。レコードのグループ分けの基準とする情報を指定できるほか，各基準の表示の優先順位を設定できます(最大3レベルまで)。これにより，大きなデータ・セット内を容易に移動できるようになります。

重要な情報	• [グループ]タブが表示されるかどうかと，そのタブユーザ・インタフェース要素は，ALM のモジュールによって異なります。 • [グループ]タブは，グリッド・ビューのみで利用できます。 • グループ・ヘッダを選択してグループ全体を対象に ALM アクションを実行することはできません。複数のレコードを対象にアクションを実行するには，CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながらレコードを選択します。 • 複数の値を含むフィールドを基準にレコードをグループ分けすると，フィールド内の値の情報がまとめられて，全体で 1 つの値として扱われます。この値がグループ分けのカテゴリとなります。たとえば，「English」と「French」を含む値は，「English」と「French」という個別のカテゴリの一部としてではなく，「English;French」として一度だけグループ分けされます。複数の値の許可の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • グループ分けリストには，ユーザ・リストまたはルックアップ・リスト・タイプのフィールドに関連付けられているシステム・フィールドおよびユーザ定義フィールドのみが表示されます。フィールド・タイプの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)
参照情報	「ALM 共通機能の概要」(62ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
項目のグループ化対象	選択したフィールドに基づいて，レコードをグループ分けします。
さらに次でグループ化	追加フィールドでレコードをグループ分けします。 **注:** レコードを複数のフィールドでグループ分けする場合は，表示する階層構造でフィールドを選択します。すでに選択されているフィールドは選択できません。
✕	グループ選択をクリアし，その選択を**なし**に変更します。 **注:** 子のグループが定義されているグループをクリアする場合には，子のグループが 1 レベル上に移動し，最後のグループが**なし**に変わります。

[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，フィールドのフィルタ条件を設定できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • [フィルタ]ダイアログ・ボックスを開きます。[フィルタ]タブで，[**フィルタ条件**]ボックスをクリックします。ドロップダウン矢印をクリックします。 • グリッド・ビューで，カラム名の下のグリッド・フィルタ・ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックします。
重要な情報	要件モジュールで[**親要件**]フィールドを選択すると，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスに要件名ごとにソートされて要件ツリーが表示されます。要件ツリーで要件を選択すると，完全パスが[**条件**]ボックスに表示されます。フィルタを適用すると，この要件の子孫である要件だけが表示されます。
参照情報	• 「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) • 「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」(81ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
条件	現在のフィールドのフィルタ条件を示します。 **注:** • 複数の語から成る項目を入力する場合は，引用符で囲む必要があります。たとえば，テスト Login Boundary を検索するには，[**条件**]ボックスに「"login boundary"」と入力します。 • 項目名の一部のみを入力する場合は，アスタリスク(*)を使用します。たとえば，Login という語が入ったすべてのテストを検索するには，[条件]ボックスに「*login*」と入力します。「Insert New」という語で始まるすべてのテストを検索するには，[条件]ボックスで「"insert new*"」と入力します。 • 空のカラムを指定するには，「""」と入力します。 • 空ではないフィールドを指定するには，「not ""」と入力します。 • フィルタ条件では，ブール演算子(And，Or，Not)および関係演算子を使用できます。 • 論理演算子または関係演算子を文字どおりに解釈させるには，その演算子を引用符で囲む必要があります。たとえば，「<MyTest>」という名前のテストを検索するには，「"<MyTest>"」と入力します。
クリア	フィルタの条件をクリアします。
<フィールド値表示枠>	現在のフィールドのフィルタ条件の定義に利用できる値が表示されます。[**条件**]ボックスに追加する値を選択します。 ユーザ名の値を含むフィールドを選択すると，＜条件表示枠＞に，ユーザのソート，ユーザの検索，ユーザのユーザ・グループごとのグループ分け，リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができるユーザ・リストが表示されます。詳細については，「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」(81ページ)を参照してください。 ツリーから値を選択する必要があるフィールドを選択した場合，<フィールド値表示枠>に[検索]フィールドと[更新]ボタンが表示されます。 **注:** 階層リストに表示される項目の中には，サブリストが含まれるものもあります。こうした項目の先頭には，フォルダ・アイコンが表示されます。サブリストから項目を選択するには，フォルダをダブルクリックしてから，項目をクリックします。

UI 要素	説明
<論理式表示枠>	論理式の定義に利用できるブール演算子と関係演算子が表示されます。 • **And**: この演算子で区切られる条件をすべて含むアイテムをすべて取得します。 • **Or**: この演算子で区切られる条件のいずれかを含むアイテムをすべて取得します。 • **Not**: この演算子に続く条件を含まないアイテムをすべて取得します。 • **(** および **)**: ブール句を結合する場合に条件をグループにまとめて，関係を考慮する順序を示します。 • **< より小さい**: この演算子に続く条件より小さいアイテムを取得します。 • **> より大きい**: この演算子に続く条件より大きいアイテムを取得します。 • **<= 以下**: この演算子に続く条件以下のアイテムを取得します。 • **>= 以上**: この演算子に続く条件以上のアイテムを取得します。 • **= 等しい**: この演算子に続く条件に等しいアイテムを取得します。

[ユーザリスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ユーザ・リストからユーザ名を選択できます。ユーザ・リストのソート，ユーザの検索，ユーザ・グループによるユーザのグループ分け，およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。

アクセス方法	ALM のグリッドまたはツリーで，ユーザ名の値を含むカラムを選択して，ドロップダウン矢印をクリックします。[ユーザリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	• ユーザ・リストをユーザ名または氏名の昇順または降順でソートするには，**名前**または**正式名**カラムの見出しをクリックします。表示の並び順を逆にするには，同じカラムの見出しをもう一度クリックします。 • ユーザの条件を定義する場合，現在のユーザ(`[CurrentUser]`を選択) か，ユーザ・グループ全体 (例 : `[Developer]`) を指定できます。
参照情報	「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(79ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	検索:ユーザ名または氏名でユーザを検索します。[**検索**]ボックスにユーザの名前(または名前の一部)を入力して,[**検索**]ボタンをクリックします。ALM で,検索文字列を含む最初のレコードが強調表示されます。後続の検索文字列の一致を検索するには,[F3]を押します。 **ヒント:** [**名前**]カラムの下にユーザ名の先頭の文字を入力して,インクリメンタル検索を行うこともできます。検索条件を絞り込むには文字を追加します。検索文字列の最初の文字が入力されるとすぐに検索が始まり,検索文字列のすべての文字が最初に見つかったレコードが強調表示されます。
名前	ALM ログイン名。
正式名	ユーザの氏名。
グループごとに表示	ユーザをグループごとに表示します。

[検索]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,ツリーまたはグリッドの特定のレコードを検索します。特定のフィールド値に基づいて,レコードを検索できます。特定のサブフォルダまたはレコードのフォルダも検索できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • [**編集**]>[**検索**]を選択します。 • 実行グリッドで,[**テスト**]>[**検索**]を選択します。 • テスト・セット・ツリーで,[**編集**]>[**フォルダ/テスト セットの検索**]を選択します。 **利用可能なモジュール:** 要件,ビジネス・コンポーネント,テスト計画,テスト・リソース,テスト・ラボ,不具合の各モジュールから利用可能です。
重要な情報	• ツリーまたはグリッドにフィルタが適用されている場合,検索は現在表示されているレコードに制限されます。 • **ヒント:** 利用できる場合,**テキスト検索** は,キーワードやキーワードの変化形が検索できる,より強力なツールです。詳細については,「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(67ページ)
参照情報	「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
検索するフォルダ	ツリーで選択したフォルダの名前が表示されます。 **利用可能な場所**:コンポーネント・ツリー, テスト計画ツリー, テスト・リソース・ツリー, テスト・セット・ツリーで利用できます。
検索するフィールド	検索するフィールドを示します。 **利用可能な場所**:要求モジュール, およびすべてのモジュールのグリッド・ビューで利用できます。
検索する値	検索するフィールド値。検索では大文字と小文字は区別されません。
検索対象	検索対象を, フォルダのみ, 個別レコードのみ, またはフォルダと個別レコードの両方に設定します。 **利用可能な場所**:コンポーネント・ツリー, テスト計画ツリー, テスト・リソース・ツリー, テスト・セット・ツリーで利用できます。
完全一致	指定した検索文字列に完全に一致する値を含むレコードを検索します。 **注**: [**検索するフィールド**]要素が, 数値フィールド(**不具合 ID**など)に設定されているか, リッチ・テキストを含むテキスト・フィールド(**説明**など)に設定されている場合は使用できません。
ワイルドカードを使用	項目の一部のみを入力するために, 検索文字列にアスタリスク(*)文字を使用できます。 **注**: [**検索するフィールド**]要素が, 数値フィールド(**不具合 ID**など)に設定されているか, リッチ・テキストを含むテキスト・フィールド(**説明**など)に設定されている場合は使用できません。
大文字と小文字を区別	大文字と小文字を区別するようにします。 **注**: [**検索するフィールド**]要素が数値フィールド(たとえば, [不具合 ID]など)に設定されている場合は使用できません。
検索(F)	ツリーで指定した値が検索されます。検索に成功すると, [検索結果]ダイアログ・ボックスが表示され, 一致するリソースのリストが表示されます。リストで結果を選択し, **移動**をクリックすると, ツリー内でレコードが強調表示されます。検索が失敗すると, メッセージ・ボックスが開きます。
次を検索(F)	グリッドで指定した値に一致する次のレコードを検索します。検索が成功すると, 一致したレコードがグリッドの中で強調表示されます。検索が失敗すると, メッセージ・ボックスが開きます。

UI 要素	説明
検索する名前	検索する[**名前**]フィールドの値。検索では大文字と小文字は区別されません。検索結果には，[**名前**]フィールドの値または値の一部が検索文字列と一致したレコードが含まれます。

[置換]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ツリーまたはグリッドのフィールド値を検索および置換します。選択したレコード，またはツリーやグリッドのすべてのレコードのフィールド値を置換できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • グリッド・ビューで，[**編集**]＞[**置換**]を選択します。 • 実行グリッドで，[**テスト**]＞[**置換**]を選択します。
重要な情報	ツリーまたはグリッドにフィルタが適用されている場合，検索および置換は現在表示されているレコードに制限されます。
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(67ページ)
参照情報	• 「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ) • 「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
検索するフィールド	検索するフィールドを示します。 **バージョン管理**：フィールドがバージョン管理されていない場合(つまり，フィールドのデータがバージョンごとには保存されていない場合)は，[**検索するフィールド**]リストで，フィールド名のプレフィックスとしてアスタリスク(*)が表示されます。バージョン管理されていないエンティティに対して**置換**操作を行う場合，チェックアウト操作は省略されます。フィールドをバージョン管理する/しないように設定する処理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
検索する値	検索するフィールド値。
置換後の値	置換するフィールド値を示します。

UI 要素	説明
検索するフィールド	検索するフィールドを示します。 **バージョン管理**: フィールドがバージョン管理されていない場合(つまり, フィールドのデータがバージョンごとには保存されていない場合)は, [**検索するフィールド**]リストで, フィールド名のプレフィックスとしてアスタリスク(*)が表示されます。バージョン管理されていないエンティティに対して**置換**操作を行う場合, チェックアウト操作は省略されます。フィールドをバージョン管理する/しないように設定する処理の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
検索する値	検索するフィールド値。
完全一致	指定した検索文字列に完全に一致する値を含むレコードを検索します。 **注:** [**検索するフィールド**]要素が, 数値フィールド(**不具合 ID**など)に設定されているか, リッチ・テキストを含むテキスト・フィールド(**説明**など)に設定されている場合は使用できません。
ワイルドカードを使用	項目の一部のみを入力するために, 検索文字列にアスタリスク(*)文字を使用できます。 **注:** [**検索するフィールド**]要素が, 数値フィールド(**不具合 ID**など)に設定されているか, リッチ・テキストを含むテキスト・フィールド(**説明**など)に設定されている場合は使用できません。
大文字と小文字を区別	大文字と小文字を区別するようにします。 **注:** [**検索するフィールド**]要素が数値フィールド(たとえば, **不具合 ID**など)に設定されている場合は使用できません。
置換	選択したレコードの指定したフィールド値を置換します。
すべて置換	グリッドに表示されているすべてのレコードの指定したフィールド値を検索して置換します。
次を検索	グリッドで指定した値に一致する次のレコードを検索します。検索が成功すると, 一致したレコードがグリッドの中で強調表示されます。検索が失敗すると, メッセージ・ボックスが開きます。

[テキスト検索]表示枠

この表示枠では，定義済みフィールドのレコードを検索できます。

アクセス方法	[**編集**]>[**テキスト検索**]を選択します。ウィンドウの下部に，[テキスト検索]表示枠が開きます。 **利用可能なモジュール**: 要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，不具合の各モジュールから利用可能です。
重要な情報	• テキスト検索は，プロジェクトで有効になっている場合にのみ利用できます。検索オプションが利用できない場合は，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 • 検索可能なテキスト・フィールドは，[プロジェクト カスタマイズ]であらかじめ定義されています。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • **バージョン管理**: ALM では，チェックインされたバージョンのみが検索されます。
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(67ページ)
参照情報	「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)

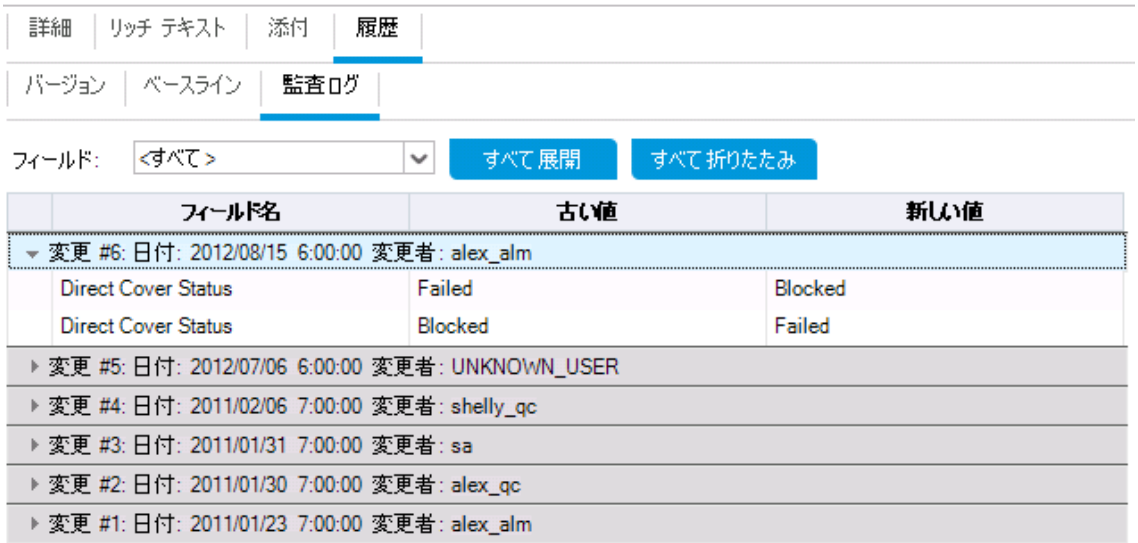
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
検索対象	検索するキーワードを示します。 **構文の例外**: • テキスト検索では，冠詞(a，an，the)，等位接続詞(and，but，for，nor，or)，ブール演算子(and，or，not，if，then)は無視されます。 • 検索では大文字と小文字は区別されません。 **注**: • キーワードを入力すると，定義済みフィールドを対象に，キーワードと，キーワードの変化形(活用形)が検索されます。たとえば，「log」と入力して検索すると，「log」，「logs」，「logging」，および「logged」を含むフィールドが検索されます。「login」や「logical」は，「log」の変化形(活用形)ではないので検索されません。 • 複数のキーワードを入力すると，検索結果には，キーワードのうち少なくとも1つを含むレコードがすべて含まれます。
内	**テスト**または**デザイン・ステップ**のテキストの検索が使用できます。 **利用可能な場所**:テスト計画モジュールから利用可能です。
現在のフィルタに制限	モジュール内のすべてのレコードを検索するか，フィルタされたレコードに検索対象を限定するかを示します。
検索	定義済みフィールドに対してテキスト検索が実行され，検索結果が適合率順で表示されます。
	カラムの選択:[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	検索可能フィールド:[プロジェクト カスタマイズ]で設定されている定義済み検索フィールドのリストを表示します。
	エンティティに移動:レコードを選択してボタンをクリックすると，レコードの詳細が表示されます。 **ヒント**:または，レコードを選択して，<レコード ID> または <レコード名> のリンクをクリックします。

UI 要素	説明
<モジュール・フィールド>	**要件**: 要件モジュールで利用できるフィールドの詳細については,「要件モジュール・フィールド」(273ページ) を参照してください。 **テスト計画**: テスト計画モジュールで利用できるフィールドの詳細については,「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) を参照してください。 **不具合**: 不具合モジュールで利用できるフィールドの詳細については,「不具合モジュールのフィールド」(761ページ) を参照してください。 **Business Process Testing**: ビジネス・コンポーネント・モジュールで利用できるフィールドの詳細については,『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
項目	検索結果で選択した項目の番号と, 見つかった項目の合計数。

[履歴]タブ

このタブでは, 現在選択したエンティティに加えられた変更のリストが表示できます。また, エンティティが含まれているベースラインの履歴も表示されます。



アクセス方法	[**履歴**]タブまたはボタンをクリックします。
重要な情報	フィールドに加えられた変更の履歴の保存方法の詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)

[ベースライン]タブ

このタブでは, 特定のベースラインに格納されている以前のバージョンのエンティティが表示されます。詳細については,「[ベースライン]タブ」(230ページ) を参照してください。

[バージョン]タブ

バージョン管理：このタブは，プロジェクトのバージョン管理が有効になっている場合に表示されます。詳細については，「[バージョン]タブ」(136ページ)を参照してください。

[監査ログ]タブ

このタブでは，エンティティの更新日時および更新者の名前が表示されます。

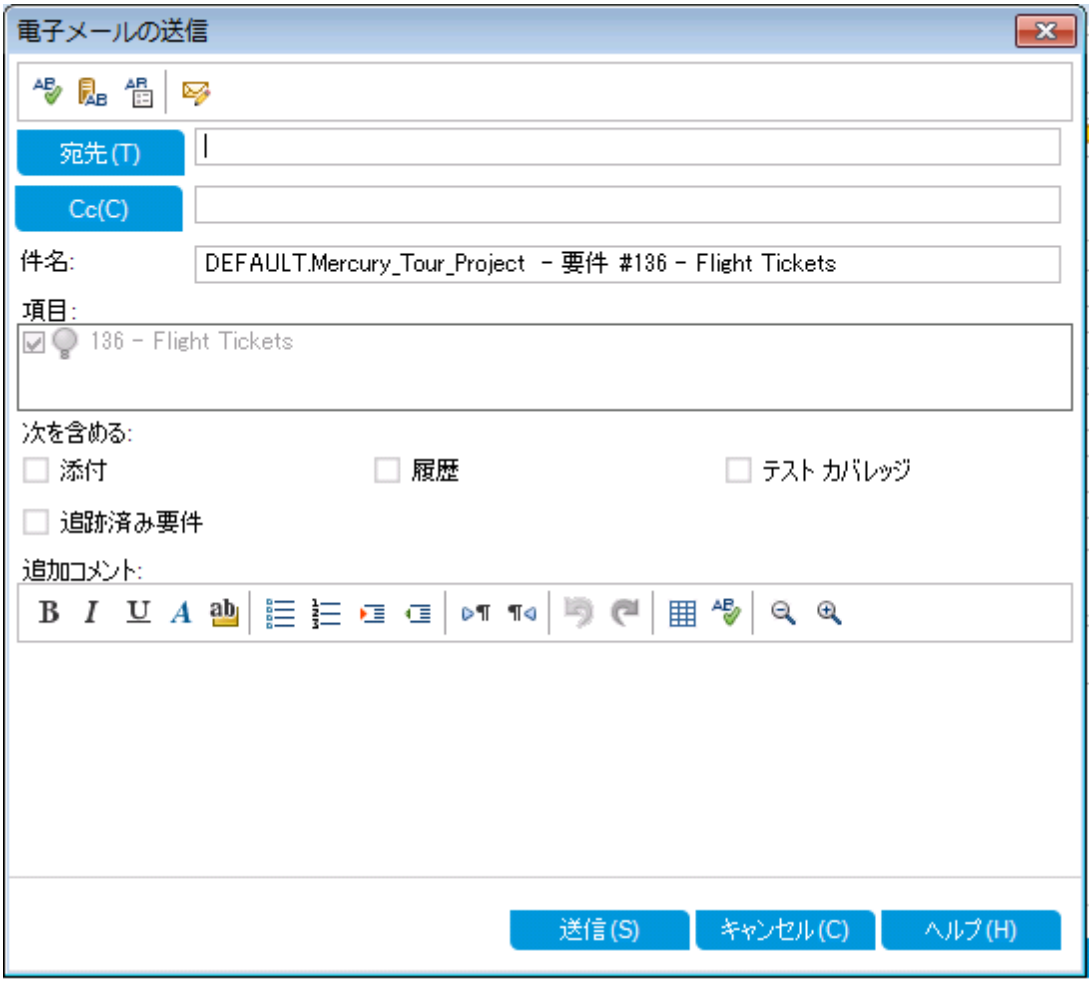
> **注**：要件モジュールで，要件の[**ターゲット リリース**]フィールドおよび[**ターゲット サイクル**]フィールドの履歴は記録されません。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フィールド	グリッドに表示するフィールドを指定します。すべてのフィールドに加えられた更新を表示するには，**<すべて>**を選択します。
すべて展開 すべて折りたたみ	グリッドに表示されているすべての変更を展開または折りたたみします。
フィールド名	変更時に変更が加えられたフィールド。
古い値	以前のフィールドの値。
新しい値	現在のフィールドの値。

[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，エンティティに関する電子メールをほかのユーザに送信できます。電子メールのメッセージにはリンクが含まれており，電子メールの受信者はそのリンクによってエンティティに直接アクセスできます。



アクセス方法	1つ以上のエンティティを選択します。**電子メールで送信**の矢印をクリックし，次のいずれかのオプションを選択します。 • **電子メールで送信**:リストから選択した宛先に電子メールを送信します。 • **<特定の宛先>に電子メールで送信**:特定の宛先に電子メールを送信します。たとえば，要件モジュールで**作成者に電子メールで送信**を選択すると，その要件を作成したユーザ宛に電子メールが送信されます。

重要な情報	• 次の項目が電子メールに自動的に含まれます。 ▪ エンティティへのリンク ▪ エンティティのサマリ ▪ 送信者のコメント(「追加コメント」ユーザ・インタフェース要素を使用して指定) ▪ 詳細 追加の項目を含めるには,「次を含める」UI 要素を参照してください。 • 標準設定では, **送信**をクリックすると電子メールは(非同期に)送信するためのキューに入り, 作業を続行できます。送信処理が失敗すると, 配信不能メールを示す電子メールを受信します。 電子メールを同期的に送信するには(つまり, 送信処理が直ちに試みられ, 送信が完了したら作業を続行できるようになります), [サイト管理]の[サイト設定]タブで **ASYNC_MAIL_ENABLED** パラメータを編集します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 標準設定では, 電子メールは HTML 形式で送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには, サイト管理の[サイト設定]タブで **MAIL_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 標準設定では, 電子メール・メッセージに含まれるエンティティへのリンクには, 標準設定メール・サーバのホスト名とポート番号を使用したパスが含まれます。リンクのパスを異なるメール・サーバに変更するには, サイト管理の[サイト設定]タブで, **ENTITY_LINK_HOST** および **ENTITY_LINK_PORT** パラメータを編集します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 標準設定では, 電子メールの添付ファイルの最大サイズは制限されています。添付ファイルのサイズが指定値を超える場合は, 添付ファイルなしで電子メールが送信されます。添付ファイルのサイズ制限を変更するには, サイト管理の[**サイト設定**]タブで **ATTACH_MAX_SIZE** パラメータを編集します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

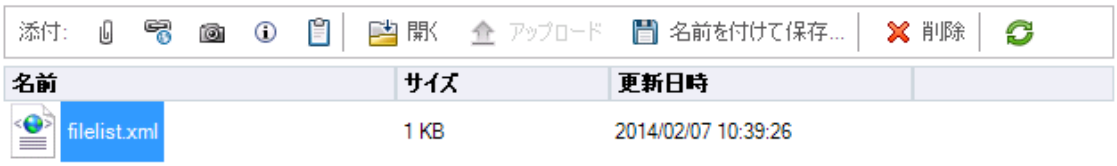
UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
	カスタム: [フィールドの選択] ダイアログ・ボックスが開き，電子メールに表示するフィールドを指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
宛先/CC	有効な電子メール・アドレスまたはユーザ名を示します。あるいは，[**宛先**] ボタンまたは [**CC**] ボタンをクリックし，送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択します。
件名	電子メールのサブジェクト。 **標準設定値**: ドメイン，プロジェクト，エンティティ ID (あれば)，エンティティ名が表示されます。
項目	エンティティ名。

UI 要素	説明
次を含める	次を含めることができます。 • **アクティビティ**(ビジネス・モデル・モジュールからのみ利用可能) • **添付** • **デザイン・ステップ**(テスト計画モジュールからのみ利用可能) • **履歴** • **リンク**(ビジネス・モデル・モジュールからのみ利用可能) • **パス**(ビジネス・モデル・モジュールからのみ利用可能) • **スナップショット**(ビジネス・モデル・モジュールからのみ利用可能) • **テスト・カバレッジ**(要件モジュールからのみ利用可能) • **追跡済み要件**(要件モジュールからのみ利用可能) • **実行ステップ**: 次からのみ利用可能 ▪ テスト・ラボ・モジュール。 ▪ 実行が不具合にリンクされている場合，不具合モジュールの[リンクされたエンティティ]タブ。 • **実行**: 次からのみ利用可能 ▪ テスト・インスタンス用テスト・ラボ・モジュール。 ▪ テスト・インスタンスが不具合にリンクされている場合，不具合モジュールの[リンクされたエンティティ]タブ。 **注:** • 上記の項目のいずれか1つが実行対象として選択されるとすぐに，**パラメータ**も電子メールに含められます。ただし，エンティティに対してパラメータが存在し，そのパラメータに値があることが条件です。 • [**次を含める**]オプションは，テスト・リソース・モジュールからは利用できません。
追加コメント	電子メールに関するコメントを追加できます。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
送信	指定した配布リストに電子メールを送信します。

[添付]ページ

このページでは，添付ファイルを ALM レコードに追加して管理できます。ファイル，URL，アプリケーションのスナップショット，クリップボードのアイテム，またはシステム情報を添付できます。



アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ツールバーの[**添付**]ボタン をクリックします。 • ダイアログ・ボックスのサイドバーの[**添付**]ボタンをクリックします。 • [**添付**]タブをクリックします。
重要な情報	添付ファイルを追加すると，添付ファイル・アイコンがレコードに追加されます。アイコンをクリックすると添付ファイルの一覧が表示されます。
関連タスク	「添付ファイルの変更方法」(66ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

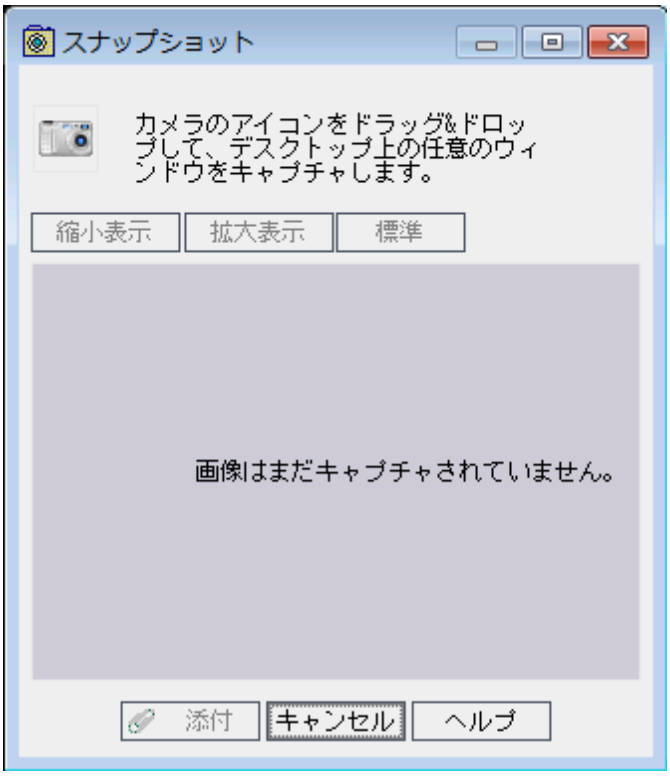
UI 要素	説明
	ファイル: [開く]ダイアログ・ボックスが開き，ファイルを ALM レコードに添付できます。 **ヒント**: 添付ファイルとして電子メールをレコードに追加するには，デスクトップ上で電子メールを保存し，[開く]ダイアログ・ボックスを使用して追加します。

UI 要素	説明
	URL: [URL の添付] ダイアログ・ボックスが開き，URL を ALM レコードに添付できます。HTTP，FTP，Gopher，News，Mailto，または File など，有効な任意の URL スキームを添付 URL に使用できます。
	スナップショット: [スナップショット] ダイアログ・ボックスが開き，アプリケーションの画像を ALM レコードに添付できます。詳細については，「[スナップショット] ダイアログ・ボックス」(96ページ) を参照してください。 スナップショットの添付ファイルには，拡張子 **.jpg** が割り当てられます。
	システム情報: [システム情報] ダイアログ・ボックスが開き，自分のマシンのシステム情報を ALM レコードに添付できます。 システム情報の添付ファイルには，拡張子 **.tsi** が割り当てられます。
	クリップボード: クリップボードの内容を ALM レコードに添付します。 クリップボードにテキスト文字列または画像をコピーして，[**クリップボード**] ボタンをクリックします。テキスト文字列には，拡張子 **.txt** が割り当てられます。画像には，拡張子 **.jpg** が割り当てられます。
開く	**ダウンロードして開く**: 選択した添付ファイルをクライアント・マシンのローカル・ディレクトリにダウンロードし，関連付けられたアプリケーションで開きます。開いた添付ファイルは表示または変更ができます。
アップロード	**選択項目のアップロード**: 添付ファイルを ALM プロジェクトにアップロードします。詳細については，「添付ファイルの変更方法」(66ページ) を参照してください。
名前を付けて保存...	**添付の保存**: 選択した添付ファイルのコピーをクライアント・マシンに保存します。 **注**: 新規エンティティに添付ファイルを追加するときには使用できません。
削除	**選択項目の削除**: 選択した添付ファイルを削除します。複数の添付ファイルを選択するには，CTRL キーを使用します。
	すべて更新: ページ上の添付ファイルのリストを更新します。
名前	添付ファイルの名前。添付ファイルに関連付けられているアプリケーションのアイコンが，名前の横に表示されます。添付ファイルの名前を変更するには，右クリックして**名前の変更**を選択します。
サイズ	添付ファイルのサイズ。
更新日時	添付ファイルが最後に変更された日時。

UI 要素	説明
説明	添付ファイルの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

[スナップショット] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，アプリケーションの画像をキャプチャして，ALM レコードに添付できます。



アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • [添付ファイル] ページで，[**スナップショット**] ボタン をクリックします。 • ビジネス・コンポーネント・モジュールで，[スナップショット] タブをクリックし，[**スナップショット**] ボタン をクリックします。

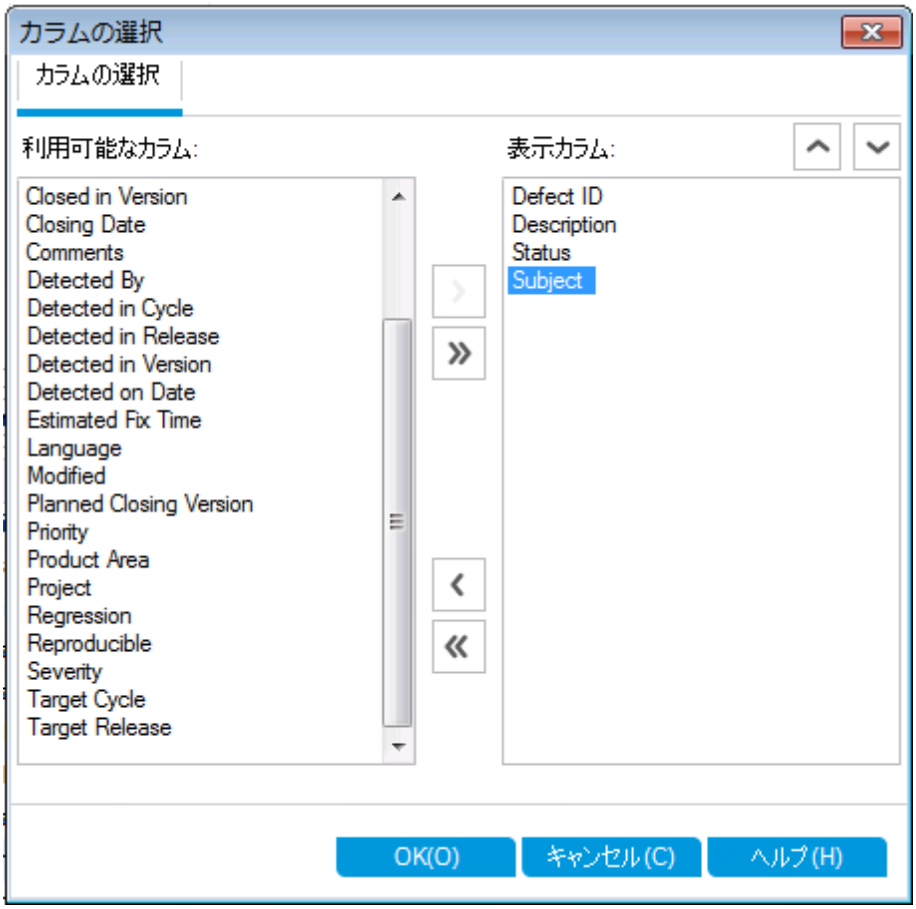
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	キャプチャ対象オブジェクトに，カメラ・アイコンをドラッグします。
縮小表示	キャプチャした画像の表示倍率レベルを縮小します。
拡大表示	キャプチャした画像を拡大表示します。
標準	キャプチャした画像のオリジナルの表示倍率レベルに復元します。
<画像領域>	キャプチャした画像が表示されます。
添付	スナップショットを ALM レコードに追加します。

[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス

[カラムの選択]ダイアログ・ボックスでは，ALM に表示するカラムとその順序を指定できます。

[フィールドの選択]ダイアログ・ボックスでは，ほかのユーザにエンティティに関する電子メールを送信する際に表示するフィールドを指定できます。



アクセス方法	**[カラムの選択]ダイアログ・ボックス:** 次のいずれかを実行します。 • [**表示**] > [**カラムの選択**]を選択します。 • 実行グリッドで, [**テスト**] > [**カラムの選択**]を選択します。 **[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス:** [電子メールの送信]ダイアログ・ボックスで, [**カスタム**]ボタンをクリックします。
重要な情報	ALM のエディション: 一部のフィールドおよび機能は, ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については, 「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(62ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
タイプ	[**利用可能なカラム**]リストで, 選択したテスト・タイプに関係するテスト・フィールドを表示します。 **注:** テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールでのみ利用可能です。
要件タイプ	[**利用可能なカラム**]リストで, 選択した要件タイプに関係する要件フィールドを表示します。 **注:** 要件モジュールでのみ利用可能です。
リスク・ベース品質管理のフィールドを隠す	[**利用可能なカラム**]リストで, リスク・ベース品質管理に関係する要件フィールドを非表示にします。 **注:** 要件モジュールでのみ利用可能です。
利用可能なカラム	現在表示されていないカラムのリストが表示されます。

UI 要素	説明
タイプ	[**利用可能なカラム**]リストで，選択したテスト・タイプに関係するテスト・フィールドを表示します。 **注:** テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールでのみ利用可能です。
要件タイプ	[**利用可能なカラム**]リストで，選択した要件タイプに関係する要件フィールドを表示します。 **注:** 要件モジュールでのみ利用可能です。
› ‹	選択したフィールドを，**利用可能なカラム**と**表示カラム**の間で移動します。 **ヒント:** 表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり，フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。
» «	すべてのフィールドを，**利用可能なカラム**と**表示カラム**の間で移動します。
表示カラム	現在表示されているカラムのリストが表示されます。 **注:** アイコンが表示されているカラムは，[**表示カラム**]リストから削除できません。
^ v	**表示カラム**に表示されるカラム名の順序を設定します。 **ヒント:** カラム名をドラッグして上または下に移動することもできます。

[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，グリッドまたはツリーで複数のレコードのフィールド値を更新できます。

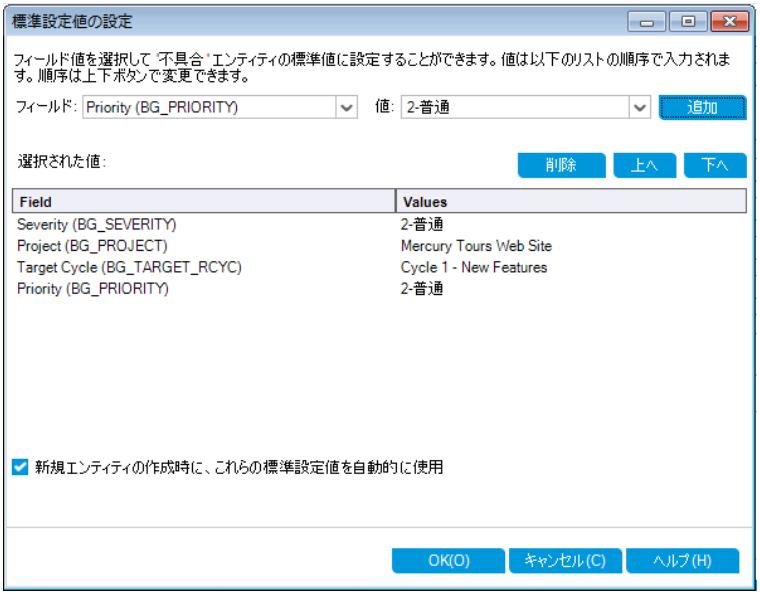
アクセス方法	選択した複数のレコードを右クリックして，[**選択項目の更新**]を選択します。 **利用可能なモジュール:** 要件，テスト計画(テスト・グリッドのみ)，テスト・ラボ([実行グリッド]タブ)，ビルド検証，不具合
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(67ページ)
参照情報	「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
次のフィールドを更新	更新するフィールドを示します。 **バージョン管理**:フィールドがバージョン管理されていない場合(つまり，フィールドのデータがバージョンごとには保存されていない場合)は，[**次のフィールドを更新**]リストで，フィールド名のプレフィックスとしてアスタリスク(*)が表示されます。バージョン管理されていないエンティティに対して**選択項目の更新**操作を行う場合，チェックアウト操作は省略されます。フィールドをバージョン管理する/しないように設定する処理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
値	選択したフィールドの置換後の値。
更新	更新された値の数と，値が更新されなかったインスタンスの数を示します。

[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト，テスト設定，不具合を新規に定義するときの特定のフィールドに対して標準設定値を設定できます。



アクセス方法	次のダイアログ・ボックスで 標準設定値の設定 をクリックします。 ● [新規テスト]ダイアログ・ボックス ● [新規テスト設定]ダイアログ・ボックス ● [新規不具合]ダイアログ・ボックス **利用可能なモジュール**: テスト計画と不具合
重要な情報	● ユーザは各エンティティに対して独自の標準設定値を設定します。 標準設定値は, モジュールとは関係なく, エンティティに対して設定されます。たとえば, 不具合モジュールで作成される不具合と, テスト計画モジュールで作成される不具合で, 同じ標準設定値が使用されます。 ● 標準設定値をクリアするには, [**編集**] > [**標準設定値のクリア**]を選択します。 ● ユーザあたりのモジュールごとに標準設定されたフィールドの値サイズは, 5K に制限されています。 ● 別の(プライマリ)フィールドの値によって, 特定の(セカンダリ)フィールドに対して異なるフィールド・リストを使用するように指定できるワークフローをプロジェクトに含めることができます。この場合, [標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスでリストにフィールドを追加する順序が重要になります。最初にプライマリ・フィールド, 次にセカンダリ・フィールドをリストに追加します。(フィールドは必要に応じて並べ替えることもできます。)これにより, セカンダリ・フィールドで表示される可能性のある標準設定値のリストは, 選択したプライマリ・フィールド値と定義済みのワークフロー・ルールに従って有効になります。 ワークフローおよびフィールド値とリスト間の依存関係の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フィールド	標準設定値を設定するフィールドを示します。 下向き矢印をクリックすると，標準設定値を指定できるフィールドのドロップダウン・リストを表示できます。 **ヒント:** ALM では，すべてのフィールドに対する標準設定値の設定をサポートしていません。また，特定のフィールドを読み取り専用または非表示に設定するように，イベント(**fieldChange** または **fieldCanChange** など)に基づいたワークフロー・ルールを定義できます。標準設定値を設定できないフィールド，読み取り専用フィールド，非表示フィールドは，ドロップダウン・リストには表示されません。
値	選択したフィールドの標準設定値。 メモ・フィールド，日付フィールド，ユーザ定義リストのあるフィールドでは，下向き矢印をクリックするとウィンドウが開き，テキストの入力やリストからの値の選択ができます。
追加	**フィールド**と**値**の各値をグリッドに追加します。 **ヒント:** リストにすでに追加されたフィールドの標準設定値を変更するには，再度そのフィールドの標準設定値を追加します。フィールドの元の標準設定値を上書きすることを確認するメッセージが表示されます。
削除	選択したフィールドとその値をグリッドから削除します。
上へ/下へ	選択したフィールドとその値をグリッド内で上または下に移動します。 **注:** リスト内でフィールドを並べ替えると，各フィールドで表示される可能性のある標準設定値のリストが使用できるようになり，定義済みのワークフロー・ルールに従って有効となります。
選択された値	標準設定値を設定するフィールドをリストするグリッド。 グリッド内でフィールドを並べ替えると，各フィールドで表示される可能性のある標準設定値のリストが使用できるようになり，定義済みのワークフロー・ルールに従って有効となります。詳細については，「重要な情報」(101ページ)を参照してください。
新規エンティティの作成時に，これらの標準設定値を自動的に使用	このオプションをオンにすると，エンティティを新規作成する際に，そのエンティティのフィールドの標準設定値が自動的に読み込まれます。 このオプションをオフにすると，標準設定値は自動的には読み込まれません。標準設定値を使用するには，エンティティの作成時に[**標準設定値の使用**]ボタンをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト]ダイアログ・ボックス」(412ページ)，「[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(472ページ)，または「[新規不具合]ダイアログ・ボックス」(764ページ)を参照してください。

固定項目パネル

このパネルでは，固定された ALM 項目を表示できます。

アクセス方法	ALM ウィンドウの右側の[**固定項目**]の上にマウスを置きます。
重要な情報	固定項目は使用しているモジュールに関係なく表示されます。たとえば，テスト・モジュールを使用していても不具合を表示できます。
参照情報	「固定項目の概要」(120ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
固定項目	固定項目が含まれています。項目へのリンクをクリックすると，項目にジャンプできます。
	パネルを固定できます。

第4章: 警告およびフラグ

本章の内容

警告の概要 106
フォローアップ・フラグの概要 107
警告の使用方法 108
警告およびフラグのユーザ・インタフェース 109

警告の概要

要件，テスト，または不具合に変更があった場合に，HP Application Lifecycle Management(ALM)では関連するエンティティを警告し，関連するエンティティの担当者に通知できます。プロジェクト管理者は，要件，テスト，不具合の間で作成した関連に基づいて，警告ルールをアクティブ化できます。ALMにおける警告ルールは，ユーザが作成する次の関連付けに基づいて設定されます。

- テスト計画ツリー内のテストと要件を関連付けることができます。この関連付けは，テスト計画モジュールで**要件カバレッジ**を作成するか，または要件モジュールで**テスト・カバレッジ**を作成することによって行います。詳細については，「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ)を参照してください。

- テスト・インスタンスと不具合を関連付けることができます。この関連付けは，テスト計画モジュールで**リンクされている不具合**を作成するか，または手動テスト実行時に不具合を追加することによって行います。詳細については，「不具合のリンク」(748ページ)を参照してください。

- 要件モジュールで，要件間の**トレーサビリティ・リンク**を作成できます。詳細については，「要件トレーサビリティの概要」(288ページ)を参照してください。

プロジェクト内に関連付けを作成すると，関連付けを使用して変更を追跡できます。プロジェクト内のエンティティに変更が加えられると，その変更の影響を受ける可能性のある，関連付けられているエンティティが警告されます。警告は，すべてのユーザが見ることができます。また，変更の影響を受ける可能性のあるエンティティがあると，そのエンティティの担当者に通知が送られます。

ツリー・ビューまたはグリッド・ビューの[警告]カラムで，警告フラグが示す内容は次のとおりです。

- 赤の警告フラグ は，新規の警告であることを表します。

- グレーの警告フラグ は，既読の警告であることを表します。

バージョン管理：ALMは，新しいバージョンがチェックインされたときにのみ関連エンティティに関する警告を発します。警告は，バージョン・ステータスが**チェックイン**に変化したことを示します。どのフィールドが変更されたかは表示されません。次に，新しいバージョンを以前のバージョンと比較できます。バージョンの比較の詳細については，「[バージョン]タブ」(136ページ)を参照してください。

> **注：**エンティティがチェックアウトされている間，バージョン管理されていないフィールドへの変更により引き続き通常の警告が生成され，変更されたフィールドを示します。バージョン管理されていないフィールドの詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。

ALM プロジェクト管理者は，次に示す4種類の警告ルールを有効にできます。

ルール	説明	フラグの立てられたエンティティ	電子メールで通知されるユーザ
1	要件が変更されると，関連するテストが警告されます。 **注：**要件に対する変更は，[**直接カバレッジ ステータス**]フィールドおよびリスク・ベース品質管理フィールドに対する変更を除く，すべての変更が対象となります。	要件をカバーするテスト。	テスト設計者。
2	不具合ステータスが「修正済み」に変更された場合に，関連するテスト・インスタンスが警告されます。	不具合に関連するテスト・インスタンス。	テスト・インスタンスのテスト担当者。
3	テストの実行が成功した場合（ステータスが「成功」に変更），リンクされている不具合が警告されます。	テスト実行にリンクされている不具合。	不具合に割り当てられているユーザ。
4	要件が変更または削除される場合，トレース終了要件および子要件が警告されます。	要件の子要件およびトレース終了要件。	要件の作成者。

[プロジェクト カスタマイズ]における警告ルールの有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

警告の使用の詳細については，「警告の使用方法」（108ページ）を参照してください。

フォローアップ・フラグの概要

フォローアップ・フラグを特定の要件，テスト，テスト・インスタンス，または不具合に追加して，問題をフォローアップすることができます。たとえば，1週間以内にステータスを確認する必要がある不具合があれば，そのことを忘れないようフォローアップ・フラグを設定できます。

フォローアップ・フラグを追加すると，灰色のフラグのアイコンがレコードに追加されます。フォローアップ処理の設定日が到来すると，ALM によって電子メールによる通知が送信され，フラグのアイコンは赤色に変わります。

フォローアップ・フラグは，ユーザのログイン名に固有のものです。フォローアップ・フラグは，いつでも開いて詳細を確認または変更できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」（111ページ）を参照してください。

警告の使用方法

このタスクでは，自動通知警告を使用して，要件，テスト，不具合に対する変更を追跡する方法を説明します。

警告の詳細については，「警告の概要」(106ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(108ページ)
- 「警告の表示」(108ページ)
- 「警告のクリア」(108ページ)

1. **前提条件**

   プロジェクトの警告ルールがアクティブ化されていることを確認します。プロジェクト管理者によってアクティブ化された警告ルールにより，プロジェクトへの変更が発生した際に，ALM から担当者に通知の電子メールが送信されます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. **警告の表示**

   単一レコード，またはモジュール内の全レコードの警告を表示します。

   - **レコードの警告の表示**：ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで，［警告］カラムの**警告**フラグをクリックします。このカラムが表示されていない場合は，［**表示**］＞［**インジケータ カラム**］を選択します。［警告］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［警告］ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。

   - **モジュールの警告の表示**：選択したモジュールのすべての警告のリストを表示するには，［**フィルタ**］ダイアログ・ボックス＞［**クロス フィルタ**］タブで，［**＜エンティティ＞を警告とともに表示**］オプションを選択します。［フィルタ］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［フィルタ］ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

3. **警告のクリア**

   単一レコード，またはモジュール内の全レコードの警告をクリアします。

   - **レコードの警告のクリア**：［警告］ダイアログ・ボックスでは，選択したレコードに対して，個々の警告またはすべての警告をクリアできます。

     - 単一の警告をクリアするには，その警告の［**警告のクリア**］をクリックします。
     - レコードのすべての警告をクリアするには，［**すべてクリア**］ボタンをクリックします。

     ［警告］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［警告］ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。

   - **モジュールの警告のクリア**：ALM モジュールのすべてのレコードに関連付けられているすべての

警告をクリアできます。

- 要件，テスト計画，または不具合モジュールで，[**編集**]＞[**警告のクリア**]を選択します。
- テスト・ラボ・モジュールで，[**テスト**]＞[**警告のクリア**]を選択します。

現在のフィルタに一致するレコードに関連付けられている警告だけがクリアされます。また，クリアできるのは，自身に割り当てられている警告と，ユーザに割り当てられていない警告だけです。警告が割り当てられているユーザとは，警告の発生時に電子メール通知を受信するユーザのことです。このユーザは警告に対する[警告]ダイアログ・ボックスに表示されます。警告ルールおよび電子メール通知が送信されるユーザの詳細については，「警告の概要」(106ページ)を参照してください。

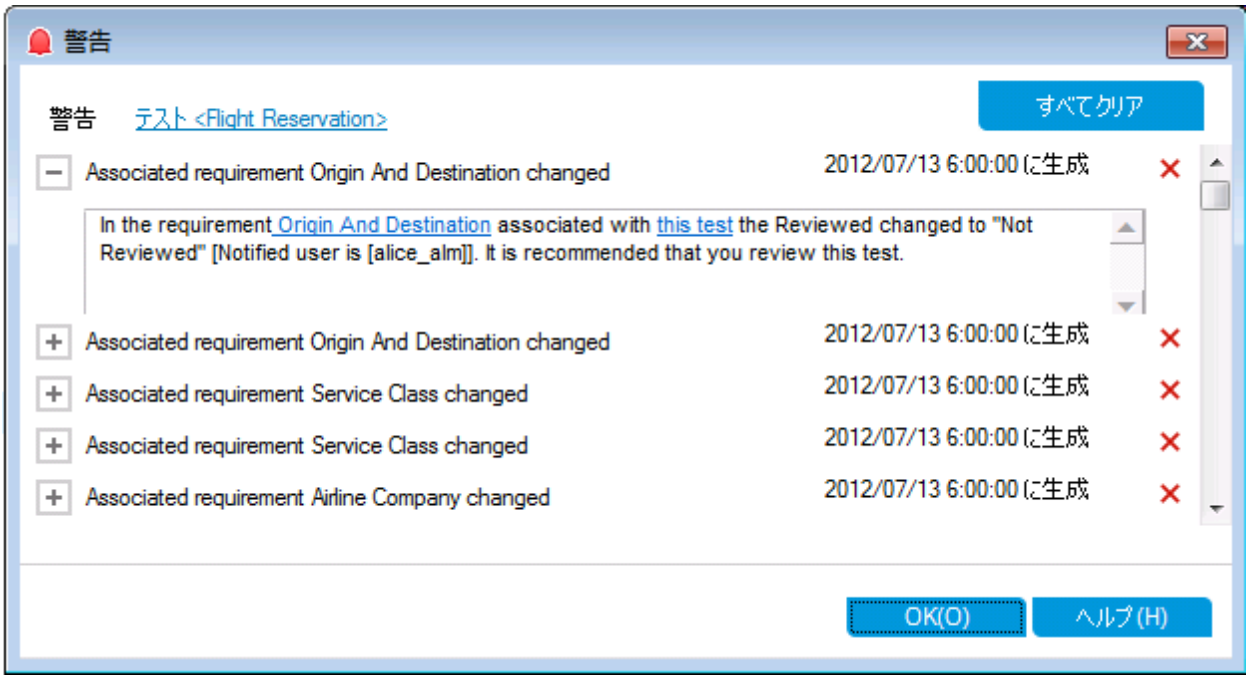
警告およびフラグのユーザ・インタフェース

本項の内容

[警告]ダイアログ・ボックス 109
[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス 111

[警告]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，選択したレコードの警告のリストを表示できます。



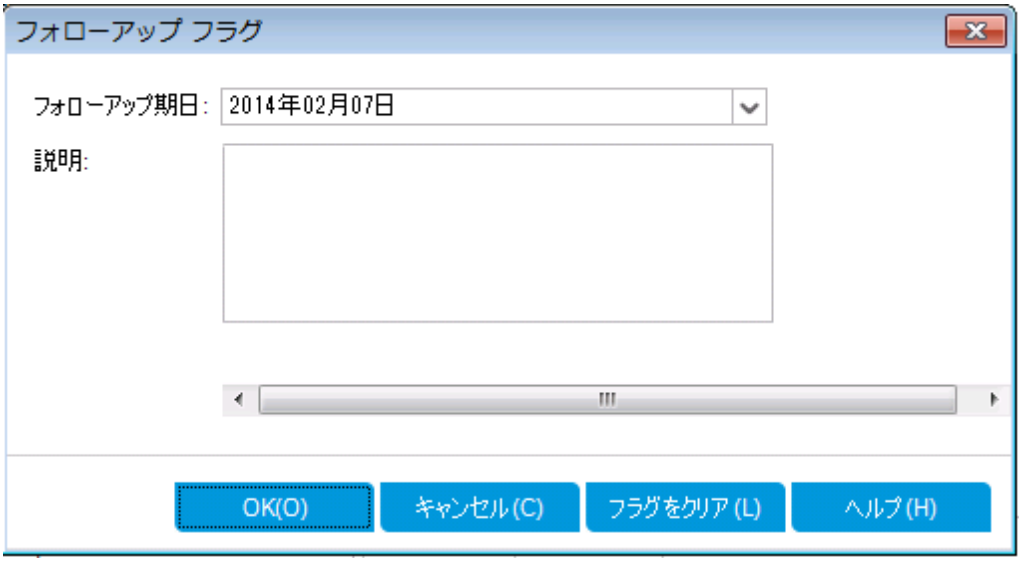
アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで，［警告］カラムの**警告**フラグをクリックします。このカラムが表示されていない場合は，［**表示**］＞［**インジケータ カラム**］を選択します。 • エンティティを右クリックし，［**警告**］を選択します。 利用可能な場所： • 要件 • テスト計画モジュールのテスト • 実行グリッドのテスト・インスタンス • 不具合
重要な情報	クリアできるのは，自身に割り当てられている警告と，いずれのユーザにも割り当てられていない警告だけです。警告が割り当てられているユーザとは，警告の発生時に電子メール通知が送信されるユーザのことです。詳細については，「警告の概要」(106ページ) を参照してください。
関連タスク	「警告の使用方法」(108ページ)
参照情報	「警告の概要」(106ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
すべてクリア	レコードのすべての警告を削除します。
☒	**警告のクリア**: 特定の警告を削除します。
<警告詳細の表示枠>	選択したレコードの警告のリストを表示します。 警告を展開して，警告のトリガとなった変更の詳細を表示します。 リンクをクリックすると，ツリーまたはグリッドでその項目が強調表示されます。
<選択したレコード>	選択したレコードのタイプと名前を表示します。たとえば，「**要件 <Travel Guides> の警告**」などです。

［フォローアップ フラグ］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，問題をフォローアップするフォローアップ・フラグの作成，表示，変更ができます。



アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • レコードを右クリックし，**フォローアップ・フラグ**を選択します。 • 既存のフラグを表示または変更するには，次の手順を実行します。ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで，［フォローアップ フラグ］カラムのフラグ・アイコンをクリックします。このカラムが表示されていない場合は，［**表示**］＞［**インジケータ カラム**］を選択します。 利用可能な場所： • 要件 • テスト計画モジュールのテスト • 実行グリッドのテスト・インスタンス • 不具合
参照情報	「フォローアップ・フラグの概要」(107ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フォローアップ期日	ALM からフォローアップ電子メールが送信される日付。

UI 要素	説明
説明	ALM から送信されるフォローアップ電子メールの通知テキスト。
フラグをクリア	フォローアップ・フラグを削除します。

第5章: お気に入りビュー

本章の内容

お気に入りビューの概要 114
お気に入りビューの使用方法 114
お気に入りビューのユーザ・インタフェース 116

お気に入りビューの概要

特定の設定を選択することにより，HP Application Lifecycle Management(ALM)ウィンドウの表示方法を指定できます。たとえば，グリッドのカラムへのフィルタの適用，グリッドのフィールドのソートなどの設定があります。このビューを[**お気に入りビュー**]として保存し，後で再ロードおよび再使用ができます。

ほかのユーザがお気に入りビューにアクセスできるかどうかを，公開フォルダまたは非公開フォルダのいずれかに保存することによって決定します。**公開**フォルダ内のビューには，すべてのユーザがアクセスできます。**非公開**フォルダ内のビューには，その作成者だけがアクセスできます。

サブフォルダを作成して，お気に入りビューを整理できます。たとえば，異なる製品，リリース，チームごとのフォルダを作成できます。

お気に入りビューを使って作業する場合は，次の点を考慮します。

- お気に入りビューは，ビューが作成されるモジュールに対して一意です。たとえば，不具合モジュール内の[お気に入り]メニューには，不具合モジュールに対して作成されたお気に入りビューのみが含まれます。

- お気に入りビューには，グリッド・ビューやツリー・ビューなど，お気に入りビューを作成した際のモジュール・ビュー設定が含まれます。たとえば，お気に入りビューをテスト計画ツリー・ビューで作成し，そのお気に入りをテスト・グリッド・ビューからロードした場合，ALMはテスト計画ツリー・ビューに切り替えられます。

  これに対し，要件グリッド・ビューを除く要件モジュール・ビューでは，お気に入りビューが共有されます。たとえば，お気に入りビューを要件の詳細ビューで作成し，そのお気に入りをカバレッジ・アナリシス・ビューでロードした場合は，要件の詳細ビューには切り替えられません。

一部のお気に入りビュー・コマンドには，特定のユーザ・グループのみがアクセスできます。ユーザ・グループ権限の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

お気に入りビューの使用の詳細については，「お気に入りビューの使用方法」(114ページ)を参照してください。

お気に入りビューの使用方法

このタスクでは，ALMプロジェクトでお気に入りビューを使用して作業する方法を説明します。

お気に入りビューの詳細については，「お気に入りビューの概要」(114ページ)を参照してください。

お気に入りビューの使用方法に関するムービーを表示するには，ALMオンライン・ヘルプの本項を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「お気に入りビューの追加」(115ページ)

- 「お気に入りビューのロード」(115ページ)

- 「お気に入りビューの更新」(115ページ)
- 「お気に入りビューの整理」(115ページ)

お気に入りビューの追加

ニーズに合わせてALMウィンドウの配列を変更し，お気に入りビューとして保存します。

1. 特定の設定を選択することにより，ALMウィンドウの表示方法を指定できます。たとえば，グリッドのカラムへのフィルタの適用，グリッドのフィールドのソートなどが行えます。ALMデータの表示に関するタスクの詳細については，「ALMのデータの表示方法」(62ページ)を参照してください。

2. ［**お気に入り**］＞［**お気に入りに追加**］を選択します。［追加 お気に入り］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［追加 お気に入り］ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。

お気に入りビューのロード

最近使用したお気に入りビューを選択するか，公開フォルダまたは非公開フォルダからビューを選択することによって，ALMで既存のビューをロードします。

- **最近使用したお気に入りビューのロード**：［**お気に入り**］メニューを開いてビューを選択します。

> **注：**標準設定では，最近使用したビューが4つ［**お気に入り**］メニューに表示されます。「サイト管理」の［サイト設定］タブで**FAVORITES_DEPTH**パラメータを設定することによって，メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- **お気に入りビューのロード**：［**お気に入り**］＞［**非公開**］または［**お気に入り**］＞［**公開**］を選択し，ビューを選択します。

お気に入りビューの更新

既存のお気に入りビューの設定を更新できます。

1. ［**お気に入り**］メニューからお気に入りビューを読み込みます。

2. ビューに変更を加えます。

3. ［**お気に入り**］＞［**お気に入りに追加**］を選択します。［追加 お気に入り］ダイアログ・ボックスが開きます。

4. ［お気に入り］リストで，ビュー名を選択して［**OK**］をクリックします。

5. 以前の設定を上書きするには，［**OK**］をクリックします。

お気に入りビューの整理

非公開または公開フォルダのお気に入りビューの整理や，使用されていないビューの削除ができます。メニュー・バーで，［**お気に入り**］＞［**お気に入りの整理**］を選択します。［整理 お気に入り］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［整理 お気に入り］ダイアログ・ボックス」

(117ページ)を参照してください。

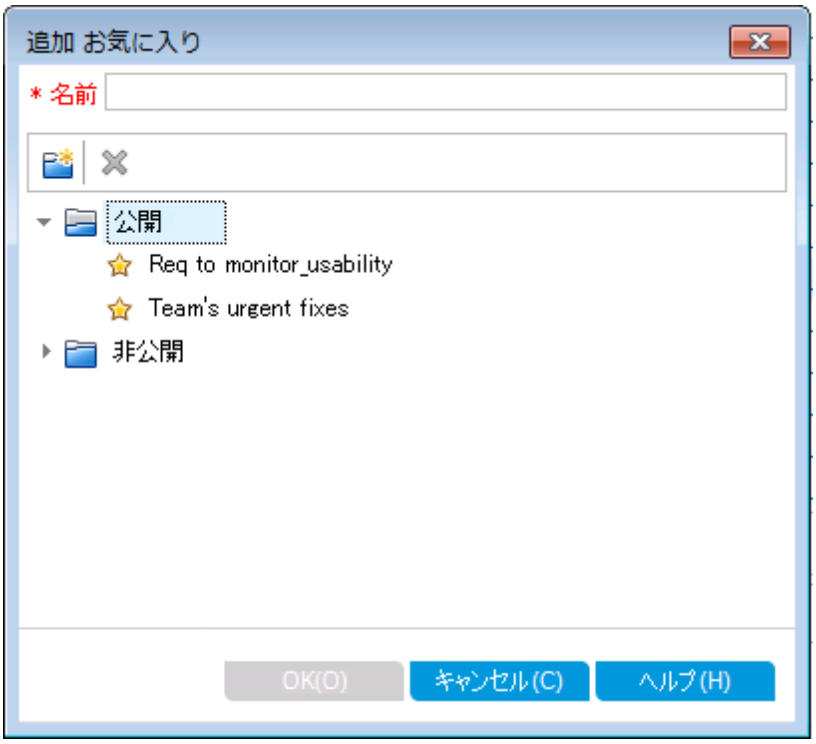
お気に入りビューのユーザ・インタフェース

本項の内容

[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス 116
[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス 117

[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，お気に入りビューを非公開フォルダまたは公開フォルダに追加できます。



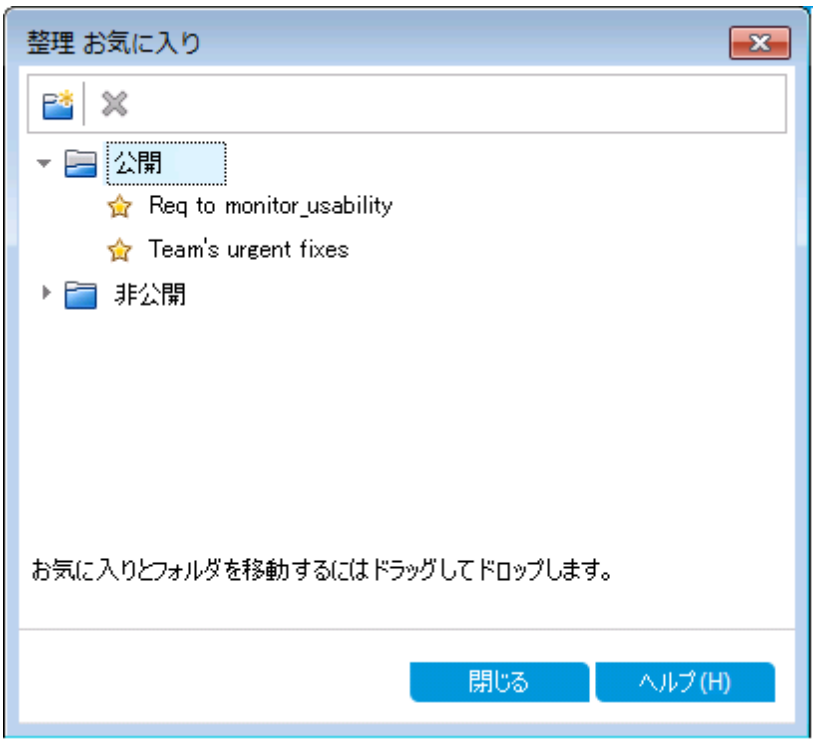
アクセス方法	メニュー・バーで，[**お気に入り**]＞[**お気に入りに追加**]を選択します。 利用可能なモジュール: 要件モジュール，テスト計画モジュール，テスト・ラボ・モジュール，不具合モジュール
関連タスク	「お気に入りビューの使用方法」(114ページ)
参照情報	「お気に入りビューの概要」(114ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	お気に入りビューの名前。
	新規フォルダ：[新規お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。
	削除：選択したお気に入りまたはフォルダを削除します。お気に入りフォルダを削除すると，そのサブフォルダやお気に入りビューも削除されます。
非公開	このフォルダのお気に入りビューには，作成者のみがアクセスできます。[**非公開**]フォルダは削除できません。
公開	このフォルダのお気に入りビューには，プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。[**公開**]フォルダは削除できません。

[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，非公開フォルダおよび公開フォルダのお気に入りビューのリストを整理できます。



アクセス方法	メニュー・バーで，[**お気に入り**]＞[**お気に入りの整理**]を選択します。 利用可能なモジュール：要件モジュール，テスト計画モジュール，テスト・ラボ・モジュール，不具合モジュール

重要な情報	お気に入りビューをドラッグ・アンド・ドロップして，フォルダ間で移動できます。 **注：**非公開フォルダおよび公開フォルダ間では，お気に入りビューをドラッグ・アンド・ドロップすることはできません。
関連タスク	「お気に入りビューの使用方法」(114ページ)
参照情報	「お気に入りビューの概要」(114ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規フォルダ：[新規お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。
	削除：選択したお気に入りまたはフォルダを削除します。お気に入りフォルダを削除すると，そのサブフォルダやお気に入りビューも削除されます。
非公開	このフォルダのお気に入りビューには，作成者のみがアクセスできます。[**非公開**]フォルダは削除できません。
公開	このフォルダのお気に入りビューには，プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。[**公開**]フォルダは削除できません。
名前の変更	お気に入りビューまたはフォルダを右クリックし，[**名前の変更**]を選択します。[**非公開**]フォルダや[**公開**]フォルダの名前は変更できません。

第6章: 固定項目

本章の内容

固定項目の概要 120
固定項目パネル 120

固定項目の概要

どのモジュールを使用している場合も，要件，テスト計画，不具合を固定してその項目にすばやくジャンプできます。

例

プログラム・マネージャが特定の要件の実装を監視したいと考えているとします。特定の要件を固定すると，要件モジュールを開いて検索しなくても，ALM 内のどのモジュールからもすばやくこの要件にアクセスできます。

ALM では，どのプロジェクトに対しても最大 10 項目まで固定できます。

項目を固定すると，次のようになります。

- 項目は**固定項目**パネルに表示されます。
- グリッドまたはツリー・ビュー内で固定した項目を選択すると，ツールバーの[**固定/固定解除**]ボタン が「押された状態」で表示されます。

注：固定された項目は，ユーザのログイン名に固有のものです。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「固定項目パネル」(120ページ)を参照してください。

固定項目パネル

このパネルでは，固定された ALM 項目を表示できます。

アクセス方法	ALM ウィンドウの右側の[**固定項目**]の上にマウスを置きます。

重要な情報	固定項目は使用しているモジュールに関係なく表示されます。たとえば，テスト・モジュールを使用していても不具合を表示できます。
参照情報	「固定項目の概要」(120ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
固定項目	固定項目が含まれています。項目へのリンクをクリックすると，項目にジャンプできます。
	パネルを固定できます。

第7章: バージョン管理

本章の内容

バージョン管理の概要 124
バージョン管理の使用方法 125
バージョン管理フィールドによるフィルタ処理の方法 128
バージョン管理されないフィールド 128
チェックアウトされたエンティティの移動，コピー，削除 129
バージョン管理のユーザ・インタフェース 129

バージョン管理の概要

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでは，HP Application Lifecycle Management(ALM)エンティティを作成および管理しながら，これらのエンティティの以前のバージョンを維持できます。これには，要件，テスト，テスト・リソース，ビジネス・プロセス・モデル，ビジネス・コンポーネントが含まれます。

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加えるには，最初にエンティティをチェックアウトする必要があります。エンティティをチェックアウトすると，ALMによりエンティティがロックされ，加えた変更をほかのユーザが上書きするのを防ぐことができます。エンティティのチェックアウトしたバージョンは，ほかのユーザには表示されません。

変更を加え終わったら，エンティティをチェックインします。これで，エンティティの新しいバージョンを，ほかのユーザが利用できるようになります。

エンティティの以前のバージョンをすべて表示したり，または以前のバージョンをチェックアウトしたりできます。また，エンティティの2つのバージョンを比較してバージョン間の変更内容を表示できます。

注： バージョン管理は，単一エンティティにのみ適用されます。ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために，ALMでは，ほとんどのデータがエンティティ間の関係に関係なく，エンティティの以前のバージョンが保存されます。エンティティがチェックインされると，個別のエンティティのデータのみが格納されます。要件およびテスト・カバレッジ，要件トレーサビリティ，および不具合のリンクのデータは，バージョンについては保存されません。また，リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。

ベースラインによって，エンティティ・セットのスナップショットとそれらのエンティティ間の関係が示されます。詳細については，「ベースラインの概要」(207ページ)を参照してください。

バージョン管理が有効なプロジェクトで，エンティティを作成し，管理できます。現在のユーザによってチェックアウトされたエンティティは，開いた緑色の鍵のアイコンで表示されます。ほかのユーザによってチェックアウトされたエンティティは，赤色の鍵のアイコンで表示されます。グリッド・ビューには，[バージョンのステータス]など追加のバージョン管理フィールドが表示され，エンティティがチェックインされているか，チェックアウトされているかを示します。

バージョン管理で保存されないALMフィールドの詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。

バージョン管理の使用方法の詳細については，「バージョン管理の使用方法」(125ページ)を参照してください。

例

次の例は，バージョン管理を使用できるタイミングを示します。

- **変更内容の監視とバージョンの比較**

  製品マネージャのKellyは，予期していない方法で製品開発が行われていることに気づきました。彼女は，製品の要件を確認して一部が変更されていることを見つけます。彼女は，現在の要件をリリースの最初に合意した要件のバージョンと比較します。

- **前バージョンの復元**

QA テスト担当者の Michael は，現在開発中の銀行用アプリケーションの新しいビルドを受け取ります。彼は，新しいリリースのニーズを満たすために関連するテストの更新を開始します。この段階で，開発チームからビルドに関する重要な問題について通知がありました。開発は以前のビルドにロールバックされることになります。Michael は，チェックアウトして以前のビルドに使用したテストのバージョンに戻し，そこからテストを続けることを決定します。

- **編集のためのエンティティのロック**

  ビジネス・アナリストの Robert は，あるアプリケーションの特定の機能を更新したいと考えています。このためには，一連の要件を更新する必要があります。要件を更新するのに必要な数日の間，ほかのユーザに要件を変更してほしくないと考えています。Robert は関連する要件をチェックアウトして編集を開始します。

バージョン管理の使用方法

このタスクでは，ALM プロジェクトでバージョン管理を使用して作業する方法を説明します。バージョン管理により，ALM エンティティを作成および管理しながら，これらのエンティティの以前のバージョンを維持できます。

バージョン管理の詳細については，「バージョン管理の概要」(124ページ)を参照してください。

注： バージョン管理機能は，要件，ビジネス・モデル，テスト計画，ビジネス・コンポーネント，テスト・リソースの各モジュールで利用できます。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(125ページ)
- 「エンティティのチェックアウト」(125ページ)
- 「チェックアウトの取り消し - オプション」(126ページ)
- 「エンティティのチェックイン」(126ページ)
- 「すべてのチェックアウト済みエンティティの表示 - オプション」(126ページ)
- 「バージョン履歴へのアクセス」(127ページ)
- 「チェックアウトされたエンティティのコピー，移動，削除」(127ページ)

1. **前提条件**

   バージョン管理が有効になっていることを確認します。バージョン管理の有効化に関する詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. **エンティティのチェックアウト**

   バージョン管理を有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加えるには，エンティティをチェック

アウトする必要があります。

次のいずれかを実行します。

- **自動チェックアウト**：エンティティの編集を開始すると，ALM の[チェックアウト]ダイアログ・ボックスが表示され，エンティティをチェックアウトできます。

  [チェックアウト]ダイアログ・ボックスを表示せずに編集を開始したエンティティを自動的にチェックアウトするように ALM を設定するには，[チェックアウト]ダイアログ・ボックスで[**次回から表示しない**]を選択します。

- **手動チェックアウト**：1 つ以上のエンティティを選択します。モジュール・ツールバーで，[**チェックアウト**]をクリックします。

[チェックアウト]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[チェックアウト]ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。

3. **チェックアウトの取り消し - オプション**

   エンティティをチェックアウトした後で，変更をキャンセルするためにチェックアウトを取り消すことができます。エンティティを右クリックして[**バージョン**]＞[**チェックアウトの取り消し**]を選択します。[チェックアウトの取り消し]コマンドの詳細については，「[バージョン]メニューおよびボタン」(130ページ)を参照してください。

4. **エンティティのチェックイン**

   変更が終了したら，エンティティをチェックインして，ほかのユーザが利用できる新しい更新済みバージョンを作成します。

   次のいずれかを実行します。

   - **単一エンティティのチェックイン**：エンティティを右クリックして[**バージョン**]＞[**チェックイン**]を選択します。

   - **複数エンティティのチェックイン**：複数のエンティティを選択します。モジュール・ツールバーで，[**チェックイン**]ボタンをクリックします。

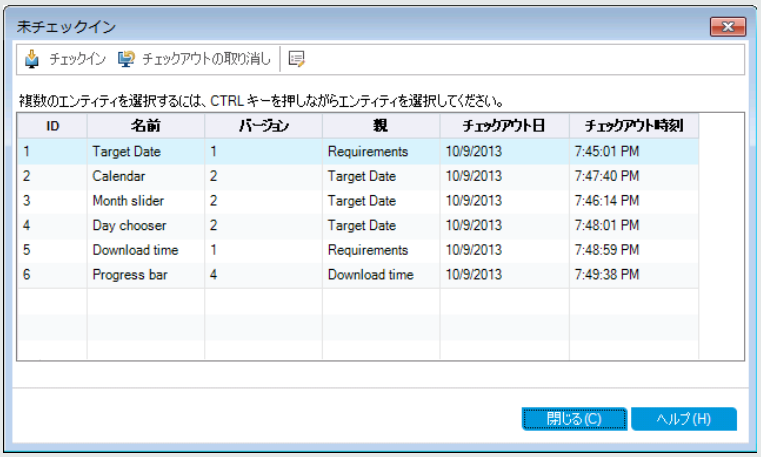
   [チェックイン]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[チェックイン]ダイアログ・ボックス」(132ページ)を参照してください。

5. **すべてのチェックアウト済みエンティティの表示 - オプション**

   現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティを表示して，選択したエンティティのチェックイン，またはチェックアウトの取り消しができます。

   ALM ウィンドウの右上隅にある[**チェックイン**]ボタンをクリックします。[未チェックイン]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[未チェックイン]ダイアログ・ボックス」(134ページ)を参照してください。

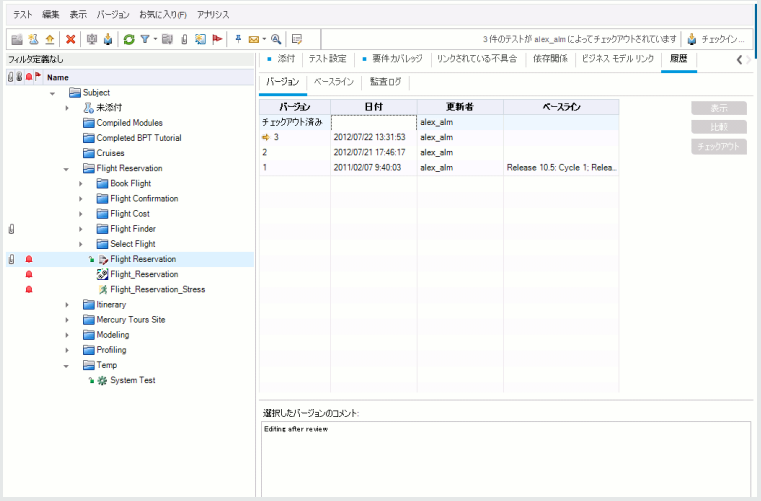
例



6. **バージョン履 歴 へのアクセス**

エンティティの以 前 のバージョンを表 示 , 比 較 , チェックアウトするには , エンティティを選 択して[**履歴**]タブ> [**バージョンおよびベースライン**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳 細 については , 「[バージョン]タブ」(136ページ) を参 照 してください。

例



7. **チェックアウトされたエンティティのコピー , 移 動 , 削 除**

チェックアウトされたエンティティの移 動 , コピー , 削 除 には , いくつかの制 限 事 項 があります。詳 細 については , 「チェックアウトされたエンティティの移 動 , コピー , 削 除 」(129ページ) を参 照 してください。

バージョン管理フィールドによるフィルタ処理の方法

このタスクでは，ALM データをフィルタリングして，要件，ビジネス・モデル，テスト計画，テスト・リソース，テスト・ラボの各モジュールでチェックアウトされたエンティティのみを表示する方法を説明します。次の表は，フィルタ条件の設定方法を示します。

フィルタの説明	テスト計画モジュール用のフィルタ条件	それ以外のモジュール用のフィルタ条件
ユーザ自身がチェックアウトしたエンティティすべての表示	[**バージョンのステータス**]=[**Checked Out**]，[**バージョンの所有者**]=<自分自身のユーザ名>	[**バージョンのチェックアウト実行者**]=<自分自身のユーザ名>
他のユーザがチェックアウトしたエンティティすべての表示	[**バージョンのステータス**]=[**Checked Out**]，[**バージョンの所有者**]=<他のユーザのユーザ名>	[**バージョンのチェックアウト実行者**]=<他のユーザのユーザ名>

フィルタの定義の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

バージョン管理されないフィールド

バージョン管理を使用する場合，次のフィールドに加えられた変更は，エンティティの以前のバージョンに保存されません。

エンティティ	フィールド
要件	• **レビュー済み** • **直接カバレッジ・ステータス** • **ターゲット・リリース** • **ターゲット・サイクル** • すべての[**RBQM**]フィールド
テスト	**実行ステータス**

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでバージョン管理されていないフィールドを使って作業する場合は，次の点を考慮します。

アクション	結果
チェックアウトの取り消し	エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに，新しい値が残ります。
以前のバージョンのチェックアウト	バージョン管理されていないフィールドの値は，現在チェックインされているバージョンの値になります。

アクション	結果
以前のバージョンの表示および比較	バージョン管理されていないフィールドは，[**バージョン管理されないフィールド**] の値とともに表示されます。 以前のバージョンを表示および比較する際には，バージョン管理データが保存されていないデータ固有のページ([リンクされたエンティティ] ページ，[要件トレーサビリティ] ページなど) は表示されません。

チェックアウトされたエンティティの移動，コピー，削除

チェックアウトされたエンティティの移動，コピー，削除を行うときは，次のガイドラインを考慮してください。

単一のエンティティの場合

説明	切り取り/貼り付けまたは移動	コピー/貼り付け	削除
現在のユーザがチェックアウトしたエンティティ	✓	✗	✓
ほかのユーザがチェックアウトしたエンティティ	✗	✓ 現在チェックインされているバージョンが貼り付けられます。	✗

フォルダに複数のエンティティがある場合

切り取り/貼り付けまたは移動	コピー/貼り付け	削除
✓	フォルダ内のすべてのエンティティがチェックインされている必要があります。	フォルダ内のすべてのエンティティが，現在のユーザによってチェックインまたはチェックアウトされている必要があります。

複数のエンティティの場合 (複数選択)

切り取り/貼り付けまたは移動	コピー/貼り付け	削除
選択したすべてのエンティティが，現在のユーザによってチェックインまたはチェックアウトされている必要があります。	選択したすべてのエンティティがチェックインされている必要があります。	選択したすべてのエンティティが，現在のユーザによってチェックインまたはチェックアウトされている必要があります。

バージョン管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

[バージョン] メニューおよびボタン 130

バージョン管理フィールド 131
[チェックイン]ダイアログ・ボックス 132
[チェックアウト]ダイアログ・ボックス 133
[未チェックイン]ダイアログ・ボックス 134
[バージョン]タブ 136

[バージョン]メニューおよびボタン

[バージョン]メニューおよびバージョン管理ツールバーは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用可能です。

アクセス方法	次のモジュールのメニュー・バーまたはツールバーから利用できます。要件，ビジネス・モデル，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュール
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「バージョン管理の概要」(124ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
チェックイン	[チェックイン]ダイアログ・ボックスが開き，選択したエンティティをチェックインできます。詳細については，「[チェックイン]ダイアログ・ボックス」(132ページ)を参照してください。
チェックアウト	[チェックアウト]ダイアログ・ボックスが開き，選択したエンティティをチェックアウトできます。詳細については，「[チェックアウト]ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。
未チェックイン	[未チェックイン]ダイアログ・ボックスが開き，チェックアウトした現在のモジュール内のすべてのエンティティのリストを表示できます。詳細については，「[未チェックイン]ダイアログ・ボックス」(134ページ)を参照してください。
チェックアウトの取り消し	選択したエンティティのチェックアウトを取り消し，変更を元に戻します。 ほかのユーザがチェックアウトしたエンティティのチェックアウトを取り消すには，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 チェックアウトを取り消す場合，エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに，新しい値が残ります。詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。
チェックアウト前に警告する	エンティティを自動的にチェックアウトする前に確認メッセージが表示されるようにALMを設定します。詳細については，「[チェックアウト]ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。

バージョン管理フィールド

本項では，ALM モジュールで利用できるバージョン管理フィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，**要件**，**ビジネス・モデル**，**ビジネス・コンポーネント**，**テスト計画**，**テスト・リソース**のいずれかを選択します。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「バージョン管理の概要」(124ページ)

要件モジュール

要件モジュールでは，バージョン管理が有効な場合，次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
バージョンのチェックアウト日付	バージョンがチェックアウトされた日付。
バージョンのチェックアウト時刻	バージョンがチェックアウトされた時刻。
バージョンのチェックアウト実行者	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
バージョン番号	バージョン番号です。
バージョンのステータス	バージョン(**チェックアウト**または**チェックイン**) のステータス。

ビジネス・モデル・モジュール

ビジネス・モデル・モジュールでは，バージョン管理が有効な場合，次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
バージョンのチェックアウト日付	バージョンがチェックアウトされた日付。
バージョンのチェックアウト時刻	バージョンがチェックアウトされた時刻。
バージョンのチェックアウト実行者	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
バージョン番号	バージョン番号です。
バージョンのステータス	バージョン(**チェックアウト**または**チェックイン**) のステータス。

ビジネス・コンポーネント・モジュール

ビジネス・モデル・コンポーネントでは，バージョン管理が有効な場合，次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
バージョンのチェックアウト日付	バージョンがチェックアウトされた日付。
バージョンのチェックアウト時刻	バージョンがチェックアウトされた時刻。
バージョンのチェックアウト実行者	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
バージョン番号	バージョン番号です。
バージョンのステータス	バージョン(**チェックアウト**または**チェックイン**) のステータス。

テスト計画モジュール

テスト計画モジュールでは，バージョン管理が有効な場合，次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
バージョンの日付	バージョンに対して最後のアクション(チェックインまたはチェックアウト) が実行された日付。
バージョン番号	バージョン番号です。
バージョンの所有者	最後のアクション(チェックインまたはチェックアウト) を実行したユーザの名前。
バージョンのステータス	バージョン(**チェックアウト**または**チェックイン**) のステータス。
バージョン時間	バージョンに対して最後のアクション(チェックインまたはチェックアウト) が実行された時間。

テスト・リソース・モジュール

テスト・リソース・モジュールでは，バージョン管理が有効な場合，次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
バージョン番号	リソースのバージョン番号。

[チェックイン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，バージョン管理が有効なプロジェクトの1つ以上のチェックアウト済みエンティティをチェックインできます。これで，新しいバージョンをほかのユーザが利用できるようになります。

アクセス方法	エンティティを右クリックして[**バージョン**] > [**チェックイン**]を選択します。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・モデル，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュール

重要な情報	新しいエンティティに割り当てられるバージョン番号は1です。エンティティがチェックインされると，バージョン番号は1ずつ増加します。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「バージョン管理の概要」(124ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
変更コメント	このバージョンに加えられた変更を説明します。
チェックアウト状態を保持	エンティティをチェックアウトしたまま新しいバージョン番号を使って変更内容を保存します。

[チェックアウト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，バージョン管理が有効なプロジェクトの1つ以上のエンティティをチェックアウトして，エンティティに変更を加えます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • エンティティを選択して編集を開始します。[チェックアウト]ダイアログ・ボックスが自動的に開きます。 • エンティティを右クリックして[**バージョン**]＞[**チェックアウト**]を選択します。 • エンティティを選択して[**履歴**]タブ＞[**バージョンおよびベースライン**]タブをクリックします。バージョンを選択して，[**チェックアウト**]をクリックします。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・モデル，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュール
重要な情報	チェックアウトされたエンティティを次のアイコンで示します。 • 現在のユーザによってチェックアウトされたエンティティは，開いた緑色の鍵のアイコンで表示されます。 • ほかのユーザによってチェックアウトされたエンティティは，赤色の鍵のアイコンで表示されます。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「バージョン管理の概要」(124ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
変更コメント	チェックアウトの理由を説明します。

UI 要素	説明
次回から表示しない	編集を開始したエンティティを確認せずに自動的にチェックアウトするように ALM を設定します。 このオプションは，エンティティを自動的にチェックアウトする場合に利用できます。

[未チェックイン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティを表示して，選択したエンティティのチェックイン，またはチェックアウトの取り消しができます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ALM ウィンドウの右上角にある [**チェックイン**] ボタンをクリックします。 • モジュール・メニュー・バーで，[**バージョン**] > [**未チェックイン**] を選択します。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・モデル，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュール
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「バージョン管理の概要」(124ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
チェックイン	[チェックイン] ダイアログ・ボックスが開き，選択したエンティティをチェックインできます。詳細については，「[チェックイン] ダイアログ・ボックス」(132ページ) を参照してください。
チェックアウトの取り消し	選択したエンティティのチェックアウトを取り消し，変更を元に戻します。 チェックアウトを取り消す場合，エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに，新しい値が残ります。詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	詳細: [詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したエンティティの詳細が表示されます。さらに詳細を表示するには，[デザイン ステップ]，[テスト スクリプト]，[添付]など，サイドバー上のボタンをクリックします。利用できるボタンは，特定のエンティティ・タイプに利用可能なデータによって異なります。
<グリッド>	現在のモジュールでチェックアウトしたエンティティのリストを表示します。 グリッドに対して次の操作ができます。 • 複数のエンティティを選択するには，CTRL キーを押しながらエンティティを選択します。 • すべてのエンティティを選択するには，右クリックして[**すべて選択**]を選択します。 • カラムを並べ替えるには，カラム・ヘッダをドラッグします。
チェックアウト日	バージョンがチェックアウトされた日付。
チェックアウト時刻	バージョンがチェックアウトされた時刻。
ID	ALM によってエンティティに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
名前	チェックアウトしたエンティティの名前。
親	ツリー構造で，選択したエンティティの 1 レベル上の階層のエンティティの名前。
バージョン	チェックアウトしたエンティティのバージョン番号。 新しいエンティティに割り当てられるバージョン番号は 1 です。エンティティがチェックインされると，バージョン番号は 1 ずつ増加します。

[バージョン]タブ

このビューでは，バージョン管理が有効なプロジェクトの選択したエンティティのバージョン履歴を表示します。

アクセス方法	ツリーまたはグリッドでエンティティを選択して，[**履歴**]タブ＞[**バージョン**]タブをクリックします。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・モデル，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュール
重要な情報	• ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために，ALM では，ほとんどのデータがエンティティ間の関係に関係なく，エンティティの以前のバージョンが保存されます。要件およびテスト・カバレッジ，要件トレーサビリティ，および不具合のリンクのデータは，以前のバージョンについては保存されません。また，リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。 • 一部のフィールドへの変更は，バージョン管理には保存されません。詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	• 「バージョン管理の概要」(124ページ) • 「[ベースライン]タブ」(230ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ビュー	[詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したバージョンの読み取り専用の詳細が表示されます。バージョンに関する追加の詳細を表示するには，[デザイン ステップ]，[テスト スクリプト]，および[添付]など，サイドバー上のボタンをクリックします。利用できるボタンは，特定のエンティティ・タイプに対するバージョン管理に保存されているデータによって異なります。
比較	[エンティティの比較]ダイアログ・ボックスが開き，選択した2つのバージョンを比較できます。詳細については，「[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス」(227ページ)を参照してください。 2つのバージョンを比較するには，CTRL キーを押しながら比較するバージョンを選択します。次に，[**比較**]ボタンをクリックします。
チェックアウト	[チェックアウト]ダイアログ・ボックスが開き，選択したバージョンをチェックアウトできます。詳細については，「[チェックアウト]ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。
ベースライン	該当するバージョンが表示されるベースラインです。

UI 要素	説明
選択したバージョンのコメント	バージョンのチェックイン時にユーザが入力したコメント。
日付	該当するバージョンが作成された日付です。
更新者	該当するバージョンを作成したユーザです。
バージョン	バージョン番号です。エンティティが現在チェックアウトされている場合，チェックアウトされているバージョンの[バージョン]カラムに[**チェックアウト済み**]と表示されます。エンティティが現在のユーザによってチェックアウトされている場合，矢印アイコンによってチェックアウトされたバージョンが示されます。 新しいエンティティの標準設定のバージョン番号は 1 です。

第8章: ALM のエディション

本章の内容

エディションごとの ALM の機能 140

エディションごとの ALM の機能

HP Application Lifecycle Management は，HP ALM Essentials Edition，HP Quality Center Enterprise Edition，HP ALM Performance Center Edition の各種エディションとしても提供されており，それぞれ ALM 機能のサブセットを備えています。

HP ALM のエディション	説明
HP ALM	プロセス，アクティビティ，資産を管理および自動化し，アプリケーションの構築，テスト，展開，管理を行うための統合プラットフォームです。これには，要件，テスト，不具合，開発などの各種管理に関するモジュールと，全体的なリリースとプロジェクト計画に関するモジュールが含まれています。HP ALM を使用することで，組織はプロセスの一貫性の確保，ベスト・プラクティスの共有，プロジェクト間での資産の共有を実現できます。
HP ALM Essentials Edition	HP ALM 製品機能のサブセットであり，比較的小規模なチームが短時間で準備し実行できるように設計されています。要件管理，テスト管理，不具合管理のコア機能を利用できます。
HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM と同じ統合プラットフォーム上に配置されます。品質管理に関するコア機能を利用できます。HP Unified Functional Testing，HP Business Process Testing，HP Sprinter との密接な連携により，クオリティ・センター・オブ・エクセレンスの構築をサポートします。
HP ALMPerformance Center Edition	パフォーマンス・テスト・スクリプトの管理，スケジューリング，実行，監視に関する完全な機能を備えています。HP ALM と同じプラットフォーム上にあり，HP ALM および HP LoadRunner と直接統合されます。

次の表に，エディションに応じた ALM 機能の可用性を示します。各機能の詳細については，後で説明します。

機能	HP ALM Edition	HP ALM Essentials Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
「ライセンス」(143ページ)	✓	✓	✓	✓
「リリース管理」(143ページ)	✓	✓	✓	✓

機能	HP ALM Edition	HP ALM Essentials Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
「プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース」(143 ページ)	✓	×	×	×
「複数の要件タイプ」(143 ページ)	✓	✓	✓	✓
「要件対要件のトレーサビリティ」(143 ページ)	✓	✓	✓	✓
「リスクベース品質管理」(143ページ)	✓	×	✓	✓
「ビジネス・モデル・モジュール」(144ページ)	✓	×	✓	×
「テストの作成および実行」(144ページ)	✓	✓	✓	✓ (一部)
「テスト・リソース」(144ページ)	✓	✓	✓	✓
「テスト設定」(144ページ)	✓	✓	✓	✓
「HP Sprinter」(144ページ)	✓	×	✓	×
「ラボ管理」(144ページ)	✓	×	×	✓

機能	HP ALM Edition	HP ALM Essentials Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
「クラウド・テスト・ホストの自動プロビジョニング」(144 ページ)	×	×	×	✓
「バージョン管理」(144ページ)	✓	×	✓	✓
「ベースライン」(145ページ)	✓	×	✓	✓
「要件とテストの共有」(145 ページ)	✓	×	×	✓
「不具合の共有」(145ページ)	✓	×	×	×
「クロス・プロジェクト・カスタマイズ」(145 ページ)	✓	✓	×	✓
「クロス・プロジェクト・レポート」(145 ページ)	✓	×	×	✓
「データの Excel へのエクスポート」(145ページ)	✓	✓	✓	✓
「Business Process Testing」(145ページ)	✓	×	✓	×
「拡張機能」(146ページ)	✓	✓ (一部)	✓ (一部)	✓ (一部)

機能	HP ALM Edition	HP ALM Essentials Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
「エディションのアップグレード」(146ページ)	--	✓	✓	✓

ライセンス

ALM ライセンスは，購入時の契約に応じて決定されます。サイト管理者は，「サイト管理」からライセンス使用状況を管理および監視できます。を参照してください。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

リリース管理

リリース・モジュールでは，次のリリースを整理および追跡できます。Performance Center Edition では，リリース管理はサポートされていません。Performance Center Edition を使用している場合，サイクルとリリースに関連するフィールドやコマンドは利用できません。たとえば，[ターゲット サイクル] および [ターゲット リリース] は利用できません。

リリース・モジュールの詳細については，「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ) を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース

ALM プロジェクトの計画と追跡 (PPT) 機能により，品質保証マネージャは，アプリケーション・リリースの作業の目標を定義して，アプリケーションの準備状況を追跡できます。PPT は，ALM Editionでのみ利用できます。

PPT リリースの詳細については，「PPT リリースの概要」(172ページ) を参照してください。

複数の要件タイプ

要件モジュールの各要件を標準設定の ALM 要件タイプに割り当てることができます。さらに，標準設定のタイプをカスタマイズして，独自の要件タイプを作成することも可能です。

要件タイプの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ) を参照してください。

要件対要件のトレーサビリティ

要件のトレーサビリティによって，2 つ以上の要件間の関係が決まり，特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際に役立ちます。

要件のトレーサビリティの詳細については，「要件トレーサビリティ」(287ページ) を参照してください。

リスクベース品質管理

リスク・ベース品質管理機能では，要件の性質および利用可能なリソースに基づいて，各要件のテスト・レベルを計算できます。ALM Essentials Edition では，要件モジュールの [リスク] タブは利用できません。また，リスクに関するフィールドは利用できません。

リスク・ベース品質管理の詳細については，「リスク・ベース品質管理」(305ページ) を参照してください。

ビジネス・モデル・モジュール

ビジネス・モデル・モジュールを使用すると，標準的なモデリング・ツールからビジネス・プロセス・モデルをインポートし，その品質を ALM でテストできます。ビジネス・モデル・モジュールは，ALM Essentials Edition や Performance Center Edition では利用できません。

ビジネス・モデル・モジュールの詳細については，「ビジネス・プロセス・ モデル」(319ページ) を参照してください。

テストの作成および実行

プロジェクトの要件に基づいて，テスト計画の作成およびテストの設定を行い，それらのテストを実行し，問題を診断して解決することができます。ALM Performance Center Edition では，パフォーマンス・テストのみがサポートされています。

詳細については，「テスト計画の概要」(382ページ) および「テスト実行の概要」(534ページ) を参照してください。

テスト・リソース

テスト・リソース・モジュールを使用して，テストで使用するリソースを管理できます。

詳細については，「テスト・リソース」(491ページ) を参照してください。

テスト設定

テストを設定を使用すると，データ・セットをその都度変えてさまざまなユースケースをテストすることができます。

詳細については，「テスト設定の概要」(462ページ) を参照してください。

HP Sprinter

HP Sprinter は，手動テスト・プロセスを支援する拡張された手動テスト機能とさまざまなツールを備えています。Sprinter は，ALM Editionおよび Quality Center Enterprise Edition で利用できます。

Sprinter の詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。

ラボ管理

ラボ管理を使用すると，ユーザは ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストに使用するラボ・リソースおよびシステムを管理できます。ラボ管理は，ALM Edition を使用した機能テストおよびと Performance Center Edition を使用したパフォーマンス・テストで利用できます。

詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

クラウド・テスト・ホストの自動プロビジョニング

現在，クラウドのプロビジョニングは，Load Generator のプロビジョニングの場合にのみ利用できます。

詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

バージョン管理

バージョン管理では，ALM エンティティを作成，管理すると同時に，それらのエンティティの以前のバージョンを維持することができます。ALM Essentials Edition では，ALM プロジェクトの単一エンティティのバージョン管理はサポートしていません。

バージョン管理の詳細については,「バージョン管理」(123ページ)を参照してください。

ベースライン

ベースラインを作成して,特定の時点でのプロジェクトの複数のエンティティのスナップショットを格納できます。ALM Essentials Editionでは,ベースラインはサポートされていません。

詳細については,「ライブラリおよびベースライン」(205ページ)を参照してください。

要件とテストの共有

ライブラリ・モジュールでは,要件,テスト,テスト・リソース,ビジネス・コンポーネントの作成および比較ができます。また,複数のプロジェクト間でライブラリをインポート,同期化,比較することにより,既存のエンティティのセットを再利用できます。

Quality Center Enterprise Edition では,ライブラリ・モジュールを使用してベースラインを作成,比較できます。Quality Center Enterprise Edition には,複数プロジェクト間のライブラリのインポート,同期化,比較は含まれません。

ライブラリ・モジュールの詳細については,「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ)を参照してください。

不具合の共有

HP ALM Synchronizer を使用して,複数の ALM プロジェクト間で不具合の共有および同期を行うことができます。不具合の共有は,ALM Editionでのみ利用できます。

詳細については,HP Application Lifecycle Management Addin ページから利用できる『HP ALM Synchronizer User Guide』を参照してください。

クロス・プロジェクト・カスタマイズ

クロス・プロジェクトのカスタマイズにより,テンプレート・プロジェクトを使用することで,組織内のプロジェクト全体に渡ってポリシーおよび手続きを標準化できます。クロス・プロジェクト・カスタマイズは,Quality Center Enterprise Edition では利用できません。

を参照してください。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

クロス・プロジェクト・レポート

ALM でグラフを作成する場合,複数のプロジェクトのデータを組み合わせたり比較したりできます。クロス・プロジェクト・レポートは,一部のエンティティでは利用できません。クロス・プロジェクト・レポートは,Quality Center Enterprise Edition では利用できません。

ALM のレポートとグラフの詳細については,「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)を参照してください。

データの Excel へのエクスポート

すべてのエディションで,レポーティングのために ALM データを Excel にエクスポートできます。エクスポート機能は,一部のエンティティでは利用できません。

詳細については,「Excel レポート」(861ページ)を参照してください。

Business Process Testing

Business Process Testing を使用すると,非技術分野の専門家は,スクリプト不要の環境でビジネ

ス・コンポーネントを作成して使用し，アプリケーション品質のビジネス・プロセス・テストを作成することができます。Business Process Testing は，ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。

Business Process Testing ライセンスを使用して ALM サーバにログインする適切な権限を持った各ユーザは，Business Process Testing ライセンスと ALM ライセンスの両方を使用します。

> **注 :** ALM で Business Process Testing ライセンスを利用できない場合でも，テスト・ラボ・モジュールでビジネス・プロセス・テストを含むテスト・セットを実行でき，Unified Functional Testing で自動コンポーネントを編集することもできます。

また Business Process Testing Enterprise Extension は，ALM と完全に統合されています。ご使用の ALM のライセンスが，Business Process Testing および Business Process Testing Enterprise Extension に対応している場合のみご利用いただけます。Business Process Testing Enterprise Extension は，Performance Center Edition では利用できません。

Business Process Testing の詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

拡張機能

ALM 拡張機能は，ALM に特別な機能を追加します。使用しているエディションに応じて，さまざまな拡張機能を利用できます。ALM の拡張機能のライセンスをお持ちの場合は，プロジェクト単位で拡張機能を有効にすることで，追加された機能を利用することができます。拡張機能の有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ALM 12.00 で利用できる拡張機能のリストを表示したり，拡張機能のドキュメントをダウンロードしたりするには，HP ALM の［アドイン］ページにアクセスしてください。ALM の［アドイン］ページには，［**ヘルプ**］＞［**アドイン**］からアクセスできます。

エディションのアップグレード

現在のエディションを別のエディションにアップグレードできます。たとえば，HP ALM Essentials Edition 12.00 から HP ALM Edition 12.00 にアップグレードできます。

アップグレードの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

第2部: 管理

ALM のエディション:

- PPT に関連する機能は，ALM Editionでのみ利用できます。
- ライブラリ・モジュールは，ALM Essentials Edition では利用できません。Quality Center Enterprise Edition には一部のライブラリ・モジュール機能が含まれていません。

ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

第 9章 : リリースおよびサイクル

本 章 の内 容

リリースおよびサイクルの概 要 150
ALM でのリリースおよびサイクルの使 用 方 法 150
リリースおよびサイクルのユーザ・インタフェース 153

リリースおよびサイクルの概要

アプリケーション・リリースの発行は困難な場合があります。これには，ビジネス優先度および品質の期待値をプロジェクトの要件，テスト，および不具合と調整する必要があります。ほとんどのアプリケーションでは，複数のハードウェア・プラットフォーム，複数のシステム構成(コンピュータ，オペレーティング・システム，およびブラウザ)，およびアプリケーションの複数のバージョンを対象にテストを行う必要があります。アプリケーション・リリースのあらゆる面を管理することは，時間のかかる困難な作業です。リリースを定義して，アプリケーション管理プロセスを開始します。

HP Application Lifecycle Management(ALM)では，リリース・およびサイクルを定義することによって，次のリリースを整理および追跡できます。**リリース**とは，1つ以上のアプリケーション変更をまとめて，同時に配布するものです。1つのリリースには複数のサイクルを含めることができます。「**サイクル**」は，リリースのスケジュールに基づいて，共通の目標を達成するために行われる一連の開発および品質保証作業です。リリースとサイクルの両方において開始日と終了日を定義します。

リリースとサイクルを定義したら，要件を定義および確認して，リリースおよびサイクルに割り当てます。「**要件**」は，アプリケーションのニーズの詳細を記載し，テスト計画を作成するための基礎として使用されます。テスト計画段階で作成するテストでは，これらの要件をカバーするようにします。

要件をリリースとサイクルに割り当てた後は，テスト・セット・フォルダを作成してサイクルに割り当てます。「**テスト・セット**」とは，ALMプロジェクト内のテスト・インスタンスのグループのことで，特定のテスト目標を達成するように設計されています。テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てた後に，そのテスト・セット・フォルダのテスト・セットを実行します。

テスト・セットの実行中にアプリケーションの不具合を検出した場合は，不具合を送信できます。ALMにより，テスト実行，関連するリリースとサイクル，および新しい不具合の間に自動的にリンクが設定されます。

不具合は，アプリケーション管理プロセスの任意の段階のどのモジュールからでもALMプロジェクトに送信できます。修正する新しい不具合を確認および決定する際に，それらの不具合を適切なターゲット・リリースおよびサイクルに割り当てることができます。

テスト実行の後に，リリース目標がどの程度満たされているかを判断するためにテストの進行状況を確認できます。また，解決された不具合の数，および未対応の不具合の数を判断することもできます。結果は，リリース・レベルまたはサイクル・レベルで分析できます。

リリース・ツリーを分析し，リリース目標と一致することを確認することによって，リアルタイムにアプリケーション管理プロセスの進行状況を追跡できます。

関連タスクの詳細については，「ALMでのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)を参照してください。

ALMでのリリースおよびサイクルの使用方法

このタスクでは，リリースおよびサイクルを作成および追跡する方法を説明します。リリースおよびサイクルの詳細については，「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡(PPT)リリースを利用して，アプリケーション・リリースを追跡することもできます。PPTは，リアルタイムの主要業績評価指標(KPI)を使用した，情報に基づくリリースの決定に役立ちます。PPTの使用に関するタスクの詳細については，「PPTの使用方法」(172ページ)を参照してください。

注 :

上位タスク: このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ) を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「リリースとサイクルの定義」(151ページ)
- 「要件の割り当て」(151ページ)
- 「テスト・セットの割り当てと実行」(151ページ)
- 「不具合の割り当て」(152ページ)
- 「リリースとサイクルの分析」(152ページ)

1. **リリースとサイクルの定義**

   階層型リリース・ツリーで，リリースおよびサイクルを定義します。

   a. **リリース・モジュールを開きます。** ALM サイドバーで，[**管理**] の下の [**リリース**] を選択します。

   b. **フォルダを作成します。** [**リリース**] ルート・フォルダを右クリックして，[**新規リリース フォルダ**] を選択します。サブフォルダを作成するには，フォルダをクリックして，[**新規リリース フォルダ**] を選択します。

   c. **フォルダにリリースを追加します。** フォルダまたはサブフォルダを右クリックして，[**新規リリース**] を選択します。[新規リリース] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規リリース]/[リリース詳細] ダイアログ・ボックス」(161ページ) を参照してください。

   d. **リリースにサイクルを追加します。** リリースを右クリックして，[**新規サイクル**] を選択します。[新規サイクル] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規サイクル]/[サイクル詳細] ダイアログ・ボックス」(163ページ) を参照してください。

2. **要件の割り当て**

   要件モジュールで，要件をリリースおよびサイクルに割り当てます。

   - **リリースに割り当て**: 要件を右クリックして，[**リリースに割り当て**] を選択します。[リリースを選択] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリースを選択] ダイアログ・ボックス」(169ページ) を参照してください。
   - **サイクルに割り当て**: 要件を右クリックして，[**サイクルに割り当て**] を選択します。[サイクルの選択] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス」(168ページ) を参照してください。

3. **テスト・セットの割り当てと実行**

テスト・ラボ・モジュールでは，テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当て，テスト・セットを実行します。

a. **サイクルへの割り当てを行ないます。** テスト・セット・フォルダを右クリックして，[**サイクルに割り当て**]を選択します。[サイクルの選択]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス」(168ページ)を参照してください。

b. **テストを実行します。** テストの実行に関する詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

4. **不具合の割り当て**

不具合をターゲット・リリースおよびターゲット・サイクルに割り当てます。タスクの詳細については，「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)を参照してください。

5. **リリースとサイクルの分析**

統計データやグラフを表示して，リリースとサイクルの進行状況を追跡します。

- **割り当て済みの要件とテスト・セット・フォルダを表示します。**

  リリースおよびサイクルに割り当てられている要件およびテスト・セット・フォルダの統計を表示するには，リリースまたはサイクルを選択して，[**詳細**]タブをクリックします。[**統計**]領域で，割り当てられた要件およびテスト・セット・フォルダの統計データを表示します。要件モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)を参照してください。

- **カバレッジの進行状況を表示します。**

  リリースまたはサイクルの現在の進行状況を視覚的に示す統計とグラフを表示します。

  - **リリース**: リリース・ツリーでリリースを選択し，[**ステータス**]タブをクリックして，[**進行状況**]タブをクリックします。
  - **サイクル**: リリース・ツリーでリリースを展開し，サイクルを選択して，[**進行状況**]タブをクリックします。

  ユーザ・インタフェースの詳細については，「[進行状況]タブ」(164ページ)を参照してください。

- **不具合を表示します。**

  リリース・モジュールで，リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数を示すグラフを表示します。

  - **リリース**: リリース・ツリーでリリースを選択し，[**ステータス**]タブをクリックして，[**品質**]タブをクリックします。
  - **サイクル**: リリース・ツリーでリリースを展開し，サイクルを選択して，[**品質**]タブをクリックします。

  ユーザ・インタフェースの詳細については，「[品質]タブ」(166ページ)を参照してください。

リリースおよびサイクルのユーザ・インタフェース

本 項 の内 容

[リリース モジュール] ウィンドウ 153
リリース・モジュールのメニューおよびボタン 155
リリース・モジュールのアイコン 159
リリース・モジュールのフィールド 160
[新 規 リリース]/[リリース詳 細]ダイアログ・ボックス 161
[新 規 サイクル]/[サイクル詳 細]ダイアログ・ボックス 163
[進 行 状 況]タブ 164
[品 質]タブ 166
[未 解 決 の不 具 合 の設 定]ダイアログ・ボックス 167
[サイクルを選 択]ダイアログ・ボックス 168
[リリースを選 択]ダイアログ・ボックス 169
[リリースの再 スケジュール] / [サイクルの再 スケジュール] / [マイルストーンの再 スケジュール] ダイアログ・ボックス 169

[リリース モジュール] ウィンドウ

このウィンドウでは，リリースおよびサイクルを定 義 および追 跡 できます。

アクセス方 法	ALM サイド バーで，[管 理]の下 の[**リリース**]を選 択 します。
関 連 タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使 用 方 法 」(150ページ)
参 照 情 報	「リリースおよびサイクルの概 要 」(150ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<リリース・モジュール共通 UI 要素>	• **リリース・フィールド**:フィールドの定義については，「リリース・モジュールのフィールド」(160ページ)を参照してください。 • **リリースのメニューおよびボタン**:コマンドとボタンの説明については，「リリース・モジュールのメニューおよびボタン」(155ページ)を参照してください。 • **リリース・アイコン**:アイコンの説明については，「リリース・モジュールのアイコン」(159ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**:詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<リリース・ツリー>	リリースを視覚的に表したものです。
[詳細]タブ	現在選択されているフォルダ，リリース，サイクルの詳細が表示されます。[**統計**]領域には，リリースまたはサイクルに関連する要件およびテスト・セット・フォルダが表示されます。詳細については，「リリース・モジュールのフィールド」(160ページ)を参照してください。
[リリース スコープ]タブ	現在選択されているリリースのリリース・スコープ・アイテムが表示されます。詳細については，「[リリース スコープ]タブ」(178ページ)を参照してください。 ALM のエディション:このタブは，ALM Edition でのみ利用可能です。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[マスター計画]タブ	リリースの進行状況がガント・チャートで表示されます。詳細については，「[マスター計画]タブ」(193ページ)を参照してください。 ALM のエディション: このタブは，ALM Edition でのみ利用可能です。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[スコアカード]タブ	現在選択されているリリースのステータスの KPI スコアカードが表示されます。詳細については，「[スコアカード]タブ」(195ページ)を参照してください。 ALM のエディション: このタブは，ALM Edition でのみ利用可能です。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

UI 要素	説明
[ステータス]タブ	次のタブがあります。 • **[進行状況]タブ**: 現在選択されているリリースまたはサイクルの進行状況に関する上位レベルの概要が表示されます。詳細については、「[進行状況]タブ」(164ページ) を参照してください。 • **[品質]タブ**: 現在選択されているリリースまたはサイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。また、未解決の不具合の数も表示されます。詳細については、「[品質]タブ」(166ページ) を参照してください。
[添付]タブ	現在選択されているフォルダ、リリース、サイクルに関する追加情報を提供する添付ファイルのリストが表示されます。詳細については、「[添付]ページ」(94ページ) を参照してください。
[説明]タブ	現在選択されているフォルダ、リリース、サイクルの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

リリース・モジュールのメニューおよびボタン

本項では、リリース・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理]の下の[**リリース**]を選択します。
重要な情報	**ヒント:** リリース・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには、ショートカット・キー ALT を押します。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	• 「リリース・モジュールのアイコン」(159ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ) • 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
新規リリース・フォルダ	リリース	[新規リリース フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。

UI 要素	メニュー	説明
新規リリース/新規の空のリリース	リリース	[新規リリース]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリリース・フォルダにリリースを追加できます。詳細については，「[新規リリース]/[リリース詳細]ダイアログ・ボックス」(161ページ)を参照してください。 **注 :** テンプレート・プロジェクトにリンクされているプロジェクトで作業している場合は，[**新規リリース**]の代わりに[**新規の空のリリース**]オプションが利用できます。 ALM のエディション : [**新規の空のリリース**]は，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
新規マイルストーン	リリース	[新規マイルストーン]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリリースにマイルストーンを追加できます。詳細については，「[新規マイルストーン]ダイアログ・ボックス」(182ページ)を参照してください。 ALM のエディション : この機能は，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
新規サイクル	リリース	[新規サイクル]ダイアログ・ボックスが開き，選択したリリースにサイクルを追加できます。詳細については，「[新規サイクル]/[サイクル詳細]ダイアログ・ボックス」(163ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
説明	リリース	対応する[詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件，サイクル，またはマイルストーンの詳細を表示および更新できます。 詳細については，次を参照してください。 • 「[新規リリース]/[リリース詳細]ダイアログ・ボックス」(161ページ) • 「[新規サイクル]/[サイクル詳細]ダイアログ・ボックス」(163ページ) • 「[マイルストーン詳細]ダイアログ・ボックス」(194ページ) ALM のエディション : マイルストーンは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
再スケジュール	リリース	[再スケジュール]ダイアログ・ボックスが開き，要件，サイクル，またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。詳細については，「[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール]ダイアログ・ボックス」(169ページ) を参照してください。 ALM のエディション : このマイルストーンの再スケジュール機能は，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
切り取り/貼り付け	編集	選択したリリース・フォルダまたはリリースを，リリース・ツリー内の別の場所に移動します。 **注 :** リリース・フォルダを移動すると，対応するリリースとサイクルも移動されます。リリースを移動すると対応するサイクルも移動します。ルート・フォルダは移動できません。 **ヒント :** リリース・フォルダまたはリリースは，ドラッグすることでもリリース・ツリー内の新しい場所に移動できます。

UI 要素	メニュー	説明
サイクルの複製	編集	同じリリース内で，選択したサイクルのコピーを作成します。 複数のサイクルを複製するには，CTRL キーを押しながら複製するサイクルを選択します。同じリリースに属しているサイクルのみ選択できます。
マイルストーンの複製	編集	同じリリース内で，選択したマイルストーンのコピーを作成します。 複数のマイルストーンを複製するには，CTRL キーを押しながら複製するマイルストーンを選択します。同じリリースに属しているマイルストーンのみ選択できます。 ALM のエディション : この機能は，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
削除	編集	選択したリリース・フォルダ，リリース，またはサイクルを削除します。フォルダを削除すると，対応するリリースとサイクルも削除されます。リリースを削除しても対応するサイクルが削除されます。 **注 :** リリース・フォルダ，リリース，またはサイクルを削除すると，関連付けられて　る要件，テスト・セット・フォルダ，および不具合の割り当ても解除されます。
名前の変更	編集	選択したリリース・フォルダ，リリース，またはサイクルの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。
すべて展開	表示	リリース・ツリーですべての分岐を展開します。
折りたたみ	表示	リリース・ツリーですべての分岐を折りたたみます。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，リリース・ツリーを更新します。

UI 要素	メニュー	説明
テンプレートから新規リリース	リリース	[テンプレートからの新規リリースの作成]ダイアログ・ボックスが開き，テンプレート・プロジェクトのリリースを基にしてリリースを作成できます。詳細については，「[テンプレートからの新規リリースの作成]ダイアログ・ボックス」(203ページ) を参照してください。 ALM のエディション : このオプションは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 **注 :** このオプションは，テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで利用できます。
要件の表示	<右クリック・メニュー>	要件モジュールに移動して，選択したリリースまたはサイクルに割り当てられている要件を表示します。
テスト・セット・フォルダの表示	<右クリック・メニュー>	テスト・ラボ・モジュールに移動して，選択したサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダを表示します。

リリース・モジュールのアイコン

本項では，リリース・モジュールで利用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[管理]の下の[**リリース**]を選択します。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	• 「リリース・モジュールのメニューおよびボタン」(155ページ) • 「[リリース モジュール]ウィンドウ」(153ページ) • 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞ : タブが追加されていることを示します。

UI 要素	説明
	マイルストーン: リリース・ツリー内のリリースのマイルストーン。 ALM のエディション: このアイコンは, ALM Edition でのみ利用可能です。ALM エディションとその機能の詳細については, 「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
	リリース・フォルダ: リリースを整理するためのフォルダ。
	リリース: リリース・ツリー内のリリース。
	サイクル: リリース・ツリー内のリリースのサイクル。

リリース・モジュールのフィールド

リリース・モジュールの[詳細]タブには, 次のようなリリースまたはサイクルのフィールドが表示されます。

アクセス方法	ALM サイドバーで, [管理]の下の[**リリース**]を選択します。
重要な情報	• サイクルの日付は, リリースの日付内に含まれている必要があります。 • リリース・モジュールでは, ユーザ定義フィールドの追加や, フィールドのラベルの変更ができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して, リリース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し, 動的に変更することができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • プロジェクトの計画と追跡 (PPT) フィールドについては, 「PPT フィールド」(177ページ) を参照してください。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	• 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ) • 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
サイクル ID	ALM によってサイクルに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。サイクル ID は読み取り専用です。

UI 要素	説明
リリース ID	ALM によってリリースに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。リリース ID は読み取り専用です。
名前	フォルダ，リリース，またはサイクルの名前です。
開始日	リリースまたはサイクルが開始される日付です。
終了日	リリースまたはサイクルが終了する日付です。
リリース開始日	リリースが開始される日付です。
リリース終了日	リリースが終了する日付です。
サイクルに割り当てられた要件	選択したサイクルに関連付けられている要件の数です。 要件モジュールでサイクルに割り当てられている要件を表示するには，要件の数を示すリンクをクリックします。
リリースに割り当てられた要件	選択したリリースに関連付けられている要件の数です。 要件モジュールでリリースに割り当てられている要件を表示するには，要件の数を示すリンクをクリックします。
サイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダ	選択したサイクルに関連付けられているテスト・セット・フォルダの数です。 テスト・ラボ・モジュールでサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダを表示するには，テスト・セット・フォルダの数を示すリンクをクリックします。

[新規リリース]/[リリース詳細]ダイアログ・ボックス

[新規リリース]ダイアログ・ボックスでは，新規リリースを定義できます。

[リリース詳細]ダイアログ・ボックスでは，選択したリリースの詳細を表示および更新できます。

アクセス方法	• **[新規リリース]ダイアログ・ボックス**: リリース・モジュールで，リリース・フォルダを右クリックして，[**新規リリース**]を選択します。 **テンプレート・ベースのプロジェクトから**: リリース・モジュールで，リリース・フォルダを右クリックして，[**新規の空のリリース**]を選択します。 • **[リリース詳細]ダイアログ・ボックス**: リリース・モジュールで，リリースを右クリックして，[**詳細**]を選択します。

重要な情報	ALM のエディション : [新規リリース] ダイアログ・ボックスは, ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については, 「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。 **注 :** [**新規の空のリリース**] オプションは, テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで利用できます。テンプレート・プロジェクトのリンクと同期化の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : データをクリアします。 **利用可能な場所** : [新規リリース] ダイアログ・ボックス:
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新規リリースに付ける名前を入力します。
詳細	リリース・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるリリース・フィールドの詳細については, 「リリース・モジュールのフィールド」(160ページ) を参照してください。 **ヒント :** このページの [**説明**] フィールドをクリックすると, テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
リリース・スコープ	現在選択されているリリースのリリース・スコープ・アイテムが表示されます。詳細については、「[リリース スコープ] タブ」(178ページ) を参照してください。 ALM のエディション : このタブは、ALM Edition でのみ利用可能です。ALM エディションとその機能の詳細については、「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者に問い合わせてください。 **利用可能な場所** : [リリース詳細] ダイアログ・ボックス
添付	新規リリースに関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(94ページ) を参照してください。

[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス

[新規サイクル] ダイアログ・ボックスでは、新規サイクルを定義できます。

[サイクル詳細] ダイアログ・ボックスでは、選択したサイクルの詳細を表示および更新できます。

アクセス方法	**[新規サイクル] ダイアログ・ボックス**: リリース・モジュールで、リリースを右クリックして、[**新規サイクル**] を選択します。 **[サイクルの詳細] ダイアログ・ボックス**: リリース・モジュールで、リリースを展開し、サイクルを右クリックして、[**詳細**] を選択します。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は、ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については、「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ) • 「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ) • 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。 **利用可能な場所**: [新規サイクル] ダイアログ・ボックス:
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	サイクルの名前です。
詳細	サイクル・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるサイクル・フィールドの詳細については, 「リリース・モジュールのフィールド」(160ページ) を参照してください。 **ヒント**: このページの [**説明**] フィールドをクリックすると, テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
添付	サイクルに関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。詳細については, 「[添付] ページ」(94ページ) を参照してください。

[進行状況] タブ

このタブには, リリースまたはサイクルの現在の進行状況を視覚的に示す統計とグラフが表示されます。経過日数および残り日数, 完了したテスト・インスタンスおよび実行する残りテスト・インスタンス, ならびに実際の実行率および必要な実行率などの情報が表示されます。

アクセス方法	リリース・モジュールで, 次を行います。 • リリース: リリース・ツリーでリリースを選択し, [**ステータス**] タブをクリックして, [**進行状況**] タブをクリックします。 • サイクル: リリースを展開し, サイクルを選択して, [**進行状況**] タブをクリックします。
重要な情報	最新のデータを表示するには, リリース・モジュール・ツールバーで [**すべて更新**] ボタン をクリックします。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	• 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
リリースの合計日数/サイクルの合計日数	選択したリリースまたはサイクルの合計日数です(終了日 - 開始日)。
リリースの残り日数/サイクルの残り日数	選択したリリースまたはサイクルの残り合計日数です。
リリースの合計テスト・インスタンス数/サイクルの合計テスト・インスタンス数	選択したリリースまたはサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダに含まれているテスト・インスタンスの合計数です。
未実行テスト・インスタンス	選択したリリースまたはサイクルの割り当て済みテスト・セット・フォルダに含まれている未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
必須実行率(テスト・インスタンス/日)	選択したリリースまたはサイクルの残り日において 1 日に必要なテスト実行の平均数です。
日(進行状況バー)	選択したリリースまたはサイクルの経過日数の割合です。
テスト・インスタンスの実行(進行状況バー)	選択したリリースまたはサイクルで完了したテスト実行の割合です。 **注 :** テスト・インスタンスは, 実行され, 実行結果が保存されると, その状態が**未完了**または**ブロック済み**であったとしも実行済みと見なされます。
カバレッジの[進行状況]グラフ	選択したリリースまたはサイクルのカバレッジの進行状況が表示されます。 次のような表示オプションがあります。 • **割り当てられた要件** : 選択したリリース内のすべてのサイクルに割り当てられた要件の累積割合です。このオプションは, リリースに対してのみ利用できます。 • **計画カバレッジ** : 選択したサイクル, または選択したリリース内のすべてのサイクルに計画されているテストの累積割合です。 • **実行カバレッジ** : 選択したサイクル, または選択したリリース内のすべてのサイクルで実行されたテストの累積割合です。 • **成功カバレッジ** : 選択したサイクル, または選択したリリース内のすべてのサイクルで正常に実行されたテストの累積割合です。 **注 :** カバレッジの進行状況の関係を表示するには, 要件とテスト間のリンクを定義し, 要件およびテスト・セットをサイクルに割り当てる必要があります。

[品質]タブ

このタブには，リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数が，視覚的な形式で表示されます。アプリケーション管理プロセスのどの段階でもグラフを表示して，リリースの進行状況を確認できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，次を行います。 • リリース: リリース・ツリーでリリースを選択し，[**ステータス**]タブをクリックして，[**品質**]タブをクリックします。 • サイクル: リリースを展開し，サイクルを選択して，[**品質**]タブをクリックします。
重要な情報	最新のデータを表示するには，リリース・モジュール・ツールバーで[**すべて更新**]ボタン をクリックします。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ) 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
[不具合報告率]グラフ	選択したリリースまたはサイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。 グラフには，[**検出リリース**]または[**検出サイクル**]の値が選択したリリースに一致する不具合が表示されます。不具合は[**重要度**]のレベルによってグループ化されます。x 軸には，各サイクルの最終日の重要度に基づいて不具合の数が表示されます。
<不具合の重要度レベルの表示オプション>	不具合の重要度レベルに基づいて，グラフに表示される不具合を決定します。重要度レベルの範囲は，「**低い - 1**」から「**緊急 - 5**」まであります。
[未解決の不具合]グラフ	選択したリリースまたはサイクルの未解決の不具合の数が表示されます。 グラフには，[**ターゲット リリース**]または[**ターゲット サイクル**]の値が選択したリリースまたはサイクルに一致する不具合，もしくは空の不具合が表示されます。不具合は[**重要度**]のレベルによってグループ化されます。x 軸には，各サイクルの最終日の重要度に基づいて未解決の不具合の数が表示されます。標準設定では，「**新規**」，「**修正中**」，および「**要再修正**」の不具合が未解決とみなされます。

UI 要素	説明
未解決の不具合の設定	[未解決の不具合の設定]ダイアログ・ボックスが開き，ステータスによりフィルタ処理をしてグラフに表示する不具合を決定できます。 ユーザ・インタフェースの詳細については，「[未解決の不具合の設定]ダイアログ・ボックス」(167ページ) を参照してください。

[未解決の不具合の設定]ダイアログ・ボックス

[未解決の不具合の設定]ダイアログ・ボックスでは，[品質]タブのグラフに表示する不具合を決定できます。このグラフには，リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数が表示されます。未解決の不具合の設定は，不具合のステータスをフィルタ処理して行います。

アクセス方法	1. リリース・モジュールでサイクルを選択します。 2. [品質]タブで[**未解決の不具合の設定**]リンクをクリックします。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
利用可能な不具合ステータス	現在，未解決の不具合の設定に使用されていないステータスがリストされます。
	選択したステータスを[**利用可能な不具合ステータス**]と[**可視不具合ステータス**]の間で移動します。 **ヒント:** 表示枠から表示枠にステータスをドラッグしたり，ステータスをダブルクリックしてもう一方の表示枠に移動することもできます。
	すべてのステータスを[**利用可能な不具合ステータス**]と[**可視不具合ステータス**]の間で移動します。
可視不具合ステータス	現在，未解決の不具合の設定に使用されているステータスがリストされます。
ターゲットの不具合のみ	選択すると，次の両方の条件に一致する不具合のみがグラフに入れられます。 • [**可視不具合ステータス**]カラムにステータスがリストされている不具合 • このサイクルで修正予定の不具合

[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，リリース・ツリーで定義したサイクルに要件およびテスト・セット・フォルダを割り当てることができます。

アクセス方法	要件モジュールで要件を右クリックするか，テスト・ラボ・モジュールでテスト・セット・フォルダを右クリックして，[**サイクルに割り当て**]を選択します。
重要な情報	• 要件をサイクルに割り当てると，要件の[**ターゲット サイクル**]フィールドに値が入力されます。また，サイクルのリリースが[**ターゲット リリース**]フィールドに入力されます。 • テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てると，そのテスト・セットのサブフォルダが同じサイクルに自動的に割り当てられます。
関連タスク	• 「ALM の要件の使用方法」(254ページ) • 「テスト・セットを作成する方法」(576ページ) • 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	サイクル詳細の表示:選択したサイクルの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	更新:最新の情報が表示されるように，リリース・ツリーを更新します。
	フィルタ/ソート:選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
<検索ボックス>	検索するサイクルの名前を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。
	検索:リリース・ツリーで，[**検索**]ボックスで指定した値を検索します。
	ID でエンティティに移動:[サイクルに移動]ダイアログ・ボックスが開き，サイクル ID に従ってツリー内にサイクルを配置できます。
<リリース・ツリー>	リリース・モジュールにリリース・ツリーが表示されます。 ツリーを展開し，サイクルを選択します。複数のサイクルに要件を割り当てることができます。
クリア	割り当てられたサイクルを要件からクリアします。 **利用可能な場所**:要件モジュール

[リリースを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，リリース・ツリーで定義したリリースに要件を割り当てることができます。

アクセス方法	要件モジュールで，要件を右クリックして，[**リリースに割り当て**]を選択します。
重要な情報	要件をリリースに割り当てると，要件の[**ターゲット リリース**]フィールドに値が入力されます。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ)
参照情報	「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	リリースの詳細の表示 : 選択したリリースの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，リリース・ツリーを更新します。
	フィルタ/ソート : 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
<検索ボックス>	検索するリリースの名前を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。
	検索 : リリース・ツリーで，[**検索**]ボックスで指定した値を検索します。
	ID でエンティティに移動 : [リリースに移動]ダイアログ・ボックスが開き，リリース ID に従ってツリー内にリリースを配置できます。
<リリース・ツリー>	リリース・モジュールにリリース・ツリーが表示されます。 ツリーを展開し，1 つまたは複数のリリースを選択します。
クリア	割り当てられたリリースを要件からクリアします。

[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，要件，サイクル，またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリース，サイクル，またはマイルストーンを右クリックします。[**再スケジュール**]を選択します。

重要な情報	• リリースを再スケジュールすると，それに従って関連するサイクル，マイルストーン，KPI しきい値も再スケジュールされます。 • マイルストーンを再スケジュールすると，それに従って関連する KPI しきい値も再スケジュールされます。
関連タスク	• 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(150ページ) • 「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「リリースおよびサイクルの概要」(150ページ) • 「PPT リリースの概要」(172ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
開始日	リリース，サイクル，またはマイルストーンが開始される日付です。
終了日	リリースまたはサイクルが終了する日付です。 **利用可能な場所** : [リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] ダイアログ・ボックス
期限日	マイルストーンが終了する日付です。 **利用可能な場所** : [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログ・ボックス

第10章: プロジェクトの計画と追跡(PPT)リリース

本章の内容

PPTリリースの概要 172
PPTの使用方法 172
KPIタイプ 174
PPTリリース・スコープ・アイテムに含まれる不具合内容 175
PPTのユーザ・インタフェース 176

PPT リリースの概要

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) により，品質保証マネージャは，アプリケーション・リリースの作業の目標を定義し，アプリケーションの準備状況を追跡できます。

リリースごとに，リリース・スコープ・アイテムを定義します。リリース・スコープ・アイテムは，新しい機能，既存の機能に対する変更，新しいテーマなど，細分化されたリリースの一部分を指します。それぞれのスコープ・アイテムに対して，関連する要件，テスト，テスト・セット，不具合を定義します。リリース・スコープ・アイテムの進行状況を計測するには，そのアイテムをマイルストーンに関連付けます。マイルストーンは，成果物の完成を表すリリースのスケジュール上の時点を指します。マイルストーンにより，リリースの進行状況を追跡および検証できます。1 つのマイルストーンを複数のリリース・スコープ項目と関連付けることができます。

PPT は，リアルタイムの主要業績評価指標 (KPI) を使用して，定義済みマイルストーンのデータを収集および分析します。KPI とは，時間の経過に合わせて重要業績変数を追跡するように設計された定量化可能な測定値であり，品質管理活動における必要不可欠な結果を測定するためのものです。各 KPI に対して，しきい値を定義して警告の制限を設定します。

PPT では，KPI を使用してマイルストーンの準備状況データを分析し，スコアカードの形式でリリースの全体的な稼働状況やデプロイメントの準備状況を示します。スコアカードは，各マイルストーンの日々の達成状況を監視および追跡します。出力結果をさらに分析するために，ダッシュボード・レポートおよびグラフを作成できます。

ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能 」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

タスクの詳細については，「PPT の使用方法 」(172ページ) を参照してください。

PPT の使用方法

このタスクでは，リリース，リリース・スコープ，マイルストーンの定義方法，および要件定義モジュールで，リリース・スコープ・アイテムのステータスを追跡する方法を説明します。PPT の詳細については，「PPT リリースの概要 」(172ページ) を参照してください。

- ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能 」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
- **製品の機能紹介ムービー** : PPT について説明するムービーを表示するには，ALM のメイン・ウィンドウで [**ヘルプ**] > [**ムービー**] を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「リリースの定義」(173ページ)
- 「リリース・スコープ・アイテムの定義」(173ページ)
- 「マイルストーンの定義」(173ページ)
- 「進行状況の分析」(174ページ)

1. **リリースの定義**

   a. **リリース・モジュールを開きます。** ALM サイドバーで，[**管理**] の下の [**リリース**] を選択します。要件モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ) を参照してください。

   b. **フォルダを作成します。** [**リリース**] ルート・フォルダを右クリックして，[**新規リリース フォルダ**] を選択します。サブフォルダを作成するには，フォルダをクリックして，[**新規リリース フォルダ**] を選択します。

   c. **リリースを追加します。** リリース・フォルダを右クリックして，[**新規リリース**] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規リリース]/[リリース詳細] ダイアログ・ボックス」(161ページ) を参照してください。

   もしくは，テンプレート・プロジェクトにリンクされているプロジェクトで作業している場合は，リリースをテンプレート・プロジェクトからコピーして作成できます。リリース・フォルダを右クリックして，[**テンプレートからの新規リリースの作成**] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックス」(203ページ) を参照してください。

2. **リリース・スコープ・アイテムの定義**

   リリース・ツリーでリリースを選択します。[**リリース スコープ**] タブをクリックします。リリース・スコープ・アイテムを追加して，関連する要件，テスト，テスト・セット，不具合を定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリース スコープ] タブ」(178ページ) を参照してください。

3. **マイルストーンの定義**

   a. **マイルストーンを追加します。** リリース・ツリーで，リリースを右クリックして，[**新規マイルストーン**] を選択します。[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックスが開きます。マイルストーンのスケジュールを定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス」(182ページ) を参照してください。

   b. **リリース・スコープ・アイテムを割り当てます。** リリース・ツリーでマイルストーンを選択します。[**マイルストーン スコープ**] タブをクリックします。マイルストーンをリリース・スコープ・アイテムに割り当てます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[マイルストーン スコープ] タブ」(183ページ) を参照してください。

   c. **KPI の関連付けを行います。** [**KPI**] タブをクリックします。関連する PKI を設定し，それらの KPI に対するパフォーマンスの境界を設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「KPI タイプ」(174ページ) を参照してください。

4. **進行状況の分析**

- **スコアカードを表示します。** リリース・ツリーでリリースを選択します。[**スコアカード**]タブをクリックします。定義済みマイルストーンのステータスと進行状況が表示されます。[スコアカード]タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[スコアカード]タブ」(195ページ)を参照してください。

- **ガント・チャートを表示します。** リリース・ツリーでリリースを選択します。[**マスター計画**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[マスター計画]タブ」(193ページ)を参照してください。

- **PPT グラフを作成します。** グラフの生成方法の詳細については、「PPT グラフを生成する方法」(834ページ)を参照してください。

KPI タイプ

この項では、システム定義 KPI のタイプについて説明します。

重要な情報	システム定義 KPI を変更して、プロジェクトに追加のユーザ定義 KPI を追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は、ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については、「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者に問い合わせてください。

KPI タイプは次のとおりです。

KPI タイプ	説明
作成されたテスト	計画ステータスが[**準備完了**]に設定されているテストの数を算出します。
自動化テスト	自動テストの割合を算出します。
カバー済み要件	1 つ以上のテストでカバーされている要件の割合を算出します。
1 日あたりの修正不具合	1 日あたりの修正不具合の数を算出します。
成功要件	カバーするテストの実行ステータスが[**成功**]になっている要件の割合を算出します。
成功テスト	最後の実行の実行ステータスが[**成功**]になっているテストの割合を算出します。

KPI タイプ	説明
却下された不具合	却下された不具合の割合を算出します。
レビュー済み要件	レビュー済みのビジネスまたは機能の要件の割合を算出します。
重大な不具合	ステータスが[**新規**]，[**修正中**]，または[**要再修正**]の不具合のうち，重要度レベルが[**5 - 緊急**]または[**4 - 非常に高い**]と割り当てられている不具合の数を算出します。
実行済みテスト・インスタンス	実行済みテスト・インスタンスの割合を算出します。
実行済みテスト	実行済みテストの割合を算出します。

PPT リリース・スコープ・アイテムに含まれる不具合内容

PPT リリースを使用する場合は，要件，テスト，テスト・セット，不具合をリリース・スコープ・アイテムの内容に追加できます。ALM は，その内容に基づいて，スコアカードを計算し，PPT リリースの準備状況を示します。リリース・スコープ・アイテムに内容を追加するには，リリース・モジュール> [リリース スコープ] タブ> [コンテンツ] タブを使用します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリース スコープ] タブ」(178ページ) を参照してください。

どのテストおよびテスト・セットを含めるかで，対象とする不具合内容が異なることがあります。

次の表に，リリース・スコープ・アイテムの不具合内容とともに含まれる関連エンティティが，テストとテスト・セットに対して選択される内容に基づいて，どのように決定されるかを示します。

テストの選択オプション	テスト・セットの選択オプション	[選択した要件、テスト、テスト セット (およびそれに関連するエンティティ) にリンクされている不具合]オプションを選択する場合に含められる不具合内容
選択したフォルダにあるテスト (フィルタ: ありまたはなし)	**選択したフォルダ内のテスト・セット** (フィルタ: ありまたはなし)	選択した要件，テスト，テスト・セット (およびそれに関連するテスト・インスタンス，実行，実行ステップ) にリンクされている不具合
選択したフォルダにあるテスト (フィルタ: ありまたはなし)	**選択したテストを含むテスト・セット**	選択した要件にリンクされている不具合 選択したテストにリンクされている不具合か，選択したテストのテスト・インスタンスを持つテスト・セットにリンクされている不具合か，そのようなテスト・インスタンスに関連付けられた実行および実行ステップにリンクされている不具合

テストの選択オプション	テスト・セットの選択オプション	[選択した要件、テスト、テスト セット (およびそれに関連するエンティティ) にリンクされている不具合]オプションを選択する場合に含められる不具合内容
選択した要件をカバーするテスト	**選択したフォルダ内のテスト・セット** (フィルタ: ありまたはなし)	選択した要件にリンクされている不具合か, 選択した要件をカバーするテストにリンクされている不具合 選択したテスト・セット (およびそれに関連するテスト・インスタンス, 実行, 実行ステップ) にリンクされている不具合
選択した要件をカバーするテスト	**選択したテストを含むテスト・セット**	選択した要件にリンクされている不具合か, 選択した要件をカバーするテストにリンクされている不具合 選択した要件のリンク済みテストのテスト・インスタンスを持つテスト・セットにリンクされている不具合か, そのようなテスト・インスタンスに関連付けられた実行および実行ステップにリンクされている不具合

PPT のユーザ・インタフェース

本項の内容

PPT フィールド 177
[リリース スコープ]タブ 178
[新規スコープ アイテム]/[スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックス 181
[新規マイルストーン]ダイアログ・ボックス 182
[マイルストーン スコープ]タブ 183
[KPI]タブ 185
[新規 KPI]/[KPI 詳細]ダイアログ・ボックス 187
[しきい値]ページ 190
[新規しきい値]ダイアログ・ボックス 192
[マスター計画]タブ 193
[マイルストーン詳細]ダイアログ・ボックス 194
[スコアカード]タブ 195
KPI ドリルダウン・グラフ 197
[KPI のドリルダウン結果]ダイアログ・ボックス 198
経過時間ごとのブレークダウン・グラフ 200
[スコアカード レイアウト]ダイアログ・ボックス 202
[テンプレートからの新規リリースの作成]ダイアログ・ボックス 203

PPT フィールド

本項では，リリース・モジュールの PPT フィールドについて説明します。

重要な情報	• リリース・モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，フィールドのラベルの変更ができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，リリース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「[リリース スコープ] タブ」(178ページ) • 「[マスター計画] タブ」(193ページ) • 「[スコアカード] タブ」(195ページ) • 「PPT リリースの概要」(172ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
期限日	マイルストーンが終了する日付です。
KPI タイプ	KPI のタイプ。詳細については，「KPI タイプ」(174ページ) を参照してください。
ラベル	[マスター計画] タブのグラフに表示されるリリース・スコープ・アイテムの名前です。
マイルストーン ID	ALM によってマイルストーンに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。マイルストーン ID は読み取り専用です。
更新日時	リリース・スコープ・アイテムまたはマイルストーンが最後に更新された日時です。 **標準設定値 :** データベース・サーバの日付と時刻
名前	リリース・スコープ・アイテムまたはマイルストーンの名前です。
所有者	リリース・スコープ・アイテムの所有者のユーザ名です。

UI 要素	説明
優先度	低い優先度 (レベル 1) ～ 高い優先度 (レベル 3) の範囲で表す，リリース・スコープ・アイテムの優先度です。
リリース終了日	リリースが終了する日付です。
リリース ID	ALM によってリリースに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。リリース ID は読み取り専用です。
リリース開始日	リリースが開始される日付です。
スコープ・アイテム ID	リリース・スコープ・アイテムに自動的に割り当てられる一意の英数字の ID です。このフィールドは変更できません。
追跡開始日	マイルストーンが開始される日付です。

[リリース スコープ] タブ

このタブでは，リリース・スコープ・アイテムを定義および更新できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリースを選択して [**リリース スコープ**] タブをクリックします。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規スコープ・アイテム : [新規スコープ アイテム] ダイアログ・ボックスが開き，リリース・スコープ・アイテムを定義できます。詳細については，「[新規スコープ アイテム] /[スコープ アイテム詳細] ダイアログ・ボックス」(181ページ) を参照してください。
	削除 : 選択したリリース・スコープ・アイテムを削除します。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，リリース・スコープ・グリッドを更新します。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, リリース・スコープ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については, 「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	フィルタ/ソート : 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については, 「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	スコープ・アイテムの詳細 : [スコープアイテムの詳細] ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリリース・スコープ・アイテムの詳細を表示できます。詳細については, 「[新規スコープアイテム]/[スコープアイテム詳細] ダイアログ・ボックス」(181ページ) を参照してください。
	表示/非表示 : [説明] タブおよび [コンテンツ] タブの表示と非表示を切り替えます。

UI 要素	説明
[コンテンツ]タブ	リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツを選択できます。次のタブが含まれます。 ● **要件** : 要件ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含める要件を選択します。 ● **テスト** : テスト計画ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含めるフォルダ/テストを選択します。 [要件]タブで選択した要件がカバーするテストのみを含めるには，[**選択した要件をカバーするテスト**]を選択します。 ● **テスト・セット** : テスト・セット・ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含めるテスト・セット・フォルダを選択します。 [テスト]タブで選択したテストを含むテスト・セットのみを含めるには，[**選択したテストを含むテスト セット**]を選択します。 ● **不具合** : 次のいずれかを行います。 ■ リリース・スコープ・アイテムに含める不具合を決定するフィルタを定義するには，[**定義されたフィルタによって選択された不具合**]を選択します。 ■ 選択した要件，テスト，テスト・セットにリンクしている不具合のみを含めるには，[**選択した要件、テスト、テスト セット (およびそれに関連するエンティティ) にリンクされている不具合**]を選択します。 **注 :** 不具合とテスト・セットの間のリンクには，次のアイテムへの間接リンクも含まれます。 ○ テスト・インスタンス ○ 実行 ○ ステップ 対象とする不具合および関連付けられたエンティティが，ALM でどのように決定されるかについては，「PPT リリース・スコープ・アイテムに含まれる不具合内容」(175ページ) を参照してください。
[説明]タブ	リリース・スコープ・アイテムの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

[新規スコープ アイテム]/[スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，リリース・スコープ・アイテムを定義および更新できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • [**リリース スコープ**]タブで，リリース・スコープ・グリッドを右クリックして，[**新規スコープ アイテム**]を選択します。[新規スコープ アイテム]ダイアログ・ボックスが開きます。 • [**リリース スコープ**]タブで，リリース・スコープ・アイテムを右クリックして，[**スコープ アイテムの詳細**]を選択します。[スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ : リリース・スコープ・アイテムを参照できます。 **利用可能な場所** : [スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックス
	すべてのフィールドをクリア : ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。 **利用可能な場所** : [新規スコープ アイテム]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
名前	リリース・スコープ・アイテムの名前です。
詳細	リリース・スコープ・アイテムの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「PPT フィールド」(177ページ) を参照してください。
コンテンツ	リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツが表示されます。次のタブが含まれます。 • **要件** : 要件ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含める要件を選択します。 • **テスト** : テスト計画ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含めるフォルダ/テストを選択します。 [要件] タブで選択した要件がカバーするテストのみを含めるには，[**選択した要件をカバーするテスト**] を選択します。 • **テスト・セット** : テスト・セット・ツリーを表示します。 ツリーを展開して，リリース・スコープ・アイテムに含めるテスト・セット・フォルダを選択します。 [テスト] タブで選択したテストを含むテスト・セットのみを含めるには，[**選択したテストを含むテスト セット**] を選択します。 • **不具合** : 不具合グリッドを表示します。 リリース・スコープ・アイテムに含める不具合を決定するフィルタを定義します。
説明	リリース・スコープ・アイテムの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，マイルストーンを定義および更新できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリースを右クリックして，[**新規マイルストーン**] を選択します。

重要な情報	リリースごとに定義できるマイルストーンの数を制限するには，「サイト管理」の[サイト設定]タブで **MAX_MILESTONES_PER_RELEASE** パラメータを使用します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。 **利用可能な場所** : [新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	マイルストーンの名前。
詳細	マイルストーンの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「PPT フィールド」(177ページ) を参照してください。
説明	マイルストーンの説明です。

[マイルストーン スコープ] タブ

このタブでは，マイルストーンをリリース・スコープ・アイテムに関連付けできます。

アクセス方法	マイルストーンを選択します。[**マイルストーン スコープ**] タブをクリックします。

重要な情報	リリースごとに定義できるスコープ・アイテムの数を制限するには，「サイト管理」の［サイト設定］タブで **MAX_SCOPE_ITEMS_PER_RELEASE** パラメータを使用します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「［リリース モジュール］ウィンドウ」(153ページ)

マイルストーン・スコープ・グリッド

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
選択	**スコープ・アイテムを選択** : ［スコープ］表示枠が開き，リリース・スコープ・アイテムを選択できます。
	スコープ・アイテムを削除 : 選択したスコープ・アイテムをグリッドから削除します。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，マイルストーン・スコープ・グリッドを更新します。
	カラムの選択 : ［カラムの選択］ダイアログ・ボックスが開き，マイルストーン・スコープ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「［カラムの選択］/［フィールドの選択］ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	フィルタ/ソート : 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については，「［フィルタ］ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。

[スコープ] 表示枠

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	スコープ・アイテムの追加 : 選択したリリース・スコープ・アイテムをマイルストーン・スコープ・グリッドに追加します。 **ヒント :** リリース・スコープ・アイテムを, スコープ・アイテム・グリッドからマイルストーン・スコープ・グリッドにドラッグして追加することもできます。
	スコープ・ アイテムの詳細 : 選択したスコープ・アイテムの[詳細] ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	すべて更新 : スコープ・アイテム・グリッドを更新します。
	検索 : スコープ・アイテム・グリッドで, 特定のリリース・スコープ・アイテムを検索します。 [検索] ボックスにリリース・スコープ・アイテムの名前 (または名前の一部) を入力して, [**検索**] をクリックします。検索が成功すると, スコープ・アイテム・グリッドでリリース・スコープ・アイテムが強調表示されます。
	フィルタ/ソート : スコープ・アイテム・グリッドで, リリース・スコープ・アイテムをフィルタ処理およびソートします。詳細については, 「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については, 「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	ID でスコープ・アイテムに移動 : [スコープアイテムへ移動] ダイアログ・ボックスが開き, [**スコープ アイテム ID**] で特定のテストを検索できます。 **注 :** 現在のフィルタに存在するリリース・スコープ・アイテムにのみ移動できます。

[KPI] タブ

このタブでは, マイルストーン・スコープの追跡のための KPI の定義や, KPI しきい値の設定を行うことができます。

アクセス方法	マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。

重要な情報	• 標準設定の KPI をカスタマイズして，独自の KPI を作成することも可能です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • マイルストーンごとに定義できる KPI の数を制限するには，「サイト管理」の[サイト設定]タブで **MAX_KPIS_PER_MILESTONE** パラメータを使用します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • KPI ごとに定義できるしきい値の数を制限するには，「サイト管理」の[サイト設定]タブで **MAX_THRESHOLD_VALUES_PER_KPI** パラメータを使用します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

メイン領域

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
KPI の追加	[KPIs]表示枠が開き，KPI を選択できます。
	KPI を削除 : 選択した KPI を新規マイルストーン・グリッドから削除します。
	KPI 詳細の表示 : [KPI 詳細]ダイアログ・ボックスが開き，KPI およびしきい値を更新できます。詳細については，「[新規 KPI]/[KPI 詳細]ダイアログ・ボックス」(187ページ) を参照してください。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
KPI の選択	選択した KPI のしきい値を表示します。 このオプションは，単一のセルを選択すると有効になります。
有効化	選択した KPI を定義済みマイルストーン・スコープに含めます。

UI 要素	説明
無効化	選択した KPI を定義済みマイルストーン・スコープから除外します。
KPI として作成	[新規 KPI]ダイアログ・ボックスが開き，選択した KPI に基づいて新しい KPI を作成できます。詳細については，「[新規 KPI]/[KPI 詳細]ダイアログ・ボックス」(187ページ) を参照してください。
	表示/非表示 : [しきい値]表示枠の表示と非表示を切り替えます。
[しきい値]表示枠	選択した KPI のしきい値を管理できます。詳細については，「[しきい値] ページ」(190ページ) を参照してください。

[KPIs]表示枠

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	KPI の追加 : 選択した KPI を，メイン領域の[KPI]タブに追加します。
	KPI 定義の詳細を表示 : 選択した KPI の[KPI 定義の詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	検索 : KPI グリッドで特定の KPI を検索します。 [検索]ボックスに KPI の名前 (または名前の一部) を入力して，[**検索**]をクリックします。検索が成功すると，KPI グリッドで KPI が強調表示されます。
	フィルタ/ソート : KPI グリッドで KPI をフィルタ処理およびソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。

[新規 KPI]/[KPI 詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，KPI を定義および更新できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**]タブをクリックします。[**KPI として作成**]をクリックします。[新規 KPI]ダイアログ・ボックスが開きます。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**]タブをクリックします。[**KPI 詳細の表示**] をクリックします。[KPI の詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。

重要な情報	• マイルストーンごとに定義できる KPI の数を制限するには,「サイト管理」の[サイト設定]タブで **MAX_KPIS_PER_MILESTONE** パラメータを使用します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • KPI ごとに定義できるしきい値の数を制限するには,「サイト管理」の[サイト設定]タブで **MAX_THRESHOLD_VALUES_PER_KPI** パラメータを使用します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は, ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については,「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「KPI タイプ」(174ページ) • 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

共通要素

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア : ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。 **利用可能な場所** : [新規 KPI] ダイアログ・ボックス
	KPI タイプ定義の表示 : [KPI タイプ定義] ダイアログ・ボックスが開き, 選択した KPI に関する追加情報を表示できます。
	スペル・チェック : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
KPI ID	自動的に KPI に割り当てられる一意の英数字の ID。KPI ID フィールドは変更できません。
名前	KPI の名前。

[詳細] ビュー

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
KPI タイプ	KPI のタイプ。利用できる KPI の詳細については、「KPI タイプ」(174ページ) を参照してください。
KPI タイプの詳細の表示	選択した KPI の詳細を表示します。
説明	選択した KPI の説明。

[オプション フィルタ] ビュー

このビューでは、各マイルストーン・スコープ・アイテムのエンティティの数を絞り込むことができます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	フィルタ/ソートの設定 : 選択した条件に従って KPI データを限定できます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	フィルタのクリア : 定義したフィルタをクリアします。
KPI タイプの詳細の表示	選択した KPI の詳細を表示します。

[しきい値] ビュー

このビューでは、選択した KPI のしきい値を管理できます。詳細については、「[しきい値] ページ」(190ページ) を参照してください。

[しきい値] ページ

この表示枠では，選択した KPI のしきい値を管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。[**KPI として作成**] をクリックします。[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開きます。[**しきい値**] をクリックします。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。[**KPI 詳細の表示**] をクリックします。[KPI の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[**しきい値**] をクリックします。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。下部に [しきい値] 表示枠が表示されます。
重要な情報	• KPI の標準設定のしきい値は変更できません。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • KPI ごとに定義できるしきい値の数を制限するには，「サイト管理」の [サイト設定] タブで **MAX_THRESHOLD_VALUES_PER_KPI** パラメータを使用します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
しきい値の追加	[新規しきい値] ダイアログ・ボックスが開き，選択した KPI のしきい値を定義できます。詳細については，「[新規しきい値] ダイアログ・ボックス」(192ページ) を参照してください。
しきい値の削除	選択したしきい値をしきい値グリッドから削除します。

UI 要素	説明
デフォルトしきい値の復元	標準設定の KPI しきい値を復元します。
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように，新規しきい値グリッドを更新します。
日付	しきい値の日付。
良好 (より高い)	値が[**良好 (OK)**]より小さく警告の制限より大きい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が警告の制限より小さい場合は，致命的な KPI 状態を示します。
良好 (より低い)	値が[**良好 (より低い)**]より大きく警告の制限より小さい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が警告の制限より大きい場合は，致命的な KPI 状態を示します。
警告範囲 (%)	KPI の警告範囲を決定します。 値が[**良好 (OK)**]より小さく警告の制限より大きい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が[**良好 (より低い)**]より大きく警告の制限より小さい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。
しきい値プレビュー	マイルストーン期間の選択した KPI のしきい値の視覚的なインジケータが表示されます。 しきい値は次のように色分けされています。 • **緑色** : 良好な KPI 状態を示します。 • **黄色** : 許容範囲または警告 KPI 状態であることを示します。 • **赤色** : 正常でない KPI 状態を示します。

[新規しきい値] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，選択した KPI のしきい値を設定できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。[**KPI として作成**] をクリックします。[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開きます。[**しきい値**] をクリックします。[**しきい値の追加**] をクリックします。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。[**KPI 詳細の表示**] をクリックします。[KPI の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[**しきい値**] をクリックします。[**しきい値の追加**] をクリックします。 • マイルストーンを選択します。[**KPI**] タブをクリックします。下部に [しきい値] 表示枠が表示されます。[**しきい値の追加**] をクリックします。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
日付	しきい値の日付。
良好 (より高い)	値が [**良好 (より高い)**] より小さく警告の制限より大きい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が警告の制限より小さい場合は，致命的な KPI 状態を示します。
良好 (より低い)	値が [**良好 (より低い)**] より大きく警告の制限より小さい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が警告の制限より大きい場合は，致命的な KPI 状態を示します。

UI 要素	説明
警告範囲 (%)	KPI の警告範囲を決定します。 値が[**良好 (より高い)**]より小さく警告の制限より大きい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。 値が[**良好 (より低い)**]より大きく警告の制限より小さい場合は，警告 KPI 状態であることを示します。

[マスター計画]タブ

このタブでは，リリースの進行状況がガント・チャートで表示されます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリースを選択して[**マスター計画**]タブをクリックします。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	詳細の表示 : 選択したエンティティに応じて，該当する[詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。サイクル，マイルストーン，リリース・スコープ・アイテムを選択できます。 サイクルの詳細については，「[新規サイクル]/[サイクル詳細]ダイアログ・ボックス」(163ページ) を参照してください。 マイルストーンの詳細については，「[マイルストーン詳細]ダイアログ・ボックス」(194ページ) を参照してください。 リリース・スコープ・アイテムの詳細については，「[新規スコープ アイテム]/[スコープ アイテム詳細]ダイアログ・ボックス」(181ページ) を参照してください。 **ヒント :** グラフ上のエンティティをダブルクリックすることもできます。該当する[詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。
	更新 : グラフを更新します。

UI 要素	説明
	再スケジュール: 要件，サイクル，またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。詳細については，「[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログ・ボックス」(169ページ) を参照してください。
	ズームイン/ズームアウト : グラフの表示倍率を変更します。
	リリース全体の表示 : グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは，[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。
	全画面表示ビュー: 新しいウィンドウでグラフを開き，表示を最大化します。

[マイルストーン詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，マイルストーンを表示および更新できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • リリース・モジュールで，リリースを選択して [**マスター計画**] タブをクリックします。グラフ上のマイルストーンをダブルクリックします。 • リリース・モジュールで，マイルストーンを右クリックして，[**詳細**] を選択します。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典 : 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
マイルストーン ID	ALM によってマイルストーンに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。マイルストーン ID は読み取り専用です。
名前	マイルストーンの名前。
詳細	マイルストーンの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「PPT フィールド」（177ページ）を参照してください。
マイルストーン・スコープ	リリース・スコープ・アイテムを表示および更新できます。詳細については，「［マイルストーン スコープ］タブ」（183ページ）を参照してください。
KPI	KPI の定義およびしきい値の設定ができます。詳細については，「［KPI］タブ」（185ページ）を参照してください。
添付	新しいマイルストーンに関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。詳細については，「［添付］ページ」（94ページ）を参照してください。
履歴	変更時に変更が加えられたフィールドを表示できます。詳細については，「［履歴］タブ」（88ページ）を参照してください。
説明	マイルストーンの説明です。

［スコアカード］タブ

このタブでは，KPI 計算結果が表示され，リリースのステータスを判断できます。各 KPI セルの詳細アナリシスを表示し，計算結果をグラフとして表示できます。KPI データに寄与したエンティティの詳細を表示することもできます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリースを選択して［**スコアカード**］タブをクリックします。
重要な情報	［**スコアカード**］タブに進行状況を表示させるには，プロジェクトに対して計算を実行する必要があります。計算を自動または手動で実行するよう，スケジュール設定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」（172ページ）

参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ) • 「[表示] タブ - PPT グラフ」(838ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
生成	最新の情報が表示されるように, スコアカード・テーブルを更新します。 スコアカード・テーブルの詳細については, 「[表示] タブ - PPT グラフ」(838ページ) を参照してください。 **注 :** KPI は, 毎日定義された時間に計算されます。マイルストーンは, 期限日に達したときに計算されます。
スコアカード レイアウト	**スコアカード・レイアウト** : [スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックスが開き, スコアカード・テーブルを設定できます。詳細については, 「[スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックス」(202ページ) を参照してください。
	グラフ画像の保存 : スコアカード・テーブルを画像として保存します。
	全画面表示 : スコアカード・テーブルを全画面モードで表示します。
KPI アナリシスの表示	プロジェクト・カスタマイズで定義されている選択したセルの KPI アナリシスが開きます。詳細については, 「KPI ドリルダウン・グラフ」(197ページ) を参照してください。
KPI 分子 KPI 分母	KPI 値に寄与したエンティティの詳細が表示される [結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 「[KPI のドリルダウン結果] ダイアログ・ボックス」(198ページ) を参照してください。 **例 :** リリース・スコープ・アイテムに 50 件の不具合が含まれ, そのうち 10 個が却下されている場合, 却下された不具合 KPI の値は 20% になります。却下された不具合の詳細のみ表示するには, [**KPI 分子**] をクリックします。すべての不具合の詳細を表示するには, [**KPI 分母**] をクリックします。 **注 :** [**KPI 分母**] は, パーセンテージ KPI タイプにのみ利用できます。
<KPI セル>	KPI セルの上にマウスを置くと, KPI のしきい値を示すツールヒントが表示されます。

KPI ドリルダウン・グラフ

このグラフでは，KPI セルの計算が表示されます。上部領域には KPI 計算の時間変化が表示されます。下部領域には KPI の内訳計算が表示されます。

アクセス方法	1. リリース・モジュールで，リリースを選択して［**スコアカード**］タブをクリックします。 2. KPI セルを選択します。 3. ［スコアカード］タブのツールバーで，［**KPI アナリシスの表示**］をクリックします。
重要な情報	グラフ・ページには，2 つまでの追加のグラフを含めることができます。このページをカスタマイズして，これらの追加のグラフを表示するかどうかを決定できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「［リリース モジュール］ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
	PDF にエクスポート : ［名前を付けて保存］ダイアログ・ボックスが開き，グラフを PDF として保存できます。
	すべてのグラフをページに生成/グラフを生成 : 最新の情報が表示されるように，ページ内のすべてのグラフを更新します。
	ページを全画面で表示 : ダッシュボード・ページを全画面モードで表示します。 **グラフを全画面で表示** : グラフを全画面モードで表示します。
マイルストーン	選択したマイルストーンの名前です。
マイルストーン・スコープ・アイテム	選択したマイルストーン・スコープ・アイテムの名前です。

UI 要素	説明
最終の KPI 日付	KPI が最後に計算された日付を示します。
<グラフ領域>	グラフのセグメント上にマウス・カーソルを合わせると，追加情報を含むヒントが表示されます。
[経過時間ごとのブレークダウン]リンク	クリックしてグラフのデータをドリル・ダウンし，一定時間内の特定の時点を表示します。経過時間ごとのブレークダウン・グラフが表示されます。詳細については，「経過時間ごとのブレークダウン・グラフ」(200ページ) を参照してください。 **利用可能な場所** : ページ下部のグラフ領域から利用できます。

[KPI のドリルダウン結果] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，KPI 値に寄与したエンティティの最新の詳細情報が表示されます。表示された情報は，KPI のパーセント結果をもたらす分子または分母の値，あるいは KPI カウント結果をもたらす分子または分母の値のいずれかを示します。

アクセス方法	1. リリース・モジュールで，リリースを選択して [**スコアカード**] タブをクリックします。 2. [スコアカード] ツールバーで KPI セルを選択し，[**KPI 分子**] または [**KPI 分母**] (KPI がパーセンテージ・タイプの場合) をクリックします。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスには，エンティティが元の KPI 計算以降に変更された場合でも，エンティティの最新情報が表示されます。このため，表示される情報が KPI 値と矛盾する可能性があります。 • システムから削除されたエンティティは表示されません。 ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能 」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法 」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要 」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，データ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	エクスポート : [グリッド データのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。レコードをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて** : グリッドのすべてのレコードをエクスポートします。 • **選択** : グリッド内で選択したレコードをエクスポートします。
<セグメント・パラメータ>	データ・グリッドの上にあり，ドリル・ダウン・タイプと表示されているレコードの数を示します。
<データ・グリッド>	選択した KPI 値に含まれている分子レコードまたは分母レコードのリストです。 特定のレコードを開くには，レコードをダブルクリックします。[< モジュール> の詳細] ダイアログ・ボックスが開き，レコードを表示または編集できます。ナビゲーション・ボタンを使用して，ドリルダウン結果を参照します。

経過時間ごとのブレークダウン・グラフ

このグラフでは，一定時間内の特定の時点が表示されます。

アクセス方法	**リリース・モジュールで，次を行います。** 1. リリース・モジュールで，リリースを選択して［**スコアカード**］タブをクリックします。 2. KPI セルを選択します。 3. ［スコアカード］タブのツールバーで，［**KPI アナリシスの表示**］をクリックします。KPI ドリルダウン・グラフが開きます。 4. KPI グラフ・ページの下部で，［**経過時間ごとのブレークダウン**］リンクをクリックします。 **ダッシュボード・モジュールで，次を行います。** 1. ［**アナリシス ビュー**］を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，［**KPI 内訳**］または［**リリース スコアカード**］のいずれかのグラフを選択します。 3. ［**表示**］タブをクリックします。 4. KPI 内訳グラフで，［**経過時間ごとのブレークダウン**］リンクをクリックします。 リリース・コアカードの場合は，KPI セルをクリックします。KPI グラフ・ページの下部で，［**経過時間ごとのブレークダウン**］リンクをクリックします。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「［リリース モジュール］ウィンドウ」(153ページ) • 「KPI ドリルダウン・グラフ」(197ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
生成	グラフを更新して最新情報を表示します。
	線グラフ: グラフ形式を線グラフに切り替えます。
	データ・グリッド : グラフの X 軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリクスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される**合計**行が追加されています。
	合計値を表示/非表示 : ほかの[グループ分け]カテゴリすべての合計を表す**＜合計＞**カテゴリのグラフへの表示/非表示を切り替えます。 **ヒント: ＜合計＞**カテゴリを表示した後，凡例でそのラベルをクリックすると，カテゴリが非表示になります。
	左へスクロール/右へスクロール: グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは，[ズームイン]ボタンまたは[ズームアウト]ボタンを使用している場合に有効になります。
	すべて表示 : グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは，[ズームイン]ボタンまたは[ズームアウト]ボタンを使用している場合に有効になります。
	ズームイン/ズームアウト : グラフの表示倍率を変更します。
	グラフ画像の保存 : 棒グラフ，円グラフ，線グラフを表示しているときに，グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式を選択できます。 **グラフ・データの保存** : データ・グリッドを表示している場合に，グラフ・データを保存します。データは，Excel スプレッドシート，Word ファイル，HTML ドキュメント，またはテキスト・ファイルとして保存できます。
	グラフの外観を設定 : [グラフ表示形式の設定]ダイアログ・ボックスが開き，グラフのタイトル，色，表示をカスタマイズできます。詳細については，「[グラフの外観]ダイアログ・ボックス」(830ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	グラフをクリップボードにコピー: 次のオプションがあります。 • **グラフのコピー(カラー)** : グラフをカラーでクリップボードにコピーします。 • **グラフのコピー(モノクロ)** : グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー(カラー)** : グラフを全画面に合うように拡大して，カラーでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー(モノクロ)** : グラフを全画面に合うように拡大して，モノクロでクリップボードにコピーします。
	グラフの印刷 : 次のオプションがあります。 • **グラフの印刷 (カラー)** : グラフをカラーで印刷します。標準設定では，このボタンが選択されています。 • **グラフの印刷 (モノクロ)** : グラフをモノクロで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷 (カラー)** : グラフとその説明をカラーで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷 (モノクロ)** : グラフとその説明をモノクロで印刷します。
<グラフ領域>	グラフのセグメント上にマウス・カーソルを合わせると，追加情報を含むヒントが表示されます。
<凡例>	グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。カテゴリをクリックして，グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えます。

[スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，スコアカード・テーブルを設定できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリースを選択して [**スコアカード**] タブをクリックします。[**スコアカード レイアウト**] ボタンをクリックします。
重要な情報	ALM のエディション : PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
行	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムの行が表示されます。
	スコアカード・レイアウトに表示される行またはカラムの名前の順序を設定します。
	選択した名前を，[**行**]と[**カラム**]の間で移動します。
カラム	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムのリストが表示されます。
フィールド別にスコープ・アイテムをグループ化	指定したスコープ・アイテム・フィールドに従ってグループ分けを行います。
計画 KPI 目標値を表示	スコアカード・テーブルの[**計画**]カラムに，許容範囲の KPI しきい値を表示します。 **注 :** [**計画**]カラムは，このオプションが有効になっている場合のみ表示されます。
	選択した条件に従って，[**マイルストーン**]，[**スコープ アイテム**]，または[**KPI**]のデータを絞り込んだり，ソートしたりできます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	定義済みフィルタをクリアします。
	標準設定のフィルタ定義を復元します。

[テンプレートからの新規リリースの作成]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テンプレート・プロジェクトの既存のリリースをコピーして，新規リリースを作成できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで，リリース・フォルダを右クリックして，[**テンプレートからの新規リリースの作成**] > [**テンプレートからの新規リリースの作成**]を選択します。

重要な情報	• **テンプレート・プロジェクトからコピーされるリリース・プロパティ**: 説明, 開始日/終了日, サイクル, マイルストーン, KPI, KPI しきい値, 添付ファイル, ユーザ定義フィールド。 • **テンプレート・プロジェクトからコピーされないリリース・プロパティ**: リリース・スコープ, マイルストーン・スコープ, ほかのモジュー の ALM エンティティへのリンク。 • 新規リリースを作成した後, コピーされた日付を更新する必要があります。 • [テンプレートからの新規リリースの作成] オプションは, テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで利用できます。テンプレート・プロジェクトのリンクと同期化の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ALM のエディション: PPT に関連する機能は, ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については, 「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「PPT の使用方法」(172ページ)
参照情報	• 「PPT リリースの概要」(172ページ) • 「[リリース モジュール] ウィンドウ」(153ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テンプレート・リリース	テンプレート・プロジェクトから利用できるリリースが表示されます。 ツリーを展開し, リリースを選択します。
リリース名	新規リリースの名前です。 **注 :** リリース名がすでにリリース・モジュールに存在する場合は, リリース名に「**_コピー**」という接尾語が付加されます。

第11章: ライブラリおよびベースライン

本章の内容

ライブラリの概要 206
ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法 210
ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース 214

ライブラリの概要

ALM のエディション : 本章で説明するライブラリ・モジュールの機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ライブラリ・モジュールでは，階層形式のライブラリ・ツリーを定義し，ライブラリの作成や管理を行います。「**ライブラリ**」とは，プロジェクト内にある複数のエンティティのグループと，エンティティ間の関係を表します。ライブラリ内のエンティティには，要件，テスト，テスト・リソース，ビジネス・コンポーネントがあります。

ライブラリを作成したら，ベースラインを作成し，一定時間内にプロジェクトに加えられた変更を追跡できます。「**ベースライン**」とは，ある特定の時点でのライブラリのスナップショットです。ベースラインは，アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。

ベースラインの履歴を表示することにより，一定時間内にライブラリの個別のエンティティに加えられた変更を追跡できます。開発が継続する間，ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較できます。

ライブラリをインポートすることもできます。ライブラリをインポートすることにより，既存のエンティティのセットの再利用や共有ができます。開発が進むに従い，ライブラリを比較および同期化できます。詳細については，「インポートされたライブラリの概要」(234ページ) を参照してください。

ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は，ALM Edition および Performance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ライブラリとベースラインの作成および管理には，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

本項の内容

- 「ベースラインの概要」(207ページ)
- 「固定されたテスト・セット」(208ページ)

タスクの詳細については，「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ) を参照してください。

ベースラインの概 要

ライブラリを作 成したら，ベースラインを作 成 できます。ベースラインとは，特 定 の時 点 で取 得したライブラリのスナップショットです。ベースラインを使 用して，アプリケーション開 発ライフサイクルにおける任 意 の重 要 なマイルストーンをマークできます。ベースラインには，要 件 ，テスト，テスト・リソースなど，ライブラリ内 で定 義 されたすべてのエンティティが含 まれます。また，ベースラインには次 も含 まれます。

- トレーサビリティやカバレッジなど，ライブラリ内 のエンティティ間 の関 係
- 呼 び出 されたテスト やテスト・リソースなど，ライブラリ内 のテストを実 行 するために必 要 となるライブラリ外 の関 連 エンティティ

ベースラインを使 用することによって，時 間 の経 過 とともにプロジェクトに対して行 われた変 更 の内 容 を記 録しておくことができます。ベースラインは，次 のいずれかの方 法 で利 用 できます。

- アプリケーション開 発ライフサイクルのあらゆる段 階 でベースラインを比 較します。たとえば，ライブラリ内 の 2 つのベースラインを比 較して，一 定 時 間 内 に要 件 に加 えられた変 更 の影 響 を評 価 できます。さらに検 証 結 果 に基 づいて，プロジェクトで行 うテストを更 新 することができます。また，ベースラインは，ライブラリ内 にある現 在 のエンティティと比 較 することもできます。
- テスト・セットをベースラインに設 定 これにより，セスト・セットを実 行 すると，指 定 したベースラインに格 納 されたテストのバージョンが実 行 されるようになります。詳 細 については，「固 定 されたテスト・セット」(208ページ) を参 照 してください。
- ベースラインを使 用してライブラリ内 のエンティティを共 有 します。これにより，ライブラリのエンティティをプロジェクト内 または別 のプロジェクトで再 利 用 できます。エンティティを共 有 または再 利 用 するには，ライブラリをインポートします。ライブラリにはベースラインが含 まれている必 要 があります。ライブラリのインポートの詳 細 と制 限 事 項 については，「インポートされたライブラリの概 要」(234ページ) を参 照 してください。

> ALM のエディション : インポートされたライブラリの機 能 は，ALM Edition および Performance Center Edition で利 用 できます。ALM エディションとその機 能 の詳 細 については，「エディションごとの ALM の機 能」(140ページ) を参 照 してください。使 用 している ALM のエディションを調 べるには，ALM サイト管 理 者 に問 い合 わせてください。

ベースラインの例

次 の例 は，ベースラインの使 用 方 法 を示 します。

- **リリース内 容 の設 定 と関 係 者 の承 認**

  組 織 でアプリケーションの新 しいバージョンの開 発 を開 始 します。ビジネス・アナリストの Robert は，確 認 のために関 係 者 に一 連 の要 件 を紹 介 します。要 件 が確 認 され，承 認 されたら，ベースラインを作 成 します。その後 ，関 係 者 は合 意 したリリース内 容 を承 認 できます。

- **変更の監視**

  製品マネージャの Kelly は，予期していない方法で製品開発が行われていることに気づきます。彼女は，製品の要件を確認して一部が変更されていることを見つけます。現在の要件と，リリースの開始時に作成，承認されたベースラインの要件とを比較します。

- **変更の影響を評価**

  QA テスト担当者の Michael は，最新のアプリケーションのリリースの一部である大規模なテストを受け持ちます。彼は，リリースの要件に従ってテストの一部を更新します。最新の要件確認の打ち合わせに従って，一部の要件の変更を通知されます。Michael は，現在の要件と，リリースの開始時に作成されたベースラインの要件とを比較します。自分の担当分のテストに影響がある変更を特定し，テストを更新して変更を反映させます。

固定されたテスト・セット

テスト・セットをベースラインに固定すると，テスト・セット内のテストがベースラインに格納されたバージョンに関連付けられます。

テスト・セットをベースラインに固定すると，次のようになります。

- 指定したベースラインに格納されたテストのバージョンのみが実行されます
- ベースラインに含まれていないテストが固定されたテスト・セットから削除されます
- 固定されたテスト・セットからすべてのテスト実行が削除されます
- 固定されたテスト・セットにテストを追加する場合は，ベースラインに含まれているテストのみを選択できます

固定されたテスト・セットをクリアすると，次のようになります。

- テスト・セット内のテストは，テスト計画モジュール内のテストの最新バージョンに関連付けられます
- そのテスト・セット内のすべてのテスト実行が削除されます

固定されたテスト・セットの利点

テスト・セットをベースラインに固定すると，特定のバージョン用のテストの開発とこれらのテストの実行の間にタイム・ラグがあるようなテスト環境において便利です。あるチームが現在の安定したバージョンでテストを実行している間に，別のチームがすでに**テスト計画**モジュールを将来のバージョン用のテストで更新していることがあります。テスト・セットをベースラインに固定すると，テスト・セットの実行時に確実に正しいテストのバージョンを実行できるようになります。

テスト実行チームは，**テスト計画**ツリーからテストを選択して追加することで，**テスト・ラボ・**モジュール内にテスト・セットを作成します。ただし，テストの開発と実行との間のタイム・ラグのため，**テスト計画**ツリーに，アプリケーションの将来のバージョンに関連するテスト (新しいテスト，または新しいステップで更新したテスト) がすでに含まれていることがあります。テストの最新バージョンを実行すると，テストは

失敗します。特定のバージョンに関連付けられたベースラインにテスト・セットを固定すると，テスト担当者はテスト対象のバージョンに含まれていないテストまたはテスト・ステップをテスト・セットから確実に削除できます。

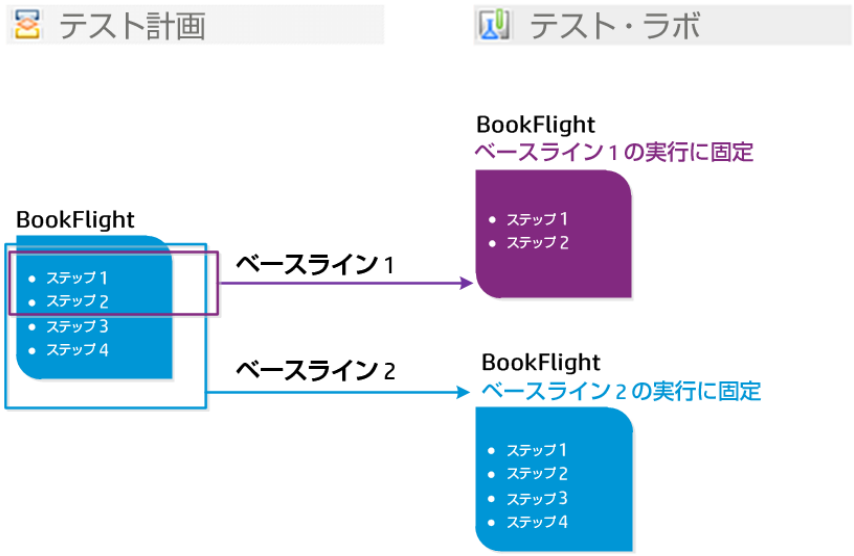
関数ライブラリを使用する自動機能テストでは，テストの固定は特に便利です。指定した関数ライブラリは多くのテスト(たとえば，テスト 3 からテスト 100) に含まれているが，この関数が開発段階である場合，テスト 3 からテスト 100 の固定されていないバージョンを実行すると，これらのすべてのテストが失敗する原因になります。

例

テスト・エンジニアの Jack は現在，Mercury Tours の Web サイトの航空券予約機能をチェックするテストを設計しています。**テスト計画** モジュールで，Jack は 2 つのステップ(ステップ 1 と2) から成る BookFlight テストを作成します。

次の段階として，開発チームは航空券予約機能にさらに機能を追加する作業に入りました。この新しい機能をテストするには，Jack は 2 つのステップ(ステップ 3 と4) を追加して BookFlight テストを更新する必要があります。Jack はテストを更新する前にベースライン(ベースライン 1) を作成します。ベースライン 1 では，BookFlight はステップ 1 と2 のみで構成されています。Jack は次に 2 つのステップを追加してテストを更新します。4 つのステップを含むテストはベースライン 2 に格納されます。

同じ時期に，QA テスタの Alice が新しい機能を含まない旧バージョンの Web サイトをテストしています。開発チームはまだ新しい機能の開発を終えていません。Alice が**テスト・ラボ**・モジュール内に作成したテスト・セットには，Jack がすでに更新した BookFlight テストが含まれています。ステップ 3 と4 が含まれている最新の Bookflight テストを Alice が実行すると，テストは失敗します。正しいバージョンのテストを確実に実行するために，Alice はテストを実行する前に Bookflight をベースライン 1 に固定します。このようにすると，テストからステップ 3 と4 が削除されます。



ユーザ・インタフェースの詳細については,「[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してください。

ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法

このタスクでは, ライブラリとベースラインを利用して作業する方法を説明します。

ライブラリおよびベースラインの詳細については,「ライブラリの概要」(206ページ)を参照してください。

- ALM のエディション : Quality Center Enterprise Edition には, ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは, ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については,「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
- **製品の機能紹介ムービー** : バージョン管理およびベースライン機能について説明するムービーを表示するには, ALM のメイン・ウィンドウで[**ヘルプ**] > [**ムービー**]を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「ライブラリの作成」(210ページ)
- 「ベースラインの作成」(211ページ)
- 「ライブラリ・タスクの監視(オプション)」(211ページ)
- 「ベースラインの比較」(212ページ)
- 「テスト・セットをベースラインに設定」(213ページ)
- 「ベースラインの履歴の表示」(213ページ)
- 「ライブラリの共有」(213ページ)

1. **ライブラリの作成**

   フォルダおよびサブフォルダで構成されるライブラリ・ツリーを作成することによって, ライブラリの階層形式の枠組みを定義します。

   a. **ライブラリ・モジュールを開きます。** ALM サイドバーで, [**管理**]の下の[**ライブラリ**]を選択します。

   b. **フォルダを作成します。** [**ライブラリ**]ルート・フォルダを右クリックして, [**新規フォルダ**]を選択します。サブフォルダを作成するには, フォルダを右クリックして[**新規フォルダ**]を選択します。

   c. **フォルダにライブラリを追加します。** フォルダを右クリックして, [**ライブラリの作成**]を選択します。[新規ライブラリ]ダイアログ・ボックスで, [詳細]ページのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス」(220ページ)を参照してください。

[**コンテンツ**] ページで，ライブラリに含めるエンティティを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[コンテンツ] タブ」(221ページ) を参照してください。

フィルタを定義して，ライブラリに含めるエンティティの選択に役立てることができます。これは，プロジェクトの階層構造のみに基づいていないライブラリを作成する場合などに有用です。

例 :

プロジェクト・マネージャの Jim は，セキュリティの影響が大きい新規のプロジェクトを持っています。彼のプロジェクトのテスト計画ツリーは，製品およびバージョンに基づいて階層的に整理されています。Jim は，関連するテスト・フォルダを含むライブラリを作成し，それらのフォルダにセキュリティ関連のテストのみを含むように，ライブラリのフィルタを定義します。

注 : 最適なパフォーマンスを維持するため，ライブラリに入れることのできるエンティティの数は制限されています。標準設定値を変更するには，「サイト管理」の [サイト設定] タブで **LIBRARY_FUSE** および **REQUIREMENTS_LIBRARY_FUSE** パラメータを設定します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. **ベースラインの作成**

ライブラリのベースラインを作成して，一定時間内にプロジェクトのエンティティに加えられた変更を追跡できます。

a. ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして [**ベースラインの作成**] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ) を参照してください。

b. [詳細] タブの [**ログの表示**] ボタンをクリックします。ログ : Create Baseline] ダイアログ・ボックスが開き，進行状況が表示されます。

注 : プロセスが完了したら，ログを確認してから表示を更新します。ベースラインの作成後に表示を更新すると，[**ログの表示**] ボタンは表示されず，ログを表示できません。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については，「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ) を参照してください。

c. モジュール・ツールバーの [**更新**] ボタンをクリックして，表示を更新します。[詳細] タブにベースラインの詳細が表示されます。[詳細] タブで利用可能なフィールドの詳細については，「ライブラリ・モジュールのフィールド」(219ページ) を参照してください。

3. **ライブラリ・タスクの監視 (オプション)**

ベースラインを作成すると，ALM によりバックグラウンドでタスクが実行されるため，処理の実行中

も引き続き ALM を使用して作業できます。タスク・マネージャを使用して，プロジェクトで実行されているすべての非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。

ALM マストヘッドで，⚙ > [**タスク マネージャ**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[タスク マネージャ] ダイアログ・ボックス」(56ページ) を参照してください。

4. **ベースラインの比較**

ライブラリ内の 2 つのベースラインとの比較，またはベースラインとライブラリ内の現在のエンティティとの比較を行います。

a. ライブラリ・モジュールで，ベースラインを右クリックして [**次と比較**] をクリックし，次のいずれかを選択します。

- **ベースラインの選択** : 選択したベースラインを，ライブラリ内の別のベースラインと比較します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし，リストからベースラインを選択します。
- **現在のエンティティ**: 選択したベースラインを，ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。

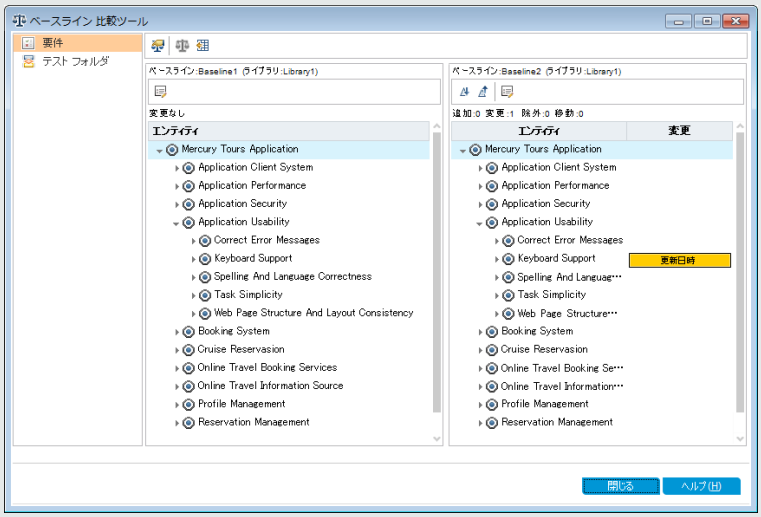
ベースライン比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については，「[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス」(224ページ) を参照してください。

b. ベースラインの比較結果を .csv ファイル形式で保存するには，[**比較結果のエクスポート**] ボタン をクリックします。保存後に，コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義された標準設定のアプリケーション(Microsoft Excel など) でファイルが開きます。

例 :

異なる開発段階で作成された 2 つのベースラインの比較により，次の結果が示されま

す。



5. **テスト・セットをベースラインに設定**

テスト・セットをベースラインに設定し，テスト・セットを選択したベースラインに保存されたテストのバージョンと関連付けることができます。

- テスト・ラボ・モジュールで，テスト・セットを右クリックして，[**ベースラインに設定**]を選択します。[ベースラインの選択]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してください。

- 設定されたベースラインをクリアするには，テスト・セットを右クリックして[**設定されたベースラインのクリア**]を選択します。

設定されたテスト・セットの概念の詳細については，「固定されたテスト・セット」(208ページ)を参照してください。

6. **ベースラインの履歴の表示**

ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較します。

> **注:** 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュールから利用可能です。

ツリーまたはグリッドでエンティティを選択して，[**履歴**]タブ> [**ベースライン**]タブをクリックします。

[ベースライン]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「[ベースライン]タブ」(230ページ)を参照してください。

7. **ライブラリの共有**

ライブラリをインポートして，1つのプロジェクト内または複数のプロジェクトにまたがるエンティティの

既存のセットを再利用します。開発が進むに従い，ライブラリを比較および同期化します。タスクの詳細については，「ライブラリの共有方法」(237ページ)を参照してください。

ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース

本項の内容

ライブラリ・モジュール・ウィンドウ 214
ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン 216
ライブラリ・モジュールのアイコン 218
ライブラリ・モジュールのフィールド 219
[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス 220
[コンテンツ]タブ 221
ベースラインの作成ウィザード 223
[ベースライン比較ツール]ダイアログ・ボックス 224
[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス 227
[比較の設定]ダイアログ・ボックス 229
[ベースライン]タブ 230
[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス 231

ライブラリ・モジュール・ウィンドウ

ライブラリ・モジュール・ウィンドウでは，ライブラリおよびベースラインを作成および管理できます。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[管理]の下の[**ライブラリ**]を選択します。
重要な情報	ALM のエディション: Quality Center Enterprise Edition には，ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ) • 「ライブラリの共有方法」(237ページ)
参照情報	「ライブラリの概要」(206ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ライブラリ・モジュール共通 UI 要素>	• **ライブラリ・フィールド**:フィールドの定義については，「ライブラリ・モジュールのフィールド」(219ページ)を参照してください。 • **ライブラリ・メニューおよびボタン**:コマンドとボタンの説明については，「ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン」(216ページ)を参照してください。 • **ライブラリ・アイコン**:アイコンの説明については，「ライブラリ・モジュールのアイコン」(218ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**:詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<ライブラリ・ツリー>	ライブラリを視覚的に表したものです。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ライブラリ・ツリーのすぐ上に表示されます。
[詳細]タブ	ライブラリ・ツリーで選択されているライブラリ・フォルダ，ライブラリ，またはベースラインの詳細です。
[コンテンツ]タブ	選択したライブラリに含まれるエンティティが表示されます。詳細については，「[コンテンツ]タブ」(221ページ)を参照してください。
[インポート実行元]タブ	選択したライブラリをインポートしたプロジェクトのリストが表示されます。詳細については，「[インポート実行元]タブ」(243ページ)を参照してください。 ALM のエディション:ALM EditionとPerformance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[インポート元]タブ	現在選択されているライブラリのインポート元のライブラリに関する詳細が表示されます。このタブは，選択されたライブラリがインポートされている場合にのみ表示されます。詳細については，「[インポート元]タブ」(245ページ)を参照してください。 ALM のエディション:ALM EditionとPerformance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

UI 要素	説明
[説明]タブ	現在選択されているライブラリ・フォルダ，ライブラリ，またはベースラインの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン

本項では，ライブラリ・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[管理]の下の[**ライブラリ**]を選択します。
重要な情報	**ヒント:** ライブラリ・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。 ALM のエディション: Quality Center Enterprise Edition には，ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	• 「ライブラリ・モジュールのアイコン」(218ページ) • 「ライブラリの概要」(206ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
新規フォルダ	ライブラリ	[新規ライブラリフォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。
ライブラリの作成	ライブラリ	[新規ライブラリ]ダイアログ・ボックスが開き，選択したライブラリ・フォルダにライブラリを追加できます。詳細については，「[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス」(220ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
ライブラリのインポート	ライブラリ	ライブラリのインポート・ウィザードが開き，選択したライブラリ・フォルダにライブラリをインポートできます。詳細については，「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) を参照してください。 ALM のエディション : ALM EditionとPerformance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
ベースラインの作成	ライブラリ	選択したライブラリに対してベースラインを作成できます。詳細については，「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ) を参照してください。
次と比較	ライブラリ	現在選択されているライブラリまたはベースラインを，ほかのライブラリまたはベースラインと比較します。次のオプションがあります。 選択したライブラリの場合 : • **最後に作成したベースライン** : 選択したライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。 • **ベースラインの選択** : [ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開き，比較するほかのライブライブラリのベースラインを選択できます。 選択したベースラインの場合 : • **現在のエンティティ** : 選択したベースラインを，ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。 • **ベースラインの選択** : [ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開き，比較するライブライブラリのベースラインを選択できます。
ライブラリの詳細	ライブラリ	[ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択したライブラリの詳細を表示および編集できます。詳細については，「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
切り取り/貼り付け	編集	選択したライブラリ・フォルダまたはライブラリを，ライブラリ・ツリー内の別の場所に移動します。 **注 :** ライブラリ・フォルダを移動すると，そのライブラリおよびベースラインも移動します。ライブラリを移動すると，そのベースラインも移動します。ベースラインやルート・フォルダは移動できません。 **ヒント :** ドラッグ操作により，ライブラリ・フォルダまたはライブラリをライブラリ・ツリー内の別の場所に移動することもできます。
削除	編集	選択したライブラリ・フォルダ，ライブラリ，またはベースラインを削除します。 **注 :** • ライブラリを含むライブラリ・フォルダ，またはベースラインを含むライブラリは削除できません。 • ライブラリまたはベースラインを削除しても，ライブラリのエンティティはプロジェクトから削除されません。 • ベースラインを削除すると，そのベースラインのライブラリを，ベースラインからインポートされたか同期化された別のライブラリと比較できなくなります。 • ベースラインを削除すると，そのベースラインに固定されているテスト・セットもクリアされます。
名前の変更	編集	選択したライブラリ・フォルダ，ライブラリ，またはベースラインの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。
更新	表示	ライブラリ・ツリーとタブを更新し，最新の情報を表示します。
[フィルタ]	表示	ライブラリ・ツリーでライブラリをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。

ライブラリ・モジュールのアイコン

本項では，ライブラリ・モジュールで利用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[管理] の下の [**ライブラリ**] を選択します。

重要な情報	ALM のエディション: Quality Center Enterprise Edition には，ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
参照情報	• 「ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン」(216ページ) • 「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞ : タブが追加されていることを示します。
	ベースライン: ライブラリ・ツリーのライブラリのベースライン。
	インポートされたライブラリ: 同じプロジェクトまたは別のプロジェクトからインポートされたライブラリ。
	ライブラリ・フォルダ: ライブラリを整理するためのフォルダ。
	ライブラリ: ライブラリ・ツリーのライブラリ。

ライブラリ・モジュールのフィールド

本項では，ライブラリ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[管理] の下の [**ライブラリ**] を選択します。
重要な情報	• [詳細] タブでは，ユーザ定義フィールドの追加や，フィールドのラベルの変更ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，ライブラリ・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション: Quality Center Enterprise Edition には，ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ライブラリの概要」(206ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
名前	フォルダ，ライブラリ，またはベースラインの名前。
ベースライン ID	ALM によってベースラインに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
作成者	ライブラリまたはベースラインを作成したユーザの名前。
作成日	ライブラリまたはベースラインが作成された日付。
更新日時	ベースラインの名前が最後に変更された日時，または説明が変更された日時。
ライブラリ ID	ALM によってライブラリに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
説明	ライブラリ・フォルダ，ライブラリ，またはベースラインの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス

[新規ライブラリ]ダイアログ・ボックスでは，ライブラリ・フォルダにライブラリを追加できます。

[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックスでは，ライブラリの詳細と内容を表示および更新できます。

アクセス方法	**[新規ライブラリ]ダイアログ・ボックス**: ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして[**ライブラリの作成**]を選択します。 **[ライブラリ詳細]ダイアログ・ボックス**: ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして[**ライブラリの詳細**]を選択します。
重要な情報	
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ライブラリの概要」(206ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。 **利用可能な場所**: [新規ライブラリ]ダイアログ・ボックス:
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	ライブラリに割り当てる名前。 **構文の例外** : ライブラリの名前には，次の文字は使用できません。\ / : * ? " < > |
詳細	ライブラリ・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるライブラリ・フィールドの詳細については，「ライブラリ・モジュールのフィールド」(219ページ) を参照してください。
コンテンツ	ライブラリに含めるプロジェクト内のエンティティを選択します。詳細については，「[コンテンツ] タブ」(221ページ) を参照してください。
説明	ライブラリの説明。[説明] フィールドの内側でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
ライブラリ ID	ALM によってライブラリに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。

[コンテンツ] タブ

このタブでは，ライブラリに含まれるエンティティを選択または表示できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • ライブラリ・モジュールで，ライブラリを選択して [**コンテンツ**] タブをクリックします。 • [新規ライブラリ] ダイアログ・ボックスまたは [ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックスで，サイドバーの [**コンテンツ**] をクリックします。
重要な情報	ライブラリに含めるテストを選択する際に，呼び出されたテストやテスト・リソースなど，テストを実行する必要のある関連エンティティを選択する必要はありません。ライブラリのベースラインを作成すると，それらの関連エンティティが ALM により自動的にベースラインに含められます。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ライブラリの概要」(206ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
要件	ライブラリの要件モジュールの内容。
リソース	ライブラリのテスト・リソース・モジュールの内容。

UI 要素	説明
コンポーネント	ライブラリのビジネス・コンポーネント・モジュールの内容。
テスト	ライブラリのテスト計画モジュールの内容。 ライブラリにテストを含めるには，次のオプションを選択します。 • **選択したフォルダにあるテスト** : ライブラリに含めるツリーのフォルダを選択できます。 • **選択した要件をカバーするテスト** : ライブラリに対して選択されている要件をカバーするテストのみを含めます。 **注 :** このオプションを選択すると，以前の選択内容やこのタブで定義されたフィルタはすべてクリアされます。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，タブを更新します。
	フィルタ : ツリーでエンティティをフィルタ処理できます。 フィルタにより次の内容が決定されます。 • ［コンテンツ］タブで表示され選択可能なフォルダおよびレコード • ベースラインの作成時またはライブラリのインポート時に含まれるエンティティ **注 :** ライブラリに対する相対フィルタの作成 (テスト計画の［**パス**］フィールドを基準とするフィルタ処理など) はサポートされていません。そのライブラリをインポートして新規ライブラリを作成した場合，(その後の比較や同期化の基礎として) インポート後に自動的に作成されるベースラインは相対フィルタに基づいており，インポートしたライブラリ内では正常に機能しません。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ライブラリ・ツリーのすぐ上に表示されます。
<左の表示枠>	選択したモジュールのエンティティ・ツリー。選択可能なフォルダが表示されます。 フォルダを選択してライブラリに含めます。選択したフォルダの内容が右の表示枠に表示されます。 **注 :** ［要件］タブで，個別の要件を選択することもできます。
<右の表示枠>	選択したフォルダの子エンティティが表示されます。表示される内容は，モジュールで行われた変更によって，時間とともに変化することがあります。 この表示枠は，［要件］タブには表示されません。すべての要件が左の表示枠のツリーに表示されます。

ベースラインの作成ウィザード

このウィザードでは，ライブラリのベースラインを作成できます。

アクセス方法	ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして［**ベースラインの作成**］を選択します。
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「［ベースラインの検証］ページ」(223ページ) > 「［新規ベースライン］ページ」(224ページ)
重要な情報	
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

［ベースラインの検証］ページ

このウィザード・ページでは，ベースラインの検証処理の結果を表示および保存できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ)
ウィザード・マップ	「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ) には次が含まれます。 **「［ベースラインの検証］ページ」(223ページ)** > 「［新規ベースライン］ページ」(224ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ログの保存...	ベースラインの検証ログをテキスト・ファイルに保存します。 ログを確認し，必要に応じてベースラインを作成する前に問題を解決します。
検証結果	ライブラリのサイズ検証の結果を表示します。この処理では，ライブラリのサイズがサイト管理で定義された上限を超えていないことがチェックされます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

[新規ベースライン] ページ

このウィザード・ページでは，ベースラインに名前を割り当てできます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ) • テストを含むライブラリのベースラインを作成すると，呼び出されたテストやテスト・リソースなど，テストを実行する必要のある関連エンティティもベースラインに含まれます。これらの関連エンティティは，ライブラリで定義する必要はありません。 • ベースラインはバックグラウンド・プロセスで作成されるので，若干時間がかかることがあります。ベースラインの作成中も引き続き ALM を使用できます。
ウィザード・マップ	「ベースラインの作成ウィザード」(223ページ) には次が含まれます。 「[ベースラインの検証] ページ」(223ページ) > 「[新規ベースライン] ページ」(224ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ベースライン名	ベースラインに割り当てる名前。

[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ライブラリ内の 2 つのベースラインの比較，またはベースラインとライブラリ内の現在のエンティティとの比較ができます。たとえば，開発の異なる段階のベースラインを比較して，プロジェクトの要件に加えられた変更の影響を確認および評価できます。

アクセス方法	ライブラリ・モジュールで，ベースラインを右クリックして [**次と比較**] をクリックし，次のいずれかを選択します。 • **ベースラインの選択** : 選択したベースラインを，ライブラリ内の別のベースラインと比較します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし，リストからベースラインを選択します。 • **現在のエンティティ**: 選択したベースラインを，ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。

重要な情報	• ALM は，エンティティが変更されたかどうかを判断するときに，[**ターゲット リリース**] フィールドおよび [**ターゲット サイクル**] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。 • 2 つのエンティティ間のカバレッジまたはトレーサビリティが削除され，再度追加された場合，それらのエンティティは変更済みと見なされます。 • ベースラインの比較では，ライブラリの外部のエンティティによるライブラリ内のテストや要件のカバレッジは考慮されません。 ALM のエディション : このダイアログ・ボックスは ALM Essentials Editionでは利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
<サイドバー>	エンティティの比較結果をモジュールごとに表示できます。たとえば，[**テスト**] を選択すると，テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。 サイドバーには，ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。
	比較の設定 : [比較の設定] ダイアログ・ボックスが開き，ベースラインの比較の設定を定義できます。詳細については，「[比較の設定] ダイアログ・ボックス」(229ページ) を参照してください。
	エンティティの比較 : [エンティティの比較] ダイアログ・ボックスが開き，各ベースライン内のエンティティの詳細を表示できます。詳細については，「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」(227ページ) を参照してください。
	比較結果のエクスポート : ベースラインの比較結果を .csv ファイル形式で保存できます。保存後に，コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義された標準設定のアプリケーション(Microsoft Excel など) でファイルが開きます。
<ベースライン識別バー>	各ベースライン表示枠の最上部にあり，下の表示枠に表示されているベースラインの名前を示します。

UI 要素	説明
	詳細 : [詳細]ダイアログ・ボックスが開き，ベースラインに格納されている選択したエンティティの詳細を表示できます。 エンティティを選択して[**詳細**]タブをクリックします。 たとえば，いずれかの表示枠で要件を選択します。[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，ベースラインの要件の詳細が表示されます。
	次の変更に移動/1 つ前の変更に移動 : 選択したモジュールの次または 1 つ前の変更に移動します。
<カウンタ・バー>	各ベースライン表示枠の最上部にあり，変更ステータスに従って，追加，変更，削除，または移動されたエンティティの数が表示されます。
<左の表示枠>	古いベースラインに格納されているエンティティが表示されます。
<右の表示枠>	最近作成されたベースラインに格納されたエンティティ，または現在のエンティティが表示されます。
エンティティ	ライブラリのエンティティが，選択したモジュールで定義された同じ階層構造で表示されます。
変更	2 つのベースラインの相違点を示します。次のような値があります。 • **追加済み**: エンティティが古いベースラインに存在しません。 • **変更済み**: 2 つのベースラインの間でエンティティに相違点があります。 • **不在** : エンティティが新しいベースラインに存在しません。 • **移動済み**: エンティティは新しいベースラインのツリー構造の別の場所にあります。 • **移動済みと変更済み**: エンティティが変更され，ツリーの別の場所に移動されています。 削除または移動されたエンティティは，ツリー内での元の場所がプレースホルダで表示されます。これにより階層構造が維持され，ベースライン間の変更を比較できます。

[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス

このページでは，ライブラリ内の2つのベースライン，または2つのライブラリの間で，エンティティを比較できます。バージョン管理を有効にしたプロジェクトで，エンティティの2つのバージョンを比較できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • [ベースライン比較ツール]または[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックスで，変更したエンティティを選択して，[**エンティティの比較**]ボタンをクリックします。 • [**履歴**]タブ> [**ベースライン**]タブで，2つのバージョンを選択して，[**比較**]ボタンをクリックします。 • **バージョン管理**:[**履歴**]タブ> [**バージョンおよびベースライン**]タブで，2つのバージョンを選択して，[**比較**]ボタンをクリックします。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュールから利用可能です。
重要な情報	• [**ターゲット リリース**]フィールドや[**ターゲット サイクル**]フィールドに変更が加えられても，これらのフィールドは変更済みとしてマークされません。 • **バージョン管理**: ▪ バージョン管理が有効なプロジェクトで，エンティティの2つのバージョンを比較します。 ▪ データとサイドバー・ボタンの一部は表示されません。バージョン管理に格納されている情報によって利用できるデータが異なります。詳細については，「バージョン管理の概要」(124ページ)および「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。
関連タスク	• 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ) • 「バージョン管理の使用方法」(125ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
表示	結果の表示オプションを選択できます。
<サイドバー>	追加の比較結果を表示できます。 比較しているエンティティのタイプに応じて表示されるボタンが異なります。 **注 :** UFT を比較する場合，[**QTP 比較**]ボタンが表示され，QuickTest アセット比較ツールを表示できます。UFT の使用方法の詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
変更	変更されたフィールドを示します。 **注 :** • **バージョン管理 :** 一部のフィールドへの変更は，バージョン管理では保存されません。詳細については，「バージョン管理されないフィールド」(128ページ)を参照してください。 • トレーサビリティとカバレッジについては，リンクされたエンティティが[**削除済み**]と[**追加済み**]の両方のマークが付けられている場合，または両側が[**不明**]として表示されている場合，エンティティ間のリンクが削除されてから追加されたことを示しています。
<結果グリッド>	エンティティの各バージョンに格納されているフィールドおよびフィールド値が表示されます。値が変更されている各フィールドを示します。
[コメント]タブ	各バージョンに格納されている[コメント]フィールドの内容を比較できます。
[リッチ テキスト]タブ	リッチ・テキストを比較できます。[リッチ テキスト]タブの各表示枠には，該当のエンティティのバージョンのリッチ・テキストが追加，削除，変更されているかどうかが示されます。リッチ・テキストを開くかファイルとして保存して，変更の表示や比較ができます。
[添付]タブ	各バージョンに格納されている添付ファイルを比較できます。[**変更**]カラムには，添付ファイルが追加，削除，変更されているかどうかが示されます。添付ファイルを開くか保存して，変更の表示や比較ができます。

[比較の設定]ダイアログ・ボックス

このページでは，ライブラリまたはベースラインの比較の設定を定義できます。エンティティが変更されたかどうかを判断するときに，ALM が検討対象にするフィールドを選択できます。

アクセス方法	[ベースライン比較ツール]または[ライブラリ比較ツール]で，[**比較の設定**]ボタン をクリックします。
重要な情報	ALM は，エンティティが変更されたかどうかを判断するときに，[**ターゲット リリース**]フィールドおよび[**ターゲット サイクル**]フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。 ALM のエディション : これは，ALM Essentials Editionでは利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	• 「[ベースライン比較ツール]ダイアログ・ボックス」(224ページ) • 「[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックス」(246ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
<モジュール・タブ>	比較設定をモジュールごとに設定できます。 [比較の設定]ダイアログ・ボックスには，ライブラリに含まれているモジュールのタブが表示されます。
無視されたフィールド	このボックス内のフィールドに変更が加えられても，エンティティを変更済みとして表示しません。
> <	選択したフィールドを，[**無視されたフィールド**]と[**検討対象フィールド**]の間で移動します。 **ヒント :** 表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり，フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。
>> <<	すべてのフィールドを，[**無視されたフィールド**]と[**検討対象フィールド**]の間で移動します。
検討対象フィールド	このボックス内のフィールドに変更が加えられたら，エンティティを変更済みとして表示します。

UI 要素	説明
追加の検討対象フィールド	選択したフィールドに変更が加えられたら，エンティティを変更済みと見なします。 **注 :** カバレッジを無視するよう ALM を設定するには，[要件]タブと[テスト]タブの両方で[**カバレッジ**]チェック・ボックスをクリアする必要があります。

[ベースライン]タブ

このビューでは，選択したエンティティのベースラインの履歴が表示されます。ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較できます。

アクセス方法	ツリーまたはグリッドでエンティティを選択して，[**履歴**]タブ> [**ベースライン**]タブをクリックします。 利用可能なモジュール: 要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・リソースの各モジュールから利用可能です。
重要な情報	ALM のエディション: ALM Essentials Edition では，このタブは利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ベースライン	対象となるエンティティが格納されているベースラインの名前。
ライブラリ	ベースラインが作成されたライブラリ。
日付	ベースラインが作成された日付。
作成者	ベースラインを作成したユーザの名前。
バージョン	選択したベースラインに格納されているエンティティのバージョン バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。

UI 要素	説明
表示	[詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したベースラインに格納されているエンティティのバージョンの詳細が読み取り専用で表示されます。追加情報を表示するには，[テスト カバレッジ]，[添付ファイル]など，サイドバー上のオプションを選択します。ツリーまたはグリッドで選択したエンティティのタイプに応じて，表示されるボタンが異なります。 **注 :** UFT GUI テストの情報を表示している場合，[**テスト スクリプト**]ボタンをクリックするとUFT ビューアでテストが開き，UFT でテストを表示するかテストを開くことができます。詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
比較	[エンティティの比較]ダイアログ・ボックスが開き，選択した 2 つのベースラインのバージョンを比較できます。詳細については，「[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス」(227ページ) を参照してください。 2 つのベースラインのバージョンを比較するには，CTRL キーを押しながら比較するバージョンを選択します。次に，[**比較**]ボタンをクリックします。
選択されたベースラインの説明	ベースラインの作成時にユーザが入力した説明。

[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト・セットをベースラインに固定できます。これにより，テスト・セットのテストを，指定したベースラインに格納されているテストに関連付けます。ベースラインに固定されたテスト・セットを実行すると，ALM は指定したベースラインに保存されているバージョンのテストを実行します。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールで，テスト・セットを右クリックして，[**ベースラインに設定**]を選択します。

重要な情報	• 固定されたテスト・セットには，ベースラインに含まれたテストのみを含めることができます。テスト・セットを固定すると，ベースラインに含まれていないテストがテスト・セットから削除されます。 • テスト・セット・ツリーで，固定されたテスト・セットには固定されたテスト・セット・アイコンが表示されます。 • テスト・セットを固定すると，すべてのテスト実行がテスト・セットから削除されます。 ALM のエディション : この機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)
参照情報	「固定されたテスト・セット」(208ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
	ベースライン詳細の表示 : 選択したベースラインの[ベースライン詳細] ダイアログ・ボックスを読み取り専用モードで開きます。
	更新 : 最新の情報が表示されるように，ライブラリ・ツリーを更新します。
	フィルタ/ソート : 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
<検索ボックス>	検索するライブラリの名前を入力し，[**検索**] ボタンをクリックします。
	検索 : ライブラリ・ツリーで，[**検索**] ボックスで指定した値を検索します。
	ID でベースラインに移動 : [ベースラインに移動] ダイアログ・ボックスが開き，ベースライン ID に従ってツリー内にベースラインを配置できます。
<ライブラリ・ツリー>	ライブラリ・ツリーからベースラインを選択できます。

第12章: インポートされたライブラリ

本章の内容

インポートされたライブラリの概要 234
ライブラリの共有方法 237
インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース 240
トラブルシューティングと制限事項 249

インポートされたライブラリの概要

ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は，ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ライブラリをインポートすることにより，社内全体にまたがるプロジェクトにおいて既存のエンティティのセットを共有または再利用できます。ライブラリをインポートするには，インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。同じプロジェクトから，または別のプロジェクトから，ライブラリをインポートできます。

ライブラリをインポートすると，ライブラリはライブラリ・ツリーに追加され，ライブラリのエンティティはプロジェクトの対応するモジュールにコピーされます。テスト・カバレッジを持つ要件など，関連付けられているエンティティがライブラリに含まれている場合，この関係もコピーされます。また，呼び出されたテストやテスト・リソースなど，ライブラリ内のテストを実行するために必要となるライブラリの外の関連エンティティもインポートされます。

注 :

- Unicode プロジェクトから ASCII プロジェクトへはライブラリをインポートできません。
- **Business Process Testing** : ライブラリのインポート後に，ベースラインの同期元である既存のソース・ライブラリの内容と，ベースラインの同期先であるターゲット・ライブラリの内容は，両方とも変更しないでください。変更すると，Business Process Testing エンティティが含まれるベースラインを同期したときにエラーが発生する場合があります。

関連付けられたライブラリは，アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。たとえば，インポートしたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。ライブラリ内のエンティティに変更が加えられた場合，ライブラリを同期化して関連付けられているライブラリのエンティティを更新できます。

ライブラリのインポートと同期化には，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，「ライブラリの共有方法」(237ページ)を参照してください。

注 : 複数の ALM プロジェクトの間で不具合を共有することもできます。不具合の共有や同期化には HP ALM Synchronizer を使用します。詳細については，HP Application Lifecycle Management Addin ページから利用できる『HP ALM Synchronizer User Guide』を参照してください。

本項の内容

- 「ライブラリ同期化の概要」(235ページ)
- 「ライブラリ検証」(236ページ)

関連タスクの詳細については，「ライブラリの共有方法」(237ページ)を参照してください。

インポートされたライブラリの例

次の例は，ライブラリの使用方法を示します。

- **要件とテストを新しいリリースで再利用**

  新しいアプリケーションの開発中に，アプリケーションに関係するすべてのエンティティを含むライブラリをプロジェクトに作成します。作業が完了したら，新しいアプリケーションをリリースします。次のバージョンの作業の開始時に，ライブラリをインポートして，要件とテストを新しいバージョンのニーズに合わせて調整し始めることができます。

- **複数のアプリケーションが使用する要件，テスト，およびリソースのセットの作成**

  プロジェクトの要件モジュールには，開発中のアプリケーションに関係する要件が含まれています。またプロジェクトのテスト計画モジュールには，要件をテストするために開発したテストが含まれています。さらに，トレーサビリティやカバレッジなど，要件とテストの間には関係を作成しました。アプリケーションを表すライブラリを作成できます。その後，ほかのアプリケーションの自己完結型のコンポーネントとしてこのライブラリをインポートします。

- **ソース・ライブラリに加えられた変更を使用したインポート・ライブラリの更新**

  プロジェクト内のライブラリには，計算アプリケーション向けの要件とテストが含まれています。ほかの複数のプロジェクトがこのライブラリをインポートし，計算アプリケーションの要件とテストを開発した別のアプリケーションで使用しています。ビジネス・アナリストが，計算アプリケーション向けの要件の一部を変更しました。これらの変更を使用してインポート・ライブラリを更新するには，インポート・ライブラリをソース・ライブラリと同期化します。

- **インポート・ライブラリの開発を使用したソース・ライブラリの更新**

  テスト担当者は，現在開発中の銀行アプリケーション向けの一連の回帰テストを含むインポート・ライブラリを使用しています。テスト実行中，銀行アプリケーションの新しいバージョンの追加機能をテストするために，新しいテストを開発します。テストが完了したら，テスト担当者はソース・ライブラリの回帰テストを更新します。ソース・ライブラリをインポート・ライブラリと同期化して，将来のテストのニーズのためにテストを更新できます。

ライブラリ同期化の概要

2つの関連ライブラリを同期化し，一方のライブラリに加えられた変更を使用して他方のライブラリを更新できます。ソース・ライブラリに加えられた変更を使用して，インポート・ライブラリを更新できます。また，インポート・ライブラリに加えられた変更を使用して，ソース・ライブラリを更新することもできます。

注 : Unicode プロジェクトのライブラリを ASCII プロジェクトのライブラリに同期させることはできません。

同期化中，もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。次の表に，ライブラリ内のエンティティの更新方法を示します。

ソース・ライブラリのイベント	ユーザのライブラリのイベント
エンティティが追加された	エンティティが追加される。
エンティティが変更された	エンティティが更新される。 両方のライブラリでエンティティが変更された場合，ユーザのライブラリのエンティティが上書きされます。 **バージョン管理**：新しいバージョンが作成されます。
エンティティが削除された	新しいフォルダが作成され，削除されたエンティティが新しいフォルダに移動されます。新しいフォルダには「SYNC_OBSOLETE_＜ライブラリ ID＞_＜現在の日付＞」という名前が付けられ，モジュールのルート・フォルダの下に置かれます。
エンティティが移動した	エンティティとその子エンティティが移動する。

ライブラリ内のエンティティは，同期化中は編集できません。同期化プロセス中に別のユーザによってライブラリのエンティティが編集されている場合，同期化は正常に終了しません。

バージョン管理：同期化の前に，ライブラリ内のすべてのエンティティをチェックする必要があります。チェックアウトされているエンティティがライブラリ内にあれば，同期化は正常に終了しません。

ライブラリを同期化したら，更新されたライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので，削除しないようにします。

関連タスクの詳細については，「ライブラリの共有方法」(237ページ)を参照してください。

ライブラリ検証

ライブラリをインポートまたは同期化する場合は，最初にライブラリが検証されます。検証プロセスでは次のチェックを行います。

- **要件タイプ・チェック**：プロジェクトに必要な要件タイプがあるかどうかを検査します。ソース・ライブラリにカスタマイズされた要件タイプが含まれている場合，ユーザのプロジェクトにも同じ要件タイプが含まれている必要があります。要件タイプのカスタマイズの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- **エンティティ互換性チェック**：プロジェクトで必要な拡張機能が有効になっているかどうかを検査します。ソース・プロジェクトで拡張機能が有効で，ソース・ライブラリに該当の拡張機能のエンティティが含まれている場合，ユーザのプロジェクトでも拡張機能が有効になっている必要があります。拡張の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- **ライブラリ・サイズ・チェック**：ライブラリ内のエンティティの数が，サイト管理の LIBRARY_FUSE 設定

パラメータで定義された最大値を超えていないかどうかを検査します。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ライブラリの共有方法

このタスクでは, プロジェクト間またはプロジェクト内でライブラリを共有する方法を説明します。

ライブラリの共有の詳細については,「インポートされたライブラリの概要」(234ページ)を参照してください。

> ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は, ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については,「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(237ページ)
- 「ライブラリのインポート」(237ページ)
- 「ライブラリの比較」(238ページ)
- 「ライブラリの同期化」(239ページ)
- 「ライブラリ・タスクの監視」(240ページ)

1. **前提条件**
   - ライブラリをインポートして同期化するには, ライブラリ・モジュールの適切なユーザ権限と, インポートするエンティティ・タイプに対する[**作成**]および[**更新**]権限が必要です。ライブラリを同期化するには, これらの権限に加え, ライブラリ内のエンティティ・タイプに対する[**削除**]権限も必要です。ライブラリ・モジュール権限の詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
   - インポートするライブラリに対してベースラインが作成されていることを確認します。タスクの詳細については,「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)を参照してください。
   - **Business Process Testing** : プロジェクトをアプリケーション領域を使用して別のプロジェクトにインポートする前に, Unified Functional Testing 内からインポート先プロジェクトに 1 回以上接続していることを確認します。手順については,『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
2. **ライブラリのインポート**

既存のライブラリをライブラリ・ツリーにインポートして，プロジェクト内で，または別のプロジェクトから，エンティティのセットを再利用します。

> **Business Process Testing**:ライブラリのインポート後に，ベースラインの同期元である既存のソース・ライブラリの内容と，ベースラインの同期先であるターゲット・ライブラリの内容は，両方とも変更しないでください。変更すると，Business Process Testing エンティティが含まれるベースラインを同期したときにエラーが発生する場合があります。

a. ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして[**ライブラリのインポート**]を選択します。ライブラリのインポート・ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については，「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ)を参照してください。

> **注 : Business Process Testing**:ライブラリをインポートする際，[**旧式**]フォルダおよび[**コンポーネント要求**]フォルダのコンポーネントは処理に含まれません。

b. [詳細]タブの[**ログの表示**]ボタンをクリックします。ログ: [ライブラリのインポート]ダイアログ・ボックスが開き，進行状況が表示されます。

> **注 :** プロセスが完了したら，ログを確認してから表示を更新します。ライブラリのインポート後に表示を更新すると，[**ログの表示**]ボタンは表示されず，ログを表示できません。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については，「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ)を参照してください。

c. モジュール・ツールバーの[**更新**]ボタンをクリックして，表示を更新します。[詳細]タブにライブラリの詳細が表示されます。[詳細]タブで利用可能なフィールドの詳細については，「ライブラリ・モジュールのフィールド」(219ページ)を参照してください。

3. **ライブラリの比較**

ライブラリを比較して，一定時間内にプロジェクトのエンティティに加えられた変更を確認します。

a. ライブラリ・ツリーで，ライブラリを右クリックして[**次と比較**]を選択します。比較するライブラリを選択し，次のいずれかを選択します。

- **最後に作成したベースライン**: ライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。
- **ベースラインの選択** : 比較するほかのライブラリのベースラインを選択します。[ベースラインの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし，リストからベースラインを選択します。

利用可能な場所 :ソース・ライブラリまたはインポートされたライブラリ

ライブラリ比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については,「[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックス」(246ページ)を参照してください。

b. ライブラリの比較結果を .csv ファイル形式で保存するには, [**比較結果のエクスポート**]ボタン をクリックします。保存後に, コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義された標準設定のアプリケーション(Microsoft Excel など)でファイルが開きます。

4. **ライブラリの同期化**

ライブラリを同期化し, 別のライブラリに加えられた変更を使用してライブラリを更新できます。ソース・ライブラリに加えられた変更を使用して, インポート・ライブラリを更新できます。また, インポート・ライブラリに加えられた変更を使用して, ソース・ライブラリを更新することもできます。

a. ライブラリ・ツリーで, 更新するライブラリを選択します。ライブラリ比較ツールを使用し, 同期化するほかのライブラリのベースラインを選択してライブラリを比較します。ライブラリ比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については,「[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックス」(246ページ)を参照してください。

b. ライブラリ比較ツールで, [**同期**]ボタン をクリックします。[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックスが開き, 検証結果が表示されます。

[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については,「[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックス」(248ページ)を参照してください。

ライブラリ検証に関する概念の詳細については,「ライブラリ検証」(236ページ)を参照してください。

c. [**続行**]をクリックして, 同期化を開始します。もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。

インポート時に含まれていなかった空のエンティティ・タイプがベースラインに含まれている場合, プロジェクトに親フォルダが作成されます。たとえば, テストのみを含むライブラリをインポートし, テスト計画モジュールに対してのみターゲット・ルート・フォルダを定義したとします。その後, 要件がソース・ライブラリに追加されました。同期化中に, プロジェクトの要件モジュールで, 要件ルート・フォルダの下に, 新規にインポートした要件を格納する新規フォルダが作成されます。

d. [ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックスを閉じます。同期化はバックグラウンド・プロセスとして実行され, 時間がかかる可能性があります。同期化処理中も, 引き続きプロジェクトを使用して作業できます。

e. [詳細]タブの[**ログの表示**]ボタンをクリックします。ログ: [ライブラリの同期化]ダイアログ・ボックスが開き, 進行状況が表示されます。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については,「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(214ページ)を参照してください。

f. モジュール・ツールバーの[**更新**]ボタンをクリックして，表示を更新します。プロセスが完了すると，[インポート実行元]タブまたは[インポート元]タブの[**最終同期**]日が更新されます。

5. **ライブラリ・タスクの監視**

ライブラリをインポートまたは同期化する際，これらのタスクはバックグラウンドでタスクが実行されるため，処理の実行中も引き続きプロジェクトを使用して作業できます。タスク・マネージャを使用して，プロジェクトのすべての非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。

ALM マストヘッドで，⚙ > [**タスク マネージャ**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[タスク マネージャ]ダイアログ・ボックス」(56ページ)を参照してください。

インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース

本項の内容

ライブラリのインポート・ウィザード 240
[インポート実行元]タブ 243
[インポート元]タブ 245
[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックス 246
[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックス 248

ライブラリのインポート・ウィザード

このウィザードでは，ライブラリをインポートして，既存のエンティティのセットの共有や再利用ができます。ライブラリをインポートするには，インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。同じプロジェクトから，または別のプロジェクトから，ライブラリをインポートできます。

アクセス方法	ライブラリ・モジュールで，ライブラリを右クリックして[**ライブラリのインポート**]を選択します。

重要な情報	• ライブラリのインポートには，インポートするエンティティ・タイプに対する[**ライブラリのインポート**]，[**ベースラインのキャプチャ**]，[**作成**]，[**更新**]などの適切なユーザ権限が必要です。ユーザ権限の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ライブラリをインポートすると，プロジェクト内に新しいライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので，削除しないようにします。 ALM のエディション：インポートされたライブラリの機能は，ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(237ページ)
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「[ベースラインを選択]ページ」(241ページ) > 「[ライブラリ検証]ページ」(242ページ) > 「[ターゲット ルート フォルダの選択]ページ」(243ページ)
参照情報	• 「インポートされたライブラリの概要」(234ページ) • 「ライブラリの概要」(206ページ) • 「トラブルシューティングと制限事項」(249ページ)

[ベースラインを選択]ページ

このウィザード・ページでは，インポートするライブラリのベースラインを選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ)
ウィザード・マップ	「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) には次が含まれます。 「[ベースラインを選択]ページ」(241ページ) > 「[ライブラリ検証]ページ」(242ページ) > 「[ターゲット ルート フォルダの選択]ページ」(243ページ)
参照情報	「ベースラインの概要」(207ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
説明	インポートするライブラリの説明。
ドメイン	インポートするライブラリが存在するドメイン。

UI 要素	説明
現在のプロジェクトから選択	作業中のプロジェクトからライブラリをインポートできます。
他のプロジェクトから選択	ライブラリのインポート元のドメインとプロジェクトを選択できます。 **注 :** ASCII プロジェクトは，ASCII プロジェクトのみからライブラリをインポートできます。
プロジェクト	インポートするライブラリが存在するプロジェクト。
ベースラインを選択	ライブラリのインポート元のベースラインを選択できます。参照ボタンをクリックして，選択したプロジェクトのライブラリ・ツリーを表示します。インポートできるライブラリのみが表示されます。インポートされたライブラリはインポートできません。

[ライブラリ検証] ページ

このウィザード・ページでは，ライブラリ検証処理の結果を表示できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) • 検証チェックのいずれかのステータスが[**失敗**]の場合，インポート・プロセスを続けることはできません。[**キャンセル**]をクリックします。
ウィザード・マップ	「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) には次が含まれます。 「[ベースラインを選択] ページ」(241ページ) > 「[ライブラリ検証] ページ」(242ページ) > 「[ターゲット ルート フォルダの選択] ページ」(243ページ)
参照情報	「ライブラリ検証」(236ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
検証結果	検証結果とインポートするフィールドのリストが表示されます。すべての検証チェックのステータスが[**成功**]の場合は，インポート処理を続行できます。

[ターゲット ルート フォルダの選択]ページ

このウィザード・ページでは，インポートする各ルート・フォルダのプロジェクト内の場所を選択できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) • 以前にインポートされた同じライブラリにライブラリをインポートすることはできません。詳細については，「トラブルシューティングと制限事項」(249ページ)を参照してください。 • ライブラリのインポートはバックグラウンド・プロセスとして実行され，時間がかかる可能性があります。インポート処理中も，引き続きプロジェクトを使用して作業できます。
ウィザード・マップ	「ライブラリのインポート・ウィザード」(240ページ) には次が含まれます。 「[ベースラインを選択]ページ」(241ページ) > 「[ライブラリ検証]ページ」(242ページ) > 「[ターゲット ルート フォルダの選択]ページ」(243ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
説明	ライブラリの説明で標準設定では，ソース・ライブラリとベースラインに説明が含まれていれば，その説明が表示されます。
名前	ライブラリの名前。標準設定では，インポートするライブラリの名前に接尾辞「**_Imported**」が付加されて表示されます。
ターゲット・ルート・フォルダの選択	インポートされた各フォルダのプロジェクト内の場所。たとえば，[**要件のルート フォルダ**]ボックスには，要件をインポートする場所を指定します。ライブラリ内で定義されたすべての要件フォルダは，指定した要件フォルダの下にインポートされます。参照ボタンをクリックして，プロジェクトの要件ツリーを表示します。インポートされた要件のフォルダを選択するか，新規フォルダを作成します。 **注 :** インポートするライブラリにテストが含まれている場合，テスト・リソースなどのテストを実行する必要のある関連エンティティがベースラインに自動的に含まれます。この場合，[リソースのルート フォルダ]ボックスも表示され，インポートされたリソースのターゲット・フォルダを指定できます。

[インポート実行元]タブ

このタブでは，選択したライブラリをインポートしたプロジェクトのリストが表示されます。

アクセス方法	ライブラリ・ツリーでライブラリを選択し，[**インポート実行元**]タブをクリックします。

重要な情報	カラム・ヘッダをドラッグしてグリッドのカラムを並べ替えることができます。 ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は，ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(237ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	更新 : 最新の情報が表示されるように，タブを更新します。
	メールの送信 : 選択したライブラリの詳細を電子メールで送信します。詳細については，「[電子メールの送信] ダイアログ・ボックス」(90ページ) を参照してください。
	次と比較 : ライブラリ・ツリーで選択したソース・ライブラリを，ソース・ライブラリをインポートしたライブラリと比較します。 グリッドでインポートされたライブラリを選択して，[**次と比較**] をクリックします。比較するインポートされたライブラリのベースラインを選択します。
ドメイン	インポート・ライブラリが存在するドメイン。
プロジェクト	ライブラリをインポートしたプロジェクトの名前。
ライブラリ名	インポート・ライブラリの名前
ソース・ベースライン名	初期値は，選択したライブラリのインポート元のソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。同期化すると，選択したライブラリを同期化したソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。
インポート日時	ライブラリがインポートされた日時。
最終同期	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。
ライブラリ所有者	ライブラリをインポートしたユーザの名前。

[インポート元]タブ

このタブでは，選択したライブラリのインポート元のソース・ライブラリの詳細が表示されます。

アクセス方法	ライブラリ・ツリーでインポートされたライブラリを選択し，[**インポート元**]タブをクリックします。このタブは，選択されたライブラリがインポートされている場合にのみ表示されます。
重要な情報	ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は，ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(237ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	所有者にメールを送信 : ソース・ライブラリの所有者に電子メールを送信します。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ) を参照してください。
	ソースと比較 : 選択したライブラリをインポート元のライブラリと比較します。比較するソース・ライブラリのベースラインを選択します。
ドメイン	ソース・プロジェクトが存在するドメイン。
プロジェクト	ソース・プロジェクトの名前。
ライブラリ名	ソース・プロジェクトでのライブラリの名前。
ベースライン名	プロジェクトのインポート元のソース・プロジェクトでのベースラインの名前。
最終同期	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。ライブラリを初めてインポートすると，このフィールドの値は「**N/A**」となります。
ソース・ライブラリの所有者	ソース・プロジェクトのライブラリを作成したユーザの名前。

[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，2 つの関連付けられたライブラリを比較できます。インポートされたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。

アクセス方法	ライブラリ・ツリーで，ライブラリを右クリックして [**次と比較**] を選択します。比較するライブラリを選択し，次のいずれかを選択します。 • **最後に作成したベースライン**: ライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。 • **ベースラインの選択** : 比較するほかのライブラリのベースラインを選択します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし，リストからベースラインを選択します。 **利用可能な場所** : ソース・ライブラリまたはインポートされたライブラリ
重要な情報	• エンティティが変更されたかどうかを判断するときに，[**ターゲット リリース**] フィールドおよび [**ターゲット サイクル**] フィールドに加えられた変更は検討対象になりません。 • 2 つのエンティティ間のカバレッジまたはトレーサビリティが削除され，再度追加された場合，それらのエンティティは変更済みと見なされます。 • ライブラリの比較では，ライブラリの外部のエンティティによるライブラリ内のテストや要件のカバレッジは考慮されません。 ALM のエディション : インポートされたライブラリの機能は，ALM Edition および Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(237ページ)
参照情報	「ライブラリ同期化の概要」(235ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<サイドバー・ボタン>	エンティティの比較結果をモジュールごとに表示できます。たとえば，[**テスト**]ボタンをクリックすると，テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。 サイドバーには，ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。
	比較の設定：[比較の設定]ダイアログ・ボックスが開き，ライブラリの比較の設定を定義できます。詳細については，「[比較の設定]ダイアログ・ボックス」(229ページ)を参照してください。
	エンティティの比較：[エンティティの比較]ダイアログ・ボックスが開き，各ライブラリ内のエンティティの詳細を表示できます。詳細については，「[エンティティの比較]ダイアログ・ボックス」(227ページ)を参照してください。
	ライブラリの同期化：左の表示枠に表示されているライブラリを，右の表示枠に表示されているベースラインに示された変更によって更新します。 詳細については，「ライブラリ同期化の概要」(235ページ)を参照してください。 **注：**ライブラリを同期化するには，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，「ライブラリの共有方法」(237ページ)を参照してください。
	比較結果のエクスポート：ライブラリの比較結果を .csv ファイル形式で保存できます。保存後に，コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義された標準設定のアプリケーション(Microsoft Excel など)でファイルが開きます。
<識別バー>	各表示枠の最上部にあり，下の表示枠に表示されているライブラリまたはベースラインの名前を示します。
	次の変更に移動/1 つ前の変更に移動：選択したモジュールの次または 1 つ前の変更に移動します。
	詳細：[詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したエンティティの詳細を表示できます。 エンティティを選択して[**詳細**]タブをクリックします。 たとえば，いずれかの表示枠で要件を選択します。[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したライブラリまたはベースラインの要件の詳細が表示されます。
<カウンタ・バー>	各表示枠の最上部にあり，変更ステータスに従って，追加，変更，削除，または移動されたエンティティの数が表示されます。
<左の表示枠>	ライブラリ・ツリーで選択したライブラリが表示されます。

UI 要素	説明
<サイドバー・ボタン>	エンティティの比較結果をモジュールごとに表示できます。たとえば，[**テスト**]ボタンをクリックすると，テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。 サイドバーには，ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。
エンティティ	ライブラリのエンティティが，選択したモジュールで定義された同じ階層構造で表示されます。
変更	2 つのライブラリの相違点を示します。次のような値があります。 • **追加済み**:エンティティがもう一方のライブラリに存在しません。 • **変更済み**:エンティティがライブラリで変更されています。 • **不在**:エンティティがライブラリに存在しません。 • **移動済み**:エンティティがライブラリのツリー構造の別の場所にあります。 • **移動済みと変更済み**:エンティティが変更され，ツリーの別の場所に移動されています。 削除または移動されたエンティティは，ツリー内での元の場所がプレースホルダで表示されます。また，ツリーでは，ほかのライブラリでエンティティが追加された場所にもプレースホルダが表示されます。これにより階層構造が維持され，ライブラリ間の変更を比較できます。
<右の表示枠>	比較するライブラリのベースラインが表示されます。

[ライブラリ検証]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ライブラリ同期化時のライブラリ検証処理の結果を表示できます。

アクセス方法	[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックスで，[**同期**]ボタンをクリックします。
重要な情報	検証チェックのいずれかのステータスが[**失敗**]の場合，同期化を続けることはできません。[**キャンセル**]をクリックします。 ALM のエディション:インポートされたライブラリの機能は，ALM Editionおよび Performance Center Edition で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(237ページ)
参照情報	「ライブラリ検証」(236ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
検証結果	検証結果とインポートするフィールドのリストが表示されます。すべての検証チェックのステータスが[**成功**]の場合にのみ，同期化処理を続行できます。
続行	同期化処理を開始します。もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。 同期化はバックグラウンド・プロセスとして実行され，時間がかかる可能性があります。同期化処理中も引き続きプロジェクトを使用して作業するには，[ライブラリ比較ツール]ダイアログ・ボックスを閉じます。

トラブルシューティングと制限事項

以前にインポートされた同じライブラリにライブラリをインポートすることはできません。これは，要件ツリー，テスト計画ツリー，テスト・リソース・ツリーに適用されます。

たとえば，要件ツリーで，Travel Application フォルダはインポート・ライブラリです。Travel Application ライブラリを再度インポートする場合，Travel Application フォルダまたはその子フォルダをライブラリ内で要件のルート・フォルダとして定義できません。

第3部: 要件

ALM のエディション: 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については, 「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。

第13章: 要件の紹介

本章の内容

要件概要 254
ALM の要件の使用方法 254

要件概要

要件とは，開発中のアプリケーションの目標を達成するために解決または実現する必要がある項目を詳細に記述したものです。プロジェクトの初期段階で要件を明確かつ正確に定義することで，次のような利点が得られます。

- 関係者に，優先度のガイドラインを提供します。
- 関係者間の期待を明確にします。
- 無駄を省き，無用な支出を排除します。

要件モジュールを使用して，Application Lifecycle Management のすべての段階において，要件の定義，管理，追跡ができます。

> ALM のエディション: 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

タスクの詳細については，「ALM の要件の使用方法」(254ページ)を参照してください。

ALM の要件の使用方法

このタスクでは，ALM での要件の生成および管理する方法を説明します。

要件の詳細については，「要件概要」(254ページ)を参照してください。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(255ページ)
- 「要件の作成」(255ページ)
- 「ビジネス・プロセス・モデルのインポート」(255ページ)
- 「要件のトレース」(256ページ)
- 「リスクの計算」(256ページ)
- 「カバレッジの作成」(256ページ)
- 「不具合へのリンク」(256ページ)

- 「リリースに割り当て」(256ページ)
- 「要件の分析」(256ページ)
- 「ベースラインの確立」(257ページ)

1. **前提条件**

   機能仕様や技術仕様，マーケティングやビジネスの要件ドキュメント，関係者の目標などの情報を収集することで，要件のスコープを決定します。

   例:

   いくつか疑問になりそうなものを，次に示します。

   - アプリケーションの主な用途と方向性
   - アプリケーションの重大な制約
   - アプリケーションの主な機能
   - アプリケーション機能における各要素の相対的な重要性
   - アプリケーションの重要な機能，またはリスクの高い機能
   - ビジネスおよびテストの優先度
   - あなたが考える優先度と顧客やエンド・ユーザの優先度との一致
   - 全体的な品質の目標

2. **要件の作成**

   要件ツリーを作成することで，要件のスコープに対して階層形式の枠組みを定義します。

   要件ツリーで，さまざまな要件のグループを定義します。要件グループごとに，要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。ツリーの各要件に，必要に応じて添付ファイルやリッチ・テキスト・ドキュメントを含めることができます。

   そして，テスト計画を作成するときに考慮するべき優先度レベルを要件に割り当てます。

   タスクの詳細については，「要件の作成方法」(260ページ)を参照してください。

3. **ビジネス・プロセス・モデルのインポート**

   ビジネス・プロセス・モデルを使用する場合，標準のモデリング・ツールで作成したモデルをインポートすることで，要件の枠組みを作成できます。ビジネス・モデル・モジュールによって，ビジネス・プロセス・モデルやビジネス・フローの品質を分析できます。タスクの詳細については，「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)を参照してください。

4. **要件のトレース**

   要件間のトレーサビリティが追加できます。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際，トレーサビリティを使用すれば，変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。タスクの詳細については，「要件のトレース方法」(288ページ)を参照してください。

   要件間の関係の完全性を定義するために，トレーサビリティ・マトリクスを生成できます。タスクの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(296ページ)を参照してください。

5. **リスクの計算**

   要件の性質および利用可能なリソースに基づいて，各要件のテスト・レベルを計算するためには，リスク・ベース品質管理を利用します。タスクの詳細については，「リスクの評価方法」(306ページ)を参照してください。

6. **カバレッジの作成**

   プロジェクトの全要件の実装を確認するため，要件とテストとの間のカバレッジを作成します。タスクの詳細については，「カバレッジを作成する方法」(418ページ)を参照してください。

   要件からテスト計画ツリーのテストに変換することで，カバレッジを作成することもできます。カバレッジは，要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。タスクの詳細については，「要件の作成方法」(260ページ)を参照してください。

7. **不具合へのリンク**

   要件を特定の不具合にリンクすることができます。たとえば，これは要件とテストの間でカバレッジを作成する場合に役立ちます。不具合をリンクすることで，要件とテスト目的の整合性を確保するのに役立ちます。要件が変更された場合に，影響を受けるテストと不具合，および担当責任者を直ちに特定できます。

   ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

8. **リリースに割り当て**

   リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義されたリリースとサイクルに各要件を割り当てます。

   - **リリースに割り当て**: 要件を右クリックして，[**リリースに割り当て**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リリースを選択]ダイアログ・ボックス」(169ページ)を参照してください。

   - **サイクルに割り当て**: 要件を右クリックして，[**サイクルに割り当て**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス」(168ページ)を参照してください。

9. **要件の分析**

   要件をレビューし，定義した要件のスコープに合致していることを確認します。要件が承認された後，要件のステータスを[**レビュー未完了**]から[**レビュー済み**]に変更します。

要件のレビューに役立つレポートやグラフが作成できます。タスクの詳細については,「ALM でデータを分析する方法」(778ページ) を参照してください。

10. **ベースラインの確立**

アプリケーションのライフサイクルで重要なマイルストーンを承認または比較するためにベースラインを作成します。タスクの詳細については,「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ) を参照してください。

第14章: 要件の定義

本章の内容

要件定義の概要 260
要件の作成方法 260
要件ユーザ・インタフェース 261

要件定義の概要

要件ツリーを作成することによって，要件モジュールに要件を記録します。**要件ツリー**は要件定義を視覚的に表したもので，要件間の階層関係を示すものです。ツリーには，要件タイプまたは機能領域に基づいて，さまざまな要件グループが含まれます。

要件グループごとに，要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。ツリーの各要件を詳細に記述し，必要に応じてリンクや添付ファイルを含めることができます。

要件ツリーを作成することで，テスト計画ツリーのテストを定義するための基盤として，要件を使用することができます。

タスクの詳細については，「要件の作成方法」(260ページ)を参照してください。

要件の作成方法

このタスクでは，要件モジュールの要件を定義および更新する方法について説明します。要件ツリーを作成することで，テスト計画ツリーのテストを定義するための基盤として，要件を使用できるようになります。

要件の作成の詳細については，「要件定義の概要」(260ページ)を参照してください。

> **注: 上位タスク:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM の要件の使用方法」(254ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「要件の作成」(260ページ)
- 「要件のインポート - オプション」(261ページ)
- 「要件の更新」(261ページ)
- 「要件からテストへの変換 - オプション」(261ページ)

1. **要件の作成**
   a. **要件モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**要件**]の下にある[**要件**]を選択します。[**表示**]メニューで，[**要件ツリー**]を選択します。

      要件モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については，「要件モジュール・ウィンドウ」(261ページ)を参照してください。

   b. **フォルダを作成します。** **要件** ルート・フォルダをクリックして，[**新規フォルダ**]を選択します。サブフォルダを作成するには，フォルダをクリックして[**新規フォルダ**]を選択します。[新規要件フォルダ]ダイアログ・ボックスでフォルダ名を入力します。

   c. **要件を追加します。** 要件フォルダを右クリックして，[**新規要件**]を選択します。サブ要件を作成するには，要件を右クリックして，[**新規要件**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳

細については,「[新規要件]ダイアログ・ボックス」(281ページ)を参照してください。

2. **要件のインポート - オプション**

   要件は, ALM で直接作成するほかに, Microsoft Word または Microsoft Excel で ALM プロジェクトにインポートすることができます。不具合をインポートするには, 最初に該当するアドインをインストールする必要があります。アドインの詳細については,「Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート 」(40ページ)を参照してください。

3. **要件の更新**

   各要件の, 詳細, 添付, リッチ・テキスト・ドキュメントを更新することができます。要件を右クリックして, [**要件の詳細**]を選択します。[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「要件の詳細ページ」(280ページ)を参照してください。

4. **要件からテストへの変換 - オプション**

   テスト計画モジュールのテスト計画ツリー構築を支援するために, テストを定義する基盤として要件を使用できます。要件を再利用し, テスト計画ツリーのエンティティ(テスト・サブジェクト, テスト, テスト・ステップ, ステップの説明)に変換できます。

   要件をテスト・サブジェクト, テスト, テスト・ステップ, またはテストの説明に変換するには, 要件またはフォルダを右クリックして[**テストへ変換**]を選択します。テストへ変換ウィザードが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「テストへ変換ウィザード」(282ページ)を参照してください。

要件ユーザ・インタフェース

本項の内容

要件モジュール・ウィンドウ 261
要件モジュール・メニューとボタン 264
要件モジュールのアイコン 271
要件モジュール・フィールド 273
要件の詳細ページ 280
[新規要件]ダイアログ・ボックス 281
テストへ変換ウィザード 282

要件モジュール・ウィンドウ

このウィンドウで, 主要な ALM の要件を定義できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下にある[**要件**]を選択します。[**表示**]メニューから要件のビューを選択します。

重要な情報	ALM のエディション: 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については,「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ)
参照情報	「要件定義の概要」(260ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
ビュー	• **要件ツリー**: 要件をツリーで階層状に表示できます。 • **要件の詳細**: 要件とほかのエンティティとの間にリンクを作成できます。また, 要件のリスクの計算および分析もできます。詳細については,「要件の詳細ページ」(280ページ) を参照してください。 • **要件グリッド**: 要件を表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には, 要件が個別に表示されます。 • **カバレッジ・アナリシス**: テスト・カバレッジ・ステータスごとに子要件の内訳を分析できます。詳細については,「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ) を参照してください。 • **トレーサビリティ・マトリクス**: ある要件とほかの要件の間, またはある要件とマトリクスのテストの間のトレーサビリティの関係を表示できます。詳細については,「トレーサビリティ・マトリクス・ビュー」(297ページ) を参照してください。
<要件モジュールの共通 UI 要素>	• **要件フィールド**: フィールドの定義については,「要件モジュール・フィールド」(273ページ) を参照してください。 • **要件メニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については,「要件モジュール・メニューとボタン」(264ページ) を参照してください。 • **要件アイコン**: アイコンの説明については,「要件モジュールのアイコン」(271ページ) を参照してください。 • **ALM のマストヘッド, メニュー, サイドバー**: 詳細については,「ALM 共通領域」(46ページ) を参照してください。
<要件ツリー>	ウィンドウの左にあり, 要件を階層状に整理, 表示します。 **利用可能な場所**: 要件ツリー, 要件の詳細, カバレッジ・アナリシス

UI 要素	説明
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッドまたはツリーに適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーのすぐ上にあります。 グリッド・ビュー: • **<x> 件の結果を表示します。** 合計レコード数のうち，現在表示されているレコード数を示します。 • **<x> 件の結果を取得します。** クリックするとすべてのレコードが表示されます。
[添付]タブ	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ) を参照してください。
[ビジネス モデル リンク] タブ	現在選択されている要件にリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。詳細については，「[ビジネス モデル リンク]タブ」(426ページ) を参照してください。
[コメント]タブ	現在選択されている要件のコメントが表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[説明]タブ	現在選択されている要件についての説明が表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[詳細]タブ	現在選択されている要件の詳細が表示されます。
[履歴]タブ	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ) を参照してください。
[リンクされている不具合]タブ	現在選択されている要件にリンクされている不具合の一覧です。詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ) を参照してください。
代理項目	現在選択されている要件で代表されるビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。 **利用可能な場所**:ビジネス・モデル要件
[要件トレーサビリティ]タブ	現在選択されている要件にリンクされている要件の一覧です。詳細については，「[関係]タブ」(289ページ) および「[影響分析]タブ」(292ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
[リッチ テキスト]タブ	ALM 内から，HTML エディタでリッチ・テキストを追加，表示，編集できます。 **注:** • 要件のリッチ・テキストに加えた変更は，別の要件または別のモジュールに移動する場合，自動的に保存されます。 • プロジェクトを前のバージョンの Quality Center からアップグレードした場合，アップグレード前に存在したリッチ・テキストは要件の添付ファイルとして保存され，その要件の[添付]タブからアクセスできます。 リッチ・テキスト・テンプレートの定義の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
[リスク アナリシス]/[リスク評価]タブ	現在選択されている要件のリスクの計算および分析を行います。詳細については，「[リスク評価]タブ」(308ページ) および「[リスク アナリシス]タブ」(312ページ) を参照してください。
[テスト カバレッジ]タブ	現在選択されている要件に関連付けられているテストの一覧です。詳細については，「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ) を参照してください。

要件モジュール・メニューとボタン

本項では，要件モジュールで利用可能なメニューとボタンを説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下にある[**要件**]を選択します。
重要な情報	• メニューのコマンドとボタンの中には，すべての要件ビューで利用できないものもあります。 • **ヒント:** 要件モジュールからメニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。 • **バージョン管理**: 追加のメニュー・コマンドおよびボタンは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。詳細については，「[バージョン]メニューおよびボタン」(130ページ) を参照してください。 ALM のエディション: 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ)
参照情報	「要件モジュールのアイコン」(271ページ) 「要件定義の概要」(260ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	メニュー	説明
<最近使用されたお気に入りの表示のリスト>	お気に入り	要件モジュールで最近表示した 4 つのお気に入りビューを表示します。 「サイト管理」の[サイト設定]タブで **FAVORITES_DEPTH** パラメータを設定することによって，メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
警告	編集	[警告]ダイアログ・ボックスが開き，要件の警告を表示できます。詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
サイクルに割り当て	要件	[サイクルの選択]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件をサイクルに割り当てできます。詳細については，「[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス」(168ページ)を参照してください。
リリースに割り当て	要件	[リリースを選択]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件をリリースに割り当てできます。詳細については，「[リリースを選択]ダイアログ・ボックス」(169ページ)を参照してください。
添付	<右クリック・メニュー>	[添付]ページが開きます。選択したテストに添付を追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
警告のクリア	編集	表示されたモジュールの警告をクリアします。詳細については，「警告の使用方法」(108ページ)を参照してください。
フォローアップ・フラグをクリア	編集	選択された要件のフォローアップ・フラグをクリアします。フォローアップ・フラグの詳細については，「フォローアップ・フラグの概要」(107ページ)を参照してください。
折りたたみ	表示	要件ツリーのすべてのブランチを折りたたみます。

UI 要素	メニュー	説明
トレーサビリティ・マトリクスの設定	編集	[トレーサビリティ マトリクス設定] ウィザードが開き，マトリクスに表示されたエンティティを設定できます。詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**:トレーサビリティ・マトリクス
テストへ変換	要件	テストへ変換ウィザードが開き，選択した要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換できます。詳細については，「テストへ変換ウィザード」(282ページ) を参照してください。
URL のコピー/貼り付け	編集	選択した要件をコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。要件自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き，その要件に移動します。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
コピー/貼り付け	編集	同じプロジェクト内，またはプロジェクト間で選択した要件をコピーします。要件をコピーする場合，要件の子もコピーされます。 **注:** • 要件のテスト・カバレッジ，不具合のリンク，リスク・ベースの品質管理データはコピーされません。 • トレーサビリティのある要件をコピーするには，関連付けられている追跡済み要件もコピーする必要があります。 • ルート・フォルダは，同じプロジェクト内にコピーできません。 • 既存の要件と同じ名前の要件を貼り付けると，接尾語 **_コピー** が要件名の末尾に自動的に付加されます。 • すべてのビューで利用できるわけではありません。
カバレッジ・アナリシス	表示	カバレッジ・アナリシス・ビューを表示し，テスト・カバレッジ・ステータスに応じて，子要件の内訳を分析できます。詳細については，「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
切り取り/貼り付け	編集	選択した要件を，要件ツリーの別の場所に移動します。 **注:** 要件を要件ツリーの別の場所に移動すると，その子の要件，テスト・カバレッジ，要件トレーサビリティのリンク，不具合のリンクも移動します。ルート・フォルダは移動できません。 **ヒント:** ドラッグ操作により，要件を別の場所に移動することもできます。要件ツリーで要件をクリックし，フォルダまたは要件の下にドラッグします。
削除	編集	選択した要件を削除します。要件を削除すると，その子要件，テスト・カバレッジ，要件トレーサビリティのリンク，および不具合のリンクも削除されます。ルート・フォルダ名は削除できません。 **バージョン管理**: 要件を削除すると，以前のバージョンの要件がすべて削除されます。
すべて展開	表示	要件ツリーのすべてのブランチを展開します。
エクスポート	要件	[カバレッジ アナリシスのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き，カバレッジ・アナリシス・ビューを Microsoft Word に保存できます。ドキュメントは，要件ツリー内の各親要件の棒グラフを表示します。 **利用可能な場所**: カバレッジ・アナリシス
エクスポート	<右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き，グリッドの要件を，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**: グリッドのすべての要件をエクスポートします。 • **選択済み**: グリッドで選択された要件をエクスポートします。 **利用可能な場所**: 要件グリッド
トレーサビリティ・マトリクスのエクスポート	アナリシス	[トレーサビリティ マトリクスのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き，トレーサビリティ・マトリクス・ビューを Microsoft Excel ワークシートに保存できます。 **利用可能な場所**: トレーサビリティ・マトリクス
フィルタ/ソート	表示	要件ツリーまたは要件グリッドにある要件のフィルタとソートの処理ができます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68 ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
検索	編集	要件モジュールの要件を検索します。詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(82ページ) を参照してください。
次を検索	編集	これまでに定義した検索条件に一致する次の項目を要件グリッドで検索します。 **利用可能な場所**: 要件グリッド
フォローアップ・フラグ	編集	[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件のフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については、「[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
要件に移動	要件	[要件に移動] ダイアログ・ボックスが開き、**ReqID** を使って特定の要件を検索できます。要件ツリーの要件を表示するには、[**ツリーに表示**] をクリックします。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスの要件を表示するには、[**詳細を開く**] をクリックします。現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。
要件ツリーの要件に移動する	<右クリック・メニュー>	要件ツリー・ビューに移動し、選択された要件を強調表示します。 **利用可能な場所**: 要件グリッド、トレーサビリティ・マトリクス
グラフ	アナリシス	要件データで生成できるグラフの一覧を表示します。定義済みのグラフを選択するか、グラフ・ウィザードを起動します。 定義済みのグラフの種類の詳細については、「エンティティ・グラフの種類」(801ページ) を参照してください。
グリッド・フィルタ 作成者 David	表示	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され、カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(79ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**: 要件グリッド
インジケータ・カラム	表示	要件ウィンドウの左側にカラム が表示されます。 詳細については、「要件モジュールのアイコン」(271ページ) を参照してください。
情報パネル	表示	要件ビューの最下部に情報パネルタブが表示されます。詳細については、「要件モジュール・ウィンドウ」(261ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**: カバレッジ・アナリシス、要件グリッド、要件ツリー

UI 要素	メニュー	説明
選択/非選択項目の入れ替え	編集	以前選択したグリッドの要件をすべて非選択にし，以前非選択の要件をすべて選択します。 **利用可能な場所**:要件グリッド
最近の利用	アナリシス	ALM で最近表示したレポートおよびグラフを一覧表示します。最大 10 個の項目を表示します。
下に移動 **上に移動**		選択された要件ツリーの要件を上下に移動させることで，順序を設定できます。 **注:** 要件ツリーの要件が[フィルタ]ダイアログ・ボックスの[表示順序]タブを使用してソート済みの場合，[**上に移動**]ボタンおよび[**下に移動**]ボタンは利用できません。[表示順序]タブの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**:要件ツリー，要件の詳細，カバレッジ・アナリシス
新規フォルダ	要件	[新規要件フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 **利用可能な場所**:要件ツリー，要件の詳細，カバレッジ・アナリシス
新規要件	要件	[新規要件]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件の下に要件を追加できます。詳細については，「[新規要件]ダイアログ・ボックス」(281ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**:要件ツリー，要件の詳細，カバレッジ・アナリシス
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については，「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。
ピン留め/ピン留め解除		要件をピン留め，またはピン留め解除します。 **利用可能な場所**:要件ツリー，要件の詳細，要件グリッド 詳細については，「固定項目の概要」(120ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	メニュー	説明
プロジェクト・レポート	アナリシス	要件データで作成できる定義済みプロジェクト・レポートの一覧を表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済みのプロジェクト・レポート」(846ページ)を参照してください。 リストからレポートを選択すると、レポートのプレビューが生成されます。プレビューでは、レポート・セクションごとに最大 5 つのエンティティが表示されます。完全なレポートを生成するには、プレビューの左上隅にある[**生成**]ボタンの横の下向き矢印をクリックし、生成するレポート形式を選択します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
更新	表示	最新の要件が表示されるように、要件ツリーまたは要件グリッドを更新します。
名前の変更	編集	選択した要件の名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。 **構文の例外**:要件名には、次の文字は使用できません。\ ^ *
置換	編集	ツリーまたはグリッドで要件のフィールド値を置換します。詳細については、「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)を参照してください。
要件の詳細	表示	[要件の詳細]ビューを表示し、要件とほかのエンティティとの間にリンクを作成できます。また、要件のリスクの計算および分析もできます。詳細については、「要件の詳細ページ」(280ページ)を参照してください。
要件の詳細	要件	[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件の詳細ページ」(280ページ)を参照してください。
要件グリッド	表示	要件グリッド・ビューを表示し、要件を表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には、要件が個別に表示されます。
要件ツリー	表示	要件ツリー・ビューを表示し、要件をツリーで階層状に表示できます。
すべて選択	編集	グリッドのすべての要件を選択します。 **利用可能な場所**:要件グリッド
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、要件ツリーまたは要件グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
電子メールで送信	要件	[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開き，リストから選択した宛先，または要件の作成者宛てに電子メールで要件を送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
完全パスの表示	表示	要件ツリーの要件のパスが表示されます。 **利用可能な場所**:トレーサビリティ・マトリクス
[テスト カバレッジ]＞[[条件カバレッジの追加]を表示]	表示	[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(434ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**:要件ツリー，要件の詳細，カバレッジ・アナリシス
テキスト検索	編集	要件モジュール・ウィンドウの下に[テキスト検索]表示枠が開き，定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。
トレーサビリティ・マトリクス	表示	[トレーサビリティ マトリクス]ビューが表示され，ある要件とほかの要件の間，またはある要件とマトリクスのテストの間のトレーサビリティの関係を表示できます。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開き，ツリーまたはグリッドの複数選択された要件のフィールドの値を更新できます。詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。
ズーム	表示	要件ツリーでの詳細レベルを変更します。次のオプションがあります。 **ズームイン**:選択した要件が表示され，要件の階層パスを示す見出しが付きます。 **1 レベル・ズーム・アウト**:以前の[ズーム イン]コマンドを取り消します。 **ルートまでズーム・アウト**:階層の最上位まで拡大され，要件ツリー全体が表示されます。

要件モジュールのアイコン

本項では，要件モジュールで利用可能なアイコンを説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下にある[**要件**]を選択します。

重要な情報	ALM のエディション: 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については、「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理者に問い合わせてください。
参照情報	• 「要件モジュール・メニューとボタン」(264ページ) • 「要件モジュール・ウィンドウ」(261ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	<緑のアスタリスク> : タブが追加されていることを示します。
	警告 : クリックすると、要件の警告が表示されます。 • **赤の警告** : 新しい警告です。 • **グレーの警告** : 警告は既読です。 詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(109ページ) を参照してください。
	添付 : クリックすると、指定要件の添付が表示されます。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が 10 個より多い場合は、[**他の x 個の添付**] リンクをクリックして [**添付**] ページで一覧を表示します。詳細については、「[添付] ページ」(94ページ) を参照してください。
	ビジネス・モデル要件 : ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを表す要件。 **注:** • ビジネス・モデル要件は、各モデル・エンティティに対して自動的に作成され、ビジネス・モデル・モジュールに追加されます。 • ビジネス・モデル要件の要件タイプは、変更できません。
	ビジネス要件 : ビジネス・プロセス要件。
	子 : 選択された要件に加えられた変更の影響を受ける子要件。詳細については、「[影響分析] タブ」(292ページ) を参照してください。
	フォルダ要件 : 要件を整理するためのフォルダ。

UI 要素	説明
	フォローアップ・フラグ: クリックすると，要件のフォローアップが表示されます。 • **グレーのフラグ**: 新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ**: フォローアップ日です。 詳細については，「[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
	機能要件: システムの動作要件。
	グループ要件: 関連する要件の集合。
	リンクされている不具合: クリックすると，要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については，「[リンクされている不具合] ページと[リンクされたエンティティ] ページ」(768ページ) を参照してください。
	親: 選択された要件に影響を与える親要件。詳細については，「[影響分析] タブ」(292ページ) を参照してください。
	再帰的: 同じ要件が2回以上現れる関係です。詳細については，「[影響分析] タブ」(292ページ) を参照してください。
	テスト要件: テスト・タイプ要件。
	トレース元: 選択された要件に影響を与える要件。詳細については，「[影響分析] タブ」(292ページ) を参照してください。
	トレース先: 選択された要件で影響を受ける要件。詳細については，「[影響分析] タブ」(292ページ) を参照してください。
	未定義要件: 未定義タイプの要件。
	バージョン管理: 要件は，チェックアウトされます。 • **緑の鍵**: 要件は，現在のユーザによってチェックアウトされます。 • **赤の鍵**: 要件は，別のユーザによってチェックアウトされます。

要件モジュール・フィールド

本項では，要件モジュール・フィールドについて説明しています。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**] の下にある[**要件**] を選択します。

重要な情報	• 要 件 モジュールでは，ユーザ定 義 フィールド の追 加 や，フィールド のラベルの変 更 ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳 細 については，『HP Application Lifecycle Management 管 理 者 ガイド』を参 照 してください。 • スクリプト・エディタを使 用 して，要 件 モジュールに表 示 されるフィールド と値 を制 限 したり，動 的 に変 更 したりすることができます。詳 細 については，『HP Application Lifecycle Management 管 理 者 ガイド』を参 照 してください。 • ユーザ名 の値 を含 む要 件 カラムを選 択 する場 合 (ユーザ定 義 フィールド を含 む)，ALM により各 ユーザのユーザ名 および氏 名 を記 載 したリストが表 示 されます。ユーザの検 索 ，ユーザのソート，ユーザ・グループに基 づいたユーザのグループ分 け，およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選 択 ができます。詳 細 については，「[ユーザ リスト] ダイアログ・ボックス」(81ページ) を参 照 してください。 • フィールド の中 には，すべての要 件 ビューで利 用 できないものもあります。 • **バージョン管 理** : 追 加 のフィールド は，バージョン管 理 が有 効 なプロジェクト で利 用 できます。詳 細 については，「バージョン管 理 フィールド 」(131ページ) を参 照 してください。 ALM のエディション: 要 件 モジュールのフィールド および機 能 の中 には ALM Essentials Edition で利 用 できないものもあります。ALM エディションとその機 能 の詳 細 については，「エディションごとの ALM の機 能 」(140ページ) を参 照 してください。使 用 している ALM のエディションを調 べるには，ALM サイト管 理 者 に問 い合 わせてください。
参照情報	「要 件 モジュール・ウィンド ウ」(261ページ)

フィールド について以 下 で説 明 します。

UI 要 素	説 明
作 成 者	要 件 を作 成 したユーザの名 前 。 **標 準 設 定 値** : ログイン・ユーザ名 。
コメント	要 件 に関 するコメント が表 示 されます。 テキスト・ボックス内 でクリックすると，テキスト の書 式 設 定 とスペル・チェックのためのツールバーが表 示 されます。

UI 要素	説明
カバレッジ・アナリシス	要 件 および子 要 件 の直 接カバレッジ・ステータスが視 覚 的 に表 示 されます。現 在 のフィルタに一 致しない要 件 , つまり直 接カバレッジ・ステータスが「N/A」の要 件 は, 分 析 に含 まれません。 **注 :** カバレッジをサイクル単 位 で設 定 した場 合 , ALM は計 算 に[**直 接カバレッジ ステータス**]フィールドを使 用しません。その代 わり, フィルタに含 まれるサイクルに割 り当 てられたテスト・セット・フォルダに属 するインスタンスを持 つテストに基 づいて算 出 された直 接カバレッジ・ステータスの値 を使 用します。この場 合 , フィルタに含 まれるサイクル向 けのテスト・カバレッジを持 たない要 件 は分 析 に含 まれません。カバレッジのサイクル単 位 での設 定 の詳 細 については, 「[アナリシス設 定]ダイアログ・ボックス」(432ページ) を参 照 してください。
作 成 者	要 件 リンクを作 成 したユーザの名 前 。 **標 準 設 定 値 :** ログイン・ユーザ名 。
作 成 日	要 件 あるいは要 件 リンクが作 成 された日 付 。 **標 準 設 定 値 :** データベース・サーバの現 在 の日 付 。
作 成 時 刻	要 件 が作 成 された時 刻 。 **標 準 設 定 値 :** データベース・サーバの現 在 の時 間 。
説 明	要 件 の説 明 。 テキスト・ボックス内 でクリックすると, テキストの書 式 設 定 とスペル・チェックのためのツールバーが表 示 されます。

UI 要素	説明
直接カバレッジ・ステータス	要件の現在のステータスです。要件に関連付けられているテストのステータスに基づいて判断されます。 要件ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**: 要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**ブロック済み**になっています。 • **Not Covered**: 要件がテストにリンクされていません。 • **Failed**: 要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**失敗**であり，**ブロック済み**になっているものはありません。 • **Not Completed**: 要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**未完了**であり，**ブロック済み**あるいは**失敗**になっているものはありません。一方，要件がカバーするテストの実行ステータスは，**成功**および**実行なし**，**成功**および**N/A**になっています。 • **Passed**: 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが**成功**になっています。 • **No Run**: 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが**実行なし**になっています。 • **N/A**: 要件の現在のステータスは不明です。 • **-----**: カバレッジをサポートしない要件タイプに属しているため，この要件には直接カバレッジ・ステータスがありません。 **標準設定値**: ステータスは，［**Not Covered**］です。
更新日時	要件あるいは要件リンクが修正された日時。 **標準設定値**: データベース・サーバの現在の日付と時間。
名前	要件の名前。
古いタイプ(旧型)	要件の種類(旧型)。以前のバージョンのALMでは，プロジェクトに設定されている値ならどれでも(通常の値は「変更」，「機能」，「ガイドライン」，「品質」，「標準」，「システム」)，タイプとして指定できました。 このフィールドは，未定義タイプの要件にのみ利用できます。
優先度	低い(レベル1)から緊急(レベル5)までの要件の優先度。
製品	要件の対象となるアプリケーション・コンポーネント。
RBQM のビジネスへの影響	計算された，要件のビジネス上の危険性。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**)です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。

UI 要素	説明
RBQM のカスタムのビジネスへの影響	要件のユーザ定義のビジネス上の危険性。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムの失敗の確率	要件のユーザ定義の失敗の確率。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムの機能の複雑性	要件のユーザ定義の機能の複雑性。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタム・リスク	要件のユーザ定義のリスク。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムのテスト時間	要件のテストに必要なユーザ定義の効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムのテスト・レベル	ユーザ定義の，要件のテストのレベル。有効な値は[**1 - 完全**]，[**2 - 部分**]，[**3 - 基本**]，[**4 - なし**]です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の最終分析日	要件に対してリスク・ベースの品質管理分析が最後に行われた日付。このフィールドは，アナリシス要件にのみ使用されます。
RBQM の有効なビジネスへの影響	要件の有効なビジネス上の危険性。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の有効な失敗の確率	要件の有効な失敗の確率。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の有効な機能の複雑性	要件の有効な機能の複雑性。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の有効なリスク	要件の有効なリスク。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の予想 RnD 作用	要件の開発に必要な作用のユーザ定義の予想。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM の分析なし	リスク・アナリシスから要件を除外するかどうかを示します。リスク評価を利用できないタイプに要件が属している場合，また，要件を分析から明示的に除外する場合，要件をリスク・アナリシスから除外できます。
RBQM の失敗の確率	計算された，要件の失敗の確率。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。

UI 要素	説明
RBQM の機能の複雑性	計算された，要件の機能の複雑性。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM リスク	計算された要件のリスク。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のテスト時間	要件のテストに必要な計算された効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のテスト・レベル	計算された，要件のテストのレベル。有効な値は[**1 - 完全**]，[**2 - 部分**]，[**3 - 基本**]，[**4 - なし**] です。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムのビジネスへの影響を使用	ALM で計算されたビジネス上の危険性ではなく，ユーザ定義のビジネス上の危険性を使用するかどうかを示します。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムの失敗の確率を使用	ALM で計算された失敗の確率ではなく，ユーザ定義の失敗の確率を使用するかどうかを示します。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムの機能の複雑性を使用	ALM で計算された機能の複雑性ではなく，ユーザ定義の機能の複雑性を使用するかどうかを示します。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタムの結果を使用	ALM で計算された値ではなく，ユーザ定義のテスト効果とテスト・レベルを使用するかどうかを示します。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
RBQM のカスタム・リスクを使用	ALM で計算されたリスクではなく，ユーザ定義のリスクを使用するかどうかを示します。このフィールドは，評価要件にのみ使用されます。
要件 ID	自動的に要件に割り当てられる一意の英数字の ID。要件 ID フィールドは変更できません。
親要件	親要件の名前。
要件追跡 ID	自動的に要件リンクに割り当てられる一意の英数字の ID。

UI 要素	説明
要件タイプ	要件のタイプ。 **標準設定値**: • **ビジネス**:ビジネス・プロセス要件。標準設定では，この要件にカバレッジを追加することはできません。 • **フォルダ**:要件を整理するためのフォルダ。標準設定では，この要件にカバレッジを追加することはできません。 • **機能**:システムの動作要件。 • **グループ**:関連する要件の集合。 • **テスト**:システムのパフォーマンス要件。 • **ビジネス・モデル**:ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを表す要件。 • **未定義**:未定義の要件。 **注**:標準設定のタイプをカスタマイズして，独自の要件タイプを作成することも可能です。要件タイプのカスタマイズの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
レビュー済み	要件が責任者によってレビューされ，承認されたかどうかを示します。
ターゲット・サイクル	要件が割り当てられたサイクルを示します。
ターゲット・リリース	要件が割り当てられたリリースを示します。
トレース・コメント	要件リンクに関するコメントが表示されます。

要件の詳細ページ

このページで，要件の詳細，添付ファイル，テスト・カバレッジ，要件トレーサビリティのリンク，リスク・ベースの品質管理設定，不具合のリンクを更新できます。任意の要件に加えた変更のリストを表示することもできます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **要件**モジュールで，要件を右クリックし，[**要件の詳細**]を選択します。[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。 • [**表示**] > [**要件の詳細**]を選択します。要件の詳細ビューが開きます。
重要な情報	ALM のエディション: [要件の詳細]のフィールドおよび機能の中には，ALM Essentials Edition で利用できないものもあります。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ)
参照情報	「要件定義の概要」(260ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ: 要件をブラウズします。 **利用可能な場所**: [要件の詳細]ダイアログ・ボックス
	フォローアップ・フラグ: [フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックスが開き，要件のフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については，「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
	電子メールで送信: 要件の詳細がメールで送信されます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ) を参照してください。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
詳細	現在選択されている要件の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については,「要件モジュール・フィールド」(273ページ)を参照してください。
リッチ・テキスト	ALM 内から,エディタでリッチ・テキストを追加,表示,編集できます。 **注:** 要件のリッチ・テキストに加えた変更は,別の要件または別のモジュールに移動する場合,自動的に保存されます。
添付	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている,添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については,「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
リンクされている不具合	現在選択されている要件にリンクされている不具合の一覧です。詳細については,「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
要件トレーサビリティ	現在選択されている要件にリンクされている要件の一覧です。詳細については,「[影響分析]タブ」(292ページ)および「[関係]タブ」(289ページ)を参照してください。
テスト・カバレッジ	現在選択されている要件に関連付けられているテストの一覧です。詳細については,「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ)を参照してください。
ビジネス・モデル・リンク	現在選択されている要件にリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。詳細については,「[ビジネス モデル リンク]タブ」(426ページ)を参照してください。
リスク・アナリシス/リスク評価	現在選択されている要件のリスクの計算および分析を行います。詳細については,「[リスク評価]タブ」(308ページ)および「[リスク アナリシス]タブ」(312ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については,「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 また,このタブで要件が表示されるベースラインの履歴も示されます。詳細については,「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

[新規要件]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで,新規要件を要件モジュールに追加できます。

アクセス方法	**要件**モジュールで,要件を右クリックし,[**新規要件**]を選択します。 **利用可能な場所:** 要件ツリー,要件の詳細,カバレッジ・アナリシス
関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ)
参照情報	「要件定義の概要」(260ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新規要件の名前を入力します。 **構文の例外**: 要件名には，次の文字は使用できません。\ ^ *
要件タイプ	要件タイプを選択します。要件タイプの詳細については，「要件タイプ」(279ページ) を参照してください。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。利用可能な要件フィールドの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ) を参照してください。
リッチ・テキスト	ALM 内から，HTML エディタでリッチ・テキストを追加，表示，編集できます。 **注**: 要件のリッチ・テキストに加えた変更は，別の要件または別のモジュールに移動する場合，自動的に保存されます。
添付	現在選択されている要件に添付ファイルを追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ) を参照してください。
送信	要件ツリーに新規要件を追加します。新規要件のページは引き続き開いています。
閉じる	新規要件のページを閉じます。

テストへ変換ウィザード

このウィザードを使用して，要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換します。カバレッジは，要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。要件ツリーで選択した要件またはすべての要件を変換できます。

アクセス方法	**要件**モジュールで，要件ツリーの要件を右クリックし，[**テストへ変換**]を選択します。すべての要件を変換するには，要件ツリーでルート要件フォルダを右クリックし，[**テストへ変換**]を選択します。

重要な情報	• テストを作成するには，必要な権限を持っていなければなりません。 • 次の要件タイプが設定され，標準設定ではそれらをテストに変換できないようになっています。ビジネス，フォルダ，グループ。 変換できるようにするためには，これらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「[自動変換メソッドの選択]ページ」(283ページ) > 「[手動変更変換]ページ」(284ページ) > 「[宛先パスの選択]ページ」(285ページ)
関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ)
参照情報	「要件定義の概要」(260ページ)

[自動変換メソッドの選択]ページ

ウィザード・ページを使用して，自動変換の方法を選択できます。要件を設計ステップ，テスト，サブジェクトに変換できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「テストへ変換ウィザード」(282ページ)
ウィザード・マップ	「テストへ変換ウィザード」(282ページ) には次が含まれます。 **「[自動変換メソッドの選択]ページ」(283ページ)** > 「[手動変更変換]ページ」(284ページ) > 「[宛先パスの選択]ページ」(285ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
最下位の子要件をデザイン・ステップに変換します。	最下位のすべての子要件をデザイン・ステップに，1 つ上位の子要件をテストに，それよりも上位の子要件をサブジェクトに変換します。
最下位の子要件をテストに変換します。	最下位のすべての子要件をテストに，それよりも上位の子要件をサブジェクトに変換します。
すべての要件をサブジェクトに変換します。	選択したすべての要件をテスト計画モジュールのサブジェクトに変換します。
1 つのテストを生成します。	要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換します。

UI 要素	説明
テスト・セットへのテストの追加	このオプションは，[**1 つのテストを生成します。**]を選択するとアクティブになります。テストをテスト・ラボ・モジュールで指定したテスト・セットに追加します。
現在の要件フィルタを保持	このオプションは，要件をフィルタ処理するとアクティブになります。要件の現在のフィルタを保持します。フィルタ処理された要件のみが変換されます。
次へ	変換処理を開始します。結果は，「[手動変更変換]ページ」(284ページ) に表示されます。
キャンセル	変換プロセス始める前にキャンセルする場合は，ウィザードは閉じられます。 変換プロセス始めた後にキャンセルする場合は，進行状況バーの[**停止**]ボタンをクリックします。

[手動変更変換]ページ

このウィザード・ページを使用して，手作業で要件をテスト計画ツリーのサブジェクト，テスト・ステップ，ステップの説明に変換できます。また，変換プロセスから要件の除外もできます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「テストへ変換ウィザード」(282ページ) • 要件を 1 つのみ変換する場合，ウィザードでは，このページはスキップされます。
ウィザード・マップ	「テストへ変換ウィザード」(282ページ) には次が含まれます。 「[自動変換メソッドの選択]ページ」(283ページ) > **「[手動変更変換]ページ」(284ページ)** > 「[宛先パスの選択]ページ」(285ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
子を自動的に完成	選択した親の子のレベルを変更します。親のレベルをたとえばサブジェクトからテストに変更すると，ウィザードによってすべての子のレベルが，テストからテスト・ステップに変更されます。
凡例	このウィザード・ページの凡例を示します。
	Subject へ変換：選択した項目を，テスト計画ツリーのサブジェクトに変更します。項目をサブジェクトに変換すると，子をサブジェクトまたはテストにできます。サブジェクトの名前は一意でなければなりません。

UI 要素	説明
	テストへ変換:選択した項目を，テスト計画ツリーのテストに変更します。項目をテストに変換すると，子はステップに変換されます。テスト名は一意でなければなりません。
	ステップへ変換:選択した項目を，テスト計画ツリーのステップに変更します。項目をステップに変換すると，子はステップの説明に変換されます。
	説明へ変換:選択した項目を，テスト計画ツリーのステップの説明に変更します。項目をステップの説明に変換すると，子はインデントされた説明テキストに変換されます。
	変換から除外:テスト計画ツリーから選択項目を除外します。子も除外されます。
	子の検証:親ノードのタイプに従って子ノードのタイプを変更します。たとえば，親がテストである場合，子はステップに変換されます。
キャンセル	変換プロセス始める前にキャンセルする場合は，ウィザードは閉じられます。 変換プロセス始めた後にキャンセルする場合は，進行状況バーの[**停止**]ボタンをクリックします。

[宛先パスの選択]ページ

ウィザード・ページを使用して，テスト計画ツリーの宛先サブジェクトのパスを定義できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「テストへ変換ウィザード」(282ページ) • 要件を1つのみ変換する場合，ウィザードでは，このページはスキップされます。
ウィザード・マップ	「テストへ変換ウィザード」(282ページ) には次が含まれます。 「[自動変換メソッドの選択]ページ」(283ページ) > 「[手動変更変換]ページ」(284ページ) > **「[宛先パスの選択]ページ」(285ページ)**

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
変換先サブジェクト・パス	テスト計画モジュールの宛先サブジェクトパスを設定します。 **標準設定値**:サブジェクト・フォルダとテストは，テスト計画モジュールのサブジェクト・フォルダに格納されます。

UI 要 素	説 明
テストのステータス	このフィールドは，「[自 動 変 換メソッドの選 択]ページ」(283ページ) で[**1 つのテストを生 成 します。**]を選 択 すると表 示 されます。生 成 されたテストのテスト・ステータスを設 定 します。 **標 準 設 定 値 :Design**
テスト・セットに追 加	このフィールドは，「[自 動 変 換メソッドの選 択]ページ」(283ページ) で[**テスト セットへのテストの追 加**]が選 択 された場 合 に表 示 されます。テストをテスト・ラボ・モジュール内 のテスト・セットに追 加 します。 **テスト・セット** :テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを選 択 します。
完 了	変 換 処 理 を開 始 します。変 換 処 理 が完 了 したら，[**OK**]をクリックします。ページには，要 件 の変 換 中 に発 生 したエラーが表 示 されます。 **注 :** 変 換プロセスを停 止 した場 合 ，それまでに変 換 された要 件 はテスト計 画 ツリーからは削 除 されません。これらの要 件 は，手 作 業 で削 除 する必 要 があります。

第15章: 要件トレーサビリティ

本章の内容

要件トレーサビリティの概要 288
要件のトレース方法 288
要件トレーサビリティのユーザ・インタフェース 289

要件トレーサビリティの概要

要件トレーサビリティによって，2つ以上の要件間の関係が決まります。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際，トレーサビリティのリンクを使用すれば，変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。

また，選択した要件の間でトレーサビリティのリンクを追加できます。

- ［**トレース元**］リンクは，選択した要件に影響を与える要件を示します。
- ［**トレース先**］リンクは，選択した要件の影響を受ける要件を示します。

要件が変更されると，HP Application Lifecycle Management(ALM) によって，影響を受ける要件に警告が発せられます。警告の詳細については，「警告の概要」(106ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「要件のトレース方法」(288ページ)を参照してください。

要件のトレース方法

このタスクでは，要件間のトレーサビリティのリンクの定義方法と要件間の関連付けと依存関係の表示方法を説明します。

要件のトレースの詳細については，「要件トレーサビリティの概要」(288ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「トレーサビリティのリンクの定義」(288ページ)
- 「トレーサビリティの影響の表示」(288ページ)
- 「トレーサビリティ・マトリクスの生成 (オプション) 」(288ページ)

1. **トレーサビリティのリンクの定義**
   a. 要件モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。［**要件トレーサビリティ**］タブをクリックします。
   b. トレーサビリティのリンクを定義するために，要件ツリーの要件を選択します。
   c. ［**関係**］タブで，［**要件トレーサビリティの追加**］ボタンをクリックして，右の表示枠に要件ツリーを表示します。トレーサビリティのリンクを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［関係］タブ」(289ページ)を参照してください。
2. **トレーサビリティの影響の表示**

   ［**影響分析**］タブをクリックします。要件間の関連付けと依存関係を確認します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［影響分析］タブ」(292ページ)を参照してください。
3. **トレーサビリティ・マトリクスの生成 (オプション)**

   トレーサビリティ・マトリクスを生成し，要件間の関係が完全であるか確認できます。

要 件 モジュールで，［**表 示** ］＞［**トレーサビリティ マトリクス**］を選 択します。トレーサビリティ・マトリクスを設 定します。タスクの詳 細については，「トレーサビリティ・マトリクスの使 用 方 法 」(296ページ)を参 照してください。

要 件トレーサビリティのユーザ・インタフェース

本 項 の内 容

［関 係 ］タブ 289

［影 響 分 析 ］タブ 292

［関 係 ］タブ

このタブで，要 件 間 の関 係 を定 義 できます。要 件 間 の関 連 付 けと依 存 関 係 を理 解 するためには，グリッド 構 造 の表 示 が役 立 ちます。

アクセス方 法	要 件 モジュールで，［**表 示** ］＞［**要 件 の詳 細** ］を選 択します。［**要 件トレーサビリティ**］タブをクリックします。
重 要 な情 報	［関 係 ］タブには，影 響 を受 ける要 件 が子 要 件 を除 外 して表 示 されます。
関 連 タスク	「要 件 のトレース方 法 」(288ページ)
参 照 情 報	「要 件トレーサビリティの概 要 」(288ページ) 「［影 響 分 析 ］タブ」(292ページ)

[トレース元]/[トレース先]グリッド

次にユーザ・インタフェースの要 素について説 明します(ラベルのない要 素 は, 山 括 弧 で囲 んで表 記 してあります) 。

UI 要 素	説 明
要件トレーサビリティの追加	要 件 間 のトレーサビリティ関 係 を定 義 します。 次 のオプションがあります。 • **要 件トレーサビリティの追 加 /要 件 ツリーから** : 右 側 の表 示 枠 に要 件 ツリーを表 示 し, 選 択 した要 件 へ要 件 ツリーからトレーサビリティ・リンクを追 加 できます。詳 細 については, 以 下 を参 照 してください。 • **ID 順 (トレース元)** : [既 存 の要 件 をトレース]ダイアログ・ボックスが開 き, 要 件 ID を入 力 することで, [トレース元]グリッド へのトレーサビリティ・リンクを追 加 できます。 • **ID 順 (トレース先)** : [既 存 の要 件 をトレース]ダイアログ・ボックスが開 き, 要 件 ID を入 力 することで, [トレース先]グリッド へのトレーサビリティ・リンクを追 加 できます。
	トレーサビリティから削 除 : [トレース元]グリッド , または[トレース先]グリッド からトレーサビリティ関 係 リンクを削 除 します。 **ヒント :** 複 数 のリンクを選 択 するには, CTRL キーを押 しながら選 択 します。
	すべて更 新 : グリッドを更 新 します。
	カラムの選 択 : カラムの表 示 とその順 序 を設 定 します。 次 のオプションがあります。 • **カラムの選 択 (トレース元)** : [カラムの選 択]ダイアログ・ボックスが開 き, [トレース元]グリッド に表 示 するフィールドとその順 序 を指 定 できます。 • **カラムの選 択 (トレース先)** : [カラムの選 択]ダイアログ・ボックスが開 き, [トレース先]グリッド に表 示 するフィールドとその順 序 を指 定 できます。 詳 細 については, 「[カラムの選 択]/[フィールド の選 択]ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参 照 してください。
	要 件 に移 動 : 要 件 ツリーでトレースする要 件 を表 示 します。

UI 要 素	説 明
	要 件 の詳 細 : [要 件 の詳 細]ダイアログ・ボックスが開 き, 選 択 した要 件 の詳 細 を表 示 できます。詳 細 については, 「要 件 の詳 細 ページ」(280ページ) を参 照 してください。
[トレース元]表 示 枠	選 択 した要 件 に影 響 する要 件 が表 示 されます。
<要 件 フィールド >	グリッドで利 用 できる要 件 フィールドの詳 細 については, 「要 件 モジュール・フィールド」(273ページ) を参 照 してください。
	表 示 /非 表 示 : [トレース元]または[トレース先]の表 示 枠 が表 示 /非 表 示 されます。
[トレース先]表 示 枠	選 択 した要 件 に影 響 される要 件 が表 示 されます。

[要 件 ツリー]表 示 枠

この表 示 枠 では, 要 件 ツリーから選 択 した要 件 へのトレーサビリティ・リンクを追 加 できます。

アクセス方 法	要 件 モジュールで, **要 件 の詳 細** ビューを選 択 します。[**要 件 トレーサビリティ**]タブをクリックします。[**要 件 トレーサビリティの追 加**]ボタンをクリックします。

次 にユーザ・インタフェース要 素 について説 明 します。

UI 要 素	説 明
	トレーサビリティに追 加 : 要 件 ツリーからトレーサビリティ・リンクを追 加 します。 次 のオプションがあります。 • **トレーサビリティに追 加 (トレース元)** : 選 択 した要 件 を[トレース元]グリッドに追 加 します。 • **トレーサビリティに追 加 (トレース先)** : 選 択 した要 件 を[トレース先]グリッドに追 加 します。 **ヒント** : ツリー内 の要 件 を適 切 なグリッドにドラッグすることで, トレーサビリティ・リンクの追 加 もできます。
	要 件 の詳 細 を表 示 : 選 択 した要 件 の[詳 細]ダイアログ・ボックスが読 み取 り専 用 モードで開 きます。
	要 件 ツリーの要 件 に移 動 : 要 件 モジュールのツリーで選 択 した要 件 の場 所 に移 動 し, その要 件 を強 調 表 示 します。
	すべて更 新 : 要 件 ツリーを更 新 します。

UI 要素	説明
	検索 : ツリーで特定の要件が検索されます。 [**検索**] ボックスに要件の名前 (または名前の一部) を入力し, [**検索**] ボタンをクリックします。検索が成功すると, ツリーの中で要件が強調表示されます。
	フィルタ/ソートの設定 : 要件ツリーの要件をフィルタ処理してソートします。詳細については, 「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	ID で要件に移動 : [要件に移動] ダイアログ・ボックスが開き, **要件 ID** で要件を検索できます。 **注 :** 現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。
	閉じる : 右側の表示枠の要件ツリーを非表示にします。

[影響分析] タブ

このタブでは, 関係を確認して要件変更の影響を分析できます。要件間の関連付けと依存関係を理解するためには, 階層ツリー構造の表示が役立ちます。

アクセス方法	要件モジュールで, [**表示**] > [**要件の詳細**] を選択します。まず, [**要件トレーサビリティ**] タブをクリックした後, [**影響分析**] タブをクリックします。
重要な情報	[影響分析] タブには, 影響する親と子の要件が表示されます。
関連タスク	「要件のトレース方法」(288ページ)
参照情報	「要件トレーサビリティの概要」(288ページ) 「[関係] タブ」(289ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべて更新 : ツリーを更新します。
	要件に移動 : 要件ツリーでトレースする要件を表示します。
	要件の詳細 : [要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開き, 選択した要件の詳細を表示できます。詳細については, 「要件の詳細ページ」(280ページ) を参照してください。
凡例	要件間の関係が示されます。トレーサビリティ・アイコンの詳細については, 「要件モジュールのアイコン」(271ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
[トレース元] 表示枠	選択した要件に影響する要件が表示されます。
	表示/非表示 : [トレース元] または [トレース先] の表示枠が表示/非表示されます。
[トレース先] 表示枠	選択した要件に影響される要件が表示されます。

第16章：トレーサビリティ・マトリクス

本章の内容

トレーサビリティ・マトリクスの概要 296
トレーサビリティ・マトリクスの使用方法 296
トレーサビリティ・マトリクスのユーザ・インタフェース 297

トレーサビリティ・マトリクスの概要

トレーサビリティ・マトリクスによって，ある要件とほかの要件や，要件とテストの関係の範囲を決定できます。トレーサビリティ・マトリクスは，すべての要件の適合性の検証や，要件に変更ある場合，要件のスコープに対する変更の特定に役立ちます。

トレーサビリティ・マトリクスには，ソース要件，および，それに関連する要件やテストがリスト表示されます。各ソース要件に対する関係の合計数がリスト表示されます。値が低い場合には，ソース要件が十分な要件やテストと関係していないことを意味しています。値が高い場合には，ソース要件が非常に複雑で，簡略化が可能なことを意味しています。値が 0 の場合は，関係が存在しないことを示します。

タスクの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(296ページ) を参照してください。

トレーサビリティ・マトリクスの使用方法

このタスクでは，トレーサビリティ・マトリクスの設定と表示の方法を説明します。

トレーサビリティ・マトリクスの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(296ページ) を参照してください。

> **注 : 製品の機能紹介ムービー**:トレーサビリティ・マトリクスの作成方法を説明するムービーを表示するには，ALM のメイン・ウィンドウで［**ヘルプ**］＞［**ムービー**］を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(296ページ)
- 「トレーサビリティ・マトリクスの設定」(296ページ)
- 「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(297ページ)

1. **前提条件**
   a. **要件トレーサビリティのリンクを定義します。** 要件モジュールで，［**表示**］＞［**要件の詳細**］を選択します。［**要件トレーサビリティ**］タブをクリックします。要件間のトレーサビリティ・リンクを定義します。要件のトレースに関するタスクの詳細については，「要件のトレース方法」(288ページ) を参照してください。

   b. **要件とテスト・カバレッジを定義します。** 要件をテストへリンクすることで，カバレッジを作成します。要件またはテスト計画モジュールからカバレッジを作成できます。タスクの詳細については，「カバレッジを作成する方法」(418ページ) を参照してください。

2. **トレーサビリティ・マトリクスの設定**
   a. 要件モジュールで，［**表示**］＞［**トレーサビリティ マトリクス**］を選択します。

   b. ［**トレーサビリティ マトリクスの設定**］ボタンをクリックします。［トレーサビリティ マトリクスの設定］ウィザードが開きます。マトリクスを定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「ト

レーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)を参照してください。

3. **トレーサビリティ・マトリクスの表示**

   トレーサビリティ・マトリクス・ビューで，要件間のトレーサビリティ・リンクおよび要件とテストの間のリンクを分析し，確認します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクス・ビュー」(297ページ)を参照してください。

トレーサビリティ・マトリクスのユーザ・インタフェース

本項の内容

トレーサビリティ・マトリクス・ビュー 297
トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード 300

トレーサビリティ・マトリクス・ビュー

このビューにより，トレーサビリティ・マトリクスを分析できます。

アクセス方法	要件モジュールで，[**表示**] > [**トレーサビリティ マトリクス**]を選択します。
重要な情報	トレーサビリティ・グリッドに表示されるデータは，編集できません。
関連タスク	「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(296ページ)
参照情報	「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(296ページ) 「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)

トレーサビリティ・マトリクス・グリッド

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのないの要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
トレーサビリティ マトリクスの設定	トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードが開き，マトリクスを定義できます。詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)を参照してください。
	すべて更新 : 最新のデータが表示されるように，マトリクスを更新します。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	要件の詳細 : [要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件の詳細を表示できます。詳細については，「要件の詳細ページ」(280ページ) を参照してください。
	要件ツリーの要件に移動 : 要件ツリー・ビューに移動し，選択された要件を強調表示します。
	電子メールで送信 : [電子メールの送信] ダイアログ・ボックスが開き，リストから選択した宛先，または要件の作成者宛てに電子メールで要件を送信できます。詳細については，「[電子メールの送信] ダイアログ・ボックス」(90ページ) を参照してください。
トレーサビリティ マトリクスの生成	[トレーサビリティ マトリクスの生成] ダイアログ・ボックスが開き，トレーサビリティ・マトリクス・ビューを MicroSoft Excel ワークシートに保存できます。
	表示/非表示 : トレーサビリティ・マトリクス・ビューの下部の表示枠を表示/非表示できます。
<グリッド・フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ) を参照してください。
名前	要件の名前。
リンクされたテストの個数	選択した要件に関連付けられているテストの数です。
トレース元要件の個数	選択した要件に影響する要件の数です。
トレース先要件の個数	選択した要件に影響される要件の数です。
完全パスの表示	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

[トレース元要件] タブ

このタブで，選択した要件に影響する要件が表示されます。

重要な情報	このタブは，トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードの [リンクされた要件でフィルタ] ページに，**[影響されるソース要件を含める]** または **[影響されないソース要件を含める]** オプションが設定されると有効になります。[リンクされた要件でフィルタ] ページの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) を参照してください。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	要件の詳細 : [要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件の詳細を表示できます。詳細については，「要件の詳細ページ」(280ページ)を参照してください。
<グリッド・フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ)を参照してください。
完全パスの表示	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

[トレース先要件]タブ

このタブでは，選択した要件に影響される要件を表示します。

重要な情報	このタブは，トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードの[リンクされたテストでフィルタ]ページに，**[次のソース要件を含める]-[下記に影響を与える]**または**[次のソース要件を含める]-[影響を与えない]**オプションを設定すると有効になります。[リンクされた要件でフィルタ]ページの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)を参照してください。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	要件の詳細 : [要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件の詳細を表示できます。詳細については，「要件の詳細ページ」(280ページ)を参照してください。
<グリッド・フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ)を参照してください。
完全パスの表示	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

[リンクされているテスト] タブ

このタブでは，選択した要件にリンクしているテストが表示されます。

重要な情報	このタブは，トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードの[リンクされたテストでフィルタ] ページに，**[リンクしているソース要件を含める]**または**[リンクしていないソース要件を含める)]**オプションを設定すると有効になります。[リンクされたテストでフィルタ] ページの詳細については，「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) を参照してください。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	テストの詳細 : [テストの詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択したテストの詳細を表示できます。詳細については，「[テストの詳細] ダイアログ・ボックス」(410ページ) を参照してください。
<グリッド・フィールド>	グリッドで利用できるテスト・フィールドの詳細については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) を参照してください。
完全パスの表示	テスト計画ツリーのテストのパスが表示されます。

トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード

このウィザードにより，トレーサビリティ・マトリクスを設定できます。

アクセス方法	要件モジュールで，[**表示**] > [**トレーサビリティ マトリクス**]を選択します。設定が作成されていない場合には，[**トレーサビリティ マトリクスの設定**] ボタンまたは[**設定の作成**] リンクをクリックします。
ウィザード・マップ	ウィザードに含まれるのは次のとおりです: 「[ソース要件の定義] ページ」(301ページ) > 「[リンクされた要件でフィルタ] ページ」(301ページ) > 「[リンクされたテストでフィルタ] ページ」(303ページ)
関連タスク	「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(296ページ)
参照情報	「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(296ページ) 「トレーサビリティ・マトリクス・ビュー」(297ページ)

[ソース要件の定義]ページ

ウィザード・ページを使用して，ソース要件の定義ができます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)
ウィザード・マップ	「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) には次のものが含まれます。 「[ソース要件の定義]ページ」(301ページ) > 「[リンクされた要件でフィルタ]ページ」(301ページ) > 「[リンクされたテストでフィルタ]ページ」(303ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定のクリア	定義した設定をクリアします。
	フィルタ/ソートの設定 : 要件モジュールのソース要件のフィルタやソートが行えます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。 **注 :** フィルタ設定は，子要件には適用されません。
	フィルタのクリア : 定義したフィルタをクリアします。

[リンクされた要件でフィルタ]ページ

ウィザード・ページを使用して，ソース要件と相互にリンクしている要件の定義ができます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)
ウィザード・マップ	「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) には次のものが含まれます。 「[ソース要件の定義]ページ」(301ページ) > 「[リンクされた要件でフィルタ]ページ」(301ページ) > 「[リンクされたテストでフィルタ]ページ」(303ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定のクリア	定義した設定をクリアします。

UI 要素	説明
	フィルタ/ソートの設定：リンクされた要件のフィルタとソートが行えます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	フィルタのクリア：定義したフィルタをクリアします。
リンクされた要件でフィルタ	リンクされた要件で，ソース要件をフィルタ処理します。
[次のソース要件を含める]-[下記から影響を受ける]-[トレース元要件]	選択した要件に影響されるソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[影響を受けない]-[トレース元要件]	選択した要件に影響されないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[下記に影響を与える]-[直接の子とトレース先要件]	子要件とトレース先要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[下記に影響を与える]-[直接の子]	子要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[下記に影響を与える]-[トレース先要件]	トレース先要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[影響を与えない]-[直接の子とトレース先要件]	子要件とトレース先要件に影響しないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[影響を与えない]-[直接の子]	子要件に影響しないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[影響を与えない]-[トレース先要件]	トレース先要件に影響しないソース要件を表示します。
[表示するソース要件のリンク数]-[右記を超過 <数>]-[(上記で指定した要件内でカウント)]	指定した数より多くの要件にリンクしているソース要件を表示します。 **注：**このオプションは，次のいずれかのオプションを選択する場合に使用できます。[**次のソース要件を含める**]-[**下記から影響を受ける**]または[**次のソース要件を含める**]-[**下記に影響を与える**]

UI 要素	説明
[表示するソース要件のリンク数]-[右記未満 <数>]-[(上記で指定した要件内でカウント)]	指定した数より少ない要件にリンクしているソース要件を表示します。 **注 :** このオプションは，次のいずれかのオプションを選択する場合に使用できます。[**次のソース要件を含める**]-[**下記から影響を受ける**]または[**次のソース要件を含める**]-[**下記に影響を与える**]

[リンクされたテストでフィルタ] ページ

ウィザード・ページを使用して，関連するテストを定義できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ)
ウィザード・マップ	「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(300ページ) には次のものが含まれます。 「[ソース要件の定義] ページ」(301ページ) > 「[リンクされた要件でフィルタ] ページ」(301ページ) > 「[リンクされたテストでフィルタ] ページ」(303ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定のクリア	定義した設定をクリアします。
	フィルタ/ソートの設定 : リンクされたテストのフィルタとソートが行えます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	フィルタのクリア : 定義したフィルタをクリアします。
リンクされたテストでフィルタ	リンクされたテストで，ソース要件をフィルタ処理します。
[次のソース要件を含める]-[リンクしている]-[次のテスト]	選択したテストにリンクしているソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める]-[リンクしていない]-[次のテスト]	選択したテストにリンクしていないソース要件を表示します。

UI 要素	説明
[表示するソース要件のリンク数]-[右記未満 <数>]-[(上記で指定したテスト内でカウント)]	指定した数より少ないテストにリンクしているソース要件を表示します。 **注 :** このオプションは，[**次のソース要件を含める**]-[**リンクしている**]-[**次のテスト**]を選択した場合に利用可能になります。
[表示するソース要件のリンク数]-[右記を超過 <数>]-[(上記で指定したテスト内でカウント)]	指定した数より多くの要件にリンクしているソース要件を表示します。 **注 :** このオプションは，[**次のソース要件を含める**]-[**リンクしている**]-[**次のテスト**]を選択した場合に利用可能になります。

第17章: リスク・ベース品質管理

本章の内容

リスク・ベース品質管理の概要 306
リスクの評価方法 306
リスク・ベース品質管理のユーザ・インタフェース 308

リスク・ベース品質管理の概要

要件のテスト方法を計画する場合，通常は，利用できるリソースが無限に存在することはなく，すべての要件に対して完全なテストを行うこともできません。必要なのは折り合いをつけることであり，ビジネス重要度が低い要件，または，実装に関連するリスクが低いものしかない要件については，部分的なテストで済ませる必要があります。リスク・ベース品質管理機能では，要件の性質および利用可能なリソースに基づいて，各要件のテスト・レベルを計算できます。そして，この推奨事項を基にテスト・プロセスを計画できます。

リスク・ベース品質管理が有効になっている各要件タイプでは，「**アナリシス要件**」と呼ばれるリスク・アナリシス，または，「**評価要件**」と呼ばれる個々のリスク評価をサポートできます。

- **アナリシス要件**は，たとえば**フォルダ**・タイプのように，要件のツリー階層で高いレベルを表すタイプに属する要件です。要件ツリーのアナリシス要件の下にある評価要件に基づいて，アナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行います。

  複数の評価要件のリスク結果が集計され，テスト効果およびテスト戦略を決定する際に利用できる全体的なリスク・アナリシスが行われます。

- **評価要件**は，アナリシス要件の子であり，要件のツリー階層で低いレベルにある要件を表すタイプに属する要件です。特定のアナリシス要件の下にある評価要件は，そのアナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行う際の基礎となります。

  アナリシス要件の下の評価要件ごとに，**リスク**および**機能の複雑性**の割り当てまたは計算を行うことができます。

  リスクは，**ビジネス上の危険性**と**失敗の確率**で構成されます。ビジネス上の危険性では，ビジネスにおけるその要件の重要度を測定します。失敗の確率は，その要件に基づいたテストが失敗する可能性を表します。

  機能の複雑性は，その要件の実装の複雑さを示します。

リスク・ベース品質管理の各要件タイプを有効にすることが可能です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

リスク・ベース品質管理の標準設定はカスタマイズ可能です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

> ALM のエディション : リスク・ベース品質管理は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

タスクの詳細については，「リスクの評価方法」(306ページ)を参照してください。

リスクの評価方法

このタスクでは，ALM のリスクの評価方法を説明します。

リスク評価の詳細については，「リスク・ベース品質管理の概要」(306ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「要件の評価」(307ページ)
- 「テスト・ポリシー設定の定義」(307ページ)
- 「テスト・ポリシーの仕上げ」(307ページ)
- 「テスト戦略の分析」(308ページ)

1. **要件の評価**

   a. **[リスク評価]タブを表示します。** 要件モジュールで，[**表示**]＞[**要件の詳細**]を選択します。要件ツリーで，アナリシス要件の下にある評価要件を指定します。[**リスク評価**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク評価]タブ」(308ページ)を参照してください。

   b. **リスクと機能の複雑性を決定します。**[**評価項目**]タブをクリックします。次のサブタブが表示されます。[**ビジネス上の危険性**]，[**失敗の確率**]，[**機能の複雑性**]です。各サブタブの条件セットに値を割り当てます。[評価項目]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク評価]タブ」(308ページ)を参照してください。

      [評価項目]タブの各条件セットに値を割り当てる代わりに，[**評価の結果**]タブで各カテゴリに直接ユーザ定義の値を割り当てることができます。[評価の結果]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク評価]タブ」(308ページ)を参照してください。

   c. アナリシス要件の下の評価要件ごとに，リスクおよび機能の複雑性の割り当てまたは計算を行います。

2. **テスト・ポリシー設定の定義**

   a. 要件ツリーでアナリシス要件を選択します。[**リスク アナリシス**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク アナリシス]タブ」(312ページ)を参照してください。

   b. [**アナリシス定数**]の下で，アナリシス要件とその下の評価要件の初期設定を定義します。この設定には，要件を完全にテストするために特定の機能の複雑性の要件に割り当てる時間，および，要件に関する部分テストまたは基本テストを行うのに要する時間が含まれます。また，リスクと機能の複雑性のそれぞれについて，要件に対して実行するテストのレベルも決定します。

      [アナリシス定数]表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク アナリシス]タブ」(312ページ)を参照してください。

3. **テスト・ポリシーの仕上げ**

   a. **テスト・ポリシーを計算します。**[リスク アナリシス]タブの[**分析**]ボタンをクリックし，アナリシス要件の下の各評価要件のテスト・レベルおよびテスト時間を計算します。**必要なテスト時間の合計**，**割り当てたテスト時間の合計**，**必要な開発時間の合計**が，更新されます。

      [リスク アナリシス]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リスク アナリシス]タブ」(312ページ)を参照してください。

b. **テスト・ポリシーを調整します。**［**アナリシス定数**］の下で，すべてのテストを実行するのに十分な時間が確保され，リソースが無駄にならないように，テスト・ポリシーを調整することができます。

［アナリシス定数］表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については，「［リスク アナリシス］タブ」（312ページ）を参照してください。

c. **各評価要件への結果を適用します。**［**分析して子に適用**］ボタンをクリックします。分析情報を，現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下のすべての評価要件に適用します。

4. **テスト戦略の分析**

- アナリシス要件のテスト戦略の詳細なレポートを作成するには，［リスク アナリシス］タブの［**レポート**］ボタンをクリックします。［レポートの生成］ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［レポートの生成］ダイアログ・ボックス」（316ページ）を参照してください。

- 評価要件のテスト戦略を分析するには，要件ツリーから評価要件を選択し，［**リスク評価**］タブをクリックします。結果は，［評価の結果］サブタブに表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［リスク評価］タブ」（308ページ）を参照してください。

リスク・ベース品質管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

［リスク評価］タブ 308
［リスク アナリシス］タブ 312
［レポートの生成］ダイアログ・ボックス 316

［リスク評価］タブ

このタブで，値を直接割り当てるか，条件セットに値を割り当てることにより，要件のビジネス上の危険性，失敗の確率，機能の複雑性を決定できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **要件**モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。評価要件を選択し，［**リスク評価**］タブをクリックします。 • **要件**モジュールで，評価要件を右クリックし，［**要件の詳細**］を選択します。［要件の詳細］ダイアログ・ボックスが開きます。［**リスク評価**］ボタンをクリックします。

重要な情報	• 要件のビジネス上の危険性，失敗の確率，機能の複雑性が決定されていなければ，ALM は，リスク・アナリシスの要件を含みません。 • 条件，その指定可能な値，そして，それらの値でビジネス上の危険性，失敗の確率，および機能の複雑性を決定する方法についてはカスタマイズ可能です。また，リスクを計算するビジネス上の危険性と失敗の確率の使用方法についてもカスタマイズできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション：リスク・ベース品質管理は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[リスク アナリシス] タブ」(312ページ) 「リスク・ベース品質管理の概要」(306ページ)

[リスク評価] タブ共通要素

次に，共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
評価ステータス	評価要件の現在のステータス。評価ステータスは，次のいずれかになります。**開始されていません**，**進行中**，**完了**。
アナリシスから除外	リスク・アナリシスを実行する場合，指定した評価要件は無視されます。

[評価の結果] タブ - [評価のサマリ] 領域

この領域には，評価要件のリスクおよび機能の複雑性の割り当てられた値あるいは計算された値が表示されます。

重要な情報	評価サマリ・エリアには，[評価項目] タブで計算されたリスクおよび機能の複雑性の値が表示されます。これら値を無視し，その代わりにユーザ定義値を使用することができます。
関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[評価項目] タブ」(311ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
リスク	要件のビジネス上の危険性および失敗の確率に基づいてリスクを計算します。 計算された値を無視し，その代わりにユーザ定義値を使用するには，[**カスタムを使用**]を選択します。有効な値は「**A**」(**高い**)，「**B**」(**普通**)，「**C**」(**低い**) です。
ビジネス上の危険性	その要件のビジネス上の危険性を測定します。 計算された値を無視し，その代わりにユーザ定義値を使用するには，[**カスタムを使用**]を選択します。利用可能な値は，[**A - 致命的**]，[**B - 重要**]，[**C - 推奨**]です。 **例 :** めったに使用しないと考えられる重要でない機能に影響する要件では，ビジネス上の危険性に推奨を割り当てます。これに対し，アプリケーションの機能に不可欠な要件では，ビジネス上の危険性におそらく致命的を割り当てることになるでしょう。
失敗の確率	その要件に基づいたテストが失敗する可能性を測定します。 計算された値を無視し，その代わりにユーザ定義値を使用するには，[**カスタムを使用**]を選択します。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。 **例 :** 実装する上でアプリケーションの大部分の領域にわたる大幅な変更を伴う要件では，失敗の確率に高いを割り当てることになるでしょう。これに対し，アプリケーションのアイコンの変更を要する要件の場合，おそらく関連リスクは多くないため，失敗の確率には低いを割り当てることになるでしょう。
機能の複雑性	要件の実装の複雑性を示します。 計算された値を無視し，その代わりにユーザ定義値を使用するには，[**カスタムを使用**]を選択します。有効な値は「**1**」(**高い**)，「**2**」(**普通**)，「**3**」(**低い**) です。 **例 :** 実装する上で，ほかのシステムと通信できるようにするためにアプリケーションに大幅な変更を加える必要がある要件では，おそらく複雑度が高くなり，機能の複雑性に高いを割り当てることになるでしょう。これに対し，アプリケーションがほかのシステムと通信できるようにするために大幅な変更を加える必要がない要件の場合，おそらく関連リスクは多くないため，機能の複雑性には低いを割り当てることになるでしょう。

[評価の結果]タブ - [テスト ポリシー] 領域

この領域には，評価要件の親のアナリシス要件に対して行った最後の分析の結論が表示されます。

重要な情報	テスト・ポリシー領域の評価要件のテスト・ポリシーを表示およびエディットするには，まず関連するアナリシス要件 (親要件) の分析の実行と結果を[リスクアナリシス]タブのすべての評価要件 (子要件) に適用する必要があります。
関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[リスクアナリシス]タブ」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
次のアナリシス要件に基づく	現在の要件が含まれる最後の分析が行われたアナリシス要件が表示されます。アナリシス要件の名前をクリックすると，要件ツリーのアナリシス要件に移動できます。
計算テストレベル	現在の要件が含まれる最後の分析で計算された，要件をテストするレベル。
計算テスト時間	現在の要件が含まれる最後の分析で計算された，要件のテストに割り当てられた時間。
予測開発時間 (オプション)	要件開発に要する予測時間。ALM は，アナリシス要件とその子要件の予測合計開発時間を，子要件の予測合計開発時間として計算します。予測開発時間の割り当ては任意であり，リスク・アナリシスには影響しません。
最終分析日	現在の要件が含まれる最後の分析が行われた日付。
上記を次の計算に使用する	次の計算で算出された値を無効にして，その代わりにユーザ定義値を使用します。 [**テスト レベル**]ボックスには，次の計算で使用するテスト・レベルを指定します。[**テスト時間**]ボックスには，次の計算で使用するテスト効果を入力します。次回，現在の要件が含まれる分析を行うときには，計算された値ではなくこれらの値が使用されます。

[評価項目]タブ

このタブには，ビジネス上の危険性，失敗の確率，機能の複雑性を決定する際に使用する条件のリストが表示されています。

関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[リスクアナリシス]タブ」(312ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[ビジネス上の危険性]/[失敗の確率]/[機能の複雑性]タブ	各タブには，各カテゴリを評価する場合に考慮する条件がリストされています。
条件	指定カテゴリの評価に使用する条件がリストされます。
値	各条件に割り当てられる利用可能な値がリストされます。
条件の説明	指定条件の説明をします。
計算後のビジネスの危険性/ 計算後の失敗確率/計算された機能の複雑性	指定したカテゴリの条件を割り付けた値に従った更新。 **注 :** リスク・アナリシスを実施する場合，条件の値に基づいて計算された値を無視し，代わりにユーザ定義値を使用することもできます。[評価の結果]タブの評価サマリ・エリアでは，[**カスタムを使用**]を指定します。

[リスク アナリシス] タブ

このタブでは，テスト・ポリシー設定の定義と，アナリシス要件とその下の評価要件の推定合計テスト時間の決定ができます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **要件**モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。アナリシス要件を指定し，[**リスク アナリシス**]タブをクリックします。 • **要件**モジュールで，評価要件を右クリックし，[**要件の詳細**]を指定します。[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。[**リスク アナリシス**]ボタンをクリックします。

重要な情報	• テスト・ポリシーを仕上げたいアナリシス要件，および，リスク・アナリシスに含めたいアナリシス要件の下にあるすべての評価要件のリスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリが決定していることを確認します。詳細については，「[リスク評価]タブ」(308ページ)を参照してください。 • リスク・アナリシスに含めたい評価要件のみ含まれるように，要件ツリーをフィルタ処理できます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。 • リスク・ベース品質管理の各要件タイプをカスタマイズ可能です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 標準設定で使用されるテスト・ポリシーはカスタマイズできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ALM のエディション : リスク・ベース品質管理は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[リスク評価]タブ」(308ページ) 「リスク・ベース品質管理の概要」(306ページ)

リスク・アナリシス - 主要領域

このタブでは，アナリシス要件とその下の評価要件の推定合計テスト時間が計算されます。その計算は，[アナリシス定数]表示枠で定義されるテスト・ポリシーに基づいています。

重要な情報	• この主要領域のテスト・ポリシーで計算する場合，標準設定のテスト効果値およびテスト・レベル値を使用したくなければ，[アナリシス定数]表示枠にユーザ定義値が設定されていることを確認します。 • この主要領域のテスト・ポリシーを計算した後，計算された合計テスト時間と利用可能なリソースを比較します。利用可能なリソースでは，現在の設定に従って要件をテストするのに不十分な場合は，[アナリシス定数]表示枠の設定を変更し，再計算できます。

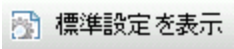
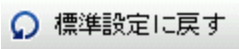
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
分析	現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下にある評価要件ごとに，テスト・レベルおよびテスト時間を計算します。 この計算は，評価要件のリスク・カテゴリ，および，アナリシス要件で定義したテスト・レベルおよびテスト時間の値に基づいて行われます。
分析して子に適用	分析結果を，現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下のすべての評価要件に適用します。
レポート	[レポートの生成]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[レポートの生成]ダイアログ・ボックス」(316ページ)を参照してください。
最終分析日	リスク・アナリシスが最後に実行された日付。
フィルタ	リスク・アナリシスに含まれている要件を特定します。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
スコープ	リスク・アナリシスに含まれている要件の数。その詳細(評価された要件，評価が不明な要件，評価できない要件)も示します。 分析に含まれていない要件のリストを表示するには，[**評価なし**]または[**評価できません**]のリンクをクリックしてください。[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については，「[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス」(831ページ)を参照してください。 **ヒント:** [**評価なし**]リンクには，カテゴリを決定しなかった要件，または分析から明示的に除外した要件が表示されます。カテゴリの割り当てが必要な要件がないことを確認します。アナリシスに要件を含めない場合，その要件をアナリシスから明示的に除外します。
必要なテスト時間の合計	現在のフィルタに一致し，リスク・アナリシスに含まれる，アナリシス要件の下にあるすべての評価要件をテストするのに必要な合計計算時間が表示されます。
割り当てたテスト時間の合計	リスク・アナリシスに含まれている要件をテストするために割り当てられた時間の合計。
必要な開発時間の合計	評価要件ごとに任意に予測した必要な開発時間に基づいた，アナリシス要件の下にあるすべての評価要件を開発するのに必要な合計時間が表示されます。

UI 要素	説明
要件数	各リスク・カテゴリのアナリシス要件のサブ要件の数が表示されます。 分析に含まれる要件のリストを表示するには，グラフのセグメントをクリックしてください。[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については，「[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス」(831ページ)を参照してください。
合計テスト時間	各リスク・カテゴリのすべての要件をテストするのに必要な合計計算テスト時間が表示されます。 分析に含まれる要件のリストを表示するには，グラフのセグメントをクリックしてください。[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については，「[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス」(831ページ)を参照してください。
機能の複雑性	機能の複雑性の値についての説明文は，グラフ内に表示されます。

[アナリシス定数]表示枠

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	表示/非表示 : [アナリシス定数]表示枠を表示/非表示します。
	[リスクベース品質管理の定数標準]ダイアログ・ボックスを開くことで，使用している標準の定数を表示できます。
	標準の値を現在の要件で使用されている定数に割り付けます。
機能の複雑度ごとのテスト時間(完全)	機能の複雑性をもつ要件を完全にテストするのに必要な時間。機能の複雑性の値ごとに，推定テスト時間を入力します。 **例** : 一般に，機能の複雑性が高い要件は，要件の実装に不具合が含まれている可能性が高いため，長いテスト時間を必要とします。

UI 要素	説明
テスト・レベル (完全 = 100%, なし = 0%)	完全テストに対するパーセンテージで, 要件に必要なテスト時間を定義します。 [**部分**] ボックスおよび[**基本**] ボックスに, 要件の部分テストおよび基本テストに必要な標準設定のテスト時間を入力します。この値は, 完全テストに求められる効果に対するパーセンテージで表します。 テスト・レベルが[**なし**] に設定された要件は, まったくテストされず, テスト効果は 0 になります。 **例** : 要件の完全テストを実行するのに 20 時間必要で, 部分テストは完全テストの 75% と定義した場合, ALMは, 要件の部分テストを実行するのに 15 時間必要と計算します。
[テスト ポリシー(時間)] グリッド	リスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリごとに要件のテスト・レベルを定義します。 レベルを定義するには, グリッドのセルの横にある矢印をクリックします。利用可能なテスト・レベルの中からテスト・レベルを選択します。利用可能なテスト・レベルは, [**完全**], [**部分**], [**基本**], [**なし**] です。各テスト・レベルの横に, そのレベルで要件をテストするのに必要な予測時間 (定義されたテスト効果およびテスト・レベルに基づいたもの) が表示されます。

[レポートの生成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, アナリシス要件のテスト戦略, および, アナリシス要件の下にある評価要件のテスト戦略の分析レポートを作成します。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **要件** モジュールで, **要件の詳細** ビューを選択します。アナリシス要件を指定し, [**リスク アナリシス**] タブをクリックします。[**レポート**] ボタンをクリックします。 • **要件** モジュールで, 評価要件を右クリックし, [**要件の詳細**] を指定します。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[**リスク アナリシス**] ボタンをクリックします。[**レポート**] ボタンをクリックします。

重要な情報	• レポートを生成するには，まず分析情報を保存し，アナリシス要件の下のすべての評価要件にその分析情報を適用する必要があります。詳細については，「[リスク アナリシス] タブ」(312ページ) を参照してください。 • レポートを生成するには，お使いのマシンに Microsoft Word がインストールされている必要があります。 • 分析結果は，最後に分析が行われたときの要件にのみ有効です。引き続き，要件のリスク・カテゴリまたは機能の複雑性カテゴリ，あるいはテスト・ポリシーを変更する場合は，再度分析を行う必要があります。 ALM のエディション : リスク・ベース品質管理は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「リスクの評価方法」(306ページ)
参照情報	「[リスク アナリシス] タブ」(312ページ) 「リスク・ベース品質管理の概要」(306ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
標準設定の場所	データのエクスポート先となる Word ファイルの場所と名前です。参照ボタンをクリックすれば，[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスから場所を選択できます。
レポートを添付として追加	レポートをアナリシス要件の添付ファイルとして追加します。
要件のリストをレポートに含める	要件のリストをレポートに含めます。
生成	レポートを，Microsoft Word ドキュメントとして作成します。

第18章: ビジネス・プロセス・ モデル

本章の内容

ビジネス・プロセス・モデルの概要 320
ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法 322
ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース 326

ビジネス・プロセス・モデルの概 要

ALM のエディション : ALM ビジネス・モデル・モジュールは，ALM EditionとQuality Center Enterprise Edition で利 用できます。ALM エディションとその機 能 の詳 細 については，「エディションごとの ALM の機 能 」(140ページ) を参 照してください。使 用している ALM のエディションを調 べるには，ALM サイト管 理 者 に問 い合 わせてください。

HP Application Lifecycle Management(ALM) のビジネス・モデル・モジュールは，ビジネス・プロセスモデリング，品 質 保 証 管 理，要 件 定 義 の間 のより緊 密 な 連 携 のニーズに応 えます。このモジュールは，ビジネス・プロセス・モデルをアプリケーションのライフ・サイクルに統 合 します。

この統 合 により，ビジネス・プロセス・モデリングに関 わるさまざまな 役 割 とテスト・ライフサイクルとの間 のコラボレーションが促 進 され，その結 果 ビジネス・ユーザと技 術 部 門 に従 事 する担 当 者 との間 のコミュニケーションが緊 密 になります。このようなコラボレーションによって，上 位 レベルの活 動 を識 別 し，QA マネージャによる上 位 レベルのテスト要 件 の決 定 を導 くことで，ビジネスにおいてより高 い成 果 が得 られるようになります。

ビジネス・プロセス・モデルを ALM に統 合 するには，ビジネス・プロセス・モデルを ALM にインポートし，要 件 とテストを，モデル，アクティビティ，エンド ツーエンド のビジネス・フローに結 び付 けます。テストを実 行 した後，ビジネス・プロセス・モデル・レベルでの品 質 ステータス・ビューを表 示 できます。

ALM でビジネス・プロセス・モデルを扱 うには，まず標 準 のモデリング・ツールでモデルをデザインし，ALM にモデルをインポートします。詳 細 については，「ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート 」(320ページ) を参 照してください。

ALM では，標 準 のビジネス・プロセス・モデル・エンティティのほかに，エンド ツーエンド のビジネス・フロー(**パス**) に対 して品 質 テストを実 行 できます。詳 細 については，「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(321ページ) を参 照してください。

ビジネス・プロセス・モデルに関 する作 業 の詳 細 については，「ビジネス・プロセス・モデルに関 する作 業 方 法 」(322ページ) を参 照してください。

ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート

ALM でビジネス・プロセス・モデルを扱 うには，まず標 準 の BPMN または EPC モデリング・ツールでモデルをデザインし，ファイルにエクスポートしておく必 要 があります。

ALM は次 のモデルおよびファイル形 式 をサポートします。

- **BPMN 1.1** モデルを **XPDL 2.0/2.1** ファイルにエクスポートしたもの
- **EPC 7.1** モデルを **AML** ファイル(拡 張 子 **.xml**) にエクスポートしたもの

インポート・プロセスで，モデルおよびアクティビティ属 性 を ALM のメモまたは文 字 列 フィールド に割 り当 てることができます。この割 り当 てを行 うことで，ALM で属 性 値 を編 集 できるようになります。

ALM にインポートしたモデルのそれぞれに対 して，選 択 したフォルダの下 にビジネス・プロセス・モデル・エンティティが作 成 されます。モデル全 体 に対 応 するエンティティと，モデルの各 アクティビティに対 応 するエンティティです。

注 : Metastorm ProVision を使 用 する場 合 , [**Independent Sub-Process**] オプションを使 用 してモデルをエクスポートする必 要 があります。

さらに, モデルとその各 アクティビティに対 して, **代 理 要 件** が要 件 モジュールで自 動 的 に作 成 されます。

- モデルの代 理 要 件 は, [**ビジネス モデル**] 要 件 フォルダの下 に作 成 されます。
- アクティビティの代 理 要 件 は, [**アクティビティ**] サブフォルダの下 に作 成 されます。複 数 のモデルに同 じアクティビティが含 まれる場 合 , アクティビティは同 じ要 件 によって表 現 されます。

代 理 要 件 には, [**ビジネス モデル**] 要 件 タイプが割 り当 てられます。

モデルの再 インポート

モデル・オーサリング・ツールでモデルに変 更 が加 えられた場 合 , モデルを再 インポートすることで, モデルに対 する変 更 を ALM に反 映 させることができます。ALM は次 のようにモデル・エンティティを自 動 的 に更 新 します。

- 再 インポートされたモデルで追 加 または削 除 されたアクティビティは, ALM のモデルで追 加 または削 除 されます。

  注 : アクティビティは, オーサリング・ツールで割 り当 てられた GUID によって識 別 されます。再 インポートされたアクティビティが元 のアクティビティと異 なる GUID を持 つ場 合 は, 別 のアクティビティとして再 インポートされます。

- 代 替 パスが見 つかった場 合 , パスは ALM で自 動 的 に更 新 されます。代 替 パスが見 つからなかった場 合 , パス・エンティティに新 しいパスを割 り当 てるか, パス・エンティティを削 除 する必 要 があります。

ビジネス・プロセス・モデルのパス

ビジネス・プロセス・モデルの品 質 は, アクティビティだけではなく, モデル内 のビジネス・フロー, すなわちパスによっても決 まります。**パス**とは, モデル内 のアクティビティの遷 移 を表 すエンド ツーエンド のシーケンスです。

標 準 のモデリング・ツールで作 成 したビジネス・プロセス・モデルには, パス定 義 は含 まれません。パスはビジネス・プロセスの品 質 を検 証 するために重 要 なので, ALM ではインポートしたモデルにパスを定 義 できます。

ALM はモデル内 の可 能 なエンド ツーエンド のパスをすべて分 析 し, テスト対 象 として重 要 なパスをユーザが選 択 できるようにします。

注 : 同 じアクティビティを繰 り返 す再 帰 的 なパスはサポートされません。

作 成 したパスのそれぞれに対 して, 代 理 要 件 が, モデルの代 理 要 件 の子 である [**パス**] グループ要 件 の下 に自 動 的 に作 成 されます。

ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法

このタスクでは，ALM でビジネス・プロセス・モデルを指定する方法を説明します。

ALM でのビジネス・プロセス・モデリングの詳細については，「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(320 ページ) を参照してください。

> **製品の機能紹介ムービー**:ビジネス・プロセス・モデルをアプリケーションのライフサイクルに統合する方法について説明するムービーを表示するには，ALM のメイン・ウィンドウで[**ヘルプ**] > [**ムービー**]を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(322ページ)
- 「ビジネス・プロセス・モデルのインポートまたは再インポート」(322ページ)
- 「パスの作成」(323ページ)
- 「要件とテストの作成」(323ページ)
- 「要件とテストのモデル・エンティティへのリンク」(324ページ)
- 「ビジネス・プロセス・モデルの品質の分析」(324ページ)
- 「ビジネス・プロセス・モデルのレポートの生成」(324ページ)

1. **前提条件**
   - 標準のモデリング・ツールでビジネス・プロセス・モデルを作成し，ビジネス・プロセス・モデルをファイルにエクスポートします。

     ALM は次のモデルおよびファイル形式をサポートします。

     - **BPMN 1.1** モデルを **XPDL 2.0/2.1** ファイルにエクスポートしたもの
     - **EPC 7.1** モデルを **AML** ファイル(拡張子 **.xml**) にエクスポートしたもの
   - モデルおよびアクティビティ属性を ALM のエンティティに割り当てるには，次のエンティティに文字列またはメモ・フィールドを追加します。
     - **ビジネス・プロセス・モデル**
     - **ビジネス・プロセス・モデル要素**

     ユーザ定義フィールドの追加の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
2. **ビジネス・プロセス・モデルのインポートまたは再インポート**

概念の詳細については,「ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート」(320ページ) を参照してください。

a. **ビジネス・モデル・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**要件**]の下で,[**ビジネス モデル**]を選択します。[**表示**]メニューで,[**モデル ツリー**]を選択します。

b. **フォルダを作成します。**[**モデル**]ルート・フォルダを右クリックし,[**新規フォルダ**]を選択します。サブフォルダを作成するには,フォルダを右クリックして[**新規フォルダ**]を選択します。

c. **[モデルのインポート]ダイアログ・ボックスを開きます。** フォルダを右クリックし,[**モデルのインポート**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[モデルのインポート]ダイアログ・ボックス」(341ページ) を参照してください。

d. **ファイルとモデルを選択します。**[モデルのインポート]ダイアログ・ボックスで,インポートするファイルを選択します。ファイルが分析されたら,ファイルからインポートするモデルを選択します。

e. **モデルおよびアクティビティ属性を ALM のフィールドに割り当てます。**[モデルのインポート]ダイアログ・ボックスで,[**属性のマップ**]をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[インポートした属性をユーザフィールドにマップ]ダイアログ・ボックス」(343ページ) を参照してください。

f. **インポート・ステータスを確認します。**[モデルのインポート]ダイアログ・ボックスでインポート・ステータスを確認します。インポートが終了したら,[**OK**]をクリックして[モデルのインポート]ダイアログ・ボックスを閉じます。

3. **パスの作成**

概念の詳細については,「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(321ページ) を参照してください。

a. ビジネス・モデル・モジュールで,[**表示**] > [**モデル ツリー**]を選択します。

b. **[新規モデルパス]ダイアログ・ボックスを開きます。** ビジネス・プロセス・モデルを右クリックし,[**新規パス**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[新規モデルパス]/[モデルパス詳細]ダイアログ・ボックス」(346ページ) を参照してください。

c. **パスを選択します。**[パス]ドロップダウン・リストで,テスト対象として重要なパスを選択します。パス上のアクティビティがモデル図で強調表示され,[パスの説明]タブにパスの説明が表示されます。

4. **要件とテストの作成**

ALM のビジネス・プロセス・モデルの品質を判定するには,モデルの重要な側面をすべてカバーする要件とテストを作成する必要があります。

この作業を支援するため,ALM は,インポートしたモデルとアクティビティ,および作成したパスを表現するビジネス・モデル要件の構造を自動的に作成します。

a. 次のいずれかを実行します。

- 代理要件を基礎として使用して，詳細な要件ツリーを作成し，テスト・カバレッジを追加します。
- 代理要件に関連しない既存の要件がある場合，それを引き続き作成できます。作成した要件は，後で関連するモデル・エンティティに手動でリンクします。

b. テスト戦略によっては，要件に対するテスト・カバレッジを作成します。

タスクの詳細については，「ALM の要件の使用方法」(254ページ) を参照してください。

5. **要件とテストのモデル・エンティティへのリンク**

要件とテストを品質アナリシスに含めるには，対応するモデル・エンティティにリンクする必要があります。タスクの詳細については，「要件とテストのモデル・エンティティへのリンク」(325ページ) を参照してください。

6. **ビジネス・プロセス・モデルの品質の分析**

モデル・エンティティに対してテストを実行した後，モデル・エンティティの品質を分析するグラフを生成します。

a. **モデル・アナリシス・ビューを開きます。** ビジネス・モデル・モジュールで，[**表示**] > [**モデル アナリシス**] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「モデル・アナリシス・ビュー」(330ページ) を参照してください。

b. **アナリシスのルートとなるモデル・エンティティを選択します。** 次のいずれかを実行します。

- [モデル マップ] タブで，モデルを選択します。対応するモデル・ノードが，ビジネス・モデル・ツリーで強調表示されます。
- ビジネス・モデル・ツリーで，モデル・エンティティを選択します。

c. [**品質アナリシス**] タブをクリックします。

d. [**深度**] ドロップダウン・リストで，アナリシスの対象とするレベル数を選択します。

e. 要件戦略に応じて，代理要件または子要件をアナリシスに含めるかどうかを選択します。

f. グラフの棒をクリックして，棒が表すレコードにドリルダウンします。タスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ) を参照してください。

7. **ビジネス・プロセス・モデルのレポートの生成**

ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをプロジェクト・レポートに含めます。タスクの詳細については，「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ) を参照してください。

要 件 とテスト のモデル・ エンティティへのリンク

次 の手 順 では，要 件 やテストをそれぞれのモデル・エンティティにリンクする方 法 を説 明します。

> **注 :** このタスクは，上 位 レベルのタスクの一 環 です。詳 細 については，「ビジネス・プロセス・モデルに関 する作 業 方 法 」(322ページ) を参 照 してください。

このタスクは次 のステップで構 成 されています。

- 「前 提 条 件 」(325ページ)
- 「要 件 とテスト のモデル・ エンティティへの直 接 リンク」(325ページ)
- 「モデル・ エンティティをテストにリンクします。」(326ページ)
- 「モデル・ エンティティを要 件 にリンクします。」(326ページ)

前 提 条 件

モデル・リンクを作 成 するときには，次 の点 に注 意 してください。

- 代 理 要 件 の下 に要 件 を作 成 した場 合 ，要 件 とその対 象 となるテストは，対 応 するモデル・エンティティに自 動 的 にリンクされます。
- 要 件 が代 理 要 件 に関 連 していない場 合 ，要 件 を手 動 で対 応 するモデル・エンティティにリンクする必 要 があります。
- リンクされた要 件 を対 象 とするテストは，同 じモデル・エンティティに自 動 的 にリンクされます。ほかのテストをモデル・エンティティに手 動 で直 接 リンクすることもできます。
- 代 理 要 件 をモデル・エンティティに手 動 でリンクすることはできません。

要 件 とテスト のモデル・ エンティティへの直 接 リンク

1. ビジネス・モデル・モジュールで，［**表 示** ］＞［**モデル ツリー**］を選 択 します。
2. モデル・エンティティを選 択 して，［**リンク**］タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳 細 については，「［リンク］タブ」(347ページ) を参 照 してください。
3. ［**要 件** ］または［**テスト** ］タブをクリックします。
4. ［**要 件 の選 択** ］または［**テストを選 択** ］の該 当 する方 をクリックします。
5. ［**要 件 ツリー**］/［**テスト 計 画 ツリー**］表 示 枠 で，要 件 またはテストを右 クリックし，［**リンクに追 加** ］を選 択 します。ユーザ・インタフェースの詳 細 については，「要 件 ツリーとテスト 計 画 ツリーの表 示 枠 」(350ページ) を参 照 してください。
6. 別 の方 法 として，要 件 およびテストをモデル図 内 のエンティティまでドラッグして，任 意 のモデル・エンティティへのリンクを作 成 することもできます。

モデル・エンティティをテストにリンクします。

1. ［**テスト計画**］の**テスト計画ツリー**ビューで，テストを選択し，［**ビジネス モデル リンク**］タブをクリックします。

2. ［**リンクに追加**］をクリックして，右側の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示します。

3. モデル・エンティティをテストにリンクします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［ビジネス モデル リンク］タブ」(426ページ) を参照してください。

モデル・エンティティを要件にリンクします。

1. ［**要件**］の**要件の詳細**ビューで，要件を選択し，［**ビジネス モデル リンク**］タブをクリックします。

2. ［**リンクに追加**］をクリックして，右側の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示します。

3. モデル・エンティティを要件にリンクします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［ビジネス モデル リンク］タブ」(426ページ) を参照してください。

ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ 327
モデル・アナリシス・ビュー 330
ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン 334
ビジネス・モデル・モジュールのアイコン 338
ビジネス・モデル・モジュールのフィールド 339
［モデルのインポート］ダイアログ・ボックス 341
［インポートした属性をユーザ フィールドにマップ］ダイアログ・ボックス 343
［モデル詳細］/［モデル アクティビティ詳細］ダイアログ・ボックス 344
［新規モデル パス］/［モデル パス詳細］ダイアログ・ボックス 346
［リンク］タブ 347
要件ツリーとテスト計画ツリーの表示枠 350
［代理項目］タブ 351

ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ

このウィンドウでは，ALM のビジネス・プロセス・モデルを定義して保守できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下で，[**ビジネス モデル**]を選択します。
重要な情報	ビジネス・モデル・モジュールには，次のビューが含まれます。 • **モデル・ツリー**: ビジネス・プロセス・モデルとその要素を階層ツリーに表示します。 • **モデル・グリッド** : モデル，アクティビティ，またはパスの非階層リストを表示します。 • **モデル・アナリシス**: モデルのテスト・カバレッジおよび品質のアナリシスを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「モデル・アナリシス・ビュー」(330ページ) を参照してください。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(320ページ) 「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
<ビジネス・モデル・モジュールの共通 UI 要素>	• **ビジネス・モデルのフィールド** : フィールドの定義については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ) を参照してください。 • **ビジネス・モデルのメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については，「ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン」(334ページ) を参照してください。 • **ビジネス・モデルのアイコン**: アイコンの説明については，「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(338ページ) を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**: 詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ) を参照してください。
	モデル図と図の概要の非表示と表示を切り替えます。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー

UI 要素	説明
<ビジネス・モデル・ツリー>	ビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，パスの階層表現です。アクティビティとパスは，対応するモデルの子として表示されます。 **注 :** ツリー内でのビジネス・プロセス・モデルの位置は，必ずしもモデル間の接続を反映しません。モデル間の接続は，モデル・アナリシス・ビューに表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「モデル・アナリシス・ビュー」(330ページ) を参照してください。
<ビジネス・プロセス・モデル図表示枠>	ウィンドウの右上にあり，現在選択されているビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。ビジネス・モデル・ツリーで選択したアクティビティまたはパスが図で強調表示されます。 **ヒント :** • CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと，表示を拡大縮小できます。または，CTRL キーを押しながら + および - キーを使用して，表示を拡大縮小できます。 • 図でアクティビティを選択すると，その詳細がメイン・ウィンドウに表示されます。 • アクティビティをダブルクリックすると，その詳細が別ウィンドウに表示されます。
<ビジネス・プロセス・モデルの概要>	ウィンドウの左下にあり，現在選択されているビジネス・プロセス・モデルの簡略化した図を表示します。概要で枠で囲まれたモデルの領域が，[図] 表示枠に拡大されています。 **ヒント :** • 概要で領域を選択すると，その領域が[図] 表示枠に詳しく表示されます。 • フレームをドラッグまたはサイズ変更すると，[図] 表示枠に詳細表示されるモデルの部分が変わります。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッドまたはツリーに適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーのすぐ上にあります。

UI 要素	説明
<グリッド・フィルタ> 作成者 David	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：モデル・グリッド・ビュー
アクティビティ	複数のビジネス・プロセス・モデルにわたるアクティビティのリストを表示します。 **ヒント：** アクティビティをビジネス・プロセス・モデルによってグループ分けするには，[**所有者モデルでグループ分け**]を選択します。 **利用可能な場所**：モデル・グリッド・ビュー
添付	現在選択されているビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，またはパスに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
コメント	現在選択されているモデル・エンティティについてのコメント。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
説明	現在選択されているモデル・エンティティの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
詳細	現在選択されているモデル・エンティティの詳細。
所有者モデルでグループ分け	[**アクティビティ**]または[**パス**]と組み合わせて選択した場合，アクティビティまたはパスを，それが定義されているモデルに基づいてグループ分けします。 このオプションが選択されていない場合，アクティビティまたはパスは階層化されていないリストに表示されます。 **利用可能な場所**：モデル・グリッド・ビュー
履歴	現在選択されているビジネス・プロセス・モデルに対して行われた変更が一覧表示されます。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。
インポートされた属性	ビジネス・プロセス・モデルまたはアクティビティに関連する，モデル・オーサリング・ツールで定義されたフィールド・ラベルと値が一覧表示されます。 **注：** このタブは読み取り専用です。

UI 要素	説明
リンク	ビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，またはパスにリンクされたエンティティが一覧表示される[要件]タブと[テスト]タブがあります。詳細については，「[リンク]タブ」(347ページ) を参照してください。
モデル	ビジネス・プロセス・モデルの一覧を表示します。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
パス	複数のビジネス・プロセス・モデルにわたるパスのリストを表示します。 **ヒント:** アクティビティをビジネス・プロセス・モデルによってグループ分けするには，[**所有者モデルでグループ分け**]を選択します。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
テキスト	アクティビティ・エンティティに表示されるテキスト。このフィールドは読み取り専用です。 **利用可能な場所** : モデル・アクティビティ

モデル・アナリシス・ビュー

このビューでは，ビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，パスの品質を分析できます。

アクセス方法	1. ビジネス・モデル・モジュールで，[**表示**] > [**モデル アナリシス**]を選択します。 2. 次のいずれかを実行します。 ■ [**モデル マップ**]タブで，モデルを選択します。対応するモデル・エンティティが，ビジネス・モデル・ツリーで強調表示されます。 ■ ビジネス・モデル・ツリーで，モデル・エンティティを選択します。 3. [**品質アナリシス**]タブをクリックします。
重要な情報	モデル・アナリシス・ビューには，次のタブが含まれます。 • **モデル・マップ**: ALM にインポートされたビジネス・プロセス・モデルの間の関係を表示します。 • **品質アナリシス**: ビジネス・プロセス・モデル・エンティティの品質を分析します。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(320ページ)

[モデル マップ] タブ

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	ビジネス・プロセス・モデル。 **ヒント:** モデルをダブルクリックすると，モデルの詳細が別ウィンドウに表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[モデル詳細]/[モデル アクティビティ詳細]ダイアログ・ボックス」(344ページ)を参照してください。
→	矢印の先のモデルが，矢印の元のモデルのサブプロセスであることを示します。
-----	双方向リンク，すなわち線の一端のモデルが他端のモデルの継続であることを示します。
<マップ領域>	ALM にインポートされたすべてのビジネス・プロセス・モデルと，モデル間の階層的接続を表示します。 分析するモデルをマップ領域で選択し，[**品質アナリシス**]タブをクリックします。 **ヒント:** CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと，マップ画像を拡大縮小できます。

[品質アナリシス] タブのツールバー

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
深度	[エンティティ] 表示枠に表示される階層レベルの数を，ルート・エンティティから数えて定義します。[エンティティ] 表示枠に表示されたエンティティは，アナリシス・グラフで分析されます。 **スタンドアローン・エンティティ:** ルート・エンティティだけを表示します。 **1 入れ子レベル:** ルート・エンティティと，現在のエンティティから 1 レベル下までを表示します。 **すべての入れ子レベル:** ルート・エンティティと，ルート・エンティティから発するすべてのレベルのすべてのエンティティを表示して分析します。
要件の子を含む	[エンティティ] 表示枠内のモデル・エンティティにリンクされた要件のすべての子要件をアナリシスに含めるように ALM に指示します。

UI 要素	説明
代理要件を含む	[エンティティ] 表示枠内のモデル・エンティティにリンクされた代理要件をアナリシスに含めるように ALM に指示します。 **ヒント:** このオプションは, 代理要件がテストにリンクされている場合に使用します。
生成	アナリシス・グラフを更新して最新情報を表示します。

[品質アナリシス] タブの[エンティティ] 表示枠

この表示枠には, [グラフ] 表示枠で分析されるビジネス・プロセス・モデル・エンティティが表示されます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります) 。

UI 要素	説明
<エンティティ表示枠>	[グラフ] 表示枠で分析されるビジネス・プロセス・モデル, アクティビティ, パスと, その間の階層的接続を表示します。 **注:** • 表示される階層レベルの数は, [**深度**] フィールドの値によって決まります。 • 複数のモデルまたはパスに含まれるアクティビティは, [エンティティ] 表示枠に 1 回だけ表示されます。 **ヒント:** • [エンティティ] 表示枠に表示されるルート・エンティティを変更するには, [モデル マップ] タブでモデルを選択するか, ビジネス・モデル・ツリーでエンティティを選択します。 • CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと, 表示を拡大縮小できます。 • エンティティをダブルクリックすると, エンティティの詳細が表示されます。
	ビジネス・プロセス・モデル・エンティティ。

UI 要素	説明
	パス・エンティティ。
	アクティビティ・エンティティ。

[品質アナリシス]タブの[グラフ]表示枠

この表示枠には，[エンティティ]表示枠に表示されているエンティティの品質を分析するグラフが表示されます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<グラフのタイトル>	グラフのタイトルをクリックすると，グラフのタイトルと外観を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[グラフの外観]ダイアログ・ボックス」(830ページ)を参照してください。
要件グラフ	[エンティティ]表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた要件のカバレッジ・ステータスを表示します。 **注 :** グラフに含まれる要件の範囲は，[**要件の子を含む**]オプションと[**代理要件を含む**]オプションによって決まります。
テスト・グラフ	[エンティティ]表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた要件のカバレッジ・ステータスを表示します。 **注 :** テスト・グラフには，要件グラフに含まれる要件にリンクされたテストと，[エンティティ]表示枠に表示されたエンティティに直接リンクされたテストが含まれます。
<凡例>	グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。 **ヒント :** カテゴリを右クリックして色を変更できます。
不具合グラフ	[エンティティ]表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた不具合の重要度を表示します。 **注 :** 不具合グラフには，要件グラフ内の要件にリンクされた不具合と，テスト・グラフ内のテストにリンクされた不具合が含まれます。

UI 要素	説明
最終生成日	グラフ・データが最後に更新された日時。データを更新するには[**生成**]をクリックします。
	グラフを全画面で表示 : 新しいウィンドウでグラフを開き，グラフの表示を最大化します。新しいウィンドウでは，グラフ・ビューをカスタマイズして，グラフ・データを保存できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ) を参照してください。
<グラフ領域>	グラフ領域では次の動作を実行できます。 • グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。タスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ) を参照してください。 • グラフの特定の領域を右クリックして色を変更できます。 • 棒の上にマウスを置くと，その領域のカテゴリ，X 軸，Y 軸の値を示すツールヒントが表示されます。

ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン

本項では，ビジネス・モデル・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下で，[**ビジネス モデル**]を選択します。
重要な情報	• モデル・ビューによっては，一部のメニュー・コマンドやボタンが利用できない場合があります。 • **ヒント** : ビジネス・モデル・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。 • **バージョン管理** : 追加のメニュー・コマンドおよびボタンは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。詳細については，「[バージョン]メニューおよびボタン」(130ページ) を参照してください。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(338ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
URL のコピー/貼り付け	編集	モデル・エンティティまたはフォルダをコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き，その項目に移動します。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
切り取り/貼り付け	編集	選択したビジネス・プロセス・モデルまたはフォルダを，ツリー内の別の位置に移動します。アクティビティとパスは，モデルとともに移動されます。 **ヒント :** ビジネス・プロセス・モデルまたはフォルダをツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。
削除	編集	選択したモデル・エンティティまたはフォルダを削除します。ルート・フォルダ名は削除できません。 **注 :** フォルダを削除すると，そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。
詳細	モデル	選択したモデル・エンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[モデル詳細]/[モデル アクティビティ詳細]ダイアログ・ボックス」(344ページ) を参照してください。
すべて展開/折りたたみ	表示	選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。
フィルタ/ソート	表示	ビジネス・モデル・ツリーまたはグリッド内のモデルのフィルタ処理とソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
検索	編集	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下のモデル・エンティティを検索できます。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ) を参照してください。
概要をウィンドウに合わせる	右クリック・メニュー	図の概要のズーム・レベルを調整して，モデル全体が[概要]表示枠に表示されるようにします。
ウィンドウに合わせる	右クリック・メニュー	モデル図のズーム・レベルを調整して，モデル全体が[図]表示枠に表示されるようにします。

UI 要素	メニュー	説明
フォローアップ・フラグ	編集	[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開き，選択したモデル・エンティティのフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については，「[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
モデルに移動	モデル	[モデルに移動] ダイアログ・ボックスが開き，モデル ID でモデルを検索できます。移動できるモデルは現在のフィルタに含まれるものだけです。
代理要件に移動	モデル	要件モジュールで要件ツリーを開き，選択したモデル・エンティティの代理要件を強調表示します。
要件ツリーの要件に移動する	右クリック・メニュー	要件モジュールで要件ツリーを開き，選択した要件を強調表示します。 **利用可能な場所** : [リンク] タブ > [要件] タブ
サブパネルに移動	右クリック・メニュー	ビジネス・モデル・ツリー内で，選択したアクティビティで表されるサブモデルに移動します。
テスト・セットのテストに移動	右クリック・メニュー	テスト・ラボ・モジュールで，テスト・セット内のテストのインスタンスを表示できます。 選択したテストにインスタンスが 1 つしかない場合，テスト・ラボ・モジュールが開き，インスタンスが強調表示されます。 選択したテストに複数のインスタンスがある場合，[テスト セットの選択] ダイアログ・ボックスが開き，テスト・セットおよびインスタンスを選択できます。 **利用可能な場所** : [リンク] タブ > [テスト] タブ
テスト・ツリーのテストに移動	右クリック・メニュー	テスト計画モジュールでテスト計画ツリーを開き，選択したテストを強調表示します。 **利用可能な場所** : [リンク] タブ > [テスト] タブ
モデルのインポート	モデル	[モデルのインポート] ダイアログ・ボックスが開き，ビジネス・プロセス・モデルをソース・ファイルからインポートまたは再インポートできます。詳細については，「[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス」(341ページ) を参照してください。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
インジケータ・カラム	表示	ビジネス・プロセス・モデル・ウィンドウの左側にインジケータを表示します。詳細については，「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(338ページ) を参照してください。
モデル・アナリシス	表示	モデル・アナリシス・ビューが表示され，選択したビジネス・プロセス・モデルの品質を分析できます。詳細については，「モデル・アナリシス・ビュー」(330ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
モデル・グリッド	表示	モデル・グリッド・ビューが表示され，モデル，アクティビティ，またはパスが非階層型のビューとして表示されます。
モデル・ツリー	表示	モデル・ツリー・ビューを表示します。このビューには，ビジネス・プロセス・モデルと要素がツリー形式で階層的に示され，選択したモデルの図が表示されます。
新規フォルダ	モデル	[新規フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，ビジネス・モデル・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 **構文の例外** : フォルダ名には，次の文字は使用できません。 \ ^ * **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
新規パス	モデル	[新規モデルパス]ダイアログ・ボックスが開き，モデルのアクティビティの間の遷移のシーケンスを定義できます。詳細については，「[新規モデルパス]/[モデルパス詳細]ダイアログ・ボックス」(346ページ) を参照してください。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
更新	表示	ビジネス・プロセス・モデル・ビューを更新し，最新情報を表示します。
リンクから削除	右クリック・メニュー	選択した要件またはテストをリンク・グリッドから削除します。 **利用可能な場所** : [リンク]タブ> [テスト]タブおよび[要件]タブ
名前の変更	編集	選択したビジネス・プロセス・モデル・フォルダの名前を変更できます。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
すべて選択	編集	グリッドに表示されているすべてのレコードを選択します。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビューおよび[リンク]タブ> [テスト]タブおよび[要件]タブ
カラムの選択		[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，ビジネス・モデル・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。 **利用可能な場所** : モデル・グリッド・ビュー
要件の選択/テストの選択	右クリック・メニュー	パネルが開き，次のタブが表示されます。 • 要件ツリー • テスト計画ツリー このタブでは，要件とテストをモデル・エンティティにリンクできます。

UI 要素	メニュー	説明
電子メールで送信	モデル	[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開き，リストから選択した宛先にビジネス・プロセス・モデルを電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
完全パスの表示	右クリック・メニュー	リンクされた要件またはテストのフル・パスを表示します。パスは，リンクされた要件の[名前]カラムと，リンクされたテストの[テスト名]カラムに表示されます。 **利用可能な場所** : [リンク]タブ> [テスト]タブおよび[要件]タブ
テキスト検索	編集	ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウの下部に[テキスト検索]表示枠が開き，定義済みフィールド内のレコードを検索できます。詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。 **利用可能な場所** : モデル・エンティティ
ズーム・イン	右クリック・メニュー	モデル図のズーム・レベルを上げます。
概要のズーム・イン	右クリック・メニュー	図の概要のズーム・レベルを上げます。
ズーム・アウト	右クリック・メニュー	モデル図のズーム・レベルを下げます。
概要のズーム・アウト	右クリック・メニュー	図の概要のズーム・レベルを下げます。

ビジネス・モデル・モジュールのアイコン

本項では，ビジネス・モデル・モジュールで利用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下で，[**ビジネス モデル**]を選択します。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン」(334ページ) 「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(327ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	<緑のアスタリスク> : タブが追加されていることを示します。
	サブモデルに展開されるアクティビティ

UI 要素	説明
	警告 : クリックすると, モデル・エンティティのアラートが表示されます。 • **赤の警告** : 新しい警告です。 • **グレーの警告** : 警告は既読です。 詳細については, 「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ) を参照してください。
	添付 : クリックすると, 指定したモデル・エンティティの添付ファイルが表示されます。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が 10 個より多い場合は, [**他の x 個の添付**]リンクをクリックして[**添付**]ページで一覧を表示します。詳細については, 「[添付]ページ」(94ページ) を参照してください。
	ビジネス・プロセス・モデル
	ビジネス・プロセス・モデル・アクティビティ
	ビジネス・プロセス・モデル・フォルダ
	ビジネス・プロセス・モデル・パス
	フォローアップ・フラグ : クリックすると, モデル・エンティティのフォローアップ・フラグが表示されます。 • **グレーのフラグ** : 新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ** : フォローアップ日です。 詳細については, 「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
	再インポートされたビジネス・プロセス・モデル **利用可能な場所** : [モデルのインポート]ダイアログ・ボックス
	未解決パス
	バージョン管理 : モデル・エンティティはチェックアウトされています。 • **緑の鍵** : モデル・エンティティは現在のユーザによってチェックアウトされています。 • **赤の鍵** : モデル・エンティティはほかのユーザによってチェックアウトされています。

ビジネス・モデル・モジュールのフィールド

本項では, ビジネス・モデル・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**要件**]の下で, [**ビジネス モデル**]を選択します。

重要な情報	• ビジネス・モデル・モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，フィールドのラベルの変更ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，ビジネス・モデル・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ユーザ名の値を含むビジネス・プロセス・モデル・カラムを選択する場合 (ユーザ定義フィールドを含む)，各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索，ユーザのソート，ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け，およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については，「[ユーザリスト] ダイアログ・ボックス」(81ページ) を参照してください。 • **バージョン管理** : 追加のフィールドは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。詳細については，「バージョン管理フィールド」(131ページ) を参照してください。 • ビジネス・プロセス・モデル・ビューによっては，一部のフィールドは利用できません。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(327ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクティビティ ID/フォルダ ID/パス ID/モデル ID	エンティティに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。ID フィールドは変更できません。
コメント	エンティティに関するコメント。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
作成者	**モデル/アクティビティ**: エンティティを最初にインポートしたユーザ。 **パス**: パスを作成したユーザ。
作成日	**モデル/アクティビティ**: エンティティが最初にインポートされた日時。 **パス**: パスが作成された日時。
説明	エンティティの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
Guid	モデルを識別する一意のコード。コードは再インポートの際にモデルを識別するために使用されます。
Guid of referenced element	アクティビティがビジネス・プロセス・モデルを参照している場合，モデルを識別する一意のコード。
インポート日時	エンティティが最後にインポートされた日時。
インポート実行元	エンティティを最後にインポートしたユーザ。
インポートされたファイル名	モデルが最後にインポートされたときのソース・ファイル名。
レーン	モデル内のアクティビティの位置。
モデル作者	モデル・オーサリング・ツールでモデルを作成したユーザ。
名前	エンティティ名。
表記法	ソース・ファイルでモデルを実装するために用いられている表記法。可能な値は，[**EPC**]または[**BPMN**]です。
表記法バージョン	ソース・ファイルでモデルを実装するために用いられている表記法 (EPC または BPMN) のバージョン。
パスの説明	パスに含まれるアクティビティが一覧表示されます。
プール	モデル内のアクティビティの位置。
優先度	エンティティの優先度。
プロトタイプ	可能な値は，[**As-Is**]または[**To-Be**]です。
ステータス	エンティティのステータス。
テキスト	アクティビティ図に表示されるようにモデリング・ツールで定義されているテキスト。
タイプ	アクティビティ・タイプ。
ベンダー	ビジネス・プロセス・モデルの作成に使用されたモデリング・ツール。

[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ビジネス・プロセス・モデルをソース・ファイルからインポートできます。

アクセス方法	ビジネス・モデル・モジュールの**モデル・ツリー**ビューで，フォルダを右クリックし，[**モデルのインポート**]を選択します。
重要な情報	インポートされたモデルおよびアクティビティの名前に ALM で使用できない文字 (例，\ ^ *) が含まれる場合は，下線文字に置換されます。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)

詳細	「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(327ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
対象ファイル	ビジネス・プロセス・モデルをインポートするソース・ファイル。 **ヒント:** 参照ボタンをクリックして，別のフォルダにあるファイルを選択できます。
分析	ソース・ファイルをスキャンしてビジネス・プロセス・モデルを探します。ファイル中のモデルがファイル内容領域に表示されます。
属性のマップ	[インポートした属性をユーザフィールドにマップ] ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[インポートした属性をユーザフィールドにマップ] ダイアログ・ボックス」(343ページ) を参照してください。
インポートするモデルの選択	ソース・ファイルに含まれるビジネス・プロセス・モデルを表示します。 ARIS 表記法のファイルを選択した場合，構造化モデルは階層的に表示されます。
保存先	インポートしたモデルを追加するビジネス・モデル・ツリーのフォルダ。 **注:** • ルートの[**モデル**]フォルダの下にはモデルをインポートできません。 • 再インポートされたモデルは，元のフォルダに置かれます。 **ヒント:** ドロップダウン・ボタンをクリックして，ビジネス・モデル・ツリーのフォルダを選択します。
詳細(D) >>	代理要件を定義するためのオプションの表示/非表示を切り替えます。
インポート	[インポートするモデルの選択] 表示枠で選択したモデルをインポートします。 [モデルのインポート] ダイアログ・ボックスが開き，ファイルのインポートの進行状況とステータスが表示されます。
要件名の変更	再インポートしたモデルの代理要件の名前を変更するように ALM に指示します。要件の名前は，ビジネス・プロセス・モデルとそのアクティビティの新しい名前に基づいて変更されます。 [**詳細**] 表示枠が展開されている場合に利用できます。

UI 要素	説明
要件のインポート先	インポートしたビジネス・プロセス・モデルの代理要件を追加する要件ツリーのフォルダ。 **注 :** • [**要件**] ルート・フォルダは選択できません。 • 再インポートされたモデルの代理要件は，元のフォルダに置かれます。 **ヒント :** ドロップダウン・ボタンをクリックして，要件ツリーのフォルダを選択します。 [**詳細**] 表示枠が展開されている場合に利用できます。

[インポートした属性をユーザ フィールドにマップ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，モデルおよびアクティビティ属性を ALM のフィールドに割り当てることができます。

アクセス方法	[モデルのインポート] ダイアログ・ボックスで，インポートするファイルを選択し，[**属性のマップ**] をクリックします。
重要な情報	• 属性のマップを有効にするには，ビジネス・プロセス・モデルおよびビジネス・プロセス・モデル要素エンティティに文字列またはメモ・フィールドを追加する必要があります。ユーザ定義フィールドの追加の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ユーザ・フィールドが定義されていない場合，インポートした属性が適切なグリッドに表示されません。 • 選択したモデルにマップ済みの属性がある場合，既存のマップが表示されます。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(327ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
モデル属性マッピング	インポートしたモデル属性が，マップした ALM のフィールドに表示されます。 **注 :** マップした属性の表示と非表示を切り替えるには，[**マップされない属性のみ表示**]オプションを使用します。
アクティビティ属性マッピング	インポートしたアクティビティ属性が，マップした ALM のフィールドに表示されます。 **注 :** マップした属性の表示と非表示を切り替えるには，[**マップされない属性のみ表示**]オプションを使用します。
インポートされた属性	ソース・ファイルからインポートしたモデルまたはアクティビティ属性が一覧表示されます。
ユーザ・フィールド	対応する属性にマップしたユーザ定義フィールドが一覧表示されます。 **注 :** • ドロップダウン・リストには，選択したモデルの属性にまだマップされていないユーザ・フィールドのみが表示されます。 • インポートしたモデルの属性にユーザ・フィールドがマップされている場合，選択したモデルのほかの属性に割り当て直すことができます。再割り当てにより，前のマップが上書きされます。
マップされない属性のみ表示	ALM のフィールドにマップした属性を非表示にできます。

[モデル詳細]/[モデル アクティビティ詳細]ダイアログ・ボックス

[モデル詳細]ダイアログ・ボックスでは，ビジネス・プロセス・モデルの詳細を表示して更新できます。

[モデル アクティビティ詳細]ダイアログ・ボックスでは，ビジネス・プロセス・モデルのアクティビティの詳細を表示して更新できます。

アクセス方法	ビジネス・モデル・モジュールで，ビジネス・プロセス・モデルまたはアクティビティを右クリックし，[**x 詳細**]を選択します。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(320ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	電子メールで送信:[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開き，リストから選択した宛先にビジネス・プロセス・モデルを電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**:[ビジネスプロセスモデル詳細]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典:選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション:スペル・チェックの方法を設定できます。
<ビジネス・モデル・モジュールのフィールド>	ビジネス・モデル・モジュールで利用可能なフィールドの詳細については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。
詳細	選択したビジネス・エンティティに関連するフィールドが一覧表示されます。詳細については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。
モデル図	**[ビジネスプロセスモデル詳細]ダイアログ・ボックス**:現在のビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。 **[モデルアクティビティ詳細]ダイアログ・ボックス**:現在のアクティビティが組み込まれているビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。現在のアクティビティはモデル図で強調表示されます。 **ヒント**:図の領域を右クリックして，ズーム・オプションを選択できます。
インポートされた属性	ビジネス・エンティティに関連する，モデリング・ツールで定義されたフィールド・ラベルと値が一覧表示されます。
添付	現在選択されているモデル・エンティティに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
リンク	ビジネス・エンティティにリンクされたエンティティが一覧表示される[要件]タブと[テスト]タブがあります。詳細については，「[リンク]タブ」(347ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているビジネス・プロセス・モデルに対して行われた変更が一覧表示されます。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**:[ビジネスプロセスモデル詳細]ダイアログ・ボックス

[新規モデル パス]/[モデル パス詳細]ダイアログ・ボックス

[新規モデル パス]ダイアログ・ボックスでは，ビジネス・プロセス・モデル内のアクティビティの間の遷移のパスを定義できます。

[モデル パス詳細]ダイアログ・ボックスでは，ビジネス・プロセス・モデルのパスの詳細を表示して更新できます。

アクセス方法	**[新規モデル パス]ダイアログ・ボックス:** 1. ビジネス・モデル・モジュールで，[**モデル ツリー**]ビューを選択します。 2. ビジネス・プロセス・モデルを右クリックし，[**新規パス**]を選択します。 **[モデル パス詳細]ダイアログ・ボックス:** ビジネス・モデル・モジュールで，パスを右クリックし，[**詳細**]を選択します。
重要な情報	• パスはビジネス・モデル・ツリー内にビジネス・プロセス・モデルのサブエンティティとして作成されます。 • 同じアクティビティを繰り返す再帰的なパスはサポートされません。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(321ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
<ビジネス・モデル・モジュールのフィールド>	ビジネス・モデル・モジュールで利用可能なフィールドの詳細については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。
詳細	選択したパスに関連するフィールドが一覧表示されます。詳細については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。
添付	現在選択されているパスに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
リンク	パスにリンクされたエンティティが一覧表示される[要件]タブと[テスト]タブがあります。 **利用可能な場所** : [モデル パス詳細]ダイアログ・ボックス
パス	**[新規ビジネス モデル パス]ダイアログ・ボックス**: ビジネス・プロセス・モデル内の可能なエンド ツーエンド・パスのドロップダウン・リスト。テスト対象として重要なパスを選択します。 **[ビジネス モデル パスの詳細]ダイアログ・ボックス**: 現在のエンド ツーエンド・パスの表記法。パス内のアクティビティは番号で表現されます。 **注 :** パスが未解決の場合, ドロップダウン・リストから新しいパスを選択します。 **ヒント :** [**パスの説明**]タブをクリックすると, パス内のアクティビティの完全な名前を含む, パスの詳細な説明が表示されます。
<モデル図>	ビジネス・プロセス・モデルの図。[**パス**]ドロップダウン・リストでパスを選択すると, そのパス上のアクティビティとノードが強調表示されます。
説明	現在選択されているパスについての説明が表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると, テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
コメント	現在選択されている要件のパスが表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると, テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
パスの説明	パス内のアクティビティの完全な名前を含む, パスの詳細な説明。

[リンク]タブ

このタブでは, 要件とテストをモデル・エンティティにリンクできます。

アクセス方法	ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを選択して, [**リンク**]タブまたはボタンをクリックします。
重要な情報	要件リンクは, 代理要件をテストに変換した場合には, 自動的に作成されます。したがって要件リンクを追加しなくても, すでに存在していることがあります。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)

[要 件]タブ

次 にユーザ・インタフェースの要 素 について説 明します(ラベルのない要 素 は, 山 括 弧 で囲 んで表 記 してあります) 。

UI 要 素	説 明
要件を選択	パネルが開き, 次 のタブが表 示 されます。 • 要 件 ツリー • テスト計 画 ツリー このタブでは, 要 件 とテストをモデル・エンティティにリンクできます。 詳 細 については, 「要 件 ツリーとテスト計 画 ツリーの表 示 枠 」(350ページ) を参 照 してください。
	リンクから削 除 : 選 択 した要 件 をリンク・グリッド から削 除 します。
	すべて更 新 : リンク・グリッド を更 新 します。
	カラムの選 択 : [カラムの選 択]ダイアログ・ボックスが開 き, リンク・グリッド に表 示 するフィールド とその順 序 を指 定 できます。詳 細 については, 「[カラムの選 択]/[フィールド の選 択]ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参 照 してください。
	コピー/貼 り付 けリンクされた要 件 を別 のモデル・エンティティにコピーします。コピーした要 件 を貼 り付 けるには, モデル・エンティティを選 択 し, [**リンク**] > [**要 件**]タブをクリックし, [**貼 り付 け**]をクリックします。
<リンク・グリッド >	フィールド の定 義 については, 「要 件 モジュール・フィールド 」(273ページ) を参 照 してください。

[テスト]タブ

次 にユーザ・インタフェース要 素 について説 明します。

UI 要 素	説 明
テストを選択	パネルが開き, 次 のタブが表 示 されます。 • 要 件 ツリー • テスト計 画 ツリー このタブでは, 要 件 とテストをモデル・エンティティにリンクできます。 詳 細 については, 「要 件 ツリーとテスト計 画 ツリーの表 示 枠 」(350ページ) を参 照 してください。

UI 要素	説明
	リンクから削除 : 選択したテストをリンク・グリッドから削除します。 **注 :** リンクされている要件を対象とするテストは削除できません。
	すべて更新 : リンク・グリッドを更新します。
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, リンク・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については, 「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	コピー/貼り付け リンクされたテストを別のモデル・エンティティにコピーします。コピーしたテストを貼り付けるには, モデル・エンティティを選択し, [**リンク**] > [**テスト**] タブをクリックし, [**貼り付け**] をクリックします。
	フィルタ/ソートの設定 : 次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定** : [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア** : 適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については, 「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
カバレッジ	グリッドに表示されるリンクされたテストのタイプを選択します。 • **直接カバレッジ** : モデル・エンティティまたは代理要件に直接リンクされたテストを表示します。このオプションは必ず選択されています。 • **リンクされた要件カバレッジ** : モデル・エンティティにリンクされた要件にリンクされたテストを表示します。 • **子要件カバレッジ** : モデル・エンティティにリンクされた要件の子要件にリンクされたテストを表示します。
テスト セットの生成...	リンク・グリッド内のテストを含むテスト・セットを作成できます。 [テスト セット フォルダを選択] ダイアログ・ボックスで, テスト・セットを作成するテスト・セット・ツリーのフォルダを選択します。
<リンク・グリッド>	フィールドの定義については, 「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) を参照してください。

要 件 ツリーとテスト 計 画 ツリーの表 示 枠

この表 示 枠 では，要 件 とテストをビジネス・プロセス・モデル・エンティティにリンクできます。

アクセス方 法	1. ビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，またはパスを選 択 して，［**リンク**］タブまたはボタンをクリックします。 2. ［**要 件** ］または［**テスト** ］タブをクリックします。 3. ［**要 件 の選 択** ］または［**テストを選 択** ］ボタンをクリックします。
重 要 な情 報	ビジネス・モデル・モジュール・ウィンド ウでは，要 件 およびテストをモデル図 内 の任 意 のエンティティにド ラッグ・アンド ・ド ロップすることにより，リンクを作 成 できます。
関 連 タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関 する作 業 方 法 」(322ページ)

次 にユーザ・インタフェース要 素 について説 明 します。

UI 要 素	説 明
	リンクに追 加 : 選 択 した要 件 ，テスト，またはフォルダをリンク・グリッド に追 加 します。 **ヒント :** 別 の方 法 として，要 件 およびテストをモデル図 内 のエンティティまで直 接 ド ラッグして，任 意 のモデル・エンティティへのリンクを作 成 することもできます。
	エンティティの詳 細 を表 示 : 選 択 したエンティティの［詳 細 ］ダイアログ・ボックスが読 み取 り専 用 モード で開 きます。
	モジュール・ツリーのエンティティに移 動 : 選 択 したエンティティのモジュールのエンティティの場 所 に移 動 し，そのエンティティを強 調 表 示 します。
	更 新 : ツリーを更 新 して最 新 情 報 を表 示 します。
	検 索 : ツリーで特 定 の要 件 またはテストを検 索 します。 ［検 索 ］ボックスに要 件 またはテスト の名 前 (またはその一 部) を入 力 して，［**検 索** ］をクリックします。検 索 が成 功 すると，要 件 またはテストがツリーで強 調 表 示 されます。
	フィルタ/ソート : 次 のオプションがあります。 • **フィルタ/ソート の設 定** : ［フィルタ］ダイアログ・ボックスが開 きます。テスト のフィルタ処 理 とソートを実 行 できます。 • **フィルタ/ソート のクリア** : 適 用 したフィルタまたはソート が解 除 されます。 詳 細 については，「［フィルタ］ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参 照 してください。

UI 要素	説明
	ID で要件に移動 : [要件に移動]ダイアログ・ボックスが開き, **要件 ID** で要件を検索できます。 **ID でテストに移動** : [テストに移動]ダイアログ・ボックスが開き, **テスト ID** でテストを検索できます。 **注 :** 現在のフィルタ内の要件およびテストにのみ移動できます。
	要件ツリーとテスト計画ツリーの表示枠を非表示にします。

[代理項目]タブ

このタブには, 選択した要件で表されるビジネス・プロセス・モデル・エンティティが一覧表示されます。

アクセス方法	[**要件**]モジュールで要件の詳細ビューを開き, ビジネスモデル要件を選択し, [**代理項目**]タブをクリックします。
関連タスク	「要件の作成方法」(260ページ) 「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(322ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新 : グリッドを更新して最新情報を表示します。
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き, 要件ツリーまたは要件グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については, 「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
<ビジネス・モデル・エンティティ・グリッド>	グリッド内のリンクをクリックすると, ビジネス・モデル・ツリーで, 表されるビジネス・プロセス・モデルに移動します。 フィールドの定義については, 「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。

第4部: クラウド設定

ALM では，パフォーマンス・テストで使用するクラウド・ホストをプロビジョニングすることができます。このプロビジョニングには，ALM へのクラウド・アカウントの追加，ホスト・テンプレートの作成，ホストのプロビジョニングなどの作業があります。

このガイドでは，クラウド設定の簡単な概要のみを説明しています。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

クラウド設定には，次のモジュールがあります。

- **クラウド・アカウント**
  ALM にクラウド・アカウントを追加します。ALM にアカウントを追加するには，あらかじめクラウド・プロバイダと契約しアカウントを取得しておく必要があります。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

- **ホスト・テンプレート**
  クラウド・ホストをプロビジョニングするために使用するテンプレートを作成できます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

第 5部: ラボ・リソース

第19章: ラボ・リソースの紹介

本章の内容

ラボ・リソースの概要 358
ALM でのラボ・リソースの使用方法 358

ラボ・リソースの概要

HP ALM ラボ管理では，サーバ側の機能テストおよびパフォーマンス・テストに使用するリソースを管理できます。ALM のラボ・リソース・モジュールは，テスト・リソースの表示および管理とデプロイメント・スキーマの自動化に使用されます。

ALM のエディション : ラボ・リソース・モジュールは ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

タスクの詳細については，「ALM でのラボ・リソースの使用方法」(358ページ) を参照してください。

ラボ・リソースの管理に使用する管理タスクの多くは，ラボ管理 のみで使用できます。ALM プロジェクトから，プロジェクトに割り当てられているリソースのみを表示し管理できます。

ラボ管理およびラボ・リソースの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ALM でのラボ・リソースの使用方法

ALM では，プロジェクトに割り当てられたラボ・リソースを表示，使用できます。

- テスティング・ホスト・モジュールを使用すると，テスティング・ホストを表示，変更できます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。テスティング・ホストの詳細については，「テスティング・ホストの概要」(360ページ) を参照してください。

- AUT 環境モジュールを使用すると，AUT ホストで使用するパラメータを表示，変更できます。CDA サーバ(HP Continuous Delivery Automation) に接続された環境を使用している場合，環境設定を CDA にリンクしてデプロイメント・スキーマを自動化することもできます。詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ) を参照してください。

ALM のエディション : ラボ・リソース・モジュールは ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ラボ・リソース管理の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ALM のラボ・リソースの詳細については，「ラボ・リソースの概要」(358ページ) を参照してください。

第20章：テスティング・ホスト

本章の内容

テスティング・ホストの概要 360

テスティング・ホストの概要

ALM のテスティング・ホスト・モジュールを使用すると，テスティング・ホストのプロパティを表示，変更できます。プロジェクトのホスト・プールからのテスティング・ホストは，テスティング・ホスト・モジュールのグリッドに表示されます。

> ALM のエディション: テスティング・ホスト・モジュールは ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

テスティング・ホストは，サーバ側の機能テストおよびパフォーマンス・テストに使用できます。テストを使用中のコンピュータのコンソールから起動するのではなく，ALM サーバで制御できます。サーバ側の実行は，機能テスト・セットとパフォーマンス・テスト・セットの両方で使用できます。

各テスティング・ホストには，場所，目的，属性が割り当てられます。テスティング・ホストはテスト・ラボに配置することも，または必要に応じてクラウンド上にプロビジョニングすることもできます。

パブリック・テスティング・ホストは，ラボ管理のみで作成できます。各テスティング・ホストは，ホスト・プール内に配置し，プロジェクトに割り当てることができます。また，ALM 内から，プロジェクトのプライベート・テスティング・ホストを作成することもできます。ALM でプライベート・ホストを作成すると，ラボ管理のプロジェクトのホスト・プールに自動的に追加されます。

テスティング・ホストを ALM に追加するには，まずテスティング・ホスト・モジュールでホストを作成し，HP ALM Lab Service を使用して登録する必要があります。HP ALM Lab Service の概要については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

テスティング・ホストの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ホストおよびホスト・プールの作成および管理の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

パフォーマンス・テスト用にクラウド・ホストをプロビジョニングする方法の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ALM で機能テスト・セットを実行するためにリモート・テスティング・ホストを使用する方法の詳細については，「機能テストの実行方法」(618ページ)を参照してください。

第21章: AUT 環境

本章の内容

AUT 環境の概要 362
AUT 環境の使用方法 363
AUT 環境のユーザ・インタフェース 366

AUT 環境の概要

AUT 環境では，テストに使用する環境データをパラメータ化することで，ラボ管理のテスト実行をより動的にできます。

AUT 環境は，AUT 環境パラメータ・セットのコンテナです。各 AUT 環境パラメータに標準設定値を指定することができます。

AUT 環境内で一連の AUT 環境設定を作成します。各 AUT 環境設定には，AUT 環境パラメータ・セットが含まれており，すべて上書きできます。同じロジックを使用するが，異なる AUT 環境パラメータが必要になる複数のさまざまなテストを定義し，実行しなくても，実行時に ALM をテストに挿入する特定の AUT 環境設定を単に準備するだけです。その後，ALM では，環境をデプロイしてテストを実行するときに AUT 環境設定で定義したパラメータ値を使用します。

ALM のエディション：AUT 環境モジュールは ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

環境パラメータ値定義を動的にするには，AUT 環境設定を CDA にリンクします。詳細については，「AUT 環境の CDA へのリンク」(362ページ)を参照してください。

AUT 環境設定は，ALM の Continuous Delivery ソリューションの主要コンポーネントです。これらの環境設定は，アプリケーション開発の効率化，信頼性，および短縮化を実現する自動化されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを容易にします。このプロセスの一部として AUT 環境を使用する方法の詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ)を参照してください。

注： AUT 環境設定の実装は，現在 Performance Center テスト，Service Test，UFT GUI，API テスト，および VAPI-XP でのみ利用できます。

タスクの詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

AUT 環境の CDA へのリンク

プロジェクトを HP Continuous Delivery Automation(CDA) にリンクすると，テスト環境を動的にプロビジョニングおよびデプロイすることができます。ラボ管理を使用して ALM で CDA サーバを設定します。

注： ラボ管理での CDA サーバの設定に関する詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ALM のエディション：AUT 環境モジュールは，ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

動的なプロビジョニングとデプロイメントを活用するには，まず AUT 環境設定を CDA にリンクします。次に，テスト・セットまたはビルド検証スイートを実行するときに，特定の環境パラメータを指定するのではなく，リンクされた AUT 環境設定を実装します。その後，CDA によって，クラウドから必要なリソースの利用可能なセットが自動的に割り当てられます。CDA にリンクされている AUI 環境設定を使用する際には，複数の環境パラメータの値を追跡する必要はありません。また，テストの実行前に環境リソースの可用性を確認する必要もありません。

タスクの詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

AUT 環境の使用方法

このタスクでは，AUT 環境の使用方法について説明します。

> ALM のエディション：AUT 環境モジュールは，ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

- 「前提条件」(363ページ)
- 「AUT 環境の作成」(363ページ)
- 「AUT 環境設定の CDA へのリンク(任意)」(364ページ)
- 「AUT 環境を使用するテストの実行」(365ページ)
- 「デプロイメントおよびプロビジョニング・オプションを選択します(CDA のみ)。」(365ページ)

1. **前提条件**
   - 設定する必要がある AUT 環境。
   - テスト対象となるアプリケーション。
   - 各アプリケーションに対して準備する環境の数。
   - 各環境に必要な詳細情報。たとえば，各環境に固有の URL，ユーザ名，パスワードを設定するかどうか。
2. **AUT 環境の作成**
   a. **AUT 環境モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。

   b. **フォルダを作成します。** ルートの[AUT 環境]フォルダまたはサブフォルダを選択し，[**新規 AUT 環境フォルダ**]ボタンをクリックします。

   c. **フォルダに AUT 環境を追加します。** フォルダを選択し，[**新規 AUT 環境**]ボタンをクリックします。テストする必要がある各アプリケーションに AUT 環境を追加します。

ユーザ・インタフェースの詳細については,「[新規 AUT 環境]ダイアログ・ボックス」(373ページ)を参照してください。

d. **AUT パラメータを追加します。** AUT 環境を選択し,右側の表示枠にある[**新規 AUT パラメータ**]ボタンをクリックします。テスト対象のアプリケーションに必要な環境パラメータごとに,パラメータを追加します。[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックスでパラメータ名と値を入力します。[AUT パラメータ]ダイアログ・ボックスで入力した値は,選択した AUT 環境内の該当するパラメータの標準設定値になります。

ユーザ・インタフェースの詳細については,「[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックス」(375ページ)を参照してください。

e. **AUT 環境設定を追加します。** AUT 環境を選択し,[**新規 AUT 環境設定**]ボタンをクリックします。選択したアプリケーションのテスト中に使用する可能性がある環境ごとに AUT 環境設定を追加します。

ユーザ・インタフェースの詳細については,「[新規 AUT 環境設定]ダイアログ・ボックス」(374ページ)を参照してください。

f. **AUT 環境設定を変更します。** AUT 環境設定を選択し,この特定の AUT 環境設定に対して調整する必要がある標準設定パラメータ値を上書きします。右側の表示枠にある標準設定パラメータ値を変更できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については,「AUT 環境モジュール・ウィンドウ」(367ページ)を参照してください。

3. **AUT 環境設定の CDA へのリンク(任意)**

AUT 環境設定を HP Continuous Delivery Automation(CDA)にリンクして,動的にプロビジョニングおよびデプロイされるようにテストを準備することができます。詳細については,「AUT 環境の CDA へのリンク」(362ページ)を参照してください。

> **注:** CDA を使用するには,ラボ管理で CDA サーバを設定する必要があります。詳細については,『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

AUT 環境設定を CDA にリンクするには,次の手順を実行します。

a. **AUT 環境**モジュールで AUT 環境設定を選択します。

b. [**CDA にリンク**] ボタンをクリックします。

c. [CDA にリンク]ダイアログ・ボックスで,ドロップダウンを使用して CDA トポロジを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[CDA にリンク]ダイアログ・ボックス」(376ページ)を参照してください。

d. **AUT 環境**モジュールの右側の表示枠にある[**値**]タブでパラメータを選択します。CDA パラメータを選択し,選択済みの AUT 環境パラメータにリンクします。

4. **AUT 環境を使用するテストの実行**

機能テストまたはパフォーマンス・テストの実行時に，AUT 環境設定を指定し，特定の環境パラメータを使用したテストを実行することができます。

> **注:** AUT 環境は，Performance Center テスト，Service Test，UFT の API テスト，VAPI-XP テストでのみ利用できます。

次のいずれかの方法で AUT 環境設定を使用したテストを実行します。

- **タイムスロットをスケジュール設定する。**

  タイムスロット・モジュールで新規タイムスロットを作成します。実行するテスト・セットを選択してから，AUT 環境設定を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス」(701ページ)を参照してください。

- **機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テストの実行の一部として実行する。**

  テスト・タブ・モジュールで，[**実行グリッド**]タブに移動します。機能テスト・セットを選択し，[**テスト セットの実行**]をクリックするか，パフォーマンス・テスト・セット，次にパフォーマンス・テストを選択してから，[**テストの実行**.]をクリックします。[<エンティティ> の実行]ダイアログで，AUT 環境設定を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。

- **ビルド検証スイートで実行する。**

  ビルド検証モジュールで，ビルド検証スイートを選択して[**実行**]をクリックします。[ビルド検証スイートの実行]ダイアログで，AUT 環境設定を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。

5. **デプロイメントおよびプロビジョニング・オプションを選択します(CDA のみ)。**

デプロイメント:システムを CDA と統合すると，テスト対象アプリケーションのデプロイメントおよびプロビジョニングのアクションを選択できます。ALM では，この目的で[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスと[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックスに次のオプションが用意されています。

- **プロビジョニングとデプロイ**:テスト対象アプリケーションの環境をデプロイするマシンを割り当てて，必要なイメージを準備し，アプリケーションをインストールできるようにします。つまり，オペレーティング・システム，データベース・サーバ，必要なすべてのソフトウェアが CDA パラメータに基づいてインストールされます。プロビジョニングの後に，テスト対象アプリケーション自体がインストールされます。

- **再デプロイ**:すでにプロビジョニングされているマシンでテスト対象アプリケーションの環境をデプロイして実行します。

- **デプロイ済みを使用**:既存のインストールを使用してテストを実行します。

> **注:**

- 選択するオプションを決定する際には，プロビジョニングおよびデプロイメントのアクションに時間がかかるので注意してください。定期的なテストの場合は，［**デプロイ済みを使用**］を選択することをお勧めします。
- 環境をデプロイし，実行で使用できるように準備できます。ビルド検証スイートまたはテスト・セットを一日中実行するようにスケジュール設定し，使用する環境を選択してください。

利用可能な対象：すべてのオプションは，ビルド検証スイートのタイムスロットで利用できます。機能テスト・セットのタイムスロットの場合は，標準設定で［**デプロイ済みを使用**］が選択されています。この選択を変更することはできません。

プロビジョニング：また，ALM では，環境のデプロイ後に実行されるアクションを選択することもできます。以下のオプションがあります。

- **環境をデプロイ済みのままにする**：AUT 環境を無期限にデプロイ済みのままにします。デプロイ済みの環境は，将来のテストに使用できます。
- **終了時にプロビジョニング解除**：テストの実行が完了した後に，環境のデプロイおよびマシンのプロビジョニングが解除され，他の使用のために環境とマシンが解放されます。

利用可能な場所：ビルド検証および機能テスト・セットのタイムスロット

ユーザ・インタフェースの詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」（701ページ）および「［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックス」（621ページ）を参照してください。

AUT 環境のユーザ・インタフェース

本項の内容

AUT 環境モジュール・ウィンドウ 367
AUT 環境モジュールのメニューとボタン 368
AUT 環境モジュールのフィールド 371
AUT 環境モジュールのアイコン 371
［AUT 環境の詳細］ダイアログ・ボックス 372
［新規 AUT 環境］ダイアログ・ボックス 373
［AUT 環境設定の詳細］ダイアログ・ボックス 373
［新規 AUT 環境設定］ダイアログ・ボックス 374
［新規 AUT パラメータ］ダイアログ・ボックス 375
［AUT パラメータ詳細］ダイアログ・ボックス 375
［CDA にリンク］ダイアログ・ボックス 376

AUT 環境モジュール・ウィンドウ

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。
重要な情報	ALM のエディション: AUT 環境モジュールは, ALM Editionでのみ使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については,「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには, ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<AUT 環境モジュールの共通の UI 要素>	• **AUT 環境フィールド**: フィールドの定義については,「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)を参照してください。 • **AUT 環境のメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については,「AUT 環境モジュールのメニューとボタン」(368ページ)を参照してください。 • **AUT 環境アイコン**: アイコンの説明については,「AUT 環境モジュールのアイコン」(371ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド, メニュー, サイドバー**: 詳細については,「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
<AUT 環境ツリー>	ウィンドウの左にあり, AUT 環境を階層状に整理, 表示します。 **注**: AUT 環境はフォルダ内で移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると, フォルダ内の AUT 環境はアルファベット順に並べ替えられます。
[詳細]タブ	ウィンドウの右側にあります。[AUT 環境]フィールドの一覧です。フィールドの詳細については,「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[パラメータ]タブ	ウィンドウの右側にあります。選択した AUT 環境オブジェクトに属するパラメータのグリッドが表示されます。 AUT 環境設定の AUT 環境パラメータを上書きしない場合，標準設定値が実行時に使用されます。 **注:** AUT 環境オブジェクトを選択したときのみ表示されます。
[値]タブ	ウィンドウの右側にあります。選択した AUT 環境設定オブジェクトの値のグリッドが表示されます。 [値]タブでパラメータを選択して AUT 環境レベルからの標準設定値を上書きできます。パラメータ値を上書きしない場合，標準設定値が実行時に使用されます。 **注:** 自動的に生成された標準設定の AUT 環境設定のパラメータを変更することはできません。 AUT 環境設定を CDA にリンクした場合には，CDA パラメータ・リストのドロップダウン・リストから動的値を選択できます。 CDA の詳細については，「AUT 環境の CDA へのリンク」(362ページ)を参照してください。 **注:** AUT 環境設定オブジェクトを選択したときのみ表示されます。

AUT 環境モジュールのメニューとボタン

本項では，AUT 環境モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境の概要」(362ページ) • 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境モジュール・ウィンドウ」(367ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
AUT 環境設定の詳細	AUT 環境	[AUT 環境設定の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した AUT 環境設定の詳細を表示，更新できます。詳細については，「[AUT 環境設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(373ページ) を参照してください。
AUT 環境の詳細	AUT 環境	[AUT 環境の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した AUT 環境の詳細を表示，更新できます。詳細については，「[AUT 環境の詳細]ダイアログ・ボックス」(372ページ) を参照してください。
折りたたみ	表示	ツリーですべての分岐を折りたたみます。
URL のコピー/貼り付け	AUT 環境	選択した AUT 環境，AUT 環境フォルダ，または AUT 環境設定をコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。AUT 環境または AUT 環境設定自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックすると ALM が開き，AUT 環境または AUT 環境設定が表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
切り取り/貼り付け	編集	同じプロジェクト内，またはプロジェクト間で選択した AUT 環境および設定を切り取ります。
削除	編集	選択した AUT 環境，AUT 環境フォルダ，または AUT 環境設定をツールバーから削除します。ルートの AUT 環境フォルダは削除できません。 選択したパラメータ・フォルダまたはパラメータを[パラメータ]ツール・バーから削除します。
すべて展開	表示	選択したフォルダの下にある AUT 環境ツリーのすべてのフォルダを展開します。
AUT 環境に移動	AUT 環境	[AUT 環境に移動]ダイアログ・ボックスが開き，AUT 環境ツリーで AUT 環境 ID を入力して，特定の AUT 環境を検索できます。
AUT 環境設定を CDA にリンク		[CDA にリンク]タグが開き，選択した AUT 環境設定を CDA トポロジにリンクできます。
新規 AUT 環境	AUT 環境	[新規 AUT 環境]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダに AUT 環境を追加できます。詳細については，「[新規 AUT 環境]ダイアログ・ボックス」(373ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
新規 AUT 環境設定	AUT 環境	[新規 AUT 環境設定]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダに AUT 環境設定を追加できます。詳細については，「[新規 AUT 環境設定]ダイアログ・ボックス」(374ページ) を参照してください。
新規 AUT 環境フォルダ	AUT 環境	[新規 AUT 環境フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 **構文の例外**: AUT 環境フォルダの名前には，次の文字は使用できません。\ ^ *
新規 AUT パラメータ		[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックスが開き，AUT 環境に AUT パラメータとパラメータ値を追加できます。 [パラメータ]タブのツールバーにあります。 詳細については，「[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックス」(375ページ) を参照してください。
CDA でアプリケーション・ページを開く		CDA アプリケーション・ページが開きます。詳細については，CDA のドキュメントを参照してください。
すべて更新	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
名前の変更	編集	AUT 環境，AUT 環境フォルダ，または AUT 環境設定の名前を変更できます。ルートの AUT 環境フォルダの名前は変更できません。
標準パラメータ値の復元		選択した AUT 環境設定パラメータの値を標準設定の AUT 環境値に戻します。
フィルタ/ソートの設定	表示	AUT 環境ツリーにフィルタ処理とソートのオプションを設定できます。 次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**: [フィルタ]ダイアログ・ボックスが開き，AUT 環境のフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**: 適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開き，ツリーで選択した複数の環境，設定，およびフォルダのフィールド値を更新できます。詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。

AUT 環境モジュールのフィールド

本項では，AUT 環境モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**AUT 環境**]を選択します。
重要な情報	AUT 環境モジュールでは，ALM のサーバ側テストの環境設定データのフィールドが表示されます。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境の概要」(362ページ) • 「AUT 環境モジュールのメニューとボタン」(368ページ) • 「AUT 環境モジュール・ウィンドウ」(367ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
AUT 環境 ID	選択した環境設定が属する AUT 環境の ID です。
AUT 環境フォルダ ID	AUT 環境フォルダの ID です。
標準設定値	選択した AUT 環境に対して選択した AUT パラメータの標準設定値。
名前	AUT 環境，AUT 環境設定，AUT 環境フォルダ，または AUT パラメータの名前。
値	選択した AUT パラメータの値。この値は，AUT 環境設定の標準設定値または上書きされた値のいずれかです。

AUT 環境モジュールのアイコン

本項では，AUT 環境モジュールについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで，[**AUT 環境**]を選択します。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)

参照情報	• 「AUT 環境モジュール・ウィンドウ」(367ページ) • 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	AUT 環境フォルダ
	AUT 環境
	AUT 環境設定
	AUT 環境パラメータ

[AUT 環境の詳細]ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。AUT 環境を選択し、をクリックします。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	選択した AUT 環境に関連付けられている名前。
詳細	[AUT 環境]フィールドの一覧です。[AUT 環境]フィールドの詳細については，「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) を参照してください。
パラメータ	現在選択している AUT 環境に関連付けられているパラメータの一覧です。AUT パラメータを追加したり，選択した AUT 環境に関連付けられている AUT パラメータの標準設定値を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規 AUT パラメータ]ダイアログ・ボックス」(375ページ) および「[AUT パラメータ詳細]ダイアログ・ボックス」(375ページ) を参照してください。

[新規 AUT 環境]ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。をクリックします。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新しい AUT 環境に関連付けられている名前。
詳細	[AUT 環境]フィールドの一覧です。[AUT 環境]フィールドの詳細については, 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ)を参照してください。

[AUT 環境設定の詳細]ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。AUT 環境設定を選択し, をクリックします。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	[AUT 環境]フィールドの一覧です。[AUT 環境]フィールドの詳細については，「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) を参照してください。
CDA にリンク	選択した AUT 環境設定を CDA にリンクできます。詳細については，「[CDA にリンク]ダイアログ・ボックス」(376ページ) を参照してください。

[新規 AUT 環境設定]ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。AUT 環境を選択し，をクリックします。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新しい AUT 環境設定に関連付けられている名前。
詳細	[AUT 環境設定]フィールドの一覧です。[AUT 環境]フィールドの詳細については，「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
CDA にリンク	選択した AUT 環境設定を CDA にリンクできます。詳細については、「[CDA にリンク] ダイアログ・ボックス」(376ページ) を参照してください。

[新規 AUT パラメータ] ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。AUT 環境を選択し、右側の表示枠の をクリックします。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新しい AUT パラメータに関連付けられている名前。
詳細	[AUT パラメータ] フィールドの一覧です。[AUT 環境] フィールドの詳細については、「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) を参照してください。

[AUT パラメータ詳細] ダイアログ・ボックス

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]の下にある[**AUT 環境**]を選択します。AUT 環境を選択し、右側の表示枠の AUT パラメータを選択します。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	選択した AUT パラメータの名前。
詳細	[AUT 環境]フィールドの一覧です。[AUT 環境]フィールドの詳細については，「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) を参照してください。

[CDA にリンク] ダイアログ・ボックス

アクセス方法	AUT 環境モジュールから AUT 環境設定を選択します。次のいずれかを行います。 • [**CDA にリンク**]ボタン をクリックします。 • [AUT 環境設定の詳細]ボタン をクリックします。[AUT 環境設定の詳細]ダイアログ・ボックスのサイドバーで，[**CDA にリンク**]を選択します。
関連タスク	「AUT 環境の使用方法」(363ページ)
参照情報	• 「AUT 環境モジュールのフィールド」(371ページ) • 「AUT 環境の概要」(362ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	選択した AUT 環境設定の名前。

UI 要素	説明
CDA へのリンクをクリア	選択した AUT 環境設定とCDA トポロジ間のリンクを削除します。
サーバからの CDA エンティティの再ロード	利用可能な CDA エンティティのリストを再ロードします。CDA サーバ側で発生した変更は，ダイアログ・ボックスのリストで更新されます。 **注意:** CDA エンティティのリストを再ロードすると，すべてのリンクが削除されます。
CDA で <ページ> を開く	CDA ページが開きます。 デプロイメント・トポロジを選択していない場合には，[CDA のアプリケーション ページ] が開きます。デプロイメント・トポロジを選択している場合には，[CDA のリンク済みトポロジ ページ] が開きます。
＜CDA トポロジ・リンク・セクション＞	選択した AUT 環境設定とCDA トポロジ間のリンクを設定できます。 プロジェクトが CDA ドメイン **A** と連携するように定義されていているときに，CDA ドメイン **B** のプラットフォームにリンクされているアプリケーションを選択した場合，ドメイン **B** はプロジェクトにリンクされていなくても，ドメイン **B** から保存設定を認識できます。 初期設定では，CDA とAUT 環境設定間のリンクはありません。リンクするには，[**なし**] をクリックして CDA パラメータを選択します。 次の CDA トポロジ・レベルを選択します。 • アプリケーション • アプリケーションのバージョン • アプリケーション・モデル • デプロイメント・トポロジ • トポロジの保存されたパラメータ • プラットフォームの保存されたパラメータ • ソフトウェア・パッケージ定義 **注:** すべての選択を完了しないと，AUT 環境設定を CDA トポロジにリンクすることはできません。

第6部: テスト計画

第22章: テスト計画の紹介

本章の内容

テスト計画の概要 382
ALM でテストを計画する方法 382

テスト計画の概要

明確で簡潔なテスト計画の作成は，アプリケーションのテストを成功させるために不可欠です。適切なテスト計画があれば，アプリケーション管理プロセスのどの時点でもアプリケーションの品質を評価できます。

要件モジュールで定義した要件を達成するための戦略の枠組みを設定します。そのためには，次の2つの基本的な問題について検討してみてください。

アプリケーションをどのようにテストすればよいか

- 使用するテスト手法（ストレス・テスト，セキュリティ・テスト，パフォーマンスおよび負荷テストなど）
- 不具合の処理方法（重要度の分類，不具合の開始または終了の承認など）

どのようなリソースが必要か

- テストを行うために必要なリソース（人員，ハードウェアなど）
- さまざまな作業の完了時期

例

フライトのスケジューリング，搭乗予約，および航空券販売を管理する航空券予約アプリケーション（デモ・アプリケーションは英語）の場合を考えてみます。テストにあたっては，手動テストと自動テストの両方を設計することが必要となります。自動テストの設計作業にはプログラミング経験のあるテスト担当者を，手動テストの設計にはプログラマ以外の担当者を割り当てることができます。

ALM でテストを計画する方法

このタスクでは，HP Application Lifecycle Management（ALM）におけるテストの使用方法について説明します。

注： このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」（36ページ）を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」（383ページ）
- 「テスト計画ツリーの作成」（383ページ）
- 「テスト・リソースとの依存関係の作成（オプション）」（383ページ）
- 「テスト・パラメータの定義」（383ページ）

- 「テスト設定の定義」(383ページ)
- 「テスト・ステップの作成」(384ページ)
- 「自動テスト」(384ページ)
- 「要件カバレッジの作成」(384ページ)
- 「テストの不具合へのリンク」(384ページ)
- 「テスト計画データの分析」(384ページ)
- 「ベースラインの確立」(384ページ)

1. **前提条件**

   一連の要件は，要件ツリーで定義されます。

   タスクの詳細については，「ALM の要件の使用方法」(254ページ) を参照してください。

   > **ヒント：** 要件モジュールの要件を直接ベースにしてテストを自動作成できます。詳細については，「要件の作成方法」(260ページ) タスクの要件をテストに変換するステップを参照してください。

2. **テスト計画ツリーの作成**

   テスト・サブジェクト・フォルダおよびテストのテスト計画ツリーを作成します。タスクの詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ) を参照してください。

3. **テスト・リソースとの依存関係の作成 (オプション)**

   ALM リポジトリにアップロードした一連のリソースにテストを関連付けることができます。

   その後，これらの依存関係を表示し，使用中のリソースを特定できます。タスクの詳細については，「テスト・リソースの使用方法」(493ページ) を参照してください。

   Business Process Testing：コンポーネントのデザイン・ステップを，アップロードしたアプリケーション領域リソースと関連付けることができます。

4. **テスト・パラメータの定義**

   テストの柔軟性をより高めるために，パラメータをテスト・ステップに含めることができます。これにより，同じテストを繰り返し実行したり，パラメータに異なる値を割り当てたりできます。タスクの詳細については，「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ) を参照してください。

5. **テスト設定の定義**

   さまざまなユースケースでテストを実行するために，テスト設定を定義できます。これにより，同じテストをさまざまなシナリオで実行できます。タスクの詳細については，「テスト設定の使用方法」(464ページ) を参照してください。

6. **テスト・ステップの作成**

   実行する操作と期待される結果を記述するテスト・ステップを作成します。テスト・ステップを定義したら，テストを手作業で実行するか，自動化するかを決定します。タスクの詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

7. **自動テスト**

   テスト・ステップを設計したら，どのテストを自動化するかを決定します。テストの自動化の決定に影響する要因には，実行頻度，データの入力量，実行時間の長さ，および複雑さがあります。タスクの詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

   システム・テスト：自動システム・テストを作成して，マシンのシステム情報の取得，デスクトップの画像のキャプチャ，マシンの再起動といった処理を行うこともできます。タスクの詳細については，「システム・テストの作成方法」(488ページ)を参照してください。

8. **要件カバレッジの作成**

   テスト計画ツリーの各テストを要件ツリーの要件にリンクします。テストの要件カバレッジを定義することによって，テスト計画のテストと元の要件の関係を追跡します。タスクの詳細については，「カバレッジを作成する方法」(418ページ)を参照してください。

9. **テストの不具合へのリンク**

   テストを特定の不具合にリンクするこのリンクは，既知の不具合を修正するために新しくテストを作成した場合などに便利です。リンクを作成することで，不具合のステータスに基づいて，テストを実行するかどうかを判断できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

10. **テスト計画データの分析**

    レポートおよびグラフを作成してテスト計画を分析します。

    次のいずれかを実行します。

    - **テスト・サブジェクトの動的グラフを表示する。**テスト計画ツリーでテスト・サブジェクトを選択し，[**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。ライブ・アナリシス・グラフの生成に関するタスクの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)を参照してください。

    - **テスト計画データをグラフで表示する。**テスト計画モジュールのメニューで，[**アナリシス**]＞[**グラフ**]を選択します。グラフの生成に関するタスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ)を参照してください。

    - **テスト計画データのレポートを作成する。**テスト計画モジュールのメニューで，[**アナリシス**]＞[**プロジェクト レポート**]を選択します。レポートの生成に関するタスクの詳細については，「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)を参照してください。

    ALMのその他のアナリシス・ツールについては，「ALMでデータを分析する方法」(778ページ)を参照してください。

11. **ベースラインの確立**

テスト計画がレビューされ，承認されたら，ベースラインを作成できます。ベースラインでは，特定の時点のテスト計画のスナップショットを参照できます。ベースラインを使用して，アプリケーションのライフサイクル内で任意の重要なポイントをマークできます。さらにベースラインは，変更を比較できる参照ポイントとして機能します。タスクの詳細については，「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)を参照してください。

第23章: テスト計画の仕様

本章の内容

テスト計画の仕様の概要 388
テストを作成する方法 388
テストのタイプ 392
テスト計画のユーザ・インタフェース 393

テスト計画の仕様の概要

通常のアプリケーションは，全体を一度にテストするには大きすぎます。テスト計画モジュールでは，機能ごとにアプリケーションを分割できます。テスト計画ツリーにフォルダを作成して，アプリケーションを特定の単位（「**サブジェクト**」）に分割します。テスト計画ツリーは，テスト計画を視覚的に表したもので，アプリケーションの機能の階層関係に従ってテストが表示されます。

ツリーのサブジェクトを定義したら，各サブジェクトに対して作成するテストを決定し，ツリーに追加します。この段階では，テスト名，ステータス，および設計者などのテストの基本的な情報を定義します。また，テストにファイル，URL，アプリケーションのスナップショット，またはシステム情報を添付できます。その後で「テスト・ステップ」を定義します。**テスト・ステップ**には，テストの実行方法および結果の評価方法に関する詳細な手順が指定されています。

ALM では，同じテストで**テスト設定**をそれぞれ変えて，さまざまなユースケースをテストできます。テスト設定では，それぞれ異なるデータ・セットが使用されます。データを定義するには，テスト設定ごとに**テスト・パラメータ**値を追加します。テスト・パラメータとは，値を割り当てることができる変数です。

アプリケーション管理プロセスの過程で，テスト計画の変更が必要になることがあります。テスト計画ツリーは，いつでも更新できます。

テスト計画をサブジェクトごとに編成する方法はいくつかあります。たとえば，次の分類に従ってサブジェクトを定義できます。

- アプリケーションの機能：編集，ファイル操作，レポート機能など
- テストのタイプ：機能，ユーザ・インタフェース，パフォーマンス，負荷など

> **注：** テスト計画ツリーを開発および編集するには，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

テストの指定の詳細については，「テストを作成する方法」（388ページ）を参照してください。

テストを作成する方法

このタスクでは，テスト計画ツリーにテスト・サブジェクトのフォルダを作成する方法と，テスト・サブジェクトにタスクを追加する方法を説明します。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」（382ページ）を参照してください。

テスト仕様の詳細については，「テスト計画の仕様の概要」（388ページ）を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスト・サブジェクトの作成」（389ページ）
- 「テスト計画ツリーにテストを作成する」（390ページ）

- 「テスト・ツールからのテストの作成 - オプション」(390ページ)
- 「テストのインポート(オプション)」(391ページ)
- 「手動テンプレート・テストの作成(オプション)」(391ページ)
- 「UFT テンプレート GUI テストの作成(オプション)」(391ページ)
- 「テストへのステップの追加」(392ページ)

1. **テスト・サブジェクトの作成**

   テスト計画ツリーにフォルダを作成します。各フォルダが**テスト・サブジェクト** アプリケーションのテスト領域を表しています。

   テスト・サブジェクトを作成するには，以下の手順を実行します。

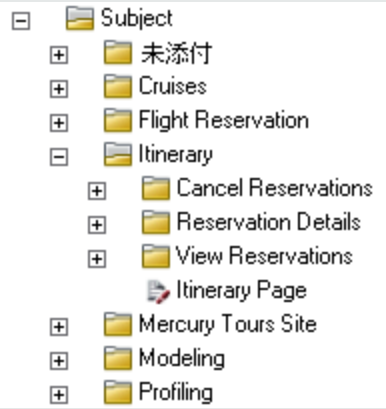
   a. ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト計画**]を選択します。

   b. [**表示**]＞[**テスト計画ツリー**]を選択します。

   c. [**Subject**]のルート・フォルダまたは既存のテスト・サブジェクトを選択して，[**新規フォルダ**] をクリックします。

   例：

   フライトのスケジューリング，搭乗予約，航空券販売を管理する航空券予約アプリケーションをテストするには，テスト計画ツリーで次のサブジェクトを定義することが考えられます。

   「**Itinerary**」というサブジェクトには，追加のサブジェクト・フォルダが含まれています。これらのフォルダでサブジェクトのレベルをいくつか追加して作成することによって，テスト計画ツリーのテストをさらに細かく分類できます。詳細な例については，**ALM_Demo** プロジェクトを参照してください。

2. **テスト計画ツリーにテストを作成する**

テスト・サブジェクト・フォルダの下にテストを作成します。

テストを作成するには，次の手順で行います。

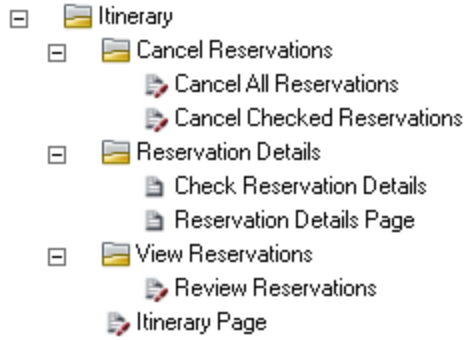
a. テスト計画ツリーでフォルダを右クリックし，[**新規テスト**]を選択します。

b. [新規テスト]ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト]ダイアログ・ボックス」(412ページ)を参照してください。

それぞれのテストには，特定の機能やシステム要件の確認などの明確な目的が必要です。テストは，アプリケーション管理プロセスで最初に設定した目標に基づいて定義する必要があります。

たとえば，

前のステップで示したテスト計画ツリーでは，テストを次のように「**Itinerary**」というサブジェクト・フォルダに割り当てることができます。



ヒント：テスト設定をサポートしているテスト・タイプについては，テストの作成時にテスト設定が自動的に作成されます。詳細については，「テスト設定の使用方法」(464ページ)を参照してください。

注：ALM 内から Unified Functional Testing テストを作成，編集するには，[アドイン]ページから UFT add-in をインストールする必要があります。ALM の[アドイン]ページには，[**ヘルプ**] > [**アドイン**]からアクセスできます。

3. **テスト・ツールからのテストの作成 - オプション**

Unified Functional Testing などのサポートされているテスト・ソフトウェアから ALM テスト計画ツリーにテストを追加できます。詳細については，該当するテスト・ツールのユーザーズ・ガイドを参照してください。

注： UFT テストは，UFT アドインをインストールしなくても UFT 内から ALM に追加できます。追加後，これらのテストは ALM から正常に実行できます。

4. **テストのインポート（オプション）**

   ALM テスト計画モジュールでテスト計画ツリーを作成することに加え，テスト計画のデータを Microsoft Word または Microsoft Excel から ALM プロジェクトにインポートすることもできます。不具合をインポートするには，最初に該当するアドインをインストールする必要があります。アドインの詳細については，「Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート 」（40ページ）を参照してください。

5. **手動テンプレート・テストの作成（オプション）**

   たとえば，アプリケーションにログインするなどの，複数のテストで繰り返し実行される共通の指示がある場合，ほかの手動テストから呼び出すことができる，共通の指示の手動テンプレート・テストを作成できます。

   注： テストを呼び出せるようにするために，テストにテンプレート・テストの印を付ける必要はありません

   手動テンプレート・テストを作成するには，次の手順で行います。

   a. 手動テストを作成します。詳細については，テスト計画ツリーにテストを作成する方法を説明する上記のステップを参照してください。

   b. テスト計画ツリーのテストの新規作成を右クリックし，［**テンプレート テストとしてマーク**］を選択します。テスト・アイコンがグレーから白に変わり，テンプレート・テストになったことを示します。

6. **UFT テンプレート GUI テストの作成（オプション）**

   HP Unified Functional Testing（UFT）は，以前は HP QuickTest Professional と HP Service Test と呼ばれていた製品で構成されています。

   - QuickTest の機能は，UFT では GUI テストと呼ばれます。
   - Service Test の機能は，UFT では API テストと呼ばれます。

   テンプレート・テストでは，ALM によって新しい UFT GUI テストに関連付けられる UFT アドインを定義します。詳細については，Unified Functional Testing ドキュメント，および関連する Unified Functional Testing アドインのドキュメントを参照してください。

   ALM クライアントに含まれる標準設定の UFT テンプレート GUI テストに加え，ほかの UFT テンプレート・テストを作成できます。

UFT テンプレート・テストを作成するには，次の手順で行います。

a. UFT GUI テストを作成します。詳細については，テスト計画ツリーにテストを作成する方法を説明する上記のステップを参照してください。

b. テスト計画ツリーのテストの新規作成を右クリックし，[**テンプレート テストとしてマーク**]を選択します。テスト・アイコンがグレーから白に変わり，テンプレート・テストになったことを示します。

7. **テストへのステップの追加**

テストにステップを追加して，テスト担当者がテストを完了するために実行する操作を記述します。

タスクの詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

テストのタイプ

テスト計画モジュールでは，次のテストのタイプを利用できます。

ALM のエディション：エディションによっては，利用できないテストのタイプもあります。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

テスト・アイコン	テストのタイプ	説明
	BUSINESS-PROCESS	ビジネス・プロセス・テスト。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	FLOW	特定のタスクを実行する固定シーケンスのビジネス・コンポーネントのコレクションで構成されるテスト。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	LR-SCENARIO	HP の負荷テスト・ツールである LoadRunner で実行されるシナリオ。
	MANUAL	手作業で実行されるテスト。
	PERFORMANCE-TEST	パフォーマンス・テスト。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
	QAINSPECT_TEST	HP のセキュリティ・テスト・ツールである QAInspect で実行されるテスト。

テスト・アイコン	テストのタイプ	説明
	QUICKTEST_TEST	HP のエンタープライズ機能テスト・ツールである Unified Functional Testing で実行される GUI テスト。 このテスト・タイプは，HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから該当するアドインがインストールされている場合にのみ利用できます。ALM の[アドイン]ページには，[**ヘルプ**] > [**アドイン**] からアクセスできます。
	SERVICE-TEST	Web および REST サービスなどの，GUI を持たないアプリケーションのためにテストを作成する HP のツールである，Unified Functional Testing または HP Service Test によって作成される API テスト。API テストの詳細については，『HP Service Test User Guide』または『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の API テストについての情報を参照してください。 このテスト・タイプは，HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから該当するアドインがインストールされている場合にのみ利用できます。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。 **注：** API テストは，ALM で表示し，起動できます。API テストは，Unified Functional Testing または HP Service Test で作成できます。また，API テストとして自動化されるビジネス・プロセス・テストまたはフローを作成できます。
	SYSTEM-TEST	ALM に，システム情報の取得，デスクトップの画像のキャプチャ，マシンの再起動を行うよう指示するテスト。
	VAPI-XP-TEST	ALM のオープン・テスト・アーキテクチャ API テスト・ツールである Visual API-XP を使用して作成したテスト。VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テスト」(507ページ) を参照してください。
	VuGenScript	HP の負荷テスト・ツールである LoadRunner で実行される VuGen スクリプト。

テスト計画のユーザ・インタフェース

本項の内容

テスト計画モジュールのウィンドウ 394
テスト計画モジュールのメニューとボタン 397
テスト計画モジュールのアイコン 406

テスト計画モジュールのフィールド 407
[テストの詳細]ダイアログ・ボックス 410
[新規テスト]ダイアログ・ボックス 412
[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート]ダイアログ・ボックス 414
[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス 415

テスト計画モジュールのウィンドウ

テスト計画ウィンドウでは，テスト計画ツリーまたはテスト計画グリッド内のALMテストを定義，保守できます。

アクセス方法	1. ALMサイドバーの[**テスト**]で，[**テスト計画**]を選択します。 2. [**表示**]メニューで，[**テスト グリッド**]または[**テスト計画ツリー**]を選択します。
重要な情報	テスト計画ウィンドウには，次のビューがあります。 • **テスト計画ツリー**：テスト・サブジェクトとテスト階層をツリーに表示します。 • **テスト・グリッド**：テストをフラットで階層化されていないビューで表示します。グリッドの各行には，テストが個別に表示されます。 **ヒント：** フィールドを編集した後にテスト・グリッド・ビューでスクロールを有効にするには，**Escape** キーを押し，マウス・ホイールか上向きまたは下向きの矢印キーを使用してスクロールします。 **Business Process Testing**：ビジネス・プロセス・テストで作業をしている場合，このモジュールに表示されるタブは異なります。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALMでテストを計画する方法」(382ページ) 「テストを作成する方法」(388ページ)
参照情報	「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<テスト計画モジュールの共通の UI 要素>	• **テスト計画フィールド**：フィールドの定義については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。 • **テスト計画のメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「テスト計画モジュールのメニューとボタン」(397ページ)を参照してください。 • **テスト計画のアイコン**：アイコンの説明については，「テスト計画モジュールのアイコン」(406ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッドまたはツリーに適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーのすぐ上にあります。 グリッド・ビュー： • **<x> 件の結果を表示します。** 合計レコード数のうち，現在表示されているレコード数を示します。 • **<x> 件の結果を取得します。** クリックするとすべてのレコードが表示されます。
<テスト計画ツリー>	ウィンドウの左側に表示され，テストを階層構造に編成して表示します。 **注：** フォルダ内でテストを移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると，フォルダ内のテストはアルファベット順に並べ替えられます。
<グリッド・フィルタ> 作成者 David	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド・ビュー
[詳細]タブ	[テスト]フィールドの一覧です。[テスト]フィールドの詳細については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。 **ヒント：** このタブの[**説明**]または[**コメント**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
[テスト スクリプト]タブ	• **自動テストでは，**現在選択しているテスト用にテスト・ツールによって実行されているテスト・スクリプトです。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト スクリプト]タブ」(456ページ)を参照してください。 • **ビジネス・プロセス・テストとフローでは，**現在選択しているテストで実行されるコンポーネントとフロー(または現在選択しているフローで実行されるコンポーネント)。ユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[デザインステップ]タブ	選択したテストの実行方法の説明の一覧です。詳細については，「[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス」(451ページ)を参照してください。
[パラメータ]タブ	現在選択されているテストに関連付けられたパラメータの一覧です。パラメータはテストのデザイン・ステップに組み込むことができます。詳細については，「[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス」(438ページ)を参照してください。
[テスト設定]タブ	選択したテストのテスト設定を表示します。詳細については，「[テスト設定]タブ」(470ページ)を参照してください。
[添付]タブ	現在選択されているテストに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
[要件カバレッジ]タブ	現在選択されているテストによって満たされている要件の一覧です。詳細については，「[要件カバレッジ]タブ」(421ページ)を参照してください。
[リンクされている不具合]タブ	現在選択されているテストにリンクされている不具合の一覧です。詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
[依存関係]タブ	テスト・リソースやテストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については，「[依存関係]タブ」(503ページ)を参照してください。
ビジネス・モデル・リンク	現在選択されているテストにリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧です。詳細については，「[ビジネス モデル リンク]タブ」(426ページ)を参照してください。
[条件]タブ	選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[条件]タブ」(459ページ)を参照してください。 **Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。タスクの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているテストに行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[ライブ アナリシス]タブ	選択したテスト・サブジェクト・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表現したものを表示します。詳細については，「[ライブ アナリシス]タブ」(885ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト計画ツリー・ビュー
[テスト デザイン]タブ	**Performance Center**：選択したパフォーマンス・テストの詳細なサマリを表示します。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

テスト計画モジュールのメニューとボタン

本項では，テスト計画モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト計画**]を選択します。
重要な情報	• 一部のメニュー・コマンドおよびボタンは，すべてのテスト計画ビューで利用できるわけではありません。 • **ヒント：** テスト計画モジュールからメニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。 • **バージョン管理**：追加のメニュー・コマンドおよびボタンは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。詳細については，「[バージョン]メニューおよびボタン」(130ページ)を参照してください。 • **Business Process Testing**：追加されたメニューのコマンドとボタンは，Business Process Testing および Business Process Testing Enterprise Extension で利用できます。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テストを作成する方法」(388ページ)
参照情報	• 「テスト計画モジュールのウィンドウ」(394ページ) • 「テスト計画モジュールのアイコン」(406ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	メニュー	説明
<最近使用されたお気に入りの表示のリスト>	お気に入り	テスト計画モジュールで，最近使用したお気に入りビューから4つを表示します。 「サイト管理」の[サイト設定]タブで **FAVORITES_DEPTH** パラメータを設定することによって，メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
警告	編集	[警告]ダイアログ・ボックスが開きます。テストの警告を表示できます。詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
添付	<ツールバー>	[添付]ページが開きます。添付ファイルを選択したテストに追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
警告のクリア	編集	表示されたモジュールの警告をクリアします。詳細については，「警告の使用方法」(108ページ)を参照してください。
標準設定値のクリア	編集	[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスで標準設定値を削除します。テストまたはテスト設定を新しく作成するときには標準設定は使用できません。
フォローアップ・フラグをクリア	編集	選択したテストのフォローアップ・フラグをクリアします。詳細については，「フォローアップ・フラグの概要」(107ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
折りたたみ	表示	テスト計画ツリーのすべての分岐を折りたたみます。
コンポーネントに変換	テスト	テストまたはフローからコンポーネントを作成します。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー/貼り付け	編集	選択したテストをコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。テスト自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，テストが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。

UI 要素	メニュー	説明
コピー/貼り付け	編集	同じプロジェクト内，またはプロジェクト間で，選択したテストをコピーできます。テスト・サブジェクトをコピーすると，テスト・サブジェクトのすべてのサブフォルダとテストもコピーされます。 **注：** • 1つのプロジェクトから別のプロジェクトにテストをコピーする場合で，テストにほかのテストの呼び出しが含まれている場合，またはテストがテスト・リソースなどのエンティティに依存している場合は，ALMに対してそれらを3つの方法のうち1つを使用してコピーするよう指示できます。詳細については，「[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス」(415ページ)を参照してください。 • プロジェクト間でテストをコピーするには，使用しているALMのバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。 • [**貼り付け**]オプションは，テスト計画ツリーからのみ利用できます。
切り取り/貼り付け	編集	選択したテストを，テスト計画ツリーの別の場所に移動します。 **注：** • テスト・サブジェクトを移動すると，テスト・サブジェクトのすべてのサブフォルダとテストも一緒に移動されます。ルート・フォルダは移動できません。 • [**貼り付け**]オプションは，テスト計画ツリーからのみ利用できます。 **ヒント：**テストまたはテスト・サブジェクトは，ドラッグすることでもテスト計画ツリー内の新しい場所に移動できます。

UI 要素	メニュー	説明
削除	編集	テスト計画ツリーの選択したテストまたはフォルダを削除します。 フォルダを削除する場合，次のいずれかのオプションを選択します。 • **フォルダのみ削除する**：フォルダを削除し，関連するすべてのテストを**未添付**フォルダに移動する。 • **フォルダとテストを削除する**：フォルダ，テスト，テスト・スクリプトを削除します。 **バージョン管理**：テストを削除すると，以前のバージョンのテストがすべて削除されます。 テストを削除する場合，テストに対して依存関係が定義されていると，［テストの削除］ダイアログ・ボックスが開きます。［**使用者**］エンティティを表示するには，［詳細］をクリックします。 **注意：** • **サブジェクト**・ルート・フォルダは削除できません。 • フォルダとテストを削除すると，選択したフォルダのすべてのサブフォルダおよびテストが完全に削除されます。 • テストを削除すると，テストとテスト・スクリプトが恒久的に削除されます。さらに，削除するテストに関連付けられたすべてのテスト実行も削除されます。 • テストに対して依存関係が定義されている場合，テストを削除すると依存するエンティティに影響を与える可能性があります。削除する前に依存関係を表示するには，［依存関係］タブをクリックします。関連エンティティの詳細については，「［依存関係］タブ」(503ページ)を参照してください。 • **パフォーマンス・テスト**：タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストを削除すると，タイムスロットに影響します。
説明ページ	<右クリック・メニュー>	［詳細］タブが開きます。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
テストの編集	テスト	**Performance Center**：パフォーマンス・テスト設計者が開きます。パフォーマンス・テストを設計できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
すべて展開	表示	テスト計画ツリーのすべての分岐を展開します。

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのテストをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**：グリッドのすべてのテストをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッドの選択したテストをエクスポートします。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
フィルタ/ソート	表示	テスト・ツリーまたはグリッドのテストのフィルタ処理とソートが実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。 **注：**1 つのテスト計画ビューで定義されたフィルタは，他のビューには適用されません。
検索	編集	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，テスト計画モジュールでテストを検索できます。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
次を検索	編集	これまでに定義した検索条件に一致する次の項目をテスト・グリッドで検索します。
フォローアップ・フラグ	編集	[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストのフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については，「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
テストに移動	テスト	[テストに移動]ダイアログ・ボックスが開き，[**テスト ID**]で特定のテストを検索できます。現在のフィルタに含まれるテストにのみ移動できます。
モジュール・ツリーのエンティティに移動	<ツールバー>	選択したエンティティのモジュール内でそのエンティティの場所に移動し，選択したエンティティを強調表示します。 **利用可能な場所**： • ビジネス・プロセス・テストの[コンポーネントの選択]/[フローの選択]表示枠 • [ビジネス モデル リンク] > [ビジネス モデル ツリー]表示枠 • [要件カバレッジ] > [要件ツリー]表示枠

UI 要素	メニュー	説明
テスト計画ツリーのテストに移動	<ツールバー>	テスト計画ツリー・ビューに移動して，選択したテストを強調表示します。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
テスト・セットのテストに移動	テスト	テスト・ラボ・モジュールで，テスト・セット内のテストのインスタンスを表示できます。 選択したテストにインスタンスが1つしかない場合，テスト・ラボ・モジュールが開き，インスタンスが強調表示されます。 選択したテストに複数のインスタンスがある場合，[テスト セットの選択]ダイアログ・ボックスが開き，テスト・セットおよびインスタンスを選択できます。
テスト・セットのテスト設定に移動	テスト	テスト・ラボ・モジュールの[実行グリッド]タブで，選択したテスト設定に関連付けられたテスト・セットに移動します。 **利用可能な場所**：[テスト設定]タブ
グラフ	アナリシス	テスト計画データに作成できるグラフを一覧表示します。定義済みのグラフを選択するか，グラフ・ウィザードを起動します。 定義済みのグラフの種類の詳細については，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ)を参照してください。
履歴ページ	<右クリック・メニュー>	[履歴]タブが開きます。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
インジケータ・カラム	表示	テスト・ウィンドウの左側にインジケータを表示します。詳細については，「テスト計画モジュールのアイコン」(406ページ)を参照してください。
選択/非選択項目の入れ替え	編集	グリッドで以前に選択されていたテストのすべてを非選択状態にし，以前に選択されていなかったテストをすべて選択します。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
ライブ・アナリシス	アナリシス	[ライブ アナリシス]タブでグラフを表示するオプションを一覧表示します。グラフを追加または削除したり，表示形式を構成します。 ライブ・アナリシスの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフの概要」(884ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[ライブ アナリシス]タブ

UI 要素	メニュー	説明
テンプレート・テストとしてマーク	テスト	**手動テスト用**：テストを他のテストから呼び出せるように，テンプレート・テストとしてマークします。 テンプレート・テストをマークすると，手動テスト・アイコンがグレーから白に変わります。 **GUI テスト用**：テストをテンプレート・テストとしてマークすると，ほかのUFT GUI テストを作成するのに使用できるようになります。
最近の利用	アナリシス	ALM で最近表示したレポートおよびグラフを一覧表示します。最大 10 個の項目を表示します。
新規フォルダ	テスト	［新規テスト フォルダ］ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにテスト・サブジェクトを追加できます。 **構文の例外**：フォルダ名には，次の文字は使用できません。 \ ^ * **利用可能な場所**：テスト計画ツリー
新規テスト	テスト	［テストの新規作成］ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにテストを追加できます。詳細については，「［新規テスト］ダイアログ・ボックス」(412ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト計画およびテスト計画ツリー
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。詳細については，「［整理 お気に入り］ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
ピン留め/ピン留め解除	<ツールバー>	テスト計画をピン留めまたはピン留め解除します。 **利用可能な場所**：テスト・グリッドおよびテスト計画ツリー 詳細については，「固定項目の概要」(120ページ)を参照してください。
プロジェクト・レポート	アナリシス	テスト計画データに作成できる定義済みプロジェクト・レポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については，「定義済みのプロジェクト・レポート」(846ページ)を参照してください。 リストからレポートを選択すると，レポートのプレビューが生成されます。プレビューでは，レポート・セクションごとに最大 5 つのエンティティが表示されます。完全なレポートを生成するには，プレビューの左上隅にある［**生成**］ボタンの横の下向き矢印をクリックし，生成するレポート形式を選択します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	メニュー	説明
すべて更新	表示	最新のテストが表示されるように，テスト計画ツリーまたはテスト計画グリッドを更新します。
名前の変更	編集	選択したテストまたはフォルダの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。 **構文の例外**：テスト名には，次の文字は使用できません。\ / : " ? < > | * % '
置換	編集	テスト・グリッドで[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・フィールドの値を置き換えることができます。詳細については，「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)を参照してください。
選択項目のレポート	<右クリック・メニュー>	選択したテストのレポートを表示します。
要件カバレッジ	表示	[詳細カバレッジの有効化]ダイアログ・ボックスを閉じます。詳細については，「[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(426ページ)を参照してください。
テストの実行	テスト	**Performance Center**：選択したパフォーマンス・テストをテスト計画モジュールから実行できます。パフォーマンス・テストの実行の詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
すべて選択	編集	グリッドのすべてのテストを選択します。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，テスト・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
電子メールで送信	テスト	[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト設計者の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
標準設定値の設定	編集	[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスを開き，特定のテスト・フィールドの標準設定値を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
エンティティの詳細を表示	<ツールバー>	選択したエンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。 **利用可能な場所**： • ビジネス・プロセス・テストの[コンポーネントの選択]/[フローの選択]表示枠 • [ビジネスモデルリンク]＞[ビジネスモデルツリー]表示枠 • [要件カバレッジ]＞[要件ツリー]表示枠
詳細と履歴の表示	<右クリック・メニュー>	テスト・グリッドの下部に[情報パネル]タブを表示します。 **利用可能な場所**：テスト・グリッド
フォルダのソート	表示	[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート]ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・サブジェクト・フォルダでサブフォルダをソートすることができます。詳細については、「[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート]ダイアログ・ボックス」(414ページ)を参照してください。
テストの詳細	テスト	選択したテストの詳細を表示できる[テストの詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。 ユーザ・インタフェースの詳細については、「テスト計画モジュールのウィンドウ」(394ページ)を参照してください。 Business Process Testing 固有のユーザ・インタフェースの詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
テスト・グリッド	表示	テスト・グリッド・ビューでは、テストを要件をフラットで階層化されていないビューとして表示できます。グリッドの各行には、テストが個別に表示されます。
テスト計画ツリー	表示	テスト計画ツリー・ビューが表示され、テストとテスト・サブジェクトの階層をツリーで表示できます。
テキスト検索	編集	テスト計画モジュールのウィンドウの下部に[テキスト検索]表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のテストのフィールド値を更新できます。詳細については、「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。
スクリプトのアップロード	テスト	**Performance Center**：VuGen スクリプトを ALM にアップロードできます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

テスト計画モジュールのアイコン

本項では，テスト計画モジュールで利用可能なアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト計画**]を選択します。
関連タスク	「テストを作成する方法」(388ページ)
参照情報	• 「テスト計画モジュールのメニューとボタン」(397ページ) • 「テスト計画モジュールのウィンドウ」(394ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞：タブが追加されていることを示します。
	警告：クリックすると，テストに対する警告が表示されます。 • **赤の警告**：新しい警告です。 • **グレーの警告**：警告は既読です。 詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
	添付：クリックすると，指定したテストの添付ファイルが表示されます。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が10個より多い場合は，[**他のx個の添付**]リンクをクリックして[**添付**]ページで一覧を表示します。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
	ビジネス・プロセス・テスト
	ビジネス・コンポーネントのフロー
	フォローアップ・フラグ：クリックすると，テストのフォローアップ・フラグが表示されます。 • **グレーのフラグ**：新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ**：フォローアップ日です。 詳細については，「[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
	リンクされている不具合：クリックすると，テストのリンクされている不具合が表示されます。詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
	LoadRunner シナリオ

UI 要素	説明
	手動テンプレート・テスト
	テスト・ステップがある手動テンプレート・テスト
	手動テスト
	テスト・ステップがある手動テスト
	QAInspect テスト
	サブジェクト・フォルダ
	システム・テスト
	UFT GUI テスト
	テスト・ステップがある UFT GUI テスト
	テスト・ステップがある UFT テンプレート GUI テスト
	UFT テンプレート GUI テスト
	バージョン管理：テストはチェックアウトされています。 • **緑の鍵**：現在のユーザによってチェックアウトされたテスト。 • **赤の鍵**：別のユーザによってチェックアウトされたテスト。
	Visual API-XP テスト
	Vuser スクリプト・テスト

テスト計画モジュールのフィールド

本項では，テスト計画モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト計画**]を選択します。

重要な情報	• テスト計画モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，任意のフィールドのラベルの変更ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，テスト計画モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ユーザ名の値を含むテスト計画カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む），ALM には各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索，ユーザのソート，ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け，およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については，「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」（81ページ）を参照してください。 • 一部のフィールドは，すべてのテスト計画ビューで利用できるわけではありません。 • 追加のフィールドは，ビジネス・プロセス・テストとフローで利用できます。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 • **バージョン管理**：追加のフィールドは，バージョン管理が有効なプロジェクトで利用できます。詳細については，「バージョン管理フィールド」（131ページ）を参照してください。
参照情報	「テスト計画モジュールのウィンドウ」（394ページ）

テスト計画フィールド

UI 要素	説明
コメント	テストに関するコメント。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
作成日	テストが作成された日付。標準設定では，ALM サーバの現在の日付に設定されます。下矢印をクリックしてカレンダーを表示し，別の作成日を選択できます。
説明	テストの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
設計者	テストを設計したユーザの名前。
予定開発時間	テストの設計と開発に要すると推定される時間。

UI 要素	説明
実行ステータス	最後のテスト・インスタンスの実行のステータス。実行ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**：1つ以上のステップが実行できません。たとえば，テストはリモート・マシンで実行されていますが，ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった，何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。 • **Failed**：実行の1つ以上のステップが失敗しましたが「ブロック」のステータスを示しているものはありません。 • **N/A**：テストの現在のステータスは不明です。 • **No Run**：ステップは実行されていません。 • **Not Completed**：1つ以上のステップが完了していないか実行されませんでしたが，**ブロック済み**または**失敗**のステータスを示しているものはありません。 • **Passed**：実行は成功しました。
更新日時	テストに加えられた最新の変更日時。
パス	プロジェクト・リポジトリ内でのこのテストのテスト・ディレクトリからの相対パス。
ステータス	テスト計画ステータス。標準設定のステータスは，[Design]です。
Subject	テスト計画ツリーでテストが含まれているサブジェクト・フォルダ。
テンプレート	手動テストまたはUFT GUIテストがテスト・テンプレートかどうかを示します。このカラムの値は，テストがテスト・テンプレートなら「**Y**」，そうでなければ「**N**」または空白です。タスクの詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ)を参照してください。
テストの工数	現在のテストの設計と実行に必要な作業量。
テスト ID	ALMによってテストに自動的に割り当てられる一意のID番号。このフィールドは読み取り専用です。
テスト名	テストの名前。
テストの優先度	現在のテストの優先度。
タイプ	現在のテストのテスト・タイプ。詳細については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。

テスト・パラメータ・フィールド

UI 要素	説明
標準設定値	パラメータの標準設定値。標準設定値は，ユーザがテスト実行に実際の値を割り当てるのに役立ちます。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
説明	パラメータの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
更新日時	テスト・パラメータが最後に修正された日時。
順序	パラメータ・セット内でのパラメータの位置。
パラメータ名	パラメータの名前。
使用中	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。

［テストの詳細］ダイアログ・ボックス

［テストの詳細］ダイアログ・ボックスでは，単一のテストの表示と更新ができます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの［**テスト**］で，［**テスト計画**］を選択します。 2. テストを右クリックし，［**テストの詳細**］を選択します。
関連タスク	「ALM でテストを計画する方法」(382ページ) 「テストを作成する方法」(388ページ)
参照情報	「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ：テスト間を移動できます。
	フォローアップ・フラグ：［フォローアップフラグ］ダイアログ・ボックスが開き，テストのフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については，「［フォローアップフラグ］ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	電子メールで送信：テストの詳細を電子メールで送信します。詳細については、「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	[テスト]フィールドの一覧です。[テスト]フィールドの詳細については、「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。 **ヒント**：このタブの[**説明**]または[**コメント**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
デザイン・ステップ	選択したテストの実行方法の説明の一覧です。詳細については、「[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス」(451ページ)を参照してください。 Business Process Testing **では利用できません。** Business Process Testing
テスト・スクリプト	**自動テストでは，**現在選択しているテスト用にテスト・ツールによって実行されているテスト・スクリプトです。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト スクリプト]タブ」(456ページ)を参照してください。 **ビジネス・プロセス・テストとフローでは，**現在選択しているビジネス・プロセス・テストで実行されるコンポーネントとフローまたは現在選択しているフローで実行されるコンポーネント。ユーザ・インタフェースの詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
パラメータ	現在選択されているテストに関連付けられたパラメータの一覧です。パラメータはテストのデザイン・ステップに組み込むことができます。詳細については、「[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス」(438ページ)を参照してください。
テスト設定	選択したテストの構成を表示します。詳細については、「[テスト設定]タブ」(470ページ)を参照してください。
添付	現在選択されているテストに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
要件カバレッジ	現在選択されているテストによって満たされている要件の一覧です。詳細については、「[要件カバレッジ]タブ」(421ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
リンクされている不具合	現在選択されているテストにリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
依存関係	テスト・リソースやテストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については、「[依存関係]タブ」(503ページ)を参照してください。
ビジネス・モデル・リンク	選択したテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・エンティティの一覧です。詳細については、「[ビジネス モデル リンク]タブ」(426ページ)を参照してください。
条件	選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示します。詳細については、「[条件]タブ」(459ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテストに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

[新規テスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テスト計画ツリーに新しいテストを追加できます。

アクセス方法	テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択し、[**新規テスト**]を右クリックして選択します。
重要な情報	Unified Functional Testing Add-in がマシンにインストールされている場合、[新規テスト]ダイアログ・ボックスには[**テンプレート**]ボックスが表示されます。 **ヒント**：特定のテスト・フィールドの標準設定値を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
関連タスク	「テストを作成する方法」(388ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
標準設定値の使用	**標準設定値の使用**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスでの指定に従って，特定のフィールドに標準設定値が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
標準設定値の設定	**標準設定値の設定**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスを使用して，特定のフィールドに標準設定値を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
テスト名	新しいテストに付ける名前を入力します。 **構文の例外**：テスト名には，次の文字は使用できません。 \ / : " ? < > | * % '
タイプ	手動または自動のテスト・タイプを選択します。テストを自動化するかしないかについて考慮すべき事項については，「テストの自動化」(446ページ)を参照してください。 テスト・タイプの詳細については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。 **注：** • **手動**のテスト・タイプを選択する場合，テストを手動でデザインしてから，後で[デザイン ステップ]タブでテストを自動テスト・タイプに変換できます。 • 自動テスト・タイプを選択する場合，別の自動テスト・ツールを後で[デザイン ステップ]タブで選択できますが，**手動**テスト・タイプに変換して戻すことはできません。 • **フロー**のテスト・タイプを選択する場合，別のテスト・タイプに変換することはできません。

UI 要素	説明
テンプレート	[**QUICKTEST_TEST**]を[**タイプ**]のリストで選択した場合は利用可能です。 別のGUIテストを，新しいテストのテンプレートとして選択します。テンプレート・テストが新規のテストにコピーされますが，テスト結果は含まれません。 テンプレート・テストを選択するには，参照ボタンをクリックします。[テストの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では，UFTのテンプレート・テストのみが表示されます。 テンプレート・テストを選択し，[**テストの追加**]ボタンをクリックします。 **注：** ALMが新しいGUIテストに関連付けるUFTアドインを設定するには，該当するアドインを一覧表示しているテンプレート・テストを選択します。あるいは，ALMクライアントに用意されている標準設定のテンプレート・テストを使用します。このテストは，標準設定で，WebアドインおよびActiveXアドインを読み込みます。詳細については，UFTドキュメント，および関連するUFTアドインを参照してください。
説明	テストのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるテスト・フィールドの詳細については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。 **ヒント：** このページの[**説明**]または[**コメント**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
添付	新しいテストに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト計画ツリーのフォルダをソートしたり，必要に応じてユーザ定義のソートを作成したりすることができます。

アクセス方法	1. テスト計画モジュールで，[**表示**]＞[**テスト計画ツリー**]を選択します。 2. フォルダを選択して，[**フォルダのソート**]をクリックします。
重要な情報	• ユーザ定義のソートを作成するには，プロジェクトの管理者権限が必要です。ユーザ・グループ権限の割り当ての詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • テスト計画ツリーの変更を表示するには，[**すべて更新**]をクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フォルダ名	選択したテスト・サブジェクト・フォルダ内で，サブフォルダをアルファベット順にソートします。
	項目を下に移動/項目を上に移動：選択したサブフォルダを，親フォルダ内で上または下に移動します。
カスタム・ソート	選択したサブジェクト・フォルダ内で，サブフォルダの順序変更ができます。 左側の表示枠でサブジェクト・フォルダを選択し，ドラッグするか垂直の矢印を使用して右側の表示枠でサブフォルダの並べ替えを行います。

［ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ALM でテストまたはテスト・サブジェクトをプロジェクトにまたがってコピーする方法を選択できます。

アクセス方法	1. テスト計画ツリーまたはグリッドで，テストまたはサブジェクト・フォルダを選択します。 2. 右クリックして［**コピー**］を選択します。 3. ALM インスタンスをもう 1 つ開き，テストを貼り付けるプロジェクトにログインします。 4. 右クリックして［**貼り付け**］を選択します。
重要な情報	プロジェクト間でテストをコピーするには，使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テスト/テスト・フォルダをコピーして，既存の関連エンティティへリンク	テストまたはサブジェクト・フォルダがコピーされ，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けられます。コピーしたテストまたはサブジェクト・フォルダは，既存のテスト・リソースおよび呼び出されたテストに同じ名前とパスでリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合，ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
テスト/テスト・フォルダと関連エンティティをコピー	関連するテスト・リソースおよび呼び出されたテストがテストまたはサブジェクト・フォルダと一緒にコピーされ，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けられます。関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合，名前の重複の解決のため，コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストの名前が変更されます。

UI 要素	説明
関連エンティティをコピーせずにテスト/テスト・フォルダをコピー	関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストがコピーされることなく，テストまたはサブジェクト・フォルダがコピーされ，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けられます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。

第24章: 要件とテスト・カバレッジ

本章の内容

要件とテスト・カバレッジの概要 418
カバレッジを作成する方法 418
要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース 420

要件とテスト・カバレッジの概要

テスト計画のテストは，当初の要件を満たしていることが重要です。その後，要件とテストとの関係を追跡できるように，要件とテストを結ぶリンクを設定します。

テスト計画モジュールで，テストへリンクする要件を選択することによって，要件カバレッジを作成します。要件カバレッジは，テストまたは要件の変更による影響を評価するのに役立ちます。1つのテストで複数の要件をカバーすることができます。

あるいは，要件モジュールで要件へテストをリンクして，テストのカバレッジを作成します。テスト・カバレッジは，テストまたは要件の変更による影響を評価するのに役立ちます。要件は複数のテストでカバーすることができます。

テストのレベルでのみ各要件をカバーする代わりに，テスト設定で要件をカバーすることができます。**テスト設定**は，テストの特定のユースケースを表します。たとえば，テスト設定ではテストが使用するデータのサブセットまたは実行時の環境を指定できます。テスト設定で要件をカバーすることで，テストのさまざまなユースケースのカバレッジを可能にし，要件カバレッジをよりきめ細かく調整できるようになります。テスト設定の詳細については，「テスト設定の概要」(462ページ)を参照してください。

ビジネス・モデル・モジュールを使用する場合は，テスト計画モジュールまたはビジネス・モデル・モジュールで，モデル・エンティティをテストにリンクできます。

Business Process Testing：要件とビジネス・プロセス・テストの間のカバレッジを作成する場合，テストやそのテスト設定のレベルでのみ各要件をカバーする代わりに，条件でカバレッジを定義することもできます。HP Application Lifecycle Management(ALM)では，各ビジネス・コンポーネントとフローに対して条件を作成します。カバレッジの計算に条件を含めるかどうかを決定できます。条件の詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

> **注：**要件およびテストを不具合にリンクすることができます。これは，アプリケーション管理プロセスの全体を通じてテストのニーズとの整合性を確保するのに役立ちます。要件が変更された場合に，影響を受けるテストと不具合，および担当責任者を直ちに特定できます。詳細については，「不具合のリンク」(748ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「カバレッジを作成する方法」(418ページ)を参照してください。

カバレッジを作成する方法

次の手順では，要件をテストにリンクしてカバレッジを作成する方法を説明します。テストのレベルでのみ各要件をカバーする代わりに，テスト設定で要件をカバーすることができます。

要件またはテスト計画モジュールからカバレッジを作成できます。テスト・カバレッジに従って子要件の詳細を把握することで，要件のステータスを調べる方法についても説明します。

カバレッジの作成の詳細については，「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ)を参照してください。

> **注：**このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」(382ページ)を参照してください。

- 「要件をテストにリンク」(419ページ)
- 「テストを要件にリンク」(419ページ)
- 「カバレッジの分析」(419ページ)

要件をテストにリンク

1. テスト計画モジュールで，**テスト計画ツリー・**ビューを選択します。
2. テストを選択して[**要件カバレッジ**]タブをクリックします。[**要件の選択**]ボタンをクリックすると，右側の表示枠に要件ツリーが表示されます。選択した要件にカバレッジを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[要件カバレッジ]タブ」(421ページ)を参照してください。

   要件カバレッジの作成方法に関するムービーを表示するには，ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

テストを要件にリンク

1. 要件モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。
2. 要件を選択して[**テスト カバレッジ**]タブをクリックします。[**選択**]ボタンをクリックすると，右側の表示枠にテスト計画ツリーが表示されます。選択したテストにカバレッジを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ)を参照してください。

   テスト・カバレッジの作成方法に関するムービーを表示するには，ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

カバレッジの分析

要件モジュールで，[**表示**]メニューから[**カバレッジ アナリシス**]を選択します。テスト・カバレッジに従って，要件と子要件のステータスを調べます。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)を参照してください。

カバレッジの分析方法に関するムービーを表示するには，ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース

本項の内容

カバレッジ・アナリシス・ビュー 420
[要件カバレッジ]タブ 421
[設定カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス 425
[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス 426
[ビジネス モデル リンク]タブ 426
[テスト カバレッジ]ページ 428
[アナリシス設定]ダイアログ・ボックス 432
[カバレッジ アナリシス]ダイアログ・ボックス 433
[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス 434

カバレッジ・アナリシス・ビュー

このビューでは，テスト・カバレッジに従って子要件の詳細を把握することで，要件のステータスを調べることができます。カバレッジ・アナリシスをサイクル単位で設定できます。これにより，特定のサイクルに割り当てられた実行のカバレッジのみを分析に表示できます。

アクセス方法	**要件**モジュールで，[**表示**]メニューから[**カバレッジ アナリシス**]を選択します。
重要な情報	標準設定では，カバレッジは次の要件タイプでのみ利用できます。[**機能**]，[**テスト**]，[**未定義**]。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「要件モジュール・ウィンドウ」(261ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<カバレッジ・アナリシス・ビューの共通の UI 要素>	• **カバレッジ・アナリシス・フィールド**：フィールドの定義については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ)を参照してください。 • **カバレッジ・アナリシス・ビューのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「要件モジュール・メニューとボタン」(264ページ)を参照してください。 • **カバレッジ・アナリシスのアイコン**：アイコンの説明については，「要件モジュールのアイコン」(271ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
設定...	［アナリシス設定］ダイアログ・ボックスが開き，カバレッジ・アナリシスの設定を定義できます。詳細については，「［アナリシス設定］ダイアログ・ボックス」(432ページ)を参照してください。
凡例	要件とその子要件の直接カバレッジ・ステータスを示すのに使用する，カラー・コーディングを表示します。 要件ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**：要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**ブロック済み**になっています。 • **Failed**：要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**失敗**であり，**ブロック済み**になっているものはありません。 • **No Run**：要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが**実行なし**になっています。 • **Not Completed**：要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが**未完了**であり，**ブロック済み**あるいは**失敗**になっているものはありません。一方，要件がカバーするテストの実行ステータスは，**成功**および**実行なし**になっています。 • **Not Covered**：要件がテストにリンクされていません。 • **Passed**：要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが**成功**になっています。
	表示：要件ビューの下部に［情報パネル］タブを表示します。詳細については，「要件モジュール・ウィンドウ」(261ページ)を参照してください。

［要件カバレッジ］タブ

このタブでは，テスト計画ツリーで選択したテストの対象となっている要件を表示できます。

アクセス方法	**テスト計画**モジュールで，**テスト計画ツリー**・ビューを選択します。テストを選択して［**要件カバレッジ**］タブをクリックします。

重要な情報	• 要件カバレッジは，要件をテストに変換した場合には，自動的に作成されます。したがって要件カバレッジを追加しなくても，すでに存在していることがあります。詳細については，「テストへ変換ウィザード」(282ページ)を参照してください。 • 次の要件タイプが設定され，標準設定ではそれらにカバレッジを追加できないようになっています。ビジネス，フォルダ，グループ。 カバレッジを追加するためには，それらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ) 「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ) 「テスト設定の概要」(462ページ)

要件カバレッジ・グリッド

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
要件の選択	右の表示枠に要件ツリーを表示し，要件カバレッジをテストに追加できます。詳細については，「[要件ツリー]表示枠」(423ページ)を参照してください。
	選択項目の削除：選択した要件をカバレッジ・グリッドから削除します。
	すべて更新：カバレッジ・グリッドを更新します。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，カバレッジ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
<カバレッジ・グリッド>	フィールドの定義については，「要件モジュール・フィールド」(273ページ)を参照してください。
カバレッジ・モード	エンティティが，選択したテスト設定またはすべてのテスト設定で対象とされているかどうかを示します。
カバレッジ・タイプ	カバレッジのタイプ。
エンティティ名	要件の名前。
要件ツリーの要件に移動する	カバレッジ・グリッドの要件を右クリックして，要件モジュールの要件ツリーに移動し，選択した要件を強調表示します。

UI 要素	説明
完全パスの表示	カバレッジ・グリッドの要件を右クリックして，要件ツリーの選択した要件の位置を表示します。

[要件ツリー]表示枠

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	カバレッジに追加：指定したテストに要件カバレッジを追加します。 次のオプションがあります。 • **カバレッジに追加(子を含まず)**：選択した要件(子要件を除く)をカバレッジ・グリッドに追加します。別の方法として，選択した要件をダブルクリックまたはドラッグでカバレッジ・グリッドに追加することもできます。 指定したテストに複数のテスト設定が含まれている場合，[設定カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[設定カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(425ページ)を参照してください。 • **カバレッジに追加(子を含む)**：選択した要件を，その子要件も含めて追加します。[テスト コンフィグレーション設定]表示枠に，関連するテスト設定が追加されます。 **注：**現在のフィルタに一致し，テスト・カバレッジをサポートするタイプに属する子要件のみがカバレッジに追加されます。 **Business Process Testing**：要件カバレッジをビジネス・プロセス・テストに追加すると，[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(426ページ)を参照してください。
	更新：要件ツリーを更新します。
	検索：ツリーで特定の要件が検索されます。 [**検索**]ボックスに要件の名前(または名前の一部)を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。検索が成功すると，ツリーの中で要件が強調表示されます。
	フィルタの設定：要件ツリーの要件をフィルタ処理してソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	ID で要件に移動：[要件に移動]ダイアログ・ボックスが開き，**要件 ID** で要件を検索できます。 **注：**現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。
	閉じる：右側の表示枠の要件ツリーを非表示にします。

[テスト コンフィグレーション設定]タブ

このタブでは，要件カバレッジに関連付けられたテスト設定を表示します。詳細については，「[テスト コンフィグレーション設定]タブ」(477ページ)を参照してください。

[条件の設定]タブ

このタブでは，選択したカバーされるテストの条件を追加または削除できます。

重要な情報	**Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	条件の追加：[条件の追加]ダイアログ・ボックスが開き，条件設定グリッドに条件を追加できます。詳細については，「[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(434ページ)を参照してください。
	条件の削除：選択した条件を条件設定グリッドから削除します。 **注：**最後の条件を削除すると，カバレッジはテストレベルに戻ります。
	更新：条件設定グリッドを更新します。

［設定カバレッジの追加］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，テスト設定をカバレッジに追加できます。

アクセス方法	1. **テスト計画**モジュールで，テスト計画ツリーから複数のテスト設定が含まれているテストを選択します。［**要件カバレッジ**］タブをクリックします。 2. ［**要件の選択**］をクリックして，［要件ツリー］表示枠を表示します。 3. 要件を選択します。［**カバレッジに追加 (子を含まず)**］をクリックします。［設定カバレッジの追加］ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは，選択したテストに複数のテスト設定が含まれている場合にのみ開きます。 • ルート・フォルダが選択されていると，［**カバレッジに追加 (子を含まず)**］ボタンは無効になります。 • **Business Process Testing**：要件カバレッジをビジネス・プロセス・テストに追加すると，［詳細カバレッジの追加］ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「［詳細カバレッジの追加］ダイアログ・ボックス」(426ページ)を参照してください。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	テスト設定の名前。
説明	テスト設定の説明。
このダイアログを表示しない	このダイアログ・ボックスを非表示にします。 このダイアログ・ボックスを表示するには，［**表示**］＞［**要件カバレッジ**］＞［**詳細カバレッジ ダイアログを表示**］を選択します。

[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，条件を追加してテスト設定をカバレッジに追加できます。

アクセス方法	1. **テスト計画**モジュールで，テスト計画ツリーからビジネス・プロセス・テストを選択します。[**要件カバレッジ**]タブをクリックします。 2. [**要件の選択**]をクリックして，[要件ツリー]表示枠を表示します。 3. 要件を選択します。[**カバレッジに追加**]をクリックします。[詳細カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	• **Business Process Testing**：このダイアログ・ボックスは，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用できます。 • ルート・フォルダが選択されていると，[**カバレッジに追加**]ボタンは無効になります。 • このダイアログ・ボックスは，選択したビジネス・プロセス・テストに基準とテスト設定が含まれている場合にのみ開きます。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
条件	条件を選択できます。 **Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
設定	テスト設定を選択できます。詳細については，「テスト設定の概要」(462ページ)を参照してください。
このダイアログを表示しない	このダイアログ・ボックスを非表示にします。 このダイアログ・ボックスを表示するには，[**表示**]＞[**要件カバレッジ**]＞[**詳細カバレッジ ダイアログを表示**]を選択します。

[ビジネス モデル リンク]タブ

要件モジュール：このタブでは，要件ツリーで選択した要件の対象となっているビジネス・プロセス・モデルのエンティティを表示できます。

テスト計画モジュール：このタブでは，テスト計画ツリーで選択したテストの対象となっているビジネス・プロセス・モデルのエンティティを表示できます。

アクセス方法	要件モジュールで， **要件の詳細**ビューを選択し，要件を選択して[**ビジネス モデル リンク**]タブをクリックします。 テスト計画モジュールで， **テスト計画ツリー**ビューを選択し，テスト(またはBusiness Process Testing フロー)を選択して，[**ビジネス モデル リンク**]タブをクリックします。
重要な情報	ビジネス・モデルとテストは，モデル・エンティティの代表的な要件をテストに変換することで，自動的にリンクされます。
関連タスク	「要件とテストのモデル・エンティティへのリンク」(325ページ)
参照情報	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(320ページ)

ビジネス・モデル・リンクのグリッド

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	リンクに追加：右の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示して，ビジネス・モデル・エンティティをテストまたは要件に追加できます。詳細については，「ビジネス・モデル・ツリー 表示枠」(428ページ)を参照してください。
	リンクから削除：選択したモデル・エンティティをリンク・グリッドから削除します。
	更新：リンク・グリッドを更新して最新の情報を表示します。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，リンク・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
アクティビティ	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・アクティビティの一覧です。
パス	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・パスの一覧です。
モデル	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデルの一覧です。
<リンク・グリッド>	グリッドのリンクをクリックすると，ビジネス・モデル・ツリーのモデル・エンティティに移動します。 フィールドの定義については，「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(339ページ)を参照してください。

ビジネス・モデル・ツリー表示枠

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	リンクに追加：選択したモデル・エンティティを現在の要件またはテストにリンクします。 **ヒント：** モデル・エンティティをダブルクリックするか，ビジネス・モデル・ツリーからリンク・グリッドにドラッグすることで，モデル・エンティティをリンクすることもできます。
	エンティティの詳細を表示：選択したエンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	モジュール・ツリーのエンティティに移動：選択したエンティティのモジュールのエンティティの場所に移動し，そのエンティティを強調表示します。
	更新：ビジネス・モデル・ツリーを更新します。
	検索：ツリーで特定のモデル・エンティティを検索します。 [**検索**]ボックスにモデル・エンティティの名前(または名前の一部)を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。検索が成功すると，ツリーの中でエンティティが強調表示されます。
	フィルタ/ソート：ビジネス・モデル・ツリーのエンティティをフィルタ処理してソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	ID でモデル・フォルダに移動：[モデルに移動]ダイアログ・ボックスが開き，[モデルID]で特定のモデルを検索できます。 **注：** 現在のフィルタに含まれるモデルにのみ移動できます。
	閉じる：右側の表示枠のビジネス・モデル・ツリーを非表示にします。

[テスト カバレッジ]ページ

このページでは，要件ツリーで選択した要件を対象としているテストを表示できます。

アクセス方法	**要件**モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。要件を選択して[**テスト カバレッジ**]タブをクリックします。

重要な情報	• テスト・カバレッジは，要件からテストを生成した場合には，自動的に作成されます。したがってテスト・カバレッジを追加しなくても，すでに存在していることがあります。詳細については，「テストへ変換ウィザード」(282ページ)を参照してください。 • 次の要件タイプが設定され，標準設定ではそれらにカバレッジを追加できないようになっています。ビジネス，フォルダ，グループ。 カバレッジを追加するためには，それらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ)

テスト・カバレッジのグリッド

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
選択	**テストを選択**：右の表示枠にテスト計画ツリーを表示し，テスト・カバレッジを要件に追加できます。詳細については，「[テスト計画ツリー]表示枠」(430ページ)を参照してください。
	カバレッジから削除：選択したテストをカバレッジ・グリッドから削除します。 **注意：**完全カバレッジ・モードでカバレッジを削除すると，子の要件からもカバレッジが削除される場合があります。
ステータス・フィルタ	カバレッジ・グリッドをステータス・タイプでフィルタ処理します。
	更新：カバレッジ・グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：カバレッジ・グリッドのテストをフィルタ処理してソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，カバレッジ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
完全カバレッジ	選択した要件のすべての子のテスト・カバレッジを表示します。
<カバレッジ・グリッド>	フィールドの定義については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
カバレッジ・タイプ	カバレッジのタイプ。
エンティティ名	テストの名前。
カバレッジ・ステータス	テストの現在の実行ステータス。
カバレッジ・モード	選択したテストまたは特定のテストに関連付けられたテスト設定のすべてが，テスト・カバレッジに含まれているかどうかを示します。このカラムの値は，[**選択した設定**]または[**全ての設定**]のいずれかです。
テストセットのテストに移動	カバレッジ・グリッドのテストを右クリックして，テスト・モジュールの実行グリッドに移動し，選択したテストを強調表示します。
テスト計画のテストに移動	カバレッジ・グリッドのテストを右クリックして，テスト計画モジュールのテスト計画ツリーに移動し，選択したテストを強調表示します。
	表示/非表示：テスト・カバレッジ・ページの下部の表示枠を表示/非表示します。

[テスト計画ツリー]表示枠

この表示枠では，テストを要件のテスト・カバレッジに追加できます。テストを追加する場合，ALM は[テスト設定]表示枠に表示された関連付けられたテスト設定も追加します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	カバレッジに追加：選択したテストを，それに関連付けられたテスト設定を含めて，要件のテスト・カバレッジに追加します。別の方法として，選択したテストをダブルクリックまたはドラッグでテスト・カバレッジ・グリッドに追加することもできます。 **注：**フォルダを選択すると，現在のフィルタ条件に一致するテストのみがテスト・カバレッジに追加されます。 **Business Process Testing**：ビジネス・プロセス・テストを追加すると，[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(434ページ)を参照してください。 **ヒント：**選択したテスト設定を要件のテスト・カバレッジに追加するには，[テスト設定]表示枠からカバレッジを追加します。
	テストの詳細の表示：選択したテストの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。

UI 要素	説明
	モジュール・ツリーのテストに移動：テスト計画モジュールの選択したテストの場所に移動し，そのテストを強調表示します。
	すべて更新：要件ツリーを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：ツリーのテストをフィルタ処理してソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	検索：ツリーで特定のテストが検索されます。 [検索]ボックスにテストの名前(または名前の一部)を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。検索が成功すると，ツリーの中でテストが強調表示されます。
	ID でテストに移動：[テストに移動]ダイアログ・ボックスが開きます。[**テスト ID**]で特定のテストを検索できます。 **注：**現在のフィルタに含まれるテストにのみ移動できます。
	閉じる：[テスト計画ツリー]表示枠を非表示にします。
	表示/非表示：[テスト設定]表示枠を表示/非表示します。

[テスト設定]表示枠

この表示枠では，選択したテスト設定を要件のテスト・カバレッジに追加できます。詳細については，「[テスト設定]表示枠」(478ページ)を参照してください。

[カバレッジ グラフ]タブ

このタブは，カバレッジ・グリッドのテストの実行ステータスを円グラフで視覚的に表示します。

[テスト設定ステータス]タブ

このタブでは，カバーするテストに関連付けられた設定のステータスを表示します。詳細については，「[テスト設定ステータス]タブ」(479ページ)を参照してください。

[条件の設定]タブ

このタブでは，選択したカバーされるテストの条件を追加または削除できます。

重要な情報	テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	条件の追加：[条件の追加]ダイアログ・ボックスが開き，条件設定グリッドに条件を追加できます。詳細については，「[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(434ページ)を参照してください。
	条件の削除：選択した条件を条件設定グリッドから削除します。
	更新：条件設定グリッドを更新します。

[アナリシス設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは，要件のカバレッジ・ステータスと，アナリシス設定に応じた子要件を表示します。

アクセス方法	**カバレッジ・アナリシス**・ビューで，[**設定**]ボタンをクリックします。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
カバレッジ・アナリシス	[**直接カバレッジ ステータス**]フィールドの値に基づいて，要件の現在のカバレッジ・ステータスを計算します。ステータスは，カバレッジ・アナリシス・ビューの[**カバレッジ アナリシス**]フィールドの下に視覚的に表示されます。 [直接カバレッジ ステータス]フィールドの詳細については，「直接カバレッジ・ステータス」(276ページ)を参照してください。 [カバレッジ アナリシス]フィールドの詳細については，「カバレッジ・アナリシス」(275ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
実行アナリシス	選択したサイクルで実行した，要件をカバーするテストの実行に基づいて，要件のカバレッジ・ステータスを計算します。[実行アナリシス]オプションでは，計算に[**直接カバレッジ ステータス**]フィールドが使用されません。 選択したサイクルで実行に割り当てられなかったテストには，[**No Run**]ステータスが割り当てられます。テストでカバーされていない要件は分析に含まれません。 [**実行アナリシス**]ボックスで，矢印ボタンをクリックします。リリース・ツリーが開きます。ツリーを展開し，カバレッジの分析対象にするサ　クルを選択します。 ステータスは，カバレッジ・アナリシス・ビューの[**カバレッジ アナリシス**]フィールドの下に視覚的に表示されます。[**カバレッジ アナリシス**]フィールドの詳細については，「カバレッジ・アナリシス」(275ページ)を参照してください。 **注：**[**実行アナリシス**]オプションを選択すると，[**直接カバレッジ ステータス**]フィールドは，カバレッジ・アナリシス・ビューでは利用できません。

[カバレッジ アナリシス]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは，要件のカバレッジ・ステータスと，現在のフィルタ設定に応じた子要件を表示します。

アクセス方法	**カバレッジ・アナリシス**・ビューで，要件を右クリックして[**カバレッジ アナリシス**]を選択します。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<グラフ領域>	選択した要件とその子要件のカバレッジ・ステータスを表示します。 グラフ内の各部分をクリックすると，クリックした部分のステータスに対応する子要件のリストが表示されます。 リストから要件を選択して[**移動**]をクリックすると，要件ツリー内でその要件を強調表示できます。 **例：**[**Failed**]領域をクリックすると，失敗のステータスとともに要件のリストを表示します。
クリップボードへコピー	[カバレッジ アナリシス]ボックスのスナップショットをクリップボードにコピーします。

UI 要素	説明
テスト・カバレッジの追加	ダイアログ・ボックスを展開すると，テスト・カバレッジ・グラフを表示します。この円グラフでは，要件の完全なテスト・カバレッジがテスト・ステータスごとにグループ化して視覚的に表示されています。 グラフ内の各部分をクリックすると，その部分のステータスに対応する要件と子要件がカバーするテストの一覧が表示されます。[**ステータス フィルタ**]に，グラフの中で選択した領域のステータスが設定された状態で[テスト カバレッジ]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ)を参照してください。 **注：**親要件に複数の子があり，すべての子が同じテストをカバーする場合，そのテストは親要件のテスト・カバレッジ・チャートに一度だけ含まれます。

[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，テストの条件を追加できます。

アクセス方法	1. **要件**モジュールの要件の詳細ビューで，要件ツリーから要件を選択します。 [**テスト カバレッジ**]タブをクリックします。[**選択** 選択]をクリックすると，ウィンドウの右側に[テスト計画ツリー]表示枠が表示されます。 2. [テスト計画ツリー]表示枠で，ビジネス・プロセス・テストを選択して[**カバレッジに追加**]をクリックします。または，[テスト設定]表示枠で，ビジネス・プロセス・テストのテスト設定を選択して[**カバレッジにテスト設定を追加**]をクリックします。[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	**Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(418ページ)
参照情報	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(420ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	条件の名前。
説明	条件の説明。
このダイアログを表示しない	このダイアログ・ボックスを非表示にします。 このダイアログ・ボックスを表示するには，[**表示**]＞[**テスト カバレッジ**]＞[**条件カバレッジの追加**]を表示]を選択します。

第25章: テスト・パラメータ

本章の内容

テスト・パラメータの概要 436
テスト・パラメータの使用方法 436
テスト・パラメータのユーザ・インタフェース 438

テスト・パラメータの概要

テストにパラメータを追加できます。**テスト・パラメータ**は，パラメータが定義されているテストの外側から値を割り当てることができる変数です。パラメータを使用することで，毎回異なるデータで同じテストを繰り返し実行することができ，テストの柔軟性を向上させます。

手動テストを使用する場合，テスト内からデザイン・ステップにパラメータを追加したり，別のテストからステップを呼び出してパラメータを追加できます。パラメータは，よく使用する共通のステップを，他のテストで実行する場合に便利です。たとえば，アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテンプレート・テストとして「**Login_Template**」を作成できます。このテストは，各テストの開始時に呼び出す必要があります。また，通常のユーザとしてアプリケーションにログインする場合と，プロジェクト管理者としてログインする場合が必要であるとします。

そのためには，`<<<user name>>>` および `<<<password>>>` という 2 つのパラメータを作成し，「**Login_Template**」を呼び出すテストのタイプに応じて値を変更します。通常のユーザとしてログインすることが多い場合には，通常のユーザ名とパスワードをこのパラメータの標準設定の値として設定しておきます。手動テストの呼び出しの詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

自動テストを使用する場合，テスト内からテスト・スクリプトのパラメータを定義するか，または共有のテスト・リソース・ファイルからパラメータを読み込むことができます。テスト・リソースの使用の詳細については，「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ)を参照してください。

テスト・パラメータの使用方法

このタスクでは，テスト・パラメータの使用方法について説明します。

テスト・パラメータの詳細については，「テスト・パラメータの概要」(436ページ)を参照してください。

Business Process Testing/UFT：**ビジネス・プロセス**・テスト・タイプまたは **GUI-Test** テスト・タイプを使用する場合は，テスト・パラメータの使用にさまざまなオプションが利用できます。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』および『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(436ページ)
- 「テスト・パラメータの定義」(437ページ)
- 「デザイン・ステップへのパラメータの追加」(437ページ)
- 「パラメータへの実際の値の割り当て」(437ページ)

1. **前提条件**

   手動テストは，テスト計画ツリーで定義されます。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」(382ページ)を参照してください。

2. **テスト・パラメータの定義**

   [パラメータ]タブで，テスト・デザイン・ステップで使用するテスト・パラメータを計画して定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳細]ダイアログ・ボックス」(442ページ)を参照してください。

3. **デザイン・ステップへのパラメータの追加**

   デザイン・ステップの作成中に，[**パラメータの挿入**] をクリックして，デザイン・ステップにパラメータを追加します。[パラメータ]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス」(438ページ)を参照してください。

   あるいは，デザイン・ステップの[詳細]または[期待される結果]で，新規または既存のパラメータ名を <<<パラメータ名 >>> 形式で入力します。新しいパラメータを入力すると，テスト・パラメータ・グリッドに自動的に追加されます。

   デザイン・ステップでパラメータ名に書式を適用する場合，同一の書式をパラメータ名全体(<<< および >>> を含む)にも適用する必要があります。たとえば，<<<password>>> パラメータをイタリック体にする場合，password という語だけでなく，<<<password>>> の文字列全体をイタリック体にする必要があります。

4. **パラメータへの実際の値の割り当て**

   テストを実行する前に，ALM からテストに含まれるパラメータに実際の値を割り当てるよう求められます。**実際の値**は，テストの実行中に使用されるデータです。パラメータの標準設定値を実際の値として使用できます。

   テストの設計では，3 つの段階で実際の値を割り当てるよう ALM から求められます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[呼び出されたテスト パラメータ]/[テストのパラメータ]ダイアログ・ボックス」(443ページ)を参照してください。

   テスト・ポリシーに応じて，次の 3 つの段階のいつでも実際の値を割り当てることができます。

   - **パラメータを使ったテストの呼び出し時**：テストの呼び出し時にパラメータに実際の値を割り当てると，呼び出し元テストから作成した各テスト・インスタンスに値が自動的に適用されます。

   - **テスト・インスタンスの作成時**：テスト・インスタンスの作成時にパラメータに実際の値を割り当てると，テスト・インスタンスの各実行に値が自動的に適用されます。テスト・インスタンスの実行設定ビューで，実際の値をテスト・インスタンスに割り当てることもできます。「テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー」(589ページ)を参照してください。

   - **テストの実行時**：実際の値をテスト実行のパラメータに割り当てると，値はそのテスト実行だけに適用されます。この段階で実際の値を割り当てない場合，テストは NULL 値で実行されます。

   それらの各段階において，まだ値が割り当てられていないパラメータにのみ値を割り当てることができます。

テスト・パラメータのユーザ・インタフェース

本 項 の内 容

[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス 438
[新 規 テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳 細]ダイアログ・ボックス 442
[呼 び出 されたテスト パラメータ]/[テスト のパラメータ]ダイアログ・ボックス 443

[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス

[パラメータ]タブでは，テスト・パラメータの作 成 および表 示 が行 えます。

[パラメータ]ダイアログ・ボックスでは，テスト実 行 にテスト・パラメータを挿 入 できます。

アクセス方 法	**[パラメータ]タブ**: テスト計 画 ツリーでテストを選 択 し，[**パラメータ**]タブをクリックします。 **[パラメータ]ダイアログ・ボックス**: テスト計 画 ツリーで，テスト(ビジネス・プロセス・テストまたはフロー以 外)を選 択 して，[**デザイン ステップ**]タブをクリックします。デザイン・ステップをダブルクリックして，カーソルを[説 明]または[期 待 される結 果]フィールドに移 動 します。[**パラメータの挿 入**] をクリックします。
重 要 な情 報	[パラメータ]ダイアログ・ボックスでパラメータを選 択 すると，パラメータが <<<パラメータ名 >>> の書 式 でデザイン・ステップのカーソルの位 置 に挿 入 されます。
関 連 タスク	• 「テスト・パラメータの使 用 方 法 」(436ページ) • 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』
参 照 情 報	• 「テスト・パラメータの概 要 」(436ページ) • 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』

次 にユーザ・インタフェースの要 素 について説 明 します(ラベルのない要 素 は，山 括 弧 で囲 んで表 記 してあります)。

UI 要 素	説 明
	リソースに移 動 : テスト・リソース・ツリーに移 動 して，選 択 したリソースを強 調 表 示 します。 **利 用 可 能 な対 象** : 自 動 テスト・タイプ

UI 要素	説明
	リソース・プレビュー: 選択したテスト・リソースの内容を表示します。 **利用可能な対象**: 自動テスト・タイプ
	パラメータのマップ: [パラメータのマップ] ダイアログ・ボックスが開きます。パラメータ名を，選択したテスト・リソース・ファイルのカラム名にマップできます。 [**マップされた値**] カラムで，各パラメータ名に対してテスト・リソースのカラム名を入力します。 **利用可能な対象**: 自動テスト・タイプ
新規パラメータ	**新規パラメータ**: [新規 Test Parameter] ダイアログ・ボックスが開き，新しいパラメータを定義できます。詳細については，「[新規テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳細] ダイアログ・ボックス」(442ページ) を参照してください。
	削除: 現在選択中のパラメータを削除します。コンポーネント・ステップに含まれているパラメータを削除すると，コンポーネント・ステップ内のパラメータは＜パラメータ名＞形式の通常のテキストに置き換えられます。
	更新: テスト・パラメータを更新して最新の情報を表示します。
	フィルタ/ソートの設定: [フィルタ Test Parameters] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・パラメータ・グリッドのテスト・パラメータをフィルタ処理してソートすることができます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
	カラムの選択: [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	パラメータの詳細: [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択したパラメータの詳細を表示します。詳細については，「[新規テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳細] ダイアログ・ボックス」(442ページ) を参照してください。
	上に移動: 選択したパラメータをリスト内で上に移動します。 **ヒント:** ほかのタブやダイアログ・ボックス(Business Process Testingの [反復] ページなど) では，パラメータは [パラメータ] ページで定義された順序に従って表示されます。 **利用可能な対象**: BUSINESS-PROCESS，FLOW，MANUAL，QAINSPECT_TEST，QUICKTEST_TEST，SERVICE-TEST，SYSTEM-TEST，VAPI-XP-TEST テストタイプ

UI 要素	説明
	下に移動 : 選択したパラメータをリスト内で下に移動します。 **ヒント:** ほかのタブやダイアログ・ボックス(Business Process Testingの[反復]ページなど) では, パラメータは[パラメータ]ページで定義された順序に従って表示されます。 **利用可能な対象** : BUSINESS-PROCESS, FLOW, MANUAL, QAINSPECT_TEST, QUICKTEST_TEST, SERVICE-TEST, SYSTEM-TEST, VAPI-XP-TEST テストタイプ
データ・リソース	テストの各設定に対するパラメータ値セットを含む外部の Microsoft Excel ファイルの名前を指定します。動的データにアクセスするよう定義されている設定に対してのみ使用します。タスクの詳細については, 「動的データを関連付ける方法」(467ページ) を参照してください。 **利用可能な場所** : テスト計画モジュールの[パラメータ]タブ。このフィールドは, テスト計画モジュールの[テスト スクリプト]タブから[**パラメータ**]タブを選択した場合は利用できません。 **利用可能な対象** : BUSINESS-PROCESS, FLOW, MANUAL, QAINSPECT_TEST, QUICKTEST_TEST, SERVICE-TEST, SYSTEM-TEST, VAPI-XP-TEST テストタイプ
	リソースに移動 : 動的データにアクセスする設定で使用します。テスト・リソース・モジュールでリソースを開きます。 **利用可能な場所** : テスト計画モジュールの[パラメータ]タブ。このフィールドは, テスト計画モジュールの[テスト スクリプト]タブから[**パラメータ**]タブを選択した場合は利用できません。 **利用可能な対象** : BUSINESS-PROCESS, FLOW, MANUAL, QAINSPECT_TEST, QUICKTEST_TEST, SERVICE-TEST, SYSTEM-TEST, VAPI-XP-TEST テストタイプ

UI 要素	説明
	リソース・プレビュー: 動的データにアクセスする設定で使用します。テストの実行時の設定で使用される実際のデータをプレビューすることができます。外部データ・テーブル・リソースは，[リソース プレビュー]ダイアログ・ボックスの[**データ リソース**]で指定されます。 [リソース プレビュー]ダイアログ・ボックスは，テスト・リソース・モジュールの[リソース ビューア]タブと似ています。ユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**: テスト計画モジュールの[パラメータ]タブ。このフィールドは，テスト計画モジュールの[テスト スクリプト]タブから[**パラメータ**]タブを選択した場合は利用できません。 **利用可能な対象**: BUSINESS-PROCESS，FLOW，MANUAL，QAINSPECT_TEST，QUICKTEST_TEST，SERVICE-TEST，SYSTEM-TEST，VAPI-XP-TEST テストタイプ
	パラメータのマップ: 動的データにアクセスする設定で使用します。外部の Microsoft Excel ファイル内のパラメータ名を ALM 内のパラメータ名にマップすることで，Excel ファイル内のパラメータ値セットを指定できます。タスクの詳細については，「動的データを関連付ける方法」(467ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**: テスト計画モジュールの[パラメータ]タブ。このボタンは，テスト計画モジュールの[テスト スクリプト]タブから[**パラメータ**]タブを選択した場合は利用できません。 **利用可能な対象**: BUSINESS-PROCESS，FLOW，MANUAL，QAINSPECT_TEST，QUICKTEST_TEST，SERVICE-TEST，SYSTEM-TEST，VAPI-XP-TEST テストタイプ
ソート	[フィルタの設定]ダイアログ・ボックスでの定義に従って，パラメータを表示する順序を指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
<テスト・パラメータ・フィールド>	テスト・パラメータで利用可能なフィールドの詳細については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。
データ・リソース	テスト・リソース・ツリーからテスト・リソース・ファイルを読み込むことができます。テスト・リソースの詳細については，「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)を参照してください。 **注**: このオプションは自動テスト・タイプでのみ表示されます。 **注意**: テスト・リソースがパラメータに割り当てられたがその後削除された場合，[**データ リソース**]フィールドは読み取り専用になり，破損した関係の画像が表示されます。

UI 要素	説明
標準設定値	パラメータの標準設定値。
説明	パラメータの説明。
使用中	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。

[新規テスト パラメータ]/[テスト パラメータ詳細]ダイアログ・ボックス

[新規テスト パラメータ]ダイアログ・ボックスが開き，テスト・パラメータを定義できます。

[テスト パラメータ詳細]ダイアログ・ボックスでは，テスト・パラメータの詳細の表示と変更ができます。

アクセス方法	**テスト・パラメータの新規作成**: テスト計画ツリーでテストを選択し，[**パラメータ**]タブをクリックします。[**新規パラメータ**]ボタンをクリックします。[新規テスト パラメータ]ダイアログ・ボックスが開きます。 **テスト・パラメータの詳細**: テスト計画ツリーでテストを選択し，[**パラメータ**]タブをクリックします。パラメータを選択し，[**パラメータの詳細**]ボタンをクリックします。
重要な情報	**Business Process Testing**:ビジネス・プロセス・テスト・タイプを使用する場合は，テスト・パラメータでさまざまなオプションを利用できます。
関連タスク	• 「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ) • 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』
参照情報	「テスト・パラメータの概要」(436ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ:テスト・パラメータを通して表示できるようになります。 **利用可能な場所**:[詳細 Test Parameter]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典:選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション:スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: すべてのフィールドをクリア。 **利用可能な場所**: [新規 Test Parameter] ダイアログ・ボックス
[詳細] タブ	テスト・パラメータで利用可能なフィールドの詳細については、「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) を参照してください。
標準設定値	パラメータの標準設定値。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
説明	パラメータの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

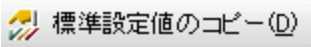
[呼び出されたテスト パラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス

[呼び出されたテスト パラメータ] ダイアログ・ボックスでは、呼び出したテストに含まれるパラメータの実際の値を表示して割り当てることができます。

[テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスでは、テスト・インスタンスまたはテスト実行のパラメータの実際の値を割り当てることができます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • テスト計画モジュールでテストを選択し、[**デザイン ステップ**] タブをクリックします。ステップを右クリックし、[**テストの呼び出し**] を選択します。テストを選択します。選択したテストにパラメータが含まれている場合、[呼び出されたテスト パラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。 • テスト計画モジュールでテストを選択し、[**デザイン ステップ**] タブをクリックします。テストの呼び出しを含むステップを右クリックし、[**呼び出されたテストのパラメータ**] を選択します。[呼び出し先テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。 • テスト・ラボ・モジュールで、パラメータを使ってテストを実行します。[テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスによって、パラメータに実際の値を割り当てるよう要求されます。
重要な情報	実際の値がまだ設定されていないパラメータのみが表示されます。
関連タスク	「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ)
参照情報	「テスト・パラメータの概要」(436ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，ダイアログ・ボックスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
	[実際の値] カラムの値を，現在選択しているパラメータの [標準設定値] カラムの値で置き換えます。
使用中	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。
パラメータ名	パラメータの名前。
標準設定値	パラメータの標準設定値。
実際の値	テスト実行中にパラメータに使用される実際の値。 [実際の値] カラムまたは [実際の値] タブに，実際の値を入力します。
説明	パラメータの説明。

第26章: テストの設計

本章の内容

テストの設計の概要 446
テストの自動化 446
テスト・ステップの設計方法 447
デザイン・ステップのユーザ・インタフェース 450

テストの設計の概要

テストをテスト計画ツリーに追加した後は，デザイン・ステップを定義してテストを組み立てます。詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

テスト・ステップを定義したら，テストを手作業で実行するか，自動化するかを決定します。

手動テストの場合，ステップを定義し，これらのステップをアプリケーションで実行し，それぞれのステップの結果を記録します。手動テストは，テスト担当者による対応が必要なテスト，ユーザビリティ・テスト，1回限りのテスト，すぐに実行する必要のあるテスト，アプリケーションの知識が必要なテスト，および結果が予測できないテストで使用します。

たとえば，航空券予約アプリケーションの場合，ダイアログ・ボックスがユーザにとって使いやすいものであるかどうかを確認するテストでは，ユーザの意見が必要です。したがって，これらのテストは手作業で行う必要があります。

自動テストでは，テストのエキスパートが詳細なテスト・スクリプトを作成するための基礎としてデザイン・ステップを使用できます。自動テストの場合，HP のテスト・ツール，またはサードパーティ製のテスト・ツールを使用して，自動テスト・スクリプトを作成する必要があります。自動テストの詳細については，「テストの自動化」(446ページ)を参照してください。

テストの設計の一部として，別の手動テストへの呼び出しを含めることができます。呼び出し元のテストを実行すると，呼び出し元のテストには呼び出し先のテストのステップが組み込まれます。パラメータは，よく使用する共通のステップを，他のテストで実行する場合に便利です。

たとえば，多くの異なるテストにログイン・ステップを含めるとします。アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテストとして，「**Login_Template**」を作成できます。このテストは，各テストの開始時に呼び出すことができます。

呼び出されたテストにはテスト・パラメータを含めることができます。呼び出されたテストのタイプに基づいたさまざまなデータで呼びされたテストを実行する場合，パラメータが役立ちます。手動テストでのパラメータの使用の詳細については，「テスト・パラメータの概要」(436ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)を参照してください。

テストの自動化

テスト計画の作成には，自動化するテストを選定する作業も含まれます。テストを自動化すると，Unified Functional Testing，LoadRunner，または Visual API-XP を使用してテスト・スクリプトを作成し，そのテストを実行できます。

テストを自動化すると，テストを短時間かつ無人で実行できます。また，テストを再利用したり，繰り返し実行したりすることができます。たとえば，機能テストやベンチマーク・テスト，単体テスト，ストレス・テスト，負荷テストを自動実行できるほか，アプリケーションに関する詳細情報が要求されるテストも自動実行できます。

テストを自動化するかどうかを決めるときには，次の事項を考慮してください。

実行の頻度

自動化に適しているのは，アプリケーションの新しいバージョンが出るごとに実行するテストです。こうしたテストには，アプリケーション全体の基本的な機能の動作を確認する動作確認テストが含まれます。アプリケーションの新しいバージョンが出るたびに，動作確認テストを実行して新しいバージョンの

安定性を確認してから，詳細なテストに進みます。

1つの操作に対して複数のデータ値を使用するテスト（データ駆動テスト）も自動化に適しています。入力するデータ・セットを毎回更新しながら同じテストを手作業で実行すると，時間がかかり非効率的です。自動のデータ駆動テストを作成することによって，複数のデータ・セットを使用したテストを1回で実行することができます。

ストレス/負荷テスト

何回も実行するテスト（ストレス・テスト）やマルチユーザのクライアント/サーバ・システムを確認するテスト（負荷テスト）も自動化することをお勧めします。たとえば，テストを1,000回繰り返すとします。このテストを手作業で実行するのは，実に非現実的です。この場合には，1,000回反復実行されるテストを作成できます。

自動化するべきでないテスト

一般に，ユーザによる操作の必要が多ければ多いほど，テストは自動化に適していません。次に示すテスト・ケースは，自動化するべきではありません。

- ユーザビリティ・テスト — アプリケーションの使いやすさを検査するための使用方法モデルを提供するテスト。
- 1回だけ実行するテスト。
- 直ちに実行する必要のあるテスト。
- ユーザの直感およびアプリケーションの知識に基づいたテスト。
- 結果を予測できないテスト。

テスト・ステップの設計方法

テストをテスト計画ツリーに追加した後は，テスト担当者がテストを完了するために実行する，詳細で段階的な指示を記述します。各テストのステップには，操作の説明が含まれています。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」（382ページ）を参照してください。

テストの設計の詳細については，「テストの設計の概要」（446ページ）を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」（448ページ）
- 「テスト・ステップの作成」（448ページ）
- 「テンプレート・テストの呼び出し（オプション）」（449ページ）
- 「自動テストの生成（オプション）」（449ページ）
- 「結果」（450ページ）

1. **前提条件**

   テスト，および基本的なテストの情報については，テスト計画ツリーで定義されます。

   テストの作成に関するタスクの詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ)を参照してください。

2. **テスト・ステップの作成**

   テスト担当者がテストを実行するのに必要なステップを記述します。テストのステップには，アプリケーションで実行するアクション，入力内容，およびアクションや入力に対して期待される結果を指定します。

   テストのステップを作成するには，次の手順で行います。

   a. テスト計画モジュールで，[**表示**]＞[**テスト計画ツリー**]を選択し，テストを選択します。

   b. [**デザイン ステップ**]タブをクリックします。

   c. 既存のデザイン・ステップがある場合，新しいステップを追加するステップを次から選択します。

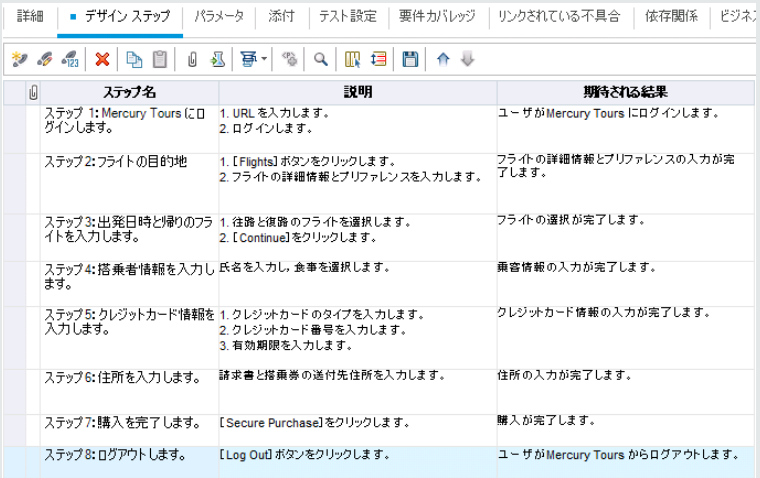
   d. [**新規ステップ**]をクリックします。[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス」(451ページ)を参照してください。

   e. デザイン・ステップにパラメータを追加するには，[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスで，[**パラメータの挿入**]をクリックします。テスト・パラメータの作業の詳細については，「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ)を参照してください。

   例：

   Mercury Tours アプリケーションの航空券予約機能をテストするには，次のようにデザイ

ン・ステップを作 成 するとよいでしょう。



ステップ名	説明	期待される結果
ステップ 1: Mercury Tours にログインします。	1. URL を入力します。 2. ログインします。	ユーザが Mercury Tours にログインします。
ステップ 2: フライトの目的地	1. [Flights] ボタンをクリックします。 2. フライトの詳細情報とプリファレンスを入力します。	フライトの詳細情報とプリファレンスの入力が完了します。
ステップ 3: 出発日時と帰りのフライトを入力します。	1. 往路と復路のフライトを選択します。 2. [Continue] をクリックします。	フライトの選択が完了します。
ステップ 4: 搭乗者情報を入力します。	氏名を入力し、食事を選択します。	乗客情報の入力が完了します。
ステップ 5: クレジットカード情報を入力します。	1. クレジットカードのタイプを入力します。 2. クレジットカード番号を入力します。 3. 有効期限を入力します。	クレジットカード情報の入力が完了します。
ステップ 6: 住所を入力します。	請求書と搭乗券の送付先住所を入力します。	住所の入力が完了します。
ステップ 7: 購入を完了します。	[Secure Purchase] をクリックします。	購入が完了します。
ステップ 8: ログアウトします。	[Log Out] ボタンをクリックします。	ユーザが Mercury Tours からログアウトします。

3. **テンプレート・テストの呼 び出 し(オプション)**

アプリケーションへのログインなどの，共 通 で使 用される指 示 をテストに含 めるには，共 通 の指 示 が含 まれるテスト内 からテンプレート・テストを呼 び出 すことができます。

> **注 :** テンプレート・テストの作 成 の詳 細 については，「テストを作 成 する方 法 」(388ページ) を参 照 してください。

テンプレート・テストを呼 び出 すには，次 の手 順 で行 います。

a. テンプレート・テストに含 めるテストを選 択 します。

b. [**デザイン ステップ**] タブをクリックします。

c. 既 存 のデザイン・ステップがある場 合 ，テンプレート・テストを呼 び出 すステップを次 から選 択 します。

d. [**テストの呼 び出 し**] をクリックします。

e. [テストを選 択] ダイアログ・ボックスで，呼 び出 すテストを選 択 します。ユーザ・インタフェースの詳 細 については，「[テストを選 択] ダイアログ・ボックス」(457ページ) を参 照 してください。

選 択 したテンプレート・テストへの呼 び出 しが，選 択 したステップの下 に挿 入 されます。テストを実 行 すると，テンプレート・テストのデザイン・ステップがそれに応 じて一 覧 表 示 されます。

4. **自 動 テストの生 成 (オプション)**

手 動 テストにステップを作 成 すると，自 動 テストとしてテストを実 行 するスクリプトの生 成 に利 用 可 能 な，テスト・スクリプト・スケルトンを生 成 できます。

注：

- テスト・ステップを設計する前に自動テストを生成するか，テストを作成するときに自動テスト・タイプを選択できます。
- テストを自動化するかしないかについて考慮すべき事項については，「テストの自動化」(446ページ)を参照してください。
- 自動テスト・タイプの一覧については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。

自動テストを生成するには，次の手順で行います。

[デザイン ステップ]タブで，[**スクリプトの生成**]をクリックして，変換先の自動テスト・タイプを選択します。

手動テストのステップに表示される任意のテキストは，生成されたテスト・スクリプトではコメントとして表示されます。手動テストにパラメータが設定されている場合，パラメータもコメントのテキストとして表示されます。

例：

航空券予約アプリケーションの場合，ログインの仕組みが機能するかどうかを確認するテストを自動化できます。テスト・ステップを追加した後，テスト・スクリプトを作成します。次に，Unified Functional Testing を使用して，自動テスト・スクリプトを完成します。

5. **結果**

追加するデザイン・ステップが，[デザイン ステップ]タブに表示されます。デザイン・ステップをテストに初めて追加する場合，テスト・アイコンの隣のテスト計画ツリーに足跡が表示され，ステップがテスト用に定義されたことを示します。

デザイン・ステップのユーザ・インタフェース

本項の内容

[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス 451
[テスト スクリプト]タブ 456
[テストを選択]ダイアログ・ボックス 457
[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け]ダイアログ・ボックス 458
[条件]タブ 459

[デザイン ステップ]タブ / [デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス

[デザイン ステップ]タブでは，選択したテストのデザイン・ステップを表示して編集することができます。[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスでは，個別のデザイン・ステップを作成して編集できます。

アクセス方法	**[デザイン ステップ]タブ**：テスト計画モジュールで，テスト計画ツリーからテストを選択し，[**デザイン ステップ**]タブをクリックします。 **[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス**：テスト計画モジュールで，テスト計画ツリーからテストを選択し，[**デザイン ステップ**]タブをクリックします。次のいずれかを実行します。 • デザイン・ステップのグリッドを右クリックするか，デザイン・ステップで[**新規ステップ**]を選択します。 • デザイン・ステップを右クリックして[**ステップの編集**]を選択します。
重要な情報	• デザイン・ステップでパラメータ名に書式を適用する場合，同一の書式をパラメータ名全体(`<<<` および `>>>` を含む)にも適用する必要があります。たとえば，`password` パラメータをイタリック体にする場合，`password` という語だけでなく，`<<<password>>>` の文字列全体をイタリック体にする必要があります。 • このタブまたはダイアログ・ボックスのユーザ定義フィールドに指定する文字を2,500個未満にすると，パフォーマンスを向上できます。
関連タスク	「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)
参照情報	「テストの設計の概要」(446ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	デザイン・ステップを通して表示できるようになります。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス
	新規ステップ：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスで新しいデザイン・ステップを作成します。 選択したステップの下に，新しいステップが追加されます。
	ステップの編集：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスで，選択したデザイン・ステップを開きます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	ステップの番号付け替え：デザイン・ステップの番号を順番に付け替えます。ステップの並べ替えをした後にこのコマンドを使用します。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	選択項目の削除：選択したデザイン・ステップを削除します。
	ステップのコピー/ステップの貼り付け：選択されたデザイン・ステップをコピーして，同じプロジェクトまたは別のプロジェクトの別のテストに貼り付けます。コピーしたデザイン・ステップは，選択したステップの上に挿入されます。 デザイン・ステップを別のプロジェクトに貼り付けると，[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け]ダイアログ・ボックス」(458ページ)を参照してください。 **注：** デザイン・ステップ・テストで使用されているパラメータは，ターゲット・テストにコピーされます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	添付：[添付]ページが開きます。添付ファイルを選択したデザイン・ステップに追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。 添付ファイルを追加した後は，デザイン・ステップ・グリッドの適切なデザイン・ステップの隣に アイコンが表示されます。 **注：** 添付ファイルをデザイン・ステップに追加すると，テストが実行されるたびに添付ファイルのコピーが作成されます。

UI 要素	説明
	テストの呼び出し：[テストを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。別の手動テストを呼び出すことができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テストを選択]ダイアログ・ボックス」(457ページ)を参照してください。テストの呼び出しは，新しいデザイン・ステップとして選択したステップの下に挿入されます。 **ヒント：**呼び出し元テストに戻るには，デザイン・ステップ・グリッドの左上隅にある をクリックします。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	スクリプトの生成：テストを，適切な自動テストツールによって実行される自動テストのタイプに変換できます。テストを自動化するかしないかについて考慮すべき事項については，「テストの自動化」(446ページ)を参照してください。 リファレンスの詳細については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。 ALM は，現在のデザイン・ステップに基づいてテスト・スクリプト・スケルトンを生成します。 自動化したテストの隣のテスト・アイコンは，自動テスト・アイコンに置き換えられます。 **注：** • テストを自動化した後は，**手動**のテスト・タイプに変換して戻すことはできません。 • **フロー**以外の自動テスト・タイプについては，このボタンを使用して別のテスト・ツールを選択できます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	パラメータの挿入：[パラメータ]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・パラメータを[**説明**]フィールドまたは[**期待される結果**]フィールドに挿入できます。パラメータはカーソルの位置に挿入されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[パラメータ]タブ / [パラメータ]ダイアログ・ボックス」(438ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	テキストの検索：[デザイン ステップ]タブで，[検索]ダイアログ・ボックスが開き，特定のフィールドでテキストの検索ができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。 **テキストの検索/置換**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックスで，[検索&と置換]ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフィールドで，指定した文字列の検索または置換ができます。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドに表示するカラムと表示の順序を定義できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	行の高さの調整：テスト・ステップの行のサイズを調整します。これにより，テキストが長い場合でも[説明]カラムや[期待される結果]カラムですべてのテキストを表示できるようになります。 **ヒント**：単一ステップのサイズを変更するには，ステップの下にあるグリッドライン上の灰色のサイドバー上にマウスを置きます。カーソルが垂直の矢印に変わります。グリッドラインを上または下にドラッグします。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
	ステップの保存：デザイン・ステップをプロジェクトに保存します。長いテキストを入力する場合は，[**ステップの保存**]ボタンを使用してデータの消失を防止します。
	下に移動/上に移動：選択したデザイン・ステップを，デザイン・ステップ・グリッド内で上または下に移動します。 **ヒント**：または，デザイン・ステップを選択して新しい位置にドラッグできます。
	戻る：現在開かれているテンプレート・テストを呼び出したテストに戻ります。テンプレート・テストへの呼び出しの挿入に関するタスクの詳細については，「テンプレート・テストの呼び出し(オプション)」(449ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ
<デザイン・ステップ・グリッド>	選択したテストに含まれるデザイン・ステップを表示します。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップ]タブ

UI 要素	説明
添付	デザイン・ステップに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス
説明	テスト担当者が実行するための手順。 **注：** • [**説明**]フィールドに含まれるテスト・パラメータは、<<< >>>括弧で囲まれています。 • [**デザイン ステップ**]**タブ**：ステップが別のテストに対する呼び出しの場合、[**説明**]フィールドには、呼び出されたテストへのリンクおよび呼び出されたテストに含まれるパラメータの実際の値が表示されます。呼び出されたテスト・パラメータの実際の値を編集するには、リンクを右クリックし、[**呼び出し先テストのパラメータ**]を選択します。 **ヒント：** • このフィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。 • このフィールドに指定する文字を2,500未満にすると、パフォーマンスを向上できます。
詳細	デザイン・ステップの詳細。必須フィールドは赤で表示されます。 **利用可能な場所**：[デザイン ステップの詳細]ダイアログ・ボックス
期待される結果	ステップの手順を実行した後の期待される状態です。 **ヒント：** • このフィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。 • [**期待される結果**]フィールドに含まれるテスト・パラメータは、<<< >>>括弧で囲まれています。 • このフィールドに指定する文字を2,500未満にすると、パフォーマンスを向上できます。

UI 要素	説明
ステップ名	ステップの名前です。 **標準設定値** : デザイン・ステップの通番です。たとえば，初めてテストにステップを追加する場合は「ステップ 1」となります。 **注 :** ステップが別のテストに対する呼び出しの場合，[**ステップ名**] フィールドには，呼び出し先のテストへのリンクおよび呼び出されたテストに含まれるパラメータの実際の値が表示されます。呼び出されたテスト・パラメータの実際の値を編集するには，リンクを右クリックし，[**呼び出し先テストのパラメータ**] を選択します。

[テスト スクリプト] タブ

このタブには，選択したテストに指定されたテスト・ツールによって実行されるスクリプトが含まれます。

アクセス方法	テスト計画ツリーでテストを選択し，[**テスト スクリプト**] タブをクリックします。 **利用可能な場所** : 自動テスト・タイプ
重要な情報	• システム・テストのユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト スクリプト] タブ - システム・テスト」(490ページ) を参照してください。 • ビジネス・プロセス・テストおよびフローのユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 • [テスト スクリプト] タブは，UFT などの適切なテスト・ツールでデザインされた要素でポピュレートされます。(自動テストを最初に作成したときは，[**起動**] ボタンのみが表示されます。) 詳細については，テスト・ツールのドキュメントを参照してください。 • API テストは，[HP Application Lifecycle Management アドイン] ページから該当するアドインがインストールされている場合にのみ表示できます。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)
参照情報	「テストの自動化」(446ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
起動	適切なテスト・ツールのテスト・スクリプトを表示します。

[テストを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，デザイン・ステップで呼び出す手動テストを選択できます。

アクセス方法	1. テスト計画モジュールで，テスト計画ツリーからテストを選択し，[**デザイン ステップ**]タブをクリックします。 2. 手動テストへの呼び出しを追加するデザイン・ステップを右クリックして，[**テストの呼び出し**]を選択します。
重要な情報	呼び出されたテストにパラメータが含まれている場合，[呼び出し先テストのパラメータ]ダイアログ・ボックスが開き，実際のパラメータ値を設定できます。実際値は，現在のテストから作成されたテスト・インスタンスで標準設定で使用されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[呼び出されたテスト パラメータ]/[テストのパラメータ]ダイアログ・ボックス」(443ページ)を参照してください。
関連タスク	「テスト・ステップの設計方法」(447ページ)
参照情報	「テストの設計の概要」(446ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	エンティティの詳細を表示 : 選択したエンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	更新 : 最新のテストが表示されるように，テスト計画ツリーを更新します。
	フィルタ/ソート : [フィルタ テスト]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト計画ツリーのテストのフィルタ処理とソートを実行できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	検索 : テスト計画ツリーで特定のテストを検索します。 [**検索**]ボックスにテストの名前を入力し，[**検索**]ボタンをクリックします。検索が成功すると，ツリーの中でテストが強調表示されます。[**検索**]ボタンを再度クリックして次に一致するテストを強調表示します。
	ID でテストに移動 : [テストに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID でテストを選択できます。
<テスト計画ツリー>	手動テストを含むテスト計画ツリーのフォルダを表示します。[**テンプレート テストのみを表示**]チェック・ボックスを選択すると，テンプレート・テストが含まれるフォルダのみが表示されます。 ツリーを展開して，呼び出し先となるテストに移動します。

UI 要素	説明
テンプレート・テストのみを表示	ALM がテンプレート・テストのみを表示するようにします。テンプレート・テストでないテストを選択するには，チェック・ボックスをクリアします。

[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，デザイン・ステップを 1 つのプロジェクトのテストから別のプロジェクトのテストにコピーする方法を選択できます。

アクセス方法	1. ソース・プロジェクトで，デザイン・ステップを右クリックして [**コピー**] を選択します。 2. ターゲット・プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。 3. ターゲット・プロジェクトで，コピーしたステップの挿入先のデザイン・ステップを右クリックして，[**貼り付け**] を選択します。
重要な情報	使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが，ソース・プロジェクトとターゲット・プロジェクトで同じである必要があります。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

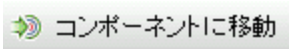
UI 要素	説明
デザイン・ステップをコピーして，既存の関連エンティティへリンク	ALM はデザイン・ステップをコピーし，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたデザイン・ステップは，既存のテストに同じ名前でリンクされます。呼び出されたテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合，ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
デザイン・ステップと関連エンティティをコピー	ALM は，デザイン・ステップおよび呼び出されたテストをコピーし，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。呼び出されたテスト名がターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合，テスト名の重複の解決のため，コピーされた呼び出されたテストの名前が変更されます。
関連エンティティをコピーせずにデザイン・ステップをコピー	ALM は，呼び出されたテストをコピーすることなく，デザイン・ステップをコピーし，ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされたデザイン・ステップは呼び出されたテストにリンクされません。

[条件]タブ

このタブでは，選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示できます。

アクセス方法	テスト計画ツリーでビジネス・プロセス・テストを選択し，[**条件**]タブをクリックします。
重要な情報	**Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
参照情報	「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	更新：条件グリッドを更新します。
	[テスト スクリプト]タブに移動して，選択した要素を強調表示します。
名前	条件の名前。
実行ステータス	条件の現在の実行ステータス。実行ステータスは，次のいずれかになります。Failed，N/A，No Run，Not Completed，Passed。
作成者	条件を作成したユーザの名前。
作成日	条件が作成された日付。標準設定では，条件が作成されたサーバの日付に設定されます。
説明	条件の説明。

第27章: テスト設定

本章の内容

テスト設定の概要 462
テスト設定の使用方法 464
テスト設定のユーザ・インタフェース 470

テスト設定の概要

HP Application Lifecycle Management(ALM)には，テストを実行する際に使用するデータセットを決定できるデータ認識機能が備えられています。これらのデータ認識機能の1つに，テスト設定を定義する機能があります。

テスト設定：

- 「テストの再利用を容易にする」(462ページ)
- 「要件カバレッジを強化する」(462ページ)

テストの再利用を容易にする

テスト設定は実質的にデータをテストから開放し，テストを汎用的にし，テストの再利用を容易にします。テスト設定を使用すると，次のことが可能になります。

- さまざまなテストで共通データ・ソースを共有します。
- データ・セットをその都度変えてさまざまなユースケースをテストします。

例

テスト設定ではテストが使用するデータのサブセットまたは実行時の環境を指定できます。

Windows環境でチェックしたテストをUNIX環境でもテストする必要がある場合には，2つのテスト設定を含む1つのテストを定義できます。Windows用の設定のパラメータ値にはWindows固有の値(たとえば，パス名のバックスラッシュ)が含まれ，UNIX用の設定のパラメータ値にはUNIX固有の値(たとえば，パス名のスラッシュ)が含まれます。

テスト設定にデータを関連付ける方法の概念の詳細については，「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。

要件カバレッジを強化する

テスト設定では，要件カバレッジをより細かく調整できるようになりました。テストのレベルでのみ各要件をカバーするのではなく，特定のテスト設定に要件をリンクできます。

例

同じテストの中で各要件に異なるテスト設定を関連付けることで，1つのテストで複数の要件をカバーできます。

「テスト設定のデータ」(463ページ)も参照してください。

タスクの詳細については，「テスト設定の使用方法」(464ページ)を参照してください。

テスト設定のデータ

HP Application Lifecycle Management(ALM)では，テスト設定を実行する際に使用するデータを決定できます。テスト設定にデータを関連付けるにはいくつかの方法があります。

- 「静的」(463ページ)
- 「動的」(463ページ)

静的

静的データは，ALMからグリッド内に直接データを入力することで，テスト設定に使用されます。

関連付けるデータ量が少ない場合は，静的データを使用します。

静的データをテスト設定に関連付けるタスクの詳細については，「静的データを関連付ける方法」(466ページ)を参照してください。

動的

動的データは，Microsoft Excelの外部ファイルを作成し，それをテスト・リソースとしてALMにアップロードし，さらにそれをテスト設定に関連付けることで，テスト設定に使用されます。

指定するデータが大量にあり，外部ファイル内で管理した方が容易な場合は，動的データを使用します。

> **ヒント：**テストのすべてのテスト設定に対して，標準設定の動的データを指定できます。特定のテスト設定に対する標準設定をオーバーライドすることもできます。

ALMでは，次の動的データ・リソースを使用できます。

- **テスト・レベル**：すべてのパラメータ値を含むMicrosoft Excelファイルをテスト・レベルで使用できます。Microsoft Excelファイルは，テスト・リソース・モジュールでデータ・テーブルとしてアップロードされ，テスト計画モジュールの[パラメータ]タブでテスト設定と関連付けられます。
- **設定レベル(テスト・レベルのデータ・リソースをオーバーライド)**：代わりのMicrosoft Excelファイルを指定して，テストに関連付けられた標準設定のテスト・レベルのデータ・リソース・ファイルをオーバーライドすることができます。Microsoft Excelファイルは，テスト・リソース・モジュールでデータ・テーブルとしてアップロードされ，テスト計画モジュールの[テスト設定]タブでテストの特定の設定と関連付けられます。

動的データをテスト設定に関連付ける方法の詳細については，「動的データを関連付ける方法」(467ページ)を参照してください。

テストのタイプとテスト設定データの関連付け

テストのタイプによって，サポートされるテスト設定データの関連付け方法が異なります。

テストのタイプ	静的	動的
BUSINESS-PROCESS	✓	✓
FLOW	×	×
LR-SCENARIO	×	×
MANUAL	✓	×
PERFORMANCE-TEST	×	×
QAINSPECT_TEST*	✓	✓
QUICKTEST_TEST	×	✓
SERVICE-TEST	×	✓
SYSTEM-TEST*	✓	✓
VAPI-XP-TEST*	✓	✓
VuGenScript	×	×

* ALM 内でこのテストのタイプのテスト設定データを関連付けることができます。ただし，関連付けられた設定データを使用してテストのこのタイプを実行するには，OTA API などの他のツールでテストを実行してください。

テスト設定の使用方法

このタスクでは，テスト設定の使用方法について説明します。

> **注：** テスト設定の使用方法を説明するムービーを表示するには，ALM のメイン・ウィンドウで［**ヘルプ**］＞［**ムービー**］を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(465ページ)
- 「テスト設定の定義」(465ページ)
- 「各テスト設定へのデータの関連付け」(465ページ)
- 「カバレッジの作成 - オプション」(465ページ)
- 「テスト・セットの定義」(465ページ)
- 「テスト結果の表示」(466ページ)

1. **前提条件**

   - テスト・カバレッジをよりきめ細かく調整するためにテスト設定を使用する場合は，要件モジュールで要件を定義します。タスクの詳細については，「要件の作成方法」(260ページ)を参照してください。

   - テスト計画モジュールでテストを定義します。テスト計画モジュールでテストを作成すると，テストと同じ名前のテスト設定が自動的に作成されます。

     テストの作成に関するタスクの詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ)を参照してください。

     テスト・パラメータに関するタスクの詳細については，「テスト・パラメータの使用方法」(436ページ)を参照してください。

2. **テスト設定の定義**

   a. テスト計画ツリーでテストを選択し，[**テスト設定**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト設定]タブ」(470ページ)を参照してください。

   b. テストの設定を作成します。[**新規テスト設定**]ボタンをクリックし，テスト設定の詳細を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(472ページ)を参照してください。

   c. テスト設定を選択し，[**テスト設定の詳細**]ボタンをクリックします。

   d. [**テスト設定の詳細**]ダイアログ・ボックスで，[**データ**]タブをクリックします。テスト・タイプによって[データ]タブに表示されるフィールドが異なります。

3. **各テスト設定へのデータの関連付け**

   テスト・タイプによって，静的データ，動的データ，または静的データと動的データの両方をテスト設定に関連付けることができます。[データ]タブには使用可能なオプションが正確に反映されます。詳細については，「テストのタイプとテスト設定データの関連付け」(463ページ)を参照してください。

   静的データ(ALMのグリッドに直接入力されるデータ)の関連付けに関するタスクの詳細については，「静的データを関連付ける方法」(466ページ)を参照してください。

   動的データ(外部のデータ・テーブル・リソースに保存されているデータ)の関連付けに関するタスクの詳細については，「動的データを関連付ける方法」(467ページ)を参照してください。

4. **カバレッジの作成 - オプション**

   テストまたは特定のテスト設定に対するリンク要件。タスクの詳細については，「カバレッジを作成する方法」(418ページ)を参照してください。

5. **テスト・セットの定義**

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを定義します。テスト・セットには，テストに対して定義された任意またはすべてのテスト設定を含めることができます。または，要件カバレッジに基づいたテスト設定を含めることができます。テスト・セットを実行する場合，パラメータ値は各テスト設定に定義された設定に従って，データ・セットから取得されます。

タスクの詳細については，「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

6. **テスト結果の表示**

   テスト・セットの実行結果を表示します。タスクの詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

静的データを関連付ける方法

このタスクでは，ALM の静的テスト設定の使用方法について説明します。

静的データを定義すると，テストのパラメータ値のセットを ALM 内から直接指定できます。

静的データにアクセスする設定の作成はテスト計画モジュールから，またデータの変更はテスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールから行えます。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「テスト設定の使用方法」(464ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「静的設定の選択」(466ページ)
- 「反復の作成(Business Process Testing)」(466ページ)
- 「パラメータ値の変更」(466ページ)

1. **静的設定の選択**

   テスト計画モジュールの[テスト設定]タブで，[**データ**]タブをクリックします。次に，テスト・タイプが静的データと動的データの両方をサポートしている場合は，[**静的**]を選択します。

   静的設定の[データ]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「[データ]タブ：静的ビュー」(473ページ)を参照してください。

2. **反復の作成(Business Process Testing)**

   Business Process Testing：既存の反復とテスト・パラメータの標準設定値がグリッド内に表示されます。必要に応じて反復を追加または削除します。

   反復のユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3. **パラメータ値の変更**

   既存の反復とテスト・パラメータの標準設定値がグリッド内に表示されます。必要に応じてパラ

メータ値を変更します。

静的なパラメータ値を変更するには，パラメータを選択し，［**実際の値**］フィールドをクリックし，目的のパラメータ値を入力します。

動的データを関連付ける方法

このタスクでは，動的データにアクセスするALMのテスト設定の使用方法について説明します。

動的データを定義すると，テストのパラメータ値のセットを外部のMicrosoft Excelから指定できます。

ヒント： Microsoft Excelファイルは，同じものを別のテストのデータ・リソースとして使用できます。

注：

このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「テスト設定の使用方法」(464ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(467ページ)
- 「Microsoft Excelでのデータ・テーブルの作成」(467ページ)
- 「ALMテスト・リソースの作成」(468ページ)
- 「データ・テーブルのテスト・リソースとテストの関連付け」(469ページ)
- 「テスト・パラメータのリソース・パラメータへのマップ」(469ページ)
- 「反復範囲の選択によるデータのフィルタ処理 - オプション」(469ページ)
- 「代替データ・テーブルとテスト設定の関連付け - オプション」(469ページ)

1. **前提条件**

   UFT自動テストで動的データを使用する場合は，Unified Functional Testing Add-in for Business Process Testingがクライアント・コンピュータにインストールされていることを確認してください。Business Process Testing用のUnified Functional Testingアドインは HP Application Lifecycle Managementの［アドイン］ページ(［**ヘルプ**］＞［**アドイン**］)から利用できます。

2. **Microsoft Excelでのデータ・テーブルの作成**

   このデータ・テーブルには，テスト設定の反復ごとにパラメータ値になる値の行が含まれます。

   a. Microsoft Excelでスプレッドシートを作成します。

   b. ［**Sheet1**］シートを選択します。データをほかのシートに定義しないでください。ALMでは，ほかのシートに入力されたデータは無視されます。

UFT：[**Sheet1**]の代わりに[**グローバル**]シートを選択します。

c. 最初の行でパラメータ名を指定します。このパラメータ名は，テストで定義されたパラメータ名と一致していなくてもかまいません。

d. 各パラメータの値を，パラメータ名の下の別々の行に1つずつ指定します。各行は，反復を表します。

e. ファイルを保存します。

例

	A	B	C
1	Name	Phone	Amount
2	Orville	Bramson	10000
3	Bernadette	Washington	4500
4	Kim	Wang	5000
5	Tom	Smith	43000
6	Barbara	Wilson	15000

3. **ALM テスト・リソースの作成**

ALM で，Microsoft Excel データ・テーブルをテスト・リソースとしてアップロードします。タスクの詳細については，「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)を参照してください。

a. **テスト・リソース**・モジュールを選択します。

b. テスト・リソース・フォルダを作成するか選択します。

c. [**新規リソース**] をクリックして，新しいテスト・リソースを作成します。[新規リソース]ダイアログ・ボックスが開きます。

d. リソース・タイプとして[**Data Table**]と入力し，[**OK**]をクリックします。

e. [**リソース ビューア**]タブをクリックします。

f. [**ファイルのアップロード**]ボタンをクリックします。

g. 作成した Microsoft Excel ファイルを探して選択し，[**開く**]をクリックします。

h. 正しくアップロードされたことが表示されたら，[**OK**]をクリックします。[リソース ビューア]に標準設定の Microsoft Excel シートが表示されます。これで，データを ALM で利用できます。

[**Sheet1**]をダブルクリックすると，作成したデータが表示されます。

注： Microsoft Excel ファイルのデータは，第 2 行から始まります。Microsoft Excel ファイルの最初の行には，データ・カラムの名前が含まれているとみなされ，この名前が ALM のパラメータ名にマップされます。

4. **データ・テーブルのテスト・リソースとテストの関連付け**

   a. テスト計画モジュールのテストの[パラメータ]タブで，ツールバーの[**データ リソース**]フィールドの隣の下向き矢印をクリックします。

   b. データ・リソースを探して選択し，[**OK**]をクリックします。これで，その Microsoft Excel ファイルが，テスト用の標準設定の外部データ・ファイルになります。

5. **テスト・パラメータのリソース・パラメータへのマップ**

   a. テストの[パラメータ]タブで，[**パラメータのマップ**] をクリックします。[パラメータのマップ]ダイアログ・ボックスが表示されます。[パラメータのマップ]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[パラメータのマップ]ダイアログ・ボックス」(482ページ)を参照してください。

   b. 次のいずれかを行います。

      - テスト・パラメータごとに，対応するリソース・パラメータのセルをクリックします。対応するリソース・パラメータを入力または選択し，[**OK**]をクリックします。

      - **Business Process Testing**：[**オートマップ**] をクリックします。ALM は，データ・テーブルの先頭行のカラム見出しに基づいて，テスト・パラメータをリソース・パラメータにそれぞれマッピングします。

ヒント： リソース・パラメータをテスト・パラメータにマップすることで，同じリソース・ファイルを別のテストで容易に再利用できます。

6. **反復範囲の選択によるデータのフィルタ処理 - オプション**

   パラメータ値のサブセットのみでテストを実行するように，行または値でデータをフィルタ処理するには，[**データ リソース設定**]をクリックします。[Data Resource Settings]ダイアログ・ボックスが開きます。[データ リソース設定]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[データ リソース設定]ダイアログ・ボックス」(483ページ)を参照してください。

7. **代替データ・テーブルとテスト設定の関連付け - オプション**

   ビジネス・プロセス・テストに関連付けられている動的データ・リソース・ファイルではなく，別の動的データ・リソース・ファイルを処理する設定を作成できます。

ヒント： ファイルは，同じものを別のテストのデータ・リソースとして使用できます。

a. ［**データ**］タブで［**動的**］を選択します。

b. ［**テスト データ リソースのオーバーライド**］を選択し，代替データ・リソースを指定します。

c. ［**データ リソース設定**］をクリックし，［Data Resource Settings］ダイアログ・ボックスで，テスト・パラメータの名前をリソース・パラメータの名前にマップします。［データ リソース設定］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［データ リソース設定］ダイアログ・ボックス」（483ページ）を参照してください。

テスト設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

［テスト設定］タブ 470
［新規テスト設定］/［テスト設定の詳細］ダイアログ・ボックス 472
［データ］タブ：静的ビュー 473
［データ］タブ：動的ビュー 475
［テスト コンフィグレーション設定］タブ 477
［テスト設定］表示枠 478
［テスト設定ステータス］タブ 479
［テスト設定の生成］ダイアログ・ボックス 480
［パラメータのマップ］ダイアログ・ボックス 482
［データ リソース設定］ダイアログ・ボックス 483

［テスト設定］タブ

このダイアログ・ボックスで，テスト設定を定義して更新できます。

アクセス方法	テスト計画ツリーでテストを選択し，［**テスト設定**］タブをクリックします。
重要な情報	外部データ・テーブル・リソースにアクセスするテスト設定を定義できるテスト・タイプの一覧については，「テスト設定のデータ」（463ページ）を参照してください。 外部のデータ・テーブル・リソースにアクセスするQUICKTEST_TEST（UFT GUIテスト）の使用に関する詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の「ALMを使用した作業」の項を参照してください。
関連タスク	「テスト設定の使用方法」（464ページ）
参照情報	「テスト設定の概要」（462ページ）

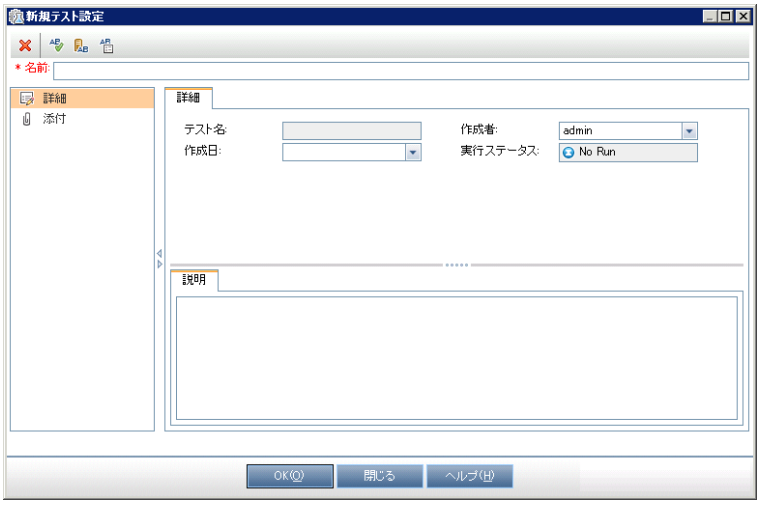
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規テスト設定：[新規テスト設定]ダイアログ・ボックスが開き，テスト設定を定義できます。詳細については，「[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(472ページ)を参照してください。
	テスト設定の削除：選択したテスト設定を，テスト設定グリッドから削除します。
	更新：最新の情報が表示されるように，テスト設定グリッドを更新します。
	テスト設定の詳細：[テスト設定詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したテスト設定の詳細を表示できます。詳細については，「[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(472ページ)を参照してください。
	添付：[テスト設定詳細]ダイアログ・ボックスの[添付ファイル]ページが開き，選択したテスト設定の添付ファイルを表示できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	フィルタの設定：テスト設定グリッドのテスト設定をフィルタ処理してソートすることができます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
名前	テスト設定の名前。
作成者	テスト設定を作成したユーザの名前。
作成日	テスト設定が作成された日付。標準設定では，ALM サーバの現在の日付に設定されます。
実行ステータス	テスト設定の最後の実行のステータス。標準設定では，実行ステータスは次のいずれかになります。[**ブロック済み**]，[**失敗**]，[**N/A**]，[**実行なし**]，[**未完了**]，[**成功**]。
説明	テスト設定の説明。
[データ]タブ	現在選択されているテスト設定に関連付けられたデータの一覧です。詳細については，「[データ]タブ：静的ビュー」(473ページ)および「[データ]タブ：動的ビュー」(475ページ)を参照してください。
[添付]タブ	現在選択されているテスト設定に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
ID	ALM によってテスト設定に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
更新日時	テスト設定に加えられた最新の変更日時。
テスト ID	ALM によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
テスト名	テストの名前。

[新規テスト設定]/[テスト設定の詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，テスト設定を定義して更新できます。



アクセス方法	1. テスト計画ツリーでテストを選択し，[**テスト設定**]タブをクリックします。 2. [**新規テスト設定**]ボタン をクリックします。[新規テスト設定]ダイアログ・ボックスが開きます。
関連タスク	「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ：テスト設定間を移動できます。 **利用可能な場所**：[テスト設定詳細]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：すべてのフィールドをクリア。 **利用可能な場所**：[新規テスト設定]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
標準設定値の使用	**標準設定値の使用**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスでの指定に従って，特定のフィールドに標準設定値が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
標準設定値の設定	**標準設定値の設定**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスを使用して，特定のフィールドに標準設定値を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
名前	新しいテスト設定の名前を表示します。
[詳細]タブ	現在選択されているテスト設定の詳細。利用可能なフィールドの詳細については，「[テスト設定]タブ」(470ページ)を参照してください。
[データ]タブ	現在選択されているテスト設定に関連付けられたデータの一覧です。詳細については，「[データ]タブ：静的ビュー」(473ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト設定詳細]ダイアログ・ボックス
[添付]タブ	現在選択されているテスト設定に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	テスト設定に対して変更が行われた日時と，変更を行ったユーザの名前を表示します。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト設定詳細]ダイアログ・ボックス
[説明]タブ	現在選択されているテスト設定の説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。

[データ]タブ：静的ビュー

このダイアログ・ボックスには，ALM で直接選択したテスト設定に定義されたデータが表示されます。

アクセス方法	テスト計画モジュールの[テスト設定]タブで，[**データ**]タブをクリックして，利用可能な場合[**静的**]を選択します。
重要な情報	[データ]タブで利用可能なオプションやフィールドは，テスト・タイプによって異なります。詳細については，「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。
関連タスク	「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
静的	ALM 内で定義された静的データにアクセスするようにテスト設定を変更します。 **利用可能な条件**：特定のテスト・タイプ。詳細については，「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。
動的	外部の Microsoft Excel データ・リソース・ファイルにアクセスするようにテスト設定を変更します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[データ]タブ：動的ビュー」(475ページ)を参照してください。 **利用可能な条件**：特定のテスト・タイプ。詳細については，「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	実際の値を，現在選択されているパラメータの標準設定値で置き換えます。
	テスト・ラボ・モジュールの選択したテスト設定に関連付けられている，すべてのテスト・インスタンスにまたがる，すべてのまたは選択したパラメータの実際値を更新できます。
使用中	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。
パラメータ名	パラメータの名前。
標準設定値	テスト・レベルで定義された，パラメータの標準設定値。
実際の値	テスト実行中にパラメータに使用される実際の値。

UI 要素	説明
ソース・テスト	パラメータを作成したテスト。 **利用対象**： • **MANUAL** • **QAINSPECT-TEST** • **SYSTEM-TEST** • **VAPI-XP-TEST**
＜反復ページ＞ 共通要素	**Business Process Testing**：反復の追加，反復の削除，各反復のパラメータ値の変更，ビジネス・プロセス・テストで実行する反復範囲の選択ができます。また，パラメータ値のインポートとエクスポートを行うことができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 **利用可能な対象**：ビジネス・プロセス・テスト

[データ] タブ：動的ビュー

このタブでは，動的データ(ALM 以外の外部データ・リソースに存在するデータ) にアクセスするテスト設定を変更できます。

アクセス方法	次のいずれかを行います。 • テスト計画モジュールの[テスト設定]タブで，[**データ**]タブをクリックして，利用可能な場合に[**動的**]を選択します。 • テスト・ラボ・モジュールの[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスにある，動的データにアクセスするビジネス・プロセス・テスト設定および UFT テスト設定の実行設定ビューで，[**データ**]タブをクリックします。
重要な情報	• [データ]タブで利用可能なオプションやフィールドは，テスト・タイプによって異なります。 • 標準設定では，使用されるデータ・リソースは，テストの[パラメータ]タブで指定したデータ・リソースです。この設定は，[データ]タブで別のデータ・リソースを指定することでオーバーライドできます。 • [テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスの実行設定ビューからアクセスした場合，このタブの内容は読み取り専用になります。
関連タスク	「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	「テスト設定の概要」(462ページ) 「テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー」(589ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
静的	ALM 内で定義された静的データにアクセスするようにテスト設定を変更します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[データ]タブ：静的ビュー」(473ページ)を参照してください。 **利用可能な条件**：特定のテスト・タイプ。詳細については、「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。
動的	外部の Microsoft Excel データ・リソース・ファイルにアクセスするようにテスト設定を変更します。 **利用可能な条件**：特定のテスト・タイプ。詳細については、「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。
テスト・データ・リソースのオーバーライド	テスト・レベルで指定されている動的データ・リソースを、設定レベルのデータ・リソースでオーバーライドすることを指定します。 **利用可能な場所**：[テスト設定]タブ
データ・リソース	テスト・レベルで指定されているデータ・リソースをオーバーライドするデータ・リソースの名前を入力できます。 **利用可能な場所**：[テスト設定]タブで[**テスト データ リソースのオーバーライド**]が選択されている場合
	データ・リソースに移動します。テスト・リソース・モジュールでリソースを開きます。 **利用可能条件**：別のデータ・リソースが[**データ リソース**]フィールドで指定されている場合
	リソース・プレビュー：テスト・リソースに対するアセット・ビューアのテスト設定リソース・プレビューが開きます。これにより、外部データ・リソースで定義されたデータ(テスト設定で利用可能なすべてのデータ)を見ることができます。 **利用可能条件**：別のデータ・リソースが[**データ リソース**]フィールドで指定されている場合

UI 要素	説明
	フィルタ済みリソース・プレビュー：テスト・リソースのデータ・ビューアが開きます。これにより，フィルタ条件と一致する外部データ・ソースの動的データ(テスト設定の実行時に使用されるデータ)を見ることができます。 **フィルタ**：フィルタの名前。 **行フィルタ**：[データリソース設定]ダイアログ・ボックスで定義された行(すべての行または選択された行)。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[データリソース設定]ダイアログ・ボックス」(483ページ)を参照してください。 **マップされたカラムのみを表示**：選択すると，テスト・パラメータにマップされたデータのみが表示されます。 **＜見出し＞**：グリッドのカラムの見出し。パラメータ・マッピングも表示されます。 **＜グリッド＞**：フィルタ条件と一致するデータの行。 **利用可能な場所**：：[テスト設定]タブ(別のデータ・リソースが[**データリソース**]フィールドで指定されている場合)
データリソース設定	[データリソース設定]ダイアログ・ボックスが開き，テスト設定の実行時の反復範囲を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[データリソース設定]ダイアログ・ボックス」(483ページ)を参照してください。 **利用可能条件**：別のデータ・リソースが[**データリソース**]フィールドで指定されている場合

[テスト コンフィグレーション設定]タブ

このタブでは，要件カバレッジに関連付けられたテスト設定を表示します。

アクセス方法	1. **テスト計画**モジュールで，**テスト計画ツリー**・ビューを選択します。 2. テストを選択して[**要件カバレッジ**]タブをクリックします。 3. [**要件の選択**]ボタンをクリックします。 4. [要件ツリー]表示枠で，[**カバレッジに追加**]をクリックして要件カバレッジを指定したテストに追加します。要件カバレッジが，要件カバレッジ・グリッドに追加されます。[テスト コンフィグレーション設定]タブは，[要件カバレッジ]タブの下部に表示されます。
重要な情報	このタブは，カバレッジが作成済みの場合のみ表示されます。

関連タスク	• 「カバレッジを作成する方法」(418ページ) • 「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	• 「[要件カバレッジ]タブ」(421ページ) • 「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	設定の追加：[設定カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。選択した要件を対象とするテスト設定のリストに設定を追加できます。
	設定の削除：選択した要件を対象とするテスト設定のリストから，選択した設定を削除します。
	更新：テスト設定グリッドを更新します。
名前	テスト設定の名前。
説明	テスト設定の説明。

[テスト設定]表示枠

この表示枠には，選択したテストのテスト設定が一覧表示されます。

アクセス方法	要件モジュールから， 1. [**表示**]＞[**要件の詳細**]を選択します。要件を選択して[**テスト カバレッジ**]タブをクリックします。 2. [**選択**]ボタンをクリックします。テスト計画ツリーと[テスト設定]表示枠が表示されます。 テスト・ラボ・モジュールから， 1. [**テスト セット**]タブを選択します。テストを選択して[**実行グリッド**]タブまたは[**実行フロー**]タブをクリックします。 2. [**テストを選択**]ボタンをクリックします。[テスト計画ツリー]タブと[テスト設定]表示枠が表示されます。
関連タスク	• 「カバレッジを作成する方法」(418ページ) • 「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	• 「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ) • 「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	カバレッジにテスト設定を追加：選択したテスト設定を使用するテスト・インスタンスを，要件のテスト・カバレッジに追加します。 **テスト・セットにテスト設定を追加**：選択したテスト設定を使用するテスト・インスタンスを，テスト・セットに追加します。 **Business Process Testing**：ビジネス・プロセス・テストのテスト設定を含めると，[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[条件カバレッジの追加]ダイアログ・ボックス」(434ページ)を参照してください。
	すべて更新：テスト設定グリッドを更新します。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，テスト設定グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定：グリッドのテスト設定をフィルタ処理してソートします。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
説明	テスト設定の説明。
ID	ALM によってテスト設定に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
テスト ID	ALM によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
更新日時	テスト設定に加えられた最新の変更日時。
作成日	テストが作成された日付。標準設定では，ALM サーバの現在の日付に設定されます。
実行ステータス	テスト設定の最後の実行のステータス。標準設定では，実行ステータスは次のいずれかになります。[**ブロック済み**]，[**失敗**]，[**N/A**]，[**実行なし**]，[**未完了**]，[**成功**]。
名前	テスト設定の名前。
テスト名	テストの名前。
作成者	テスト設定を作成したユーザの名前。

[テスト設定ステータス]タブ

このタブでは，要件カバレッジに関連付けられたテスト設定のステータスを表示します。

アクセス方法	1. **要件**モジュールで，**要件の詳細**ビューを選択します。要件を選択して[**テストカバレッジ**]タブをクリックします。 2. [**選択**]ボタンをクリックします。テスト計画ツリーと[テスト設定]表示枠が，[テスト カバレッジ]タブの右側に表示されます。 3. [**カバレッジへ追加**]をクリックしてテスト・カバレッジを追加します。テスト・カバレッジが，テスト・カバレッジ・グリッドに追加されます。[テスト設定ステータス]タブが，[テスト カバレッジ]タブの下部に表示されます。
関連タスク	• 「カバレッジを作成する方法」(418ページ) • 「テスト設定の使用方法」(464ページ)
参照情報	• 「[テスト カバレッジ]ページ」(428ページ) • 「テスト設定の概要」(462ページ) • 「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	設定の削除：選択した要件を対象とするために使用される設定のリストから，選択した設定を削除します。
	すべて更新：設定ステータス・グリッドを更新します。
名前	テスト設定の名前。
説明	テスト設定の説明。
ステータス	テスト設定の現在のテスト実行ステータス。標準設定では，ステータスは次のいずれかになります。**ブロック**，**失敗**，**N/A**，**実行なし**，**未完了**，**成功**。 **Business Process Testing**：テスト設定の条件のステータスを表示するには，そのステータスの値をクリックします。[条件のステータス]ダイアログ・ボックスが開きます。

[テスト設定の生成]ダイアログ・ボックス

ALM の以前のバージョンからアップグレードした後は，このダイアログ・ボックスで既存のテスト・インスタンスからテスト設定を作成できます。

アクセス方法	1. テスト・ラボ・モジュールで，［**テスト セット**］タブを選択します。 2. テスト・セットを選択して，［**実行グリッド**］タブをクリックします。 3. グリッドでテスト・インスタンスを右クリックし，［**テスト設定の生成**］を選択します。
重要な情報	Quality Center の以前のバージョンからアップグレードした後，ALM ユーザはテスト設定を一度生成します。 **注意：**このオプションは，テストの移行にのみ使用します。新しいテストや移行済みのテストについては，このオプションを使用しないでください。 • **ALM**：テスト・インスタンスからテスト設定を生成する場合，ALM は次の操作を実行します。 ▪ 生成したテスト設定にテスト・インスタンスを関連付ける。 ▪ 生成したテスト設定にテスト・インスタンスの実行を関連付ける。 ▪ 生成したテスト設定にテスト・インスタンスのリンク（たとえば，テスト，要件）を関連付ける。 ▪ 生成したテスト設定ステータスを，テスト・インスタンスのステータスと同じになるように設定する。 ▪ テスト・インスタンスのパラメータの値を，生成したテスト設定にコピーする。 • **Business Process Testing**：［**テスト設定の生成**］オプションは，変更され，元の設定と一致しなくなったビジネス・プロセス・テスト設定インスタンスでのみ有効です（このオプションは動的データにアクセスする設定では利用できません）。
関連タスク	• 「カバレッジを作成する方法」（418ページ） • 「テスト設定の使用方法」（464ページ）
参照情報	• 「［テスト カバレッジ］ページ」（428ページ） • 「テスト設定の概要」（462ページ）

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
新規テスト設定名	生成したテスト設定の名前。

[パラメータのマップ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，外部データ・リソースのデータと，テストのテスト設定のパラメータを関連付けることができます。

アクセス方法	テスト計画モジュールで，テストの[パラメータ]タブにある[**パラメータのマップ**]をクリックします。
重要な情報	テスト・パラメータを外部データに手動でマップします。 **Business Process Testing**：パラメータを外部データに自動的にマップすることもできます。
関連タスク	「動的データを関連付ける方法」(467ページ)
参照情報	「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Business Process Testing：マップされていない各テスト・パラメータを，外部データのテーブル・リソース内の1つのパラメータ(同じ名前のカラム見出し)に自動的にマップします。 自動的にマップするには，外部データのテーブル・リソースのカラムの見出しがテスト・パラメータ名と一致する必要があります。 マッピングでは大文字と小文字は区別されません。 外部データのテーブル・リソースのパラメータの順序がテストのパラメータの順序と一致する必要はありません。 **注：** パラメータがすでにマップ済みの場合，このオートマップ操作によってマッピングがリセットされることはありません。
テスト・パラメータ名	テストで定義されているテスト・パラメータの名前。
リソース・パラメータ名	外部データのテーブル・リソースに定義されているカラムの見出しの名前。 **ヒント：** ビジネス・プロセス・テストでは，ドロップダウン・リストからカラムの見出しを選択できます。リソース・パラメータ名をクリアするには，ドロップダウン・リストで空白行を選択します。

UI 要素	説明
マッピング・ステータス	**Business Process Testing**：テスト・パラメータが外部データ・テーブル・リソースのパラメータ(カラム)にマップされているかどうかを示すステータス。 • **割り当てなし**：テスト・パラメータは外部データ・テーブル・リソースのパラメータに関連付けられていません。 • **割り当て済み**：テスト・パラメータは外部データ・テーブル・リソースのパラメータに関連付けられています。

[データリソース設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，次のことが可能です。

- 動的データにアクセスする設定を操作する場合に，テストの実行時に使用するパラメータ値のサブセット(反復範囲)を定義します。
- テスト・パラメータ名を代替データ・リソースのパラメータ名にマップして，テストに関連付けられている標準設定のデータ・リソースをオーバーライドする際にも使用します。

アクセス方法	テスト計画モジュールの[テスト設定]タブで，フィルタ処理の対象とする動的構成を選択します。ウィンドウの下部近くの[**データ**]タブをクリックし，[**データリソース設定**]をクリックします。
重要な情報	• パラメータ値のフィルタ処理は，フィルタ条件と特定の行を指定して実行できます。フィルタ条件と指定行の両方に一致した値のみが処理されます。 • テスト・パラメータ名を代替データ・リソースのパラメータ名にマップする場合，[**テスト パラメータ名**]カラムに表示されているパラメータごとに，[**リソース パラメータ名**]カラムのセルをクリックし，Microsoft Excel ファイルの対応するリソース・パラメータの名前を入力します。
関連タスク	「動的データを関連付ける方法」(467ページ)
参照情報	「テスト設定の概要」(462ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	Business Process Testing：マップされていない各テスト・パラメータを，外部データのテーブル・リソース内の1つのパラメータ(同じ名前のカラム見出し)に自動的にマップします。 自動的にマップするには，外部データのテーブル・リソースのカラムの見出しがテスト・パラメータ名と一致する必要があります。 マッピングでは大文字と小文字は区別されません。 外部データのテーブル・リソースのパラメータの順序がテストのパラメータの順序と一致する必要はありません。 **注：** パラメータがすでにマップ済みの場合，このオートマップ操作によってマッピングがリセットされることはありません。
	Business Process Testing： **フィルタ済みリソース・プレビュー**：テスト・リソースのデータ・ビューアが開きます。これにより，フィルタ条件と一致する外部データ・ソースの動的データ(テスト設定の実行時に使用されるデータ)を見ることができます。 **フィルタ**：フィルタの名前。 **行フィルタ**：すべての行または選択されている行。 **マップされたカラムのみを表示**：選択すると，テスト・パラメータにマップされたデータのみが表示されます。 **＜見出し＞**：グリッドのカラムの見出し。パラメータ・マッピングも表示されます。 **＜グリッド＞**：フィルタ条件と一致するデータの行。
テスト・パラメータ名	テストで定義されているテスト・パラメータの名前。
リソース・パラメータ名	データ・リソースに定義されているテスト・パラメータの名前。
マッピング・ステータス	**Business Process Testing**：テスト・パラメータが外部データ・テーブル・リソースのパラメータ(カラム)にマップされているかどうかを示すステータス。 • **割り当てなし**：テスト・パラメータは外部データ・テーブル・リソースのパラメータに関連付けられていません。 • **割り当て済み**：テスト・パラメータは外部データ・テーブル・リソースのパラメータに関連付けられています。

UI 要素	説明
フィルタ条件	データ・リソースのデータ行を除外する条件。テストは，除外されたデータ行に対しては実行されません。 次のガイドラインに従ってフィルタを指定します。 • 指定できるのは，文字列のみです。 • 引用符や演算子は指定しないでください。 • 指定できる値は1つのみです。 • フィルタでは大文字と小文字を区別します。
すべての行	指定するフィルタ条件を満足する行がデータ・リソース・ファイル内にある場合に，そのすべての行を処理するには，［**すべての行**］を選択します。
行	行のサブセットを指定するには，［**行**］を選択し，行番号をコンマで区切って入力します。行の範囲は，ハイフンを使って指定できます(たとえば，3-5であれば，行3，4，5が処理されます)。

第28章: システム・テスト

本章の内容

システム・テストの概要 488
システム・テストの作成方法 488
システム・テストのユーザ・インタフェース 489

システム・テストの概要

システム・テストでは，マシンのシステム情報の取得，テスト実行でキャプチャしたデスクトップ画像の表示，マシンの再起動を実行できます。たとえば，自動テストが失敗したときにマシンを再起動する，システム・クリーンアップ・テストを実行できます。また，システム・テストを作成し，テスト実行の前後にマシンのリソース使用率に関する情報を取得できます。

システム・テストを作成するには，システム・テストをテスト・サブジェクト・フォルダに追加してテストを定義し，そのテストをテスト・セットに追加します。

注： システム・テストを実行するには，テストを実行するマシンに次のツール・アドインをインストールする必要があります。

- HP ALM システム・テストのリモート・エージェント・アドイン
- HP ALM 接続アドイン

HP Application Lifecycle Management(ALM) アドインの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

システム・テストの実行時に，次のステップを作成できます。

- **SysInfo**：システム情報の集合
- **スナップショット**：デスクトップ画像のキャプチャ
- **Reboot Start** と **Reboot Finish**：マシンの再起動

システム・テストの実行後，上記の各ステップの詳細を表示できます。また，CPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなど，取得されたシステム情報やシステム・テストを実行したときのマシンの画像も表示できます。

タスクの詳細については，「システム・テストの作成方法」(488ページ) を参照してください。

システム・テストの作成方法

このタスクでは，マシンのシステム情報の取得，デスクトップの画像のキャプチャ，マシンの再起動といった処理を ALM に指示する，システム・テストの作成方法および実行方法を説明します。

注： このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」(382ページ) を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(489ページ)
- 「システム・テストの作成」(489ページ)

- 「システム・テストの設定」(489ページ)
- 「システム・テストの実行」(489ページ)

1. **前提条件**

   テスト・サブジェクトは，テスト計画ツリーで定義されます。

   テスト・サブジェクトの作成に関する詳細は，「テストを作成する方法」(388ページ) のステップ「テスト・サブジェクトを作成する」を参照してください。

2. **システム・テストの作成**

   システム・テストをサブジェクト・フォルダに作成します。

   a. テスト計画ツリー・ビューでテスト・サブジェクトを右クリックし，[**新規テスト**]を選択します。

   b. [新規テスト]ダイアログ・ボックスで，[**タイプ**]フィールドの[**SYSTEM-TEST**]を選択します。

   c. [新規テスト]ダイアログ・ボックスのほかのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト]ダイアログ・ボックス」(412ページ) を参照してください。

   新しいテストが，システム・テスト・アイコンとともに，選択したサブジェクト・フォルダの下のテスト計画ツリーに追加されます。

3. **システム・テストの設定**

   システム・テストが実行する操作を選択します。

   a. テスト計画ツリーで，システム・テストを選択します。

   b. [**テスト スクリプト**]タブをクリックし，システム・テスト設定を行います。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト スクリプト]タブ - システム・テスト」(490ページ) を参照してください。

4. **システム・テストの実行**

   テスト・ラボ・モジュールでシステム・テストを実行します。テストの実行の詳細については，「ALMでテストを実行する方法」(536ページ) を参照してください。

システム・テストのユーザ・インタフェース

本項の内容

[テスト スクリプト]タブ - システム・テスト 490

[テスト スクリプト]タブ - システム・テスト

このタブでは，システム・テストの設定を定義できます。

アクセス方法	テスト計画ツリーでシステム・テストを選択し，[**テスト スクリプト**]タブをクリックします。
関連タスク	「システム・テストの作成方法」(488ページ)
参照情報	「システム・テストの概要」(488ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	システム・テスト設定の保存。
システム情報の収集	テストの実行時に，ALM がCPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなどのシステム情報を収集するようにします。
デスクトップ画像をキャプチャ	テストの実行時に，ALM がマシンのデスクトップのスナップショットを表示する添付ファイルを追加するようにします。
コンピュータを再起動	テストの実行時にALM がマシンを再起動するようにします。 **注:** • [**コンピュータを再起動**]オプションを使用するには，そのマシンで自動ログインを有効にする必要があります。[**スタート**]＞[**プログラム**]＞[**HP ALM SystemTest Agent**]＞[**SystemTest Agent (configuration)**]を選択します。[自動再起動設定]ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では，[**ユーザ名**]および[**ドメイン**]は読み取り専用です。パスワードを入力します。 • 別のユーザ名を選択するには，[自動再起動設定]ダイアログ・ボックスを開き直します。[**ユーザ名**]および[**ドメイン**]は読み取り専用ではなくなります。値を変更します。

第29章: テスト・リソース

本章の内容

テスト・リソースの概要 492
テスト・リソースの使用方法 493
テスト・リソースのユーザ・インタフェース 494

テスト・リソースの概要

テスト・リソース・モジュールを使用して，テストで使用するリソースを管理できます。リソース・フォルダやリソースを含む階層構造の**テスト・リソース・ツリー**を定義することで，リソースを整理できます。ツリー内の各リソースに対して，リソース・ファイルのセットを選択し，HP Application Lifecycle Management (ALM) リポジトリへアップロードします。これらのファイルは1つまたは複数のテストで利用できます。

そして，リソースとテストの間に依存関係を定義できます。依存関係の詳細については，「エンティティの依存関係の概要」(492ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)を参照してください。

例

QAテスト担当者のMichaelが，ALMにテストを格納する外部のテスト・ツールを使用するとします。各テストは多くのテストに共通な共有設定ファイルを使用します。したがって，各テストごとにそれぞれファイルのコピーを保存するのではなく，構成ファイルを1か所で保守したいと考えます。

Michaelはテスト・ツールを使用して，構成ファイルをリソースとして定義し，構成ファイルを使用する各テストをこのリソースに依存すると定義します。ALMに存在するリソースのコピーは1つだけなので，構成ファイルに依存するすべてのテストに対して構成ファイルの置き換えが行われます。

Michaelが依存関係を定義すると，彼がリソースの削除を試みた場合，ALMにより，該当のリソースに依存するテストに影響を与える可能性があることが警告されます。さらに，リソースに依存するテストのいずれかをプロジェクト間でコピーする場合，ALMではテストと一緒にリソースもコピーするかどうかを選択できます。

エンティティの依存関係の概要

依存関係では，テスト，コンポーネント，テスト・リソースなどのエンティティ間の関係を定義します。特定のエンティティに予定されている変更の影響を分析すると，変更が影響する可能性のあるほかのエンティティが依存関係によって示されます。たとえば，エンティティを削除またはコピーする前に依存関係を表示することができます。

依存関係は[依存関係]タブに表示されます。このタブはテスト計画モジュール，ビジネス・コンポーネント・モジュール，テスト・リソース・モジュールから利用できます。選択したエンティティで使用されているエンティティ，および選択したエンティティが使用しているエンティティを表示できます。

たとえばUnified Functional Testingなどのほかの HP テスト・ツールを使用して，エンティティ間の依存関係を定義できます。詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

独自のアプリケーションを作成して，エンティティ間の依存関係を定義することもできます。詳細については，『ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

テスト・リソースの使用方法

このタスクでは，テスト・リソース・モジュールで，テスト・リソースを管理する方法について説明します。テスト・リソース・ツリーを作成し，リソースをアップロードおよびダウンロードして，リソースとテストなどのほかのエンティティの間の依存関係を定義します。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを計画する方法」(382ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(493ページ)
- 「リソースの作成」(493ページ)
- 「リソース・ファイルのアップロード」(493ページ)
- 「リソース・ファイルのダウンロード」(494ページ)
- 「依存関係の定義」(494ページ)
- 「依存関係の表示」(494ページ)

1. **前提条件**

   UFT リソースの使用方法の詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の「ALMを使用した作業」の項を参照してください。

2. **リソースの作成**

   a. **テスト・リソース・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの，［**テスト**］の下の［**テスト リソース**］を選択します。

   b. **フォルダを作成します。**［**Resources**］ルート・フォルダを右クリックして［**新規リソース フォルダ**］を選択します。サブフォルダを作成するには，フォルダを右クリックして［**新規リソース フォルダ**］を選択します。

   c. **フォルダにリソースを追加します。** フォルダまたはサブフォルダを右クリックして［**新規リソース**］を選択します。［新規リソース］ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［新規リソース］/［リソース詳細］ダイアログ・ボックス」(505ページ)を参照してください。

3. **リソース・ファイルのアップロード**

   テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。

   テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し，［**リソース ビューア**］タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［リソースビューア］タブ」(502ページ)を参照してください。

Business Process Testing: アプリケーション領域で作業する場合は，[**アプリケーション領域ビューア**] タブでテスト・ツールを起動して，リソースで作業します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[アプリケーション領域ビューア] タブ」(503ページ) を参照してください。

4. **リソース・ファイルのダウンロード**

   テスト・リソースをローカル・ディレクトリにダウンロードすると，それらの表示や編集ができます。

   テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し，[**リソース ビューア**] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リソース ビューア] タブ」(502ページ) を参照してください。

5. **依存関係の定義**

   たとえば UFT などのテスト・ツールから，エンティティ間の依存関係を定義できます。詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

   独自のアプリケーションを作成して，エンティティ間の依存関係を定義することもできます。詳細については，『HP ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

6. **依存関係の表示**

   テスト，コンポーネント，テスト・リソースなどのエンティティ間の関係が表示されます。選択したエンティティに依存しているエンティティ，および選択したエンティティが依存しているエンティティを表示できます。

   リソース (テスト・リソース・モジュール)，テスト (テスト計画モジュール) またはコンポーネント (ビジネス・コンポーネント・モジュール) を選択して，[**依存関係**] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[依存関係] タブ」(503ページ) を参照してください。

テスト・リソースのユーザ・インタフェース

本項の内容

テスト・リソース・モジュールのウィンドウ 495
テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン 496
テスト・リソース・モジュールのアイコン 498
テスト・リソース・モジュールのフィールド 501
[リソース ビューア] タブ 502
[アプリケーション領域ビューア] タブ 503
[依存関係] タブ 503
[新規リソース]/[リソース詳細] ダイアログ・ボックス 505
[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス 506

テスト・リソース・モジュールのウィンドウ

このウィンドウでは，テストで使用するリソースを管理できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト リソース**]を選択します。
重要な情報	• **UFT**：UFT リソースの使用方法の詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の「ALM の使用方法」の項を参照してください。 • **Business Process Testing**：Business Process Testing を使用した ALM プロジェクトが UFT に接続されている場合，ツリーに **BPT Resources** フォルダが自動的に作成されます。BPT Resources フォルダには，プロジェクトのビジネス・コンポーネントで利用可能なすべての UFT リソースが含まれます。Business Process Testing アプリケーション領域の詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 • **Performance Center**：Performance Center リソースの使用の詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<テスト・リソース・モジュールの共通の UI 要素>	• **テスト・リソース・フィールド**：フィールドの定義については，「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(501ページ) を参照してください。 • **テスト・リソースのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン」(496ページ) を参照してください。 • **テスト・リソースのアイコン**：アイコンの説明については，「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(498ページ) を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ) を参照してください。
<テスト・リソース・ツリー>	テスト・リソースを視覚的に表したものです。 **注：**プロジェクトで Sprinter を手動テストで使用する場合，**Sprinter**フォルダには，**リソース**フォルダに追加されます。このフォルダには，各 Sprinter ユーザのサブフォルダが含まれ，ユーザ情報を格納するのに使用されます。**注意：Sprinter** フォルダは Sprinter によってのみ管理されます。フォルダまたはサブフォルダに変更を加えないでください。詳細については，『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
[詳細]タブ	現在選択されているリソース・フォルダまたはリソースの詳細が表示されます。詳細については,「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(501ページ)を参照してください。
[リソースビューア]タブ	ALM リポジトリに対して,テスト・リソース・ファイルのアップロードおよびダウンロードができます。詳細については,「[リソースビューア]タブ」(502ページ)を参照してください。 **注:** リソースによっては,アプリケーション領域リソースのように異なるビューア・タブを持つものがあります。そのビューア・タブの詳細については,「[アプリケーション領域ビューア]タブ」(503ページ)を参照してください。
[依存関係]タブ	テスト・リソース,コンポーネント,テストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については,「[依存関係]タブ」(503ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	テスト・リソースが含まれているベースラインの履歴も表示されます。また,2 つのベースラインのバージョンの比較もできます。 バージョン管理 : テスト・リソースの以前のバージョンをすべて表示することができます。 詳細については,「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。
[モニタの設定]タブ	**Performance Center**:Performance Center モニタのプロファイルを設定できます。詳細については,『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン

本項では,テスト・リソース・モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で,[**テスト リソース**]を選択します。
重要な情報	**ヒント:** テスト・リソース・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには,ショートカット・キー ALT を押します。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	• 「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(495ページ) • 「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(498ページ) • 「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
折りたたみ	表示	テスト・リソース・ツリーのすべての分岐を折りたたみます。
URL のコピー/貼り付け	編集	選択したリソースをコピーして，その URL をリンクとして貼り付けます。リソース自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALM が起動し，リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
コピー/貼り付け	編集	同じプロジェクト内，またはプロジェクト間で，選択したリソースまたはフォルダをコピーできます。 **注 :** • リソースを 1 つのプロジェクトから別のプロジェクトにコピーする場合に，そのリソースが別のテスト・リソースに依存していると，ALM に対して 3 つの方法から 1 つを使用してコピーするよう指示できます。詳細については，「[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(506ページ) を参照してください。 • プロジェクト間でリソースをコピーするには，使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。
削除	編集	テスト・リソース・ツリーから，選択したリソースやフォルダを削除します。 リソースにほかのエンティティが依存している場合，[リソースの削除] ダイアログ・ボックスが開きます。関連エンティティが表示されます。 **注意 :** リソースにほかのエンティティが依存している場合，リソースを削除するとこれらの関連エンティティに影響を与える可能性があります。関連エンティティは[依存関係] タブで表示できます。詳細については，「[依存関係] タブ」(503ページ) を参照してください。 バージョン管理 : リソースを削除すると，以前のバージョンのリソースがすべて削除されます。
フィルタ	表示	テスト・リソース・ツリー内のリソースをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
すべて展開	表示	テスト・リソース・ツリーのすべての分岐を展開します。

UI 要素	メニュー	説明
切り取り/貼り付け	編集	選択したリソースを，テスト・リソース・ツリーの別の場所に移動します。 **注 :** ルート・フォルダは移動できません。 **ヒント :** ドラッグ操作により，リソースをテスト・リソース・ツリー内の新しい場所に移動することもできます。
検索	編集	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，テスト・リソース・ツリーでリソースを検索できます。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
新規リソース	リソース	[新規リソース]ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにリソースを追加できます。詳細については，「[新規リソース]/[リソース詳細]ダイアログ・ボックス」(505ページ)を参照してください。
新規リソース・フォルダ	リソース	[新規リソースフォルダ]ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。
電子メールで送信	リソース	[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にリソースを電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，テスト・リソース・ツリーを更新します。
名前の変更	編集	選択したリソースまたはフォルダの名前を変更します。

テスト・リソース・モジュールのアイコン

本項では，テスト・リソース・モジュールで利用可能なアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト リソース**]を選択します。
重要な情報	ALM のエディション : エディションによっては，利用できないリソースのタイプもあります。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)

参照情報	• 「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(495ページ) • 「テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン」(496ページ) • 「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	アナリシス・テンプレート : パフォーマンス・テストの分析レポート用のテンプレートが含まれます。 Analysis テンプレートの詳細については,『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
	アプリケーション領域 : 以下のコンテンツを作成するのに必要なすべての設定およびリソースが含まれています。 • UFTGUI テスト用 • 自動の GUI ファセットを持つビジネス・コンポーネントを含めたビジネス・プロセス・テストまたはフロー アプリケーション領域の詳細については,『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	データ・テーブル: 以下の実行ステップの実行に使用されるデータが含まれています。 • テスト設定 • UFT GUI テストおよび API テスト UFT のデータ・テーブルの詳細については,『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 テスト設定のデータ・テーブルの使用に関するタスクの詳細については,「テスト設定の使用方法」(464ページ) を参照してください。
	環境変数 : 以下からアクセス可能な変数と対応する値が含まれています。 • UFTGUI テスト用 • 自動の GUI ファセットを持つビジネス・コンポーネントを含めたビジネス・プロセス・テストまたはフロー 環境変数の詳細については,『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	関数ライブラリ: 以下で使用する，Visual Basic のスクリプト関数，サブルーチン，モジュールが含まれています。 • UFTGUI テスト用 • 自動の GUI ファセットを持つビジネス・コンポーネントを含めたビジネス・プロセス・テストまたはフロー 関数ライブラリの詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	回復シナリオ: 予期しないイベントの定義および UFT 実行セッションを回復するのに必要な操作を含めたシナリオが含まれています。回復シナリオの詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』参照してください。
	API テストの共有リソース: 以下とともに ALM で使用するためにインポートされたサービスが含まれています。 • HP Service Test および UFT で作成された API テスト。 • API テスト用に自動化されるビジネス・コンポーネントを含めたビジネス・プロセス・テストまたはフロー 共有サービスの詳細については，『HP Service Test User Guide』または『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』の API テストについての情報のアクティビティの共有に関する情報を参照してください。
	共有オブジェクト・リポジトリ: UFT でアプリケーション内のオブジェクトを識別するための情報が含まれています。UFT では，テスト・オブジェクトに関するすべての情報を共有オブジェクト・リポジトリに格納することで，テストの再利用を維持できます。共有オブジェクト・リポジトリの詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	テスト・リソースすべてのテスト・タイプで使用する一般的なテスト・リソース・タイプです。
	ファイアウォールをまたがったモニタ: ファイアウォールをまたがって配置されているサーバに対する Performance Center のモニタ設定が含まれています。ファイアウォールをまたがったモニタの詳細については，『HP Performance Center ガイド』を参照してください。
	モニタのプロファイル: プロジェクトの任意の負荷テストで使用するモニタのプロファイルとして保存可能な，モニタの設定が含まれています。モニタ・プロファイルの詳細については，『HP Performance Center ガイド』を参照してください。

テスト・リソース・モジュールのフィールド

本項では，テスト・リソース・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト リソース**]を選択します。
重要な情報	• テスト・リソース・モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，任意のフィールドのラベルの変更ができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，テスト・リソース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	• 「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(495ページ) • 「テスト・リソースの概要」(492ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
コメント	リソースに関するコメント。新しいコメントを追加するには，[**コメントを追加**]ボタンをクリックします。[**コメント**]ボックスに新しいセクションが追加され，ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。
作成者	リソースを作成したユーザ。
作成日	リソースが作成された日付。 **標準設定値**：現在のデータベース・サーバの日付です。
説明	フォルダまたはリソースについて説明します。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
ファイル名	ファイルの名前。
フォルダ ID	ALM によってフォルダに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。
更新日時	リソースが変更された日付。
名前	フォルダまたはリソース名。
リソース ID	ALM によってファイルに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。

UI 要素	説明
タイプ	リソースのタイプ。詳細については,「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(498 ページ) を参照してください。
バージョン番号	**バージョン管理 :** リソースのバージョン番号。このフィールドは,プロジェクトでバージョン管理が有効な場合に表示されます。

[リソース ビューア] タブ

このタブで,テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードすることもできます。

アクセス方法	テスト・リソース・モジュールで,テスト・リソース・ツリーのリソースを選択し,[**リソース ビューア**] タブをクリックします。
重要な情報	• リソースのコンテンツを表示するには,関連するアドインまたは拡張機能をインストールしなければなりません。Unified Functional Testing のアドインの詳細については,『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 • リソースによっては,アプリケーション領域リソースのように異なるビューア・タブを持つものがあります。そのビューア・タブの詳細については,「[アプリケーション領域 ビューア] タブ」(503ページ) を参照してください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ファイルをアップロード...	**ファイルのアップロード** : ファイルまたはフォルダを ALM リポジトリにアップロードします。次のオプションがあります。 • **ファイルのアップロード** : [ファイルのアップロード] ダイアログ・ボックスが開き,ファイルを選択できます。 • **フォルダのアップロード** : [フォルダの参照] ダイアログ・ボックスが開き,ファイルを選択できます。 アップロードしたファイルを置き換えるには,再度アップロードします。
ダウンロード...	**ダウンロード** : [フォルダの参照] ダイアログ・ボックスが開き,選択したファイルをダウンロードできます。
	更新 : タブを更新します。
ファイル名	リソース・ファイルの名前。

[アプリケーション領域ビューア] タブ

このタブでは，アプリケーション領域リソース用のテスト・ツールを起動できます。

アクセス方法	**Business Process Testing**: テスト・リソース・モジュールで，テスト・リソース・ツリーのアプリケーション領域リソースを選択し，[**アプリケーション領域ビューア**] タブをクリックします。
重要な情報	• リソースのコンテンツを表示するには，関連するテスト・ツール，アドインまたは拡張機能をインストールしなければなりません。UFT のアドインの詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 • QuickTest Professional バージョン 10.00 および 11.00 における ALM バージョン 12.00 のアプリケーション領域リソースの起動はサポートされていません。代わりに，QuickTest Professional でアプリケーション領域を直接起動します。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<テスト・ツール> の起動	関連するテスト・ツールを起動します。 **バージョン管理**: 以前のバージョンまたはベースラインからアプリケーション領域を起動しようとすると，[**起動**] ボタンは無効になります。代わりに，QuickTest Professional でアプリケーション領域を直接起動します。

[依存関係] タブ

このタブは，テスト，コンポーネント，テスト・リソースなどのエンティティ間の関係が表示されます。選択したエンティティに依存しているエンティティ ([**使用者**] グリッド)，および選択したエンティティが依存しているエンティティ ([**使用中**] グリッド) を表示できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **テスト・リソース・モジュール**: テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し，[**依存関係**] タブをクリックします。 • **テスト計画モジュール**: テスト計画ツリーでテストを選択し，[**依存関係**] タブをクリックします。 • **ビジネス・コンポーネント・モジュール**: コンポーネント・ツリーでコンポーネントを選択し，[**依存関係**] タブをクリックします。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	「エンティティの依存関係の概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	移動：選択したエンティティに移動できます。
	破損した関係の表示：[**使用**]グリッドの，選択した関係について破損した関係の詳細が表示されます。 破損した関係としてマークされている[**使用**]グリッドのエンティティを選択し，[**破損した関係の表示**]ボタンをクリックします。
	更新：タブを更新します。
	表示/非表示の矢印：[**使用者**]または[**使用中**]グリッドを表示または非表示にします。
	破損した関係：関連するエンティティは存在しなくなりました。アイコンをクリックすると詳細が表示されます。
<使用者グリッド>	選択したエンティティに依存するエンティティが表示されます。
<使用中グリッド>	選択したエンティティが依存するエンティティが表示されます。
ID	関連付けられているエンティティに対する一意のID番号。IDはALMによって自動的に割り当てられます。
名前	関連付けられているエンティティの名前。
タイプ	関連付けられているエンティティのタイプ。
説明	関連付けられているエンティティの説明。
所有者名	選択されたエンティティを所有するエンティティの名前。
所有者タイプ	選択されたエンティティを所有するエンティティのタイプ。

[新規リソース]/[リソース詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，リソースの追加および表示ができます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **テスト・リソース**・モジュールで，リソース・フォルダを右クリックして[**新規リソース**]を選択します。[新規リソース]ダイアログ・ボックスが開きます。 • **テスト・リソース**・モジュールで，[**履歴**]タブをクリックします。[**ベースライン**]または[**バージョンおよびベースライン**]をクリックします。[**表示**]ボタンをクリックします。[リソース詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	バージョン管理：新規リソースは自動的にチェックアウトされます。詳細については，「[チェックアウト]ダイアログ・ボックス」(133ページ)を参照してください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(493ページ)
参照情報	「テスト・リソースの概要」(492ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
クリア	ダイアログ・ボックスの内容をクリアします。 **利用可能な場所**：[新規リソース]ダイアログ・ボックス
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	電子メールで送信：テスト・リソースの詳細を電子メールで送信します。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[リソース詳細]ダイアログ・ボックス
名前	リソースの名前。
タイプ	リソースのタイプ。詳細については，「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(498ページ)を参照してください。
説明	現在選択されているテスト・リソースの詳細。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(501ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
リソース・ビューア	現在選択されているテスト・リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードすることもできます。詳細については、「[リソース ビューア] タブ」(502ページ) を参照してください。
依存関係	現在選択されているテスト・リソースとほかのエンティティの間の関係が表示されます。詳細については、「[依存関係] タブ」(503ページ) を参照してください。

[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ALM がテスト・リソースをプロジェクトにまたがってコピーする方法を選択できます。

アクセス方法	1. [**テスト**] > [**テスト リソース**] ツリーで、コピーするリソースまたはフォルダを選択します。複数のアイテムをコピーするには、Ctrl キーを使用します。 2. [**編集**] > [**コピー**] を選択します。または、右クリックして [コピー] を選択します。 3. リソースまたはフォルダを貼り付ける先のプロジェクトにログインし、[**テスト**] > [**テスト リソース**] ツリーに移動します。 4. リソースまたはフォルダをコピーする先のフォルダを選択します。 5. [**編集**] > [**貼り付け**] を選択します。または、右クリックして [**貼り付け**] を選択します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
リソースをコピーして、既存の関連エンティティへリンク	ALM はテスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたテスト・リソースは、既存のエンティティに同じ名前とパスでリンクされます。ターゲット・プロジェクトに関連するエンティティが存在しない場合、ALM はそれをターゲット・プロジェクトにコピーします。
リソースと関連エンティティをコピー	ALM はテスト・リソースを関連するエンティティと一緒にコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。エンティティがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連エンティティの名前が変更されます。
関連エンティティをコピーせずにリソースをコピー	ALM は関連エンティティをコピーせずにテスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。

第30章: VAPI-XP テスト

本章の内容

VAPI-XP テストの概要 508
VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法 508
VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法 516
VAPI-XP で AUT 環境を使用する方法 520
VAPI-XP API の使用方法 521
デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法 524
テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法 525
テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法 526
VAPI-XP ユーザ・インタフェース 528

VAPI-XP テストの概要

VAPI-XP テスト・ツールでは，Microsoft VBScript，Microsoft JavaScript(JScript バージョン)，PerlScript，および PythonScript を使用して新規のテスト・スクリプトを作成し，そのスクリプトをアプリケーション管理プロセスに組み込むことができます。VAPI-XP テスト・スクリプトを使用することで，COM/DCOM サーバ，SOAP ベースの Web サービス，Java API(Java クラスや EJB など) およびコンソール・アプリケーションをテストできます。VAPI-XP は，LoadRunner Vuser の作成に使用することもできます。

さらに，VAPI-XP は HP Application Lifecycle Management(ALM) と完全に統合されているため，ALM のテストやテスト・セットを呼び出す VAPI-XP テスト・スクリプトを設計し，スクリプトの一部としてそれらのテストやテスト・セットを実行することができます。これによって，より高度なテスト・セット実行フローを構築することができ，各テストのステータスやタイプに基づいて，実行中にテスト・セット内のテストをフィルタ処理することが可能となります。

VAPI-XP は ALM のオープン・テスト・アーキテクチャ API とも完全に統合されています。オープン・テスト・アーキテクチャ API のすべてのクラスとメソッドを VAPI-XP ユーザ・インタフェースから参照することができるため，これらをテスト・スクリプトに簡単に組み込むことができます。

注： VAPI-XP テスト・ツールは，HP ALM Client Registration を実行することでテスティング・ホスト上にインストールされます。クライアント登録の実行手順については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

タスクの詳細については，次を参照してください。

- 「VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法」(508ページ)
- 「VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法 」(516ページ)
- 「VAPI-XP で AUT 環境を使用する方法」(520ページ)
- 「VAPI-XP API の使用方法」(521ページ)
- 「デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法 」(524ページ)
- 「テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法 」(525ページ)
- 「テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法 」(526ページ)

VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法

VAPI-XP テスト・スクリプトは，テスト計画モジュールのテスト計画ツリーから作成します。

VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」(508ページ) を参照してください。

注： 手動テストを VAPI-XP テストに変換することもできます。[**デザイン ステップ**] タブで，[**スクリプトの生成**] ボタン をクリックし，「**VAPI-XP-TEST**」を選択します。ALM によって，定義したステップに対応するコードを含む VAPI-XP スクリプトが作成されます。また，元の手動テストの一部

であった呼び出されたテストのコードも含まれます。手動テストの詳細については，「テストの設計」(445ページ)を参照してください。

VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには，次の手順を実行します。

1. テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択します。

2. ［**新規テスト**］ボタンをクリックするか，［**テスト**］＞［**新規テスト**］を選択します。［新規テスト］ダイアログ・ボックスが表示されます。

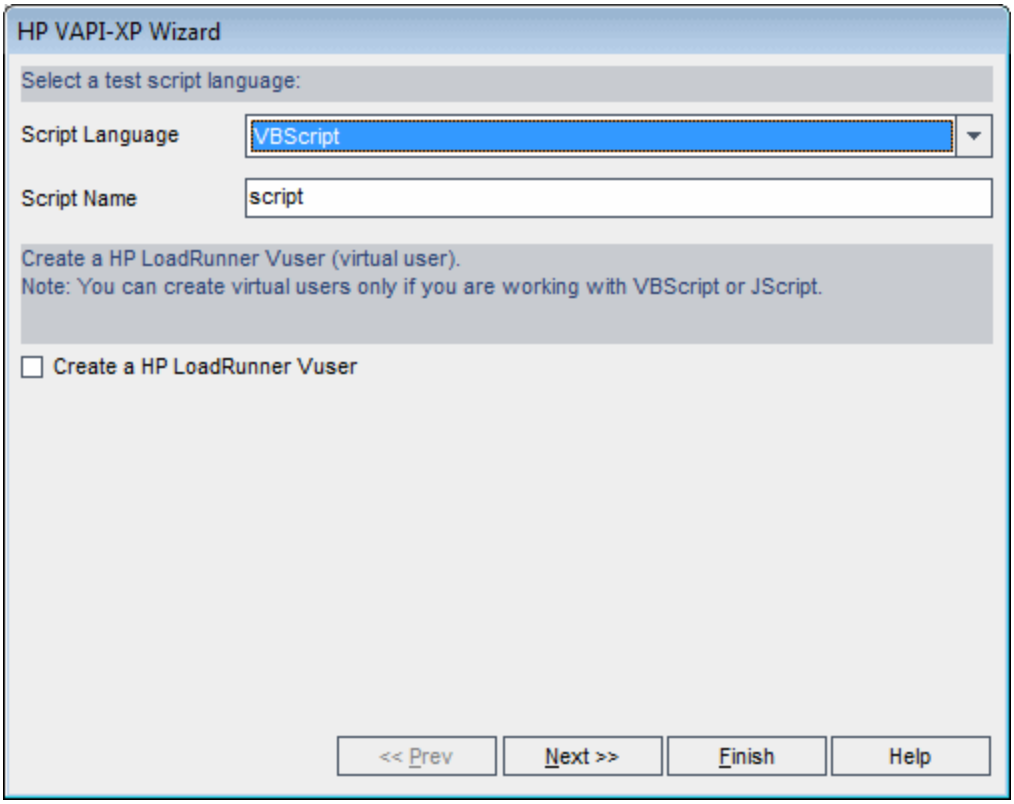
3. ［**タイプ**］ボックスで，「**VAPI-XP-TEST**」を選択します。

4. ［**テスト名**］ボックスにテストの名前を入力します。テストの名前には，次の文字は使用できません。**\ / : " ? < > | * % `**

5. ［詳細］タブでテストの詳細を追加します。［**OK**］をクリックします。

注：［プロジェクト カスタマイズ］ウィンドウで必須テスト・フィールドを定義した場合は，［Required Test Fields］ダイアログ・ボックスが表示されます。必須フィールドの値を選択し，［**OK**］をクリックします。

HP VAPI-XP ウィザードが開きます。



6. ［**Script Language**］ボックスで，スクリプト言語を選択します。

注：

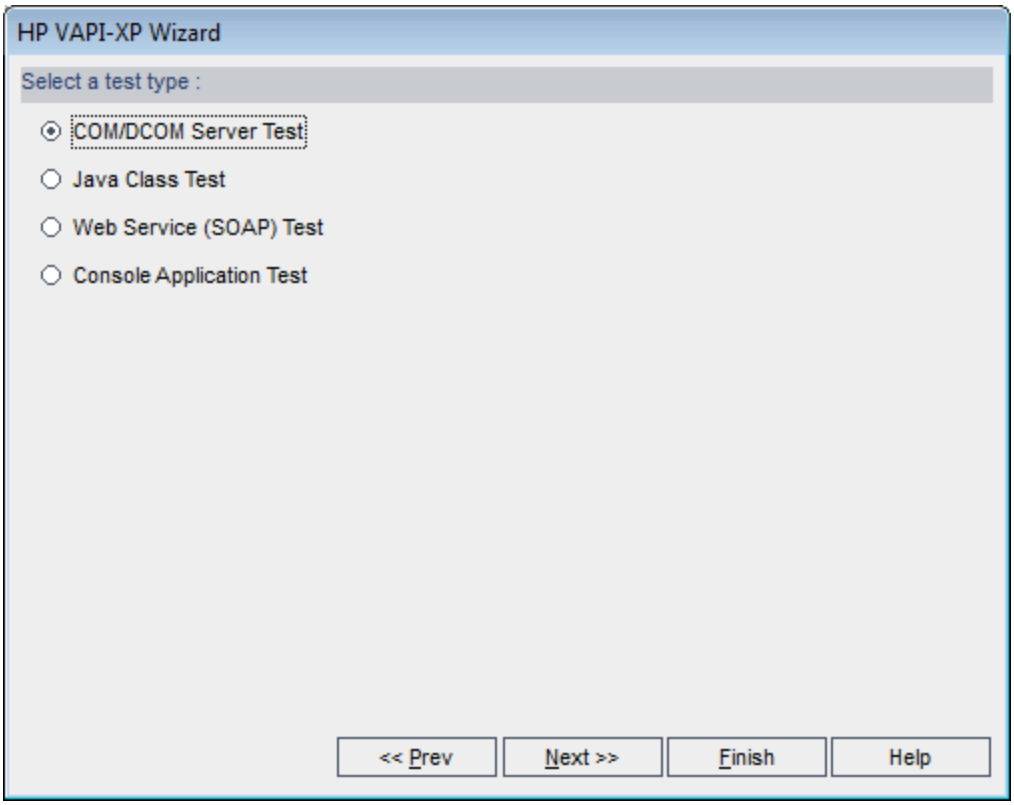
- ActiveState の ActivePython スクリプトまたは ActivePerl スクリプトを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには，コンピュータにそのスクリプト言語がインストールされている必要があります。［テスト スクリプト］タブの［**ヘルプ**］メニューから［**ActivePython ホーム ページ**］または［**ActivePerl ホーム ページ**］を選択し，指示に従ってインストールします。
- Microsoft の VBScript および JScript は通常，Internet Explorer と一緒にインストールされています。VBScript および JScript がインストールされていない場合は，［テスト スクリプト］タブの［**ヘルプ**］メニューから［**VBScript ホーム ページ**］または［**JScript ホーム ページ**］を選択し，画面の指示に従ってインストールします。

7. ［**Script Name**］ボックスに，VAPI-XP テスト・スクリプトの名前を入力します。

8. VBScript または JavaScript をテスト・スクリプト言語として選択した場合，［**Create HP LoadRunner Vuser**］を選択し，LoadRunner Controller で実行可能な LoadRunner Vuser スクリプトを作成することもできます。

注： 作成した Vuser スクリプトを LoadRunner Controller で実行するには，LoadRunner のクライアント・マシンに HP ALM Connectivity Add-in の最新バージョンがインストールされている必要があります。このアドインは，HP Application Lifecycle Management ツールの［アドイン］ページからインストールできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

9. ［**Next**］をクリックして，HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。

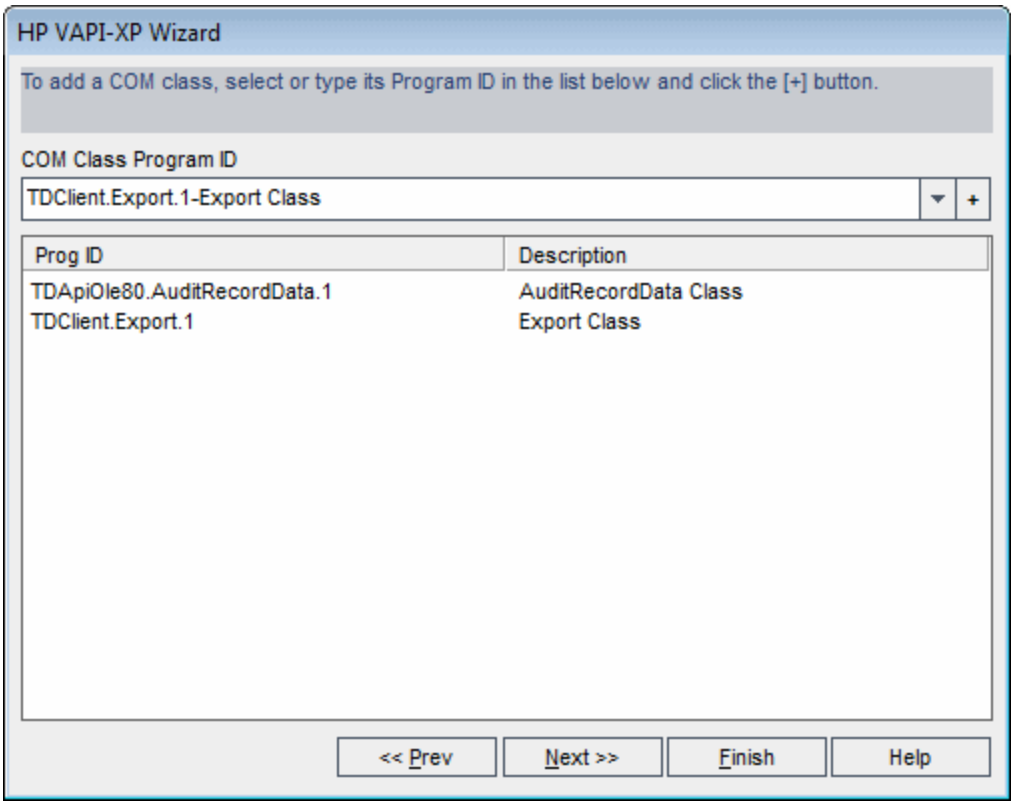


注： 各ダイアログ・ボックスで［**Finish**］をクリックするとウィザードが終了し，［テスト スクリプト］タブでテスト・スクリプトの作成を続けることができます。

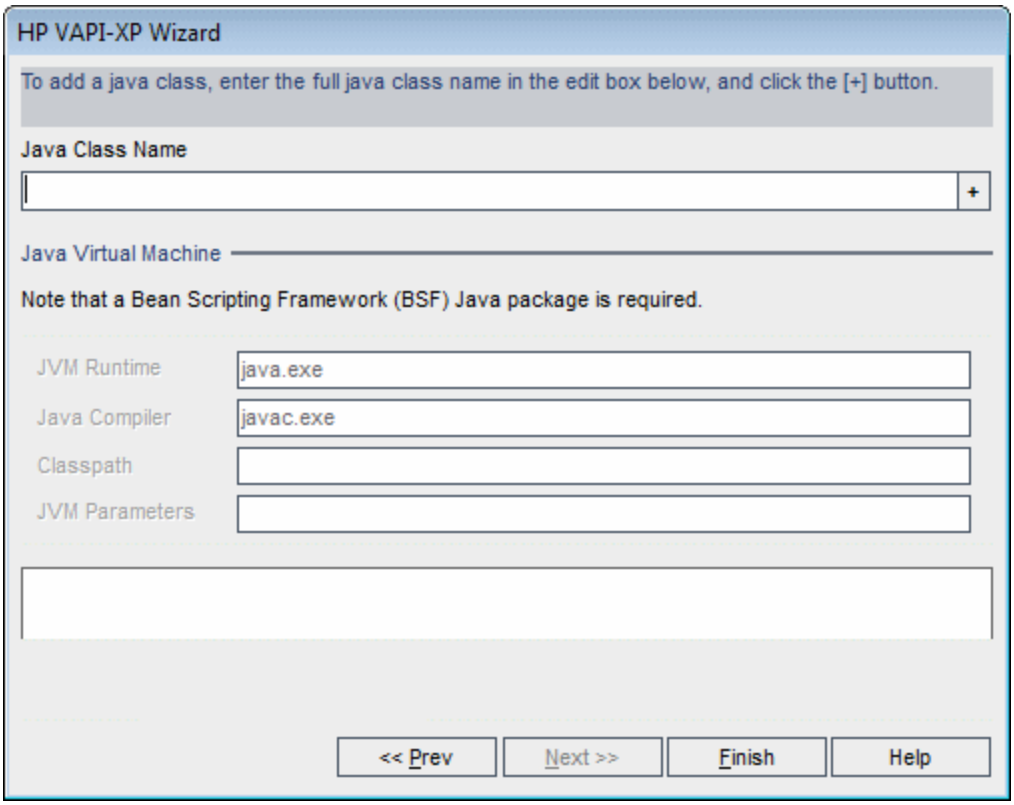
10. 作成するテストの種類を選択します。

11. ［**Next**］をクリックして，HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。

    - ［**COM/DCOM Server Test**］を選択した場合は，テスト対象マシンのレジストリに登録されている，COM/DCOM オブジェクトのプログラム ID を選択し，［**+**］ボタンをクリックします。選択した COM/DCOM オブジェクトとその説明が下のボックスに表示されます。



- ［**Java Class Test**］を選択した場合は，テスト対象のJavaクラスの完全名を［**Java Class Name**］ボックスに入力し，［**+**］ボタンをクリックします。入力したJavaクラス名が下のテキスト・ボックスに表示されます。



注：使用できるのは，引数のない public コンストラクタを含む Java クラスのみです。

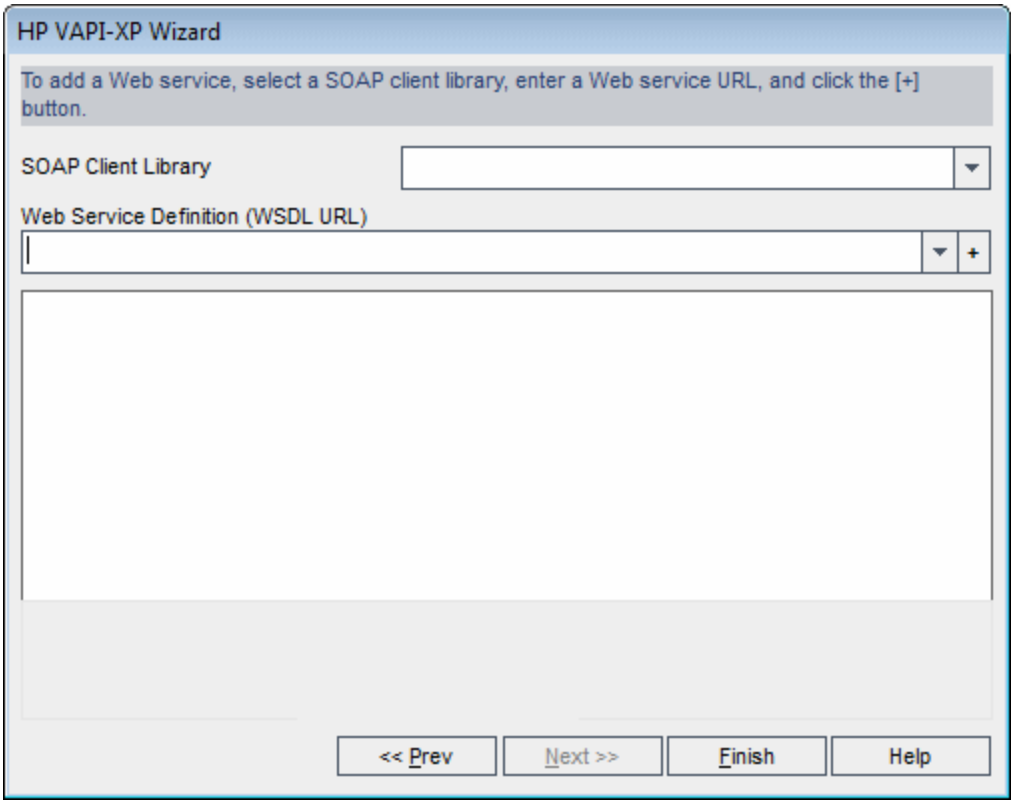
［**Java Virtual Machine**］で，次の内容を指定します。

- **JVM Runtime**：Java 仮想マシン実行時実行可能ファイル（通常 **java.exe**）を指定します。
- **Java Compiler**：実行プラットフォームでバイトコードを再コンパイルする実行可能ファイル（通常 **javac.exe**）を指定します。
- **Classpath**：指定した Java アプリケーションの実行に必要な，追加の（非標準の）Java ライブラリのリストを，セミコロン（**;**）で区切って指定します。Java クラスパスを指定しない場合，ALM は環境変数 **CLASSPATH** を使用します。
- **JVM Parameters**：Java 仮想マシン実行時実行可能ファイルのパラメータを指定します。

ほかの Java 仮想マシンを使用する場合は，次のようにシステム・パスに BSF DLL の場所を追加します。コントロールパネルで［**システム**］＞［**システムの詳細設定**］を選択してから，［**詳細設定**］タブをクリックします。［**環境変数**］ボタンをクリックし，［**システム環境変数**］領域で DLL（**msvcp60.dll**，**bsfactivescriptengine.dll**，**bsfactivescriptengine_g.dll**）のパスを追加して，**Path** パラメータを編集します。［**OK**］をクリックします。

- ［**Web Service (SOAP) Test**］を選択した場合は［**SOAP Client Library**］リストから SOAP クライアント・ライブラリを選択し，テスト対象の URL を［**Web Service Definition**］ボックスに入

力するか，または選択します。[＋]ボタンをクリックします。入力したURLが下のテキスト・ボックスに表示されます。



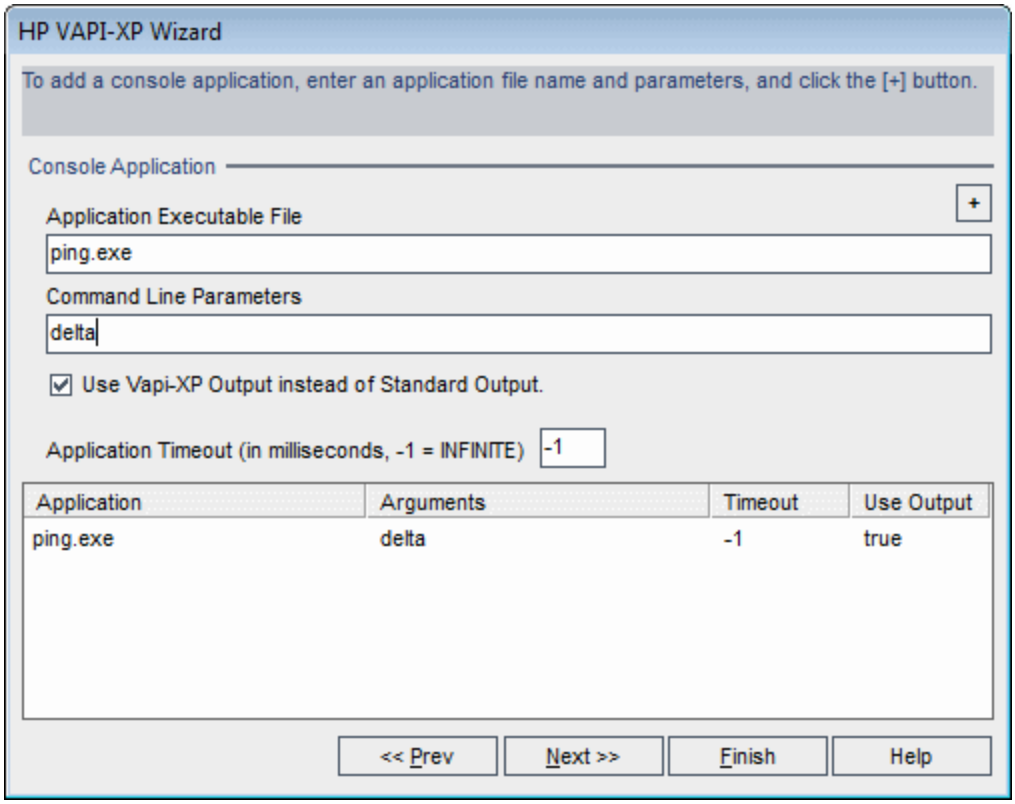
注： Microsoft SOAP SDKとPocketSOAPの2つのSOAPクライアント・ライブラリをサポートしています。PocketSOAPを使用する場合であっても，Webサービスを解析するためにMicrosoft SOAP SDKをインストールする必要があります。Microsoft SOAP SDKがコンピュータにインストールされていない場合は，ALMインストールDVDの**Redist**ディレクトリにある**SoapToolkit30.exe**ファイルを実行します。

- [**Console Application Test**]を選択した場合は，テスト対象のアプリケーション・ファイルの名前を[**Application Executable File**]ボックスに入力し，パラメータを[**Command Line Parameters**]ボックスに入力します。

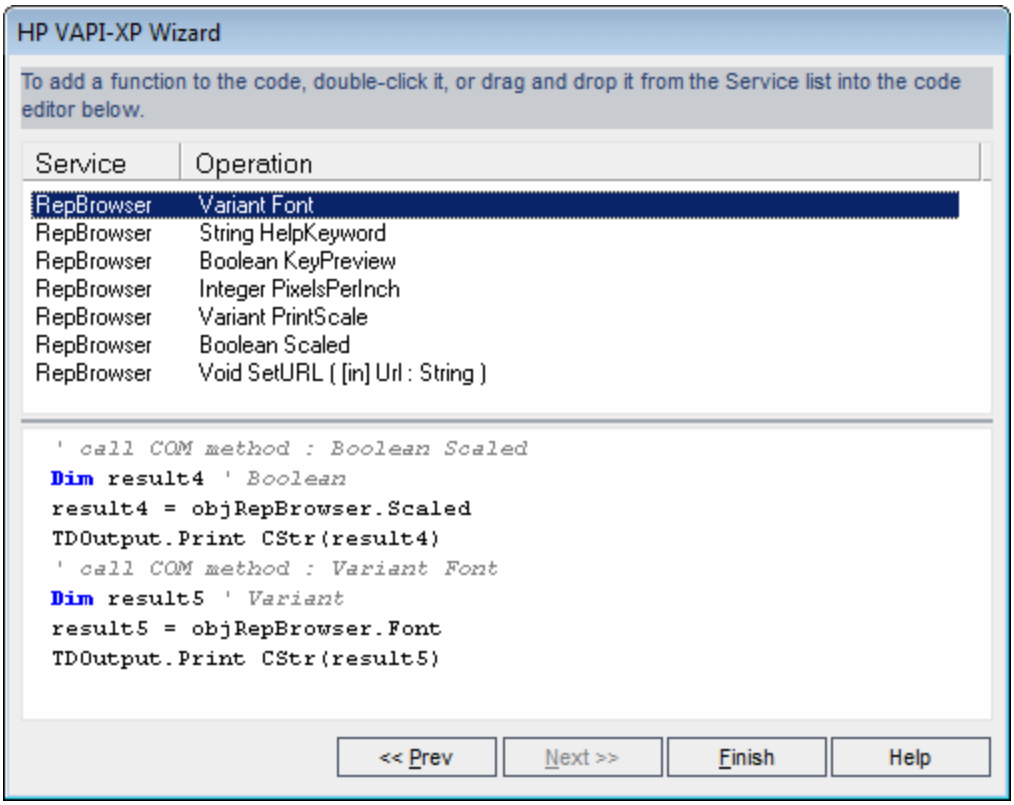
VAPI-XP出力ウィンドウではなく，標準出力をそのまま使用する場合は，[**Use VAPI-XP Output instead of Standard Output**]ボックスをクリアします。

[**Application Timeout**]ボックスに，ALMがアプリケーションの実行が完了するまで待つ時間(ミリ秒単位)を入力します。この値を「**-1**」に設定した場合，ALMはアプリケーションの実行が完了するまで，時間の制限なく待機します。

[+]ボタンをクリックします。入力したデータが下のテキスト・ボックスに表示されます。



12. [**Next**]をクリックして，HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。



13. ［**Service**］リストで，テスト・スクリプトに追加する関数を選択します。関数をダブルクリックするか，またはドラッグ・アンド・ドロップすると，関数がスクリプト・コードに追加されます。関数は，［Service］リストの下のボックスに追加されます。

14. 必要に応じて，下部の表示枠で，追加パラメータを入力したり，スクリプトにコードを追加することができます。

15. ［**Finish**］をクリックします。新しいテストが，テスト計画ツリーで選択したサブジェクト・フォルダの下に表示されます。

> **注：** 作成したVAPI-XPテストに詳細と添付ファイルを追加したり，要件カバレッジを定義したりできます。詳細については，「テスト計画の仕様」(387ページ)を参照してください。

VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法

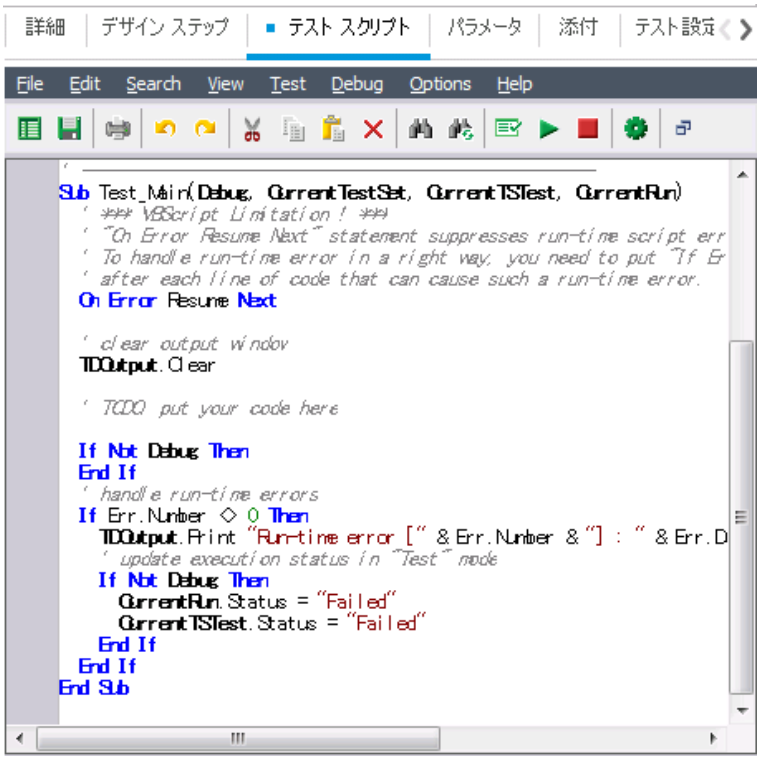
HP VAPI-XP ウィザードを使用してVAPI-XP テスト・スクリプトを作成した後は，［テスト スクリプト］タブでスクリプトを編集できます。

VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」(508ページ)を参照してください。

> **ヒント：** ［テスト スクリプト］タブを独立したウィンドウに表示するには，［**表示**］＞［**ウィンドウ**］を選択するか，［**ウィンドウ**］ボタン をクリックします。

VAPI-XP テスト・スクリプトを編集するには，次の手順で行います。

1. テスト計画ツリーで VAPI-XP テストを選択し，[**テスト スクリプト**]タブをクリックします。テスト・スクリプトが表示されます。



注 : 作成したテスト・スクリプトのプロパティを表示するには，[**Test**] > [**Properties**]を選択します。

2. スクリプトに追加できるオブジェクト定義，メソッド，およびプロパティのリストを表示するには，次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。

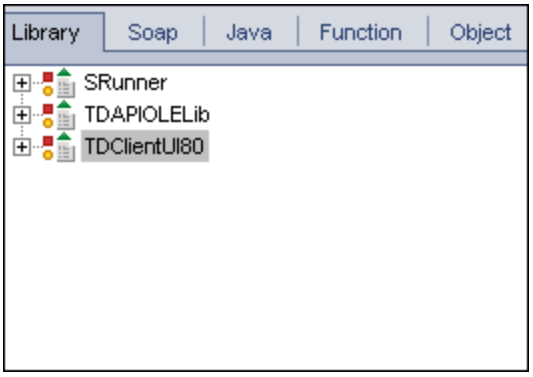
   - [**Test**] > [**References**] > [**COM Library References**] : 表示する COM オブジェクト定義，メソッド，プロパティを選択できる[References]ダイアログ・ボックスが表示されます。

   - [**Test**] > [**References**] > [**SOAP Web Service References**] : [Add Web Service Reference]ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは，表示する Web サービス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。

   - [**Test**] > [**References**] > [**Java Class References**] : [Add Java Class Reference]ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは，表示する Java クラス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。

3. [**View**] > [**Browsers**]を選択するか，または[**Show/Hide Browsers**]ボタンをクリックしま

す。次のタブが表示されます。



- **[Library]タブ**：スクリプトに追加できるVAPI-XP(SRunner)，ALM(TDAPIOLELib)，およびCOM/DCOMのオブジェクト定義，メソッド，およびプロパティのリストが表示されます。VAPI-XPオブジェクトの定義，メソッド，およびプロパティの詳細については，「VAPI-XP API の使用方法」(521ページ)を参照してください。ALMのオブジェクト定義，メソッド，プロパティの説明については，『HP ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

- **[SOAP]タブ**：スクリプトに追加できるWebサービスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。

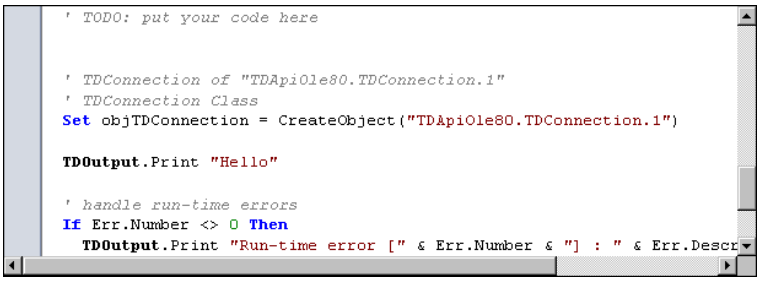
- **[Java]タブ**：スクリプトに追加できるJavaクラスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。

- **[Function]タブ**：スクリプトに含まれている関数のリストが表示されます。

- **[Object]タブ**：スクリプトに追加でき，定義名をもつオブジェクトのリストが表示されます。

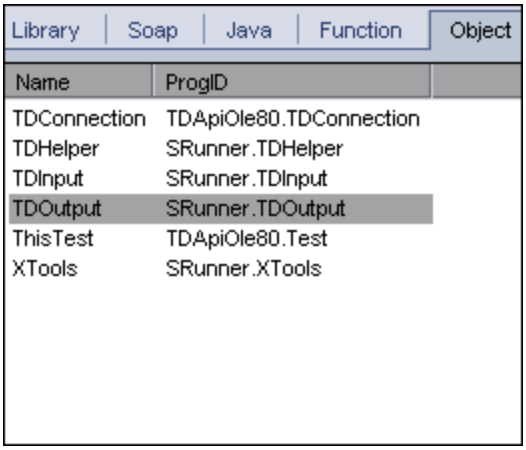
> **注：**各オブジェクトの定義，メソッド，プロパティの説明については，[**View**]＞[**Output**]を選択し，[**Help**]タブをクリックします。

4. スクリプト内の現在の関数に，オブジェクト定義，メソッド，またはプロパティを追加するには，コード内の該当箇所にカーソルを置き，[Library]タブ，[SOAP]タブ，または[Java]タブに表示されているオブジェクト定義，メソッド，またはプロパティをダブルクリックします。



5. 定義名をもつオブジェクトを追加するには，[Library]タブ，[SOAP]タブ，または[Java]タブで，オ

ブジェクト定義，メソッド，またはプロパティを選択し，[**Test**] > [**Add Object**]を選択します。[Add Object]ダイアログ・ボックスで，オブジェクトに付ける名前を入力し，[**OK**]をクリックします。オブジェクトが[Object]タブに追加されます。



スクリプトにオブジェクトを追加するには，オブジェクトをダブルクリックするか，オブジェクトを右クリックし[**スクリプトに挿入**]を選択します。

6. コードの構文をチェックするには，[**Test**] > [**Check Syntax**]を選択するか，[**Syntax Check**]ボタンをクリックします。[**View**] > [**Output**]を選択すると，検査の結果が[**Output**]タブに表示されます。

その他の編集機能

[テスト スクリプト]タブでは，次に示す編集機能も使用できます。

- 直前の操作を元に戻すには，[**元に戻す**]ボタンをクリックします。元に戻した操作をやり直すには，[**やり直し**]ボタンをクリックします。
- スクリプトの一部からある部分のコードを削除しスクリプト内の別の場所に挿入するには，コードの該当箇所を選択し，[**切り取り**]ボタンをクリックし，[**貼り付け**]ボタンを使用して別の場所に挿入します。
- スクリプトの一部からある部分のコードをコピーしスクリプト内の別の場所に挿入するには，コードの該当箇所を選択し，[**コピー**]ボタンをクリックし，[**貼り付け**]ボタンを使用して別の場所に挿入します。
- ある部分のコードを削除するには，該当箇所のコードを選択し，[**削除**]ボタンをクリックします。
- スクリプトに含まれる特定のテキストを検索するには，[**スクリプト内で検索**]ボタン

をクリックします。[テキスト検索]ダイアログ・ボックスの[検索テキスト]ボックスに，検索するテキストを入力します。検索のオプション，検索方向，検索範囲，検索開始位置を選択し，[**OK**]をクリックします。

スクリプト内で同じテキストがさらに含まれているかを調べるには，[**検索**]＞[**次を検索**]を選択します。

- スクリプト内の特定のテキストを検索し，該当箇所を別のテキストで置き換えるには，[**置換**]ボタンをクリックします。[テキストの置換]ダイアログ・ボックスの[**検索テキスト**]ボックスに，検索するテキストを入力します。[**置換後の値**]ボックスに，みつかったテキストを置き換える新しいテキストを入力します。検索のオプション，検索方向，検索範囲，検索開始位置を選択し，[**OK**]をクリックします。スクリプト内に含まれる，検索対象のテキストをすべて一括置換するには，[**すべて置換**]ボタンをクリックします。

- スクリプト内の特定の行番号に移動するには，[**検索**]＞[**次の行番号に移動**]を選択します。[次の行番号に移動]ダイアログ・ボックスに，移動する行番号を入力し，[**OK**]をクリックします。

- マージンやフォント，画面やテキストの色など，エディタのオプションを変更するには，[**エディタ**]ボタンをクリックします。[エディタ]，[表示]，[色]の各タブで必要に応じてプロパティを設定し，[**OK**]をクリックします。

スクリプトの編集が終わったら，[**上書き保存**]ボタンをクリックして編集結果を保存します。

VAPI-XP で AUT 環境を使用する方法

ALM のエディション：AUT 環境と機能テスト・セットは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

VAPI-XP テストは，機能テスト・セットの一部である場合にサーバ側の実行を使用して実行することができます。サーバ側の実行を使用すると，AUT 環境を活用できます。AUT 環境では，テストに使用する環境データをパラメータ化することで，テスト実行をより動的にできます。同じロジックを使用するが，異なる環境パラメータが必要になる複数のさまざまな VAPI-XP テストを定義し，実行しなくても，VAPI-XP テストのプログラムを作成するだけで，実行時に ALM によってテストに挿入される定義済みの AUT 環境設定を使用できます。

機能テスト・セットの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

AUT 環境設定および環境パラメータの設定については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

VAPI-XP スクリプトで AUT 環境設定を使用するには，次の関数を使用します。

Post

AUT パラメータにアクセスする関数を呼び出す前にこの関数を呼び出します。

currentRun.post()

getRunTimeParameterByName

パラメータ名に基づいて環境パラメータ値を返します。

currentRun.getRunTimeParameterByName(Name)

Name：環境パラメータ名。

getRunTimeParameterByGuid

パラメータ GUID に基づいて環境パラメータ値を返します。

currentRun.getRunTimeParameterByGuid(Guid)

Guid：環境パラメータ GUID。

isSSE

機能テスト・セットでサーバ側の実行としてテストが実行されている場合，TRUE を返します。

currentRun.isSSE

ReservationId

機能テスト・セットでサーバ側の実行としてテストが実行されている場合，タイムスロット ID を返します。それ以外の場合は，NULL を返します。

currentRun.ReservationID

VAPI-XP API の使用方法

VAPI-XP ツールには，テスト・スクリプトの作成時に参照可能な，VAPI-XP オブジェクト定義の組み込みライブラリが用意されています。

VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」(508ページ)を参照してください。

TDHelper オブジェクトの使用

TDHelper オブジェクトは，関連の作業を実行する次の関数を提供します。

RunTestSet

選択したテスト・セットを実行し，テスト・セット実行の最終的なステータスを返します。

RunTestSet([Name = "default"], [Filter = ""], [Locally = FALSE], [Host = ""], [HostGroup = ""])

Name：テスト・セットの名前。任意指定。標準設定は `"default"`

Filter：テストのフィルタ。実行するテストを指定。何も指定しない場合は，指定したテスト・セット内のすべてのテストが ALM によって実行されるようにします。任意指定。標準設定は ""

Locally：`TRUE` にセットした場合は，ALM がテスト・セットをローカルで実行するようにします。任意指定。標準設定は `FALSE`

Host：テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定は ""

HostGroup：テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定は ""

RunTest

選択したテストを実行し，テストの実行結果を返します。

RunTest(Name, Instance, TestSet, [Locally = FALSE], [Host = ""], [HostGroup = ""])

Name：テストの名前。

Instance：テストのインスタンス。

TestSet：テスト・セットの名前。

Locally：TRUE にセットした場合は，ALM がテスト・セットをローカルで実行するようにします。任意指定。標準設定は FALSE

Host：テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定は ""

HostGroup：テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定は ""

AddDefect

テストがデバッグ・モードで実行されている場合，現在のテストに新しい不具合を追加します。テストがテスト・モードで実行されている場合，現在のテスト・セットにおけるテスト・インスタンスの現在の実行に新しい不具合が追加されます。作成された不具合オブジェクトを返します。

AddDefect([Fields], [stepKey])

Fields：2 次元配列。次元の 1 つはフィールド名，もう 1 つはフィールド値。任意指定。

stepKey：新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

AddDefectUI

[新規不具合]ダイアログ・ボックスを使用して，現在のテスト・セット（デバッグ・モードの場合）または現在の実行（テスト・モードの場合）に新しい不具合を追加します。

AddDefectUI([stepKey])

stepKey：新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

AddStepToRun

現在の実行に新しいステップを追加します。作成されたステップ・オブジェクトを返します。

AddStepToRun(Name, [Desc], [Expected], [Actual], [Status])

Name：ステップの名前。

Desc：ステップの説明。任意指定。

Expected：ステップの期待される結果。任意指定。

Actual：ステップの実際の結果。任意指定。

Status：ステップのステータス。任意指定。

DownLoadAttachment

テスト・オブジェクトと関連付けられている添付をダウンロードします。ダウンロードが実行されたローカ

ル・パスを返します。

DownLoadAttachment(Name, item)

Name：添付名。

item：添付付きのオブジェクトのリファレンス。

UpLoadAttachment

添付をアップロードし，テスト・オブジェクトと関連付けます。

UpLoadAttachment(path, item)

path：アップロードする項目のローカル・パス(完全なファイル名を指定)。

item：添付を関連付けるオブジェクトへのリファレンス。

TDInput オブジェクトの使用

TDInput オブジェクトは，次の関数を提供します。エンド・ユーザからの入力値を取得するために使用できます。

GetInput

入力ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは，エンド・ユーザからの入力を取得できます。

GetInput([Caption],[Name])

Caption：ダイアログ・ボックスの見出し。任意指定。

Name：入力値の名前。任意指定。

TDOutput オブジェクトの使用

TDOutput オブジェクトは，次の関数を提供します。VAPI-XP の[Output]タブの制御に使用できます。

Clear メソッド

[Output]タブをクリアします。

Clear

Print メソッド

[Output]タブの新しい行にテキスト・メッセージを出力します。

Print(Msg)

HookDebug プロパティ

[OutputDebugString]タブの API 関数用のフックを設定または削除します。

HookDebug

Text プロパティ

［Output］タブのテキストを取得または設定します。

String Text

XTools オブジェクトの使用

XTools オブジェクトは，一般的な作業を実行する次の関数を提供します。

run

渡された属性を使って，コマンド・ラインを実行します。

run(Command, [Args = ""], [Timeout = -1], [UseOutput = TRUE])

Command：アプリケーションの実行可能ファイル。

Args：アプリケーションの引数。任意指定。標準設定は ""。

Timeout：タイムアウト時間。単位はミリ秒。-1 の場合，ALM はアプリケーションの実行が完了するまで，時間の制限なく待機。

UseOutput：TRUE の場合は，ALM は標準出力の代わりに VAPI-XP 出力ウィンドウを使用。

WrapArray

オブジェクトの配列からバリアントの配列を作成します。たとえば，呼び出されたオブジェクトがメソッドの結果として文字列の配列を返す場合，サポートされているスクリプト・エンジンでは，配列の読み取りができません。WrapArray 関数を呼び出して，返された配列を関数のパラメータとして渡すことにより，スクリプト・エンジンが解釈できる，バリアントの配列を作成できます。

WrapArray (array)

array：ラップする配列。

Sleep

指定した時間の間，スクリプトの実行を中断します。

Sleep(interval)

interval：スクリプト実行の中断時間（ミリ秒単位）。

デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法

VAPI-XP テスト・スクリプトの作成，編集が完了したら，スクリプトをデバッグ・モードまたはテスト・モードで実行できます。VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行すると，テスト・セットにテストを含めなくてもテストを実行できます。また，ALM プロジェクト内にテスト実行データを作成しなくてもテストを実行できます。通常，デバッグ・モードはテストの開発中に使用し，テストが完成したらテスト・モードを使用することをお勧めします。

VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」（508ページ）を参照してください。

VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行するには，次の手順で行います。

1. テスト計画モジュールで，テスト計画ツリーからVAPI-XP テストを選択し，［**テスト スクリプト**］タブをクリックします。

2. ［**Test**］＞［**Execute (Debug Mode)**］を選択するか，［**Execute Script**］ボタンをクリックすると，ALM は選択したテスト・スクリプトの実行を開始します。

3. ［**View**］＞［**Output**］を選択すると，テスト・スクリプトによって生成された出力が表示されます。

   - ［Output］タブをクリアするには，［**Clear Output**］ボタンをクリックします。
   - 出力のテキストをクリップボードにコピーするには，対象テキストを選択し，［**Copy Selected Text to Clipboard**］ボタンをクリックします。
   - テスト・スクリプトの出力を Web ブラウザで閲覧するには，［**Open Output Text in Web Browser**］ボタンをクリックします。
   - テスト・スクリプト出力を印刷するには，［**Print Output**］ボタンをクリックします。

4. 実行中のVAPI-XP テストを完了前に停止するには，［**Test**］＞［**Stop**］を選択するか，［**Stop**］ボタンをクリックします。

テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットにVAPI-XP テストを追加したら，VAPI-XP テストをテスト・モードで実行することができます。

VAPI-XP テストをテスト・モードで実行すると，テスト実行データがALM プロジェクトに作成されます。VAPI-XP テストは，テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールのどちらからでも，テスト・モードで実行できます。

> **注：** VAPI-XP テストをリモートで実行するには，HP ALM Client Registration Add-in とHP ALM Connectivity Add-in を，テストを実行するホスト・マシンにインストールする必要があります。アドインの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。

VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」(508ページ)を参照してください。

VAPI-XP テストをテスト計画モジュールからテスト・モードで実行するには，次の手順で行います。

1. テスト計画ツリーからVAPI-XP テストを選択し，［**テスト スクリプト**］タブをクリックします。
2. ［**Test**］＞［**Execute (Test Mode)**］を選択します。［Select Test Set］ダイアログ・ボックスが開きます。
3. ［**Test Set**］で，現在のVAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。
4. ［**Instance**］ボックスで，実行するテスト・インスタンスを選択します。
5. ［**Run Name**］ボックスで，テスト実行に付ける名前を入力します。
6. ［**OK**］をクリックすると，ALM により，選択したテストの実行が開始されます。
7. テスト・スクリプトによって生成された出力を表示するには，［**View**］＞［**Output**］を選択します。［Output］タブの説明については，「デバッグ・モードでのVAPI-XP テストの実行方法」(524ページ)を参照してください。
8. 実行中のVAPI-XP テストを完了前に停止するには，［**Test**］＞［**Stop**］を選択するか，［**Stop**］ボタン をクリックします。

VAPI-XP テストをテスト・ラボ・モジュールからテスト・モードで実行するには，次の手順で行います。

1. ［**Test Sets**］タブから，実行するVAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。
2. ［**Execution Grid**］で実行するテストを選択し，［**Run**］ボタンをクリックします。［Automatic Runner］ダイアログ・ボックスが開き，選択したテストが表示されます。
3. ［**Run on Host**］カラムで，VAPI-XP テストを実行するホスト・マシンを選択するか，［**Run All Tests Locally**］を選択してローカル・マシンでテストを実行します。
4. ［**Run**］ボタンをクリックします。選択したVAPI-XP テストの実行が開始されると［VAPI-XP テスト スクリプト］ウィンドウが開きます。テストの実行が完了すると，［Automatic Runner］ダイアログ・ボックスにテスト実行のステータスが表示されます。

テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法

テスト実行が成功せずに完了したら，VAPI-XP の統合デバッガを使用してVAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ作業を行うことができます。

> **注：**統合デバッガはPerlScript またはPythonScript のテスト・スクリプトのデバッグには使用できません。

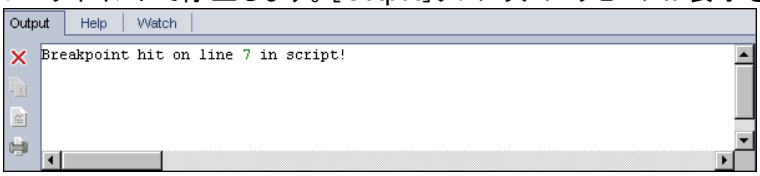
VAPI-XP テストの詳細については，「VAPI-XP テストの概要」(508ページ)を参照してください。

VAPI-XP テスト・スクリプトをデバッグするには，次の手順で行います。

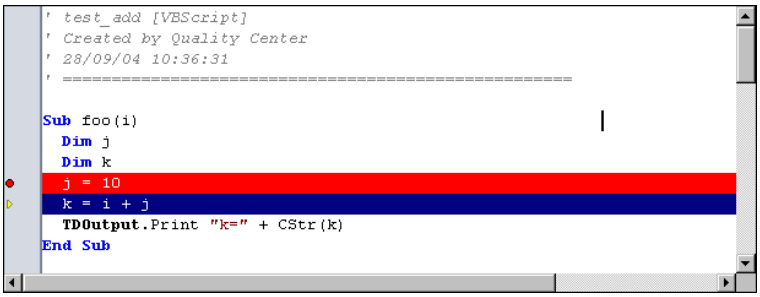
1. テスト計画モジュールの[**テスト スクリプト**]タブで，[**Debug**]＞[**Integrated Debugger**]を選択します。デバッグ処理に関するボタンがツールバーに表示されます。

2. スクリプト内にブレークポイントを設定するには，ブレークポイントを設定する対象となるスクリプト行を選択し，[**Debug**]＞[**Toggle Breakpoint**]を選択するか，[**Toggle Breakpoint**]ボタン をクリックします。あるいは，スクリプトの行の横のグレーのマージンをクリックします。選択した行が赤色で強調表示されます。

3. [**Execute Script**]ボタン をクリックすると，ALM でスクリプトの実行が開始し，指定したブレークポイントで停止します。[Output]タブに次のメッセージが表示されます。

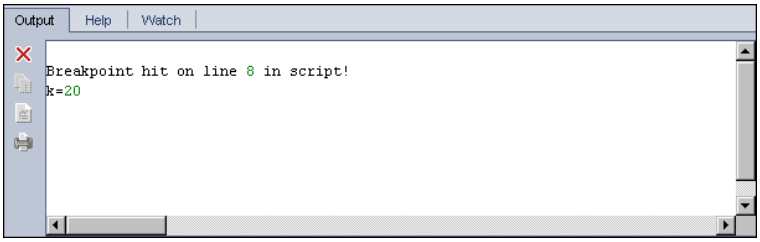


4. ブレークポイントの後のスクリプトに進むには，[**Debug**]＞[**Step Into**]を選択するか，[**Step Into**]ボタン をクリックします。ブレークポイントの次のスクリプト行が青色で強調表示されます。



5. スクリプト内の行をスキップするには，[**Step Over**]ボタン をクリックするか，[**Debug**]＞[**Step Over**]を選択します。

6. ALM に対してスクリプトを実行するよう指示するには，[**Debug**]＞[**Step Out**]を選択するか，[**step Out**]ボタン をクリックします。出力が[**Output**]タブに表示されます。



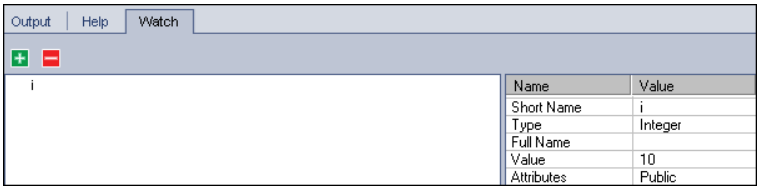
7. スクリプト内の各変数の値を表示または編集するには，[**Debug**]＞[**Variables**]を選択する

か，または[**Show Variables**]ボタン をクリックします。[Variables]ダイアログ・ボックスが開き，現在のスクリプトで利用できる変数が表示されます。変数を選択すると，その変数のプロパティが表示されます。

変数の値を変更するには，[**Value**]ボックスで変数に割り当てる新しい値を入力し，[**Update**]をクリックします。[**OK**]をクリックすると変更が保存され，[変数]ダイアログ・ボックスを閉じます。

8. デバッグ中に特定の変数に関する情報を表示するには，[**Debug**]＞[**Watch**]を選択するか，[**Show Watch Window**]ボタン をクリックして，[Watch]タブを表示します。

   [監視]タブに変数を追加するには，[**+**]をクリックし，[**Prompt**]ボックスに変数名を入力して，[**OK**]をクリックします。変数とその値が[監視]タブに表示されます。



9. スクリプトの実行を再開するには，[**Debug**]＞[**Resume Execution**]を選択するか，[**Resume Execution**]ボタン をクリックします。

10. [**Debug**]＞[**Stop Debugging**]を選択するか，[**Stop Debugging**]ボタン をクリックし，統合デバッガによるスクリプトのデバッグを終了します。

VAPI-XP ユーザ・インタフェース

本項の内容

HP VAPI-XP ウィザード 529
[テスト スクリプト]タブ 529

HP VAPI-XP ウィザード

このウィザードにより，VAPI-XP テスト・スクリプトを作成できます。詳細については，「VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法」(508ページ)を参照してください。

[テスト スクリプト] タブ

このタブにより，VAPI-XP テスト・スクリプトの表示および編集ができます。詳細については，次を参照してください。

- 「VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法」(516ページ)
- 「VAPI-XP API の使用方法」(521ページ)

第 7 部: テスト・ラボ

ALM のエディション: ベースラインに関係するフィールドや機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

第31章: テスト実行の紹介

本章の内容

テスト実行の概要 534
ALM でテストを実行する方法 536
ドラフト実行の使用方法 538
ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト 539
テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース 542

テスト実行の概要

テスト・セットを作成し，各セットに含めるテストを選択してテストの実行を開始します。**テスト・セット**には，HP Application Lifecycle Management (ALM) プロジェクトのテストのサブセットが含まれており，特定のテスト目標を達成するように設計されています。アプリケーションに変更を加えながら，プロジェクトの手動テストと自動テストを実行し，不具合を見つけ，品質を評価できます。

ALM テストはさまざまな方法で実行できます。

機能テスト・セットを使用したテストの実行

ALM のエディション：機能テスト・セットは，ALM エディションのユーザのみが使用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

機能テスト・セットのテストは，サーバ側の実行を使用して実行されます。これは，テストの開始，制御をマシンに任せることができるという意味です。機能テスト・セットはタイムスロットによって実行されるため，すぐに実行されるようにテストをスケジュール設定したり，後で実行されるようにテストをスケジュール設定したりすることができます。テストをスケジュール設定すると，ALM によってテスト・セットで必要なリソースが予約されます。テスト・セットは自動的に開始され，事前に指定する入力の順序で実行されます。

- タイムスロット・モジュールで機能テストと機能テスト・セットの実行をスケジュール設定できます。テストに現在使用できるホストがある場合には，[実行グリッド]を使用してすぐに実行するようにテストを準備することもできます。詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

- 機能テストは，ALM またはラボ管理の[ラボリソース]で設定されているテスティング・ホストで実行されます。機能テスト・セットのテストを実行するには，プロジェクトで利用できるテスティング・ホストを設定する必要があります。テスティング・ホストの詳細については，「テスティング・ホストの概要」(360ページ)を参照してください。

- テストをスケジュール設定すると，テストに適したテスティング・ホストが予約され，テストに適した別のホストが見つからなければ別のテストに対してホストを予約することはできません。

- ALM によってホスト割り当てが動的に管理されます。テストの実行前にテストに予約されているテスティング・ホストが利用できない場合，ALM は残りのテスティング・ホストを自動的に再シャッフルします。可能な場合には，テストに適した別のテスティング・ホストが再度割り当てられます。詳細については，「ホストの割り当て」(679ページ)を参照してください。

機能テスト・セットは，ALM の Continuous Delivery ソリューションの主要コンポーネントです。これらの環境設定は，アプリケーション開発の効率化，信頼性，および短縮化を実現する自動化されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを容易にします。このプロセスの一部として機能テスト・セットを使用する方法の詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ)を参照してください。

標準設定のテスト・セットを使用したテストの実行

標準設定のテスト・セットのテストは，クライアント側の実行を使用して実行されます。テストは，ロー

カル・コンピュータから直接制御します。ALM では手動でまたは自動で標準設定のテスト・セットを実行できます。

手作業で標準設定のテスト・セットのテストを実行するには，次の手順を実行します。

- **HP Sprinter** を使用します。手作業によるテスト・プロセスを支援する機能が強化されました。

> ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

- **マニュアル・ランナー**を使用します。Sprinter を使用していない場合は，マニュアル・ランナーを使用して手作業で実行できます。

手作業でテストを実行する場合，テスト・ステップに従って，テスト対象のアプリケーションを操作します。実際アプリケーションの結果が期待される結果と一致しているかどうかによって，各ステップの成功または失敗を判定します。

自動で標準設定のテスト・セットのテストを実行するには，次の手順を実行します。

- **オートマティック・ランナー**を使用して，ローカル・マシンからテストを自動で実行できます。

- 自動テストを自動実行すると，選択されているテスト・ツールが ALM によって自動的に起動され，ローカル・マシンまたはリモート・ホストでこのテストが実行され，結果が ALM にエクスポートされます。

- 手動テストを自動で実行することもできます。手動テストを自動実行し，リモート・ホストを指定すると，ALM によって，指定したテスト責任者宛に，指定したホストでテストを実行することを通知する電子メールが送信されます。

ALM でのテストの実行の詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

テスト実行に続いて，テスト結果を確認して分析します。分析の目的は，失敗したステップを特定し，アプリケーションで不具合が検出されたか，テストの期待される結果を更新する必要があるかどうかを判断することです。実行データを表示し，レポートおよびグラフを生成することで，定期的にテスト結果を検証できます。詳細については，「テスト実行の概要」(724ページ)を参照してください。

テストをドラフト実行として設定し，ALM が実行結果を無視するようにもできます。詳細については，「ドラフト実行」(536ページ)を参照してください。

> ALM のエディション：ベースラインに関係するフィールドや機能は，**ALM Essentials Edition** では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

タスクの詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

ドラフト実行

テストをドラフト実行として設定し，ALM が実行結果を無視するようにします。テスト・インスタンスをドラフト実行として設定すると，実行の結果はテストのステータス，テスト・インスタンスのステータス，カバレッジ・ステータスに影響しません。ALM もまた，実行する残りのテスト・インスタンス数の計算時，およびカバレッジ，進捗，ライブ・アナリシス・グラフの結果の表示時はドラフト実行を無視します。

テストを実行する前に，テスト実行をドラフトとして指定できます。実行後いつでも，［**ドラフト実行**］フィールドを変更して，テスト実行をドラフトとしてマークすることもできます。実行用に［**ドラフト実行**］の値を変更すると，ALM は関連するすべての統計情報を再計算し，関連するステータス・フィールドを更新します。グラフには更新された結果が表示されます。

ドラフト実行により，開発中のテストまたは変更後のテストを試してみることができます。たとえば，各ステップの説明が正しく構築されているかをテストしたり，大きなテスト・スクリプトの一部のみを試すこともできます。

テスト実行をドラフトとして設定するには，適切なユーザ権限が必要です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

タスクの詳細については，「ドラフト実行の使用方法」(538ページ)を参照してください。

ALM でテストを実行する方法

このタスクでは，ALM のテスト・ラボ・モジュールを使用して，プロジェクトのテストを実行する方法について説明します。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスト・セットの作成」(536ページ)
- 「機能テスト・セットのテストの実行」(537ページ)
- 「標準設定のテスト・セットのテストの実行」(537ページ)
- 「パフォーマンス・テストの実行」(537ページ)
- 「テスト結果の表示と分析」(538ページ)
- 「不具合へのリンク」(538ページ)

1. **テスト・セットの作成**

   テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成して定義します。テスト・セットを作成したら，リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てることができます。

タスクの詳細については，「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

各種テスト・セットの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

2. **機能テスト・セットのテストの実行**

ALM のエディション：機能テスト・セットは ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

機能テスト・セットのテストは，サーバ側の実行を使用して実行されます。機能テスト・セットが実行期間中利用できるように，これらのテスト・セットの実行用にリソースを予約できます。機能テスト・セットのテストを実行するには，次のいずれかを実行します。

- 後でテスト・セットを実行するようにスケジュール設定するには，**タイムスロット**・モジュールでタイムスロットを予約します。詳細については，「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)を参照してください。
- タイムスロットで直ちに実行するテストを準備するには，**テスト・ラボ**・モジュールの[**実行グリッド**]タブを使用します。詳細については，「テストを自動で実行する方法」(642ページ)を参照してください。

3. **標準設定のテスト・セットのテストの実行**

標準設定のテスト・セットのテストは，クライアント側の実行を使用して実行されます。**テスト・ラボ**・モジュールを使用して，マシンからテストを制御および実行します。標準設定のテスト・セットのテストを実行するには，次のいずれかを実行します。

- テスト計画時に定義したテスト・ステップを実行して，手動テストや自動テストを手動で実行します。タスクの詳細については，「テストを手作業で実行する方法」(632ページ)を参照してください。
- 自動的に実行する，テスト・セットの手動テストや自動テストを準備します。タスクの詳細については，「テストを自動で実行する方法」(642ページ)を参照してください。

4. **パフォーマンス・テストの実行**

Performance Center：パフォーマンス・テストを実行してアプリケーションに負荷をかけて，そのパフォーマンスを測定できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

パフォーマンス・テストがテストの実行期間中利用できるように，これらのテスト・セットの実行に必要なリソースを予約できます。

- 後でパフォーマンス・テストを実行するようにスケジュール設定するには，**タイムスロット**・モジュールでタイムスロットを予約します。詳細については，「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)を参照してください。

- テストがタイムスロットで直ちに実行されるように準備するには，**テスト・ラボ・モジュール**の[**実行グリッド**]タブを使用します。詳細については，「テストを自動で実行する方法」(642ページ)を参照してください。

ALM のエディション：パフォーマンス・テストの実行は，ALM Edition および Performance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

5. **テスト結果の表示と分析**

テストを実行した後は，結果を確認して実際の結果がテストの予想した結果と一致しているかどうかを判断します。テスト結果の表示に関するタスクの詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

グラフとレポートを作成して実行データを分析することもできます。次のいずれかを行います。

- **テスト・セット・フォルダの動的グラフを表示します。**テスト・セット・ツリーでテスト・フォルダを選択し，[**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。ライブ・アナリシス・グラフの生成に関するタスクの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)を参照してください。

- **テスト・セットのデータをグラフで表示します。**テスト・ラボ・モジュールのメニューで，[**アナリシス**]＞[**グラフ**]を選択します。グラフの生成に関するタスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ)を参照してください。

- **テスト・セットのデータのレポートを作成します。**テスト・ラボ・モジュールのメニューで，[**アナリシス**]＞[**プロジェクト レポート**]を選択します。レポートの生成に関するタスクの詳細については，「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)を参照してください。

ALM のその他のアナリシス・ツールについては，「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)を参照してください。

6. **不具合へのリンク**

不具合が検出された場合，新しい不具合を作成してテスト・セット，テスト・インスタンス，テスト実行，実行ステップにリンクするか，または既存の不具合をリンクできます。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

ドラフト実行の使用方法

このタスクでは，テスト実行をドラフト実行として設定する方法について説明します。次のように，テスト実行をドラフトとして設定できます。

- **テスト実行の前。**テストを実行する前に，手作業で実行するテストをドラフトとしてマークできます。マニュアル・ランナー：[実行の詳細]ページで，[**ドラフト実行**]フィールドの値を「**Y**」に設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ)を参照して

ください。

- **テスト実行の後。**実行の[**ドラフト実行**]フィールドを変更して，テスト実行をドラフトとしてマークできます。実行の詳細へのアクセスについては，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト

ALM のエディション：下記の多くのタスクには，ALM エディションのユーザのみが使用可能なコンポーネントが含まれます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ALM を使用すると，デプロイメントおよびテストによってアプリケーションのビルドを受け取るための複雑なプロセスを完全に自動化することができます。ALM をラボ管理機能と併用して，デプロイメントとテスト・セットを毎夜または 1 時間ごとに実行するようにスケジュール設定することができます。このデプロイメントとテストは，自動的に実行され，ビルドの完了直後にスケジュール設定することができます。また，定義する特定の環境でビルドがデプロイされるように準備したり，プライベート/パブリック・クラウドで動的にデプロイされるように HP Continuous Delivery Automation(CDA) と統合したりすることもできます。

ALM およびラボ管理には，アプリケーション・チームで Continuous Delivery の状態を把握できるテスト・コンポーネントが用意されています。そこでソフトウェアの開発，パッケージ化，デプロイ，およびテストを自動化できるため，ソフトウェアを確実かつ効率的にすばやく提供することができます。

本項では，エンドツーエンドのデプロイメントおよびテストを容易にするために ALM によって提供されるさまざまなコンポーネントについて説明します。

- 自動テストの作成
- テスト・セットの作成
- ビルド検証スイートの作成
- AUT 環境設定の定義
- デプロイメントおよびテストのタイムスロットのスケジュール設定

1. **自動テストの作成**

   ALM には，テスト対象アプリケーション(AUT) の機能のテスト用にいくつかの各種自動テストが用意されています。

   テスト・タイプのカテゴリは，主に機能とパフォーマンスの 2 つです。

- 機能テストは，アプリケーションが正常に動作していることを確認するのに使用されます。
- パフォーマンス・テストは，アプリケーションが負荷とデマンドに耐えることを確認するのに使用されます。

［**テスト**］＞**テスト計画**モジュールでテストを作成します。タスクの詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ)を参照してください。

ALMによって提供およびサポートされるテスト・タイプの詳細については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。

包括的なテスト・セットを確実に作成するには，最初に「テスト計画の概要」(382ページ)を参照してください。

2. **テスト・セットの作成**

   ALMによって，テスト・セットと呼ばれるテストのコンテナが提供されます。ALMには，自動テストのタイプごとにテスト・セットのタイプ(機能テスト・セットとパフォーマンス・テスト・セット)が用意されています。

   さまざまな方法でテストをテスト・セットにグループ化できます。それらのテストをアプリケーションの機能および特徴でグループ化できます。または，ポジティブ・フローを確認するテストのグループを作成し，ネガティブ・フローを確認するテストのグループを作成できます。

   ［**テスト**］＞**テスト・ラボ**モジュールでテスト・セットを作成します。タスクの詳細については，「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

   テスト・セットのタイプの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

3. **ビルド検証スイートの作成**

   ALMには，テスト・セットをそれらのタイプに関係なくまとめてバンドルして，ビルド検証スイートを作成する方法が用意されています。ビルド検証スイートは，ビルドの全体的なステータスを確認するのに使用されます。ビルド検証スイートには，機能テスト・セットと1つのパフォーマンス・セットの両方が含まれる場合があります。

   複数のビルド検証スイートを作成して，さまざまな包括性のレベルでアプリケーションを確認できます。1つの大規模なビルド検証スイートを作成して毎夜実行するようにスケジュール設定し，主要テスト・セットのみが含まれているもう1つのビルド検証スイートを作成して1時間ごとに，あるいはビルドが作成されるたびに手動で実行するようにスケジュール設定することができます。

   ［**テスト**］＞［**ビルド検証**］モジュールでビルド検証スイートを作成します。タスクの詳細については，「ALMでのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)を参照してください。

   ビルド検証スイートの詳細については，「ビルド検証の概要」(656ページ)を参照してください。

4. **AUT環境設定の定義**

   ALMには，ビルド設定スイートとテスト・セットとまとめてバンドルできる環境パラメータ・セット

(AUT 環境設定と呼ばれる)を定義する方法が用意されています。

同じロジックを使用しても別の環境パラメータが必要な複数の異なるテストを定義して実行するのではなく，環境パラメータ・セットを AUT 環境設定にバンドルするだけです。ビルド検証設定スイートまたは機能テスト・セットを実行する場合，AUT 環境設定を指定することができ，ALM でそれらのパラメータを使用してテストを実行します。

アプリケーション環境が動的で変化している場合，ALM とラボ管理を使用して AUT 環境設定を CDA にリンクすることができます。AUT 環境設定の環境パラメータを CDA にリンクすると，プライベート/パブリック・クラウドを使用してアプリケーション環境を動的にプロビジョニングおよびデプロイすることができます。

[**ラボ リソース**] > **AUT 環境** モジュールで AUT 環境設定を作成します。タスクの詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

AUT 環境の詳細については，「AUT 環境の概要」(362ページ)を参照してください。

CDA サーバの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ラボ管理での CDA サーバの管理に関するタスクの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。ALM での AUT 環境設定およびパラメータの CDA へのリンクの詳細については，「AUT 環境の CDA へのリンク」(362ページ)と「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

5. **デプロイメントおよびテストのタイムスロットのスケジュール設定**

ALM では，タイムスロットを使用して将来のアプリケーションのデプロイメントおよびテストをスケジュール設定することができます。ALM によって，タイムスロットに必要なテスト・リソースが事前に予約されていることが確認されます。

ビルドの作成後にテスト・セットを手動で実行する代わりに，ALM でリソースを自動的に割り当てて，アプリケーションのプロビジョニング，デプロイメント，およびテストを環境で開始できます。タイムスロットを使用して，ビルド検証スイートまたはテスト・セット実行のリソースを予約できます。CDA をビルド検証スイートに統合した場合には，スケジュール設定された動的なプロビジョニングおよびデプロイメントを準備することもできます。

実行をスケジュール設定する方法はいくつかあります。最も簡単な方法は，テストをスケジュール設定し，[**テスト**] > **タイムスロット・**モジュールでタイムスロットを作成して事前にリソースを割り当てることです。または，テスト・リソースが利用できる場合，すぐに実行するように実行を準備することができます。

タイムスロット予約の詳細については，「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)を参照してください。

テストおよびテスト・セットの実行に関するタスクの詳細については，「テストを自動で実行する方法」(642ページ)を参照してください。

ビルド検証スイートの実行に関する詳細については，「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)を参照してください。

タイムスロットの詳細については，「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)を参照してください。

テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ 542
テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン 544
テスト・ラボ・モジュールのアイコン 562
テスト・ラボ・モジュールのフィールド 563

テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ

このウィンドウにより，テスト・セットを作成してテストを実行できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト ラボ**]を選択します。
重要な情報	テスト・ラボ・モジュールでは，テスト・セット・ツリーにテスト・セットを作成して変更できます。 ALM のエディション： • 機能テスト・セットとパフォーマンス・テスト・セットは，ALM Editionでのみ利用できます。 • ベースラインに関係するフィールドや機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。
関連タスク	• 「テスト・セットを作成する方法」(576ページ) • 「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(534ページ)

テスト・ラボ・モジュールの共通の要素

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<テスト・ラボ・モジュールの共通の UI 要素>	• **[テスト ラボ]フィールド**：フィールドの定義については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 • **テスト・ラボのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ)を参照してください。 • **テスト・ラボのアイコン**：アイコンの説明については，「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。

[テスト セット]タブ

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。テスト・セット・ツリーのすぐ上にあります。
<テスト・セット・ツリー>	ウィンドウの左側に表示され，テスト・セットを階層構造に編成して表示します。プロジェクトのテスト・セットには，テストのサブセットが含まれます。 **注：**フォルダ内でテスト・セットを移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると，フォルダ内のテスト・セットはアルファベット順に並べられます。
[テストの選択]表示枠	[テスト計画ツリー]タブおよび[要件ツリー]タブにより，選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については，「[テストの選択]表示枠」(600ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー表示するには，[**テストを選択**]ボタンをクリックします。
[詳細]タブ	現在選択されているテスト・セットまたはフォルダの詳細を表示します。 **注：**テスト・セット・フォルダの場合，[**表示**]ボタンをクリックして追加情報を表示します。

UI 要素	説明
[実行グリッド]タブ	テスト・データをグリッドに表示します。詳細については、「[実行グリッド]タブ」(581ページ)を参照してください。
[要求されたホスト]タブ	現在選択しているテスト・セットに要求されているホストを表示します。 [要求されたホスト]タブは、機能テスト・セットのサーバ側の実行にのみ利用できます。 詳細については、「[要求されたホスト]タブ」(593ページ)を参照してください。
[実行フロー]タブ	テスト・データを図に表示します。テスト実行の条件を指定できます。詳細については、「[実行フロー]タブ」(610ページ)を参照してください。
[オートメーション]タブ	現在選択されているテスト・セットの電子メール通知ルールおよび失敗時の指示が表示されます。詳細については、「[オートメーション]タブ」(596ページ)を参照してください。
[添付]タブ	現在選択されているテスト・セットに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
[リンクされている不具合]タブ	現在選択されているテスト・セットにリンクされている不具合の一覧です。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているテスト・セットに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。
[説明]タブ	現在選択されているテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダについて説明します。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
ライブ・アナリシス	現在選択されているテスト・セット・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表現したもの。詳細については、「[ライブ アナリシス]タブ」(885ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト・セット・フォルダ

テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン

本項では、テスト・ラボ・モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[**テスト ラボ**]を選択します。
関連タスク	「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)

参照情報	• 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
フローに時間の依存関係を追加		時間依存アイコンを図に追加します。 テストの時間依存を作成するには，実行フロー内でアイコンからテストへ矢印をつなげます。標準設定の時間依存は，ALM サーバの現在の日付と時刻です。詳細については，「[実行フロー]タブ」(610ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行フロー
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
警告	テスト([テストセット]タブ>[実行グリッド])	[警告]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスの警告を表示できます。詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
レイアウトの並べ替え	テスト	テスト間の関係がわかりやすいように，実行フロー図のテストが階層レイアウトで並べられて表示されます。 **利用可能な場所**：実行フロー
サイクルに割り当て	テスト・セット	サイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てることができます。詳細については，「[サイクルを選択]ダイアログ・ボックス」(168ページ)を参照してください。
添付	<右クリック・メニュー>	[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス内の[添付]ページが開きます。テスト・インスタンスに添付ファイルを追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド

UI 要素	メニュー	説明
警告のクリア	テスト	表示されたモジュールの警告をクリアします。詳細については、「警告の使用方法」(108ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
割り当てられたサイクルをクリア	テスト・セット	テスト・セット・フォルダから、割り当てられたサイクルをクリアします。
フォローアップ・フラグをクリア	• 編集(テスト実行モジュール) • テスト(テスト・ラボ・モジュール> [実行グリッド])	選択されたテスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグをクリアします。詳細については、「[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
設定されたベースラインのクリア	テスト・セット	テスト・セットに設定されたベースラインをクリアします。 **注：** 固定されたテスト・セットをクリアすると、すべてのテスト実行がテスト・セットから削除されます。
折りたたみ	表示	選択されたフォルダの下の、テスト・セット・ツリーのフォルダを折りたたみます。 **利用可能な場所**：[テスト セット] タブ
手作業実行の続行	• テスト(テスト・ラボ・モジュール> [実行グリッド]/[実行フロー]) • テスト実行(テスト実行モジュール)	初回のテスト実行で使用されたのと同じランナーで、選択されたテストの実行を続行します。詳細については、「テストを手作業で実行する方法」(632ページ) を参照してください。
クリップボードへコピー	テスト	[実行フロー] の図をビットマップとしてクリップボードに貼り付けます。

UI 要素	メニュー	説明
URL のコピー/貼り付け	編集	選択されたテスト・セットまたはテスト実行をコピーして，そのURLをリンクとして貼り付けます。テスト・セットまたはテスト実行自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックするとALMが開き，該当するテスト・セットまたはテスト実行が表示されます。ログインしていない場合，ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
コピー/貼り付け	編集	選択されたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーして，同じプロジェクトか別のプロジェクトの別のテスト・セット・フォルダに貼り付けます。 テスト・セットを別のプロジェクトに貼り付けると，[ターゲット プロジェクトをテスト セットに貼り付け]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス」(606ページ)を参照してください。 **注：** • テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーする場合，テスト実行の情報はコピーされません。 • プロジェクト間でテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーするには，両方のプロジェクトで同じALMのバージョンとパッチ・レベルを使用している必要があります。
切り取り/貼り付け	編集	選択されたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを，テスト・セット・ツリーの別の場所に移動します。 **ヒント：**テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダは，ドラッグすることでもテスト・セット内の新しい場所に移動できます。
データプロセッサキュー	<ツールバー>	**Performance Center**：テスト実行の分析やSLAの再計算，トレンド・レポートへのテスト実行の追加を行う場合，データ処理キューにアクションが追加され，アクションがいつ実行されるのかを確認できます。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール

UI 要素	メニュー	説明
削除	編集	選択されたテスト・セット，テスト・セット・フォルダ，テスト実行を削除します。**Root** フォルダ，**未添付**フォルダ，**標準設定の**テスト・セットは削除できません。 テスト・セット・フォルダを削除すると，［フォルダ削除の確認］ダイアログ・ボックスが開き，次の削除のオプションから1つを選択できます。 • **フォルダのみ削除する**：フォルダを削除して，すべてのテスト・セットを**未添付**フォルダに移動します。未添付フォルダには，フォルダとの関連付けがなくなったすべてのテスト・セットが格納されます。 • **フォルダとテスト・セットを削除する**：フォルダとそのすべてのサブフォルダとテスト・セットが完全に削除されます。
詳細		対応する［詳細］ダイアログ・ボックスが開き，選択されたテスト・セット，テスト・インスタンス，テスト実行の詳細を表示して更新できます。 詳細については，次の項目を参照してください。 • 「［テスト セット詳細］ダイアログ・ボックス」(603ページ) • 「［テスト インスタンスの詳細］ダイアログ・ボックス」(585ページ) • 「［実行詳細］ダイアログ・ボックス」(737ページ)
テストの編集		**Performance Center**：パフォーマンス・テスト設計者が開き，選択されたパフォーマンス・テストを設計できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
手動テスト設定の有効化	テスト	手動テストを実行するたびに，ALM によって［手動テスト実行］ダイアログ・ボックスが表示されるようにします。詳細については，「［手動テスト実行］ダイアログ・ボックス」(635ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
すべて展開	表示	選択されたフォルダの下の，テスト・セット・ツリーのすべてのフォルダを展開します。

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	• テスト・セット(テスト・ラボ・モジュール) • 編集(テスト実行モジュール)	[テスト実行]タブのデータをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメント，またはテキスト・ドキュメントとしてエクスポートできます。
フィルタ	表示	テスト実行グリッドの実行のフィルタ処理とソートが実行できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール
検索	• テスト(テスト・ラボ・モジュール>[実行グリッド]) • 編集(テスト実行モジュール)	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，テスト実行グリッドのテスト実行，または[実行グリッド]のテスト・インスタンスを検索できます。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
フォルダ/テスト・セットの検索	編集	[検索]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットとテスト・セット・フォルダの検索ができます。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。 **注：** テスト・セット・ツリーにフィルタを適用している場合，ALM では，検索は現在表示されているテスト・セットに制限されます。
フロー内のテストの検索	<右クリック・メニュー>	[テスト インスタンスの検索]ダイアログ・ボックスが開き，[実行フロー]の図でテストを検索できます。 検索に成功すると，[検索結果]ダイアログ・ボックスが開きます。開いているすべてのウィンドウの上に[検索結果]ダイアログ・ボックスを表示するには，[**常に手前に表示**]ボタンをクリックします。 [検索結果]ダイアログ・ボックスの上に選択したウィンドウを表示するには，[**手前に表示しない**]ボタンをクリックします。 **利用可能な場所**：実行フロー

UI 要素	メニュー	説明
ウィンドウに合わせる	<ツールバー>	実行フローの図がウィンドウに収まるようにサイズが変更されます。 倍率オプションを選択するには，下矢印をクリックします。オプションは次のとおりです。 • 倍率レベル：[**25%**]，[**50%**]，[**150%**]，[**200%**] • **標準**：図を100%の倍率で表示します。 • **ウィンドウに合わせる**：図全体をウィンドウに表示します。 • **ユーザ定義のズーム**：[ユーザ定義のズーム]ダイアログ・ボックスを開きます。倍率を入力し，[**ズーム**]をクリックします。 **利用可能な場所**：実行フロー
フォローアップ・フラグ	• テスト（テスト・ラボ・モジュール> [実行グリッド]） • 編集（テスト実行モジュール）	[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックスが開きます。選択されたテスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグの追加または変更を行えます。詳細については，「[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックス」（111ページ）を参照してください。
テスト設定の生成	<右クリック・メニュー>	Quality Centerの以前のバージョンからアップグレードした後は，このダイアログ・ボックスで既存のテスト・インスタンスからテスト設定を作成できます。 **注意：**このオプションは，テストの移行にのみ使用します。新しいテストや移行済みのテストについては，このオプションを使用しないでください。 ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト設定の生成]ダイアログ・ボックス」（480ページ）を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
テスト計画の設定に移動	テスト	テスト計画モジュールを開き，[テスト設定]タブで選択されたテスト設定を強調表示します。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー

UI 要素	メニュー	説明
テスト計画のテストに移動	テスト	テスト計画モジュールを開き，選択したテストを強調表示します。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
テスト・セットに移動	テスト・セット	［テスト セットに移動］ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セット・ツリーでテスト・セット ID を入力して特定のテスト・セットを検索できます。 テスト・セットの**テスト・セット IDを検索するには，テスト・セット・ツリーでテスト・セットを選択し，［詳細］タブをクリックします。
タイムスロットに移動	<右クリック・メニュー>	タイムスロット・モジュールが開き，選択したテスト実行のタイムスロットが表示されます。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール ALM のエディション：タイムスロットは，**HP ALM のエディション**でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
グラフ	アナリシス	テスト・ラボ・データに作成できるグラフを一覧表示します。定義済みのグラフを選択するか，グラフ・ウィザードを起動します。 定義済みのグラフの種類の詳細については，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ) を参照してください。
グリッド・フィルタ	表示	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして［参照］ボタンを表示し，［フィルタ条件の選択］ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「［フィルタ条件の選択］ダイアログ・ボックス」(79ページ) を参照してください。
標準設定テスト・セットのホスト・マネージャ	テスト・セット	［ホスト マネージャ］ダイアログ・ボックスが開きます。リモート・テスト実行用にホストを定義できます。詳細については，「［ホスト マネージャ］ダイアログ・ボックス(標準設定のテスト・セットの場合のみ) 」(647ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
機能テスト・セットのホスト・マネージャ	テスト・セット	テスティング・ホスト・モジュールが開き，サーバ側の機能テスト・セット実行用のホストを管理，定義できます。詳細については，「テスティング・ホストの概要」(360ページ)を参照してください。
インジケータ・カラム	テスト	［実行グリッド］とテスト実行グリッドの左側に，以下のカラムが表示されます。 詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)を参照してください。
最終実行レポート	テスト	［最終実行レポート］表示枠を開きます。選択されたテストの最後のテスト実行結果を表示します。 **表示**矢印をクリックして，［最終実行レポート］を表示することもできます。 **Performance Center Edition**：［最終実行結果］表示枠が開きます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
最終実行レポート 最終実行レポート	<ツールバー>	**ALM エディション**：機能テスト・セットの場合は，選択したテスト・セットの［実行レポート］ページが開き，そのテスト・セットに属している最後の実行レポートが表示されます。実行レポート・ページの詳細については，「［実行レポート］ページ」(625ページ)を参照してください。
ライブ・アナリシス	アナリシス	［ライブ アナリシス］タブでグラフを表示するオプションを一覧表示します。グラフを追加または削除したり，表示形式を構成します。ライブ・アナリシスの詳細については，「Analysis の概要」(778ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：［ライブ アナリシス］タブ
最近の利用	アナリシス	ALM で最近表示したレポートおよびグラフを一覧表示します。最大 10 個の項目を表示します。
新規フォルダ	テスト・セット	［新規テスト セット フォルダ］ダイアログ・ボックスを開きます。選択されたフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。 **構文の例外**：フォルダの名前には，次の文字は使用できません。\ ^ *

UI 要素	メニュー	説明
テスト・セットの新規作成	テスト・セット	[新規テスト セット]ダイアログ・ボックスを開きます。選択されたフォルダにテスト・セットを追加できます。詳細については、「[新規テスト セット]ダイアログ・ボックス」(599ページ)を参照してください。
テストインスタンスの並べ替え	テスト	[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックスを開きます。[実行グリッド]または[実行フロー]におけるテストの実行順序を変更できます。詳細については、「[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックス」(649ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト セット]タブ
パフォーマンスのトレンド パフォーマンスのトレンド	<ツールバー>	**Performance Center**：My Performance Center を開き，トレンド・レポート機能を表示します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール
ベースラインに設定	テスト・セット	[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・セットをベースラインに固定できます。詳細については、「[ベースラインを選択]ページ」(241ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
プロジェクト・レポート	アナリシス	テスト・ラボ・データに作成できる定義済みプロジェクト・レポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済みのプロジェクト・レポート」(846ページ)を参照してください。 リストからレポートを選択すると，レポートのプレビューが生成されます。プレビューでは，レポート・セクションごとに最大 5 つのエンティティが表示されます。完全なレポートを生成するには，プレビューの左上隅にある[**生成**]ボタンの横の下向き矢印をクリックし，生成するレポート形式を選択します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	メニュー	説明
実行の削除	• テスト・セット(テスト・ラボ・モジュール> [実行グリッド]) • テスト実行(テスト実行モジュール)	[実行の削除]ウィザードを開きます。プロジェクトの古いテスト実行結果を削除できます。詳細については，「実行の削除ウィザード」(742ページ)を参照してください。
フローを更新	テスト	ビューが最新の情報を表示するように更新します。 **利用可能な場所**：実行フロー
更新/すべて更新	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
すべての実行条件を削除	テスト	選択されたテスト・セット内の実行条件と時刻依存すべてをまとめて削除できます。 テスト・セットに実行条件と時刻依存の両方が含まれている場合は，[すべての実行条件を削除]ダイアログ・ボックスが開きます。 テスト・セットに実行条件のみ，または時間の依存のみが含まれている場合は，確認のダイアログ・ボックスが開きます。 **利用可能な場所**：実行フロー
テストの実行条件を削除	<右クリック・メニュー>	選択された条件を示す矢印の実行条件を削除できます。 **利用可能な場所**：実行フロー
テスト・セットからテスト・インスタンスを削除	テスト	選択したテスト・インスタンスをテスト・セットから削除します。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
テストの実行条件を削除	<右クリック・メニュー>	選択されたテスト・インスタンスの実行条件をすべて削除できます。 **利用可能な場所**：実行フロー

UI 要素	メニュー	説明
時間依存の削除	<右クリック・メニュー>	テストに接続されている[**時間依存**]アイコンを右クリックし，[**時間依存の削除**]を選択して指定された時刻依存を削除します。 **利用可能な場所**: 実行フロー
名前の変更	編集	テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダの名前を変更できます。**Root** フォルダ，**未添付**フォルダ，**標準設定の**テスト・セットの名前は変更できません。
置換	• テスト(テスト・ラボ・モジュール> [実行グリッド]) • 編集(テスト実行モジュール)	[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については，「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)を参照してください。
テスト・セットのリセット	テスト・セット	[テスト セット更新の確認]ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・セットのすべてのテストのステータスを「**実行なし**」に設定できます。 テスト・セットのすべてのテスト実行結果を削除するよう ALM に指示することもできます。

UI 要素	メニュー	説明
実行 実行	テスト	**手動テストを選択すると**，次のいずれかを開いてテストを実行します。 • Sprinter がローカル・マシンにインストールされている場合，Sprinter を開きます。詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。 ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition や Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 • Sprinter がインストールされていない場合，［マニュアル ランナー］ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) を参照してください。 **2 つ以上の手動テストを選択すると**，［手動テスト実行］ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「［手動テスト実行］ダイアログ・ボックス」(635ページ) を参照してください。 **自動テストを選択すると**，［オートマティック ランナー］ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「［オートマティック ランナー］ダイアログ・ボックス」(645ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
実行 実行	テスト・セット	［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックスが開き，選択した機能テスト・インスタンスを実行できます。詳細については，「［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックス」(621ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド

UI 要素	メニュー	説明
実行画面	<右クリック・メニュー>	**Performance Center**：パフォーマンス・テストの実行画面を開き，テスト実行を表示して管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注**：テスト実行のステータスが[**実行中**]である場合のみ有効です。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール
テスト・セットの実行 テスト セットの実行	テスト・セット	**標準設定のテスト・セットの場合**： • テスト・セットに1つ以上の自動テストが含まれている場合，[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスが開いて，現在選択されているテスト・セットを実行します。詳細については，「[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス」(645ページ)を参照してください。 • テスト・セットに手動テストのみが含まれる場合，[手動テスト実行]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については，「[手動テスト実行]ダイアログ・ボックス」(635ページ)を参照してください。 **機能テスト・セットの場合**：[＜エンティティ＞の実行]ダイアログ・ボックスが開き，選択した機能テスト・セットを実行できます。詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。
テストの実行	<右クリック・メニュー>	**Performance Center**：選択したパフォーマンス・テストを実行できます。パフォーマンス・テストの実行の詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
Sprinter で実行	テスト	Sprinter を開くと，選択したテストが実行されます。詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。 ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition や Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
マニュアル・ランナーで実行	テスト	手動テストまたは自動テストを，[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスから手作業で実行します。詳細については，「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー
カラムの選択	• テスト (テスト・ラボ・モジュール > [実行グリッド]) • 表示 (テスト実行モジュール)	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き，表示するカラムとカラムを表示する順序を設定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(97ページ) を参照してください。
テストを選択 テストを選択	テスト・セット	テストを選択して，現在選択されているテスト・セットに追加できます。次のように表示します。 • [**テスト計画ツリー**] タブテスト計画ツリーからテスト・セットにテストを追加します。 • [**要件ツリー**] タブ要件ツリーからテスト・セットに要件をカバーしているテストを追加します。 詳細については，「[テストの選択] 表示枠」(600ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド，実行フロー

UI 要素	メニュー	説明
電子メールで送信	テスト実行	［電子メールの送信］ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト担当者の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「［電子メールの送信］ダイアログ・ボックス」（90ページ）を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	• 表示 • テスト（実行グリッド）	テスト・セット・ツリーまたは実行グリッドに，フィルタ処理とソートのオプションを設定できます。 次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**：［フィルタ］ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**：適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については，「［フィルタ］ダイアログ・ボックス」（68ページ）を参照してください。
テスト完全名の表示	テスト	［実行フロー］の図にテスト完全名が表示されます。標準設定では，長い名前は切り捨てられます。 **利用可能な場所**：実行フロー
実行の停止	<ツールバー>	選択した実行の実行を停止します。 **注：**選択した実行のステータスが［**初期化中**］，「**実行中**］，［**停止中**］のいずれかの状態である場合のみ有効です。

UI 要素	メニュー	説明
機能テスト・セットに切り替え/標準設定テスト・セットに切り替え	<右クリック・メニュー>	**機能テスト・セットに切り替え/標準設定テスト・セットに切り替え**：選択したテスト・セットの実行モードを変更します。標準設定と機能間でテスト・セットを切り替えます。 • 標準設定から機能にテスト・セットを切り替えると，テスト・セットの各テスト・インスタンスが変換されます。 ▪ テスト・インスタンスに［予定ホスト名］フィールドの値がなかった場合や，その値が**テスティング・ホスト**・モジュールの任意のホストと一致しない場合は，［テスティングホスト］フィールドが［自動適合］に設定され，テスト・インスタンス・タイプに従って用途が設定されます。 ▪ ［予定ホスト名］フィールドの値が**テスティング・ホスト**・モジュールのホストの1つと一致し，そのテスティング・ホストにテスト・インスタンス・タイプと一致する用途がある場合，そのテスティング・ホストがテスト・インスタンスに割り当てられます。 • 機能から標準設定にテスト・セットを切り替えると，そのテスト・セットがあるビルド検証スイートからテスト・セットが削除されます。テストが標準設定テスト・セットの一部として開始された場合，［予定ホスト名］フィールドはその元の値に復元されます。 **注：** • テスト・インスタンスのタイプによっては変換できないものがあります。標準設定から機能に変更する場合にテスト・セットにサポートされていないテストが含まれていると，変換処理がブロックされ，警告メッセージが表示されます。サポートされているテスト・インスタンスには，ビジネス・プロセス，フロー，QuickTest Professional，Service Test，システム・テスト，VAPI-XP があります。 • このボタンは，テスト・セットのタイプを変更する権限がないユーザは使用できません。

UI 要素	メニュー	説明
		• 複数のテスト・セットのタイプを一度に変更することができます。ただし，それができるのは1つのタイプ(機能または標準設定)のテスト・セットを選択している場合のみです。テスト・セット・タイプが異なるテスト・セットを複数選択した場合は，選択テスト・セット全体のテスト・セット・タイプを切り替えることはできません。
テスト・インスタンスの詳細	テスト	[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択されたテスト・インスタンスの詳細を表示して更新できます。詳細については，「[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス」(585ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：実行グリッド
テスト・セットの詳細	テスト・セット	[テスト セット詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択されたテスト・セットの詳細を表示して更新できます。詳細については，「[テスト セット詳細]ダイアログ・ボックス」(603ページ)を参照してください。
テキスト検索	編集	テスト・ラボ・モジュールのウィンドウの下部に[テキスト検索]表示枠が開き，定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：テスト実行モジュール
選択項目の更新	<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のテストのフィールド値を更新できます。詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[実行グリッド]タブ
表示	テスト	実行グリッドでテストを選択するオプションを一覧表示します。オプションは次のとおりです。 • **すべて選択** • **すべて選択解除** • **選択/非選択項目の入れ替え** **利用可能な場所**：[実行グリッド]タブ

UI 要素	メニュー	説明
ズーム	テスト	実行フローの倍率を変更します。オプションは次のとおりです。 **ズーム・イン**：表示倍率が上がり，実行フローが拡大表示されます。 **ズーム・アウト**：表示倍率が下がり，実行フローの広い範囲が表示されます。 **利用可能な場所**：実行フロー

テスト・ラボ・モジュールのアイコン

本項では，テスト・ラボ・モジュールで表示されるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト ラボ**]を選択します。
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞：タブが追加されていることを示します。
	警告：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行の警告を表示します。 • **赤の警告**：新しい警告です。 • **グレーの警告**：警告は既読です。 詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
	割り当てられたテスト・セット・フォルダ：サイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダ。
	添付：クリックすると，指定したテスト・インスタンスまたはテスト実行の添付ファイルを表示します。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が10個より多い場合は，[**他のx個の添付**]リンクをクリックして[**添付**]ページで一覧を表示します。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	フォローアップ・フラグ：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグを表示します。 • **グレーのフラグ**：新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ**：フォローアップ日です。 詳細については，「[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックス」(111ページ) を参照してください。
	リンクされている不具合：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行のリンクされている不具合を表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合] ページと[リンクされたエンティティ] ページ」(768ページ) を参照してください。
	固定されたテスト・セット：ベースラインに固定されたテスト・セット。概念の詳細については，「固定されたテスト・セット」(208ページ) を参照してください。
	テスト・セット・フォルダ：テスト・セットを整理するためのフォルダ。
	機能テスト・セット：テスト・セット・ツリーの機能テスト・セット。
	パフォーマンス・テスト・セット：テスト・セット・ツリーのパフォーマンス・テスト・セット。
	標準設定テスト・セット：テスト・セット・ツリーの標準設定テスト・セット。
	時間依存：クリックすると，テスト・インスタンスの時間依存条件を変更します。詳細については，「[時間依存] ページ」(612ページ) を参照してください。

テスト・ラボ・モジュールのフィールド

本項では，テスト・ラボ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの，[**テスト ラボ**] を選択します。

重要な情報	• テスト・ラボ・モジュールには，テスト計画，テスト設定，テスト実行の各フィールドが表示されます。 ▪ テスト・ラボ・モジュールに表示されるテスト計画フィールドの名前には，「**Test:**」プレフィックスが含まれます。追加済み。テスト計画フィールドの詳細については，「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ)を参照してください。 ▪ テスト・ラボ・モジュールに表示されるテスト設定フィールドの名前には，先頭に「**設定:**」というプレフィックスが付いています。追加済み。テスト設定フィールドの詳細については，「[テスト設定]タブ」(470ページ)を参照してください。 • テスト・ラボ・モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，フィールドのラベルの変更ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用して，テスト・ラボ・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ユーザ名の値を含むカラムを選択すると，ALM には各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索，ユーザのソート，ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け，およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については，「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」(81ページ)を参照してください。 • 以下で「テスト」として記述される場合は，1 つのテスト実行，テスト・セット実行，ビルド検証スイート実行のいずれかを指します。
参照情報	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
すべてのテストが成功	実行が正常に完了したかどうかを示します。 すべてのテスト・インスタンス実行のステータスが[**成功**]である場合にのみ Y。
割り当て対象サイクル	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクル。
平均仮想ユーザ数	テスト実行中の同時実行仮想ユーザの平均数。 **注:** Performance Center で利用できます。

UI 要素	説明
ベースライン	テスト・セットが固定されているベースライン。 ALM のエディション：ALM Essentials Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
ビルド検証スイート名	ビルド検証スイートの名前。
終了日	テスト・セットの終了予定日です。
設定：名前	選択したテスト実行に割り当てられたテスト設定の名前。
VUD を消費	テスト実行で使用されている VUD 数。 **注：** Performance Center で利用できます。
Controller	テスト実行に関わる Controller。 **注：** Performance Center で利用できます。
サイクル終了日	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの終了日。
サイクル開始日	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの開始日。
ドメイン/プロジェクト	テスト・インスタンスのドメインとプロジェクト
ドラフト実行	選択したテスト実行がドラフト実行かどうかを示します。詳細については，「ドラフト実行」(536ページ) を参照してください。 **標準設定値：** N
経過時間	テスト実行時間（秒）。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。
終了時刻	実行の終了時刻。
実行日	テストが最後に実行された日付。
実行時間	テストを最後に実行した時刻。

UI 要素	説明
ホスト	テスト実行が行われたマシンの名前。
関係する仮想ユーザ数	実行中に少なくとも一度初期化された仮想ユーザ数。 **注:** Performance Center で利用できます。
反復	**Business Process Testing**: ビジネス・プロセス・テストまたはフロー・インスタンスに対して定義された反復の説明。 **ビジネス・プロセス・テストの場合**: • **設定ベース**: 反復は，対応するテスト設定での定義に従って実行されます。 • **変更済み**: 反復が手動で編集され，テスト設定には対応していないことを示すリンクです。反復を変更するには，リンクをクリックします。 **フローの場合**: • **未定義**: 現在定義されていている反復がないことを示すリンクです。反復を指定するには，リンクをクリックします。 • **＜反復＞**: フロー・インスタンスに定義されている反復の合計数を示すリンクです。指定されている場合，実行に対して選択された反復の範囲を示します。反復を変更するには，リンクをクリックします。 **例** 2 Iterations 4 Iterations (2-3 Selected) 反復の変更に関するユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Load Generator	テスト実行に関わる Load Generator。 **注:** Performance Center で利用できます。
最大仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの最大数。 **注:** Performance Center で利用できます。
更新日時	[実行グリッド] のテストに最後に変更を加えた日時。

UI 要素	説明
開始日	テスト・セットの開始予定日。 **標準設定値**:テスト・セットが作成された場合の, 現在のデータベース・サーバの日付。
オペレーティング・システム	テストが実行されたホスト・マシン上で実行されているオペレーティング・システム。 **標準設定値**:ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システム。
OS ビルド番号	テストが実行されたホスト・マシン上で実行されているオペレーティング・システムのビルド番号。 **標準設定値**:ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システムのビルド番号。
OS サービス・パック	テストが実行されたホスト・マシンにインストールされているオペレーティング・システムのサービス・パック。 **標準設定値**:ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システムのサービス・パック。
実行予定日	テストの実行予定日。
実行予定時刻	テストの実行予定時刻。
予定ホスト名	標準設定テストを実行するマシンの名前または IP アドレス。
プロジェクト ID	テストのプロジェクト ID。

UI 要素	説明
用途	選択したテスティング・ホストから利用可能な目的，または機能テストに必要になる目的。テスティング・ホストの目的として，機能かパフォーマンスのいずれかを指定できます。 次の機能目的が利用できます。 • **Automated Business Process Testing**：Business Process Testing が実行されているホスト。 • **Unified Functional Testing**（**UFT**）：UFT が実行されるホスト。 • **QA Inspect**：QA Inspect が実行されるホスト。 • **QTP**：QuickTest Professional が実行されるホスト。 • **Service Test Runtime**：Service Test Runtime が実行されるホスト。 • **Sprinter**：Sprinter が実行されるホスト。 • **システム・テスト**：システム・テストが実行されるホスト。 • **VAPI-XP**：VAPI P が実行されるホスト。 次のパフォーマンス目的が利用できます。 • **Controller**：パフォーマンス・テストの管理に使用されるホスト。テストの実行中に，Controller は，実行するスクリプト，スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数，仮想ユーザの実行の開始時点と停止時点を含む指示を Load Generator に発行します。Controller はテストごとに 1 つしかありません。 • **Load Generator**：テスト中に仮想ユーザが実行されるホスト。特定のテストに対して任意の数の Load Generator を使用できます。 • **Data processor**：テストの実行中に収集されたデータを処理，公開するために使用されるホスト。
サイクルの残り日数	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの残り日数。
未実行テスト・インスタンス	選択したテスト・セット・フォルダの未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
テスト担当者	テスト実行担当者のユーザ名。 ［オートマティック ランナー］ダイアログ・ボックスから手動テストを自動で実行すると，ALM ではテストを実行するようユーザに電子メールで通知が送られます。
実行の詳細	テスト・インスタンス，テスト・セット，またはビルド検証の各実行に関する詳細を表示します。

UI 要素	説明
実行 ID	ALM によって実行に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。この番号は，実行開始時にシステムによって自動的に生成されます。 [**実行レポート**] グリッドの [実行 ID] フィールドをクリックすると，[**テスト実行**] モジュールのテスト・インスタンス実行に移動できます。
実行名	テスト実行の名前です。**Fast_run** は，テストを実行することなくテスト・インスタンスの [**ステータス**] フィールドがユーザによって手作業で変更された場合に，ALM によってこの実行が作成されたことを示しています。 表示されるアイコンは次のいずれかを示します。 • テスト・タイプ。詳細については，「テストのタイプ」(392ページ) を参照してください。 • Sprinter による手動テスト実行 。Sprinter の詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。
実行ステータス	[実行レポート] グリッドで，機能/パフォーマンスのテストまたはテスト・セットの実行ステータスを示します。 テスト・セットの場合，テスト・セットのステータスを示します。オプションは次のとおりです。[**オープン**]，[**クローズ**]。 テスト・インスタンスまたはテスト実行では，実行の実行ステータスを示します。オプションは次のとおりです。**Blocked**，**Failed**，**N/A**，**No Run**，**Not Completed**，**Passed**，**＜ユーザ定義＞**。 **注：** ALM Edition で使用できます。
開始日	実行の開始日。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。
開始時刻	実行の開始時刻。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。

UI 要素	説明
状態	負荷テスト実行の進行状況を示します。このフィールドに指定できる値は，次のいずれかです。 • **初期化中**: 負荷テストを開始しています。 • **実行中**: 負荷テストを実行しています。 • **停止中**: 負荷テストの停止処理を行っています。 • **実行エラー**: 負荷テストが失敗し，停止しました。 • **完了**: 負荷テストが正常に完了しました。 このフィールドは読み取り専用です。
ステータス(実行ステップ)	実行ステップの実行ステータスを示します。実行ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**: ステップは実行できません。たとえば，テストはリモート・マシンで実行されていますが，ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった，何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。 • **Failed**: ステップは失敗しました。 • **N/A**: ステップの現在のステータスは不明です。 • **No Run**: ステップは実行されていません。 • **Not Completed**: ステップは完了しませんでした。 • **Passed**: ステップは成功しました。

UI 要素	説明
ステータス(テスト・インスタンス，テスト・セット，またはビルド検証スイートの実行の場合)	テスト・インスタンス，テスト・セット，またはビルド検証スイートの実行の実行ステータスを示します。実行ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**：1つ以上のステップが実行できません。たとえば，テストはリモート・マシンで実行されていますが，ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった，何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。 • **Failed**：実行の1つ以上のステップが失敗しましたが「ブロック」のステータスを示しているものはありません。 • **N/A**：現在のステータスは不明です。ステップが存在しないか，ステップの実行ステータスが**N/A**です。 • **No Run**：ステップは実行されていません。 • **Not Completed**：1つ以上のステップが完了していないか実行されませんでしたが，**ブロック済み**または**失敗**のステータスを示しているものはありません。 • **Passed**：実行は成功しました。すべてのステップの実行ステータスが**成功**になっています。
ターゲット・サイクル	テストが割り当てられているサイクル。
一時結果のディレクトリ・パス	テスト結果が一時的に格納されるディレクトリのパス。
テスト	選択したテスト実行に関連付けられたテスト計画モジュールのテストの名前。
テスト・セット	テスト・セットの名前。
テスト・セットの終了時刻	テスト・セット実行の終了時刻。
テスト・セット ID	ALMによってテスト・セットに自動的に割り当てられる一意のID番号。
テスト・セットの開始日	テスト・セットの実行の開始日。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。
テスト・セットの開始時刻	テスト・セットの実行の開始時刻。 **注：** このフィールドは手動で編集しないでください。
テスト・セットの状態：	テスト・セットの状態。テスト・セットが特定の状態で停止する場合，変更できます。

UI 要素	説明
テスト・セット：名前	選択したテスト実行に関連付けられたテスト・セットの名前。
テスト：テスト名	選択したテスト実行に関連付けられたテストの名前。
テスト担当者	テストを最後に実行したユーザの名前。
テスティング・ホスト	選択した機能テスト・セットのテスト・インスタンスに割り当てられるテスティング・ホスト。テスティング・ホストは，プロジェクトのホスト・プールから取得されます。 ［**実行グリッド**］タブでは，特定のテスト・インスタンスのホストを指定できます。それには，［テスティングホスト］フィールドをクリックし，［**テスティングホストの選択**］ダイアログ・ボックスを使用します。詳細については，「［テスティングホストの選択］ダイアログ・ボックス」（584ページ）を参照してください。 ［**要求されたホスト**］タブで，［**自動適合ホストの追加**］ボタンまたは［**特定のホストの追加**］ボタンをクリックして，ホストを指定できます。詳細については，「［要求されたホスト］タブ」（593ページ）を参照してください。
時刻	テストを最後に実行した時刻。
タイムスロット ID	テスト実行のタイムスロットのID。
トポロジ ID	テスト実行のトポロジのID。
トポロジ名	テスト実行トポロジの名前です。
テスト・インスタンス総数	選択したテスト・セット・フォルダのテスト・インスタンスの合計数です。
タイプ	テストのテスト・タイプ。詳細については，「テストのタイプ」（392ページ）を参照してください。このフィールドは読み取り専用です。

第32章: テスト・セットの仕様

本章の内容

テスト・セットの仕様の概要 574
テスト・セットを作成する方法 576
テスト・セットのユーザ・インタフェース 580

テスト・セットの仕様の概要

テスト計画モジュールでテストを設計し終えたら，テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成してテスト実行を整理できます。テスト・セットには，プロジェクトのテストのサブセットが含まれており，テストは特定の目標を達成するように設計されています。

ALM では，さまざまな種類のテスト・セットがサポートされています。次の表では，各テスト・セット・タイプを説明します。

テスト・セット・タイプ	説明
パフォーマンス	無人のサーバ側のパフォーマンス・テストの実行のためのものです。このテスト・セットにはパフォーマンス・テストのみを追加できます。 タイムスロットをスケジュールすることで，サーバから実行するパフォーマンス・テストを準備します。タイムスロットには，テスト・セット，テスト・セットを実行するリモート・ホストの詳細，テスト・セットを実行する時間と継続期間が含まれます。パフォーマンス・テストの実行方法の詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) を参照してください。 タイムスロットの詳細については，「タイムスロットの予約の概要」(674ページ) を参照してください。 ALM のエディション : パフォーマンス・テストの実行は，ALM Edition および Performance Center Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
標準設定値	クライアント側のローカルで制御および起動された機能テストの実行のためのものです。手動テストや自動テストをテスト・セットに追加できます。 アドホックで実行する標準設定テストを準備できます。標準設定テスト・セットの実行方法の詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) を参照してください。

テスト・セット・タイプ	説明
機能	無人のサーバ側の機能テストの実行のためのものです。このテスト・セットには自動化された機能テストのみを追加できます。 タイムスロットをスケジュールすることで，サーバから実行する機能テスト・セットを準備します。タイムスロットには，テスト・セット，テスト・セットを実行するテスティング・ホストの詳細，テスト・セットを実行する時間と継続期間が含まれます。機能テスト・セットの実行方法の詳細については，「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) を参照してください。 ビルド検証スイートは，ALM の Continuous Delivery ソリューションの主要コンポーネントです。これらの環境設定は，アプリケーション開発の効率化，信頼性，および短縮化を実現する自動化されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを容易にします。このプロセスの一部としてビルド検証スイートを使用する方法の詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ) を参照してください。 タイムスロットの詳細については，「タイムスロットの予約の概要」(674ページ) を参照してください。 ALM のエディション：機能テスト・セットは ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

テスト・セットを定義すると，選択したテストのインスタンスがテスト・セットに追加されます。各テスト・インスタンスには，定義済みのテスト設定が含まれています。**テスト設定**により，同じテストを異なるシナリオで実行することができます。テスト設定の詳細については，「テスト設定の概要」(462ページ) を参照してください。

テスト・セット・ツリーでは，テスト・セットをフォルダ単位でグループ化し，階層レベルに分けてテスト・セットを整理することで，アプリケーション管理プロセスを組織化できます。

作成するテスト・セットを決定するには，アプリケーション管理プロセスの開始時に定義した目標を考慮します。これには，たとえばアプリケーションの現在の状態，新しい機能の追加や修正などがあります。

例

作成できるテスト・セットは，一般的に次のように分類されます。

テスト・セット	説明
動作確認	詳細な検査ではなく，アプリケーション全体を基礎レベルで幅広く検査することにより，アプリケーションの機能性と安定性を確認します。このセットには，アプリケーションが適切に機能するかどうかを検証する正常系の検査を含む基礎的なテストが含まれています。たとえば，Mercury Tours アプリケーションであれば，アプリケーションが開くかどうか，ユーザによるログインが可能かどうかをテストできます。
回帰	動作確認セットよりも詳細にシステムをテストします。このセットには，正常系と異常系の両方の検査を含めることができます。異常系テストは，アプリケーションで失敗が生じるようにして，アプリケーションが不適切な動作をするように行うテストです。
詳細	幅広くかつ詳細にテストを行います。このセットは，アプリケーション全体を対象とし，アプリケーションの詳細オプションもテストします。テストに十分な時間をかけることができる場合には，このセットを実行します。
機能	アプリケーションのサブシステムをテストします。テストの対象は，単一の機能でも複数の機能でもかまいません。たとえば，Mercury Tours アプリケーションの場合，機能セットは航空券予約に関するすべての作業をテストできます。

テスト・セットを作成したら，リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。サイクルは，プロジェクト・スケジュールに基づいた開発とQA のサイクルを示します。

テスト・セット内の機能テストまたはパフォーマンス・テスト・インスタンスにリモート・ホストを割り当てます。詳細については，「テスティング・ホストの概要」(360ページ)を参照してください。

ALM Essentials Edition：ベースラインに関係するフィールドや機能は，テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

テスト・セットを使った作業の詳細については，「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

テスト・セットを作成する方法

このタスクでは，テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成して定義する方法について説明します。

テスト・セットの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

- **上位タスク**：このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でテストを

実行する方法」(536ページ)を参照してください。

- **ALM Essentials Edition**：ベースラインに関係するフィールドや機能は，テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスト・セットの定義」(577ページ)
- 「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」(578ページ)
- 「テスト・セットへのテストの追加」(578ページ)
- 「テスト・インスタンスの実行設定」(579ページ)
- 「機能テスト・セットのテスト・インスタンスのホスト条件の指定」(579ページ)
- 「機能テスト・セットのホスト要求の管理」(579ページ)
- 「通知ルールの設定」(579ページ)
- 「失敗時のルールの設定」(580ページ)
- 「テスト結果サマリ・レポートのリクエスト」(580ページ)
- 「テスト・セットのベースラインへの設定(オプション)」(580ページ)

1. **テスト・セットの定義**

   フォルダおよびサブフォルダで構成されるテスト・セット・ツリーを作成することによって，テスト・セットの階層形式の枠組みを定義します。

   a. **テスト・ラボ・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの，[**テスト**]の下の[**テスト ラボ**]を選択します。

   b. **フォルダを作成します。Root** フォルダを右クリックして[**新規フォルダ**]を選択します。サブフォルダを作成するには，フォルダを右クリックして[**新規フォルダ**]を選択します。

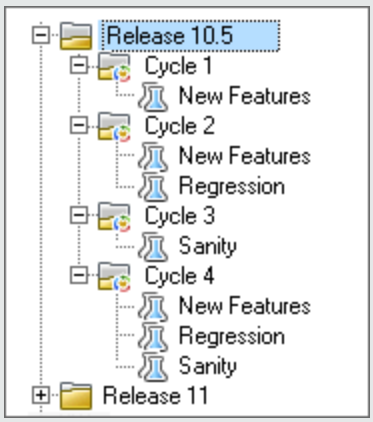
   c. **フォルダにテスト・セットを追加します。** フォルダを右クリックして[**テスト セットの新規作成**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規テスト セット]ダイアログ・ボックス」(599ページ)を参照してください。

   各種テスト・セットの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

例 :

Mercury Tours アプリケーションの Release 10.5 に追加された新しい機能をテストすると仮定します。Release 10.5 は 4 つのサイクルから構成されていて，サイクル 1，サイクル 2，サイクル 4 でリリースの新しい機能をテストします。新しい機能をテストするのに必要なテストは各サイクルで同じなので，各サイクルの新しい機能をテストする基礎として同じテスト・セットを使用します。

テスト・セット・ツリーで，リリースに対して「**Release 10.5**」フォルダを作成できます。このフォルダで，リリースの最初のサイクルに対して「**Cycle 1**」フォルダを作成します。**Cycle 1** フォルダで，リリースの新しい機能をテストするのに必要なテストを含むテスト・セット **New Features** を作成します。このテスト・セットを作成してテストを追加したら，「**Cycle 1**」フォルダをコピーして貼り付け，新しい機能をテストするほかのサイクルの基礎として使用できます。



2. **サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て**

   リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。

   テスト・セット・フォルダを右クリックして［**サイクルに割り当て**］を選択します。［サイクルの選択］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［サイクルを選択］ダイアログ・ボックス」(168ページ) を参照してください。

3. **テスト・セットへのテストの追加**

   ［**テスト ラボ**］＞［**テスト セット**］タブで，テスト・セットを選択して［**実行グリッド**］タブまたは［**実行フロー**］タブをクリックします。次に［**テストを選択**］ボタンをクリックします。［テストの選択］表示枠の次のタブからテストを追加します。

   - **テスト計画ツリー**: テスト計画ツリーからテスト・セットにテストを追加します。
   - **要件ツリー**: 要件ツリーからテスト・セットに要件をカバーしているテストを追加します。

   ［テストの選択］表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については，「［テストの選択］表示枠」(600ページ) を参照してください。

4. **テスト・インスタンスの実行設定**

> **注：** このオプションはパフォーマンス・テスト・セットには使用できません。

手動または自動のテスト・インスタンスに対するテスト・パラメータの値を，表示または設定できます。手動または自動のテスト・インスタンスを実行するリモート・ホストを選択できます。このビューでは，自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集もできます。

a. 実行グリッドまたは実行フローで，テストを右クリックし，［**テスト インスタンスの詳細**］を選択します。

b. ［**テスト インスタンスの詳細**］ダイアログ・ボックスで，サイドバーの［**実行設定**］をクリックします。実行設定ビューのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー」(589ページ)を参照してください。

5. **機能テスト・セットのテスト・インスタンスのホスト条件の指定**

> **注：** このオプションは標準設定のテスト・セットには使用できません。

ホスト予約の条件を指定することによって，テストのテスティング・ホストを割り当てます。プロジェクトのホスト・プールから特定のホストを予約できます。また，ALM に対して，プロジェクトに割り当てたホスト・プールからホストを動的に選択するための条件を指定できます。ホスト条件には，ホストの目的，場所，属性が含まれます。

a. インスタンスを選択します。

b. ［**テスト インスタンスの詳細**］ダイアログ・ボックスで，［**テスティング ホスト**］フィールドに表示されているオプションから条件セットを選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

ALM でのホストのテスト，ラボ管理 でのホストの管理の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

6. **機能テスト・セットのホスト要求の管理**

> **注：** このオプションは標準設定のテスト・セットには使用できません。

テスト・セット全体に対して要求したホストのタイプを変更するには，［**要求されたホスト**］タブを使用します。テスト・セット全体に対するホスト要求は，変更，追加，削除できます。

テスト・セットを選択して，［**要求されたホスト**］タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［要求されたホスト］タブ」(593ページ)を参照してください。

7. **通知ルールの設定**

通知ルールを設定すると，選択したイベントがテスト・セットに発生した場合に，ALM から指定したユーザに電子メールを送信するように指定できます。

通知ルールは，[**オートメーション**]タブ，[**通知**]領域で設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[オートメーション]タブ」(596ページ)を参照してください。

8. **失敗時のルールの設定**

テスト・セットに失敗時のルールを設定し，テスト・セットの自動テストが失敗した場合に ALM が実行するアクションを定義できます。

通知ルールは，[**オートメーション**]タブの[**自動テスト失敗時**]領域で設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[オートメーション]タブ」(596ページ)を参照してください。

9. **テスト結果サマリ・レポートのリクエスト**

テスト・セットの実行が完了した時点で，指定したユーザにテスト結果のサマリを電子メールで送信するよう指定できます。

詳細は，[**オートメーション**]タブの[**実行サマリ**]領域で設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[オートメーション]タブ」(596ページ)を参照してください。

10. **テスト・セットのベースラインへの設定(オプション)**

テスト・セットをベースラインに設定し，テスト・セットを選択したベースラインに保存されたテストのバージョンと関連付けることができます。

- テスト・ラボ・モジュールで，テスト・セットを右クリックして，[**ベースラインに設定**]を選択します。[ベースラインの選択]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[ベースラインを選択]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してください。
- 設定されたベースラインをクリアするには，テスト・セットを右クリックして[**設定されたベースラインのクリア**]を選択します。

設定されたテスト・セットの概念の詳細については，「固定されたテスト・セット」(208ページ)を参照してください。

テスト・セットのユーザ・インタフェース

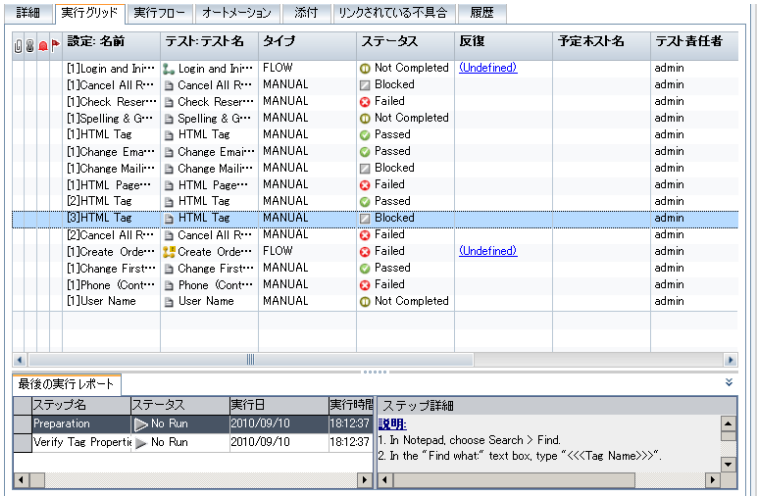
本項の内容

[実行グリッド]タブ 581
[テスティングホストの選択]ダイアログ・ボックス 584
[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス 585
テスト・インスタンスの詳細 - 実行ビュー 586
テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー 589
[要求されたホスト]タブ 593
[オートメーション]タブ 596

[新規テスト セット]ダイアログ・ボックス 599
[テストの選択]表示枠 600
[テスト セット詳細]ダイアログ・ボックス 603
[テスト失敗時]ダイアログ・ボックス 604
[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス 606

[実行グリッド]タブ

このタブは，テスト・インスタンス・データをグリッドに表示します。グリッドの各行には，レコードが個別に表示されます。[実行グリッド]で，テストを実行したり表示することができます。



アクセス方法	**テスト・ラボ**の[**テスト セット**]タブで，テスト・セットを選択して[**実行グリッド**]タブをクリックします。
関連タスク	• 「テスト・セットを作成する方法」(576ページ) • 「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
参照情報	• 「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ) • 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<テスト・ラボ・モジュールの共通の UI 要素>	• **[テスト ラボ]フィールド**：フィールドの定義については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 • **テスト・ラボのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ)を参照してください。 • **テスト・ラボのアイコン**：アイコンの説明については，「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<インジケータ・カラム>	指定されたテスト・インスタンスに添付ファイル，リンクされている不具合，警告，フォローアップ・フラグがあることを示します。詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)を参照してください。 これらのカラムを表示するには，[**テスト**]＞[**インジケータ カラム**]を選択します。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上に表示されます。
<テストの選択表示枠>	[テスト計画ツリー]タブおよび[要件ツリー]タブにより，選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については，「[テストの選択]表示枠」(600ページ)を参照してください。
条件の結果	特定の構成を使用して，選択したビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの最後の実行における条件のステータスを表示します。 このタブを表示するには，[**テスト**]＞[**最後の実行レポート**]を選択するか，**表示**の矢印ボタンをクリックします。 **注：**テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
[最終実行レポート]表示枠	選択したテスト・インスタンスの最後のテスト条件実行の結果を表示します。この表示枠を表示するには，[**テスト**]＞[**最終実行レポート**]を選択するか，[**表示**]の矢印ボタンをクリックします。 Sprinter を使ったテスト実行では，[**Sprinter Results ビューア**の起動]ボタンをクリックして開き，Results ビューアでレポートを表示します。詳細については，ビューアで[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。 ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition や Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 自動テスト・インスタンスでは，以下のいずれかも含まれます。 • LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。 • Launch Report Unified Functional Testing でレポートが開き，表示されます。QUICKTEST_TEST テスト・タイプで利用できます。 HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから Unified Functional Testing Add-in をインストールしている場合のみ，[**レポートの起動**]ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。 • **収集されたシステム情報のリンク**：[システム情報]ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなど，収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。 • **キャプチャしたデスクトップ画像**：システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。

［テスティング ホストの選択］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，機能テスト・セットでテストを実行するテスティング・ホストを選択できます。

アクセス方法	**テスト・ラボ**モジュール＞［**テスト セット**］タブで，［実行グリッド］をクリックします。グリッドからテスト・セットを選択します。グリッドまたは［**テスト インスタンスの詳細**］ダイアログ・ボックスで，［**テスティング ホスト**］フィールドの横にある下向き矢印をクリックします。
関連タスク	「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
参照情報	「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
ホスト・プロパティの選択	このテスト・インスタンスに対して要求されたテスティング・ホストを決定するために，プロパティ・セットを選択できます。ALM には，次のプロパティ・カテゴリがあります。 • **用途**：テスティング・ホストには，ホストにインストールされているテスト・ツールに基づいて 1 つまたは複数の用途を設定できます。テスティング・ホストの有効な用途の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 • **属性**：ホストのハードウェア仕様またはソフトウェア仕様に関連する属性を使用して，テスティング・ホストを定義できます。ラボ管理内からカスタム属性を追加することもできます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 • **場所**：場所プロパティを使用してテスティング・ホストが作成されます。
ホスト一致	選択したホスト・プロパティと一致する利用可能なテスティング・ホスト数が表示されます。
<ホスト選択>	条件に基づいてテスティング・ホストを選択できます。ALM には，次のようにテスティング・ホストの選択方法があります。 • **自動適合ホスト**：ALM では，［**用途**］，［**場所**］，［**属性**］の各フィールドで指定された条件に基づいてホストが自動的に割り当てられ，予約されます。詳細については，「ホストの割り当て」(679ページ) を参照してください。 • **ホストの使用**：［**用途**］，［**場所**］，［**属性**］の各フィールドで指定された条件に基づいて ALM で見つかったホストのリストから特定のホストを予約できます。

［テスト インスタンスの詳細］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，テスト・インスタンスの実行の詳細と実行結果を表示できます。テスト実行の構成情報を表示して設定することもできます。

アクセス方法	実行グリッドまたは実行フローで，テストを右クリックし，［**テスト インスタンスの詳細**］を選択します。
重要な情報	• テスト情報を変更すると，変更した内容が［実行グリッド］に反映されます。 • ［詳細］タブの任意のフィールドのラベルを変更できます。また，［詳細］タブにユーザ定義フィールドを追加することもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) • 「テスト実行の概要」(724ページ) • 「システム・テストの概要」(488ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の 次の/最後のエンティティ：［実行グリッド］のテスト・インスタンスを通して表示できるようになります。 **利用可能な場所**：この要素は，実行グリッドから［テスト インスタンスの詳細］ダイアログ・ボックスを開いた場合にのみ利用できます。
	警告：［警告］ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスの警告を表示できます。詳細については，「［警告］ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
	フォローアップ・フラグ：［フォローアップ フラグ］ダイアログ・ボックスが開き，テスト・インスタンスのフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については，「［フォローアップ フラグ］ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
説明	テスト・インスタンスの実行の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。
実行	テスト・インスタンスのすべての実行結果が表示されます。詳細については，「テスト・インスタンスの詳細 - 実行ビュー」(586ページ)を参照してください。 実行を選択し，[**実行の詳細**]ボタンをクリックして，実行の詳細結果を表示します。
実行設定	テスト・インスタンス実行の設定が表示されます。詳細については，「テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー」(589ページ)を参照してください。
添付	現在選択されているテスト・インスタンスに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
リンクされている不具合	現在選択されているテスト・インスタンスにリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示，追加，削除できます。詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト・インスタンスに行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

テスト・インスタンスの詳細 - 実行ビュー

このビューでは，テスト実行の結果を前回の実行の結果と比較できます。選択したテスト・インスタンスのすべての実行に対して，実行の詳細とステップの結果を表示できます。

アクセス方法	[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスで，サイドバーの[**実行**]をクリックします。
重要な情報	**標準設定のフィルタ**：標準設定では，グリッドは現在のカレンダーの月のみ，日付の逆順(最近のものが最初)でテスト実行を表示するようにフィルタ処理されています。このフィルタをクリアするには，値「**今月**」を[**実行日**]フィールドからクリアします。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	「[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス」(585ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	削除：選択した実行をグリッドから削除します。
	詳細：[実行詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した実行の追加の詳細を表示して更新できます。詳細については，「[実行詳細]ダイアログ・ボックス」(737ページ)を参照してください。
	更新：グリッドを更新して，選択したフィルタに基づいて最新の実行が表示されるようにします。
	フィルタ：実行レコードをフィルタ，ソート，またはグループ処理できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，表示するカラムとカラムを表示する順序を設定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	電子メールで送信：[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト担当者の電子メール・アドレス宛に選択したテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	テキスト検索：ダイアログ・ボックスの下部に[テキスト検索]表示枠が開き，定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。
手作業実行の続行	**手作業実行の続行**：手動テストの実行を再開します。詳細については，「テストを手作業で実行する方法」(632ページ)を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上に表示されます。 **<x> 件の結果を表示します。**合計レコード数のうち，現在表示されているレコード数を示します。 **<x> 件の結果を取得します。**クリックするとすべてのレコードが表示されます。

UI 要素	説明
<グリッド・フィルタ・ボックス>	カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合，現在カラムにはフィルタが適用されていません。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
コメント	現在選択されているテスト実行のコメントです。
条件の結果	特定の構成を使用して，選択したビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの最後の実行における条件のステータスを表示します。 **Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
凡例	テスト実行インスタンスの実行ステータスを示すのに使用する，カラー・コーディングを表示します。 ステータスは，次のいずれかになります。 • **Blocked**：テスト・インスタンス内の1つ以上のステップの実行ステータスが**ブロック済み**になっています。 • **Failed**：テスト・インスタンス内の1つ以上のステップの実行ステータスが**失敗**であり，**ブロック済み**になっているものはありません。 • **No Run**：テスト・インスタンス内のすべてのステップの実行ステータスが**実行なし**になっています。 • **Not Completed**：テスト・インスタンス内の1つ以上のステップの実行ステータスが**未完了**であり，**ブロック済み**または**失敗**になっているものはありません。一方，テスト・インスタンス内のステップの実行ステータスは，**成功**および**実行なし**になっています。 • **N/A**：テスト・インスタンスにステップがないか，いずれかのステップの実行ステータスが**N/A**になっています。 • **Passed**：テスト・インスタンス内のすべてのステップの実行ステータスが**成功**になっています。 • **＜ユーザ定義＞**：テスト・インスタンス内のすべての実行ステータスが，カスタマイズされたユーザ定義の同じ実行ステータスになっています。

UI 要素	説明
レポート	選択した実行の結果とテスト・ステップの詳細を表示します。 自動テスト・インスタンスでは，以下のいずれかも含まれます。 • LR Analysis 結果がLoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。 • Launch Report UFT でレポートが開き，表示されます。GUI-TEST テスト・タイプで利用できます。 HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから Unified Functional Testing Add-in をインストールしている場合のみ，[**レポートの起動**]ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。 • **収集されたシステム情報のリンク**：[システム情報]ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなど，収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。 • **キャプチャしたデスクトップ画像**：システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。

テスト・インスタンスの詳細 - 実行設定ビュー

このビューでは，手動テスト・インスタンスまたは自動テスト・インスタンスのテスト・パラメータ値の表示および設定を行うことができます。このビューでは，自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集もできます。

アクセス方法	[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスで，サイドバーの[**実行設定**]をクリックします。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	「[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス」(585ページ)

本項の内容：

- 「[パラメータ]タブ」(590ページ)
- 「[自動]タブ」(591ページ)

- 「[実行イベント]タブ」(591ページ)
- 「[テストの反復]タブ」(592ページ)
- 「[データ]タブ」(593ページ)

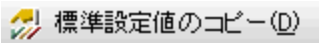
[パラメータ]タブ

このタブでは，手動テスト・インスタンスに対して実際のパラメータ値の表示または設定ができます。[パラメータ]タブには，実際の値をまだ割り当てられていない呼び出されたテストのパラメータなど，テスト・ステップで使用されるすべてのテスト・パラメータが表示されます。テスト・インスタンスでパラメータに対して割り当てる実際の値は，テスト・インスタンスのすべてのテスト実行に使用されます。

Business Process Testing：ビジネス・プロセス・テストのインスタンスの追加パラメータを表示して編集するには，「[テストの反復]タブ」(592ページ)を参照してください。

詳細については，「テスト・パラメータの概要」(436ページ)を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，表示するカラムとカラムを表示する順序を設定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	パラメータの標準設定値を，その実際の値として使用します。パラメータを選択して[**標準設定値のコピー**]ボタンをクリックします。
実際の値	テスト実行中にパラメータに使用される値です。 実際の値を追加または変更するには，[**実際の値**]カラムに値を入力します。
標準設定値	選択したパラメータの標準設定値。
説明	パラメータの説明。
パラメータ名	パラメータの名前。

[自動]タブ

このタブでは，自動テスト・インスタンスに対してパラメータの値およびその他の構成オプションを設定できます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<自動テストの構成オプション>	実行する自動テストのタイプによっては，その他の設定オプションを使用できる場合があります。詳細については，該当する自動テストのユーザ・ガイドを参照してください。
パラメータ値	各パラメータの値を表示します。 [**値**]で，パラメータ値を編集できます。変更は次のテスト実行に適用されます。

[実行イベント]タブ

このタブでは，自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集ができます。

重要な情報	失敗時のルールを変更した場合，変更内容は次回のテスト実行時に反映されます。
参照情報	テスト・セットに対して失敗時の標準設定ルールを設定するには，「[オートメーション]タブ」(596ページ)を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
再実行の前にテストをクリーンアップ	選択したテストの各再実行の前にALMが実行するクリーンアップ・テストを指定します。
テストを再実行する最大回数	失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。
失敗時	テスト実行の失敗時にALMが実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。 • **何もしない** • **テスト・セットの停止** このオプションは，機能テスト・セットには使用できません。 • **テストの再実行**[**テストを再実行する最大回数**]ボックスで指定した最大回数までテストを再実行します。

[テストの反復]タブ

このタブでは，ビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの各反復の各パラメータに対する実行時の値の表示および変更ができます。

重要な情報	このタブは，Business Process Testing でのみ利用可能です。
参照情報	タスクの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
反復の追加	**反復の追加**：エンティティ(コンポーネント，グループ，テスト，フロー)の反復を追加します。
反復の削除	**反復の削除**：エンティティ(コンポーネント，グループ，テスト，フロー)の選択した反復を削除します。
反復の選択	**反復の選択**：[反復の選択]ダイアログ・ボックスを開いて，テストの実行中に実行する定義済みの反復を選択できます。反復を1つ，すべて，または範囲で指定できます。
インポート ... エクスポート ...	**インポート/エクスポート**：反復のコンポーネント・パラメータ値を **.csv**(コンマ区切り値)ファイルからインポートできます。また，コンポーネント・パラメータの値を **.csv** ファイルに保存できます。
<値>	入力パラメータの値を表示します。関連するセルの矢印をクリックすると[値の設定]ダイアログ・ボックスが開き，値を変更できます。 値を指定しなかった場合は，そのパラメータの標準設定値が使用されます。標準設定値が指定されない場合，値は表示されず，エンティティは正しく実行されない可能性があります。 値は，文字列として保存され比較されますが，さまざまな値タイプで指定できます。 テストまたはフローのパラメータ(ビジネス・プロセス・テストまたはフローから値が取得されるパラメータ)は，**{ }** 括弧で表示されます。これは ALM に対して，パラメータを固定値ではなくパラメータとして扱うよう指示します。
<パラメータ・カラム>	表示された反復に，各パラメータの名前が表示されます。
[反復番号]カラム/行	各反復の，各パラメータの現在の実行時の値を表示します。

UI 要素	説明
パラメータの詳細	パラメータとその元のソース・エンティティ(ビジネス・コンポーネント，テスト，フロー)の説明を表示します。 パラメータの説明は，そのパラメータが作成されたモジュール(ビジネス・コンポーネント・モジュールまたはテスト計画モジュール)で最初に入力されるか，自動コンポーネントの場合はUFTで入力されます。
値のカラム	表示された反復に，各パラメータの実行時の値が表示されます。

[データ]タブ

このタブでは，ビジネス・プロセスとUFTテスト設定の動的データ設定を表示できます。

重要な情報	このタブは，動的データにアクセスするテスト設定で利用できます。詳細については，「テスト設定のデータ」(463ページ)を参照してください。 このタブに実行設定ビューからアクセスした場合，このタブの一部の情報は読み込み専用となります。

[要求されたホスト]タブ

このタブでは，機能テスト・セット実行に要求されるホストを管理できます。

アクセス方法	• **テスト・ラボ**・モジュール> [**テスト セット**]タブで，テスト・セットを選択して[**要求されたホスト**]タブをクリックします。 • **ビルド検証**モジュールで，ビルド検証スイートのツリーからビルド検証スイートを選択し，[**要求されたホスト**]タブをクリックします。

重要な情報	ALM のエディション：機能テスト・セットは ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 ■ このタブは機能テスト・セットにのみ使用できます。 ■ テスト・セットの複数のテスト・インスタンスによって特定のホストまたはホストのタイプが要求されても，各ホストまたはホスト・タイプには，1 つのホスト要求エントリしか作成されません。 ■ ホスト要求を手動で変更すると，ALM は選択されているテスト・セットまたはビルド検証スイートを**手動モード**にします。別のテストをテスト・セットに追加すると，既存ホスト要求が新規テスト・インスタンスをカバーできない場合のみ，ALM はよって新規テスト・インスタンスに対する新規テスティング・ホストが追加されます。自動コードに戻すには，[**標準設定に戻す**] ボタンをクリックします。詳細については，「機能テスト実行の概要」(616ページ) を参照してください。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)
参照情報	● 「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ) ● 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ) ● 「機能テスト実行の概要」(616ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
自動適合ホストの追加	**自動適合ホストの追加**：[自動適合ホストの選択] ダイアログ・ボックスが開き，指定した条件に基づいて新規ホスト要求を追加できます。ALM によって条件に一致するテスティング・ホストが自動的に割り当てられ，予約されます。
特定のホストの追加	**特定のホストの追加**：[特定のテスティングホストの選択] ダイアログ・ボックスが開き，特定のテスティング・ホストを要求できます。プロジェクトのホスト・プールで残りの利用可能なホストから選択できます。
ホスト要求の編集	**ホスト要求の編集**：選択したホスト要求を編集できます。
	削除：選択したホスト要求を削除します。 **注意**：特定のテスト・インスタンスに必要なホスト要求を削除すると，テストを実行できなくなります。

UI 要素	説明
標準設定に戻す	**標準設定に戻す**: • ホスト要求を標準設定状態にリセットします。ALM によって，現在の全ホスト要求が削除され，標準設定の要求セットが作成されます。テスト・セットのテスト・タイプごとに 1 つのホスト要求が作成されます。 • 選択したテスト・セットを**自動モード**に戻します。詳細については，「機能テスト実行の概要」(616ページ) を参照してください。
存在しないホストの解決	**存在しないホストの解決**：選択したテスト・セットを実行するために現在のホスト要求が十分でない場合，残りのホスト要求を自動的に生成できます。要求されたホストは，[**実行グリッド**] のテスト・インスタンスに基づいて決定されます。
	ホストに移動：テスティング・ホスト・モジュールを開いて，選択されたホストを表示します。 **利用可能な場所**：特定のホストのみ。
	すべて更新：グリッドを更新して，選択したフィルタに基づいて最新のホスト要求が表示されるようにします。
	フィルタ/ソートの設定：ホスト要求をフィルタ，ソート，またはグループ化できます。詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(68ページ) を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスのすぐ上にあります。
テスティング・ホスト	ホスト要求で指定されているホストの名前が表示されます。 このフィールドに [**自動適合**] という値が表示される場合，特定のホストが指定されていなかったことを示します。**自動適合ホスト**：ALM では，[**用途**]，[**場所**]，[**量**]，[**属性**] の各フィールドで指定された条件に基づいてホストが自動的に割り当てられ，予約されます。ALM でのテスティング・ホストの割り当ておよび予約の方法の詳細については，「ホストの割り当て」(679ページ) を参照してください。
量	ホスト要求で指定されているホストの数が表示されます。
用途	ホスト要求で指定されている用途が表示されます。詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) を参照してください。
場所	ホスト要求で指定されているホストの場所が表示されます。
属性	ホスト要求で指定されているホストの属性が表示されます。

UI 要素	説明
メッセージ	ホスト要求の検証に関連するすべてのメッセージが表示されます。 **例**： 必要なホストが予約されていないため，テスト・セットを実行できない場合，ALM によってテストを実行できないこととその理由が通知されます。

［オートメーション］タブ

このタブでは，テスト・セットの通知ルールおよび失敗時のルールを設定して，選択したイベントがテスト・セットの実行中に発生したときに ALM が実行するアクションを定義できます。たとえば，テストが失敗したときに特定のユーザに電子メールを送信したり，失敗時にテストを再実行するように ALM を準備できます。

アクセス方法	**テスト・ラボ**・モジュール＞［**テスト セット**］タブで，テスト・セットを選択して［**オートメーション**］タブをクリックします。
重要な情報	画面上のオプションは，サーバ側の実行を使用して機能テスト・セットを実行するのか，オートマティック・ランナーを使用して標準設定のテスト・セットを実行するのかによって異なります。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)
参照情報	• 「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

[自動テスト失敗時]領域

テスト・セットの自動テストが失敗した場合に，テスト・セットに失敗時のルールを設定してALMに指示することができます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
テストの再実行	失敗した場合は，自動テストを再実行するようALMに指示します。選択すると，次のオプションを利用できます。 • **テストを再実行する最大回数**：失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。 • **再実行前にテストをクリーンアップ**：各テスト再実行の前にクリーンアップ・テストを行います。 クリーンアップ・テストを選択するには，下矢印をクリックします。
最終失敗時	テスト・セット内の任意のテストにおける最後の失敗でALMのアクションを指定します。次のオプションがあります。 • **何もしない** • **テスト・セットの停止** • **テスト・セットの再実行**：[**テスト セットを再実行する最大回数**]ボックスで指定した最大回数までテスト・セットを再実行します。 **利用可能な対象**：標準設定のテスト・セットのみ。
テスト・セットを再実行する最大回数	テスト・セット内の任意のテストにおける最後の失敗で，テスト・セットの再実行を行う回数です。
テストごとに設定...	[テスト失敗時]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットの特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更できます。詳細については，「[テスト失敗時]ダイアログ・ボックス」(604ページ)を参照してください。

[通知]領域

特定のイベントが発生した場合に，指定したユーザに電子メールを送信するようALMに指示できます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<メッセージ領域>	ALMによって指定されたユーザに送信される電子メールのテキスト。

UI 要素	説明
電子メールの送信	選択したイベントのいずれかが発生した場合に，指定したユーザに通知します。次のオプションがあります。 標準設定のテスト・セットの場合： • **いずれかのテストが "失敗" ステータスで終了する。** • **環境の障害 (ネットワークの問題，ハードウェア障害など)。**環境に関係する失敗としては，関数呼び出しが戻らない，アクセス違反，アプリケーション・コンポーネント間のバージョンの不一致，DLL の不足，権限不足などがあります。 • **オートマティック・ランナーで実行対象に選択されたテストすべてが終了している。** 機能テスト・セットの場合： • **ステータスが「失敗」のテストがあれば電子メールを送信。**
送信先...	電子メールを受け取るユーザ。 有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは，[**送信先**] ボタンをクリックしてユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択します。 **注：**機能テスト・セットの場合，電子メールの送信者の標準設定はタイムスロットの作成者です。

[実行サマリ] 領域

テスト・セットの実行が完了した時点で，ALM から指定したユーザにテスト結果のサマリを電子メールで送信するよう指定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テスト・セット実行後に結果のサマリを送信	テスト・セットの実行が完了した後で，指定したユーザにテスト結果のサマリ・レポートを電子メールで送信します。
フィールドの選択...	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。実行サマリに表示するテスト実行のフィールドを指定できます。 **利用可能な対象：**標準設定のテスト・セットのみ。
送信先...	有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは，[**送信先**] ボタンをクリックしてユーザを選択します。

[新規テスト セット]ダイアログ・ボックス

このページでは，テスト・セット・フォルダにテスト・セットを追加できます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの[テスト セット]タブで，テスト・セットを選択して[**テスト セットの新規作成**]を選択します。
重要な情報	[**Root**]フォルダにテスト・セットを直接追加することはできません。最初に，[**Root**]フォルダにフォルダを追加する必要があります。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)
参照情報	• 「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
添付	テスト・セットに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
説明	テスト・セットのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 **ヒント：** このページの[説明]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新規作成するテスト・セットに割り当てる名前です。 **構文の例外：**テスト・セットの名前には，次の文字は使用できません。\ ^ , " *
テスト・セット・フォルダ	選択してあったフォルダ名を表示します。
タイプ	テスト・セット・タイプ。グループ化するテストのタイプに対応するテスト・セット・タイプを選択します。詳細については，「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ)を参照してください。

［テストの選択］表示枠

この表示枠では，テスト・セットに含めるテストを選択できます。ALM は選択したテストのインスタンスをテスト・セットに追加します。各インスタンスには，定義済みのテスト設定が含まれています。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの［テスト セット］タブで，テスト・セットを選択して［**実行グリッド**］タブまたは［**実行フロー**］タブをクリックします。次に［**テストを選択**］ボタンをクリックします。
重要な情報	• 別のテスト・セットに同じテストのインスタンスを含めたり，同じテスト・セットに複数のインスタンスを加えることができます。 • フォルダをテスト・セットに追加する場合，［テスト計画ツリー］タブまたは［要件ツリー］タブの現在のフィルタに一致するテストだけが追加されます。 • **Performance Center**：パフォーマンス・テストは，［**パフォーマンス**］テスト・セットのタイプのみ表示および追加できます。詳細については，「［新規テスト セット］ダイアログ・ボックス」（599ページ）を参照してください。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」（576ページ）
参照情報	• 「テスト・セットの仕様の概要」（574ページ） • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」（542ページ） • 「テスト設定の概要」（462ページ）

［テスト計画ツリー］タブ

テスト計画ツリーが表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択できます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	テスト・セットへのテストの追加：選択したテストのインスタンスを，選択したテストに関連付けられているテスト設定も含めてテスト・セットに追加します。 **注：** • 追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には，[インスタンスの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト設定，および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し，[**作成**]をクリックします。 • 機能テスト・セットにテストを追加しようとしている場合，パフォーマンス・テストは追加できません。 **ヒント：** • ツリーのフォルダまたはテストをダブルクリックしたり，[実行グリッド]または[実行フロー]にドラッグすることでテストを追加することもできます。 • テストの選択した設定をテスト・セットに追加するには，[テスト設定]表示枠からテスト設定を選択します。詳細については，「[テスト設定]表示枠」(478ページ)を参照してください。
	テストの詳細の表示：選択したテストの[テストの詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	モジュール・ツリーのエンティティに移動：選択したエンティティのモジュール内でそのエンティティの場所に移動し，エンティティを強調表示します。
	すべて更新：ツリーが最新の情報を表示するように更新します。
	フィルタ/ソートの設定：次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**：[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**：適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	検索：ツリーで特定のテストが検索されます。

UI 要素	説明
	ID でテストに移動：[テストに移動]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト ID に基づいてツリー内のテストを特定します。
	表示/非表示：[テスト設定]表示枠を表示/非表示します。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
[テスト設定]表示枠	選択したテスト設定をテスト・セットに追加できます。詳細については，「[テスト設定]表示枠」(478ページ)を参照してください。

[要件ツリー]タブ

要件ツリーが表示されます。要件をカバーしているテストを選択して，テスト・セットに追加することができます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	次のオプションがあります。 • **テスト処理対象の要件を追加**：選択した要件を対象としているすべてのテストを追加します。テスト・セットに関連するテスト設定が追加されます。 • **テスト処理対象の要件と子を追加**：選択した要件とその子を対象としているすべてのテストを追加します。テスト・セットに関連するテスト設定が追加されます。 **注：** 追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には，[インスタンスの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト設定，および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し，[**作成**]をクリックします。 **ヒント：** • ツリーのフォルダまたは要件をダブルクリックしたり，[実行グリッド]または[実行フロー]にドラッグすることでテストを追加することもできます。 • 選択した要件を処理対象とする，選択したテストをテスト・セットに追加するには，[テスト カバレッジ]表示枠からテストを選択します。
	要件の詳細を表示：選択した要件の[要件の詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。

UI 要素	説明
	モジュール・ツリーのエンティティに移動：選択したエンティティのモジュールのエンティティの場所に移動し，そのエンティティを強調表示します。
	すべて更新：ツリーが最新の情報を表示するように更新します。
	フィルタ/ソートの設定：次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**：[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**：適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	検索：ツリーで特定のテストが検索されます。
	ID で要件に移動：[要件に移動]ダイアログ・ボックスが開きます。要件 ID に基づいてツリー内の要件を特定します。
	表示/非表示：[テスト カバレッジ]表示枠を表示/非表示します。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
[テスト カバレッジ]表示枠	選択した要件を処理対象とする，選択したテストをテストセットに追加できます。 テストを選択し，[**テストの追加**]をクリックします。テスト・セットに関連するテスト設定が追加されます。

[テスト セット詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，テスト・セットの詳細の表示と更新ができます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュール> [テスト セット]タブで，テスト・セット・ツリーのテスト・セットを選択して[**テスト セットの詳細**]ボタンをクリックします。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)
参照情報	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	電子メールで送信：[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
説明	現在選択されているテスト・セットの詳細を表示します。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。
添付	現在選択されているテスト・セットに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
リンクされている不具合	現在選択されているテスト・セットにリンクされている不具合の一覧です。詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト・セットに行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

[テスト失敗時]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト・セット内の特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更することができます。テスト・セットの自動テストが失敗した場合にALMが実行する処理を指定できます。

アクセス方法	[オートメーション]タブの中で，[**テストごとに設定**]ボタンをクリックします。
重要な情報	このダイアログ・ボックスには，テスト・セット内の自動テストだけが表示されます。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)
参照情報	「[オートメーション]タブ」(596ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
標準値の設定	選択したテストの設定に基づいて，標準設定の失敗時のルールをリセットします。標準設定の失敗時のルールは，[**オートメーション**]タブで定義されます。
クリア	選択したテストの設定をクリアします。
	設定のコピー/設定の貼り付け：設定を1つのテストから別のテストにコピーします。 テストを選択して[**設定のコピー**]ボタンをクリックします。別のテストを選択して[**設定の貼り付け**]ボタンをクリックします。
再実行	失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。 グリッドの1つ以上のテストを選択して，ツールバーの[**再実行**]ボックスの数字を選択します。 特定のテストに対する再実行の回数を指定するには，[**再実行数**]カラムから数字を選択することもできます。
テストのクリーンアップ...	[テストを選択]ダイアログ・ボックスが開き，クリーンアップ・テストを選択できます。選択したテストの各再実行の前にALMによってクリーンアップ・テストが行われます。 グリッドで1つ以上のテストを選択して，[**テストのクリーンアップ**]ボタンをクリックします。 テスト・セットの特定のテストに対してクリーンアップ・テストを選択するには，[**再実行前にテストをクリーンアップ**]カラムの下向き矢印もクリックする必要があります。
自動テスト	[実行テスト]カラムには，選択したテスト・セットのすべての自動テストが表示されます。

[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト・セットを 1 つのプロジェクトから別のプロジェクトにコピーする方法を選択できます。

アクセス方法	1. ソース・プロジェクトで，テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを右クリックして [**コピー**] を選択します。 2. ターゲット・プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。 3. ターゲット・プロジェクトで，コピーしたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを挿入する先の下にあるテスト・セット・フォルダを右クリックして，[**貼り付け**] を選択します。
重要な情報	• テスト実行の情報はコピーされません。 • 使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが，ソース・プロジェクトとターゲット・プロジェクトで同じである必要があります。
参照情報	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テスト・フォルダをコピーして，既存の関連エンティティへリンク	ALM によりテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダがコピーされ，ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダは，同じ名前とパスを持つ既存のテスト・リソースおよび呼び出されたテストにリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合，ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
テスト・フォルダと関連エンティティをコピー	ALM により，テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが，関連するテスト・リソースおよび呼び出されたテストとともにコピーされ，ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合，名前の重複の解決のため，コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストの名前が変更されます。
関連エンティティをコピーせずにテスト・フォルダをコピー	ALM により，テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが，関連するテスト・リソースまたは呼び出されたテストをコピーすることなく，ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。

第33章: テスト実行のスケジュール

本章の内容

テスト実行のスケジュールの概要 608
テスト実行をスケジュールする方法 608
テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース 609

テスト実行のスケジュールの概要

テスト・セットにおけるテスト・インスタンスの実行を制御できます。テスト・ラボ・モジュールの[実行フロー]タブを使用すると，テストを実行する日付と時刻，およびテスト・インスタンスを実行する条件を指定できます。この**条件**は，[実行フロー]で指定した別のテスト・インスタンスの結果に基づいて設定します。条件を設定することにより，指定した別のテスト・インスタンスの実行が終了するか失敗するまで，現在のテスト・インスタンスの実行を保留することができます。また，テスト・インスタンスの実行順序を指定することもできます。

タスクの詳細については，「テスト実行をスケジュールする方法」(608ページ)を参照してください。

テスト実行をスケジュールする方法

このタスクでは，テスト実行を[実行フロー]タブでスケジュールする方法について説明します。

テスト実行のスケジュール設定の詳細については，「テスト実行のスケジュールの概要」(608ページ)を参照してください。

> **注：**このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALMでテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスト・セットの表示」(608ページ)
- 「テスト実行のスケジュール設定」(608ページ)
- 「実行フローの図の表示」(609ページ)

1. **テスト・セットの表示**

   テスト・ラボ・モジュールのテスト・ラボ・ツリーで，テスト・セットを選択します。[**実行フロー**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行フロー]タブ」(610ページ)を参照してください。

2. **テスト実行のスケジュール設定**

   a. 実行フローで，テスト・インスタンスを右クリックし，[**テスト実行のスケジュール**]を選択します。[実行スケジュール]ダイアログ・ボックスが開きます。

   b. [実行の条件]タブで，テスト・インスタンスの実行の条件を指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行の条件]ページ」(611ページ)を参照してください。

   c. [実行スケジュール]ダイアログ・ボックスで，[**時間依存**]タブをクリックします。各テスト・インスタンスを実行する日付と時刻を指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[時間依存]ページ」(612ページ)を参照してください。

例

test_2 は **test_1** に成功した場合のみ，**test_3** は **test_2** に成功した場合のみに実行するよう決定することができます。**test_1** は午前 9 時に実行するようスケジュールされます。

3. **実行フローの図の表示**

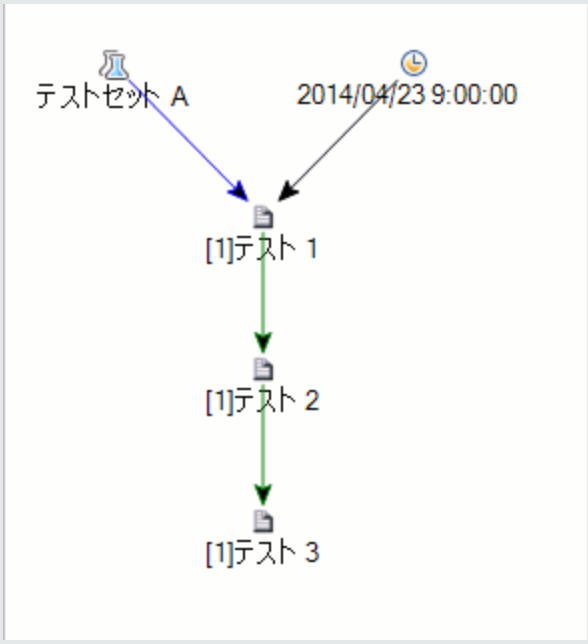
実行フローの表示方法は変更できます。これには，ズームインとズームアウト，階層レイアウトでのテストの並べ替え，図の更新，図での完全なテスト名の表示などがあります。また，図をクリップボードにコピーすることもできます。

[実行フロー]タブで利用可能なメニューとボタンのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ)を参照してください。

実行フローの図のさまざまな要素のユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行フロー]タブ」(610ページ)を参照してください。

例

スケジュール設定されたテスト実行は，[実行フロー]タブに表示されます。



テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

[実行フロー]タブ 610
[実行の条件]ページ 611

[時間依存]ページ 612

[実行フロー]タブ

このタブは，テスト・データを図に表示します。[実行フロー]タブでは，テスト・インスタンスの実行方法を制御できます。テストを実行する時期と条件を指定できます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの[テスト セット]タブで，テスト・セットを選択して[**実行フロー**]タブをクリックします。
関連タスク	• 「テスト実行をスケジュールする方法」(608ページ) • 「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
参照情報	• 「テスト実行のスケジュールの概要」(608ページ) • 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン>	テスト・ラボ・モジュールで利用可能なメニューとボタンの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ)を参照してください。
<テスト・ラボ・モジュールのアイコン>	テスト・ラボ・モジュールで利用可能なアイコンの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(562ページ)を参照してください。
<実行フローの図の領域>	テスト・インスタンスを条件とともに，図に表示します。 • 青の線の→矢印は，テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスの後に条件なしで実行されることを示します。 • 緑の線の→矢印は，テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスのステータスが[**Passed**]の場合にのみ実行されることを示します。 • 黒の線の→矢印は，テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスが実行を完了した場合にのみ実行されることを示します。 • テスト・インスタンスが日付または時刻に依存している場合，[時間依存]アイコンが図に追加されます。
<テストの選択表示枠>	[テスト計画ツリー]タブおよび[要件ツリー]タブにより，選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については，「[テストの選択]表示枠」(600ページ)を参照してください。

[実行の条件]ページ

このページでは，テストを実行する条件を指定できます。

アクセス方法	[実行フロー]タブで次のいずれかを実行します。 • テスト・インスタンスを右クリックし，[**テスト実行のスケジュール**]を選択します。[実行スケジュール]ダイアログ・ボックスが開き，[実行の条件]タブが表示されます。 • あるいは，条件を示す矢印を右クリックし，[**実行の条件**]を選択します。[実行の条件]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	**ヒント：**[実行フロー]で条件を直接追加することもできます。テスト名ではなくテスト・アイコンをクリックし，その矢印を別のテストへドラッグします。標準設定では，条件は[**完了**]に設定されています。条件を変更するには，条件の矢印をダブルクリックし，[**成功**]を選択します。
関連タスク	「テスト実行をスケジュールする方法」(608ページ)
参照情報	• 「[時間依存]ページ」(612ページ) • 「テスト実行のスケジュールの概要」(608ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	実行条件の新規作成：[実行条件の新規作成]ダイアログ・ボックスが開き，新しい実行条件を定義できるようになります。 **利用可能な場所**：[実行スケジュール]ダイアログ・ボックス＞[実行の条件]タブ。
	実行条件の編集：[実行の条件]ダイアログ・ボックスが開き，実行の条件を編集できるようになります。 **利用可能な場所**：[実行スケジュール]ダイアログ・ボックス＞[実行の条件]タブ。
	実行条件の削除：選択した実行条件を削除します。 **利用可能な場所**：[実行スケジュール]ダイアログ・ボックス＞[実行の条件]タブ。
以下の条件が成り立つ場合のみテストを実行	指定したテスト・インスタンスの実行条件。
テスト	現在のテストの依存先になるテスト・インスタンスです。

UI 要素	説明
条件	実行条件を指定します。次のオプションが含まれます。 **完了**：指定したテスト・インスタンスが実行を完了した後でのみ，現在のテスト・インスタンスを実行します。 **成功**：指定したテスト・インスタンスが実行を完了して成功した場合のみ，現在のテスト・インスタンスを実行します。
コメント	条件に関するコメント。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。 **利用可能な場所**：[実行の条件]ダイアログ・ボックス。

[時間依存]ページ

このページでは，テストを実行する時期を指定できます。

アクセス方法	[実行フロー]タブで次のいずれかを実行します。 • テスト・インスタンスを右クリックし，[**テスト実行のスケジュール**]を選択します。[時間依存]タブをクリックします。 • テスト・インスタンスに設定されている[**時間依存**]アイコンを右クリックします。[時間依存]ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	**ヒント**：テスト実行の日付と時刻のスケジュールを設定するには，[**フローに時間の依存関係を追加**]ボタンをクリックし，アイコンからテスト・インスタンスに矢印のリンクを設定します。[時間依存]ダイアログ・ボックスで時刻を設定するには，アイコンをダブルクリックします。
関連タスク	「テスト実行をスケジュールする方法」(608ページ)
参照情報	• 「[実行の条件]ページ」(611ページ) • 「テスト実行のスケジュールの概要」(608ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
随時実行	テスト実行は不特定の時刻に実行されます。

UI 要素	説明
特定の時刻に実行	テスト実行は特定の時刻に実行されます。次を指定できます。 • **日付** : テスト・インスタンスを実行する日付を指定します。 • **時間** : テスト・インスタンスを実行する時刻を指定します。

第34章: 機能テストの実行

本章の内容

機能テスト実行の概要 616
機能テストの実行方法 618
機能テスト実行のユーザ・インタフェース 620

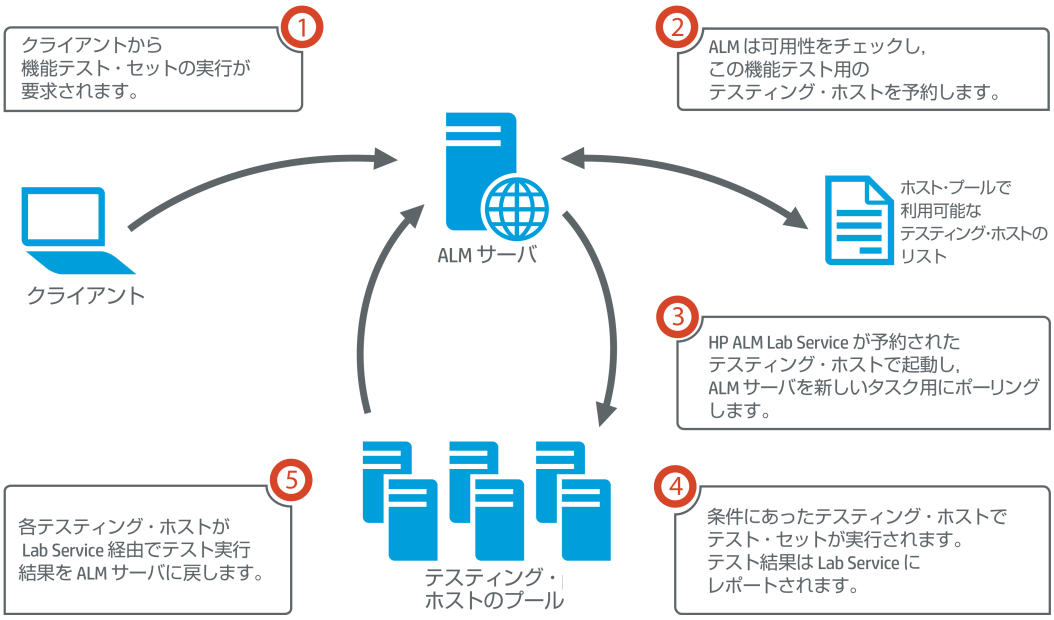
機能テスト実行の概要

ALM のエディション : 機 能 テスト実 行 は，ALM Editionのユーザのみが利 用 できます。ALM エディションとその機 能 の詳 細 については，「エディションごとの ALM の機 能 」(140ページ)を参 照してください。使 用している ALM のエディションを調 べるには，ALM サイト管 理 者 に問 い合 わせてください。

サーバ側 の機 能 テストとパフォーマンス・テストは，HP Application Lifecycle Management(ALM) から実 行 できます。サーバ側 のテストは，リモート・テスティング・ホストで実 行 されます。「**テスティング・ホスト**」とは，テスト・ツールがすでにインストールされ，ラボ管 理 に登 録 されているマシンのことです。

次 のワークフロー図 は，ALM で機 能 テスト・セット実 行 がどのように行 われるかを表 しています。

ALM での機能テストの実行



サーバ側 のテストは，ALM を使 用して直 ちに実 行 することも，リソースを予 約して後 で実 行 することもできます。

機 能 テストでは，テスト・セット全 体 ，またはテスト・セットの特 定 のテスト・インスタンスのみを実 行 できます。

サーバ側 テストは，ALM の Continuous Delivery ソリューションの主 要 コンポーネントです。これは，ビルド検 証 スイートにまとめることができるため，アプリケーション開 発 の効 率 化 ，信 頼 性 ，短 縮 化 を実 現 する自 動 化 されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを構 成 できます。ビルド検 証 スイートおよび Continuous Delivery プロセスの詳 細 については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ)を参 照 してください。

テスティング・ホストのプロパティ

機 能 テスト・セットに追 加 されたテスト・インスタンスの[**実 行 グリッド**]に，[**テスティング ホスト**]プロパティ・フィールドがあります。このフィールドを使 用して，選 択 したテスト・インスタンスを実 行 するためのテスティング・ホストで特 定 のプロパティを必 須 にすることができます。ALM では，[**用 途**]，[**属 性**]，[**場**

所］の各プロパティを定義できます。詳細については，「［テスティング ホストの選択］ダイアログ・ボックス」（584ページ）を参照してください。

ALM は，テスト・インスタンスに必要なホストを［**要求されたホスト**］タブのグリッドに追加します。

要求されたホスト

ALM はサーバ側テストまたはテスト・セットを実行するときに，［**要求されたホスト**］タブ（［**テスト**］＞［**テスト ラボ**］）のテスティング・ホストを使用します。［**要求されたホスト**］タブで選択したテスト・セットに予約されているテスティング・ホストを表示，変更，追加，削除できます。

> **注意：** ALM は，テスティング・ホスト・プールに存在するかどうかにかかわらず，ホスト要求をグリッドに追加します。テスティング・プールにないホストの要求がグリッドに含まれていると，そのテスト・セットは無効になります。

ALM は，2 つの異なるモードでテスティング・ホスト要求を管理します。

- **自動モード**：

  ALM の標準設定である**自動モード**では，テスト・インスタンスをテスト・セットに追加するたびに，ALM がこの新規のテスト・インスタンスによって要求されたホストが（特定のホストか自動適合ホストかにかかわらず）選択されているテスト・セットですでに要求されているかどうかをチェックします。新規テスト・インスタンスに［**要求されたホスト**］グリッドに存在しないホスト要求が含まれている場合，ALM はそのテスト・セットに新規テスティング・ホストを自動的に追加します。新規テスト・インスタンスに対して要求されているホストがグリッドにすでに含まれている場合は，新規ホストは追加されません。

  > たとえば，用途が VAPI-XP であるロンドンのホストに対するホスト要求がテスト・セットにすでに含まれており，用途が VAPI-XP の自動適合テストを必要とする新規テスト・インスタンスを追加すると，ALM によって自動適合ホストのグリッドに新規ホスト要求が追加されます。ロンドンのホスト要求が理論的に自動適合ホストをカバーしていても，同じではないため，ALM は新規自動適合ホスト要求をグリッドに追加します。

- **カスタム・モード**：

  選択したテスト・セットに対して要求されているホストを手動で編集できます。たとえば，プールにテスティング・ホストが 1 つしかなく，複数の異なるテスト・インスタンスをカバーできることがあります。その場合，［**要求されたホスト**］タブでホストを変更し，単一ホストのみに合わせて調整します。グリッドで変更を行うと，ALM がテスト・セットを**カスタム・モード**にします。

  カスタム・モードでは，テスト・セットの有効性を維持する必要がある場合のみ，ALM が追加のテスト・インスタンスに対する新規ホスト要求を自動的に追加します。この処理は，そのテスト・セットに対する既存のホスト要求では追加したテスト・インスタンスに対応できない場合に行われます。

  > たとえば，テスト・セットに用途が VAPI-XP である自動適合ホストに対するホスト要求がすでに含まれており，用途が VAPI-XP であるロンドンのホストを必要とする新規テスト・インスタンスを追加した場合，ALM は新規テスト・インスタンスに対するホスト要求を追加します。これは，最初の自動適合ホスト要求がロンドンのホスト要求をカバーしているとは限らないからで

す。
しかし，用途がVAPI-XPであるロンドンのホストに対するホスト要求がテスト・セットにすでに含まれており，用途がVAPI-XPの自動適合テストを必要とする新規テスト・インスタンスを追加した場合は，ALMは新規ホスト要求をグリッドに追加しません。ロンドンのホスト要求は新規テキスト・インスタンスに対して十分であるため，ALMは新規ホスト要求を追加しません。

HP ALM Lab Service

サーバ側テストを実行すると，ALMは割り当てられたテスティング・ホストにインストールされているHP ALM Lab Serviceエージェントと通信し，テストの実行を要求します。Lab Serviceエージェントはテスト結果をALMにエクスポートします。

Lab Serviceの詳細については，『HP ALMラボ管理ガイド』を参照してください。

実行レポート

機能またはパフォーマンス・テスト・セットを実行すると，[**実行レポート**]ページが開き，テスト実行の最新ステータスが表示されます。[実行レポート]ページはテスト実行モジュールからも表示できます。詳細については，「[実行レポート]ページ」(625ページ)を参照してください。

機能テストの実行方法

ALMのエディション：機能テスト実行は，ALM Editionのユーザのみが利用できます。ALMエディションとその機能の詳細については，「エディションごとのALMの機能」(140ページ)を参照してください。使用しているALMのエディションを調べるには，ALMサイト管理者に問い合わせてください。

このタスクでは，サーバ側の機能テストおよびテスト・セットを実行する方法を説明します。機能テスト実行の詳細については，「機能テスト実行の概要」(616ページ)を参照してください。

注：このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALMでのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(618ページ)
- 「機能テストの即時実行」(619ページ)
- 「機能テストを後で実行するようにスケジューリング」(619ページ)
- 「結果」(619ページ)

1. **前提条件**
   - **サーバ側のテスト実行用のテスティング・ホストを設定します。**サーバ側のテストを実行する前

に，機能テスト・セットに含まれるテストをリモート実行するためのテスティング・ホスト・マシンを設定し登録する必要があります。サーバ側テスト用のテスティング・ホストの設定については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

- **自動テストおよび機能テスト・セットを作成します。**テスト計画モジュールを使用して自動テストを作成し，テスト・ラボ・モジュールを使用してその自動テストを機能テスト・セットに組み入れます。詳細については，「テストを作成する方法」(388ページ)および「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

2. **機能テストの即時実行**

機能テスト・セットのテストは，直ちにリモート・テスティング・ホストで実行するように設定できます。

テスト・ラボ・モジュール＞［**テスト セット**］タブで，次のいずれかを実行します。

- 機能テストを選択して実行するには，テスト・セット・ツリーでテスト・セットを選択します。［**実行グリッド**］タブをクリックし，テストを1つ以上選択して［**実行**］ボタンをクリックします。

- 機能テスト・セットのすべてのテストを実行するには，機能テスト・セットを選択して，［**テスト セットの実行**］ボタンをクリックします。

さらに，システムをHP Continuous Delivery Automation(CDA)と統合していると，マシンをプロビジョニングし，動的な環境にビルド・パッケージをデプロイするようALMに指示できます。ALMとCDAの統合の詳細については，「AUT環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。

3. **機能テストを後で実行するようにスケジューリング**

機能テスト・セットのテストは，タイムスロットを使用して後で実行するように設定できます。タイムスロットをスケジュールすると，テストの実行に必要なテスト・リソースが予約されます。

詳細については，「ALMでのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」(701ページ)を参照してください。

4. **結果**

機能テストおよび機能テスト・セットの実行に対して，実行レポートが生成されます。［実行レポート］ページには，実行の一般的な詳細，テストごとの全般的な情報，テスト・セット内の個々のテストについてドリルダウンされた実行情報が含まれます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［実行レポート］ページ」(625ページ)を参照してください。

テストの実行が完了したら，テスト結果のサマリをテスト実行モジュールで表示できます。テスト・セットを実行する場合は，テスト・セット実行が［**テスト セット実行**］タブに直ちに表示されます。テスト・インスタンスが終了すると，［**テスト実行**］タブに表示されます。

テスト結果の表示の詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

機能テストに関するトラブルシューティング

- テスト・セットに要求されているテスティング・ホストが，プロジェクトのホスト・プール内で使用可能なテスティング・ホストの上限を超えている場合，テスト・セットは無効になります。[**要求されたホスト**]タブにある**メッセージ**・パネルに，テスト・リソースの不足のためテスト・セットを実行できないことを示すメッセージが表示されます。

  回避策：ホスト・プールにテスト・ホストを追加するか，[**要求されたホスト**]タブにある要求されたホストを組み合わせることができます。

- [**要求されたホスト**]タブで，テスト・セットに必要なホスト要求を削除している場合，テスト・セットは無効になります。**メッセージ**・パネルに，テスト・リソースの不足のためテスト・セットを実行できないことを示すメッセージが表示されます。

  回避策：

  - [**欠落しているホストの解決**]をクリックします。[**要求されたホスト**]タブ内のグリッドに要求されたテスティング・ホストが自動的に追加されます。
  - [**標準設定に戻す**]をクリックします。テスト・セットが自動的に[**自動モード**]にリセットされ，[**要求されたホスト**]タブ内のグリッドに要求されたテスティング・ホストが追加されます。

機能テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス 621
[推奨される継続時間]ダイアログ・ボックス 624
[実行レポート]ページ 625

[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，**機能**テスト，**パフォーマンス**・テスト，テスト・セット，ビルド検証スイートを実行できます。

アクセス方法	テスト・セットの場合，**テスト・ラボ**・モジュール＞［**テスト セット**］タブに移動します。次のいずれかの方法を実行します。 • 機能テスト・セットのすべてのテストを実行するには，機能テスト・セットを選択して，［**テスト セットの実行**］ボタンをクリックします。 • 特定の機能テストまたはパフォーマンス・テストを実行するには，テスト・セットを選択して［**実行グリッド**］タブまたは［**実行フロー**］タブをクリックします。テストを選択し，［**実行**］ボタンをクリックします。 ビルド検証スイートの場合，**ビルド検証**モジュールに移動します。ビルド検証スイートを選択し，［**ビルド検証スイートの実行**］ボタンをクリックします。
重要な情報	このダイアログ・ボックスは，パフォーマンスまたは機能テスト，テスト・セット，ビルド検証スイートのアドホック・タイムスロットを割り当てるために使用します。以下で単に「テスト」として記述される場合は，機能/パフォーマンス・テスト，テスト・セット，ビルド検証スイートのいずれかを指します。 ALM のエディション：パフォーマンス・テストは Performance Center Edition でのみ利用できます。機能テスト・セットは ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) • 「機能テストの実行方法」(618ページ)
参照情報	• 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「自動テスト実行の概要」(641ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
タイムスロットの選択	[**新規**]または[**予約済み**]を選択します。 • **新規**：新しいタイムスロットを作成できます。選択したテストに対して現在のリソースが十分でない場合，テストを実行するためにタイムスロットを予約できません。 • **予約済み**：テストに割り当てられている，または任意のテストに割り当てられていない予約済みの手動によるタイムスロットでテストを実行できます。タイムスロットが利用できない場合，テストをスケジュール設定できません。
<予約済みタイムスロットグリッド>	予約済みタイムスロットを使用する際に表示されます。 このグリッドには，自動起動ではない手動のタイムスロットのうち，現在予約済みであり，別のテストには割り当てられていないタイムスロットの詳細が表示されます。 [ステータス]フィールドには，次の値が表示されます。 • **推奨**：このユーザが作成し，選択したテスト・エンティティにリンクされているタイムスロットです。 • **OK**：このタイムスロットでテストを実行できます。 • **更新が必要です**：このタイムスロットは利用可能ですが，実行に必要なリソースがありません。このタイムスロットでテストを実行するように選択すると，必要なリソースが自動的に割り当てられます。 **注：** タイムスロットをタイムスロット・モジュールで予約しても，グリッドに表示されない場合があります。次のような原因が考えられます。 • タイムスロットが開いていない。 • タイムスロットが実行中(手動ではなく自動起動に設定されている)。 • タイムスロットに必要なリソースが割り当てられておらず，同時実行のタイムスロットが原因でリソースを割り当てることができない。 • タイムスロットの継続時間が，選択したテスト・エンティティの実行に必要な時間よりも短く設定されているため，この時間を経過すると実行できなくなる。 • タイムスロットが誤って別のテストにリンクされている。

UI 要素	説明
タイムスロットのプロパティ	**継続時間**：予約が必要なリソースの時間（時，分）。［**推奨される継続時間**］アイコンをクリックして，［推奨される継続時間］ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「［推奨される継続時間］ダイアログ・ボックス」（624ページ）を参照してください。 **タイムスロットを自動的に拡張**：有効にすると，タイムスロットが終了間近になってもまだテストが実行されている場合は，テスト・タイムスロットを自動的に延長します。タイムスロットを正常に延長するには，タイムスロットの延長で必要なテスト・リソースを使用できるようにする必要があります。詳細については，「タイムスロットの予約の延長」（677ページ）を参照してください。 **要求されたリソース**：このテストに要求されているリソース。 **仮想ユーザ**：割り当てられている仮想ユーザ数。 **注**：パフォーマンス・テストのみ。詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」（701ページ）を参照してください。 **実行後**：テストの実行が完了したときに実行されるアクション。 **注**：パフォーマンス・テストのみ。詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」（701ページ）を参照してください。 **AUT 環境設定**：テストに使用する AUT 環境設定を選択します。詳細については，「AUT 環境の使用方法」（363ページ）を参照してください。 **デプロイメント**：CDA にリンクされた AUT 環境設定を選択すると，デプロイメントの詳細がここに表示されます。CDA デプロイメントの詳細については，「AUT 環境の使用方法」（363ページ）を参照してください。 **注**：［＜エンティティ＞の実行］ダイアログ・ボックスから機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テストを実行する場合，使用できるのはデプロイされた環境だけです。
可用性の計算	**可用性の計算**：テストの実行に必要なリソースの可用性を計算し，タイムスロットを新規に作成するかどうかを確認します。
可用性の結果	可用性検証の結果を表示します。タイムスロットを予約できない場合，その理由が表示されます。
実行	選択したタイムスロットで予約されたホストを使用してテストを実行します。

[推奨される継続時間]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，これまでのサーバ側実行の継続時間記録を使用して，現在の実行に対して推奨される継続時間を取得できます。

アクセス方法	次のダイアログ・ボックスで[**推奨される継続時間**]アイコンをクリックします。 • **[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス**：詳細については，「[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス」(701ページ)を参照してください。 • **[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス**：詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。
重要な情報	• ALMは前のサーバ側実行のデータを使用して，実行の継続期間を推奨します。ALMが継続時間を提案できるのは，選択したテスト・セットまたはビルド検証スイートが少なくとも1回実行されている場合のみです。 • ALMは前の一定の継続期間に基づいて継続期間を推奨します。この数は，サイト管理の[サイト設定]タブでオプションの**SD_RUN_AMOUNT**パラメータを使って定義できます。標準設定は10回の実行です。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 実行が記録されるのは，その状態が**完了**に達したときのみです。 • この機能は，ビルド検証スイートおよび機能テスト・セットのすべての実行で使用できます。ALMは個々のテスト・インスタンスの実行に対して継続期間を推奨しません。
関連タスク	• 「ALMでテストを実行する方法」(536ページ) • 「機能テストの実行方法」(618ページ)
参照情報	• 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「自動テスト実行の概要」(641ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
過去の最長継続時間	選択した実行について，最も長かった実行記録の継続時間を使用できます。 このオプションを選択するのは，選択した実行が完了することが不可欠で，リソースが必要なその他の重要なテストがさほど多くない場合です。

UI 要素	説明
最も頻度が高い継続時間	選択した実行の実行記録の90パーセンタイルによって使用された継続時間を使用できます。これより継続時間が長かったのは，実行の中の10%のみです。 このオプションは，テスト・リソースを最も効率的に使用する場合に選択します。
推奨される継続時間	選択したオプションに基づいてALMが推奨する継続時間。[**OK**]をクリックすると，この継続時間が実行に適用されます。
最短継続時間	この実行タイプで可能な最短の継続時間が表示されます。 可能な最短継続時間は，実行タイプごとに次のようになります。 • **メンテナンス・タイムスロット**：5分 • **機能テスト・セット**：15分またはオプションの**SD_RUN_AMOUNT**サイト・パラメータ • **ビルド検証スイート**：30分 • **パフォーマンス・テスト**：30分

[実行レポート]ページ

このページでは，**機能**テスト，機能テスト・セット，およびビルド検証スイートの実行の現在の状態を表示できます。

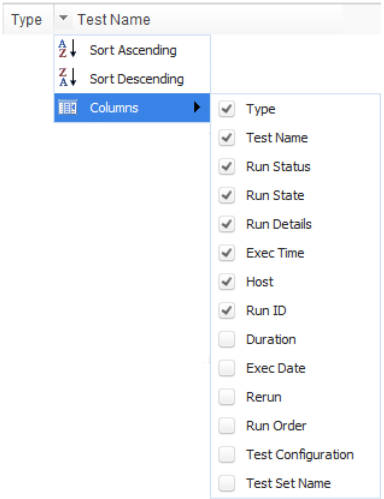
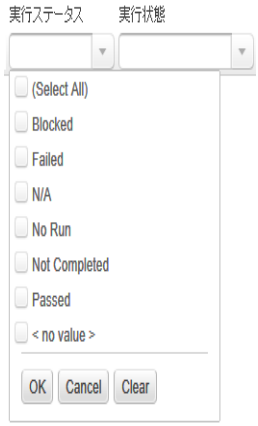
アクセス方法	機能テスト，機能テスト・セット，ビルド検証スイートのいずれかを実行すると，自動的に実行レポートが表示されます。 次のようにいくつかの方法で実行中または実行後に実行レポートを表示することもできます。 • **テスト実行**モジュールからテスト・セット実行またはビルド検証スイート実行の実行レポートを表示できます。テスト・セット，ビルド検証スイートの実行のいずれかを選択し，[**レポートの表示**]ボタンをクリックします。 • **テスト・ラボ**・モジュールの[**実行グリッド**]タブからテスト・セット実行の実行レポートを表示できます。テストを選択し，[**最終実行レポート**]ボタンをクリックします。 • ビルド検証モジュールからビルド検証スイートの実行レポートを表示できます。ビルド検証スイートを選択し，[**最終実行レポート**]ボタンをクリックします。

重要な情報	実行レポートには，実行の一般的な詳細，テスト・セットごとの全般的な情報，実行内の個々のテストについてドリルダウンされた実行情報が含まれます。 実行レポートは，機能テストおよび機能テスト・セットの実行，ビルド検証スイート実行でのみ利用できます。 ALM のエディション：[実行レポート]ページは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「AUT 環境の使用方法」(363ページ) • 「ALM でテストを実行する方法」(536ページ) • 「機能テストの実行方法」(618ページ)
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
すべて停止	実行ですべてのテストを停止できます。
イベントログ	イベント・ログが開きます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
15 秒ごと	**自動更新**：選択した間隔で実行データを自動的に更新します。
更新	実行データを更新します。
ヘルプ	[実行レポート]ページのヘルプ・トピックを開きます。
<実行の詳細セクション>	実行の詳細を表示します。詳細には次の情報が含まれます。 • 実行の名前。 • 実行を行ったユーザの名前。 • 実行の開始時刻と終了時刻。 • 実行の現在の状態。 • 実行の ID。

UI 要素	説明
環境の詳細	**注：** このセクションは，選択した実行に対して AUT 環境設定が使用された場合にのみ表示されます。 AUT 環境の詳細と状態を表示します。[**AUT 詳細**]をクリックすると，AUT 環境の詳細および CDA トポロジのドリルダウン・ビューを表示できます。[**ビルド情報**]をクリックすると，選択したビルドの詳細を表示できます。 **デプロイメント**の詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。
実行の詳細	実行に含まれるテスト・セットまたはテスト・インスタンスの詳細。
	選択した実行の停止：選択した実行を停止できます。
	実行画面：パフォーマンス・テスト実行に対してパフォーマンス・テスト実行画面が開き，テスト実行を表示，管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注：** テスト実行のステータスが[**実行中**]である場合のみ有効です。

UI 要素	説明
<実行レポート・グリッド>	この実行に含まれるテストまたはテスト・セットのリストを表示します。フィールドの定義については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 **カラムのアルファベット順ソート** カラムをアルファベット順でソートするには、カラム見出しの右上隅にマウスを置いたときに表示されるドロップダウン矢印をクリックします。ここでカラムを選択または選択解除することで、カラムを追加したり、グリッドからカラムを削除したりすることもできます。  **カラムのフィルタリング** カラムをフィルタ処理するには、テキスト・ボックスにフィルタ文字列を入力するか、カラム見出しの下にある矢印をクリックします。 
実行の詳細	[実行の詳細]フィールドを大きい領域に表示します。

第35章: 標準設定のテストの実行

本章の内容

標準設定のテスト実行の概要 630
手動テストの実行 630
自動テスト実行 641

標準設定のテスト実行の概要

クライアント側の自動と手動のテストおよびテスト・セットは，ALMの使用バージョンとは関係なくHP Application Lifecycle Management(ALM)から実行できます。

手動テストは，Sprinterまたはマニュアル・ランナーを使用して，ALMの標準設定のテスト・セットから実行できます。ALMでの手動テストの実行の詳細については，「手動テストの実行」(630ページ)を参照してください。

自動テストは，オートマティック・ランナーを使用して，ALMの標準設定テスト・セットから実行できます。ALMでの自動テストの実行の詳細については，「自動テスト実行」(641ページ)を参照してください。

手動テストの実行

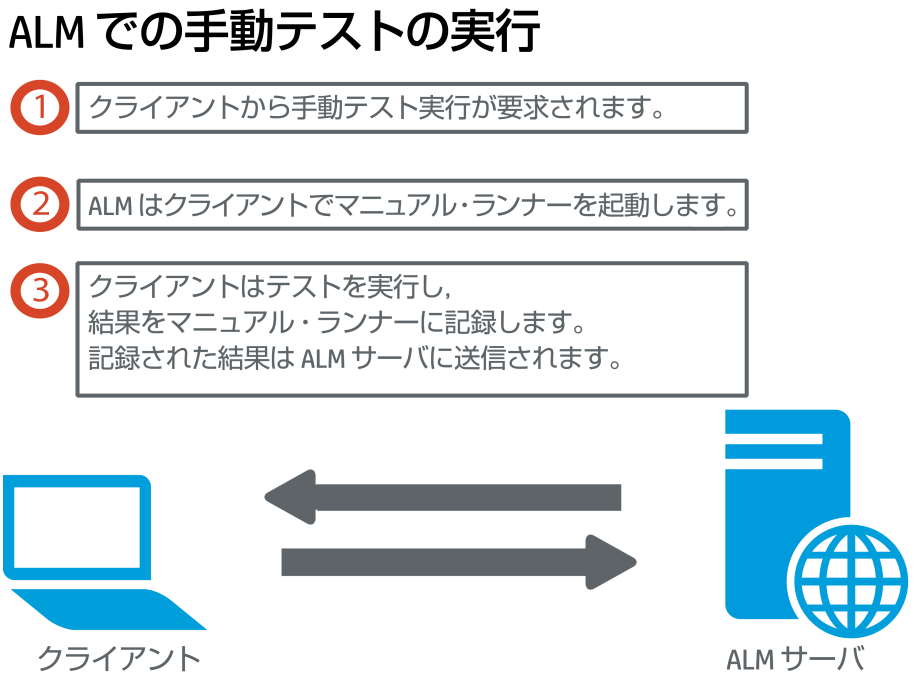
本項の内容

手動テストの実行の概要 630
HP Sprinter概要 631
テストを手作業で実行する方法 632
手動テスト実行のユーザ・インタフェース 635

手動テストの実行の概要

標準設定のテスト・セットを手作業で実行する場合，テスト・ステップに従って，テスト対象のアプリケーションを操作します。実際アプリケーションの結果が期待される結果と一致しているかどうかによって，各ステップの成功または失敗を判定します。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

次のワークフロー図は，ALMで機能テスト・セット実行がどのように行われるかを表しています。



同じセットのテストを何回も実行できます。それぞれの実行が，新しいテスト実行と見なされます。また，実行中に停止された手動テストの実行を再開することもできます。

テスト実行中にテスト・ステップを変更する場合，変更を元のテストに保存するか，テスト・インスタンスに保存するかを選択できます。あるいは，現在のテスト実行に対してのみ保存することもできます。

テスト実行が完了した後は，すべてのテスト実行の結果の結果の要約を表示して，各テスト・インスタンスのより詳細な結果を表示できます。

ALM では，HP Sprinter または HP の手動テストのソリューションを使用して，テストを手作業で実行できます。詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ)を参照してください。

Sprinter を使用しない場合は，マニュアル・ランナーを使用します。

タスクの詳細については，「テストを手作業で実行する方法」(632ページ)を参照してください。

HP Sprinter概要

HP Sprinter を使用して HP Application Lifecycle Management(ALM) から手作業でテストを実行します。Sprinter により，手作業のテスト・プロセスにおいて役立つ高度な機能およびツールが使用できます。Sprinter は ALM と完全に統合されており，両方のソリューションから最大限のメリットが得られます。

- ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

- Sprinterを使用していない場合は，マニュアル・ランナーを使用して手作業で実行できます。

手動テストでは多くの場合，テストに関連するタスクを完了するためにテスト・アプリケーションを実行したままにしておく必要があります。たとえば，グラフィック・ソフトウェアを使用してアプリケーションの画面キャプチャを撮影する必要があります。テスト中アプリケーションのムービーを記録しても良いかもしれません。不具合を報告するために不具合を追跡するソフトウェアに切り換える必要もあります。

Sprinterではこれらの手作業のテスト・プロセスの必要性に応え，テスト・フローを阻害することなく，これらのタスクを完了できます。Sprinterでは，手動テストの多くの反復的で冗長的なタスクを自動的に実行することもできます。Sprinterには，不具合を検出して送信するのに役立つ数多くのツールが含まれています。これらの機能により，手動テストに必要なすべてのタスクを，テスト作業の中断を最小限にしながら実行できます。

Sprinterでは，次の事ができます。

- 画面キャプチャを作成して注釈をつける
- テスト実行のムービーを撮影する
- テスト・アプリケーション上でマクロを記録して実行する
- アプリケーションのフィールドに自動的にデータを入力する
- 送信する不具合に，ステップまたはユーザ操作のリストを自動的に含める
- ユーザ操作を複数のマシンに異なる構成で複製する

Sprinterのインストールおよび作業の詳細については，『HP Sprinter Readme』および『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。HP Application Lifecycle Managementの[アドイン]ページから入手できます。ALMの[アドイン]ページには，[**ヘルプ**]＞[**アドイン**]からアクセスできます。

SprinterのALM標準設定のカスタマイズの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ALMでSprinterを使用してテストを手作業で実行するには，「テストを手作業で実行する方法」(632ページ)を参照してください。

テストを手作業で実行する方法

このタスクでは，テストを手作業で実行する方法について説明します。

手作業のテスト実行の詳細については，「手動テストの実行の概要」(630ページ)を参照してください。

注：

- このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALMでテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

- ALM のエディション：本項で説明するSprinter の機能は ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(633ページ)
- 「Sprinter を使用したテストの実行」(633ページ)
- 「[マニュアル ランナー] ダイアログ・ボックスからテストを実行する」(633ページ)
- 「テスト実行中にステップを変更する」(634ページ)
- 「マニュアル・テストの実行を再開する」(634ページ)
- 「結果」(635ページ)

1. **前提条件**

   手動によるテスト・プロセスで役に立つ高度な機能やさまざまなツールを利用するために，HP Sprinter でテストを実行します。Sprinter の詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。

   Sprinter でテストを実行するには，クライアント・マシンに Sprinter をインストールする必要があります。Sprinter をダウンロードしてインストールするには，[**ヘルプ**] > [**アドイン**] を選択して HP Application Lifecycle Management の [アドイン] ページを開きます。

2. **Sprinter を使用したテストの実行**

   Sprinter がコンピュータにインストールされている場合，テスト・ラボ・モジュールから Sprinter でテストを手作業で実行できます。

   テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを選択し，[**実行グリッド**] タブをクリックします。

   - 特定の 1 つの手動テストを実行するには，対象のテストを選択して [**実行**] ボタン 実行 をクリックします。
   - 2 つ以上の手動テストを実行するには，このテストを選択します。[**実行**] ボタンの隣のドロップダウン矢印 をクリックして，[**Sprinter で実行**] を選択します。

   Sprinter の作業の詳細については，HP Application Lifecycle Management の [アドイン] ページの『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3. **[マニュアル ランナー] ダイアログ・ボックスからテストを実行する**

   Sprinter を使用していない場合は，[マニュアル ランナー] ダイアログ・ボックスからテストを手作業

で実行できます。

a. ［**テスト ラボ**］モジュールの［**テスト セット**］タブで，テスト・セットを選択して［**実行グリッド**］タブまたは［**実行フロー**］タブをクリックします。テストを選択し，［**実行**］ボタンの隣のドロップダウン矢印をクリックして，［**マニュアル ランナーで実行**］を選択します。

マニュアル・ランナーウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については，「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ)を参照してください。

ビジネス・プロセス・テストのマニュアル・ランナー・ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

b. テスト対象のアプリケーションを起動し，テストのステップを実行します。テスト・ステップの説明に詳述されている指示に従います。

c. 実際の結果を期待される結果と比較します。ステップの実行時に，期待される結果に従ってアプリケーションが応答しているかどうかを確認します。

d. 期待される結果と実際の結果との一致，不一致によって，成功または失敗というステータスを各ステップに割り当てます。

e. ステップが失敗した場合は，アプリケーションから実際にどのような応答があったかを記述しておいてください。1つ以上のステップが失敗すると，テストは失敗となります。

4. テスト実行中にステップを変更する

マニュアル・ランナーを使用してテストを実行している間，テスト・ステップの追加，削除，変更ができます。テスト実行が終了したら，デザイン・ステップを保存して，変更内容を反映させることができます。

手作業で実行中に，［**マニュアル ランナー ステップの詳細**］ページからテスト・ステップを変更します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「マニュアル・ランナー：［ステップの詳細］ページ」(639ページ)を参照してください。

5. マニュアル・テストの実行を再開する

実行中の手動テストを一時停止した場合，後で実行を再開することができます。これにより，初回のテスト実行で使用されたのと同じランナー(Sprinter またはマニュアル・ランナー)で，テストの実行を続行できます。

次のいずれかを実行します。

- ［実行グリッド］タブまたは［実行フロー］タブで，実行を再開するテストを選択し，［**テスト**］＞［**手作業実行の続行**］を選択します。または，［**実行**］ボタンの矢印をクリックし，［**手作業実行の続行**］を選択します。

> **注：**これにより，選択したテストの最後の実行から続行します。前回の実行を再開するには，［**テスト インスタンスの詳細**］ボタンをクリックし，サイドバーの［**実行**］を選択し，再開す

るテストを選択します。[**手作業実行の続行**]ボタンをクリックします。

- **テスト実行**モジュール> [**テスト実行**]タブで，再開するテスト実行を選択して[**手作業実行の続行**]ボタンをクリックします。

実行グリッドで複数のテスト・インスタンスを選択するか，[テスト実行]タブで複数の実行を選択すると，選択したすべての実行が続行されます。ただし，グリッドで最後に選択したテストをSprinterで実行した場合，その実行のみが続行されます。

6. **結果**

テストの実行が完了したら，次のモジュールにテスト結果のサマリを表示できます。

- **テスト・ラボ**：それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが[実行グリッド]に表示されます。各テスト・ステップの結果は，[**最終実行レポート**]表示枠に表示されます。[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスでは，さらに詳細な結果を確認できます。

- **テスト実行**：プロジェクトのそれぞれのテスト実行に関する最新のステータスが表示されます。テスト実行の詳細に基づいてレポートを生成できます。

テスト結果の表示の詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

手動テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

[手動テスト実行]ダイアログ・ボックス 635
マニュアル・ランナー・ウィザード 636

[手動テスト実行]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テストの実行に，Sprinterマニュアル・ランナー，またはオートマティック・ランナーを使用するかを選択できます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュール> [テスト セット]タブで，テスト・セットを選択して次のいずれかを実行します。 • 手動テストだけを含むテスト・セット全体を実行するには，[**テスト セットの実行**]ボタンをクリックします。 • [**実行グリッド**]タブまたは[**実行フロー**]タブで，2つ以上の手動テストを選択して[**実行**]ボタンをクリックします。
関連タスク	「テストを手作業で実行する方法」(632ページ)
参照情報	「手動テストの実行の概要」(630ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
Sprinter	Sprinter が開き，実行グリッドに表示されている順序に従って，選択されたテストが手作業で実行されます。Sprinter の詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ) を参照してください。 このオプションは，Sprinter がコンピュータにインストールされている場合にのみ表示されます。 ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
マニュアル・ランナー	選択されたテストを，[Manual Runner] ダイアログ・ボックスから [実行グリッド] に表示された順序で手作業で実行します。マニュアル・ランナーの詳細については，「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) を参照してください。
オートマティック・ランナー	実行フローで定義された条件に従って，選択されたテストを自動的に実行します。自動テストの実行の詳細については，「[オートマティック ランナー] ダイアログ・ボックス」(645ページ) を参照してください。
このメッセージを表示しない	ALM に対して，最初にこのダイアログ・ボックスを表示することなしに，手動テストを実行するよう指定します。このダイアログ・ボックスを再度有効にするには，[**テスト**] > [**手動テスト設定の有効化**] を選択します。

マニュアル・ランナー・ウィザード

このウィザードにより，テストを手作業で実行できます。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの [テスト セット] タブで，テスト・セットを選択して [**実行グリッド**] タブまたは [**実行フロー**] タブをクリックします。1 つ以上のテストを選択し，[**テスト**] > [**マニュアル ランナーで実行**] を選択します。
関連タスク	「ALM でテストを実行する方法」(536ページ)
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「マニュアル・ランナー：[実行の詳細] ページ」(637ページ) > 「マニュアル・ランナー：[ステップの詳細] ページ」(639ページ)
参照情報	• 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「手動テストの実行の概要」(630ページ) • 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』

マニュアル・ランナー：[実行の詳細]ページ

このウィザード・ページにより，実行の詳細を確認してテストを手作業で実行できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) • [**ドラフト実行**]フィールドを使用して，テスト・インスタンスをドラフト実行として実行できます。詳細については，「ドラフト実行」(536ページ)を参照してください。 • ビジネス・プロセス・テストまたはフローを実行する場合は，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』も参照してください。
ウィザード・マップ	「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ)には次のものが含まれます。 「マニュアル・ランナー：[実行の詳細]ページ」(637ページ) > 「マニュアル・ランナー：[ステップの詳細]ページ」(639ページ)
参照情報	「手動テストの実行の概要」(630ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
実行開始	テスト実行を開始します。 実行しているテストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は，[Parameters of Test]ダイアログ・ボックスが表示されます。パラメータの実際の値を割り当てます。詳細については，「[呼び出されたテスト パラメータ]/[テストのパラメータ]ダイアログ・ボックス」(443ページ)を参照してください。 **Business Process Testing**：実行しているビジネス・プロセス・テストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は，[テストのパラメータ]ダイアログ・ボックスは表示されません。代わりに，[マニュアル ランナー：ステップの詳細]ページの[パラメータ]表示枠に実際の値を指定します。[ステップの詳細]ページ
実行の終了	テスト実行を終了します。ALM によってテスト実行が保存されます。
実行のキャンセル	テスト実行を取り消します。 このテストをテスト・セットの一部として実行している場合，確認ダイアログ・ボックスが開きます。残りのテストの実行をキャンセルするかどうかの選択を求めるプロンプトが表示されます。[**現在のテスト実行を保存**]を選択またはクリアすると，現在のテスト実行を保存または破棄できます。

UI 要素	説明
	実行に添付：[添付ファイル]ページが開き，添付ファイルを表示してテスト実行に追加できるようになります。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
	新規不具合：[新しい不具合]ダイアログ・ボックスが開き，テスト実行に新しい不具合を追加できるようになります。詳細については，「[新規不具合]ダイアログ・ボックス」(764ページ)を参照してください。テスト実行と新しい不具合のリンクが自動的に作成されます。詳細については，「不具合のリンク」(748ページ)を参照してください。 選択されたテスト実行のリンクされた不具合を表示するには，[**新規不具合**]の矢印をクリックして[**リンクされた不具合**]を選択します。
OS 情報	**オペレーティング・システム情報**：[オペレーティングシステム情報]ダイアログ・ボックスが開きます。次を編集できます。 • **オペレーティング・システム**：テスト・ステップを実行するマシンのオペレーティング・システムです。標準設定では，ALMクライアント・マシンのオペレーティング・システムが表示されます。 • **OS サービス・パック**：オペレーティング・システムのサービス・パックです。 • **OS ビルド番号**：オペレーティング・システムのビルド番号です。
実行の詳細	テスト実行の詳細を表示します。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。
[コメント]タブ	現在のテスト実行のコメントです。[**コメントを追加**]をクリックしてコメントを追加します。
テストの詳細	[テストの詳細]ダイアログ・ボックスが開き，テストの詳細を表示できます。詳細については，「テスト計画モジュールのウィンドウ」(394ページ)を参照してください。

マニュアル・ランナー：［ステップの詳細］ページ

このウィザード・ページでは，各ステップの成功または失敗のステータスを設定し，実行中にステップを追加，削除，変更できます。テスト実行が終了したら，デザイン・ステップを保存して，変更内容を反映させることができます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) • テストの実行中にテスト・ステップを変更でき，変更はテスト計画モジュールで元のテストに，テスト・ラボ・モジュールでテスト・インスタンスに保存するように選択できます。あるいは，現在のテスト実行に対してのみ保存することもできます。 • テスト・ラボ・モジュールでは，呼び出されたテストに加えられた変更を現在のテストにおいてのみ更新できます。呼び出されたテストは，何の影響も受けません。呼び出し先のテストの詳細については，「［デザイン ステップ］タブ / ［デザイン ステップの詳細］ダイアログ・ボックス」(451ページ) を参照してください。 • ビジネス・プロセス・テストを実行する場合は，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ウィザード・マップ	「マニュアル・ランナー・ウィザード」(636ページ) には次のものが含まれます。 「マニュアル・ランナー：［実行の詳細］ページ」(637ページ) > 「マニュアル・ランナー：［ステップの詳細］ページ」(639ページ)
参照情報	• 「手動テストの実行の概要」(630ページ) • 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	ステップの追加：標準設定のステップ名の付いた新しいステップがテストに追加されます。［**説明**］ボックスに，新しいステップに関する詳細を入力できます。 ビジネス・プロセス・テストとフローでは，**利用できません。**
	選択項目の削除：選択したステップを削除する。 ビジネス・プロセス・テストとフローでは，**利用できません。**
	成功にする：選択したテスト・ステップのステータスを「**成功**」に変更します。すべてのテスト・ステップをまとめて成功にするには，［**成功にする**］ボタンの矢印をクリックし，［**すべて成功にする**］を選択します。

UI 要素	説明
	失敗にする：選択したテスト・ステップのステータスを「**失敗**」に変更します。すべてのテスト・ステップをまとめて失敗にするには，［**失敗にする**］ボタンの矢印をクリックし，［**すべて失敗にする**］を選択します。
	パラメータを表示：［テスト実行のパラメータ］ダイアログ・ボックスが開き，テストのパラメータの値を表示できるようになります。詳細については，「［パラメータ］タブ / ［パラメータ］ダイアログ・ボックス」（438ページ）を参照してください。
	ステップに添付：［添付ファイル］ページが開き，添付ファイルを表示してテスト・ステップに追加できるようになります。詳細については，「［添付］ページ」（94ページ）を参照してください。 テスト実行全体に添付ファイルを追加するには，［**添付**］ボタンの矢印をクリックし，［**実行に添付**］を選択します。
	新規不具合：［新規不具合］ダイアログ・ボックスが開き，不具合をステップに追加できるようになります。ALM によってテスト・ステップと新しい不具合が自動的に関連付けられます。詳細については，「［新規不具合］ダイアログ・ボックス」（764ページ）および「不具合のリンク」（748ページ）を参照してください。 選択されたテスト・ステップのリンクされた不具合を表示するには，［**新規不具合**］の矢印をクリックして［**リンクされた不具合**］を選択します。
	常に手前に表示：マニュアル・ランナーの［ステップの詳細］ダイアログ・ボックスを，開いたウィンドウすべての手前に表示する。 選択したウィンドウを，マニュアル・ランナーの手前に表示するには，［ステップの詳細］ダイアログ・ボックスで［**手前に表示しない**］ボタンをクリックします。
	簡略表示：このダイアログ・ボックスを簡略表示で開き，各ステップを確認しながら結果を記録することができます。 ステップ・グリッドに戻るには，［**ステップ グリッドへ戻る**］ボタンをクリックします。
<次でフィルタ>	［**ステータス**］カラムに従い，テストのステップをフィルタします。 ビジネス・プロセス・テストとフローでは，**利用できません。**
	実行の終了：実行を終了する。 実行中にテスト・ステップを追加，削除，変更した場合は，確認のボックスが開きます。次のいずれかを選択します。 • **はい**。変更が保存され，テスト計画およびテスト・ラボ・モジュールのテストが更新されます。 • **いいえ**。現在のテスト実行に対してのみ変更が保存されます。
	前のステップ：前のステップにジャンプします。 **利用対象**：ALM簡略表示での手動テスト，フロー，ビジネス・プロセス・テスト

UI 要素	説明
	次のステップ：次のステップにジャンプします。 **利用可能な対象**：ALM 簡略表示での手動テスト，フロー，ビジネス・プロセス・テスト
<グリッド・インジケータ>	他のオブジェクトがステップに関連付けられているかどうかを示します。 • 添付ファイルがステップに関連付けられています。 • **Business Process Testing**：スナップショットがステップに関連付けられています。
<グリッド・フィールド>	テスト・ステップの詳細を表示または変更します。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 **Business Process Testing**：ビジネス・プロセス・テストまたはフローを実行すると，階層形式の展開可能なツリーのグリッドにコンポーネント，フロー，グループ，反復も表示されます。
説明	選択したテスト・ステップの説明。
期待	選択したテスト・ステップの期待される結果。
実際	選択したテスト・ステップの実際の結果。

自動テスト実行

本項の内容

自動テスト実行の概要 641
テストを自動で実行する方法 642
Unified Functional Testing(UFT) GUI テストの実行方法 644
自動テスト実行のユーザ・インタフェース 645

自動テスト実行の概要

標準設定テスト・セットのテストは，HP Application Lifecycle Management(ALM) から自動的に実行できます。テストは，自分のマシンでもリモート・テスティング・ホストでも実行できます。「**テスティング・ホスト**」とは，テスト・ツールがすでにインストールされ，ネットワークに接続されているマシンのことです。

サーバ側の実行を使用し，テストの実行中にユーザの介在が不要な機能テスト・セットとは異なり，標準設定テスト・セットは，クライアント側の実行を使用し，テスト実行の開始と管理をユーザが行う必要があります。

自動テストと手動テストの両方を含む，テスト・セット内のすべてのテストを実行することも，特定のテストを実行することもできます。

- 自動テストを実行すると，選択されているテスト・ツールがALMによって自動的に起動され，ローカル・マシンまたはリモート・ホストでこのテストが実行され，結果がALMにエクスポートされます。
- [オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスから手動テストを実行すると，指定したホストでテストを実行するよう，ALMでは指定したテスト責任者宛に電子メールで通知が送られます。

また，システム情報の取得，デスクトップ画像のキャプチャ，またはマシンの再起動を行う自動システム・テストも実行できます。システム・テストの詳細については，「システム・テストの概要」(488ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「テストを自動で実行する方法」(642ページ)を参照してください。

テストを自動で実行する方法

このタスクでは，標準設定のテスト・セットを自動的に実行する方法について説明します。自動テストの実行の詳細については，「自動テスト実行の概要」(641ページ)を参照してください。

> **注：** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALMでテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(642ページ)
- 「テスト実行のスケジュールと順序」(643ページ)
- 「標準設定のテスト・セットの自動実行」(643ページ)
- 「結果」(643ページ)

1. **前提条件**
   - **リモート・テスト実行用にホストを設定します。** テストを自動実行する前に，自動テストのリモート実行用にホスト・コンピュータを設定し，手動テストの実行用にテスト責任者を割り当てる必要があります。

     > **注：** UFT GUIテストの実行に関する重要な情報については，「Unified Functional Testing(UFT) GUIテストの実行方法」(644ページ)を参照してください。

   - **ALMとテスティング・ホストの間で通信できるようにします。** リモート・ホストで標準設定のテスト・セットを実行する場合，ALMはテスティング・ホストと直接通信して，テストを開始します。この通信を可能にするために開く必要があるポートや，調整が必要なその他のセキュリティ設定については，必要なテスト・ツールのドキュメントを参照してください。
   - **手動テストを実行するテスト担当者を指定します。** 手動テストを自動実行してリモートホストを指定すると，指定されているテスト責任者にALMからテストの実行を求める電子メールが

送信されます。この通知は，そのテストに対して，有効な電子メール・アドレスを持つテスト責任者が指定されている場合にのみ送信できます。

テスト担当者を指定するには，[実行グリッド]タブでテストを指定し，[**テスト担当者**]カラムでユーザを選択します。

2. **テスト実行のスケジュールと順序**

次の方法を使用してテスト実行の方法と時刻を決定できます。

- **スケジュール設定を行います。**テストを実行する日付や時刻，および条件の設定を指定できます。自動テスト・セットを実行するタスクの詳細については，「テスト実行をスケジュールする方法」(608ページ)を参照してください。

- **順序設定を行います。**[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックスを使用して，テストの実行順序を設定できます。次のいずれかを実行します。

  - [実行フロー]で，CTRL キーを押しながら，2 つ以上のテストを選択します。テストを右クリックして，[**テスト インスタンスの並べ替え**]を選択します。

  - [実行グリッド]で，[**テスト**]＞[**テスト インスタンスの並べ替え**]を選択します。

[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックス」(649ページ)を参照してください。

3. **標準設定のテスト・セットの自動実行**

オートマティック・ランナーを使用して，標準設定の手動テストや自動テストを自分のマシンで自動的に実行できます。

テスト・ラボ・モジュール＞[**テスト セット**]タブで，次のいずれかを実行します。

- 1 つ以上の自動テストを含む標準設定のテスト・セットを選択して，[**テスト セットの実行**]ボタンをクリックします。

- 選択したテストを実行するには，標準設定のテスト・セットを選択して[**実行グリッド**]タブまたは[**実行フロー**]タブをクリックします。1 つ以上の自動テストを選択し，[**実行**]ボタンをクリックします。

- 手動テストだけを実行するには，テストを選択し，[**実行**]ボタンをクリックします。[手動テスト実行]ダイアログ・ボックスで，[**オートマティック ランナー**]を選択して[**OK**]をクリックします。

同一内容のテストを複数のリモート・ホストで実行するには，テスト・セットにテストの複数のインスタンスを追加します。テスト・インスタンスをテスト・セットに追加するユーザ・インタフェースの詳細については，「[テストの選択]表示枠」(600ページ)を参照してください。

オートマティック・ランナーのユーザ・インタフェースの詳細については，「[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス」(645ページ)を参照してください。

4. **結果**

初期設定のテスト・セットの場合，自動テスト実行が完了したら，自動テスト実行の詳細を表示できます。[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスで，[**実行**]＞[**実行ログの表示**]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行ログ]ダイアログ・ボックス」(650ページ)を参照してください。

テストの実行が完了したら，次のモジュールにテスト結果のサマリを表示できます。

- **テスト・ラボ**：それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが[実行グリッド]に表示されます。各テスト・ステップの結果は，[最後の実行レポート]表示枠に表示されます。[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックスでは，さらに詳細な結果を確認できます。
- **テスト実行**：プロジェクトのそれぞれのテスト実行に関する最新のステータスが表示されます。テスト実行の詳細に基づいてレポートを生成できます。

テスト結果の表示の詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

Unified Functional Testing(UFT) GUI テストの実行方法

注： HP Unified Functional Testing(UFT)は，以前はHP QuickTest ProfessionalとHP Service Testと呼ばれていた製品で構成されています。

- QuickTestの機能は，UFTではGUIテストと呼ばれます。
- Service Testの機能は，UFTではAPIテストと呼ばれます。

UFT GUIテストを実行する場合，次の点を考慮します。

- ALMを使用してリモート・ホストでGUIテストを実行するには，対応するアプリケーションをリモート・ホスト上で起動し，必要なオプションを選択します。詳細については，『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- GUIテストを実行する前に，ALMは選択されたテストに関連付けられているUFTアドインを読み込みます。GUIテストは，必要なUFTアドインがインストールされているマシンで実行する必要があります。UFTでアドインを使用した作業および関連アドイン・リストの詳細については，該当するドキュメント，および関連するアドインのドキュメントを参照してください。
- テスト・ラボ・モジュールからGUIテストを実行する場合，テストは自動的に**Fast**モードで実行されます。**Normal**モードで実行することはできません。
- 標準設定では，ALMはテスト実行の最後にUFTを終了します。これにより，UFTのライセンスがその時点で解放され，ほかのUFTユーザが利用できるようになります。テスト・セットの実行後もUFTを開いたままにするには，サイト管理の[サイト設定]タブで[**SUPPORT_TESTSET_END**]パラメータを編集します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

自動テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス 645
[ホスト マネージャ]ダイアログ・ボックス(標準設定のテスト・セットの場合のみ) 647
[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックス 649
[実行ログ]ダイアログ・ボックス 650

[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると，**標準設定**のテスト・セットからテストを自動的に実行できます。テスト・セット全体を実行することも，自動か手動かを問わず特定のテストを実行することもできます。

アクセス方法	**テスト・ラボ**・モジュール> [**テスト セット**]タブで，次のいずれかの方法を実行します。 • 1つ以上の自動テストを含むテスト・セットを選択して，[**テスト セットの実行**]ボタンをクリックします。 • 選択したテストを実行するには，テスト・セットを選択して[**実行グリッド**]タブまたは[**実行フロー**]タブをクリックします。1つ以上のテストを選択し，[**実行**]ボタンをクリックします。 • 手動テストだけを実行するには，テストを選択し，[**実行**]ボタンをクリックします。[手動テスト実行]ダイアログ・ボックスで，[**オートマティック ランナー**]を選択して[**OK**]をクリックします。

重要な情報	• オートマティック・ランナーは，標準設定のテスト・セットのテストでのみ使用されます。 • 自動テストの場合には，選択されているテスト・ツールがALMによって自動的に起動され，テストが実行されます。テストの実行は，選択したホストでのテストの実行が可能な状態になった場合にのみ開始されます。 • リモート・ホストで実行するように定義した手動テストでは，指定したホストでテストを実行するよう，ALMでは指定したテスト責任者宛に電子メールで通知が送られます。この通知は，そのテストのテスト担当者が[実行グリッド]の[**テスト担当者**]フィールドで指定されている場合にのみ送信できます。 • いくつかのテスト・セットを複数のリモート・ホストで同時に実行するには，テスト・セットの数だけ[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスを開きます。 • UFTテストを実行する場合に，追加で考慮すべき事項については，「Unified Functional Testing(UFT) GUIテストの実行方法」(644ページ)を参照してください。
関連タスク	「ALMでテストを実行する方法」(536ページ)
参照情報	• 「テスト実行の概要」(534ページ) • 「自動テスト実行の概要」(641ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
選択の実行	[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスで選択されたテストを実行します。 **利用可能な場所**：実行メニュー
すべて選択	[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスのすべてのテストを選択します。 **利用可能な場所**：実行メニュー
すべて選択解除	[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスにあるすべてのテストの選択を解除します。 **利用可能な場所**：実行メニュー
選択/非選択項目の入れ替え	[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスにあるすべてのテストの選択を選択または解除します。 **利用可能な場所**：実行メニュー
▶ すべて実行	**すべてのテストの実行**：[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスのすべてのテストを実行します。

UI 要素	説明
実行	**選択したテストの実行**：選択したテストを実行します。
停止	**実行の停止**：完了する前にテストの実行を終了します。
すべて停止	**すべての実行を停止**：[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスの実行中のすべてのテストを終了します。
すべてのテストをローカルで実行	すべてのテストをローカル・マシンで実行します。
ログを有効化	テスト実行時に，実行ログ・ファイルを作成します。 テスト実行後に実行ログを表示するには，[**実行**]＞[**実行ログの表示**]を選択します。詳細については，「[実行ログ]ダイアログ・ボックス」(650ページ)を参照してください。
テスト名	実行するテストの名前です。
ホスト上で実行	テストをリモートで実行するよう指定されたホスト・マシン。 テストをリモートで実行するには，各テストに対してホスト・マシンを選択します。最初に，[**すべてのテストをローカルで実行**]チェック・ボックスをクリアする必要があります。 [**ホスト上で実行**]グリッド・ボックスをクリックし，参照ボタンをクリックします。[ホストの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。**＜任意のホスト＞** で，テストを実行するホストまたはホスト・グループを選択します。 ホスト・グループを選択した場合，ALM ではグループの中で最初の利用可能なホストでテストが実行されます。グループのすべてのホストで実行されるわけではありません。
ステータス	テスト実行の進捗状況を表示します。

[ホスト マネージャ]ダイアログ・ボックス(標準設定のテスト・セットの場合のみ)

このダイアログ・ボックスで，**標準設定**のテスト・セット内のリモート・テスト実行に使用できるホストのリストを作成できます。また，特定のプロジェクト用にホストをグループ化することもできます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの[テスト セット]タブで，[**テスト セット**]＞[**ホスト マネージャ**]を選択します。

重要な情報	リモート・テスト実行用にホスト・グループを指定した場合，ALM ではホスト・グループのすべてのホストではなく，最初に利用可能なホストでテストが実行されます。 [ホスト マネージャ]ダイアログ・ボックスを使用して，標準設定のテスト・セット専用のリモート・ホストを準備します。
関連タスク	「テストを自動で実行する方法」(642ページ)
参照情報	「自動テスト実行の概要」(641ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
新規...	**新規ホスト**：[新規ホスト]ダイアログ・ボックスが開き，[**ホスト**]リストに新しいホストを追加できるようになります。
削除	**ホストの削除**：選択したホストをホスト・リストから削除します。
ネットワーク上のすべてのホストを追加	**ネットワーク上のすべてのホストを追加**：次のオプションがあります。 • **ネットワーク上のすべてのホストを追加**：ALM によって[ネットワーク コンピュータ]フォルダが検索され，検出された各ホストが[**ホスト**]リストに挿入されます。 • **プロジェクト・ホストをネットワーク・ホストと同期化**：[**ホスト**]リストのホストを[ネットワーク コンピュータ]フォルダのホストと同期します。ALM は[ネットワーク コンピュータ]で検出されたホストを追加し，[ネットワーク コンピュータ]で検出されなかったホストを削除します。
名前	ホストの名前です。
説明	選択したホストまたはグループの説明です。
> >>	ホスト・グループにホストを追加する。 グループ・リストからグループを選択します。続いて，ホスト・リストからホストを選択します。複数のホストを選択するには，CTRL キーを押してホストを選択します。[**ホスト グループからホストの追加**]ボタンをクリックします。 ホスト・グループにすべてのホストを追加するには，グループ・リストからグループを選択して[**ホスト グループにすべてのホストを追加**]ボタンをクリックします。

UI 要素	説明
< <<	ホスト・グループからホストを削除します。 グループ・リストからグループを選択します。続いて，グループ・リストのホストからホストを選択し，[**ホスト グループからホストを削除**]ボタンをクリックします。 ホスト・グループからすべてのホストを削除するには，グループ・リストからグループを選択して[**ホスト グループからすべてのホストを削除**]ボタンをクリックします。
グループ	プロジェクトのホスト・グループです。
新規...	**ホスト・グループの新規作成**：[ホスト グループの新規作成]ダイアログ・ボックスが開き，新しいホスト・グループを追加できるようになります。
削除	**ホスト・グループの削除**：選択したグループをグループ・リストから削除します。
ホスト	プロジェクトで利用可能なホストです。
グループ内のホスト	選択したグループに含まれるホストです。

[テスト インスタンスの順序変更]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，[実行グリッド]または[実行フロー]におけるテストの実行順序を変更できます。

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの[テスト セット]タブで，次のいずれかを実行します。 • [実行フロー]で，CTRL キーを押しながら，2 つ以上のテストを選択します。テストを右クリックして，[**テスト インスタンスの並べ替え**]を選択します。 • [実行グリッド]で，[**テスト**]＞[**テスト インスタンスの並べ替え**]を選択します。
重要な情報	• テストの実行順を指定すると，ALM による実行フローの確認がまず行われます。実行グリッドで指定した順序は，実行フローで何の条件も設定されていない場合にのみ使用されます。 • [実行グリッド]で，ALM によってホストのタイプ別にテストがグループ分けされ，指定した順序に従って実行されます。たとえば，テストの順序が **test1**，**test2**，**test3** となっている場合，ALM は **test1** と **test3** が同一ホストで実行するよう設定される場合はこれらを先に実行し，その後で，別のホストで **test2** が実行されます。
関連タスク	「テストを自動で実行する方法」(642ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(534ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	選択項目を上に移動/選択項目を下に移動：選択したテストをリスト内で上または下に移動して，実行順序を設定できます。
<テスト表示枠>	[実行グリッド]には，選択したテスト・セットのテストが表示されます。 [実行フロー]には，選択したテストが表示されます。 リストからテストを選択し，上矢印または下矢印をクリックしてリスト中のテストの位置を変更します。あるいは，テストをドラッグして上下に移動することもできます。

[実行ログ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで，オートマティック・ランナーによって実行された**標準設定**のテストの詳細を表示できます。

アクセス方法	[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスで，[**実行**]＞[**実行ログの表示**]を選択します。
重要な情報	実行ログは，テストを実行する前に，[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックスの[**ログを有効化**]チェック・ボックスを選択した場合にのみ表示できます。
関連タスク	「テストを自動で実行する方法」(642ページ)
参照情報	「[オートマティック ランナー]ダイアログ・ボックス」(645ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	選択したテストの詳細を更新します。
<テストの詳細表示枠>	名前，実行の日時，リモート・ホストを含む，[**テスト**]ボックスで選択したテストの実行の詳細を表示します。
<結果 表示枠>	実行の詳細を表示します。実行の失敗の原因を示す場合があります。
データベース	実行されたテストが存在するプロジェクト。
削除	実行ログを削除します。 **利用可能な場所**：ログ・メニュー
終了	[実行ログ]ダイアログ・ボックスが閉じます。 **利用可能な場所**：ログ・メニュー

UI 要素	説明
ホスト	選択したホストで，表示されるテストをフィルタします。 フィルタするには，ホストを選択して［**更新**］ボタンをクリックします。
開く	表示する別の実行ログを選択できます。 **利用可能な場所**：ログ・メニュー
テスト	実行の詳細を表示するテスト。
テスト・セット	実行されたテストが存在するテスト・セット。
ユーザ名	テストを実行したユーザ。

第8部: ビルド検証

第36章: ビルド検証スイート

本章の内容

ビルド検証の概要 656
ALM でのビルド検証スイートの使用方法 656
ビルド検証のユーザ・インタフェース 658

ビルド検証の概要

ビルド検証モジュールでは，複数の自動機能テスト・セットをまとめてビルド検証スイートと呼ぶ1つのパフォーマンス・テストにバンドルします。ビルド検証スイートでは，テスト・セットを一緒に実行することにより，ビルドの全体的なステータスをチェックできます。

ビルド検証スイートを定義する際は，ALMがステータスを確認するビルドを示すAUT環境設定を選択できます。AUT環境設定の詳細については，「AUT環境」(361ページ)を参照してください。

システムをHP Continuous Delivery Automation(CDA)に統合していると，マシンをプロビジョニングし，動的な環境にビルドをデプロイするようALMに指示できます。ALMとCDAの統合の詳細については，「AUT環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。

ビルド検証スイートは，ALMのContinuous Deliveryソリューションの主要コンポーネントです。これらの環境設定は，アプリケーション開発の効率化，信頼性，および短縮化を実現する自動化されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを容易にします。このプロセスの一部としてビルド検証スイートを使用する方法の詳細については，「ALMでのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「ALMでのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)を参照してください。

ALMでのビルド検証スイートの使用方法

このタスクでは，ビルド検証スイートを作成する方法を説明します。ビルド検証スイートを使用すると，テスト対象アプリケーションの特定のビルドのステータスをテストできます。

ビルド検証の詳細については，「ビルド検証の概要」(656ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 前提条件
- ビルド検証スイートの作成
- スイートへの機能テスト・セットとパフォーマンス・テストの追加
- スイートの実行
- テスト結果の表示

1. **前提条件**

   テスト・ラボ・モジュールで，ビルド検証スイートに含める機能テスト・セットを作成します。テスト・セットの作成の詳細については，「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)を参照してください。

   ビルド検証スイートに追加するパフォーマンス・テストを作成します。パフォーマンス・テストの作成の詳細については，『HP ALM Performance Centerガイド』を参照してください。

注：ビルド検証スイートには，既存の機能テスト・セットとパフォーマンス・テストを含めることができます。この目的のために特別に新しいテストを作成する必要はありません。

2. **ビルド検証スイートの作成**

   a. ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**ビルド検証**]を選択します。

   b. 「**ビルド検証スイート**」フォルダをクリックして，ツールバーの[**新規ビルド検証スイート フォルダ**]ボタンをクリックします。

   c. [**新規ビルド検証スイート**] ボタンをクリックし，ビルド検証スイートの名前を入力します。[**OK**]をクリックします。ビルド検証スイートがツリーに追加されます。

3. **スイートへの機能テスト・セットとパフォーマンス・テストの追加**

   [機能テスト セット]タブからスイートに機能テスト・セットを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[機能テスト セット]タブ」(663ページ)を参照してください。

   [パフォーマンス テスト]タブからスイートにパフォーマンス・テストを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[パフォーマンス テスト]タブ」(664ページ)を参照してください。

4. **スイートの実行**

   次のいずれかの方法を実行します。

   - **直ちにスイートを実行するには，次の手順を実行します。**[ビルド検証スイート]ページのツールバーで，[**実行**]をクリックします。[ビルド検証スイートの実行]ダイアログ・ボックスが開き，スイートの即時タイムスロットを選択できるようになります。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。

   - **指定時間でスイートを実行します。**後日スイートを実行できるようにスイートに対して未来のタイムスロットを予約します。詳細については，「タイムスロットの予約」(673ページ)を参照してください。

5. **テスト結果の表示**

   実行するビルド検証スイートごとに，ALM によって実行レポートが生成されます。実行レポートには，スイートの一般的な詳細，テスト・セットごとの全般的な情報，スイート内の個々のテストについてドリルダウンされた実行情報が含まれます。

   アドホック・タイムスロットを使用してビルド検証モジュールからスイートを実行した場合，実行レポートの詳細をリアルタイムで表示できます。スイートを実行するためにどの方法を使用するかに関係なく，[ビルド検証スイート]ページのツールバーの[**最終実行レポート**]ボタンをクリックするとレポートにアクセスできます。

   ユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行レポート]ページ」(625ページ)を参照してください。

ビルド検証のユーザ・インタフェース

本項の内容

ビルド検証モジュール・ウィンドウ 658
ビルド検証モジュールのメニューおよびボタン 659
ビルド検証モジュールのアイコン 661
ビルド検証モジュールのフィールド 662
[機能テスト セット]タブ 663
[パフォーマンス テスト]タブ 664
[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックス 666
[新規ビルド検証スイート]ダイアログ・ボックス 667
[ビルド検証スイートのテスト セットの詳細]ダイアログ・ボックス 668
[テスト セット ツリー]表示枠 668

ビルド検証モジュール・ウィンドウ

このウィンドウでは，ビルド検証スイートの作成，管理できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[ビルド検証]を選択します。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ビルド検証モジュールの共通の UI 要素>	• [ビルド検証]フィールド フィールドの定義については，「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ)を参照してください。 • ビルド検証のメニューおよびボタンコマンドとボタンの説明については，「ビルド検証モジュールのメニューおよびボタン」(659ページ)を参照してください。 • ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<ビルド検証スイート・ツリー>	ビルド検証スイートを整理できるツリーがあります。

UI 要素	説明
[詳細]タブ	選択したビルド検証スイートの詳細を表示します。詳細については、「[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックス」(666ページ)を参照してください。
[機能テスト セット]タブ	スイートに機能テスト・セットを追加できます。詳細については、「[機能テストセット]タブ」(663ページ)を参照してください。
[パフォーマンス テスト]タブ	スイートにパフォーマンス・テストの1つのインスタンスを追加できます。詳細については、「[パフォーマンス テスト]タブ」(664ページ)を参照してください。
[要求されたホスト]タブ	選択したテスト・セットの要求されたホストが表示されます。必要に応じてホスト要求を編集できます。詳細については、「[要求されたホスト]タブ」(593ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているビルド検証スイートに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

ビルド検証モジュールのメニューおよびボタン

本項では、ビルド検証モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**ビルド検証**]を選択します。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
ビルド検証スイートの詳細	ビルド検証スイート	[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択されたテスト・セットの詳細を表示して更新できます。詳細については、「[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックス」(666ページ)を参照してください。
折りたたみ	表示	選択されたフォルダの下の、ツリーのフォルダを折りたたみます。
URL のコピー/貼り付け	ビルド検証スイート/編集	選択したスイートをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。スイート自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動、スイートが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。

UI 要素	メニュー	説明
切り取り/貼り付け	編集	選択したスイートまたはフォルダを，ビジネス検証スイート・ツリー内の別の場所に移動します。 **ヒント：** スイートをドラッグしてテスト・セット・ツリー内の新しい場所に移動することもできます。
削除	編集	選択したスイートまたはフォルダを削除します。**ルート**・フォルダは削除できません。
すべて展開	表示	選択されたフォルダの下の，ツリーのすべてのフォルダを展開します。
フィルタ/ソート	表示	テスト実行グリッドの実行のフィルタ処理とソートが実行できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
ビルド検証スイートに移動	• ビルド検証スイート • <右クリック・メニュー>	[ビルド検証スイートに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID で特定のビルド検証スイートを検索できます。
最終実行レポート	<右クリック・メニュー>	[最終実行レポート]表示枠が開き，選択したビルド検証スイートの最後のテスト実行結果を表示します。 **表示**矢印をクリックして，[最終実行レポート]を表示することもできます。
新規ビルド検証スイート・フォルダ	ビルド検証スイート	[新規ビルド検証スイート フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，ビルド検証スイート・ツリーにフォルダを追加できます。 **構文の例外**：フォルダの名前には，次の文字は使用できません。\ ^ *
新規ビルド検証スイート	ビルド検証スイート	[新規ビルド検証スイート]ダイアログ・ボックスが開き，選択したフォルダにスイートを追加できます。詳細については，「[新規ビルド検証スイート]ダイアログ・ボックス」(667ページ)を参照してください。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については，「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。
更新/すべて更新	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。

UI 要素	メニュー	説明
名前の変更	編集	スイートまたはフォルダの名前を変更できます。**ルート**・フォルダ名は変更できません。
実行 実行	<右クリック・メニュー>	[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックスが開き，選択したビルド検証スイートを実行できます。詳細については，「[＜エンティティ＞ の実行]ダイアログ・ボックス」(621ページ)を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開き，ツリーまたはグリッド内で複数選択されたスイートのフィールドの値を更新できます。詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。

ビルド検証モジュールのアイコン

本項では，テスト・ラボ・モジュールで表示されるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの，[**テスト ラボ**]を選択します。
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(544ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞：タブが追加されていることを示します。
	警告：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行の警告を表示します。 • **赤の警告**：新しい警告です。 • **グレーの警告**：警告は既読です。 詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
	割り当てられたテスト・セット・フォルダ：サイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダ。
	添付：クリックすると，指定したテスト・インスタンスまたはテスト実行の添付ファイルを表示します。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が10個より多い場合は，[**他のx個の添付**]リンクをクリックして[**添付**]ページで一覧を表示します。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	フォローアップ・フラグ：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグを表示します。 • **グレーのフラグ**：新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ**：フォローアップ日です。 詳細については，「[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
	リンクされている不具合：クリックすると，テスト・インスタンスまたはテスト実行のリンクされている不具合を表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
	固定されたテスト・セット：ベースラインに固定されたテスト・セット。概念の詳細については，「固定されたテスト・セット」(208ページ)を参照してください。
	テスト・セット・フォルダ：テスト・セットを整理するためのフォルダ。
	テスト・セット：テスト・セット・ツリーのテスト・セット。
	時間依存：クリックすると，テスト・インスタンスの時間依存条件を変更します。詳細については，「[時間依存]ページ」(612ページ)を参照してください。

ビルド検証モジュールのフィールド

本項では，ビルド検証モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**ビルド検証**]を選択します。
参照情報	「ビルド検証モジュール・ウィンドウ」(658ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
BVS ID	ビルド検証スイートの ID。
ビルド検証スイートのテスト・セット ID	ビルド検証モジュールのテスト・セット ID。 **注：**これは，テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット ID と同じ ID ではありません。
ビルド検証スイート名	ビルド検証スイートの名前。

UI 要素	説明
ビルド検証スイートのテスト・セット順序	テスト・セット順でのテスト・セットの配置。
テスト・セット名	テスト・セットの名前。
作成者	スイートを作成したユーザ。
作成日	スイートが作成された日付。
更新日時	スイートが最後に変更された日時。
更新者	スイートを最後に変更したユーザ。

[機能テスト セット]タブ

このタブでは，機能テスト・セットをビルド検証スイートに追加できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**ビルド検証**]を選択します。ビルド検証スイートをツリーから選択し，[**機能テスト セット**]タブを選択します。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
テスト セットの選択	右側に[テスト セット ツリー]ダイアログ・ボックスが開き，ビルド検証スイートにテスト・セットを追加できます。 **注：** ツリーには機能テスト・セットのみが表示されます。
	ビルド検証スイートのテスト・セットの詳細：[ビルド検証スイートのテスト セットの詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択したテスト・セットの詳細を表示します。
	更新：最新の情報が表示されるように，タブを更新します。
	フィルタ/ソートの設定：タブ内に表示される情報をフィルタ処理できます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，タブに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	検索：[検索]ボックスに入力した値をタブから検索します。詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
	テスト・セットに移動 テスト・ラボ・モジュールの[実行グリッド]で選択したテスト・セットに移動します。
	テスト・セットの順序設定：ダイアログ・ボックスが開き，グリッド内でのテスト・セットの表示順序を変更できます。右上隅にある矢印ボタンを使用するか，テスト・セットを目的の順序までドラッグすることで，テスト・セットの表示順序を変更できます。
テスト・セット名	選択したビルド検証スイートに添付されたテスト・セットをリストします。

[パフォーマンス テスト]タブ

このダイアログ・ボックスでは，パフォーマンス・テストをビルド検証スイートに追加できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[ビルド検証]を選択します。ビルド検証スイートをツリーから選択し，[**パフォーマンス テスト**]タブを選択します。
重要な情報	スイートを有効にするために，パフォーマンス・テストをビルド検証スイートにリンクする必要はありません。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
テスト・インスタンスの選択	パフォーマンス・テストをビルド検証スイートにリンクできます。 標準設定では，リンクされているテストはありません。選択は[**なし**]と表示されます。 パフォーマンス・テストをスイートにリンクするには，テストのインスタンスがテスト・セットに含まれている必要があります。テストをリンクするには，[**なし**]をクリックします。テスト・ラボ・ツリーを表示するウィンドウが開きます。リンクするパフォーマンス・テストに移動し，[**OK**]をクリックします。 テストをリンクすると，選択に従いテスト名が表示されます。別のテストを選択するには，テスト名をクリックします。必要に応じてテストを変更します。 **注：** リンクされたテストを(パフォーマンス・テスト・デザイナで)変更する場合，タイムスロットは自動的に更新され，手動でテストを再リンクする必要はありません。リンクされたテストを変更すると，タイムスロットの妥当性に影響することがあるので注意してください。 **バージョン管理：** チェックアウトされたテストはリンクできません。
仮想ユーザ	リンクされたテストに定義された仮想ユーザ数または VUD 数を表示します。 仮想ユーザの代わりに VUD，または VUD の代わりに仮想ユーザを使用するには，[**仮想ユーザ/VUD**]をクリックして，選択を変更します。 仮想ユーザまたは VUD を追加するには，[**さらに追加**]をクリックします。 **注：** 要求されたタイムスロットと他のタイムスロットに予約されたすべての仮想ユーザ/VUD の合計が，プロジェクト設定([**ラボ設定**]＞[**プロジェクト設定**])で指定された上限を超えないようにしてください。また，ライセンスで指定された仮想ユーザ/VUD の数を超えないようにしてください。 VUD の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
実行後	パフォーマンス・テストの実行が完了したときに実行されるアクションを定義できます。 • **結果を照合しない**：パフォーマンス・テスト終了後，直ちにマシンを解放します。実行が終了すると，実行結果は，Load Generator に残されます。[結果]タブから，より後の段階の結果を分析できます。 • **照合**：実行が終了すると，実行結果は，すべての Load Generator から収集されます。 **注：** 実行データの損失や実行データにアクセスできなくなることを防ぐため，テスト実行の完了時直ちに結果が収集されるよう，このオプションを選択します。 • **照合と分析**：実行が終了すると，実行結果が収集，分析されます。データ分析には結果ファイルのサイズによって，少し時間がかかります。データ分析に含められるタイムスロットがない場合，代わりに[**照合**]オプションを選択し，データ・プロセッサが利用できるようになったら，最後の分析を実行します。[結果]タブから最後の分析を実行します。[結果]タブの詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **標準設定値**：照合。選択を変更するには[**照合**]をクリックします。 **利用可能な場所**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみで，パフォーマンス・テストがタイムスロットにリンクされている場合のみ。

[ビルド検証スイートの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ビルド検証スイートの詳細を表示，更新できます。

アクセス方法	[**テスト**]＞**ビルド検証**モジュールで，ビルド検証モジュールを選択し，[**ビルド検証スイートの詳細**]ボタン をクリックします。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
詳細	スイートの詳細を表示します。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるフィールドの詳細については，「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
機能テスト・セット	機能テスト・セットをビルド検証スイートに追加できます。詳細については，「[機能テスト セット]タブ」(663ページ)を参照してください。
パフォーマンス・テスト	パフォーマンス・テストをビルド検証スイートに追加できます。詳細については，「[パフォーマンス テスト]タブ」(664ページ)を参照してください。
要求されたホスト	スイートのテストに要求されているホストが表示され，必要に応じてホスト要求を編集できます。詳細については，「[要求されたホスト]タブ」(593ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているビルド検証スイートに行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

[新規ビルド検証スイート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ビルド検証スイートを作成できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**ビルド検証**]を選択します。[**新規ビルド検証スイート**]をクリックします。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：データをクリアします。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
ビルド検証スイート名	新規スイートの名前。 **ヒント**：スイートに意味のある名前を付けてください。確認対象のビルドの目的を考えて付けることをお勧めします。たとえば，次のように名前を付けます。ABC アプリケーション - ステージング・ビルド。
説明	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ，赤色で表示されます。利用可能なホスト・フィールドの詳細については，「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ)を参照してください。

[ビルド検証スイートのテスト セットの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ビルド検証スイートの機能テスト・セットの詳細を表示できます。

アクセス方法	[**テスト**]＞**ビルド検証**モジュールで，ビルド検証スイートを選択します。[機能テスト セット]タブで，[**ビルド検証スイートのテスト セットの詳細**]をクリックします。
関連タスク	「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	「ビルド検証の概要」(656ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
説明	テスト・セットの詳細を読み取り専用で表示します。必須フィールドは赤で表示されます。利用できるフィールドの詳細については，「ビルド検証モジュールのフィールド」(662ページ)を参照してください。

[テスト セット ツリー]表示枠

この表示枠では，ビルド検証スイートに入れる機能テスト・セットを選択できます。

アクセス方法	**ビルド検証**モジュールで，ビルド検証スイートを選択します。[**機能テスト セット**]タブで，[**テスト セットの選択**]ボタンをクリックします。
重要な情報	• ビルド検証スイートには，複数の機能テスト・セットを含めることができます。 • テスト・セットは，追加した順序で実行されます。
関連タスク	• 「テスト・セットを作成する方法」(576ページ) • 「ALM でのビルド検証スイートの使用方法」(656ページ)
参照情報	• 「テスト・セットの仕様の概要」(574ページ) • 「ビルド検証の概要」(656ページ) • 「機能テスト実行の概要」(616ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	テスト・セットの追加：選択したテスト・セットをビルド検証スイートに追加します。 **ヒント：** テスト・セットは，ツリーでフォルダまたはテスト・セットをダブルクリックしたり，それを[機能テスト セット]グリッドにドラッグして追加することもできます。
	テスト・セットの詳細を表示：選択したテスト・セットの[テスト セットの詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	モジュール・ツリーのテスト・セットに移動：テスト・ラボ・モジュールの選択したテスト・セットの場所に移動し，そのテスト・セットを強調表示します。
	すべて更新：ツリーが最新の情報を表示するように更新します。
	フィルタ/ソートの設定：次のオプションがあります。 • **フィルタ/ソートの設定**：[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットのフィルタ処理とソートを実行できます。 • **フィルタ/ソートのクリア**：適用したフィルタまたはソートが解除されます。 詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	検索：ツリーで特定のテスト・セットが検索されます。
	ID でテスト・セットに移動：[テストに移動]ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セット ID に基づいてツリー内のテスト・セットを特定します。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
<テスト・セット・ツリー>	テスト・セットを選択し，選択したビルド検証スイートに追加できます。 テスト・セットを選択し，[**テスト セットの追加**]をクリックします。選択した機能テスト・セットが，ビルド検証スイートの[機能テスト セット]グリッドに追加されます。

第 9部: タイムスロット

第37章: タイムスロットの予約

本章の内容

タイムスロットの予約の概要 674
ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法 684
タイムスロットの予約のユーザ・インタフェース 685

タイムスロットの予約の概要

テストを実行したり，ホスト・マシンでメンテナンスを実施する場合（管理者のみ），これらのタスクに必要なリソースは，利用可能であり，プロジェクトとライセンスの制限範囲内である必要があります。ALM のタイムスロット機能では，タスク実行準備が整ったときに，必要なリソースが利用できるように，事前に確認してリソースを予約できます。

ALM によって，次のようにタイムスロットが自動的に予約されます。

- Performance Center プロジェクトを使用する場合，ALM 自体もデータ処理タスクに必要なリソースを予約します。
- 特定のホスト操作を実行する場合，メンテナンス・タイムスロットが自動的に作成されます。

タイムスロットは，ALM の Continuous Delivery ソリューションの主要コンポーネントです。これらの環境設定は，アプリケーション開発の効率化，信頼性，および短縮化を実現する自動化されたエンドツーエンドのデプロイメントとテスト・フレームワークを容易にします。このプロセスの一部としてタイムスロットを使用する方法の詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」（539ページ）を参照してください。

本項の内容

タイムスロットの予約のタイプ 674
自動タイムスロット 676
タイムスロットの予約の延長 677
タイムスロットの予約の変更 678
タイムスロット障害について 679
ホストの割り当て 679
ホストの割り当てと再シャッフルの例 680

タイムスロットの予約のタイプ

タイムスロットは，直ちに使用するために予約することも，後で使用できるように前もって予約しておくこともできます。本項では，これら2種類のタイムスロットの予約について説明します。

タイムスロットの即時予約

タイムスロットの即時予約をスケジュールすると，目前のタスクのリソースが予約されます。

- **管理**：特定のホストでパッチのインストールなどの管理タスクを実行する場合，タスクを開始するときにホストが利用可能であれば，要求されたホストがメンテナンス・タイムスロットで自動的に予約され，そのホストはタスクの継続中に他の目的に使用できなくなります。
- **テスト**：サーバ側の実行を使用して（機能テスト・セット内からなど）テストを実行する場合，テストの実行を開始する前にテストに必要な時間とリソースを指定します。ALM は，必要なリソースが

テストの実行に必要な時間に対して現在利用可能であるかどうかを確認します。必要なリソースが利用できない場合，その時間にテストを実行できません。後で再試行する必要があります。

例：

パフォーマンス・テストを実行する場合，ALMでは，必要なホスト数および仮想ユーザ数が，ライセンスまたはプロジェクトの上限を超過していないかが確認されます。上限を超過していると，テストを実行できません。

実行する機能テスト・セットにVAPI-XPテスト・インスタンスが含まれる場合，ALMは，VAPI-XP目的が割り当てられたテスティング・ホストが現在あるかどうかを確認します。VAPI-XPテスティング・ホストがない場合，テストを実行できません。

- **データ処理**：Performance Centerプロジェクトを使用する場合，テスト結果の分析，SLAステータスの発行，トレンド分析などのタスクは，Data Processorホストで実行されます。ALMでは，目前のタスクに必要なData Processorホストに必要な時間が予想されます。Data Processorがこのタスクに利用できるようになるとすぐに，タイムスロットの即時予約が自動的に行われます。

タイムスロットの事前予約

テストの実行に必要なテスト・リソースがわかっている場合や，メンテナンスの実行が必要なホストがわかっている場合は，指定する時間の間，テスト用のリソースを事前に予約できます。

テスト・タイムスロットにリソースを予約する場合，次の3種類のタイムスロットの予約があります。

- **機能テスト・セット**：自動テスト・インスタンスをいくつか持つ1つの機能テスト・セットを実行するのに必要なリソースを予約できます。これらのテストは連続して実行されます。

- **パフォーマンス・テスト**：パフォーマンス・テストの1つのインスタンスを実行するのに必要なリソースを予約できます。

- **ビルド検証スイート**：ビルドの全体的なステータスを確認する目的でパフォーマンス・テストの1つのインスタンスとともにいくつかの機能テスト・セットを実行するのに必要なリソースを予約できます。テスト・セット内のテストが連続して実行され，その後に1つのパフォーマンス・テストが実行されます。このタイプのタイムスロット予約を使用すると，プロビジョニング，デプロイメントなどのためにシステムをHP Continuous Delivery Automation(CDA)と統合することができます。詳細については，「ビルド検証」(653ページ)を参照してください。

テスト・タイムスロットの予約時に，特定のホストまたは自動適合ホストのいずれかを予約できます。つまり，テストまたはテスト・セットを実行するホストを明確に指定し，そのホストが利用可能な場合は予約できます。また，自動適合ホストを要求して，選択した条件に一致するプロパティを持つ，利用可能なホストが割り当てられるようにすることもできます。

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットにテスト・インスタンスを追加すると，テスト・タイプに基づいて，適合ホストがテスト・インスタンスに自動的に割り当てられます。テスト・ラボ・モジュールの[要求されたホスト]タブを使用すると，タイムスロットを予約する前にテスティング・ホストの割り当てを変更できます。また，この割り当てはタイムスロットの予約の中で変更できます。

パフォーマンス・テストのタイムスロットでは，少なくとも1つのControllerと1つのLoad Generatorを選択する必要があります。詳細については，『HP ALM Performance Centerガイド』を参照してください。

機能テスト・セットとメンテナンス・タイムスロットには，少なくとも1つのホストを選択する必要があります。

タイムスロットの予約は，要求されたすべてのリソースが利用可能である場合のみ成功します。

ヒント： 予約したタイムスロットは，プロジェクトのすべてのユーザが使用できます。

システム内の多数の条件と変更がホストの割り当てに影響し，ホスト周囲のシャッフリングの原因になる可能性があります。ホストの割り当てとリソースのシャッフリングの詳細については，「ホストの割り当て」(679ページ)を参照してください。

自動タイムスロット

一部のテストには，多くの時間と多数のリソースが必要な場合があります。ALMの**タイムスロット**機能では，リソースがよりすばやく利用できる場合や，手動でテストを実行できない場合に，リソースを予約できます。リソースが24時間使用できるため，リソースの利用率を最大限にできます。

例

プロジェクトに割り当て対象のホストが合計8つあり，そのプロジェクトに割り当てられている従業員が，標準的に9時から17時まで働いているとします。9時から17時までの時間は，ホスト利用率のピーク時間であり，この時間すべてのホストは，通常，テスト，データ処理，メンテナンス・タスクに予約されています。利用可能なホストがないため，日中，従業員がタスクを実行できない時間帯が生じる可能性があります。これに対し，標準的でない労働時間の場合，ホスト・リソース利用率は非常に低くなります。

ホスト・リソース利用率を拡大するには，従業員が早く出社するか遅くまで残ってテストを実行することも可能ですが，これではピーク利用を1日の初めか終わりの1時間か2時間延長するだけです。

標準的でない労働時間中にタイムスロットを予約し，このようなタイムスロット中にテストの実行を設定すると，最大のリソース利用率が得られます。

自動タイムスロットの予約のベスト・プラクティス

本項では，自動タイムスロットを予約する際のベスト・プラクティスを紹介します。

- 可能な場合，まず手動でテストを実行して，テストの実行にかかる時間を表示します。この情報は，タイムスロットの継続時間を選択する場合に役立ちます。
- 次の提案は，自動パフォーマンス・テストの実行に適用されます。

  注： ビルド検証スイートのタイムスロットにパフォーマンス・テストを追加すると，パフォーマンス・テストは，含まれるすべての機能テストの実行が完了した後にのみ実行されます。

- 常に，すべての仮想ユーザが実行を停止したらすぐにスケジューラが停止するように設定されていることを確認します。これにより，タイムスロットの継続時間中，実行後のアクションにより多くの時間が使用できます。テスト・オプションの設定の詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

- 実行後すぐにテスト結果を分析する場合は，分析プロセスに長時間かかる可能性を考慮に入れ，この操作に十分な時間を予約してください。

- 実行終了時に自動照合操作と分析操作を実行するには，タイムスロットを予約するときに，これらの操作に必要な時間を考慮する必要があります。

  注： 実行データの損失を防ぐには，可能なかぎり，実行終了後直ちに結果を照合します。結果の照合の完了前にタイムスロットが終了しても，照合には予約されたリソースは必要ないため，照合は継続します。

- タイムスロット終了 15 分前に，ALM によってテスト実行が自動的に停止します。タイムスロット終了 5 分前になると，すべての仮想ユーザの実行が終了していなくても，ALM によって実行が中断します。テストをデザインどおりに正しく終了するには，テスト・スケジュールに定義されているより長い時間を予約してください。

タイムスロットの予約の延長

テスト・セットを完了するための時間が十分に割り当てられていないことがあります。たとえば，はじめてテスト・セットを実行したとき，テストが完了するまでにかかる時間がわからない場合があります。HP ALM では，テストの実行を完了できるようにタイムスロットを延長できます。

タイムスロットを延長するには，延長期間中に必要なテスト・リソースすべてが利用可能である必要があります。自分のタイムスロットの直後にある別のタイムスロットに対していずれかのテスト・リソースが予約されていると，タイムスロットを延長することはできず，テストは適切に完了しないで停止します。

機能テストとBVS テストを延長する方法と，パフォーマンス・テストを延長するもう 1 つの方法があります。

機能テストとビルド検証スイートのタイムスロットの予約の延長

機能テスト・セットとビルド検証スイート（BVS）を延長するには，［**タイムスロットの自動延長（自動延長）**］オプションを使用します。自動延長を有効にすると，すべてのテストが完了する前に機能テスト・セットまたは BVS のタイムスロットが終了した場合，テストを終了できるようにそのタイムスロットが自動的に延長されます。

自動延長は，タイムスロットごとに有効になります。［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックスからタイムスロットを予約する場合，または［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックスからテスト・セットを実行する場合に，自動延長を有効にできます。詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」（701ページ）および「［＜エンティティ＞ の実行］ダイアログ・ボックス」（621ページ）を参照してください。

注：

- タイムスロットは，タイムスロットの終了 5分前に延長されます。
- テスト・セットが早く終了し，タイムスロットが分割された場合，最初のタイムスロットの自動延長設定が新しく分割されたタイムスロットにコピーされます。
- 自動延長の試行は，テスト・セットの実行レポート・イベント・ログで確認できます。

タイムスロットを延長する分数とタイムスロットを延長できる回数の上限の両方を設定できます。これらの設定は，プロジェクトごとに制御されます。プロジェクトの自動延長設定を行うには，次の操作を実行します。**ラボ管理** > [**プロジェクト設定**]モジュール> 目的のプロジェクトの[**詳細**]タブを開きます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

パフォーマンス・テストのタイムスロット予約の延長

パフォーマンス・テストは，テストの実行中に手動で延長されます。パフォーマンス・テストが完了する前にタイムスロットが終了することがわかった場合，タイムスロットを延長する時間(分単位)を入力できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

注： パフォーマンス・テストでは，仮想ユーザが段階的に停止するプロセスにある場合，まだ利用できるリソースがあれば，システムによりタイムスロットは自動的に15分延長されます。

タイムスロットの予約の変更

開いているタイムスロットを変更すると，変更にしたがってタイムスロットが2つ別々のタイムスロットに分割される可能性があります。

タイムスロットは，次のような場合に分割されます。

- 実行を停止して，予約されたリソースを残り時間保持するように選択した場合。
- 実行がタイムスロット終了 30分以上前に終了する場合(「新しい」アドホック・タイムスロットではないパフォーマンス・テストのタイムスロット)。
- テストが実行されていないなど，アクティブでない，開いているタイムスロットを変更した場合。

注： パフォーマンス・テストが実行されている場合，タイムスロットはテストのテストの実行ページからのみ変更できます。実行可能な変更には，タイムスロットの延長，仮想ユーザの追加，ホストの追加が含まれます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

タイムスロット障害について

タイムスロットの予約は，要求されたすべてのリソースが要求された継続時間利用できる場合のみ成功します。

多数の要素により，タイムスロットが無効になることがあります。このような要素が考えられます。

- ALM ライセンスへの変更（これはメンテナンス・タイムスロットには影響しません）
- リソースが利用できなくなった場合
- タイムスロットにリンクしたテストが無効になった場合

ホスト間に競合があるときなど，場合によっては，システムはホストの再シャッフルを実行して，状況を修正し，タイムスロットを再度有効にしようとします。詳細については，「ホストの割り当て」（679ページ）を参照してください。テストが無効になるなどの他の要素は，手動で修正できます。

> **ヒント：** タイムスロットが無効になった場合，電子メールによって警告が送信されるように，システムを設定できます。警告は，障害の原因に関する詳細を提供します。タイムスロットの警告の設定の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

ホストの割り当て

タイムスロットを予約する場合，システムではすべての要求されたホストと仮想ユーザ（パフォーマンス・テストのタイムスロットの場合）の可用性が計算されます。タイムスロットの予約は，要求されたすべてのホストが割り当てることができる場合のみ成功します。パフォーマンス・テストのタイムスロットでは，要求された仮想ユーザが利用可能である場合のみ成功します。

> **注：パフォーマンス・テスト：** 少なくとも 1 つの Load Generator を要求する必要があります。タイムスロットにリンクされたテストがある場合，テストで定義されたホストと仮想ユーザは，タイムスロットに自動的に要求されます。

ホストは次のように割り当てされます。

- テスティング・ホスト・グリッドで定義された**特定のホスト**は，利用可能で稼働中であるかぎり，テストに割り当てできます。**特定のホスト**は，非稼動であってもメンテナンスに割り当てできます。
- **自動適合**ホストは，要求されたプロパティを持つ特定のホストと組み合わせられます。ホストは，次の条件が確認されると割り当てられます。
  - プロジェクトのホスト・プールにあるホストの中で，稼働中で利用可能であり，自動適合ホストの要求プロパティと一致するすべてのホストについて，そのリストがラボ管理とALM によって作成されます。
  - 条件を満たすホストのこのリストから，ホストの優先度，ホストが属するプールの数，ホストに割り当てられた目的，ホストの属性を考慮に入れ，要求されたプロパティに最も適したホストがシ

ステムによって割り当てられます。次に，類似するプロパティの他に追加プロパティも持つ他のホストを，他のテスト実行への割り当てでも使用できるようにホストが割り当てられます。

多数の条件やシステムの変更で，ホストの割り当てに影響が生じる場合があります。その場合，システムはタイムスロット間で利用可能なホストを再シャッフルして，全体的なリソース利用率を最適化しようとします。

常にホストを適切にシャッフルできるとはかぎりません。その場合，タイムスロットは**部分的に割り当てされ**，無効になる可能性があります。要求されたホストが再度利用可能になるか，または別のホストを割り当てできるようになると，タイムスロットはすぐに再度有効になります。

たとえば，

- 割り当てられたホストが非稼動になると，システムによって非稼動のホストに代わる別のホストの検索が試行されます。
- バージョン管理の有効なプロジェクトで，テストが自動タイムスロットにリンクされ，チェックアウトされ，変更され，タイムスロットの開始前に再度チェックインされた場合，そのタイムスロットによって，更新されたリソースの可用性が再計算されます。

ホストの割り当て方法と必要に応じた再シャッフルの方法を表示するには，「ホストの割り当てと再シャッフルの例」(680ページ)を参照してください。

ホストの割り当てと再シャッフルの例

タイムスロット間のホストの割り当てに影響する可能性のある要素は多数あります。パフォーマンス・タイムスロット間でホストがどのように割り当てられ，使用可能なテスティング・ホストの変更がどのようにホストの割り当てに影響するかを例示する，次のシナリオを検討します。ラボ管理はタイムスロット間で利用可能なホストを再シャッフルして，全体的なリソース利用率を最適化しようとします。

次のホストがプロジェクトのホスト・プールに属しているとします。

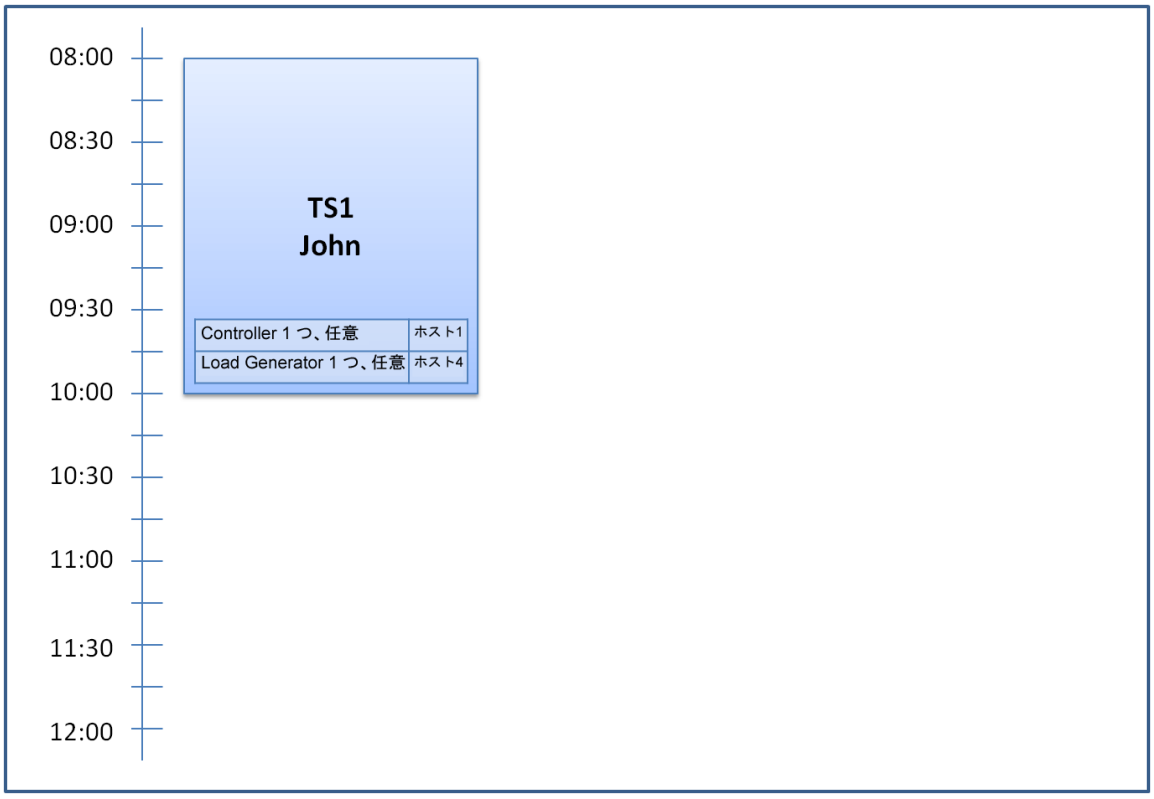
ホスト	プロパティ
ホスト 1	Controller
ホスト 2	Controller＋Load Generator
ホスト 3	次のプロパティを持つ Load Generator： • **優先度＝ 1_最も低い**
ホスト 4	次のプロパティを持つ Load Generator： • **Citrix**：ホストは，Citrix プロトコルに基づいてスクリプトを実行できます。 • **優先度＝ 9_最も高い**

午前 7 時に，John は次のタイムスロットを予約します。

タイムスロット	予約した時間	予約した時間帯	要求したリソース，プロパティ
TS1	07:00	08:00:00 時 ～ 10:00:00 時	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，任意

John は要求を送信します。システムは，ホスト 1 を Controller として割り当て，ホスト 2 を他のタイムスロットの Load Generator または Controller として利用できるように残しておきます。さらに，システムはホスト 4 を Load Generator として割り当てます。これはホスト 4 がホスト 2 とホスト 3 より優先度が高いからです。次のホストは割り当てに成功します。

要求されたホスト	割り当てられたホスト
Controller 1 つ，任意	ホスト 1
Load Generator 1 つ，任意	ホスト 4



午前 7 時 30 分，Sue は次のタイムスロット予約を送信します。

タイムスロット	予約した時間	予約した時間帯	要求したリソース，プロパティ
TS2	07:30	午前 9 時 ～ 午前 11 時 自動起動	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，Citrix

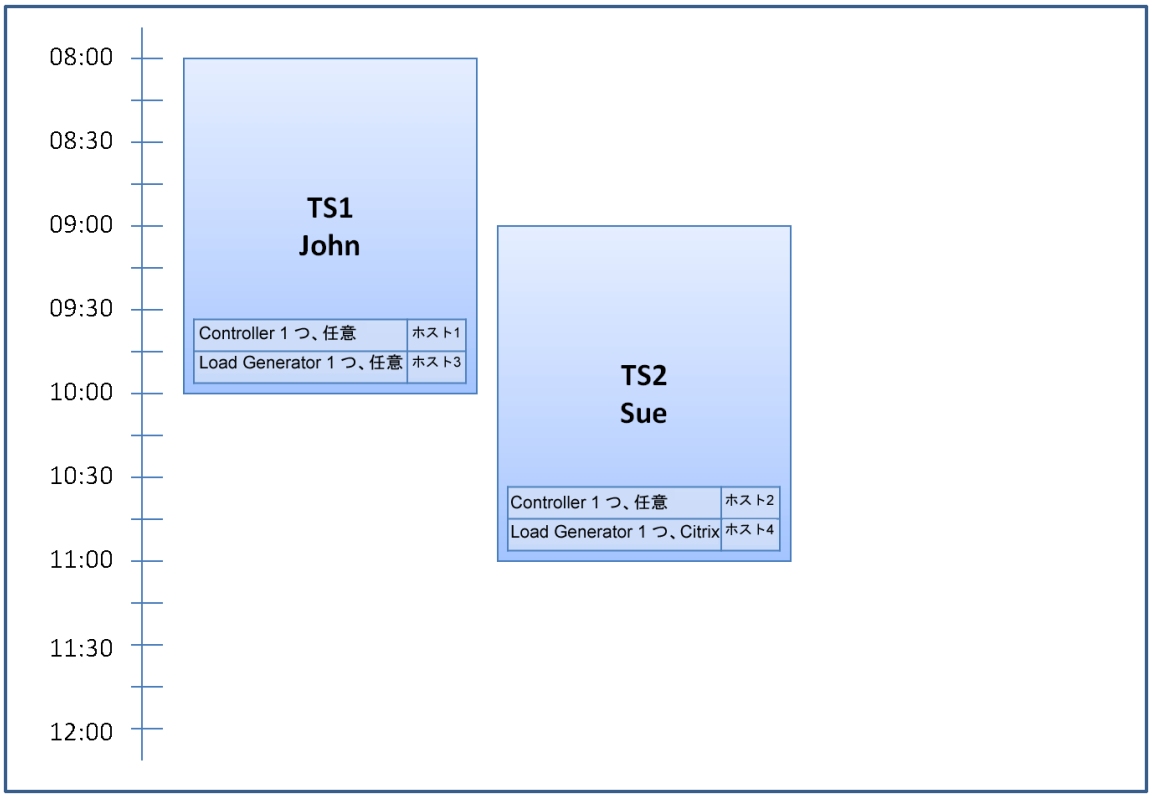
ホスト 4 が唯一の Citrix Load Generator であるため，システムによってホスト 4 を代わりに Sue のタイムスロットに割り当てできるように，John のタイムスロットに別の Load Generator を割り当てできるかが確認されます。

必要なホストが利用できる場合，次の再シャッフルが発生します。

- ホスト 3 は，John に割り当てられ，ホスト 4 は Sue に割り当てられます。
- John の Controller であるホスト 1 は，John に割り当てられたままであり，同じく Controller であるホスト 2(未割り当て) は，Sue に割り当てられます。

Sue は要求の送信に成功します。新しいホストの割り当ては次のようになります。

タイムスロット	要求されたホスト	割り当てられたホスト
TS1	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，任意	ホスト 1 ホスト 3(ホスト 4 と置換)
TS2	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，Citrix	ホスト 2 ホスト 4



注 : ホストの割り当ては，「先着順」です。John がホスト 4 を先に予約しているため，John のタイムスロットに割り当てできるホストが他になかった場合，ホスト 4 は John に割り当てられたままに

なり，Sue は正常にタイムスロットを予約できません。

午前 7 時 45 分に，Peter は次のタイムスロットを予約します。

タイムスロット	予約した時間	予約した時間帯	要求したリソース，プロパティ
TS3	07:45	午前 10 時～午後 12 時	Controller 1 つ，ホスト 2 Load Generator 1 つ，任意

Peter は，自分の Controller にホスト 2 と任意の Load Generator を要求しています。システムにより，要求と他のタイムスロットのタイミングを考慮に入れ，要求されたホストが割り当て可能かが確認されます。

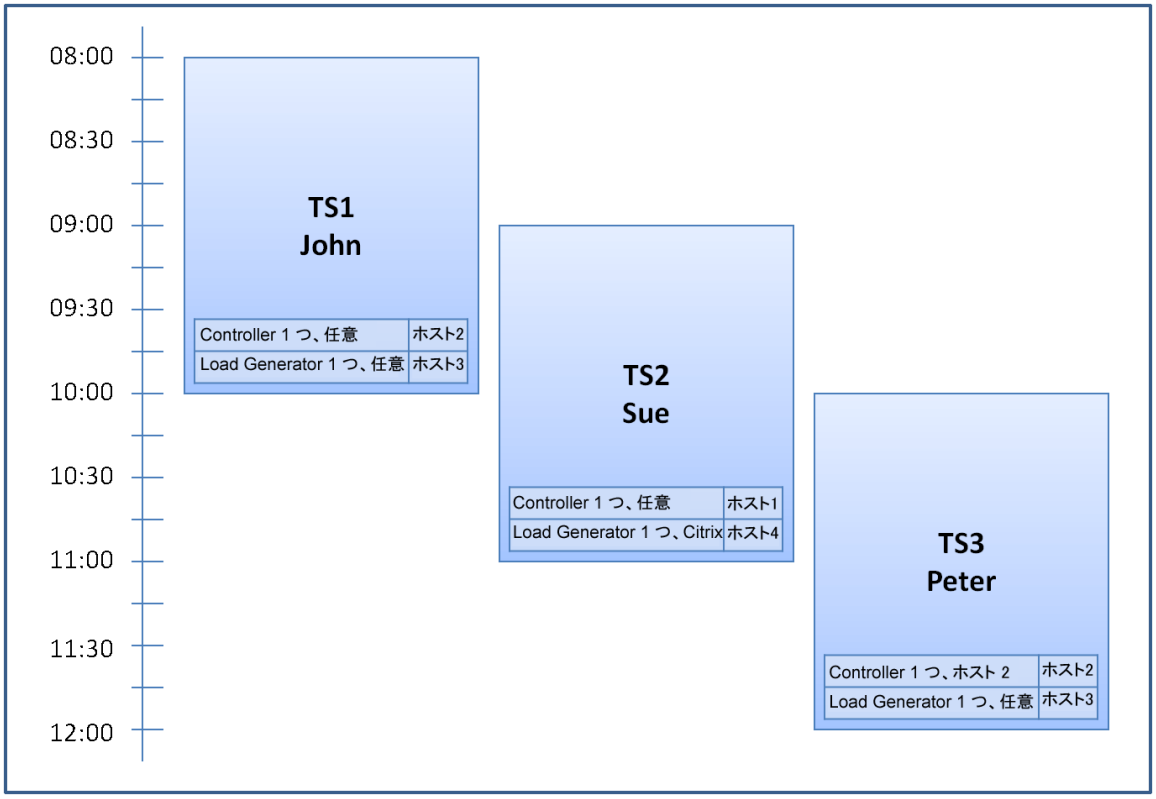
- ホスト 2 を Peter のタイムスロットに割り当てるには，10 時まで利用できる必要があります。
- Sue は任意の Controller を希望しています。
- John のタイムスロットは，10 時に終わり，リソースが解放されます。

すべてのタイムスロットに対応できるように，次の再シャッフルが発生します。

- Sue のタイムスロットは，ホスト 2 を離れ，代わりにホスト 1 が割り当てられます。ホスト 4(Citrix) は，Sue のタイムスロットに割り当てられたままになります。
- ホスト 2 は，John のタイムスロットに割り当てられ，ホスト 3 は John のタイムスロットに割り当てられたままになります。
- John のタイムスロットは，Peter のタイムスロットが開始する 10 時までに終了するため，ホスト 2 とホスト 3 は，Peter のタイムスロットに割り当てられます。

Peter は要求の送信に成功します。新しいホストの割り当ては次のようになります。

タイムスロット	要求されたホスト	割り当てられたホスト
TS1	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，任意	ホスト 2 ホスト 3
TS2	Controller 1 つ，任意 Load Generator 1 つ，Citrix	ホスト 1 ホスト 4
TS3	Controller 1 つ，ホスト 2 Load Generator 1 つ，任意	ホスト 2 ホスト 3



注 : John と Peter のタイムスロットが重なっている場合，ホスト 2 が Peter のタイムスロットの一部に利用可能になることはありません。この場合，再シャッフルは不可能であり，Peter は正常にタイムスロットの予約ができなくなります。

では，7 時 55 分に，ホスト 2 が非稼動になったとします。TS1 はホスト 1 に戻り，8 時に開始します。これは，上記の情報から続き，TS2 と TS3 のリソースは部分的に割り当てられるため，TS2 と TS3 の両方が無効になります。

次に，9 時 5 分に，ホスト 2 が再度稼働中になります。TS2 に割り当てられ，5 分後，ただし，まだ指定された再試行期間中に，TS2 が開始します。(再試行設定の詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』) を参照してください。)

11 時に，TS3 は無効のままで(一部割り当て)，ホスト 2 はまだ TS2 によって使用されているため，開始できません。

ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法

このタスクでは，テストを実行するリソースの予約方法を説明します。

注 :

- このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALM でのアプリケーションのデプロイおよびテスト」(539ページ) を参照してください。

- **製品の機能紹介ムービー**：タイムスロットを予約する方法を例示するムービーを表示するには，ALM のメイン・ウィンドウで［**ヘルプ**］＞［**ムービー**］を選択します。

タイムスロット予約の詳細については，「タイムスロットの予約の概要」（674ページ）を参照してください。

1. **前提条件**

   ホスト・プールが定義され，プロジェクトに割り当てられていることを確認します。ラボ管理でのホスト・プールの管理については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

   タイムスロット中に特定のテストを実行する場合，そのテストのインスタンスがテスト・セットに含まれていることを確認します。

   パフォーマンス・テストでは，ホスト・プール内の少なくとも 1 つのホストを Controller として指定できることと，ホスト数の上限，仮想ユーザ数の上限，同時実行数の上限がプロジェクト設定で定義されていることを確認します。

2. **タイムスロットの作成**

   a. ALM サイドバーの［**テスト**］の下にある［**タイムスロット**］を選択します。

   b. タイムスロットのツールバーで，［**新規タイムスロット**］をクリックします。

   c. タイムスロットの詳細を入力し，リソースを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」（701ページ）を参照してください。

3. **要求されたリソースの可用性の確認**

   次のいずれかを行います。

   - （推奨）［**可用性の計算**］をクリックします。システムによって，要求されたリソースの可用性が確認されます。この計算の結果は，［タイムスロットのステータス］タブに表示され，リソース可用性予定表に視覚的に表示されます。

     タイムスロットを予約できない場合，リソースを再度選択するときに，［**タイムスロットのステータス**］タブに表示された理由を検討します。タイムスロットを予約できない場合，［送信］をクリックして，タイムスロットを保存できます。

   - ［**送信**］をクリックします。システムにより，選択したタイムスロットに要求したリソースの可用性が計算されます。すべてのリソースが利用可能な場合，［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックスが閉じ，タイムスロットが予約され，タイムスロット・モジュールに表示されます。タイムスロットが予約できない場合，［タイムスロットのステータス］タブに理由が表示されます。

タイムスロットの予約のユーザ・インタフェース

本項の内容

タイムスロット・モジュール・ウィンドウ 686

タイムスロット・モジュールのメニューおよびボタン 692
タイムスロット・モジュールのフィールド 697
タイムスロット・モジュール・アイコン 700
[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス 701
[特定のホストの選択]ダイアログ・ボックス 712
[タイムスロットの予約：データ処理]ダイアログ・ボックス 714
[Controllerの選択]ダイアログ・ボックス 716
[自動適合 Load Generatorの選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックス 717
[特定のLoad Generator/ホストの選択]ダイアログ・ボックス 718
[タイムゾーンのオプション]ダイアログ・ボックス 720

タイムスロット・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると，機能とパフォーマンスのテスト・セットおよびテスト，またはメンテナンス・タスクを実行するためのタイムスロットを予約できます。

このモジュールには，次のビューが含まれます。カレンダー・ビュー，グリッド・ビュー。

[**表示**]メニューからビューを選択します。

カレンダー・ビュー

このビューでは，カレンダー・ビューでタイムスロットを表示できます。カレンダー・ビューは，時間指向です。同じ日にスケジュールが設定されたタイムスロットを表示し，重なっているタイムスロットを視覚的に表示できます。

グリッド・ビュー

タイムスロットを表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には，タイムスロットが個別に表示されます。このビューは，タイムスロットのフィルタ処理や複数のタイムスロットの詳細を同時に表示するのに役立ちます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **メンテナンス・タイムスロット**：ラボ管理サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 • **テストのタイムスロット**：ALMサイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。

重要な情報	• カレンダー・ビューとグリッド・ビューには，タイムスロットに関して，異なった種類の情報が表示されます。特定のタイムスロットに関する完全な詳細を表示するには，［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックスでタイムスロットを開きます。詳細については，次の項目を参照してください。 ▪ 「［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス」(701ページ) ▪ 『HP ALM ラボ管理ガイド』
関連タスク	「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)

タイムスロットの主要領域

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<タイムスロット・モジュール共通 UI 要素>	• **タイムスロットのメニューおよびボタン**：コマンドとボタンの説明については，「タイムスロット・モジュールのメニューおよびボタン」(692ページ)を参照してください。 • **タイムスロットのフィールド**：フィールドの定義については，「タイムスロット・モジュールのフィールド」(697ページ)を参照してください。 • **タイムスロットのアイコン**：アイコンの説明については，「タイムスロット・モジュール・アイコン」(700ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<カレンダー>	プロジェクトで予約されたタイムスロットをカレンダー形式で表示します。 カレンダー・ビューのタイムスロットは，次のように色分けされています。 • パフォーマンスのタイムスロット • 機能タイムスロット • ビルド検証スイートのタイムスロット • メンテナンス・タイムスロット • 他のプロジェクトに予約されたテストのタイムスロット • データ処理タイムスロット(Performance Center プロジェクトのみ) **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ

UI 要素	説明
<日付ナビゲータ>	メインのカレンダー・グリッドに表示される日/週を選択できます。
<グリッド・フィルタ>	各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合，現在カラムにはフィルタが適用されていません。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[**参照**]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
[説明]タブ	現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
[イベント ログ]タブ	現在選択されているタイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
[履歴]タブ	現在選択されているタイムスロットに行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
[ホストの割り当て]タブ	選択したタイムスロットへのホストの一時的な割り当てが表示されます。詳細については，次の「[ホストの割り当て]タブ」(689ページ)を参照してください。 **注**： • **カレンダー・ビュー**：カレンダーでタイムスロットが選択されている場合，カレンダーの右に表示されます。 • **グリッド・ビュー**：情報パネルに表示されます。
今日の自分のタイムスロット	現在のプロジェクトの現在の日に予約した，開かれている未来のタイムスロットが表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
[ステータス]タブ	選択したタイムスロットのステータスと有効期限が表示されます。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
[サマリ]タブ	カレンダーに選択したタイムスロットのサマリが表示されます。詳細については，次の「[サマリ]タブ」(689ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ。タイムスロットがカレンダーで選択されている場合。

UI 要素	説明
[タイムスロット]グリッド	プロジェクトのタイムスロットがグリッドで表示されます。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ

[ホストの割り当て]タブ

このタブには，選択したタイムスロットへのホストの割り当てが表示されます。未来のタイムスロットについては，ホストの割り当ては一時的な割り当てです。

重要な情報	割り当てられたホストが利用できない場合，システムは割り当てられたホストを類似したプロパティを持つ別のホストで置き換えようとします。ホストが利用できない場合，タイムスロットは部分的に割り当てられ，無効になります。 • **カレンダー・ビュー**：カレンダーでタイムスロットが選択されている場合，カレンダーの右に表示されます。 • **グリッド・ビュー**：情報パネルに表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
要求済み	要求されたプロパティを含めて，要求されたホストが表示されます。
実際	タイムスロットに割り当てられた特定のホストが表示されます。 次の内容が特定のホスト名の代わりに表示される場合があります。 • **割り当てられていません**：要求されたホストは，割り当てできませんでした。 • **割り当て済み(削除済み)**：割り当てられたホストは，タイムスロット開始時刻後に削除されました。 • **別のプールから**：ホストがアクセスのない別のプロジェクトのホスト・プールに属しています。

[サマリ]タブ

このタブには，タイムスロットの詳細のサマリが表示されます。

次に，ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
AUT 環境設定	タイムスロットに割り当てられている環境パラメータのセットまたは[**未接続**]の表示。 リンクをクリックして，AUT 環境モジュールの AUT 環境に移動します。

UI 要素	説明
ビルド検証スイート	タイムスロットに関連付けられているビルド検証スイートの名前を含むリンク，または［**未接続**］の表示。 リンクをクリックして，ビルド検証モジュールのビルド検証スイートに移動します。 **利用可能な対象**：ビルド検証スイートのタイムスロットのみ。
作成者	タイムスロットを作成したユーザ。
説明	タイムスロットの説明が表示されます。
継続時間	タイムスロットの継続時間（分）。 タイムスロットの継続時間は，カッコに囲まれた HH:MM 形式でも表示されます。
終了時刻	タイムスロットの終了時刻。
ホスト	タイムスロットに要求されたホストの数。
最終更新者	タイムスロットを最後に変更したユーザ。
メンテナンス状態	メンテナンス・タイムスロットの状態。 **利用可能な対象**：メンテナンス・タイムスロットのみ。
名前	タイムスロットの名前。
パフォーマンス・テスト	タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの名前。 **利用可能な対象**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみ。
実行後のアクション	リンクされたパフォーマンス・テストに指定された実行後のアクション。 **利用可能な対象**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみ。
優先度変更日	タイムスロットの優先度が変更された日時。
処理の状態	データ処理タイムスロットの状態。 **利用可能な対象**：データ処理タイムスロットのみ。
プロジェクト	タイムスロットが作成されたプロジェクト。
実現された環境名	CDA へのリンク後の，タイムスロットの実際の環境の名前。 **利用可能な対象**：ビルド検証スイートのタイムスロットのみ。

UI 要素	説明
実行 ID	タイムスロットに関連付けられている実行 ID を含むリンク。 リンクをクリックして，テスト実行モジュール> [ビルド検証スイートの実行]タブの実行に移動します。 **利用可能な対象**：すべてのテストのタイムスロット。ただし，エンティティがタイムスロットにリンクされている場合。
実行状態	タイムスロットにリンクされているエンティティの実行状態。 **利用可能な対象**：テストのタイムスロットのみ。ただし，エンティティがタイムスロットにリンクされている場合。
起動	タイムスロットの起動方法は次のとおりです。 **手動**：タイムスロットの予約では，テスト・リソースのみを予約します。 **自動**：リンクされたテストまたはテスト・セットは，手動操作なしで，タイムスロットの開始時に自動的に実行が開始します。
開始時刻	タイムスロットの開始時刻。
テスト・セット	タイムスロットに関連付けられているテスト・セットの名前。 **利用可能な対象**：テスト・タイムスロットのみ。
タイムスロット ID	タイムスロットの ID。
トポロジ・アクション	タイムスロットに定義されているトポロジのデプロイメント，プロビジョニング，およびプロビジョニング解除のアクション。 **例**： **プロビジョニングとデプロイ，終了時にプロビジョニング解除** **利用可能な対象**：ビルド検証スイートのタイムスロットのみ。

UI 要素	説明
妥当性	タイムスロットの妥当性： • **有効**：タイムスロットは有効です。 • **失敗**：次の理由によるタイムスロットの失敗。 ▪ リソースが予期せず利用不能状態になったため ▪ ライセンス定義変更のため ▪ プロジェクト設定変更のため ▪ テスト・タイムスロットの場合は，テスト，テスト・セット，AUT 環境設定，またはビルド検証スイートの妥当性などの変更のため
仮想ユーザ	タイムスロットに要求された仮想ユーザの数。 **利用可能な対象**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみ。

タイムスロット・モジュールのメニューおよびボタン

本項では，タイムスロット・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **メンテナンス・タイムスロット**：ラボ管理サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 • **テストのタイムスロット**：ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。
重要な情報	タイムスロット・ビューによっては，一部のメニュー・コマンドやボタンが利用できない場合があります。
関連タスク	「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
中止してリソースを解放	[編集]と<右クリック・メニュー>	現在のタイムスロットを中断して，予約されたリソースを解放します。 テスト・タイムスロットについては，テスト，テスト・セット，またはビルド検証スイートが実行されている場合，その実行が中断されます。 **テストのタイムスロットを中断，解放する場合の注：** • この操作は，ラボ管理，またはタイムスロットが予約されたプロジェクトからのみ実行できます。 • エンティティ(テスト，テスト・セット，ビルド検証スイート)が実行されている場合，この操作の実行を[**中止**]，[**編集**]する権限が必要です。実行されているテストがない場合，この操作の実行に必要なのは[**編集**]権限のみです。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
カレンダー・ビュー	表示	選択すると，タイムスロットがカレンダー・ビューに表示されます。
定義済みフィルタ	なし	タイムスロットを次のようにフィルタ処理できます。 • **アクセス可能なプロジェクトのすべて**：すべてのプロジェクトからすべてのタイムスロットが表示されます。 • **自分のもの(このプロジェクト)**：このプロジェクトで作成したすべてのタイムスロットが表示されます。 • **自分の失敗(このプロジェクト)**：このプロジェクトで作成して失敗したすべてのタイムスロットが表示されます。 • **自分のもの(すべてのプロジェクト)**：すべてのプロジェクトで作成したすべてのタイムスロットが表示されます。 • **自分の失敗(すべてのプロジェクト)**：すべてのプロジェクトで作成して失敗したすべてのタイムスロットが表示されます。

UI 要素	メニュー	説明
URL のコピー	[タイムスロット]と<右クリック・メニュー>	選択したタイムスロットをコピーします。タイムスロット自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALM が起動し，タイムスロット・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
コピー/貼り付け	[編集]と<右クリック・メニュー>	同じプロジェクト内で選択したタイムスロットをコピーします。
削除	[編集]と<右クリック・メニュー>	選択したタイムスロットを削除します。 **注**：現在のプロジェクトの未来のタイムスロット予約のみを削除できます。 **管理者に対する注**：ラボ管理から未来のテストのタイムスロットを削除することもできます。
エクスポート	[タイムスロット]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのリソースをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，モジュールでタイムスロットを検索できます。検索オプションの詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
タイムスロットに移動	タイムスロット	[タイムスロットに移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID で特定のタイムスロットを検索できます。

UI 要素	メニュー	説明
カレンダー/グリッド・ビューのタイムスロットに移動	右クリック・メニュー	• **カレンダー・ビュー**：グリッド・ビューで選択したタイムスロットに移動します。 • **グリッド・ビュー**：カレンダー・ビューで選択したタイムスロットに移動します。 **注**：ツールバー・ボタンは，カレンダー・ビューでのみ利用できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
グリッド・ビュー	表示	選択すると，タイムスロットがグリッド・ビューに表示されます。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
新規タイムスロット	[タイムスロット]と＜右クリック・メニュー＞	新しいタイムスロットを予約できます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューの右クリック・メニューのみ。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。詳細については，「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。

UI 要素	メニュー	説明
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 タイムスロット・モジュール・フィールドの詳細については，「タイムスロット・モジュールのフィールド」(697ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：グリッド・ビューのみ
電子メールで送信	[タイムスロット]と＜右クリック・メニュー＞	[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開き，リストから選択した宛先，またはタイムスロットを予約したユーザ宛てにタイムスロットの詳細を送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	タイムスロットのフィルタ処理とソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。 **注**：カレンダー・ビューでは，タイムスロットのみをフィルタ処理できます。
タイムスロットの詳細の表示	表示	選択したタイムスロットに関する詳細が含まれた[**サマリ**]タブと[**ホストの割り当て**]タブが(カレンダー・グリッドの右側に)表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
タイム・ゾーンのオプション	ツール	[タイムゾーンのオプション]ダイアログ・ボックスが開き，タイムスロットのカレンダー・ビューに追加のタイム・ゾーンを表示できます。詳細については，「[タイムゾーンのオプション]ダイアログ・ボックス」(720ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
タイムスロットの詳細	[タイムスロット]と＜右クリック・メニュー＞	[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスが開き，選択したタイムスロットの詳細を表示，変更できます。 詳細については，次の項目を参照してください。 • 「[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス」(701ページ) • 『HP ALM ラボ管理ガイド』 **注**：タイムスロットを表示できても，変更することができない場合があります。たとえば，過去のタイムスロットは変更できません。

UI 要素	メニュー	説明
今日		カレンダーのみに現在の日が表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
日		日付セレクタで選択した日付が表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
週（稼働日）		日付セレクタで選択した日付近辺で5労働日の週が表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ
週		日付セレクタで選択した日付近辺の1週間が表示されます。 **利用可能な場所**：カレンダー・ビューのみ

タイムスロット・モジュールのフィールド

本項では，タイムスロット・モジュールのフィールドについて説明します。

UI 要素	説明
追加で要求された仮想ユーザ	リンクされたパフォーマンス・テストで定義されたタイムスロットに加えて，パフォーマンス・テストのタイムスロットに対して要求された仮想ユーザの数。
自動延長	テストが完了する前にタイムスロットが終了した場合にタイムスロットが自動的に延長されるかどうかを示します。
自動起動が有効	[**Y**]は，タイムスロットが開始したときに，リンクされたエンティティが実行を開始することを示します。タイムスロットを自動的に起動するように設定することで，自動起動を有効にします。 **注**：メンテナンス・タイムスロットの場合，このフィールドは空になります。
ビルド検証スイート ID	タイムスロットにリンクされているビルド検証スイートのID。
ビルド検証スイート名	タイムスロットにリンクされているビルド検証スイートの名前。
VUD を消費	[**Y**]は，タイムスロットでVUDライセンスの仮想ユーザが使用される/使用されたことを示します。
作成日	タイムスロットが予約された日時。
作成者	タイムスロットを予約したユーザ。
説明	タイムスロットの説明。

UI 要素	説明
継続時間(分)	タイムスロットの継続時間(分)。 **注**：このフィールドには，カッコ内に継続時間がHH:MM形式で表示されます。
終了時刻	タイムスロットが終了する予定/終了した日時。
使用中	[**Y**]は，タイムスロットの範囲内で，現在アクティブな操作が発生していることを示します。 **例**： • パフォーマンス・テストが実行されている。 • ホストが再起動されている。 **注**：アクティブなタイムスロットは編集できません。
更新日時	タイムスロットの詳細が最後に修正された日時。
更新者	タイムスロットの詳細を最後に変更したユーザ。
名前	タイムスロットの名前。
実行後のアクション	テスト実行の完了後に実行されるアクション。
プロジェクト名	タイムスロットが属するプロジェクトの名前。
要求されたホスト	タイムスロットに要求されたホストの数。
実行 ID	タイムスロットのコンテキストで作成された実行のID。
サーバの終了時刻	サーバのタイム・ゾーンで，タイムスロットが終了する予定/終了した日時。
サーバの開始時刻	サーバのタイム・ゾーンで，タイムスロットが開始する予定/開始した日時。
開始時刻	タイムスロットが開始する予定/開始した日時。

UI 要素	説明
状態	タイムスロットの状態。 **テストのタイムスロットの状態**： • **なし**：タイムスロットにリンクされたエンティティはありません。 • **未開始**：エンティティはタイムスロットにリンクされていますが，実行は開始していません。 • **<実行状態>**：実行状態と実行後の状態。 **メンテナンスとデータ処理タイムスロットの状態**： • **アクティブ**：タイムスロット中に操作が実行されています。 • **非アクティブ**：タイムスロット中に操作は実行されていません。
テスト ID	タイムスロットにリンクされているテストの ID。
テスト・インスタンス ID	タイムスロットにリンクされているテスト・インスタンスの ID。
テスト名	タイムスロットにリンクされているテストの名前。 **注**：タイムスロットにリンクされているテストが削除されると，タイムスロットに影響します。
テスト・セット ID	タイムスロットにリンクされているテスト・セットの ID。
テスト・セット名	タイムスロットにリンクされているテスト・セットの名前。
テストの妥当性	リンクされているテスト・セットが有効かどうかを示します。
テストの妥当性	タイムスロットにリンクされているテストの妥当性。
タイムスロット ID	タイムスロットの ID。
タイムスロットのタイプ	タイムスロットのタイプ。パフォーマンス・テスト，メンテナンス，またはデータ処理。

UI 要素	説明
タイムスロットの妥当性	リソースの割り当てに基づくタイムスロットの妥当性。 • [**Y**]は，タイムスロットが有効で，すべてのリソースが要求されたとおりに割り当てられていることを示します。 • [**N**]は，有効なタイムスロットがライセンス，リソース，またはテスト検証の問題で無効になったことを示します。この状態で，タイムスロットは**部分的に割り当て**られます。詳細については，「タイムスロット障害について」(679ページ)を参照してください。
合計仮想ユーザ数	タイムスロットに予約された仮想ユーザの合計数。
テストの仮想ユーザ	リンクされたパフォーマンス・テストに定義された仮想ユーザの数。

タイムスロット・モジュール・アイコン

本項では，タイムスロット・モジュールで利用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **メンテナンス・タイムスロット**：ラボ管理サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 • **テストのタイムスロット**：ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。
参照情報	「タイムスロット・モジュール・ウィンドウ」(686ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	有効なタイムスロットを示します。
	部分的に割り当てられた(無効な)タイムスロットを示します。
	アクティブなタイムスロットを示します。

［タイムスロットの予約］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テスト・タイムスロットを予約し，予約したテスト・タイムスロットの詳細を表示できます。

アクセス方法	• **新規のテスト・タイムスロットの予約：** ALM サイドバーの［**テスト**］の下にある［**タイムスロット**］を選択します。次のいずれかを実行します。 ▪ タイムスロットのツールバーで，［**新規タイムスロット**］ボタンをクリックします。 ▪ カレンダー・ビューのみ：カレンダーの任意の場所をダブルクリックするか，ターゲット時間を右クリックして，［**新規タイムスロット**］を選択します。 • **既存のタイムスロットの予約：** **［ラボ管理］から：**サイドバーの［**ラボリソース**］で，［**タイムスロット**］を選択します。 **ALM から：** サイドバーの［**テスト**］の下にある［**タイムスロット**］を選択します。 次のいずれかを実行します。 ▪ グリッド・ビュー：テストのタイムスロットを右クリックして ，［**タイムスロットの詳細**］を選択します。 ▪ カレンダー・ビューのみ：テストのタイムスロット（青，オレンジ，緑のいずれか）を右クリックして，［**タイムスロットの詳細**］を選択します。
重要な情報	• **テスト**のタイムスロットを予約または表示するには，このダイアログ・ボックスを使用します。 • **メンテナンス**・タイムスロットの場合は，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 • **データ処理**タイムスロットの場合は，「［タイムスロットの予約：データ処理］ダイアログ・ボックス」（714ページ）を参照してください。
関連タスク	「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」（684ページ）
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」（674ページ）

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
実行	予約するタイムスロットのタイプを選択します。 • **パフォーマンス・テスト**：パフォーマンス・テストの1つのインスタンスを実行するためのリソースを予約します。 • **機能テスト・セット**：機能テスト・セット全体を実行するためのリソースを予約します。 • **ビルド検証スイート**：ビルド検証モジュールでの定義に従って，1つのパフォーマンス・テストに加え機能テスト・セットの集まりを実行するためのリソースを予約します。詳細については，「ビルド検証」(653ページ)を参照してください。
開始	リンクされたテストまたはテスト・セットを実行する方法を選択します。 • **手動**：タイムスロットの予約では，テスト・リソースのみを予約します。リンクされたテストまたはテスト・セットをテスト・ラボ・モジュールから手動で実行します。手動でのテストの実行の詳細については，「テスト実行の概要」(534ページ)を参照してください。 • **自動**：リンクされたテストまたはテスト・セットは，手動操作なしで，タイムスロットの開始時に自動的に実行が開始します。テストを自動的に開始するように設定すると，タイムスロットの自動起動が有効になります。 **注：** 自動起動の再試行を設定するには，「[タイムスロットの設定]ページ」『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **バージョン管理**：タイムスロットの開始時にテストをチェックアウトしていても，最後にチェックインしたテストのバージョンが常に実行されます。バージョン管理を使用するプロジェクトでは，オートスタートをスケジュールしたテストにチェックアウト済みのスクリプトが含まれている場合，オートスタートは失敗します。
名前	タイムスロットのわかりやすい名前。

UI 要素	説明
テスト・インスタンスの選択	パフォーマンス・テストをタイムスロットにリンクできます。 標準設定では，リンクされているテストはありません。選択は[**なし**]と表示されます。 テストをタイムスロットにリンクする必要はありません。ただし，テストをタイムスロットにリンクすると，手動操作なしで，自動的にテスト実行を行うオプションが使用できます。詳細については，「自動タイムスロット」(676ページ)を参照してください。 パフォーマンス・テストをタイムスロットにリンクするには，テストのインスタンスがテスト・セットに含まれている必要があります。テストをリンクするには，[**なし**]をクリックします。テスト・ラボ・ツリーを表示するウィンドウが開きます。リンクするパフォーマンス・テストに移動し，[**OK**]をクリックします。 **注：**リンクされたテストを(パフォーマンス・テスト・デザイナで)変更する場合，タイムスロットは自動的に更新され，手動でテストを再リンクする必要はありません。リンクされたテストを変更すると，タイムスロットの妥当性に影響することがあるので注意してください。 **バージョン管理：**チェックアウトされたテストはリンクできません。 **利用可能な場所：**パフォーマンス・テストのタイムスロットのみ。
テスト・セットの選択	機能テストをタイムスロットにリンクできます。 標準設定では，リンクされているテスト・セットはありません。選択は[**なし**]と表示されます。 テスト・セットをタイムスロットにリンクする必要はありません。ただし，テスト・セットをタイムスロットにリンクすると，手動操作なしで，自動的にテスト・セット実行を行うオプションが使用できます。詳細については，「自動タイムスロット」(676ページ)を参照してください。 テスト・セットを選択するには，[**なし**]をクリックします。テスト・ラボ・ツリーを表示するウィンドウが開きます。タイムスロットにリンクする機能テスト・セットに移動し，[**OK**]をクリックします。 **注：**リンクされたテスト・セットを変更すると，タイムスロットは自動的に更新され，テスト・セットを手動で再リンクする必要はありません。リンクされたテスト・セットを変更すると，タイムスロットの妥当性に影響することがあるので注意してください。 **利用可能な対象：**機能テスト・セットのタイムスロットのみ。

UI 要素	説明
ビルド検証スイートの選択	ビルド検証スイートをタイムスロットにリンクできます。 標準設定では，リンクされているスイートはありません。選択は［**なし**］と表示されます。 スイートをタイムスロットにリンクする必要はありません。ただし，スイートをタイムスロットにリンクすると，手動操作なしで，自動的にスイート実行を行うオプションが使用できます。詳細については，「自動タイムスロット」(676ページ)を参照してください。 ビルド検証スイートをリンクするには，［**なし**］をクリックします。ビルド検証ツリーを表示するウィンドウが開きます。リンクするビルド検証スイートに移動して，［**OK**］をクリックします。 **注：**ビルド検証スイートを変更すると，タイムスロットは自動的に更新され，スイートを手動で再リンクする必要はありません。ビルド検証スイートを変更すると，タイムスロットの妥当性に影響することがあるので注意してください。 **バージョン管理：**チェックアウトされたテストを含むビルド検証スイートはリンクできません。 **利用可能な対象：**ビルド検証スイートのタイムスロットのみ。
テスト	タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの名前とステータスを表示します。 タイムスロットに別のテストをリンクするには，テスト名をクリックします。テスト・ラボ・ツリーを表示するウィンドウが開きます。リンクするパフォーマンス・テストに移動し，［**OK**］をクリックします。テストのリンクを解除するには，［**クリア**］をクリックします。 タイムスロットへのパフォーマンス・テストのリンク方法の詳細については，前述のテスト・インスタンスの選択を参照してください。 **利用可能な対象：**パフォーマンス・テストのタイムスロットのみで，パフォーマンス・テストがタイムスロットにリンクされている場合のみ。

UI 要素	説明
仮想ユーザ	リンクされたテストに定義された仮想ユーザ数またはVUD数を表示します。 仮想ユーザの代わりにVUD，またはVUDの代わりに仮想ユーザを使用するには，［**仮想ユーザ/VUD**］をクリックして，選択を変更します。 仮想ユーザまたはVUDを追加するには，［**さらに追加**］をクリックします。 **注：** 要求されたタイムスロットと他のタイムスロットに予約されたすべての仮想ユーザ/VUDの合計が，プロジェクト設定（［**ラボ設定**］＞［**プロジェクト設定**］）で指定された上限を超えないようにしてください。また，ライセンスで指定された仮想ユーザ/VUDの数を超えないようにしてください。 VUDの詳細については，『HP ALMラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な対象**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみで，パフォーマンス・テストがタイムスロットにリンクされている場合のみ。

UI 要素	説明
実行後	パフォーマンス・テストの実行が完了したときに実行されるアクションを定義できます。 • **照合**：実行が終了すると，実行結果は，すべてのLoad Generatorから収集されます。 **注：**実行データの損失や実行データにアクセスできなくなることを防ぐため，テスト実行の完了時直ちに結果が収集されるよう，このオプションを選択します。 • **照合と分析**：実行が終了すると，実行結果が収集，分析されます。データ分析には結果ファイルのサイズによって，少し時間がかかります。データ分析に含められるタイムスロットがない場合，代わりに[**照合**]オプションを選択し，データ・プロセッサが利用できるようになったら，最後の分析を実行します。[結果]タブから最後の分析を実行します。[結果]タブの詳細については，『HP ALM Performance Centerガイド』を参照してください。 • **結果を照合しない**：パフォーマンス・テスト終了後，直ちにマシンを解放します。実行が終了すると，実行結果は，Load Generatorに残されます。[結果]タブから，より後の段階の結果を分析できます。 **標準設定値**：照合：選択を変更するには[**照合**]をクリックします。 **利用可能な対象**：パフォーマンス・テストのタイムスロットのみで，パフォーマンス・テストがタイムスロットにリンクされている場合のみ。
テスト・セット	タイムスロットにリンクされている機能テスト・セットの名前とステータスを表示します。 タイムスロットに別のテスト・セットをリンクするには，テスト・セット名をクリックします。テスト・ラボ・ツリーを表示するウィンドウが開きます。リンクするテスト・セットに移動し，[**OK**]をクリックします。テスト・セットのリンクを解除するには，[**クリア**]をクリックします。 タイムスロットへのテスト・セットのリンク方法の詳細については，前述のテスト・セットの選択を参照してください。 **利用可能な対象**：機能テスト・セットのタイムスロットのみ。

UI 要素	説明
ビルド検証スイート	タイムスロットにリンクされているビルド検証スイートの名前とステータスを表示します。 タイムスロットに別のスイートをリンクするには，スイート名をクリックします。ビルド検証スイートを表示するウィンドウが開きます。リンクするスイートに移動し，［**OK**］をクリックします。スイートのリンクを解除するには，［**クリア**］をクリックします。 タイムスロットへのプロセスのリンク方法の詳細については，前述のビルド検証スイートの選択を参照してください。 **利用可能な対象**：ビルド検証スイートのタイムスロットのみで，スイートがタイムスロットにリンクされている場合のみ。
AUT 環境設定	タイムスロットの AUT 環境設定を選択できます。 標準設定では，選択されている設定はありません。選択は［**なし**］と表示されます。 AUT 環境設定をリンクするには，［**なし**］リンクをクリックします。AUT 環境ツリーを表示するウィンドウが開きます。追加する AUT 環境設定に移動し，［**OK**］をクリックします。 AUT 環境の詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。 **利用可能な対象**：すべてのタイムスロット・タイプ。ただし，エンティティがタイムスロットにリンクされている場合のみ。

UI 要素	説明
デプロイメント	システムを HP Continuous Delivery Automation(CDA) と統合すると，これらのオプションを使用して，テスト対象アプリケーションのデプロイメントのアクションを選択できます。AUT 環境設定とCDA の統合の詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ) を参照してください。 ALM には，デプロイメント用に次のオプションがあります。 • **プロビジョニングとデプロイ**：テスト対象アプリケーションをデプロイするマシンを割り当てて，必要なイメージを準備し，アプリケーションをインストールできるようにします。つまり，オペレーティング・システム，データベース・サーバ，必要なすべてのソフトウェアが CDA パラメータに基づいてインストールされます。プロビジョニングの後に，テスト対象アプリケーション自体がインストールされます。 • **再デプロイ**：すでにプロビジョニングされているマシンでテスト対象アプリケーションの環境をデプロイして実行します。 • **デプロイ済みの環境を使用**：既存のインストールを使用してテストを実行します。 オプションを選択すると，環境名が青で表示されます。選択を変更するには，その環境名をクリックします。 **注：** • 選択するオプションを決定する際には，プロビジョニングおよびデプロイメントのアクションに時間がかかるので注意してください。定期的なテストの場合は，［**デプロイ済みを使用**］を選択することをお勧めします。 • 環境をデプロイし，実行で使用できるように準備できます。ビルド検証スイートまたはテスト・セットを一日中実行するようにスケジュール設定し，使用する環境を選択してください。

UI 要素	説明
プロビジョニング解除中	システムを HP Continuous Delivery Automation(CDA)と統合すると，これらのオプションを使用して，環境がデプロイされた後に実行するアクションを選択できます。AUT 環境設定とCDA の統合の詳細については，「AUT 環境の使用方法」(363ページ)を参照してください。 ALM には，プロビジョニング解除用に次のオプションがあります。 • **環境をデプロイ済みのままにする**：AUT 環境を無期限にデプロイ済みのままにします。デプロイ済みの環境は，将来のテストに使用できます。 • **終了時にプロビジョニング解除**：テストの実行が完了した後に，環境のデプロイおよびマシンのプロビジョニングが解除され，他の使用のために環境とマシンが解放されます。
継続時間	タイムスロットの継続時間(時，分)。 [**推奨される継続時間**]アイコンをクリックして，[推奨される継続時間]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[推奨される継続時間]ダイアログ・ボックス」(624ページ)を参照してください。 **注：**タイムスロットは，15 分以上，480 時間(20 日)以下で予約できます。
開始時刻	タイムスロットが開始する日時(時，分)。
終了時刻	タイムスロットが終了する日時(時，分)。
自動延長されたタイムスロット	有効にすると，タイムスロットが終了間近になってもまだテストが実行されている場合は，テスト・タイムスロットを自動的に延長します。タイムスロットを正常に延長するには，タイムスロットの延長で必要なテスト・リソースを使用できるようにする必要があります。詳細については，「タイムスロットの予約の延長」(677ページ)を参照してください。 **利用可能な対象**：機能テスト・セットおよびビルド検証スイート。

UI 要素	説明
自動適合 LG の追加 自動適合ホストの追加	[自動適合 Load Generator の選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックスが開き，特定のプロパティを持つ自動適合 Load Generator/ホストをタイムスロットに選択できます。詳細については，「[自動適合 Load Generator の選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックス」(717ページ) を参照してください。 **注：** パフォーマンス・テストのタイムスロットには，少なくとも 1 つの Load Generator(自動適合または特定)を含める必要があり，また機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロットには，少なくとも 1 つのホスト(自動適合または特定)を含める必要があります。 **利用可能な対象：** 新しい，開かれた，または未来のテスト・タイムスロット
特定の LG の追加 特定のホストの追加	[特定のホストの選択]または[特定の Load Generator/ホストの選択]ダイアログ・ボックスが開き，特定の Load Generator/ホストをタイムスロットに選択できます。詳細については，「[特定のホストの選択]ダイアログ・ボックス」(712ページ) および「[特定の Load Generator/ホストの選択]ダイアログ・ボックス」(718ページ) を参照してください。 **注：** パフォーマンス・テストのタイムスロットには，少なくとも 1 つの Load Generator(自動適合または特定)を含める必要があり，また機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロットには，少なくとも 1 つのホスト(自動適合または特定)を含める必要があります。 **利用可能な対象：** 新しい，開かれた，または未来のテスト・タイムスロット
編集	選択したホスト要求を編集できます。
	削除： 選択した Load Generator/ホストを削除します。 **注：** [**パフォーマンス テストのタイムスロット**]：選択した Controller は変更できますが，削除はできません。
	開始時刻を現在に設定： リソースの可用性のグラフで，現在の時刻を選択します。 **注：** 開始時刻が現在の時刻に設定されているタイムスロットは，予約の送信時に直ちに開きます。

UI 要素	説明
可用性の計算	選択したタイムスロットに要求したリソースの可用性が計算されます。結果は，リソースの可用性のグラフに視覚的に表示され，[タイムスロットのステータス]タブにメッセージが表示されます。
<メッセージ・バー>	ダイアログ・ボックスの上部にあります。タイムスロットに関するメッセージと警告が表示されます。 **利用可能な対象**：既存のタイムスロットのみ。
<リソース可用性予定表>	要求されたリソースの可用性が予定表に表示されます。 • **可用性が計算されていません**：新しいタイムスロットに要求したリソースの可用性を計算する前，またはタイムスロットを変更するときに予定表に表示されます。 これは，データ処理タイムスロットでは表示されません。 • **開始時刻**：要求したリソースが利用できる場合，タイムスロットに利用可能な開始時刻を示します。 • **リソースが不足しています**：要求されたすべてのリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。 • **不明**：タイムスロットに要求したリソースの可用性の計算前に表示されます。 • **ライセンス/プロジェクトの最大数**：予定表に示された開始時刻のライセンスまたはプロジェクトの上限の問題を示します。 **例**：ライセンスで利用可能なホストの上限より多くのホストが要求されている場合。 • **リソースが利用できません**：要求されたリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。
ID	タイムスロットのID。

UI 要素	説明
[要求されたホスト]グリッド	タイムスロットに要求されたリソースを表示します。 パフォーマンス・テストのタイムスロットの場合，標準設定では，自動適合 Controller が選択されます。これは，特定の Controller を参照して変更できます。 **注：** リンクされたエンティティの作成の一環として定義したリソース（テスト・ラボ・モジュールの[要求されたホスト]タブの機能テスト・セットに対して要求されたリソースなど）は，このグリッドに自動的に表示されます。これらの事前選択済みのリソースにはアスタリスクが付いています。
[タイムスロットのステータス]タブ	タイムスロット予約のステータスが表示されます。 タイムスロット障害の詳細については，「タイムスロット障害について」（679ページ）を参照してください。
[説明]タブ	現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。 **ヒント：** この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[追加の詳細]タブ	タイムスロットに関連する追加の詳細が表示されます。 **利用可能な対象：** 既存のタイムスロットのみ。
[イベント ログ]タブ	タイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所：** 既存のタイムスロットのみ。

[特定のホストの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，タイムスロットに特定のホストを予約できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 2. ツールバーで，[**新規タイムスロット**]ボタンをクリックします。 3. [要求されたホスト]グリッドの上で 特定のホストの追加 をクリックしてください。
関連タスク	『HP ALM ラボ管理ガイド』
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」（674ページ）

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新：グリッドを更新して，選択したフィルタに基づいて最新ホストのリストが表示されるようにします。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 ホスト・フィールドの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソート：グリッド内のホストに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
[表示]メニュー	次の作業が可能です。 • グリッド・フィルタの表示/非表示 • 選択したホストを表示する[サマリ]パネルの表示/非表示 • グリッドのフィルタ/ソート • グリッドの更新 • グリッドで表示するカラムの選択
<ホスト・グリッド>	予約に利用可能なホストが表示されます。 **ヒント**：複数のホストを選択する場合は，キーボードのCTRLキーを押しながら，リストでホストを選択します。
[選択済み]表示枠	グリッドで選択したホストが表示されます。

[タイムスロットの予約：データ処理]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，開かれた，または過去のデータ処理タイムスロットの詳細を表示できます。

アクセス方法	**[ラボ管理]から**：サイドバーの[**ラボリソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 **ALM から**：サイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。 次のいずれかを実行します。 • グリッド・ビュー：タイプが[**データ処理**]のタイムスロットを右クリックして，[**タイムスロットの詳細**]を選択します。 • カレンダー・ビューのみ：データ処理(薄紫色)のタイムスロットを右クリックして，[**タイムスロットの詳細**]を選択します。
重要な情報	• 現在の，または過去のデータ処理タイムスロットの詳細を表示するには，このダイアログ・ボックスを使用します。 • テストのタイムスロットについては，「[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックス」(701ページ)を参照してください。 • メンテナンス・タイムスロットの場合は，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 • データ処理タイムスロットは，パフォーマンス・テストでのみ利用できます。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
実行	タイムスロットがデータ処理タイプであることを示します。 **注：**このフィールドは無効になっていて，選択は変更できません。
起動	データ処理タスクが自動的に実行されることを示します。 **注：**このフィールドは無効になっていて，選択は変更できません。
名前	タイムスロットのわかりやすい名前。目前のデータ処理タスクにしたがって，タイムスロットに名前が付けられます。

UI 要素	説明
継続時間	タイムスロットのデータ処理の継続時間（時，分）。 **注：** データ処理タイムスロットの継続時間は，目前の処理タスクによって，システムにより内部で決定されます。
開始時刻	タイムスロットが開始した日時（時，分）。
終了時刻	タイムスロットが終了した，または終了する予定の日時（時，分）。
<メッセージ・バー>	ダイアログ・ボックスの上部にあります。タイムスロットに関するメッセージと警告が表示されます。 **利用可能な対象：**既存のタイムスロットのみ。
<リソース可用性予定表>	要求されたリソースの可用性が予定表に表示されます。 • **可用性が計算されていません：**新しいタイムスロットに要求したリソースの可用性を計算する前，またはタイムスロットを変更するときに予定表に表示されます。 • **開始時刻：**要求したリソースが利用できる場合，タイムスロットに利用可能な開始時刻を示します。 • **リソースが不足しています：**要求されたすべてのリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。 • **ライセンス/プロジェクトの最大数：**予定表に示された開始時刻のライセンスまたはプロジェクトの上限の問題を示します。たとえば，ライセンスで利用可能なホストの上限より多くのホストが要求されている場合。 • **不明：**タイムスロットに要求したリソースの可用性の計算前に表示されます。 • **リソースが利用できません：**要求されたリソースが，予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。
[要求されたホスト]グリッド	タイムスロットに予約されたデータ・プロセッサ・ホストが表示されます。 **注：** データ・プロセッサ・ホストは，システムによって自動的に選択されます。
[タイムスロットのステータス]タブ	タイムスロット予約のステータスが表示されます。 タイムスロット障害の詳細については，「タイムスロット障害について」（679ページ）を参照してください。

UI 要素	説明
[説明]タブ	現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。 **ヒント：**この領域を右クリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのメニューが表示されます。
[追加の詳細]タブ	タイムスロットに関連する追加の詳細が表示されます。 **利用可能な対象：**既存のタイムスロットのみ。
[イベント ログ]タブ	タイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な対象：**既存のタイムスロットのみ。

[Controller の選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，パフォーマンス・テストのタイムスロットに Controller を選択できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**テスト**]の下にある[**タイムスロット**]を選択します。 2. ツールバーで，[**新規タイムスロット**]をクリックします。 3. このダイアログ・ボックスの左上隅で，[**実行**]＞[**Performance Test**]を選択します。 4. [**要求されたホスト**]グリッドで，**Controller** の[**プロパティ**]カラムをクリックして，表示されたグレーのボックスをクリックします。
重要な情報	複数の目的を持つ Controller ホストを選択する場合（C＋LG＋DP），実行時のパフォーマンスの問題を避けるため，ホストは Controller 機能専用にして，他の機能を同時に選択しないことをお勧めします。 このダイアログ・ボックスは，パフォーマンス・テストのタイムスロットについてのみ利用できます。
関連タスク	「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」（684ページ）
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」（674ページ）

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	すべて更新：グリッドを更新して，選択したフィルタに基づいて最新の Controller ホストのリストが表示されるようにします。

UI 要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 ホスト・フィールドの詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定：グリッド内のControllerホストに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
<ホスト・グリッド>	すべての特定のControllerホストが一覧表示されます。 **注：**[**特定**]が選択されている場合に有効になります。
タイムスロット用Controllerの選択	• **自動適合**：システムによってタイムスロットに利用可能なControllerを割り当てられます。 • **特定**：タイムスロットに特定のControllerを選択できます。
C + LGとして予約	選択したホストをControllerとLoad Generatorの両方として利用できます。 **注：**このオプションは，非推奨です。ControllerはController機能専用とし，このホストで仮想ユーザを実行することはお勧めできません。

[自動適合 Load Generatorの選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，パフォーマンス・テストのタイムスロットに自動適合Load Generatorを，機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロットに自動適合ホストを選択できます。

アクセス方法	1. ALMサイドバーの[**ラボリソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 2. ツールバーで，[**新規タイムスロット**]ボタンをクリックします。 3. [**要求されたホスト**]グリッドで，[**自動適合 LGの追加**](パフォーマンス・テストのタイムスロットの場合)，または[**自動適合ホストの追加**](機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロット)をクリックします。
重要な情報	自動適合Load Generatorのプロパティまたは自動適合ホストのプロパティに一致する特定のLoad Generator/ホストは，自動適合Load Generatorまたはホストの代わりに割り当てられます。
関連タスク	「ALMでのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
予約＜XX＞ Load Generator/ホスト 次のプロパティを使用	タイムスロットに予約する自動適合 Load Generator/ホストの数。 **注：パフォーマンス・テストのタイムスロット**：タイムスロットに予約されたホスト(Controller＋Load Generator)の合計数は，Performance Center プロジェクトのホスト，およびプロジェクトの設定で定義されたホスト・プールの上限を超えることはできません。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **ヒント：**同じプロパティを持つ複数の自動適合 Load Generator/ホストを選択するには，次のいずれかを実行できます。 • ［**予約 ＜XX＞**］ボックスに 1 を入力し，関連するプロパティを選択します。他の自動適合 Load Generator/ホストについてこの手順を繰り返します。たとえば，これを 5 回繰り返すと，［要求されたホスト］グリッドに 5 つの同一の自動適合 Load Generator/ホストが表示されます。 • ［**予約 ＜XX＞**］ボックスに，同じプロパティを選択する自動適合 Load Generator/ホストの数を入力します。たとえば，5 と入力します。5 つすべての自動適合 Load Generator/ホストを示す 1 つのエントリが［要求されたホスト］グリッドに表示されます。
<Load Generator/ホスト・プロパティ>	要求した自動適合 Load Generator/ホストのプロパティを指定できます。 • **用途**：タイムスロットにリンクされたテスト・タイプに応じたホストの目的。 **利用可能な場所**：［ホストの編集］ダイアログ・ボックス。 • **場所**：Load Generator/ホストの場所。特定の場所を検索するには，［**検索**］ボックスに値を入力して， をクリックします。 • **ホスト属性**：Load Generator/ホストの属性。 属性のリストはカスタマイズできます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注：**プロパティが指定されていないと，利用可能な任意の Load Generator/ホストが割り当てられます。

［特定の Load Generator/ホストの選択］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，テストのタイムスロットに特定の Load Generator/ホストを予約できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ラボ リソース**]で，[**タイムスロット**]を選択します。 2. ツールバーで，[**新規タイムスロット**]をクリックします。 3. [**要求されたホスト**]グリッドで，[**特定の LG の追加**](パフォーマンス・テストのタイムスロットの場合)，または[**特定のホストの追加**](機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロットの場合)をクリックします。
重要な情報	• 特定の Load Generator またはホストが予期せず利用不能になった場合にタイムスロットが部分的に割り当てられるのを避けるため，自動適合 Load Generator/ホストを予約することをお勧めします。自動適合 Load Generator/ホストの選択の詳細については，「[自動適合 Load Generator の選択]/[ホストの編集]ダイアログ・ボックス」(717ページ)を参照してください。 • このダイアログ・ボックスは，テストのタイムスロットについてのみ利用できます。
関連タスク	「ALM でのテスティング・タイムスロットの予約方法」(684ページ)
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新：グリッドを更新して，選択したフィルタに基づいて Load Generator/ホストの最新リストを表示します。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソート：グリッド内の Load Generator/ホストに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
[表示]メニュー	次の作業が可能です。 • グリッド・フィルタの表示/非表示 • 選択した Load Generator を表示する[サマリ]パネルの表示/非表示 • グリッドのフィルタ/ソート • グリッドの更新 • グリッドで表示するカラムの選択

UI 要素	説明
<特定の Load Generator グリッド>	予約に利用可能な特定の Load Generator/ホストを表示します。 **ヒント：** 複数のホストを選択するには，キーボードの CTRL キーを押しながら，リストで Load Generator を選択します。
[選択済み] 表示枠	グリッドで選択した Load Generator/ホストを表示します。

[タイムゾーンのオプション] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，タイムスロット・モジュールのカレンダー・ビューに追加のタイム・ゾーンを表示できます。

アクセス方法	タイムスロット・モジュールのカレンダー・ビューで，[**ツール**] > [**タイムゾーンのオプション**] を選択します。 **利用可能な場所：** カレンダー・ビューのみ
重要な情報	ALM サーバや他のユーザと異なるタイム・ゾーンにいる場合，追加のタイム・ゾーンを表示すると便利です。 カレンダーに表示される標準設定の時刻は，ローカル・クライアント・マシンの時刻に基づいています。
参照情報	「タイムスロットの予約の概要」(674ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
追加のタイム・ゾーンを表示	選択すると，カレンダー・ビューに表示される追加のタイム・ゾーンを選択できます。
タイム・ゾーンのラベル	カレンダー・ビューで追加のタイム・ゾーンを表示するためのラベル。 **利用可能条件：** [**追加のタイムゾーンを表示**] が選択されている場合。

第10部: テスト実行

第38章: テスト実行の表示

本章の内容

テスト実行の概要 724
テストの実行を表示する方法 724
テスト実行のユーザ・インタフェース 727

テスト実行の概要

テストの実行後，HP Application Lifecycle Management(ALM)の**テスト実行**モジュールにテスト結果を表示できます。**テスト実行**モジュールには，テスト・インスタンスの実行，テスト・セットの実行，ビルド検証スイートの実行の結果を調査できるタブが備えられています。

ALMのエディション：[**テスト セット実行**]タブと[**ビルド検証スイートの実行**]タブは，ALM Editionでのみ利用できます。ALMエディションとその機能の詳細については，「エディションごとのALMの機能」(140ページ)を参照してください。使用しているALMのエディションを調べるには，ALMサイト管理者に問い合わせてください。

[**テスト実行**]タブでは，テストの実行結果を表示できます。

- 手動テストの結果は，テスト全体の成功または失敗ステータスとテスト実行の各ステップの成功または失敗ステータスで構成されます。
- 自動テストで利用可能な結果は，テスト・タイプによって異なります。

これらの結果は，アプリケーションで不具合が検出されたかどうかを判断するときに役立ちます。場合によっては，ステップが失敗したのは期待される結果がもはや無効で，更新の必要があるためと結論することも考えられます。

手動テストと自動テストの実行後，テスト実行の結果とテストの全般情報を表示できます。テスト実行の詳細の表示，最新のテスト実行結果と前回の実行結果との比較，添付ファイルの管理，テスト実行の設定情報の表示，リンクが設定されている不具合の管理，テスト実行の変更履歴を表示できます。

グリッドに表示されているプロジェクトのすべての実行結果を表示して比較することもできます。グリッドをフィルタ処理して，定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。

[**テスト セット実行**]および[**ビルド検証スイートの実行**]タブでは，機能テスト・セットおよびビルド検証スイートの実行結果を表示できます。また，機能テスト・セットの実行やビルド検証スイートの実行を停止することも，特定の機能テスト・セットやビルド検証スイートに移動することもできます。

また，定期的に実行レポートとグラフを生成することによって，テスト・セットまたはプロジェクトのテスト実行全体の進行状況を分析できます。詳細については，「ALMでデータを分析する方法」(778ページ)を参照してください。

関連タスクの詳細については，「テストの実行を表示する方法」(724ページ)を参照してください。

テストの実行を表示する方法

このタスクでは，テスト実行結果を表示する方法について説明します。テスト結果の詳細については，「テスト実行の概要」(724ページ)を参照してください。

注：このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「ALMでテストを実行する方法」(536ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「テスト・インスタンスの実行結果の表示」(725ページ)
- 「機能テスト・セットの実行結果の表示」(725ページ)
- 「ビルド検証スイートの実行結果の表示」(726ページ)
- 「リンクされている不具合の管理」(726ページ)
- 「テスト実行の削除 - 任意」(727ページ)

テスト・インスタンスの実行結果の表示

テスト実行後，実行結果を分析して，どのステップが成功しどのテストが失敗したかを確認できます。

1. ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト実行**]を選択します。[**テスト実行**]タブに移動します。[テスト実行]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)を参照してください。

   グリッドに，条件に一致する実行だけが表示されるようにフィルタ処理とソートを行います。たとえば，次の分類に従って表示するフィルタを定義できます。

   - 現在実行中のテスト
   - 失敗した実行
   - 今月実行された実行

   データのフィルタ処理のユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

2. テスト実行を選択して[**詳細**]をクリックし，実行結果の詳細を表示します。[**実行の詳細**]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行詳細]ダイアログ・ボックス」(737ページ)を参照してください。

機能テスト・セットの実行結果の表示

> ALM のエディション：[**テスト セット実行**]タブは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

テスト・セットの実行後，テスト・セット結果を分析して，失敗したテスト・セットのテストおよび失敗の原因となったステップを特定します。

1. ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト実行**]を選択します。[**テスト セット実行**]タブに移動します。[テスト セット実行]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)を参照してください。

2. テスト・セットの実行の実行レポートを表示するには，実行を選択し，[**レポートの表示**]をクリックします。実行された実行のソフト・コピーを表示するには，実行を選択し，[**実行のエクスポート**]をクリックします。また，**テスト・タブ**・モジュールの[**実行グリッド**]タブで[**最終実行レポート**]をクリックして，テスト・セットの実行の実行レポートを表示することもできます。

   実行レポートの詳細については，「[実行レポート]ページ」(625ページ)を参照してください。

[テスト実行]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)を参照してください。

ビルド検証スイートの実行結果の表示

ALM のエディション：[**ビルド検証スイートの実行**]タブは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

ビルド実証スイートの実行後，ビルド検証スイート結果を分析して，ビルド検証スイート内で失敗したテスト実行および失敗の原因となったステップを特定します。

1. ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト実行**]を選択します。[**ビルド検証スイートの実行**]タブに移動します。[ビルド検証スイートの実行]タブのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)を参照してください。

2. ビルド検証スイートの実行の実行レポートを表示するには，実行を選択し，[**レポートの表示**]をクリックします。実行された実行のソフト・コピーを表示するには，実行を選択し，[**実行のエクスポート**]をクリックします。また，**ビルド検証**モジュールで[**最終実行レポート**]タブをクリックして，ビルド検証スイートの実行レポートを表示することもできます。

   実行レポートの詳細については，「[実行レポート]ページ」(625ページ)を参照してください。

テスト実行モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については，「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)を参照してください。

リンクされている不具合の管理

テスト実行およびテスト実行ステップの不具合リンクを表示，追加，削除することができます。[テストの詳細]ダイアログ・ボックス，[実行詳細]ダイアログ・ボックス，または[実行ステップ詳細]ダイアログ・ボックスで，サイドバー上の[**リンクされている不具合**]ボタンをクリックします。

- 不具合のリンクのユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

- [テストの詳細]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス」(585ページ)を参照してください。

- [実行の詳細]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[実行詳細]ダイアログ・ボックス」(737ページ)を参照してください。

- ［実行ステップ詳細］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［実行ステップ詳細］ダイアログ・ボックス」（740ページ）を参照してください。

テスト実行の削除 - 任意

プロジェクトから古い実行を削除できます。

実行を選択して［**削除**］ボタン をクリックします。

注：

- 使用できるのは，テスト・セットの実行やビルド検証スイートの実行ではなく，テストの実行の実行の削除だけです。
- 実行中のテスト・セットの実行またはビルド検証スイートの実行の一部であるテストの実行は削除できません。
- テスト・セット実行またはビルド検証スイート実行を削除すると，基礎となるテスト実行が削除されます。同様に，ビルド検証スイート実行を削除すると，基礎となるテスト・セット実行が削除されます。

また，［実行の削除］ウィザードを使用すると，削除する実行を1つまたは複数選択できます。次のいずれかを実行します。

- **テスト・ラボ**＞［**テスト セット**］タブで，［**テスト セット**］＞［**実行の削除**］を選択します。
- **テスト実行**＞［**テスト実行**］タブで，［**テスト セット**］＞［**実行の削除**］を選択します。

［実行の削除］ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については，「実行の削除ウィザード」（742ページ）を参照してください。

テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

テスト実行モジュールのウィンドウ 728
テスト実行モジュールのメニューとボタン 731
テスト実行モジュールのフィールド 734
［実行詳細］ダイアログ・ボックス 737
［実行ステップ詳細］ダイアログ・ボックス 740
［テスト セット実行の詳細］/［ビルド検証スイートの実行の詳細］ダイアログ・ボックス 741
実行の削除ウィザード 742

テスト実行モジュールのウィンドウ

このモジュールでは，テスト，テスト・セット，ビルド検証スイートの実行結果を表示できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト実行**]を選択します。次のいずれかのタブを選択します。 • **テスト実行**：テストの実行を表示できます。 • **テスト・セットの実行**：機能テスト・セットの実行を表示できます。 • **ビルド検証スイートの実行**：ビルド検証スイートの実行を表示できます。
重要な情報	ALM のエディション：ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 • [**テスト セット実行**]タブと[**ビルド検証スイートの実行**]タブは，ALM Editionでのみ利用できます。 • ベースラインに関係するフィールドや機能は，ALM Essentials Edition では利用できません。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
[テスト実行]タブ	テストの実行を表示します。
[テスト セット実行]タブ	機能テスト・セットの実行を表示します。 また，テストの実行は，[テスト セット実行]タブのテスト・セットの実行としても表示されます。
[ビルド検証スイートの実行]タブ	ビルド検証スイートの実行を表示します。

UI 要素	説明
<テスト実行モジュールの共通の UI 要素>	• **テスト実行モジュールのフィールド**：フィールドの定義については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) を参照してください。 • **テスト実行モジュールのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「テスト実行モジュールのメニューとボタン」(731ページ) を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ) を参照してください。
<凡例>	テスト実行ステータスのカテゴリとそれに対応する色を表示します。 **利用可能な場所**：[テスト実行] タブ
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上に表示されます。 **<x> 件の結果を表示します。** 合計レコード数のうち，現在表示されているレコード数を示します。 **<x> 件の結果を取得します。** クリックするとすべてのレコードが表示されます。
<グリッド・フィルタ>	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(79ページ) を参照してください。
⌃ ⌄	**表示/非表示**：ウィンドウの下部の表示枠に追加のタブを表示または非表示にします。
コメント	現在選択されているテスト実行のコメントです。 テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。 **利用可能な場所**：[テスト実行] タブ

UI 要素	説明
レポート （[テスト実行] タブ）	選択した実行の結果と詳細を表示します。 Sprinter を使ったテスト実行では，[**Sprinter Results ビューアの起動**] ボタンをクリックして開き，Sprinter Results ビューアでレポートを表示します。詳細については，ビューアで [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。 ALM のエディション：Sprinter の機能は ALM Essentials Edition または Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 自動テスト・インスタンスでは，以下のいずれかも含まれます。 • LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。 • Launch Report UFT でレポートが開き，表示されます。GUI-TEST テスト・タイプで利用できます。 HP Application Lifecycle Management の [アドイン] ページから Unified Functional Testing Add-in をインストールしている場合のみ，[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。 • **収集されたシステム情報のリンク**：[システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなど，収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。 • **キャプチャしたデスクトップ画像**：システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。
レポート （[テスト セット実行] タブ）	選択した実行の実行レポートの詳細を表示します。 [実行レポート] ページの詳細については，「[実行レポート] ページ」（625ページ）を参照してください。
結果	選択した実行の最後のテスト条件実行の結果を表示します。 **Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は，ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については，『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト実行] タブ

UI 要素	説明
履歴	現在選択されている実行に行われた変更の一覧です。詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト実行]タブ
イベント・ログ	選択した実行でログに記録されたイベントのリストを表示します。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト セット実行]タブ
結果	選択したテスト実行で生成された結果ファイルを管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **利用可能な場所**：[テスト実行]タブ

テスト実行モジュールのメニューとボタン

本項では，テスト実行モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**テスト**]で，[**テスト実行**]を選択します。
重要な情報	ALM のエディション：[**テスト セット実行**]タブと[**ビルド検証スイートの実行**]タブは，ALM Editionでのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(724ページ)

テスト実行モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。

UI 要素	場所	説明
URL のコピー	［テスト実行］と<右クリック・メニュー>	選択した実行をコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。テスト実行自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，実行ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	［編集］と<右クリック・メニュー>	選択した実行を削除します。 **注：** 選択した実行がアクティブな状態でない場合にのみ有効になります。
Data Processor キュー	<ツールバー> ［テスト実行］タブのみ	テスト実行を実行後に分析する，SLA を再計算する，またはテスト実行をトレンド・レポートに追加する場合，そのアクションはデータ処理キューに追加されます。アクションをキューに追加すると，アクションの実行時期を確認できます。 **利用可能な対象：** Performance Center
エクスポート	［編集］(［テスト実行］タブ) と<右クリック・メニュー>	［すべてのグリッド データをエクスポート］ダイアログ・ボックスを開き，グリッド内の実行を，テキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべてエクスポート**：グリッドのすべての不具合をエクスポートします。 • **選択項目のエクスポート**：グリッド内の選択した実行をエクスポートします。
レポートのエクスポート	<ツールバー>	選択した実行レポートのソフト・コピーを作成します。
検索	表示	［検索］ダイアログ・ボックスが開き，モジュールで実行を検索できます。検索オプションの詳細については，「［検索］ダイアログ・ボックス」(82ページ) を参照してください。
テスト インスタンスに移動	<ツールバー> ［テスト実行］タブ	テスト・ラボ・モジュールを開き，選択したテスト・インスタンスを［**実行グリッド**］に表示します。

UI 要素	場所	説明
実行に移動	実行	[実行に移動]ダイアログ・ボックスが開き，ID 番号で特定の実行を検索できます。現在のフィルタに含まれる実行にのみ移動できます。
タイムスロットに移動	<右クリック・メニュー>	タイムスロット・モジュールが開き，選択した実行のタイムスロットが表示されます。
テスト・セット/ビルド検証スイートに移動	<ツールバー> [テスト セット実行]タブと[ビルド検証スイートの実行]タブ	テスト・ラボ・モジュールが開き，選択した実行のテスト・セットまたはビルド検証スイートが表示されます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュール・ウィンドウの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，プロパティを変更するか，ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については，「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。
パフォーマンスのトレンド	<ツールバー> [テスト実行]タブのみ	パフォーマンスの改善および回帰を識別するためのトレンド分析レポートを作成できます。トレンド分析の詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **利用可能な対象**：Performance Center
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように，グリッドを更新します。
実行の詳細	[実行]と<右クリック・メニュー>	[実行の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，選択した実行の詳細を表示，編集できます。

UI 要素	場所	説明
実行画面	<右クリック・メニュー> [テスト実行]タブのみ	パフォーマンス・テスト実行画面が開き，テスト実行を表示，管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注：**テスト実行のステータスが[**実行中**]である場合のみ有効です。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。 テスト実行のフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内の実行に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
レポートの表示	<ツールバー> [テスト セット実行]タブと[ビルド検証スイートの実行]タブのみ	選択した実行の実行レポートを表示します。詳細については，「[実行レポート]ページ」(625ページ)を参照してください。
実行の停止	<ツールバー>	選択した実行の実行を停止します。 **注：**選択した実行のステータスが[**初期化中**]，「**実行中**]，[**停止中**]のいずれかの状態である場合のみ有効です。

テスト実行モジュールのフィールド

本項では，テスト実行モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[テスト]で，[**テスト実行**]を選択します。

重要な情報	[**テスト実行**]タブはすべてのエディションで使用できますが，[**テスト セット実行**]および[**ビルド検証スイート実行**]タブは ALM Edition でしか使用できません。以下のフィールドの一部は，[テスト セット実行]および[ビルド検証スイート実行]タブでしか使用できません。
参照情報	「テスト実行モジュールのウィンドウ」(728ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
ビルド検証スイート名	ビルド検証スイートの名前。
正常に完了	選択した実行が[**成功**]ステータスで完了したことを示します。
設定：名前	選択したテスト実行に割り当てられたテスト設定の名前。
ドラフト実行	選択したテスト実行がドラフト実行かどうかを示します。詳細については，「ドラフト実行」(536ページ)を参照してください。 **標準設定値**：N
経過時間	テスト実行時間(秒)。 **注：**このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。 **注：**このフィールドは手動で編集しないでください。
実行日	テストが最後に実行された日付。
実行時間	テストを最後に実行した時刻。
ホスト	テスト実行が行われたマシンの名前。

UI 要素	説明
反復ステータス	**Business Process Testing**： **[マニュアル ランナー]ダイアログ・ボックス**：各反復のステータスに関するコメントを入力できるリッチ・テキスト・フィールドです。 **[テスト インスタンスの詳細]ダイアログ・ボックス**：バー形式のテスト反復ステータスです。バーは実行ステータスを色分けして示しており，番号は各ステータスの反復数を示します。 **凡例**： • **成功**：緑 • **失敗**：赤 • **ブロック済み**：白 • **未完了**：紫 • **実行なし**：橙 • **N/A**：黄 **参照情報**：「凡例」(588ページ)
実行 ID	ALM によって実行に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。この番号は，実行開始時にシステムによって自動的に生成されます。 [**実行レポート**]グリッドの[実行 ID]フィールドをクリックすると，[**テスト実行**]タブのテスト・インスタンス実行に移動できます。
実行名	テスト実行の名前です。**Fast_run** は，テストを実行することなくテスト・インスタンスの[**ステータス**]フィールドがユーザによって手作業で変更された場合に，ALM によってこの実行が作成されたことを示しています。 表示されるアイコンは次のいずれかを示します。 • テスト・タイプ。詳細については，「テストのタイプ」(392ページ)を参照してください。 • Sprinter による手動テスト実行 。Sprinter の詳細については，「HP Sprinter概要」(631ページ)を参照してください。
開始時刻	実行の開始時刻。 **注：**このフィールドは手動で編集しないでください。

UI 要素	説明
状態	実行の進行状況を示します。有効な値は次のとおりです。**初期化中**，**実行中**，**停止中**，**実行エラー**，**完了**。このフィールドは読み取り専用です。
ステータス(テスト・インスタンス，テスト・セット，またはビルド検証スイートの実行の場合)	テスト・インスタンス，テスト・セット，またはビルド検証スイートの実行の実行ステータスを示します。実行ステータスは，次のいずれかになります。 • **ブロック済み**：1つ以上のステップが実行できません。たとえば，テストはリモート・マシンで実行されていますが，ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった，何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。 • **失敗**：実行の1つ以上のステップが失敗しましたが「ブロック」のステータスを示しているものはありません。 • **N/A**：現在のステータスは不明です。ステップが存在しないか，ステップの実行ステータスが**N/A**です。 • **実行なし**：ステップは実行されていません。 • **未完了**：1つ以上のステップが完了していないか実行されませんでしたが，**ブロック済み**または**失敗**のステータスを示しているものはありません。 • **成功**：実行は成功しました。すべてのステップの実行ステータスが**成功**になっています。
テスト・セット	テスト・セットの名前。
テスト・セット：名前	選択したテスト実行に関連付けられたテスト・セットの名前。
テスト：テスト名	選択したテスト実行に関連付けられたテストの名前。
テスト担当者	テストを実行しているユーザのユーザ名。

[実行詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは，テスト実行のテストとステップの詳細を表示します。

アクセス方法	[**テスト**]＞[**テスト実行**]で，[**テスト実行**]をクリックします。実行を選択し，[**実行の詳細**]をクリックします。
重要な情報	利用可能なボタンとオプションは，テスト・タイプまたはランナーによって異なります。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)

参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) • 「テスト実行の概要」(724ページ) • 「[実行ステップ詳細]ダイアログ・ボックス」(740ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の 次の/最後のエンティティ：グリッドのテストを通して表示できるようになります。
	フォローアップ・フラグ：[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックスが開きます。実行のフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については，「[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
	電子メールで送信：[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	実行の詳細を表示します。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 [**コメント**]ボックス内をクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。

UI 要素	説明
レポート	実行の結果とテスト・ステップの詳細を表示します。 自動テスト・インスタンスでは，以下のいずれかも含まれます。 • LR Analysis 結果がLoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。 • Launch Report UFT でレポートが開き，表示されます。GUI-TEST テスト・タイプで利用できます。 HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから Unified Functional Testing アドインをインストールしている場合のみ，[**レポートの起動**]ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については，『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』を参照してください。 • **収集されたシステム情報のリンク**：[システム情報]ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU，メモリ，マシンで実行中のプロセスなど，収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。 • **キャプチャしたデスクトップ画像**：システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。
結果	**Performance Center**：選択したテスト実行で生成された結果ファイルを管理できます。詳細については，『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 **注：** このタブは[テスト実行]タブからのみ使用できます。
イベント・ログ	選択した実行でログに記録されたイベントのリストを表示します。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。
ステップ	実行のテスト・ステップの詳細と結果を表示します。ステップの詳細な結果を表示するには，グリッドでステップを選択し，[**詳細**]ボタンをクリックします。詳細については，「[実行ステップ詳細]ダイアログ・ボックス」(740ページ)を参照してください。 **注：** 利用できないテスト・タイプやランナーもあります。
添付	実行に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
パラメータ	テスト・ステップで使用される手動テストのパラメータを表示します。利用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) および「テスト計画モジュールのフィールド」(407ページ) を参照してください。
リンクされている不具合	実行にリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示、追加、削除できます。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされたエンティティ] ページ」(768ページ) を参照してください。
履歴	実行に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」(88ページ) を参照してください。
条件の結果	選択したビジネス・プロセス・テストの最後のテスト条件実行の結果を表示します。 **Business Process Testing**：テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
反復	選択したビジネス・プロセス・テストの各反復のステータスが表示されます。 **Business Process Testing**：反復に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは、実行のテスト・ステップの詳細を表示します。

アクセス方法	[実行詳細] ダイアログ・ボックスの [ステップ] ビューで、ステップを選択して [**詳細**] をクリックします。
重要な情報	Sprinter の実行では、このダイアログ・ボックスは利用できません。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) • 「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の 次の/最後のエンティティ：実行のステップを通して表示できるようになります。

UI 要素	説明
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
説明	ステップの詳細を表示します。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。 ［**説明**］ボックス内をクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。 その他のタブをクリックして，期待の結果，実際の結果，実行条件など，ステップの詳細を表示します。
添付	ステップに関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については，「［添付］ページ」(94ページ)を参照してください。
リンクされている不具合	ステップにリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示，追加，削除できます。詳細については，「［リンクされている不具合］ページと［リンクされたエンティティ］ページ」(768ページ)を参照してください。

［テスト セット実行の詳細］/［ビルド検証スイートの実行の詳細］ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには，テスト・セットまたはビルド検証スイートの実行の詳細が表示されます。

アクセス方法	［**テスト**］＞［**テスト実行**］で，［**テスト セット実行**］または［**ビルド検証スイートの実行**］をクリックします。実行を選択して，をクリックします。
関連タスク	「テストの実行を表示する方法」(724ページ)
参照情報	• 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ) • 「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の 次の/最後のエンティティ：グリッドのテストを通して表示できるようになります。

UI 要素	説明
	電子メールで送信：[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
説明	テスト・セットの実行またはビルド検証の実行の詳細を表示します。利用可能なフィールドの詳細については，「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(563ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択した実行でログに記録されたイベントのリストを表示します。詳細については，『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

実行の削除ウィザード

このウィザードでは，プロジェクトの古いテスト実行結果を削除できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • テスト・ラボ> [テスト セット]タブで，[**テスト セット**]> [**実行の削除**]を選択します。 • テスト実行 > [テスト実行]タブで，[**テスト実行**]> [**実行の削除**]を選択します。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(576ページ)

ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「[削除するテスト ステップの選択]ページ」(743ページ) > 「[削除タイプの選択]ページ」(743ページ) > 「[削除リクエストの確認]ページ」(744ページ)
参照情報	• 「テスト実行の概要」(724ページ) • 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(542ページ)

[削除するテスト ステップの選択]ページ

このウィザードのページでは，削除するテスト・セットを選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，「実行の削除ウィザード」(742ページ)を参照してください。
ウィザード・マップ	「実行の削除ウィザード」(742ページ) には次が含まれます。 「[削除するテスト ステップの選択]ページ」(743ページ) > 「[削除タイプの選択]ページ」(743ページ) > 「[削除リクエストの確認]ページ」(744ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	選択したテスト・セットを[**利用可能なテスト セット**]と[**選択したテスト セット**]の間で移動します。 **ヒント：**表示枠と表示枠の間でテスト・セット名をドラッグするか，テスト・セット名をダブルクリックして別の表示枠に移動することができます。
	すべてのテスト・セットを[**利用可能なテスト セット**]と[**選択したテスト セット**]の間で移動します。
利用可能なテスト・セット	プロジェクト内の，現在削除対象として選択されていないテスト・セットを一覧表示します。
選択したテスト・セット	削除対象として選択したテスト・セットを一覧表示します。

[削除タイプの選択]ページ

このウィザード・ページでは，削除タイプを選択して削除条件を定義できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，「実行の削除ウィザード」(742ページ)を参照してください。

ウィザード・マップ	「実行の削除ウィザード」(742ページ) には次が含まれます。 「[削除するテスト ステップの選択]ページ」(743ページ) >「[削除タイプの選択]ページ」(743ページ) >「[削除リクエストの確認]ページ」(744ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
削除	次のオプションがあります。 **実行**：テスト実行結果を削除します。 **実行ステップのみ**：実行ステップを削除しますが，実行の詳細全体は残します。
次以前の実行から	選択した実行のうち，ここで指定した日以前に実行されたデータを削除します。
維持するテストごとの実行数	各テストについて保存しておくテスト実行結果の数を選択します。
ドラフト実行のみを削除	**ドラフト実行**としてマークされた実行のみを削除します。ドラフト実行の詳細については，「ドラフト実行」(536ページ) を参照してください。

[削除リクエストの確認]ページ

このウィザードでは，削除の要求と確認のサマリを確認できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，「実行の削除ウィザード」(742ページ) を参照してください。
ウィザード・マップ	「実行の削除ウィザード」(742ページ) には次が含まれます。 「[削除するテスト ステップの選択]ページ」(743ページ) >「[削除タイプの選択]ページ」(743ページ) >「[削除リクエストの確認]ページ」(744ページ)
参照情報	「テスト実行の概要」(724ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<要求の詳細の範囲>	削除の判断をした対象について要約します。
完了	選択に基づいてテスト実行結果を削除します。

第11部: 不具合

第39章: 不具合追跡

本章の内容

不具合追跡の概要 748

ALM での不具合の追跡方法 749

不具合の検索方法 752

不具合のリンク方法 752

不具合のユーザ・インタフェース 754

不具合追跡の概要

アプリケーションの不具合を効率よく探し出し修正することは，開発プロセスでは非常に重要です。アプリケーション管理プロセスのあらゆる段階でHP Application Lifecycle Management(ALM)の不具合モジュールを使用することにより，アプリケーションの設計上の問題点を報告し，不具合レコードから得られるデータを追跡できます。

不具合モジュールには，次のような機能があります。

- ALMプロジェクト用にアプリケーションの不具合を作成します。
- アプリケーションの開発担当者やテスト担当者が不具合を解決済みと判断するまでの間，不具合を追跡します。

不具合レコードは，チームのほかのメンバによって検出された新しい不具合の存在を，アプリケーション開発チームと品質保証チームのメンバに伝えます。不具合の修正の進行状況を監視しながら，ALMプロジェクトの情報を更新します。

不具合は，複数のALMプロジェクト間で共有できます。不具合の共有や同期化にはHP ALM Synchronizerを使用します。詳細については，Addinページから利用できる『HP ALM Synchronizer User Guide』を参照してください。

> ALMのエディション：ALM Editionでのみ，複数のALMプロジェクト間で不具合を共有できます。ALMエディションとその機能の詳細については，「エディションごとのALMの機能」(140ページ)を参照してください。使用しているALMのエディションを調べるには，ALMサイト管理者に問い合わせてください。

また，「不具合のリンク」(748ページ)も参照してください。

不具合の処理に関するタスクの詳細については，「ALMでの不具合の追跡方法」(749ページ)を参照してください。

不具合のリンク

不具合は，要件，テスト，テスト・セット，ビジネス・プロセス・テスト，フロー，テスト・インスタンス，実行，実行ステップ，ほかの不具合といったALMエンティティにリンクできます。

不具合のリンクは，たとえば次のような場合に便利です。

- ある不具合のためにテストを新規作成します。テストと不具合の間にリンクを作成することによって，不具合のステータスに基づいてテストを実行するかどうかを決定できます。
- 手動テストの実行中に不具合を追加すると，テスト実行と新しい不具合の間に自動的にリンクが作成されます。

不具合は，ほかの不具合またはエンティティに直接リンクできます。エンティティに不具合のリンクを追加すると，このエンティティには直接リンク，関連エンティティには間接リンクが追加されます。

間接的なリンクは，一方方向のフローです。つまりALMは，高いレベルの関連エンティティのみに間接リンクを追加します。

次の図は，不具合が実行ステップにリンクされている場合にALMが作成する間接リンクを示しています。

不具合の詳細については，「不具合追跡の概要」(748ページ)を参照してください。

タスクの詳細については，「不具合のリンク方法」(752ページ)を参照してください。

例

テスト実行に不具合をリンクするには，次の手順で行います。

- 不具合は，実行，実行のテスト・インスタンス，テスト・セット，テストに対して間接的にリンクされます。
- テストが要件によってカバーされている場合は，要件にも間接リンクが追加されます。
- 実行ステップは低レベルの関連エンティティなので，不具合が実行ステップに間接的にリンクされることはありません。

注：削除できるのは，エンティティから不具合への直接リンクのみです。

ALMでの不具合の追跡方法

このタスクでは，開発プロセス中にアプリケーションの不具合を追跡する方法について説明します。

不具合の詳細については，「不具合追跡の概要」(748ページ)を参照してください。

注：

上位タスク：このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「不具合の作成」(750ページ)
- 「不具合のインポート - オプション」(750ページ)
- 「不具合とほかのエンティティのリンク」(750ページ)

- 「不具合の検索」(750ページ)
- 「不具合の割り当て，修正，更新」(751ページ)
- 「不具合の分析」(751ページ)
- 「ベースラインの確立」(752ページ)

1. **不具合の作成**

   a. ALM サイドバーで[**不具合**]を選択します。

   b. 不具合グリッド・ツールバーの[**新規不具合**]をクリックして[新規不具合]ダイアログ・ボックスを開きます。[新規不具合]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規不具合]ダイアログ・ボックス」(764ページ)を参照してください。

   > **ヒント:** 不具合の作成は，[新規不具合]ダイアログ・ボックス，ALM の他のモジュール，場合によってはブラウザ自体の間で切り替えが必要となる可能性がある進行中のプロセスです。
   >
   > 不具合の作成中に別のモジュールに切り替えるには，不具合を送信せずに[**閉じる**]をクリックします。作成中の不具合に戻るには，不具合モジュールの[**新規不具合**]を再度クリックします。ALM によってデータが保持されるため，同じ不具合で作業を続行できます。
   >
   > 別の不具合で作業を開始する場合，[**すべてのフィールドをクリア**]ボタンをクリックし，保持されたデータをクリアします。

   c. [新規不具合]ダイアログ・ボックスでフィールドに入力します。

2. **不具合のインポート - オプション**

   不具合は，ALM で直接作成するほかに，Microsoft Excel から ALM プロジェクトにインポートすることができます。不具合をインポートするには，最初に該当するアドインをインストールする必要があります。詳細については，「Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート」(40ページ)を参照してください。

3. **不具合とほかのエンティティのリンク**

   不具合は，要件，テスト，テスト・セット，テスト・インスタンス，実行，実行ステップ，ビジネス・プロセス・テスト，フロー，ほかの不具合にリンクできます。

   不具合のリンク方法に関するタスクの詳細については，「不具合のリンク方法」(752ページ)を参照してください。

4. **不具合の検索**

   不具合モジュールでは，次の方法で不具合を検索できます。

- 不具合グリッド。たとえば，特定の問題に関連している不具合の検索や，不具合の変更を行います。
- ［新規不具合］ダイアログ・ボックス。たとえば，重複した不具合を作成しないようにチェックします。

不具合の検索方法に関するタスクの詳細については，「不具合の検索方法」(752ページ)を参照してください。

5. **不具合の割り当て，修正，更新**

プロジェクト内の不具合は定期的にレビューし，修正するものを選択して，ステータス，ターゲット・リリース，ターゲット・サイクル，その他フィールドを変更します。

不具合モジュールの不具合グリッドで不具合を選択し，［**不具合の詳細**］ボタンをクリックします。［不具合の詳細］ダイアログ・ボックスでフィールドに入力します。［不具合詳細］ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「［不具合詳細］ダイアログ・ボックス」(765ページ)を参照してください。

たとえば，次のような操作を実行できます。

- 修正候補の不具合のステータスを［**オープン**］に変更し，この不具合を開発チームのメンバに割り当てます。
- ［**ターゲット リリース**］および［**ターゲット サイクル**］フィールドで，未解決の不具合を修正予定のリリースおよびサイクルに割り当てます。
- 未解決の不具合を修正します。修正作業には，不具合の原因の特定とアプリケーションの変更および再ビルド，テストの再実行が含まれます。たとえば，不具合が再度発生しなかった場合は，［**終了**］というステータスを割り当てます。再度発生した場合は，［**オープン**］というステータスをもう一度割り当てることができます。不具合を修正したら，ステータスを［**修正済み**］にします。

6. **不具合の分析**

グラフとレポートを作成して不具合データを分析します。

次のいずれかを実行します。

- **不具合データをグラフで表示**：不具合モジュールのメニューから［**アナリシス**］＞［**グラフ**］を選択します。グラフの生成に関するタスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ)を参照してください。
- **不具合データのレポートを作成**：不具合モジュールのメニューから［**アナリシス**］＞［**プロジェクト レポート**］を選択します。レポートの生成に関するタスクの詳細については，「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)を参照してください。

ALMで提供されているその他のアナリシス・ツールを使ったタスクの詳細については，「ALMでデータを分析する方法」(778ページ)を参照してください。

7. **ベースラインの確立**

   アプリケーションのライフサイクルで重要なマイルストーンを承認または比較するためにベースラインを作成します。タスクの詳細については、「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(210ページ)を参照してください。

不具合の検索方法

このタスクでは、[類似の不具合]ダイアログ・ボックスまたは表示枠で不具合を検索する方法を説明します。不具合グリッドでは、いつでも不具合を検索できます。この機能は、たとえば特定の問題に関連している不具合を検索する場合や不具合を変更する場合に使用します。

不具合を新規作成するときには、不具合を重複して作成しないように、類似した不具合がないか検索します。

よく似た不具合がないかどうかを確認する方法に関するムービーを表示するには、ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

[類似の不具合]ダイアログ・ボックスまたは表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については、「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。

1. **不具合の表示**

   次のいずれかを行って、類似の不具合を検索する不具合を表示します。

   - 不具合グリッドで不具合を選択します。
   - [新規不具合]ダイアログ・ボックスで新しい不具合を作成しているときに、[**サマリ**]フィールドと[**説明**]フィールドに説明情報を入力します。

2. **検索の開始**

   [**類似した不具合の検索**] ボタンをクリックします。

   - [**類似した不具合の検索**]を選択すると、現在の不具合に類似する不具合を検索できます。
   - [**類似したテキストの検索**]を選択すると、サマリや説明が指定したテキスト文字列と類似する不具合を検索できます。

不具合のリンク方法

次の手順では、不具合を ALM エンティティ(要件、テスト、テスト・セット、テスト・インスタンス、実行、実行ステップ、その他の不具合)にリンクする方法について説明します。

[リンクされている不具合]または[リンクされたエンティティ]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

1. **不具合のリンク**

   不具合をリンクするエンティティのモジュールから，[リンクされている不具合]または[リンクされたエンティティ]ダイアログ・ボックスを選択し，次のいずれかを行います。

   - **新しい不具合を追加**：リンク先の不具合を追加します。
   - **既存の不具合を選択**：リンク先として既存の不具合を選択します。

   ヒント：不具合モジュールから，不具合および要件を不具合にリンクできます。

2. **結果の表示**

   結果は，不具合からリンクされたエンティティを表示することも，エンティティからリンクされている不具合を表示することもできます。

   グリッド・ビューでは，エンティティを不具合にリンクすると，ALM**リンクされている不具合**アイコンがエンティティに表示されます。

名前	直接カバレッジ ステータス	作成者	要件 ID
Requirements	---		0
Mercury Tours Application	---	alex_qc	133
Online Travel Booking Services	---	alex_qc	134
Products/Services On Sale	Not Covered	shelly_qc	135
Flight Tickets	Failed	shelly_qc	136
Flight Search	Failed	robert_qc	141
Search Conditions	Not Covered	shelly_qc	142
Origin And Destination	Failed	peter_qc	143
One-Way Trip	Failed	robert_qc	149

不具合のユーザ・インタフェース

本項の内容

不具合モジュール・ウィンドウ 754
不具合モジュールのメニューおよびボタン 756
不具合モジュールのアイコン 760
不具合モジュールのフィールド 761
[新規不具合]ダイアログ・ボックス 764
[不具合詳細]ダイアログ・ボックス 765
[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠 767
[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ 768
[リンクする不具合]ダイアログ・ボックス 771
[要件の選択]ダイアログ・ボックス 772

不具合モジュール・ウィンドウ

このウィンドウでは，ALM の不具合を定義，管理できます。ALM では，不具合グリッドに不具合データが整理され表示されます。

アクセス方法	ALM サイドバーで[**不具合**]を選択します。
関連タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)
参照情報	「不具合追跡の概要」(748ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<不具合モジュール共通 UI 要素>	• **不具合フィールド**：フィールドの定義については，「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)を参照してください。 • **不具合のメニューおよびボタン**：コマンドとボタンの説明については，「不具合モジュールのメニューおよびボタン」(756ページ)を参照してください。 • **不具合アイコン**：アイコンの説明については，「不具合モジュールのアイコン」(760ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ下にあります。 • **<x> 件の結果を表示します。**合計レコード数のうち，現在表示されているレコード数を示します。 • **<x> 件の結果を取得します。**クリックするとすべてのレコードが表示されます。
<グリッド・フィルタ> 作成者 David	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
<類似の不具合表示枠>	不具合グリッドから，類似した不具合があるか確認できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。 **利用条件**：不具合グリッドで[**類似した不具合の検索**]ボタンを選択した後。
[説明]タブ	現在選択されている不具合についての説明が表示されます。 このタブの[**説明**]ボックスまたは[**コメント**]ボックス内をクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[添付]タブ	現在選択されている不具合に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
[リンクされたエンティティ]タブ	現在選択されている不具合にリンクされている不具合とその他エンティティの一覧です。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[履歴]タブ	現在選択されている不具合に加えられた変更が一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

不具合モジュールのメニューおよびボタン

本項では，不具合モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで[**不具合**]を選択します。
重要な情報	**ヒント：** 不具合モジュールから[不具合]メニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。
関連タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)
参照情報	• 「不具合モジュールのアイコン」(760ページ) • 「不具合追跡の概要」(748ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
新規不具合 新規不具合...	不具合	[新規不具合の作成]ダイアログ・ボックスが開き，不具合を追加したり，追加を開始した不具合の編集を続行したりすることができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規不具合]ダイアログ・ボックス」(764ページ)を参照してください。 **ヒント：** 不具合の作成は，[新規不具合]ダイアログ・ボックス，ALM の他のモジュール，場合によってはブラウザ自体の間で切り替えが必要となる可能性がある進行中のプロセスです。 不具合の作成中に別のモジュールに切り替えるには，不具合を送信せずに[**閉じる**]をクリックします。作成中の不具合に戻るには，不具合モジュールの[**新規不具合**]を再度クリックします。ALM によってデータが保持されるため，同じ不具合で作業を続行できます。 別の不具合で作業を開始する場合，[**すべてのフィールドをクリア**]ボタンをクリックし，保持されたデータをクリアします。

UI 要素	メニュー	説明
不具合に移動	不具合	［不具合に移動］ダイアログ・ボックスが開き，［不具合 ID］で特定の不具合を検索できます。
電子メールで送信	不具合	［電子メールの送信］ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛に不具合を電子メールで送信できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［電子メールの送信］ダイアログ・ボックス」（90ページ）を参照してください。
不具合の詳細	不具合	選択した不具合の詳細を表示する［不具合詳細］ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［不具合詳細］ダイアログ・ボックス」（765ページ）を参照してください。
エクスポート	不具合	［グリッド データのエクスポート］ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドの不具合をテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**：グリッドのすべての不具合をエクスポートします。 • **選択済み**：グリッドで選択された不具合をエクスポートします。
コピー/貼り付け	編集	同じプロジェクト内，またはプロジェクト間で選択した不具合をコピーします。 **注：** プロジェクト間で不具合をコピーするには，2 つのプロジェクトで使用されている ALM のバージョンとパッチ・レベルが同じでなければなりません。不具合のコピーは，グループ化が適用されていない場合にのみ動作します。
URL のコピー/貼り付け	編集	選択した不具合をコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。不具合自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し，不具合が表示されます。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	編集	選択した不具合を削除します。削除した不具合の不具合 ID は再使用されません。
すべて選択	編集	グリッド内の不具合をすべて選択します。
選択/非選択項目の入れ替え	編集	グリッド内で選択されている不具合をすべて選択解除し，選択されていない不具合をすべて選択します。

UI 要素	メニュー	説明
検索	編集	[検索]ダイアログ・ボックスが開き，不具合モジュールで不具合を検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[検索]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
次を検索	編集	これまでに定義した検索条件に一致する次の項目を不具合グリッドで検索します。
置換	編集	[置換]ダイアログ・ボックスが開きます。フィールドの値を置き換えることができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[置換]ダイアログ・ボックス」(84ページ)を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドで選択した複数の不具合のフィールド値を更新できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[選択項目の更新]ダイアログ・ボックス」(99ページ)を参照してください。
テキスト検索	編集	不具合モジュール・ウィンドウの下に[テキスト検索]表示枠が開き，定義済みフィールドのレコードを検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[テキスト検索]表示枠」(86ページ)を参照してください。
類似した不具合の検索	編集	選択した不具合に類似した不具合を，[**サマリ**]フィールドと[**説明**]フィールド内のキーワードで検索します。ウィンドウの下で指定した近接 % に基づいて，類似の不具合が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。
類似したテキストの検索	編集	テキスト文字列に類似した不具合を，[**サマリ**]フィールドと[**説明**]フィールド内のキーワードで検索します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。
警告	編集	[警告]ダイアログ・ボックスが開き，不具合の警告を表示できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
警告のクリア	編集	表示されたモジュールの警告をクリアします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「警告の使用方法」(108ページ)を参照してください。
フォローアップ・フラグ	編集	[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックスが開き，不具合のフォローアップ・フラグを定義できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フォローアップフラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
ピン留め/ピン留め解除	<ツールバー>	不具合をピン留め，またはピン留め解除します。 **利用可能な場所**：不具合グリッド，不具合の詳細。 詳細については，「固定項目の概要」(120ページ)を参照してください。
フォローアップ・フラグをクリア	編集	選択された不具合のフォローアップ・フラグをクリアします。概念の詳細については，「フォローアップ・フラグの概要」(107ページ)を参照してください。
標準設定値の設定	編集	[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスが開き，特定の不具合フィールドに標準設定値を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
標準設定値のクリア	編集	[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスで標準設定値を削除します。標準設定値は，新規不具合の作成時には利用できません。
グリッド・フィルタ 作成者 David	表示	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
インジケータ・カラム	表示	不具合グリッドの左側にインジケータを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「不具合モジュールのアイコン」(760ページ)を参照してください。
情報パネル	表示	不具合グリッドの下部に[情報パネル]タブを表示します。詳細については，「不具合モジュール・ウィンドウ」(754ページ)を参照してください。
フィルタ/ソート	表示	グリッド内の不具合のフィルタ処理とソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
すべて更新	表示	不具合グリッドが更新され，選択したフィルタに基づいて不具合の最新の状態が表示されます。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
添付	<ツールバー>	[添付]ページが開きます。添付ファイルを表示して，選択した不具合に追加できるようになります。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き，非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには，次の手順で行います。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
プロジェクト・レポート	アナリシス	不具合データで作成できる定義済みプロジェクト・レポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については，「定義済みのプロジェクト・レポート」(846ページ)を参照してください。 リストからレポートを選択すると，レポートのプレビューが生成されます。プレビューでは，レポート・セクションごとに最大 5 つのエンティティが表示されます。完全なレポートを生成するには，プレビューの左上隅にある[**生成**]ボタンの横の下向き矢印をクリックし，生成するレポート形式を選択します。
グラフ	アナリシス	不具合データで生成できるグラフの一覧を表示します。定義済みのグラフを選択するか，グラフ・ウィザードを起動します。 定義済みのグラフの種類の詳細については，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ)を参照してください。
最近の利用	アナリシス	ALM で最近表示したレポートおよびグラフを一覧表示します。最大 10 個の項目を表示します。

不具合モジュールのアイコン

本項では，不具合モジュールで利用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで[**不具合**]を選択します。
関連タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)

参照情報	• 「不具合追跡の概要」(748ページ) • 「不具合モジュールのメニューおよびボタン」(756ページ) • 「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	＜緑のアスタリスク＞：タブが追加されていることを示します。
	警告：クリックすると，不具合に対する警告が表示されます。 • **赤の警告**：新しい警告です。 • **グレーの警告**：警告は既読です。 ユーザ・インタフェースの詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。
	添付：クリックすると，指定した不具合の添付が表示されます。 リストから添付ファイルを選択して開きます。添付ファイルの数が10個より多い場合は，[**他のx個の添付**]リンクをクリックして[**添付**]ページで一覧を表示します。詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。
	フォローアップ・フラグ：クリックすると，不具合のフォローアップが表示されます。 • **グレーのフラグ**：新しいフォローアップ・フラグです。 • **赤のフラグ**：フォローアップ日です。 ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
	リンクされたエンティティ：クリックすると，[不具合の詳細]ダイアログ・ボックスにある不具合にリンクされたエンティティが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。

不具合モジュールのフィールド

本項では，不具合モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで[**不具合**]を選択します。

重要な情報	• 不具合モジュールでは，ユーザ定義フィールドの追加や，フィールド・ラベルの変更ができます。また，プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • スクリプト・エディタを使用することにより，不具合モジュールで表示されるフィールドと値を制限し，動的に変更することができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • ユーザ名の値を含む不具合カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む），各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索，ユーザのソート，ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け，およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」（81ページ）を参照してください。
関連タスク	「ALM での不具合の追跡方法」（749ページ）
参照情報	• 「不具合追跡の概要」（748ページ） • 「不具合モジュールのメニューおよびボタン」（756ページ） • 「不具合モジュール・ウィンドウ」（754ページ）

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
実際の修正時間	不具合の修正に実際に要した日数。このフィールドが空の場合は，「**終了日 ー 検出日**」という計算式を使用して実際の所要時間が自動計算されます。
責任者	不具合の修正を担当するユーザの名前。
終了バージョン	不具合が解決されたアプリケーションのバージョン。
終了日	不具合が解決した日付。
コメント	不具合に関するコメント。新しいコメントを追加するには，[**コメントを追加**]ボタンをクリックします。[コメント]ボックスに新しいセクションが追加され，ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。
不具合 ID	ALM によって不具合に対して自動的に割り当てられる一意の ID 番号。不具合 ID は読み取り専用です。
説明	不具合の詳細。
検出者	不具合を送信したユーザの名前。
検出サイクル	不具合が検出されたサイクル。 [**検出サイクル**]フィールドで不具合をサイクルに割り当てる場合，ALM によって，リリースが[**検出リリース**]フィールドに自動的に割り当てられます。

UI 要素	説明
検出リリース	不具合が検出されたリリース。
検出されたバージョン	不具合が検出されたアプリケーションのバージョン。
検出日	不具合が検出された日付。 **標準設定値**:現在のデータベース・サーバの日付。
予定修正時間	不具合の修正に要する推定日数。
更新日時	不具合が最後に変更された日付と時刻。
予定終了バージョン	不具合の修正予定バージョン。
優先度	低い(レベル1)から緊急(レベル5)までの要件の優先度。
プロジェクト	不具合が発生したプロジェクトの名前。
再現可能	不具合が検出されたときと同じ条件で不具合を再現できるかどうか。 **標準設定値**:**Y**
重要度	低い(レベル1)から緊急(レベル5)までの不具合の重要度。
ステータス	不具合の現在のステータス。不具合ステータスは，次のいずれかになります。**終了**，**修正済み**，**新規**，**開く**，**却下**，**要再修正** **標準設定値**:**新規**
Subject	サブジェクト・フォルダ。
サマリ	不具合の簡単な要約。
ターゲット・サイクル	不具合の修正が予定されているサイクル。 [**ターゲット サイクル**]フィールドで不具合をサイクルに割り当てると，ALMによって，リリースが[**ターゲット リリース**]フィールドに自動的に割り当てられます。
ターゲット・リリース	不具合の解決が予定されているリリース。

[新規不具合]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，不具合を作成できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • 不具合モジュールで，新規不具合... をクリックします。 • マストヘッド上のモジュールから をクリックして，[**新規不具合**]を選択します。
重要な情報	**ヒント：**特定の不具合フィールドの標準設定値を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
関連タスク	「ALMでの不具合の追跡方法」(749ページ)
参照情報	「不具合追跡の概要」(748ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	すべてのフィールドをクリア：データをクリアします。 **ヒント：**不具合の作成は，[新規不具合]ダイアログ・ボックス，ALMの他のモジュール，場合によってはブラウザ自体の間で切り替えが必要となる可能性がある進行中のプロセスです。 不具合の作成中に別のモジュールに切り替えるには，不具合を送信せずに[**閉じる**]をクリックします。作成中の不具合に戻るには，不具合モジュールの[**新規不具合**]を再度クリックします。ALMによってデータが保持されるため，同じ不具合で作業を続行できます。 別の不具合で作業を開始する場合，[**すべてのフィールドをクリア**] ボタンをクリックし，保持されたデータをクリアします。
	類似した不具合の検索：[類似の不具合]ダイアログ・ボックスが開き，次の不具合を検索できます。 • 新しく作成する不具合に類似した不具合。 • テキスト文字列に類似した不具合。 ユーザ・インタフェースの詳細については，「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
標準設定値の使用	**標準設定値の使用**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスでの指定に従って，特定のフィールドに標準設定値が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
標準設定値の設定	**標準設定値の設定**：[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックスを使用して，特定のフィールドに標準設定値を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[標準設定値の設定]ダイアログ・ボックス」(100ページ)を参照してください。
詳細	不具合フィールドの一覧です。不具合フィールドの詳細については，「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)を参照してください。
添付	新しい不具合に関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

[不具合詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，不具合の詳細の更新，添付ファイルの追加，不具合の履歴の表示，ほかの不具合へのリンクなどの操作を実行できます。また，不具合にリンクされているほかのエンティティを表示することもできます。

アクセス方法	不具合グリッドで不具合を右クリックし，[**不具合の詳細**]を選択します。
関連タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(749ページ)
参照情報	• 「不具合追跡の概要」(748ページ) • 「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ：不具合を順番に表示できます。

UI 要素	説明
	不具合に移動：[不具合に移動]ダイアログ・ボックスが開き，不具合 ID で特定の不具合を検索できます。移動できる不具合は現在のフィルタに含まれるものだけです。不具合 ID を指定した後，次のいずれかをクリックします。 • **詳細を開く**：[不具合の詳細]ダイアログ・ボックスで不具合を開きます。 • **グリッドに表示**：[不具合の詳細]ダイアログ・ボックスを閉じた後，不具合グリッドで不具合を強調表示します。
	フォローアップ・フラグ：[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックスが開き，不具合のフォローアップ・フラグを定義できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フォローアップ フラグ]ダイアログ・ボックス」(111ページ)を参照してください。
	警告：[警告]ダイアログ・ボックスが開き，不具合の警告を表示できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[警告]ダイアログ・ボックス」(109ページ)を参照してください。 **利用可能条件**：選択した不具合にアラートが関連付けられていること。
	標準不具合レポート：次のいずれかのレポートを選択します。 • **実行レポート**：リンクされているテスト実行の詳細が表示されます。 **利用条件**：不具合がテスト実行にリンクされていること。 • **標準不具合レポート**：選択した不具合に関する標準不具合レポートです。
	電子メールで送信：[電子メールの送信]ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛に不具合を電子メールで送信できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[電子メールの送信]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。
	スペル・チェック：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典：選択した単語の類義語，反義語，関連語が表示されます。
	スペル・オプション：スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	不具合フィールドの一覧です。不具合フィールドの詳細については，「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)を参照してください。
添付	現在選択されている不具合に関する追加情報が含まれている，添付ファイルの一覧が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[添付]ページ」(94ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
リンクされたエンティティ	現在選択されている不具合にリンクされたエンティティが一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ」(768ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されている不具合に加えられた変更が一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[履歴]タブ」(88ページ)を参照してください。

[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠

[類似の不具合]ダイアログ・ボックスでは，新しい不具合を送信する前に，類似した不具合がないかチェックできます。[類似の不具合]表示枠では，不具合グリッドから類似の不具合がないか，いつでもチェックできます。

アクセス方法	不具合グリッドまたは[新規不具合]ダイアログ・ボックスで不具合を選択し，[**類似した不具合の検索**]ボタン をクリックします。 [**類似した不具合の検索**]または[**類似したテキストの検索**]を選択します。
重要な情報	• 類似の不具合があるかどうかをチェックするには，プロジェクト内にあるほかの不具合と比較する方法と，テキスト文字列と比較する方法があります。 • [類似を検索]を実行すると，一致率の高い順に結果が表示されます。類似した不具合が見つからない場合は，メッセージが表示されます。
関連タスク	「不具合の検索方法」(752ページ)
参照情報	「不具合追跡の概要」(748ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
検索対象	検索する対象となるテキスト文字列。 大文字と小文字は区別されません。 次の文字や記号は無視されます。 • 冠詞(a，an，the) • 接続詞(and，but，for，nor，or) • ブール演算子(and，or，not，if，then) • ワイルドカード(?，*，[])</br>

UI 要素	説明
近接 %	ALM は，類似のテキストを検索する際，ここで指定したパーセンテージよりも類似性の高い不具合を検索します。 **標準設定値**：類似性が25 パーセント以上の不具合が返されます。
検索	検索を開始します。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	検索可能フィールド：類似の不具合の検索で使用するフィールド。このフィールドは読み取り専用です。
	移動：不具合グリッドで，選択した不具合に移動します。
<不具合>	類似した不具合のリスト。類似した不具合で表示されるフィールドの詳細については，「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)を参照してください。
項目	みつかった類似した不具合の合計数に対する現在の不具合の数。 例：**項目 2 (全 10 個)**

[リンクされている不具合]ページと[リンクされたエンティティ]ページ

このページでは，不具合とほかのエンティティから不具合へのリンクを定義および管理します。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • **不具合モジュール**：[不具合詳細]ダイアログ・ボックスで，[**リンクされたエンティティ**]を選択します。リンクされている不具合の[**不具合**]タブをクリックするか，不具合ではないリンクされたエンティティの[**その他**]タブをクリックします。 • **他のモジュールおよびダイアログ・ボックス**：サイドバーの[**リンクされている不具合**]または[**リンクされている不具合**]タブをクリックします。
重要な情報	• 不具合をリンクできる ALM エンティティには，要件，ビジネス，テスト，テスト・セット，ビジネス・プロセス・テスト，フロー，テスト・インスタンス，実行，実行ステップ，ほかの不具合があります。 • 不具合モジュールでは，不具合をほかの不具合にリンクできます。 • 不具合をほかの ALM エンティティにリンクするには，そのエンティティのモジュールまたは[詳細]ダイアログ・ボックスにアクセスしてください。

関連タスク	「不具合のリンク方法」(752ページ)
参照情報	「不具合追跡の概要」(748ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	最初のエンティティ/前のエンティティ/次のエンティティ/最後のエンティティ：エンティティを順番に表示できます。 **利用可能な場所**：[リンクされている不具合]タブ
	不具合の追加とリンク：[新規不具合]ダイアログ・ボックスが開きます。新しい不具合を送信すると，不具合にリンクが追加されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規不具合]ダイアログ・ボックス」(764ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：不具合モジュールを除くすべてのモジュール
	既存の不具合にリンク：既存の不具合にリンクを追加します。 • **ID で**：[既存の不具合をリンク]ダイアログ・ボックスで，不具合 ID を入力して不具合を選択します。 • **選択**：[不具合のリンク]ダイアログ・ボックスで，グリッドから不具合を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[リンクする不具合]ダイアログ・ボックス」(771ページ)を参照してください。
	要件からリンク：既存の要件にリンクを追加します。 • **ID で**：[既存の不具合をリンク]ダイアログ・ボックスで，要件 ID を入力して要件を選択します。 • **選択**：[要件の選択]ダイアログ・ボックスで，グリッドから要件を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[要件の選択]ダイアログ・ボックス」(772ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：不具合モジュールのこのページの[その他]タブ。
	リンクを削除：選択したリンクを削除します。
	すべて更新：リンクされている不具合またはエンティティのリストが更新されます。これにより，選択したフィルタに基づいて不具合は最新の状態で表示されます。
	フィルタ/ソート：リンクされている不具合とエンティティのリストをフィルタ処理および並び替えます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば，ツールバーの下に表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	不具合の詳細：選択した不具合の詳細を表示する[不具合詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[不具合詳細]ダイアログ・ボックス」(765ページ)を参照してください。
	• **不具合に移動**：リンクされた不具合の[不具合の詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。 • **「リンク元」エンティティに移動**：不具合にリンクされたエンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。
リンクのタイプ	次のオプションを選択できます。 • **直接リンク**：直接リンクのみを表示します。 • **すべてのリンク**：すべてのリンクを表示します。 直接リンクと間接リンクの詳細については，「不具合追跡の概要」(748ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：不具合モジュールを除くすべてのモジュール
次のリンクを表示	表示するリンクを指定します。 • **現在の要件リンク**：現在の要件のみに追加されている不具合リンク。 • **子のリンクを含める**：現在の要件とその子に追加されている不具合リンク。 **利用可能な場所**：要件モジュール
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタの説明です。グリッド・フィルタ・ボックスのすぐ上にあります。
<不具合モジュールのフィールド>	ユーザ・インタフェースの詳細については，「不具合モジュールのフィールド」(761ページ)を参照してください。
<グリッド・フィルタ> 作成者 David	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
作成者	リンクを作成したユーザの名前。

UI 要素	説明
作成日	リンクが作成された日付。
リンクのコメント	リンクに関するコメントを追加できます。
リンク ID	ALM がリンクに対して自動的に割り当てる一意の ID 番号。リンク ID は読み取り専用です。
リンクのタイプ	リンク・タイプをカスタマイズしたリストの値。リストの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
被リンク・ステータス	リンクされたエンティティの現在のステータス。
リンクされたエンティティ ID	リンクされたエンティティに対して ALM が自動的に割り当てる一意の ID 番号。リンクされたエンティティ ID は読み取り専用です。
リンクされたエンティティ名	リンクされたエンティティの名前。たとえば，要件の名前です。
リンクされたエンティティ・タイプ	リンクされたエンティティのタイプ(例：ステップ，テスト，テスト・セット)。
不具合	現在の不具合にリンクされている不具合のリスト。
その他	現在の不具合にリンクされているその他エンティティのリスト。

[リンクする不具合]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，不具合モジュールで不具合をほかの不具合にリンクできます。

アクセス方法	[不具合の詳細]ダイアログ・ボックスを開き，[**リンクされたエンティティ**]タブ，[**不具合**]タブの順にクリックします。[**既存の不具合にリンク**]をクリックし，[**選択**]を選択します。
関連タスク	「不具合のリンク方法」(752ページ)
参照情報	「不具合のリンク」(748ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新：不具合のリストを更新します。
	フィルタ/ソート：選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，データ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。
	検索：[類似の不具合]ダイアログ・ボックスが開き，テキスト文字列に類似した不具合を検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[類似の不具合]ダイアログ・ボックス/表示枠」(767ページ)を参照してください。
<フィルタ・ステータス・バー>	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスのすぐ上にあります。
<グリッド・フィルタ> **作成者** David	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され，カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか，ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し，[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：モデル・グリッド・ビュー
<不具合>	データ・グリッドの不具合モジュールに不具合が表示されます。
説明	データ・グリッドに選択した不具合のサマリ，説明，コメントが表示されます。

[要件の選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，不具合モジュール内の不具合に要件をリンクできます。

アクセス方法	不具合に対して[不具合詳細]ダイアログ・ボックスを開き，[**リンクされたエンティティ**]タブ，[**その他**]タブの順にクリックします。[**要件からリンク**]をクリックし，[**選択**]を選択します。
関連タスク	「不具合のリンク方法」(752ページ)
参照情報	「不具合のリンク」(748ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	要件の詳細を表示：ツリーで選択した要件に対して[要件の詳細]ダイアログ・ボックスを開きます。
	更新：最新の情報が表示されるように，要件ツリーを更新します。

UI 要素	説明
	フィルタ/ソート: 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については,「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
<検索ボックス>	検索する要件の名前を入力し,[**検索**]ボタンをクリックします。
	検索: 要件ツリーで,[**検索**]ボックスで指定した値を検索します。
	ID でエンティティに移動: [要件に移動]ダイアログ・ボックスが開き,要件 ID に従ってツリー内に要件を配置できます。
<要件ツリー>	要件モジュールの要件が一覧表示されます。 ツリーを展開し,要件を選択します。不具合には,複数の要件を割り当てることができます。
クリア	割り当てられた要件を不具合からクリアします。

第12部: Analysis

第40章: Analysis の紹介

本章の内容

Analysis の概要 778
ALM でデータを分析する方法 778
ダッシュボードのユーザ・インタフェース 780

Analysis の概要

HP Application Lifecycle Management(ALM) には，ALM データをさまざまな形式で分析して表示できるアナリシス・ツールが用意されています。

ダッシュボード・モジュール

ダッシュボード・モジュールでは，グラフ，プロジェクト・レポート，Excel レポートを作成することにより，ALM データを分析します。また，複数のグラフが並んで表示されるダッシュボード・ページも作成できます。

ダッシュボードには，次のモジュールがあります。

- **アナリシス・ビュー・モジュール**: アナリシス・ビュー・モジュールには，すべてのアナリシス項目が編成されるアナリシス・ツリーがあります。アナリシス項目のアナリシス・タイプには，グラフ，プロジェクト・レポート，Excel レポートがあります。

  必要な管理者権限を持つユーザーは，[アナリシス メニュー] タブにもアクセスできます。このタブでは，要求モジュールやテスト・ラボ・モジュールなどの特定のモジュールのアナリシス・メニューから生成されるアナリシス項目を管理できます。

- **ダッシュボード・ビュー・モジュール**: ダッシュボード・ビュー・モジュールには，ダッシュボード・ページが編成されるダッシュボード・ツリーがあります。**ダッシュボード・ページ**では，アナリシス・ツリーに作成した複数のグラフを配列し，それらのグラフを 1 つのビューで表示します。

その他のアナリシス・ツール

- **ライブ・アナリシス・グラフ**: テスト計画およびテスト・セットに関するデータを動的かつ視覚的に作成，表示できます。詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフ」(883ページ) を参照してください。

タスクの詳細については，「ALM でデータを分析する方法」(778ページ) を参照してください。

> **注:** Sprinter での実行の実行ステップ情報は，レポート・ツールには含まれません。

ALM でデータを分析する方法

このタスクでは，ALM でさまざまなアナリシス・ツールを使用してデータを分析する方法を説明します。

データ分析の詳細については，「Analysis の概要」(778ページ) を参照してください。

> **注:** このタスクは，上位レベルのタスクの一環です。詳細については，「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(36ページ) を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「グラフの生成 (ビジネス・ビュー・グラフを含む)」(779ページ)
- 「ダッシュボード・ページの生成」(779ページ)

- 「プロジェクト・レポートの生成」(779ページ)
- 「Excel レポートの生成」(779ページ)
- 「ビジネス・ビュー Excel レポートの生成」(779ページ)
- 「アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理」(779ページ)
- 「ライブ・アナリシス・グラフの生成」(779ページ)

グラフの生成 (ビジネス・ビュー・グラフを含む)

- 選択したデータをグラフ形式で表示します。タスクの詳細については、「グラフを生成する方法」(796ページ) を参照してください。
- 選択したプロジェクトの計画と追跡データをグラフ形式で表示します。タスクの詳細については、「PPT グラフを生成する方法」(834ページ) を参照してください。

ダッシュボード・ページの生成

選択したグラフをグループにまとめて、1 つの画面に表示します。

タスクの詳細については、「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ) を参照してください。

プロジェクト・レポートの生成

選択したデータのプロジェクト・レポートを作成します。

タスクの詳細については、「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ) を参照してください。

Excel レポートの生成

プロジェクト・データベースから SQL クエリを使ってデータを抽出し、Microsoft Excel でデータをフォーマットします。

タスクの詳細については、「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) を参照してください。

ビジネス・ビュー Excel レポートの生成

Microsoft Excel で、DQL クエリを使ってプロジェクト・データベースからデータを抽出し、そのデータをフォーマットします。

タスクの詳細については、「ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法」(878ページ) を参照してください。

アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理

アナリシス項目とダッシュボード・ページを、アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーに編成します。フォルダの作成、項目の移動、コピー、名前変更、削除を実行します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「アナリシス・ビューのメニューとボタン」(783ページ) を参照してください。

ライブ・アナリシス・グラフの生成

ライブ・アナリシス・グラフでは、テスト計画サブジェクトおよびテスト・セットに関する動的グラフを作成し

て表示できます。

タスクの詳細については,「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)を参照してください。

ダッシュボードのユーザ・インタフェース

本項の内容

[アナリシス ビュー] ウィンドウ 780
[ダッシュボード ビュー] ウィンドウ 782
アナリシス・ビューのメニューとボタン 783
ダッシュボード・ビューのメニューとボタン 788
ダッシュボードのアイコン 790
[詳細] タブ 791
[アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックス 792

[アナリシス ビュー] ウィンドウ

このウィンドウでは, アナリシス項目の作成, 管理, 表示を実行できます。アナリシス項目には, グラフ, プロジェクト・レポート, Excel レポートがあります。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で, [**アナリシス ビュー**]を選択します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	「Analysis の概要」(778ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
[アナリシスビュー]タブ	非公開および公開ルート・フォルダの下にアナリシス項目を編成できるツリーがあります。 • 公開フォルダに作成したアナリシス項目は，すべてのユーザがアクセス可能です。 • 公開フォルダに作成したアナリシス項目は，それを作成したユーザしかアクセスできません。 **注：** ▪ 公開フォルダ内のアナリシス項目は，ユーザ・グループのデータ非表示定義に従い，ユーザごとに異なる結果が表示される場合があります。データ権限の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▪ フォルダ内でアナリシス項目を移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると，フォルダの項目はアルファベット順に並べられます。
[アナリシスメニュー]タブ	要求モジュールやテスト計画モジュールなどのモジュールから生成されるアナリシス項目の動作を表示，管理できます。 アナリシス項目は，表示するモジュールに基づいて一覧表示されます。 **利用可能な対象**：必要な管理者権限を持つユーザのみ。
<アナリシス・ビューの共通 UI 要素>	• **アナリシス・ビューのメニューとボタン**：コマンドとボタンの説明については，「アナリシス・ビューのメニューとボタン」(783ページ)を参照してください。 • **ダッシュボード・アイコン**：アイコンの説明については，「ダッシュボードのアイコン」(790ページ)を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**：詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ)を参照してください。
[詳細]タブ	選択したアナリシス項目またはフォルダの詳細を表示します。詳細については，「[詳細]タブ」(791ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[設定]タブ	選択したアナリシス項目を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，以下を参照してください。 • **グラフ**: 「[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ」(805ページ) • **プロジェクト・レポート**: 「[設定]タブ - プロジェクト・レポート」(851ページ) • **Excel レポート**: 「[設定]タブ - Excel レポート」(866ページ) • **ビジネス・ビュー Excel レポート**: 「[設定]タブ - ビジネス・ビュー Excel レポート」(880ページ)
[表示]タブ	選択したグラフが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ) を参照してください。 **注:** プロジェクト・レポートとExcel レポートは，Microsoft Excel やWord などの外部アプリケーションで表示されます。

[ダッシュボード ビュー] ウィンドウ

このウィンドウでは，ダッシュボード・ページの作成，管理，表示を実行できます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ)
参照情報	「Analysis の概要」(778ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ダッシュボード・ビューの共通 UI 要素>	• **ダッシュボード・ビューのメニューとボタン**: コマンドとボタンの説明については，「ダッシュボード・ビューのメニューとボタン」(788ページ) を参照してください。 • **ダッシュボード・アイコン**: アイコンの説明については，「ダッシュボードのアイコン」(790ページ) を参照してください。 • **ALM のマストヘッド，メニュー，サイドバー**: 詳細については，「ALM 共通領域」(46ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
<ダッシュボード・ツリー>	ダッシュボード・ページを公開ルート・フォルダおよび非公開ルート・フォルダの下に編成します。 • 公開フォルダに作成したダッシュボード・ページは，すべてのユーザがアクセス可能です。 • 非公開フォルダに作成したアナリシス項目は，それを作成したユーザしかアクセスできません。 • 公開ダッシュボード・ページには，公開グラフのみ含めることができます。 **注：** • 公開フォルダ内のダッシュボード・ページは，ユーザ・グループのデータ非表示定義に従い，ユーザごとに異なる結果が表示される場合があります。データ権限の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • フォルダ内でダッシュボード・ページを移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると，フォルダ内のダッシュボード・ページはアルファベット順に並べられます。
[詳細]タブ	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダの詳細を表示します。詳細については，「[詳細]タブ」(791ページ)を参照してください。
[設定]タブ	選択したダッシュボード・ページを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[設定]タブ - ダッシュボード・ページ」(816ページ)を参照してください。
[表示]タブ	選択したダッシュボード・ページを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - ダッシュボード・ページ」(817ページ)を参照してください。

アナリシス・ビューのメニューとボタン

本項では，アナリシス・ビュー・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。
重要な情報	**ヒント：** アナリシス・ビュー・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには，ショートカット・キー ALT を押します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「ダッシュボードのアイコン」(790ページ) • 「[アナリシス ビュー]ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
URL のコピー/貼り付け	編集	選択したアナリシス項目またはフォルダをコピーし，その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに，電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き，その項目に移動します。ログインしていない場合，ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。 **注:** [アナリシス メニュー] タブでは利用できません。
コピー/貼り付け	編集	選択したアナリシス項目またはフォルダを同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにコピーします。 **注:** 次の条件が満たされている場合は，プロジェクト・レポートを別のプロジェクトにコピーできます。 • レポートで使用されているプロジェクト・テンプレートの名前，タイプ，カテゴリが両方のプロジェクトで同じである。 • レポートがベースラインに基づいていない。 • レポートの対象となっているすべてのエンティティがターゲット・プロジェクトで定義されている。
切り取り/貼り付け	編集	選択したアナリシス項目またはフォルダを，ツリー内の別の位置に移動します。 アナリシス項目を公開フォルダから非公開フォルダに移動すると，そのアナリシス項目が含まれている公開ダッシュボード・ページからそのアナリシス項目が削除されます。 **ヒント:** アナリシス項目をツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。

UI 要素	メニュー	説明
削除	編集	選択したアナリシス項目またはフォルダを削除します。ルート・フォルダは削除できません。 **注:** • フォルダを削除すると，そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。 • グラフを削除すると，そのグラフが含まれているダッシュボード・ページからそのグラフが削除されます。 • [アナリシス メニュー] タブからグラフまたはプロジェクト・レポートを削除する場合，グラフまたはレポートを削除するにはログアウトしてからもう一度ログインする必要があります。
展開/折りたたみ	表示	選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。
Excel レポート定義のエクスポート	編集	選択した Excel レポート定義を XML ファイルにエクスポートできます。エクスポートした Excel レポート定義は，別のプロジェクトにインポートできます。 **注:** [アナリシス メニュー] タブでは利用できません。
生成	アナリシス	選択したアナリシス項目を生成します。 **グラフ**: 結果が[表示]タブに表示されます。[表示]タブがすでに選択されている場合，アナリシス項目が最新データで更新されます。 **プロジェクト・レポートおよび Excel レポート**: 結果が外部アプリケーションに表示されます。
グラフ・ウィザード	アナリシス	グラフ・ウィザードが開き，グラフを作成して設定できます。詳細については，「グラフ・ウィザード」(819ページ)を参照してください。
Excel レポート定義のインポート	編集	前に XML ファイルにエクスポートした Excel レポート定義をインポートできます。レポート定義は，選択したアナリシス・ツリー・フォルダに追加されます。 **注:** [アナリシス メニュー] タブでは利用できません。
新規ビジネス・ビュー Excel レポート	アナリシス	[新規ビジネス ビュー Excel レポート] ダイアログ・ボックスが開き，新規ビジネス・ビュー Excel レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。

UI 要素	メニュー	説明
新規ビジネス・ビュー・グラフ	アナリシス	[新規ビジネス ビュー グラフ] ダイアログ・ボックスが開き，新規ビジネス・ビュー・グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。
新規 Excel レポート	アナリシス	[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックスが開き，新規 Excel レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックス」(875ページ) を参照してください。 **注：** [アナリシス メニュー] タブでは利用できません。
新規フォルダ	アナリシス	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き，アナリシス・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 **非公開** ルート・フォルダの下に作成したフォルダは，所有者のみが利用できます。**公開** ルート・フォルダの下に作成したフォルダは，すべてのユーザが利用できます。 **構文の例外：** フォルダ名は 255 文字を超えることができません。また，名前に次の文字は使用することはできません。\ ^ * **注：** [アナリシス メニュー] タブでは利用できません。
新規グラフ	アナリシス	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き，新規グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(826ページ) を参照してください。
新規項目	ツールバー	グラフ・ウィザードを起動するか，新規のグラフ，ビジネス・ビュー・グラフ，プロジェクト・レポート，Excel レポート，またはビジネス・ビュー Excel レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。 **注：** • Excel レポートは，[アナリシス メニュー] タブでは利用できません。 • [アナリシス メニュー] タブで新規のグラフまたはプロジェクト・レポートを追加する場合，追加したグラフまたはレポートを表示するにはログアウトしてからもう一度ログインする必要があります。
新規プロジェクト・レポート	アナリシス	[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックスが開き，新規プロジェクト・レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックス」(859ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
[新規リリースアナリシス]＞[リリース スコアカード]	アナリシス	[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開き，新規リリース・スコアカード・グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規グラフ]ダイアログ・ボックス」(826ページ)を参照してください。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，**ALM Edition**で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[新規リリースアナリシス]＞[KPI 時間変化グラフ]	アナリシス	[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開き，新規 KPI 時間変化グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規グラフ]ダイアログ・ボックス」(826ページ)を参照してください。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，**ALM Edition**で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[新規リリースアナリシス]＞[KPI 内訳グラフ]	アナリシス	[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開き，新規 KPI 内訳グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規グラフ]ダイアログ・ボックス」(826ページ)を参照してください。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，**ALM Edition**で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
[新規リリースアナリシス]＞[KPI の経過時間ごとのブレークダウン グラフ]	アナリシス	[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開き，KPI の経過時間ごとのブレークダウン・グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については，「[新規グラフ]ダイアログ・ボックス」(826ページ)を参照してください。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，**ALM Edition**で利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
更新	表示	アナリシス・ツリーを更新して最新情報を表示します。

UI 要素	メニュー	説明
名前の変更	編集	選択したアナリシス項目またはフォルダの名前を変更できます。
アナリシス項目の共有	編集	選択したグラフまたはプロジェクト・レポートを ALM 外部でほかのユーザが表示できるようにします。詳細については、「[アナリシス項目の共有]ダイアログ・ボックス」(792ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**: グラフ, プロジェクト・レポート **注:** [アナリシス メニュー]タブでは利用できません。

ダッシュボード・ビューのメニューとボタン

本項では, ダッシュボード・ビュー・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で, [**ダッシュボード ビュー**]を選択します。
重要な情報	**ヒント:** ダッシュボード・ビュー・モジュールからメニュー・バーにアクセスするには, ショートカット・キー ALT を押します。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ)
参照情報	• 「ダッシュボードのアイコン」(790ページ) • 「[ダッシュボード ビュー]ウィンドウ」(782ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
URL のコピー/貼り付け	編集	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダをコピーし, その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに, 電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き, その項目に移動します。ログインしていない場合, ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
コピー/貼り付け	編集	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにコピーします。 ダッシュボード・ページを貼り付ける際には, ダッシュボード・ページに含まれるグラフをコピーする方法を選択します。

UI 要素	メニュー	説明
切り取り/貼り付け	編集	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを，ツリー内の別の位置に移動します。 ダッシュボード・ページを非公開フォルダから公開フォルダに移動すると，そのダッシュボード・ページから非公開グラフが削除されます。 **ヒント：** ダッシュボード・ページをツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。
削除	編集	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを削除します。ルート・フォルダは削除できません。 **注：** フォルダを削除すると，そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。
展開/折りたたみ	表示	選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。
エクスポート	ダッシュボード	選択したダッシュボード・ページを PDF ファイルとして保存し，ダッシュボード・ページを印刷できるようにします。 次のオプションを利用できます。 **ダッシュボード・ページ・レイアウト**：ダッシュボード・ページは元の形式で保存されます。 **1 ページあたりに 1 アイテムのレイアウト**：ダッシュボード・ページの各グラフが別々のページに保存されます。 **利用可能な場所**：[表示]タブ
生成	ダッシュボード	選択したダッシュボード・ページを生成し，[表示]タブに表示します。 [表示]タブがすでに選択されている場合，ダッシュボード・ページが最新データで更新されます。
新規フォルダ	ダッシュボード	[新規フォルダ]ダイアログ・ボックスが開き，ダッシュボード・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 **非公開**ルート・フォルダの下に作成したフォルダは，所有者のみが利用できます。**公開**ルート・フォルダの下に作成したフォルダは，すべてのユーザが利用できます。 **構文の例外**：フォルダ名は 255 文字を超えることができません。また，名前に次の文字は使用することはできません。\ ^ *

UI 要素	メニュー	説明
新規ページ	ダッシュボード	[新規ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックスが開き，新しいダッシュボード・ページを作成できます。詳細については，「[新規ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックス」(827ページ)を参照してください。
更新	表示	ダッシュボード・ツリーを更新して最新情報を表示します。
名前の変更	編集	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダの名前を変更できます。

ダッシュボードのアイコン

本項では，ダッシュボード・モジュールに表示されるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]または[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	アナリシス・フォルダ: アナリシス項目またはダッシュボード・ページを整理するためのフォルダ。
	ダッシュボード・ページ: ダッシュボード・ツリー内のダッシュボード・ページ。
	Excel レポート: アナリシス・ツリー内の Excel レポート。
	ビジネス・ビュー Excel レポート: アナリシス・ツリー内のビジネス・ビュー Excel レポート。
	グラフ: アナリシス・ツリー内のグラフ。
	ビジネス・ビュー・グラフ: アナリシス・ツリー内のビジネス・ビュー・グラフ。
	KPI 内訳グラフ: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ。
	KPI 内訳進行状況グラフ: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ。
	KPI 進行状況グラフ: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ。
	プロジェクト・レポート: アナリシス・ツリー内のプロジェクト・レポート。
	リリース・スコアカード・グラフ: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ。

[詳細]タブ

このタブには，選択したアナリシス項目，ダッシュボード・ページ，またはフォルダの詳細が表示されます。

アクセス方法	ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]または[**ダッシュボード ビュー**]を選択し，項目またはフォルダを選択します。
重要な情報	• [**名前**]フィールドと[**タイトル**]フィールドは編集できます。このダイアログ・ボックスのその他のフィールドは読み取り専用です。 • このタブの[**説明**]フィールドをクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	「[アナリシス ビュー]ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
エンティティ	アナリシス項目によってサンプリングされたデータ・セット。 **利用可能な場所**：アナリシス項目
タイプ	アナリシス項目のタイプ。 **利用可能な場所**：アナリシス項目
サブタイプ	グラフのタイプ。
名前	アナリシス項目，ダッシュボード・ページ，またはフォルダのツリーに表示される名前。 グラフの場合，グラフの上部に表示される標準設定のタイトル。
最終更新日	アナリシス項目またはダッシュボード・ページが最後に更新された日時。
変更者	アナリシス項目またはダッシュボード・ページを最後に更新したユーザ。
所有者	アナリシス項目，ダッシュボード・ページ，またはフォルダを作成したユーザ。公開項目を変更する権限は所有者にしかない場合があります。
タイトル	ダッシュボード・ページのヘッダに表示されるタイトル。 **利用可能な場所**：ダッシュボード・ページ

[アナリシス項目の共有]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，グラフまたはプロジェクト・レポートを共有して ALM クライアント外部で表示できます。

アクセス方法	アナリシス・ツリーでグラフまたはプロジェクト・レポートを右クリックし，[**アナリシス項目の共有**]を選択します。
重要な情報	• URL の最後に **&width=xx** または **&height=xx** 属性を追加することで，グラフの幅と高さを調整できます。 • このオプションは，[アナリシスメニュー]タブでは利用できません。
関連タスク	• 「グラフを生成する方法」(796ページ) • 「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)
参照情報	「[アナリシスビュー]ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アナリシス項目 URL をコピー (認証が必要)	選択したグラフまたはレポートの URL をクリップボードにコピーします。 グラフまたはレポートを表示するには，ALM のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
アナリシス項目公開 URL をコピー	選択したグラフまたはレポートの URL をクリップボードにコピーします。 認証は不要です。
アナリシス項目公開 URL をリセット	前に[**アナリシス項目公開 URL をコピー**]を選択した場合，このオプションを選択すると，選択したグラフまたはレポートの公開読み取り専用版へのアクセスを禁止できます。

第41章: グラフおよびダッシュボード・ページ

本章の内容

グラフおよびダッシュボード・ページの概要 794

グラフを生成する方法 796

ダッシュボード・ページを生成する方法 800

エンティティ・グラフの種類 801

グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース 805

グラフおよびダッシュボード・ページの概要

HP Application Lifecycle Management(ALM)のグラフは，各種データ間の関係を分析および表示するのに役立ちます。

ALMでは次の種類のグラフを作成できます。

- **ビジネス・ビュー・グラフ**：ビジネス・ビューに基づくグラフは，単一エンティティまたは複数のエンティティのいずれかを表し，ビジネス価値情報のみを示します。ビジネス・ビュー・グラフの詳細については，「ビジネス・ビュー・グラフの概要」(795ページ)を参照してください。

- **エンティティ・グラフ**：各グラフは，要件または不具合などの単一のエンティティのみをベースにしており，エンティティのいずれの属性も表示できます。

  エンティティ・グラフを作成する際は，複数のグラフの種類を使用できます。利用可能なグラフ・タイプについては，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ)を参照してください。

  エンティティ・グラフの表示中は，各バーまたはセグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成した後，複数のグラフを選択して配列し，**ダッシュボード・ページ**に並べて表示できます。

複数のALMプロジェクトのデータが含まれたグラフを作成できます。

グラフの作成

次の表に，グラフ作成のための各種オプションを一覧します。

オプション	説明	利用可能な場所	グラフの種類
定義済みのグラフ	特定のモジュールに関するデータを迅速に分析できます。定義済みのグラフは，既存のモジュール・フィルタからのデータを表示します。 定義済みグラフは，アナリシス・ビュー・モジュールに保存して後で参照できます。	• ビジネス・コンポーネント・モジュール • 不具合モジュール • 要件モジュール • テスト・ラボ・モジュール • テスト計画モジュール	エンティティ

オプション	説明	利用可能な場所	グラフの種類
アナリシス・ビュー・モジュール	データをフィルタ処理し，さまざまな設定を行い，グラフをフォルダに整理できます。	アナリシス・ビュー・モジュール	• エンティティ • ビジネス・ビュー
グラフ・ウィザード	グラフの作成と設定を支援します。	• アナリシス・ビュー・モジュール • ビジネス・コンポーネント・モジュール • 不具合モジュール • 要件モジュール • テスト・ラボ・モジュール • テスト計画モジュール	• エンティティ • ビジネス・ビュー(アナリシス・ビュー・モジュールのみ)

ALM のエディション：クロス・プロジェクト・グラフは，Quality Center Enterprise Edition や Performance Center Edition では利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

関連するタスクについては，「グラフを生成する方法」(796ページ)および「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ)を参照してください。

ビジネス・ビュー・グラフの概要

ビジネス・ビューは 1 つのデータ層で，データベースの最上位に位置し，ビジネスの視点から有益な情報を示すプロジェクト・エンティティ・フィールドのみを表します。

例

ベースライン・エンティティに基づくビジネス・ビューには，[**名前**]，[**説明**]，[**ベースライン ID**]の各フィールドが含まれています。これは，これらのフィールドが，ビジネスのみに特化した視点でベースライン情報を把握する必要があるグラフ・コンシューマにとって重要になる可能性がある情報を提供するためです。同様に，ビジネス・ビューには[**添付**]と[**自動入力タイプ**]フィールドが含まれません。これらのフィールドはビジネス上それほど重要ではないからです。

ビジネス・ビューは，[**ベースライン**]や[**不具合**]などの単一エンティティに基づく場合もあれば，[**リンクされた要件を持つ不具合**]などのエンティティ間のより複雑な関係を示す場合もあります。

ビジネス・ビューに基づいてグラフを作成する利点は，グラフ全体を通して標準化が維持できることです。異なるグラフでも同じビジネス・ビューに基づいて作成したものは，共通の枠組みを反映します。このような方法で作成したグラフは，ビジネスで大きな価値を発揮し，グラフの有用性も向上します。

[プロジェクト カスタマイズ]では，事前定義されたビジネス・ビューに加えて新たにビューを作成できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ビジネス・ビュー・グラフは，常に[サマリ グラフ]タイプになります。

標準設定では，ビジネス・ビュー・グラフには 100 MB のデータが表示されます。この設定の変更は，[サイト設定]タブの MAX_GRAPH_RESULT_DATA_TABLE_VOLUME パラメータを変更することで行うことができます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

グラフを生成する方法

このタスクでは，ALM でグラフを使用してデータを分析する方法を説明します。

グラフの詳細については，「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ)を参照してください。

本項の内容

- 「グラフの作成」(797ページ)
- 「グラフの設定」(797ページ)
- 「グラフの表示」(798ページ)
- 「グラフ・カテゴリの編集」(798ページ)
- 「エンティティ・グラフ：グラフ・データへのドリル・ダウン」(798ページ)
- 「ALM の外部でのグラフの共有」(799ページ)
- 「ダッシュボード・ページの作成」(799ページ)

1. **グラフの作成**

   次のいずれかを実行します。

   - **グラフ・ウィザードを起動します。**

     グラフ・ウィザードは，ビジネス・ビューまたはエンティティ・グラフの作成およびその設定に関連したステップを手順に沿って進めます。グラフ・ウィザードは，アナリシス・ビュー・モジュールから起動することも，ほかのALMモジュールでの作業中に起動することもできます。

     アナリシス・ビュー・モジュールから：ALMサイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択し，フォルダを右クリックし，[**グラフ ウィザード**]を選択します。この方法では，ビジネス・ビューおよびエンティティ・グラフを作成します。

     他のモジュールから：要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・ラボ，不具合のいずれかのモジュールで，[**アナリシス**]＞[**グラフ**]＞[**グラフ ウィザード**]を選択します。この方法では，エンティティ・グラフのみを作成します。

     ユーザ・インタフェースの詳細については，「グラフ・ウィザード」(819ページ)を参照してください。

   - **エンティティ・グラフ：定義済みグラフの作成**

     要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・ラボ，不具合のいずれかのモジュールでの作業中に，その場でグラフを作成してモジュール・データを分析できます。

     上記のモジュールのどれかで，[**アナリシス**]＞[**グラフ**]を選択し，定義済みのグラフの1つを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ)を参照してください。

   - **アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成します。**

     i. **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALMサイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。

     ii. **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

     iii. **新規グラフを作成します。** フォルダを右クリックし，グラフの種類を選択します。エンティティ・グラフの場合，[**新規グラフ**]を選択し，ビジネス・ビュー・グラフの場合，[**新規ビジネス ビュー グラフ**]を選択します。[新規グラフ]ダイアログ・ボックスまたは[新規ビジネス ビュー グラフ]ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。

     [新規グラフ]ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規グラフ]ダイアログ・ボックス」(826ページ)を参照してください。

2. **グラフの設定**

   データのフィルタ処理，グループ化，X軸の値などのグラフの設定を指定します。

[**設定**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ」(805ページ)を参照してください。

利用可能な場所：アナリシス・ビュー・モジュール

3. **グラフの表示**

次のいずれかを実行します。

- **アナリシス・ビュー・モジュールから**：[**表示**]タブをクリックします。
- **他のモジュールから**：モジュールのメニューで，[**アナリシス**] > [**最近の利用**]を選択し，最近使用したグラフを選択します。選択したグラフがアナリシス・ビュー・モジュールで開きます。

ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ)を参照してください。

4. **グラフ・カテゴリの編集**

グループ分けまたはX軸のフィールドで値をグループ化し，結合したデータを1つのカテゴリとして表示できます。

a. [表示]タブまたはグラフ・ウィンドウで，[**カテゴリの編集**]の矢印 をクリックし，いずれかのオプションを選択します。

b. カテゴリを作成するか，既存のカテゴリを編集します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[＜タイプ＞ カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス」(829ページ)を参照してください。

> **例**：
>
> グラフの[**グループ分け**]フィールドで[**優先度**]が選択され，[**優先度**]フィールドに「低い」，「普通」，「高い」，「非常に高い」，「緊急」の5つの値があるとします。「普通」と「高い」を「重要」というカテゴリにまとめ，「非常に高い」と「緊急」を「致命的」というカテゴリにまとめることができます。この場合，グラフには，「低い」，「重要」，「致命的」」という3つのカテゴリに分類されたデータが表示されます。

5. **エンティティ・グラフ：グラフ・データへのドリル・ダウン**

棒グラフおよび円グラフでは，選択した棒または扇形が表しているレコードまでドリル・ダウンして，個々のレコードの詳細を表示できます。

> ALMのエディション：クロス・プロジェクト・グラフは，Quality Center Enterprise Editionではサポートされていません。ALMエディションとその機能の詳細については，「エディションごとのALMの機能」(140ページ)を参照してください。使用しているALMのエディションを調べるには，ALMサイト管理者に問い合わせてください。

a. ［表示］タブまたはグラフ・ウィンドウで，グラフの扇形または棒をクリックします。

b. 扇形または棒の部分が複数のプロジェクトのレコードを表している場合は，［プロジェクト選択］ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトを選択します。

c. 別のプロジェクトのデータを表示するように選択した場合や，扇形または棒が別のプロジェクトだけからのレコードを表す場合は，プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。該当する場合，ログインを促すメッセージが表示されます。レコードは関連するALMモジュールに表示されます。

d. 扇形または棒の部分が，現在のプロジェクトだけからのレコードを表している場合や，現在のプロジェクトからデータを表示するように選択した場合は，［結果のドリルダウン］ダイアログ・ボックスにレコードが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［結果のドリルダウン］ダイアログ・ボックス」（831ページ）を参照してください。

6. **ALMの外部でのグラフの共有**

ALMユーザやその他の人が，グラフの読み取り専用版をALM外部で表示できるようにします。

a. アナリシス・ツリーでグラフを右クリックし，［**アナリシス項目の共有**］を選択します。

b. ［アナリシス項目の共有］ダイアログ・ボックスで，共有オプションを選択します。詳細については，「［アナリシス項目の共有］ダイアログ・ボックス」（792ページ）を参照してください。

選択したグラフのURLがクリップボードにコピーされます。

c. URLをWebサイトまたは電子メールに貼り付けます。

d. URLをクリックすると，グラフの読み取り専用版がWebブラウザで開きますグラフにアクセスするたびに，設定した間隔後に最新の情報が表示されます。

> **注：** グラフ・データの更新頻度を変更するには，**GRAPH_RESULTS_LIFESPAN** サイト設定パラメータを追加して設定します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

利用可能な場所：アナリシス・ビュー・モジュール

7. **ダッシュボード・ページの作成**

いくつかのグラフをダッシュボード・ページにまとめて表示できます。タスクの詳細については，「ダッシュボード・ページを生成する方法」（800ページ）を参照してください。

ダッシュボード・ページを生成する方法

この作業では，ダッシュボード・ページを作成して，複数のグラフを1つのビューに配列する方法を示します。

ダッシュボード・ページの生成方法に関するムービーを表示するには，ALMオンライン・ヘルプの本項を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(800ページ)
- 「ダッシュボード・ページの作成」(800ページ)
- 「ダッシュボード・ページの設定」(800ページ)
- 「ダッシュボード・ページの表示」(800ページ)

1. **前提条件**

   アナリシス・ビュー・モジュールでグラフが定義されています。グラフの作成に関するタスクの詳細については，「グラフを生成する方法」(796ページ)を参照してください。

2. **ダッシュボード・ページの作成**

   ダッシュボード・ツリーのフォルダにダッシュボード・ページを追加します。

   a. **ダッシュボード・ビュー・モジュールを開きます。** ALMサイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。

   b. **ダッシュボード・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

   c. **新規ダッシュボード・ページの作成**フォルダを右クリックし，[**新規ページ**]を選択します。ダッシュボード・ページに付ける名前を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[新規ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックス」(827ページ)を参照してください。

   d. [**詳細**]タブをクリックし，ダッシュボード・ページの説明を追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[詳細]タブ」(791ページ)を参照してください。

3. **ダッシュボード・ページの設定**

   ダッシュボード・ページに含めたいグラフを配列します。

   ダッシュボード・ビュー・モジュールで，ダッシュボード・ページを選択し，[**設定**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[設定]タブ - ダッシュボード・ページ」(816ページ)を参照してください。

4. **ダッシュボード・ページの表示**

   ダッシュボード・ページを生成して表示します。

ダッシュボード・ビュー・モジュールで，ダッシュボード・ページを選択し，[**表示**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - ダッシュボード・ページ」(817ページ)を参照してください。

エンティティ・グラフの種類

ALM では，要件，テスト，テスト・インスタンス，テスト実行，不具合，ビジネス・コンポーネントに対してグラフを生成できます。利用できるグラフの種類は，エンティティごとに異なります。

本項の内容

- 「要件グラフ」(801ページ)
- 「テスト計画グラフ」(802ページ)
- 「テスト・ラボ・グラフ」(802ページ)
- 「不具合グラフ」(803ページ)
- 「ビジネス・コンポーネント・モジュールのグラフ」(804ページ)

要件グラフ

要件に対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
要件カバレッジ・グラフ	テスト・カバレッジのステータスごとに，現在 ALM プロジェクトに存在する要件の数を示します。 **注：** • 要件モジュールからのみ利用可能です。 • カバレッジ・グラフは，要件サマリ・グラフの 1 つの種類です。別の X 軸値を選択すると，通常のサマリ・グラフが表示されます。
要件進行状況グラフ	一定時間内のある時点において，それまでに ALM プロジェクトに蓄積された要件の数を示します。 X 軸に表示する時間間隔，および ALM がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定します。また，要件数やその変化の表示の有無も指定します。
要件サマリ・グラフ	ALM プロジェクトに現在存在する要件の数を示します。 X 軸に表示するデータのタイプ，および ALM がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定します。

グラフ	説明
要件トレンド・グラフ	ALM プロジェクトの特定の要件フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。 変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。 各ステータスの変化は，このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば，フィールドが[未完了]から[成功]，そして[未完了]へと変化した場合，[未完了]への変化のみがこのグラフに記録されます。

テスト計画グラフ

テストに対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
テスト計画進行状況グラフ	一定時間内のある時点において，それまでに ALM プロジェクトに蓄積されたテストの数を示します。 X 軸に表示する時間間隔，および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定します。また，テスト数やその変化の表示の有無も指定します。
テスト計画サマリ・グラフ	ALM プロジェクトに現在存在するテストの数を示します。 X 軸に表示するデータのタイプ，および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定します。
テスト計画トレンド・グラフ	ALM プロジェクトの特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。 変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。 各ステータスの変化は，このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば，フィールドが「準備完了」から「修復」，そして「準備完了」へと変化した場合，「準備完了」への変化のみがこのグラフに記録されます。

テスト・ラボ・グラフ

テスト・インスタンスおよび実行に対しては次のグラフを作成できます。

テスト・セット・グラフ

グラフ	説明
テスト・セット進行状況グラフ	一定時間内のある時点において，それまでにテスト・セットに蓄積されたテストの数を示します。 X軸に表示する時間間隔，およびALMがデータをグループ化する際に基準とするテスト情報を指定します。また，テスト数やその変化の表示の有無も指定します。 **注：**テスト・ラボ・モジュールでグラフを作成した場合，現在のテスト・セットだけとすべてのテストのどちらを対象とするかを選択できます。
テスト・セット・サマリ・グラフ	テスト・セットに属するALMプロジェクトのテストの数を示します。 X軸に表示するデータのタイプ，およびALMがデータをグループ化する際に基準とするテスト計画とテスト・セット内のテストを指定します。 **注：**テスト・ラボ・モジュールでグラフを作成した場合，現在のテスト・セットだけとすべてのテストのどちらを対象とするかを選択できます。

テスト実行グラフ

グラフ	説明
テスト実行サマリ・グラフ	プロジェクト内の実行のステータスを，テスト担当者ごとにグループ分けして示します。

不具合グラフ

不具合に対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
不具合期間グラフ	ALMプロジェクト内の不具合が検出されてから現在までの経過時間を示します。不具合の経過時間は，不具合が報告された時点から開始し，解決して終了した時点で終わりとなります。 ALMがデータをグループ化する際に基準とする不具合情報，およびY軸に表示するデータを指定します。データを分割するために使用する時間間隔を指定します。 「**終了**」の状態となっている不具合の期間とは，不具合が報告された日付から解決して終了した日付までの日数です。不具合が解決して終了した時点で「期間」は固定され，変化しなくなります。

グラフ	説明
不具合進行状況グラフ	一定時間内のある時点において，それまでにALMプロジェクトに蓄積された不具合の数，あるいはそれらの不具合を修正するために要する予想時間または実際の時間を示します。 X軸に表示する時間間隔，およびALMがデータをグループ化する際に基準とする不具合情報，およびY軸に表示するデータを指定します。また，不具合数やその変化の表示の有無も指定します。
不具合サマリ・グラフ	ALMプロジェクト内の不具合の数，あるいは不具合の修正に要する予想時間または実際の時間の要約を示します。 X軸に表示するデータのタイプ，Y軸に表示するデータのタイプ，およびALMがデータをグループ化する際に基準とする不具合情報を指定します。
不具合トレンド・グラフ	ALMプロジェクトの特定の不具合フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。 変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。各優先度の変化は，このグラフには1回だけ記録されます。たとえば，フィールドが「緊急」から「非常に高い」，そして「緊急」へと変化した場合，「緊急」への変化のみがこのグラフに記録されます。

ビジネス・コンポーネント・モジュールのグラフ

ビジネス・コンポーネントに対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
コンポーネント・サマリ - 'ステータス' によりグループ化	ALMプロジェクトに現在存在するコンポーネントの数を表示します。コンポーネントの数は，指定した条件に基づいて表示されます。 X軸に表示するデータのタイプ，およびALMがデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定します。標準設定では，グラフは棒グラフで表示されます。
コンポーネント進行状況 - 'ステータス' によりグループ化	ALMプロジェクトの特定のコンポーネント・フィールドに加えられた変更の一定時間内の各時点における履歴を表示します。 変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。このグラフは棒グラフでのみ表示できます。
コンポーネント・トレンド - 'ステータス' によりグループ化	ALMプロジェクトの特定のコンポーネント・フィールドに加えられた変更の一定時間内の各時点における履歴を表示します。 変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。このグラフは棒グラフでのみ表示できます。

グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース

本項の内容

[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ 805
[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ 811
[設定]タブ - ダッシュボード・ページ 816
[表示]タブ - ダッシュボード・ページ 817
グラフ・ウィザード 819
[新規グラフ]ダイアログ・ボックス 826
[ビジネスビューの選択]ダイアログ・ボックス 827
[新規ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックス 827
[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックス 828
[＜タイプ＞カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス 829
[グラフの外観]ダイアログ・ボックス 830
[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス 831

[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ

アナリシス・ビュー・モジュールの[設定]タブ，およびプロジェクト・レポートの[設定]タブの[グラフ設定]ウィンドウでは，グラフに表示するデータを選択できます。

ALM のエディション：クロス・プロジェクト・グラフは，Quality Center Enterprise Edition ではサポートされていません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

アクセス方法	**[設定]タブ** 次のいずれかを実行します。 • アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを選択し，[**設定**]タブをクリックします。 • 必要な管理者権限を持っている場合，アナリシス・ビュー・モジュールの[アナリシスメニュー]タブでグラフを選択し，[**設定**]タブをクリックします。 **[設定]ウィンドウ:** 1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，プロジェクト・レポートを選択します。 3. プロジェクト・レポートで，セクション・ノードを選択します。 4. [グラフ選択]領域で，グラフを選択して[**設定**]をクリックします。
重要な情報	利用可能な設定オプションは，グラフの種類によって異なります。
関連タスク	• 「グラフを生成する方法」(796ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
ビジネス・ビュー	ビジネス・ビュー	グラフのベースとなるビジネス・ビューを選択できます。ボックスの横の参照ボタンをクリックし，リストから必要なビジネス・ビューを選択して，[**OK**]をクリックします。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
期間	エンティティ(進行状況グラフとトレンド・グラフのみ)	グラフの対象となる期間。ドロップダウン・リストから期間を選択します。 • **カスタム**：任意の2つの日付の間の期間。開始日と終了日を設定します。 • **週/月/四半期/年**：過去の任意の時点の一定の期間。矢印を使用して前後の期間に移動するか，期間の開始日または終了日をドロップダウン・カレンダーで設定します。 • **直近**：現在の日付で終了する期間。時間単位(日，週，月，四半期，年)を選択し，グラフの対象とする時間単位の数を設定します。 • **毎日**：プロジェクトの開始日から現在の日付までのすべての期間を対象とします。
経過グループ分け	エンティティ(不具合のみ)	ある期間より前(たとえば，6か月より前)のすべての不具合を1つのカラムにまとめ，その期間内のすべての不具合を別のカラムにまとめることができます。あるいは，有効なすべての期間で不具合をまとめることもできます。 • 不具合を2つのカラムにグループ分けするには，期間を選択します。 • 有効な期間をすべて表示するには，[**グループ化なし**]を選択します。
粒度	エンティティ(進行状況グラフとトレンド・グラフのみ)	データがX軸上でグループ化される時間間隔。
表示オプション	エンティティ(進行状況グラフのみ)	• [**未処理データ**]を選択すると，選択した期間における要件，テスト，不具合の数が表示されます。 • [**変更の推移**]を選択すると，選択した期間における要件，テスト，不具合の数の変化が表示されます。各レコードの値は0から始まります。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
Y 軸	• ビジネス・ビュー • エンティティ(サマリ・グラフと期間グラフのみ)	Y 軸に表示するデータを選択します。 • 項目の合計数(たとえば，修正中の不具合のカウント)を表示するには，[**カウント**]を選択します。 • [ビジネスビュー グラフ]：[**個別のカウント**]を選択して，個別の値を表示するフィールドを選択します。 • [**次の合計**]を選択し，数値フィールドを選択します。たとえば，不具合グラフで不具合の修正に必要な推定時間を表示するには，[**予定修正時間**]を選択します。不具合の修正に実際に要した時間を表示するには，[**実際の修正時間**]を選択します
X 軸	• ビジネス・ビュー • エンティティ(サマリ・グラフのみ)	グラフの X 軸に表示する情報を指定します。 **ヒント：** クロス・プロジェクト・グラフの場合，データをプロジェクト別に表示するには[**QC プロジェクト**]を選択します。
グループ分け	• ビジネス・ビュー • エンティティ	グラフ・データのグループ分けの基準にする情報を特定するフィールドを選択します。データのグループ分けは，文字列またはリスト・フィールドによってのみ行うことができます。 **ヒント：** クロス・プロジェクト・グラフの場合，データをプロジェクトごとにグループ分けするには[**QC プロジェクト**]を選択します。 **進行状況グラフまたはトレンド・グラフ**：[**グループ分け**]フィールドと同じフィールドにフィルタを設定すると，グラフのグループにフィルタで除外した値が含まれる可能性があります。これは，進行状況グラフとトレンド・グラフでは，フィルタが現在の値に作用するのに対して，グルーピングが過去の値に作用するからです。たとえば，不具合グラフの[**グループ分け**]フィールドが[**ステータス**]に設定されていて，現在のフィルタにステータスが「**修正中**」のすべての不具合が含まれているとします。ここで，グラフを生成すると，フィルタに「**却下**」が含まれていない場合でも，修正中の不具合の前のすべてのステータス(「**却下**」など)がグラフに表示されます。
'カバーされない' 親を表示する	エンティティ(要件のみ)	ステータスが「カバーされない」の親要件を含めるかどうかを選択します。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
完全パスを表示	エンティティ(サマリ・グラフのみ)	サマリ・グラフの[**X 軸**]フィールドで[**サブジェクト**]，[**計画：サブジェクト**]，[**テスト：サブジェクト**]または[**テスト セット：名前**]を選択した場合，ALM によって，テスト・サブジェクト・フォルダのフル・パスが表示されます。
フィルタ状態		特定のモジュールの[アナリシス]メニューから生成されるグラフの動的フィルタ条件を設定できます。 • **カスタム**：[アナリシス メニュー]タブでカスタマイズされたフィルタを定義できます。 • **特殊フィルタ**：次の定義済みフィルタ処理オプションがあります。 **注：** 新しいグラフから別のモジュール・タイプのアナリシス・メニューにグラフを追加する場合は，[**カスタム**]フィルタ・タイプを使用する必要があります。特殊フィルタを選択すると，グラフがフィルタ処理されずに生成されます。たとえば，不具合グラフを[**要件アナリシス メニュー**]に追加し，[**コンテキスト**]フィルタ処理オプションを選択した場合，選択が無視され，フィルタ処理されずにグラフが生成されます。 ▪ **コンテキスト**：モジュールで現在選択されているフィルタに基づいて情報をフィルタ処理します。 ▪ **選択**：モジュールで現在選択されているエンティティの情報のみが含まれます。 **注：** テスト・ラボ・モジュールで選択したエンティティは，選択したテスト実行インスタンスであり，選択したテスト・セットではありません。 ▪ **子を含めて選択**：階層エンティティの場合，このエンティティばかりでなく選択した親エンティティの情報が含まれます。 ▪ **現在のエンティティ・ベース**：モジュールで現在フォーカスしている項目の情報が含まれます。このオプションは，テスト・セット・レベルのテスト・ラボ・モジュールでグラフを生成するために使用します。 **利用可能な場所**：[アナリシス メニュー]タブのみ。このタブを表示するには，必要な管理者権限が必要です。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
	エンティティ	**フィルタの設定**：選択した条件に基づいてデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。 現在のフィルタが[フィルタ]ボックスに表示されます。 **注：**[**グループ分け**]フィールドと同じフィールドにフィルタを設定すると、履歴データがグラフに表示される場合があります。
	• ビジネス・ビュー • エンティティ	**フィルタのクリア**：現在のフィルタをクリアします。
	ビジネス・ビュー	**フィルタ設定をコピー/フィルタ設定の貼り付け**：ビジネス・ビューのグラフ間でフィルタ設定をコピーおよび貼り付けできます。 複数のグラフで複雑なフィルタを複製する場合に便利です。 **注：**次の条件が満たされている場合に、この操作を実行できます。 • ソースとターゲットのグラフには、同じテクニカル名のフィールドが含まれている必要があります。 • ターゲット・グラフに含まれているフィールド数は、ソース・グラフのフィールド数を超えることはできず、少なくすることは可能です。
<フィールド・フィルタ・テーブル>	ビジネス・ビュー	ビジネス・ビュー・グラフのデータをフィルタ処理できます。 • **フィールド名**：ビジネス・ビューのフィールドがリストされます。 • **条件**：各フィールドのフィルタ条件を定義できます。 • **詳細**：フィールドのフィルタ条件を定義した場合に表示されるオプションのカラムです。該当するフィールドに追加のフィルタを定義できます。 **注：**日付と文字列のフィルタ条件の先頭には、等号を付ける必要があります。

UI 要素	グラフ・タイプ	説明
プロジェクトの選択	• ビジネス・ビュー • エンティティ	[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックスが開き，[クロスプロジェクトの選択]グリッド内のプロジェクトのリストを変更できます。詳細については，「[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックス」(828ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[設定]タブ([アナリシスメニュー]タブでは利用できません)
プロジェクトの選択	• ビジネス・ビュー • エンティティ	グラフに含めるプロジェクト。 グラフに含めるプロジェクトのリストを変更するには，[**プロジェクトの選択**]ボタンをクリックします。 **注：** エンティティ・グラフを使用する場合は，次のことを認識しておく必要があります。 • グラフにプロジェクトを追加したり，グラフからプロジェクトを削除したりするたびに，ALM によって[フィルタ]ダイアログ・ボックスのフィールドが更新され，[**X 軸**]，[**Y 軸**]，[**グループ分け**]の各ボックスのドロップダウン・リストが更新されます。リストには，選択されているすべてのプロジェクトで同一のフィールドしか表示されません。同一フィールドとは，フィールド名，ラベル，データ型が一致するフィールドです。フィールドのカスタマイズの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 • 利用できなくなったフィールドを使ってフィルタ条件を定義していた場合，その条件は削除されます。 • [**X 軸**]ボックス，[**Y 軸**]ボックス，[**グループ分け**]ボックスで，利用できなくなったフィールドを選択していた場合，ドロップダウン・リストの最初のフィールドが選択されます。 **利用可能な場所**：[設定]タブ([アナリシスメニュー]タブでは利用できません)

[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ

[表示]タブでは，アナリシス・ビュー・モジュールに保存されたグラフを表示し，グラフのデータを分析できます。

要件，ビジネス・コンポーネント，テスト計画，テスト・ラボ，不具合の各モジュールのグラフ・ウィンドウでは，モジュールでの作業中に，定義済みのグラフを表示してデータを分析できます。

アクセス方法	**[表示]タブ:** 次のいずれかを実行します。 • アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを選択し，[**表示**]タブをクリックします。 • 必要な管理者権限を持っている場合，アナリシス・ビュー・モジュールの[アナリシスメニュー]タブでグラフを選択し，[**表示**]タブをクリックします。 • 要件，テスト計画，テスト・ラボ，不具合，ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで，[**アナリシス**]＞[**最近の利用**]を選択して，グラフを選択します。 **グラフ・ウィンドウ:** 次のいずれかを実行します。 • 要件，テスト計画，テスト・ラボ，不具合，ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで，[**アナリシス**]＞[**グラフ**]を選択して，グラフの種類を選択します。 • アナリシス・ビュー・モジュールで，アナリシス・ツリーのプロジェクト・レポートを選択します。プロジェクト・レポートでセクション・ノードを選択し，[グラフ選択]領域で[**表示**]をクリックします。
関連タスク	• 「グラフを生成する方法」(796ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「[アナリシスビュー]ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
生成	**生成**：グラフを更新して最新情報を表示します。
	棒グラフ：サマリ，トレンド，経過の各グラフで，グラフ形式を棒グラフに切り替えます。
	円グラフ：サマリ・グラフで，グラフ形式を円グラフに切り替えます。 円グラフでは，X 軸のカテゴリが扇形のセグメントで表示されます。Y 軸の数量はセグメントの大きさで示されます。 **注：** 円グラフには[グループ分け]フィールドは表示されません。

UI 要素	説明
	線グラフ：進行状況グラフで，グラフ形式を線グラフに切り替えます。
	データ・グリッド：グラフのX軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリクスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される**合計**行が追加されています。すべてのグラフの種類で利用できます。
	合計値を表示/非表示：進行状況グラフで，他のすべてのグループ分けカテゴリの合計を表す **＜合計＞** カテゴリをグラフに表示するかどうかを指定します。 **ヒント：＜合計＞**カテゴリを表示した後，凡例でそのラベルをクリックすると，カテゴリが非表示になります。
	左へスクロール/右へスクロール：グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは，［ズームイン］ボタンまたは［ズームアウト］ボタンを使用している場合に有効になります。
	すべて表示：グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは，［ズームイン］ボタンまたは［ズームアウト］ボタンを使用している場合に有効になります。
	ズームイン/ズームアウト：グラフの表示倍率を変更します。
	グラフ画像の保存：棒グラフ，円グラフ，線グラフを表示しているときに，グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式を選択できます。 **グラフ・データの保存**：データ・グリッドを表示している場合に，グラフ・データを保存します。データは，Excel スプレッドシート，Word ファイル，HTML ドキュメント，またはテキスト・ファイルとして保存できます。
	グラフの外観を設定：［グラフ表示形式の設定］ダイアログ・ボックスが開き，グラフのタイトル，色，表示をカスタマイズできます。詳細については，「［グラフの外観］ダイアログ・ボックス」（830ページ）を参照してください。

UI 要素	説明
	グラフをクリップボードにコピー：次のオプションがあります。 • **グラフのコピー(カラー)**：グラフをカラーでクリップボードにコピーします。 • **グラフのコピー(モノクロ)**：グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー(カラー)**：グラフを全画面に合うように拡大して，カラーでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー(モノクロ)**：グラフを全画面に合うように拡大して，モノクロでクリップボードにコピーします。
	グラフの印刷：次のオプションがあります。 • **グラフの印刷(カラー)**：グラフをカラーで印刷します。標準設定では，このボタンが選択されています。 • **グラフの印刷(モノクロ)**：グラフをモノクロで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷(カラー)**：グラフとその説明をカラーで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷(モノクロ)**：グラフとその説明をモノクロで印刷します。

UI 要素	説明
	カテゴリの編集：[**X 軸**]フィールドと[**グループ分け**]フィールドの値をカテゴリにまとめることができます。次のオプションを利用できます。 • **X 軸のカテゴリの編集**：[X 軸のカテゴリの編集]ダイアログ・ボックスが開き，結合した X 軸の値を 1 つのカテゴリとしてグラフに表示できます。このオプションは，サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合にのみ利用できます。標準設定では，このボタンが選択されています。詳細については，「[＜タイプ＞ カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス」(829ページ) を参照してください。 • **X 軸カテゴリをリセット**：X 軸値の結合カテゴリを削除し，グラフ表示をリセットします。 • **カテゴリ別グループを編集**：[グループ化カテゴリの編集]ダイアログ・ボックスが開き，結合したグループ分けの値を 1 つのカテゴリとしてグラフに表示できます。詳細については，「[＜タイプ＞ カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス」(829ページ) を参照してください。 • **カテゴリ別グループをリセット**：グループ分け値の結合カテゴリを削除し，グラフ表示をリセットします。 詳細については，「[＜タイプ＞ カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス」(829ページ) を参照してください。
	全画面表示：新しいウィンドウでグラフを開き，グラフの表示を最大化します。 **注：** 全画面モードでは，ツールバーが表示されたままになります。 **ヒント：** 通常の表示に戻るには，ウィンドウの右上隅にある[**閉じる**]ボタンをクリックします。 **利用可能な場所**：[表示]タブ
アナリシス ツリーに追加	グラフ・ウィンドウで，[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開き，アナリシス・ビュー・モジュールのフォルダにグラフを保存できます。 **利用可能な場所**：グラフ・ウィンドウ

UI 要素	説明
<グラフ領域>	グラフ領域では次の動作を実行できます。 • 棒グラフまたは円グラフでは，データをさらに詳しく分析するため，グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。 • グラフの特定の領域を右クリックして色を変更できます。 • 棒または扇形の上にマウスを置くと，その領域のカテゴリ，X 軸，Y 軸の値を示すツールヒントが表示されます。
<グラフのタイトル>	グラフのタイトルをクリックすると，グラフのタイトルと外観を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[グラフの外観]ダイアログ・ボックス」(830ページ)を参照してください。
<凡例>	線グラフまたは棒グラフでは，グラフのカテゴリとそれに対応する色が表示されます。 凡例ボックスでは次の動作を実行できます。 • 進行状況グラフおよびトレンド・グラフでは，カテゴリのチェックボックスをクリックして，グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えることができます。 • カテゴリを右クリックして色を変更できます。

[設定]タブ - ダッシュボード・ページ

このタブでは，ダッシュボード・ページをデザインするために，ページに表示するグラフを選択して配列できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。 2. ダッシュボード・ツリーを展開し，ダッシュボード・ページを選択します。 3. [**設定**]タブをクリックします。
重要な情報	公開ダッシュボード・ページに含めることができるのは，共有グラフのみです。
関連タスク	• 「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「[アナリシス ビュー]ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<構成表示枠>	現在のダッシュボード・ページ用に選択されたグラフのプレースホルダを表示します。 ページ上でグラフを配列し直します。 • プレースホルダを新しい位置にドラッグします。 • プレースホルダを拡大または縮小します。 **注：**ダッシュボード・ページに表示できるグラフの最大数は，**DASHBOARD_PAGE_ITEM_LIMIT** サイト・パラメータによって制限されています。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
	展開：グラフのサイズを行全体に拡大します。 **縮小**：グラフのサイズを行の半分に縮小します。
	削除：ダッシュボード・ページからグラフを削除します。
＜グラフ・ツリー表示枠＞	この表示枠には，アナリシス・ツリー内のグラフが表示されます。 ツリーを展開して，グラフを構成表示枠にドラッグします。
	ダッシュボード・ページにグラフを追加：選択したグラフを設定表示枠に追加します。グラフを表すプレースホルダが次の空いている行に作成されます。
	エンティティの詳細を表示：選択したエンティティの[詳細]ダイアログ・ボックスが読み取り専用モードで開きます。
	モジュール・ツリーのエンティティに移動：選択したエンティティのモジュールのエンティティの場所に移動し，そのエンティティを強調表示します。
	更新：グラフ・ツリーを更新して最新情報を表示します。

[表示]タブ - ダッシュボード・ページ

このタブでは，ダッシュボード・ページを表示し，グラフのデータにドリルダウンできます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。 2. ダッシュボード・ツリーを展開し，ダッシュボード・ページを選択します。 3. [**表示**]タブをクリックします。

重要な情報	[表示]タブには，ダッシュボード・ページの2行分が表示されます。ダッシュボード・ページを上下にスクロールするには，垂直スクロール・バーを使用します。
関連タスク	• 「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	PDF にエクスポート：ダッシュボード・ページを PDF ファイルとして保存できます。
生成	**すべてのグラフをページに生成/グラフを生成**：ページ上のすべてのグラフまたは選択したグラフを更新し，最新情報を表示します。最終生成日の日時も更新します。
	ページを全画面で表示：ダッシュボード・ページを全画面モードで表示します。 **グラフを全画面で表示**：グラフを全画面モードで表示します。ツールバー・ボタンでは，グラフの表示の調整，グラフの保存，グラフの印刷を行うことができます。グラフの表示に対して行った調整は，グラフを再生成するとリセットされます。グラフの表示の詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ)を参照してください。 **ヒント：** 標準ビューに戻るには，ページの右上角にある[**閉じる**]ボタンをクリックします。
	アナリシス・ツリーのグラフに移動：アナリシス・ツリーで選択したグラフに移動し，グラフのデータを設定したり，グラフの表示設定を変更したりできるようにします。
<グラフ領域>	棒グラフまたは円グラフでは，グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。
<凡例>	棒グラフまたは円グラフでは，グラフのカテゴリとそれに対応する色が表示されます。

グラフ・ウィザード

このウィザードでは，アナリシス・ビュー・モジュールで新しいグラフを作成して設定できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • 要件，テスト計画，テスト・ラボ，不具合のいずれかのモジュールで，[**アナリシス**] > [**グラフ**] > [**グラフ ウィザード**]を選択します。 • ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択し，[**アナリシス**] > [**グラフ ウィザード**]を選択します。 • ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。アナリシス・ツリーを展開し，プロジェクト・レポートを選択します。プロジェクト・レポートでセクション・ノードを選択し，[グラフ選択]領域で[**新規**]をクリックします。
関連タスク	• 「グラフを生成する方法」(796ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネス ビューの選択]ページ」(820ページ) > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「[アナリシス ビュー]ウィンドウ」(780ページ)

[グラフの種類を選択]ページ

このウィザード・ページでは，作成するグラフの種類を選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) **利用可能な場所**：アナリシス・ビュー・モジュール
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネス ビューの選択]ページ」(820ページ) > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
グラフ・タイプ	作成するグラフの種類： **ビジネス・ビュー・グラフ**：プロジェクト・カスタマイズで定義するビジネス・ビューをベースにしています。ビジネス・ビュー・グラフの詳細については，「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ)を参照してください。 **エンティティ・グラフ**：特定のエンティティをベースにしています。利用できるグラフの種類は，選択するエンティティごとに異なります。

[ビジネス ビューの選択]ページ

このウィザード・ページでは，グラフのベースとなるビジネス・ビューを選択できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) • 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ)で[**ビジネス ビュー グラフ**]を選択した場合にのみ利用できます。
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > **「[ビジネス ビューの選択]ページ」(820ページ)** > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ビジネス・ビュー・ツリー	選択可能なビジネス・ビューが一覧表示されます。

[エンティティの種類を選択]ページ

このウィザード・ページでは，エンティティと種類を設定できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) • ウィザードがアナリシス・ビュー・モジュールから起動された場合，このページは「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ)で「**エンティティ・グラフ**」を選択した場合のみ利用可能になります。

ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネスビューの選択]ページ」(820ページ) > **「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ)** > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
エンティティ	グラフの対象となる ALM エンティティ。 **注：** アナリシス・ビュー・モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合のみ使用できます。
グラフ・タイプ	作成するグラフの種類。利用可能なグラフの種類は，グラフによって異なります。利用可能なグラフの種類については，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ) を参照してください。
説明	選択したエンティティ/グラフの種類の説明です。

[プロジェクトの選択]ページ

このウィザード・ページでは，グラフに含めるプロジェクトを選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) ALM のエディション：ALM Essentials Edition やQuality Center Enterprise Editionでは利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネスビューの選択]ページ」(820ページ) > (「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
現在のプロジェクトを使用	現在のプロジェクトだけをグラフに含めます。
選択したプロジェクトを使用	プロジェクト・グリッドに表示されているプロジェクトをグラフに含めます。プロジェクトの選択を変更するには，[**選択**]ボタンをクリックします。
選択...	[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックスが開き，プロジェクト・グリッド内のプロジェクトを変更できます。詳細については，「[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックス」(828ページ)を参照してください。

[テスト セット オプションを選択]ページ

このウィザード・ページでは，グラフに含めるテスト・セットを選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) **利用可能な場所**：テスト・ラボ・モジュール
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネスビューの選択]ページ」(820ページ)) > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
現在のテスト・セットを表示	現在のテスト・セットだけをグラフに含めます。
すべてのテスト・セットを表示する	すべてのテスト・セットをグラフに含めます。

[フィルタの選択]ページ

このウィザード・ページでは，グラフのデータに適用されるフィルタを設定できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) • グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合，フィルタに使用できるのは，選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。 ALM のエディション：Quality Center Enterprise Edition では，複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。 • **進行状況グラフまたはトレンド・グラフ**：[**グループ分け**]フィールドと同じフィールドにフィルタを設定すると，グラフのグループにフィルタで除外した値が含まれる可能性があります。これは，進行状況グラフとトレンド・グラフでは，フィルタが現在の値に作用するのに対して，グルーピングが過去の値に作用するからです。たとえば，不具合グラフの[**グループ分け**]フィールドが[**ステータス**]に設定されていて，現在のフィルタにステータスが「**修正中**」のすべての不具合が含まれているとします。ここで，グラフを生成すると，フィルタに「**却下**」が含まれていない場合でも，修正中の不具合の前のすべてのステータス(「**却下**」など) がグラフに表示されます。
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネスビューの選択]ページ」(820ページ) > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
現在のフィルタを使用	要件モジュール，テスト計画モジュール，テスト・ラボ・モジュール，または不具合モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合に利用可能です。データに適用されている現在のフィルタが使用されます。
フィルタを使用しない	選択したエンティティのすべてのレコードが含められます。
新規フィルタの定義	新しいフィルタまたはクロス・フィルタを定義できます。[**フィルタ**]ボタンをクリックして[フィルタ]ダイアログ・ボックスを開き，フィルタを定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ) を参照してください。

[グラフ属性の選択]ページ

このウィザード・ページでは，グラフの[**グループ化フィールド**]および[**X 軸フィールド**]属性を設定できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ)
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(819ページ) > 「[ビジネスビューの選択]ページ」(820ページ) > 「[エンティティの種類を選択]ページ」(820ページ) > 「[プロジェクトの選択]ページ」(821ページ) > (「[テスト セット オプションを選択]ページ」(822ページ)) > 「[フィルタの選択]ページ」(823ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(824ページ) > (「[カバレッジの選択]ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
グループ化フィールド	グラフでデータをグループ分けするために使用するフィールド。進行状況グラフおよびトレンド・グラフの場合，履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴の有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合，選択できるのは，選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。データをプロジェクトごとにグループ分けするには，[**QC プロジェクト**]値を選択します。 **進行状況グラフまたはトレンド・グラフ**：[**グループ分け**]フィールドと同じフィールドにフィルタを設定すると，グラフのグループにフィルタで除外した値が含まれる可能性があります。これは，進行状況グラフとトレンド・グラフでは，フィルタが現在の値に作用するのに対して，グルーピングが過去の値に作用するからです。たとえば，不具合グラフの[**グループ分け**]フィールドが[**ステータス**]に設定されていて，現在のフィルタにステータスが「**修正中**」のすべての不具合が含まれているとします。ここで，グラフを生成すると，フィルタに「**却下**」が含まれていない場合でも，修正中の不具合の前のすべてのステータス(「**却下**」など)がグラフに表示されます。 ALM のエディション：Quality Center Enterprise Edition では，複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

UI 要素	説明
X 軸フィールド	サマリ・グラフを作成する場合に，X 軸に使用するフィールドを表します。 グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合，選択できるのは，選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。X 軸にプロジェクトを表示するには，［**QC プロジェクト**］値を選択します。 ALM のエディション：Quality Center Enterprise Edition では，複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ) を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

［カバレッジの選択］ページ

このウィザード・ページでは，カバレッジのない要件を表示するかどうかを選択できます。

重要な情報	• このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「グラフ・ウィザード」(819ページ) • 要件カバレッジの詳細については，「要件とテスト・カバレッジの概要」(418ページ) を参照してください。 **利用可能な場所**：要件グラフ。
ウィザード・マップ	「グラフ・ウィザード」(819ページ) には次が含まれます。 「［グラフの種類を選択］ページ」(819ページ) > 「［ビジネスビューの選択］ページ」(820ページ) > 「［エンティティの種類を選択］ページ」(820ページ) > 「［プロジェクトの選択］ページ」(821ページ) > (「［テスト セット オプションを選択］ページ」(822ページ)) > 「［フィルタの選択］ページ」(823ページ) > 「［グラフ属性の選択］ページ」(824ページ) > (「［カバレッジの選択］ページ」(825ページ))

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
'カバーされない' 親を表示しない	ステータスが「カバーされない」の親要件はグラフに含めません。
'カバーされない' 親を表示する	すべての要件をグラフに含めます。

[新規グラフ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新規グラフをアナリシス・ツリーに追加できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. グラフを追加するフォルダを右クリックし，[**新規グラフ**]を選択します。
重要な情報	公開フォルダの下に作成したグラフは，所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したグラフは，すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	• 「グラフを生成する方法」(796ページ) • 「PPT グラフを生成する方法」(834ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ) • 「PPT グラフの概要 」(834ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
エンティティ	グラフの対象となる ALM エンティティ。 **注：**このフィールドは，グラフの種類がプロジェクトの計画と追跡 (PPT) の場合には利用できません。
グラフ・タイプ	作成するグラフの種類。詳細については，「エンティティ・グラフの種類」(801ページ) を参照してください。 **注：**このフィールドは，グラフの種類がプロジェクトの計画と追跡 (PPT) の場合には利用できません。
グラフの名前	アナリシス・ツリーに表示されるグラフの名前。標準設定では，グラフ名はグラフのタイトルとして使用されます。

[ビジネス ビューの選 択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，ビジネス・ビュー・グラフまたはビジネス・ビュー Excel レポートのベースとなるビジネス・ビューを選 択 できます。

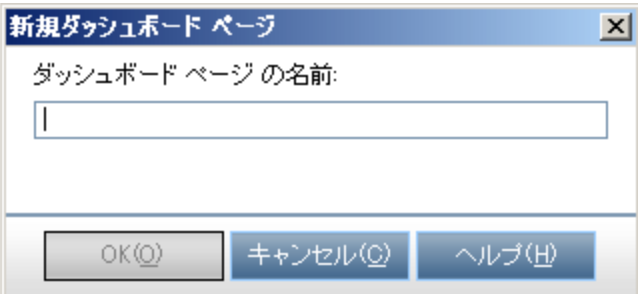
アクセス方 法	1. アナリシス・ビュー・モジュールでビジネス・ビュー・グラフを選 択 し，[**設 定**]タブをクリックしてから，[ビジネス ビュー]ボックスの横 の参 照 ボタンをクリックします。 2. HP ALM Business Views Microsoft Excel Add-in がインストールされている場 合 は，Excel の[HP ALM]タブで[**追 加**]または[**新 規 レポート**]をクリックします。
重 要 な 情 報	ALM からは，ビジネス・ビューを 1 つのみ選 択 できます。Excel では，SHIFT または CTRL キーを使 用して，ビジネス・ビューを複 数 選 択 できます。
関 連 タスク	• 「グラフを生 成 する方 法 」(796ページ) • 「PPT グラフを生 成 する方 法 」(834ページ) • 「ALM でデータを分 析 する方 法 」(778ページ)
参 照 情 報	• 「グラフおよびダッシュボード・ページの概 要 」(794ページ) • 「PPT グラフの概 要 」(834ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンド ウ」(780ページ)

次 にユーザ・インタフェース要 素 について説 明 します。

UI 要 素	説 明
フィルタ	ビジネス・ビューのフィルタ。たとえば，「不 具 合 」と入 力 すると，不 具 合 に関 連 するビジネス・ビューのみが表 示 されます。
説 明	選 択 したビジネス・ビューの説 明 。

[新 規 ダッシュボード ページ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新 規 ダッシュボード・ページをダッシュボード・ツリーに追 加 できます。



アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**ダッシュボード ビュー**]を選択します。 2. ページを追加するフォルダを右クリックし，[**新規ページ**]を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成したダッシュボード・ページは，所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したダッシュボード・ページは，すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを生成する方法」(800ページ)
参照情報	「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(794ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ダッシュボード・ページの名前	ダッシュボード・ツリーに表示されるダッシュボード・ページの名前。標準設定では，ダッシュボード・ページ名はダッシュボード・ページのタイトルとして表示されます。 **構文の例外**：ダッシュボード・ページ名は255文字を超えることができません。また，名前に次の文字は使用できません。\ ^ *

[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，クロス・プロジェクト・グラフに含めるプロジェクトを選択できます。

ALM のエディション：このダイアログ・ボックスはQuality Center Enterprise Editionでは利用できません。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」(140ページ)を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

アクセス方法	• **グラフ・ウィザードで**：[プロジェクトの選択]ダイアログ・ボックスに進み，[**選択**]ボタンをクリックします。 • **グラフの[設定]タブで**：[**プロジェクトの選択**]ボタンをクリックします。
重要な情報	• 選択できるプロジェクトは，ユーザとしてリストされているプロジェクトのみです。 • サイト・パラメータの **PROJECT_SELECTION_MAX_PROJECTS** を設定すれば，グラフに含めることが可能な最大プロジェクト数を変更できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(796ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロジェクトを除去	選択したプロジェクトをグリッドから削除します。 **注：** グリッド内のプロジェクトが1つだけの場合には削除できません。
ドメイン/プロジェクト	グラフに含めるように選択されたプロジェクトとそのドメインのリスト。
プロジェクト・ツリー	ユーザとしてリストされているドメインとプロジェクトのリスト。
	追加：選択したプロジェクトまたはドメインをグリッドに追加します。ドメインを選択した場合，ドメインのすべてのプロジェクトがグリッドに追加されます。 **ヒント：** プロジェクトまたはドメインをドラッグまたはダブルクリックしてグリッドに追加できます。

[＜タイプ＞カテゴリの編集]ダイアログ・ボックス

[グループ化カテゴリの編集]ダイアログ・ボックスでは，[**グループ分け**]フィールドで選択されたフィールドの値をグループ化し，結合したデータを1つのカテゴリとして表示できます。

[X軸カテゴリの編集]ダイアログ・ボックスでは，[**X軸**]フィールドで選択されたフィールドの値をグループ化し，結合したデータを1つのカテゴリとして表示できます。

アクセス方法	[表示]タブまたはグラフ・ウィンドウのツールバーで，[**カテゴリの編集**] をクリックします。
重要な情報	[X軸カテゴリの編集]ダイアログ・ボックスは，サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合にのみ利用できます。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(796ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
新規(N)	[新規カテゴリ]ダイアログ・ボックスが開き，新しいカテゴリを作成できます。 [**カテゴリ名**]ボックスに，カテゴリの名前を入力します。 カテゴリに含めるフィールド値を選択するには，フィールド値を選択し，矢印ボタン([＞]または[＜])をクリックして，[**利用可能なグループ**]と[**新規カテゴリにグループ化**]との間を移動させます。二重矢印ボタン(＞＞または＜＜)をクリックすると，リスト間ですべてのフィールド値を一度に移動できます。また，フィールド値をドラッグしてリスト間を移動させることもできます。1つのフィールド値を複数のカテゴリに含めることはできません。
編集(E)	[カテゴリを編集]ダイアログ・ボックスが開き，選択したカテゴリを編集できます。
削除(D)	選択したカテゴリを削除します。
すべてクリア(A)	すべてのカテゴリを削除します。
#	カテゴリの数。
名前	カテゴリの名前。
式	カテゴリに含まれる値。

[グラフの外観]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，グラフのタイトルと外観を変更できます。棒グラフの場合，棒の表示パラメータを指定できます。線グラフの場合，線の表示パラメータを指定できます。

アクセス方法	[表示]タブまたはグラフ・ウィンドウのツールバーで，[**グラフの外観を設定**]をクリックします。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(796ページ) 「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[タイトル]タブ	グラフ，Y 軸，または X 軸のタイトルを変更できます。 **フォント**：タイトルのフォントまたは色を変更できます。 **タイトルをリセット**：元のタイトルを復元できます。 **注：** 円グラフの場合，変更できるのはグラフのタイトルのみです。
[外観]タブ	グラフの標準形式の設定，グラフの下部にあるラベルの向きの修正（棒グラフおよび線グラフのみ），X 軸に表示される日付の形式の指定，3D エフェクトを使ったグラフの表示，グラフ内のさまざまなコンポーネントの色の変更を実行できます。
[バー パラメータ]タブ	棒グラフで，それぞれの棒について値を表示するかどうかを指定します。棒の幅を調整することもできます。棒ごとの値を表示する場合，表示されるデータや，棒に対して表示される位置を変更できます。
[線パラメータ]タブ	線グラフで，枠線を表示するかどうかを指定します。

[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，グラフの棒または扇形を構成するレコードを表示できます。

アクセス方法	グラフの棒または扇形をクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
<セグメント・パラメータ>	データ・グリッドの上にあり，選択したグラフ領域のパラメータと，表示されているレコードの数を示します。
<データ・グリッド>	選択したグラフ領域に含まれるレコードのリスト。 特定のレコードを開くには，レコードをダブルクリックします。[＜モジュール＞の詳細]ダイアログ・ボックスが開き，レコードを表示または編集できます。ナビゲーション・ボタンを使用して，ドリルダウン結果を参照します。

UI 要素	説明
	エクスポート：[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。レコードをテキスト・ファイル，Microsoft Excel ワークシート，Microsoft Word ドキュメント，または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 • **すべて**：グリッドのすべてのレコードをエクスポートします。 • **選択項目**：グリッド内で選択したレコードをエクスポートします。
	カラムの選択：[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き，データ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については，「[カラムの選択]/[フィールドの選択]ダイアログ・ボックス」(97ページ)を参照してください。

第42章: プロジェクトの計画と追跡(PPT)グラフ

本章の内容

PPTグラフの概要 834
PPTグラフを生成する方法 834
PPTグラフのユーザ・インタフェース 835

PPT グラフの概要

PPT を使用する場合，リリース・モジュールの KPI データに関連するグラフを，アナリシス・ビュー・モジュールで作成してカスタマイズできます。アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成する場合，データのフィルタ処理，さまざまな設定の変更，フォルダ内でのグラフの整理といった機能を利用できます。

グラフの表示中は，各バーまたはセグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成した後，複数のグラフを選択して配列し，**ダッシュボード・ページ**に並べて表示できます。

> ALM のエディション：PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

関連するタスクについては，「PPT グラフを生成する方法」（834ページ）および「ダッシュボード・ページを生成する方法」（800ページ）を参照してください。

PPT グラフを生成する方法

このタスクでは，ALM でグラフを使用して PPT データを生成する方法を説明します。

> ALM のエディション：PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」（834ページ）
- 「アナリシス・ビューでのグラフの作成」（834ページ）
- 「グラフの設定」（835ページ）
- 「グラフの表示」（835ページ）
- 「外部とのグラフの共有 ALM」（835ページ）
- 「ダッシュボード・ページの作成」（835ページ）

1. **前提条件**

   ［**管理**］の下で，［**リリース**］を選択します。リリース，リリース・スコープ・アイテム，マルストーン，KPI を定義します。タスクの詳細については，「PPT の使用方法」（172ページ）を参照してください。

2. **アナリシス・ビューでのグラフの作成**

   アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成します。

a. **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。

b. **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

c. **新規グラフを作成します。** フォルダを右クリックします。[**新規リリース アナリシス**]を選択し，PPT グラフを選択します。[新規グラフ]ダイアログ・ボックスが開きます。グラフ名を入力して[**OK**]をクリックします。

3. **グラフの設定**

   アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを選択し，[**設定**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[設定]タブ - PPT グラフ」（835ページ）を参照してください。

4. **グラフの表示**

   アナリシス・ツリーでグラフを選択し，[**表示**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - PPT グラフ」（838ページ）を参照してください。

5. **外部とのグラフの共有 ALM**

   ALM ユーザやその他の人が，グラフの読み取り専用版を ALM 外部で表示できるようにします。タスクの詳細については，「グラフを生成する方法」（796ページ）を参照してください。

6. **ダッシュボード・ページの作成**

   いくつかのグラフをダッシュボード・ページにまとめて表示できます。タスクの詳細については，「ダッシュボード・ページを生成する方法」（800ページ）を参照してください。

PPT グラフのユーザ・インタフェース

本項の内容

[設定]タブ - PPT グラフ 835
[表示]タブ - PPT グラフ 838

[設定]タブ - PPT グラフ

このタブでは，グラフに表示するプロジェクトの計画と追跡（PPT）データを選択し，グラフの表示オプションを設定できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，PPT グラフを選択します。 3. [**設定**]タブをクリックします。

重要な情報	• 利用可能な設定オプションは，グラフの種類によって異なります。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「PPT グラフを生成する方法」（834ページ） • 「ALM でデータを分析する方法」（778ページ）
参照情報	• 「PPT グラフの概要 」（834ページ） • 「PPT リリースの概要」（172ページ） • 「［アナリシス ビュー］ウィンドウ」（780ページ）

KPI グラフの設定

重要な情報	グラフによっては一部のフィールドは利用できません。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
集計関数	データを時間分解能でグループ化するために使用される集計関数。使用できる値は，［**最後**］，［**平均**］，［**最大**］，［**最小**］です。
内訳	グラフ・データのグループ分けの基準にする情報を特定するフィールドを選択します。
次の日付までのデータ更新	選択した日付に基づいてデータ結果を表示します。
KPI	KPI の名前。
マイルストーン	マイルストーンの名前。
期間	データを表示する期間。
リリース	リリース名。
粒度	データの時間分解能。使用できる値は，［**日**］，［**週**］，［**月**］，［**年**］，［**自動選択**］（サーバが最適な時間分解能を決定）です。
スコープ・アイテム	スコープ・アイテム名。
最終結果を表示	最終実行日付に基づいてデータ結果を表示します。

スコアカード・グラフの設定

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	スコアカード・レイアウトに表示される行またはカラムの名前の順序を設定します。
	フィールドの選択を[**行**]と[**カラム**]の間で切り替えます。
	フィルタ/ソートの設定：選択した条件に基づいて，[**マイルストーン**]，[**スコープ アイテム**]，または[**KPI**]データの絞り込みとソートを実行できます。フィルタ処理の詳細については，「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(68ページ)を参照してください。
	フィルタのクリア：定義したフィルタをクリアします。
	標準設定のフィルタ定義を復元します。
カラム	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムのリストが表示されます。
次の日付までのデータ更新	選択した日付に基づいてデータ結果を表示します。
計画 KPI 目標値を表示	各 KPI に対する許容しきい値をスコアカード・テーブルの[**計画**]カラムに表示します。 **注**：[**計画**]カラムは，このオプションが有効になっている場合のみ表示されます。
フィールド別にスコープ・アイテムをグループ化	指定したスコープ・アイテム・フィールドに従ってグループ分けを行います。
リリース	リリース名。
行	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムの行が表示されます。
最終結果を表示	最終実行日付に基づいてデータ結果を表示します。

［表示］タブ - PPT グラフ

このタブでは，プロジェクトの計画と追跡（PPT）グラフを表示できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの［**ダッシュボード**］の下で，［**アナリシス ビュー**］を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，PPT グラフを選択します。 3. ［**表示**］タブをクリックします。
重要な情報	• 利用可能な表示オプションは，グラフの種類によって異なります。 ALM のエディション：PPT に関連する機能は，ALM Edition でのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細については，「エディションごとの ALM の機能」（140ページ）を参照してください。使用している ALM のエディションを調べるには，ALM サイト管理者に問い合わせてください。
関連タスク	• 「PPT グラフを生成する方法」（834ページ） • 「ALM でデータを分析する方法」（778ページ）
参照情報	• 「PPT グラフの概要」（834ページ） • 「PPT リリースの概要」（172ページ） • 「［アナリシス ビュー］ウィンドウ」（780ページ）

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
生成	**生成**：グラフを更新して最新情報を表示します。
	棒グラフ：グラフ形式を棒グラフに切り替えます。
	円グラフ：グラフ形式を円グラフに切り替えます。 円グラフでは，X 軸のカテゴリが扇形のセグメントで表示されます。Y 軸の数量はセグメントの大きさで示されます。 **注：** 円グラフには［グループ分け］フィールドは表示されません。
	線グラフ：グラフ形式を線グラフに切り替えます。

UI 要素	説明
	データ・グリッド：グラフのX軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリクスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される**合計**行が追加されています。
	合計値を表示/非表示：ほかの[グループ分け]カテゴリすべての合計を表す**＜合計＞**カテゴリのグラフへの表示/非表示を切り替えます。 **ヒント：＜合計＞**カテゴリを表示した後，凡例でそのラベルをクリックすると，カテゴリが非表示になります。
	左へスクロール/右へスクロール：グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは，[ズームイン]ボタンまたは[ズームアウト]ボタンを使用している場合に有効になります。
	すべて表示：グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは，[ズームイン]ボタンまたは[ズームアウト]ボタンを使用している場合に有効になります。
	ズームイン/ズームアウト：グラフの表示倍率を変更します。
	グラフ画像の保存：グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式を選択できます。 **グラフ・データの保存**：データ・グリッドを表示している場合に，グラフ・データを保存します。データは，Excel スプレッドシート，Word ファイル，HTML ドキュメント，またはテキスト・ファイルとして保存できます。
	グラフの外観を設定：[グラフ表示形式の設定]ダイアログ・ボックスが開き，グラフのタイトル，色，表示をカスタマイズできます。詳細については，「[グラフの外観]ダイアログ・ボックス」（830ページ）を参照してください。
	グラフをクリップボードにコピー：次のオプションがあります。 • **グラフのコピー（カラー）**：グラフをカラーでクリップボードにコピーします。 • **グラフのコピー（モノクロ）**：グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー（カラー）**：グラフを全画面に合うように拡大して，カラーでクリップボードにコピーします。 • **全画面表示グラフのコピー（モノクロ）**：グラフを全画面に合うように拡大して，モノクロでクリップボードにコピーします。

UI 要素	説明
	グラフの印刷：次のオプションがあります。 • **グラフの印刷（カラー）**：グラフをカラーで印刷します。標準設定では，このボタンが選択されています。 • **グラフの印刷（モノクロ）**：グラフをモノクロで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷（カラー）**：グラフとその説明をカラーで印刷します。 • **グラフと詳細の印刷（モノクロ）**：グラフとその説明をモノクロで印刷します。
	全画面表示：新しいウィンドウでグラフを開き，グラフの表示を最大化します。 **注：** 全画面モードでは，ツールバーが表示されたままになります。 **ヒント：** 通常の表示に戻るには，ウィンドウの右上隅にある［**閉じる**］ボタンをクリックします。
<グラフ領域>	グラフ領域では次の動作を実行できます。 • グラフのセグメント上にマウス・カーソルを合わせると，追加情報を含むヒントが表示されます。 • ［**経過時間ごとのブレークダウン**］リンクをクリックすると，グラフのデータにドリルダウンして，期間内の特定の点を表示できます。経過時間ごとのブレークダウン・グラフが表示されます。詳細については，「経過時間ごとのブレークダウン・グラフ」（200ページ）を参照してください。 **利用可能な場所**：［表示］タブ - KPI 内訳
<KPI セル>	KPI セルでは次の動作を実行できます。 • KPI セルをクリックして，このセルを表現したグラフを表示できます。詳細については，「KPI ドリルダウン・グラフ」（197ページ）を参照してください。 • KPI セルの上にマウスを置くと，KPI のしきい値を示すツールヒントが表示されます。 **利用可能な場所**：［表示］タブ - リリース・スコアカード
<凡例>	グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。カテゴリをクリックして，グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えます。

第43章: プロジェクト・レポート

本章の内容

プロジェクト・レポートの概要 842
プロジェクト・レポートを作成する方法 842
カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法 845
定義済みのプロジェクト・レポート 846
プロジェクト・レポートのユーザ・インタフェース 851

プロジェクト・レポートの概要

プロジェクト・レポートでは，HP Application Lifecycle Management(ALM)プロジェクトからの情報を含む包括的なレポートをデザインして生成できます。

プロジェクト・レポートでは，セクションとサブセクションを定義し，それぞれのセクションでALMエンティティのレコードを一覧表示します。選択したベースラインのデータを表示するように選択できます。

レポート・セクションには，フィールドとレイアウトを決定するテンプレートを適用します。また，レポート全体の外観を決定するドキュメント・テンプレートとスタイル・テンプレートも適用します。

> **注：**レポート・テンプレートは，プロジェクトのカスタマイズで管理します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト・レポートは，HTML，Microsoft Word，PDF形式で生成できます。

プロジェクト・レポートの作成の詳細については，「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)を参照してください。

プロジェクト・レポートを作成する方法

このタスクでは，プロジェクト・レポートを作成する方法を示します。

プロジェクト・レポートの詳細については，「プロジェクト・レポートの概要」(842ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「プロジェクト・レポートの作成」(842ページ)
- 「セクションの定義」(843ページ)
- 「ドキュメント・レベル設定の定義」(843ページ)
- 「セクションの設定」(844ページ)
- 「テンプレート・レポートのプレビュー」(844ページ)
- 「テンプレート・レポートの生成」(844ページ)
- 「ALMの外部でのレポートの共有」(845ページ)

1. **プロジェクト・レポートの作成**
   a. **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALMサイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。
   b. **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。**非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

c. **新規プロジェクト・レポートを作成します。**フォルダを右クリックし，［**新規プロジェクト レポート**］を選択します。［新規プロジェクト レポート］ダイアログ・ボックスに入力します。

2. **セクションの定義**

a. **プロジェクト・レポートを選択します。**アナリシス・ビュー・モジュールでプロジェクト・レポートを選択し，［**設定**］タブをクリックします。

b. **セクションを追加します。**［**ドキュメント**］ルート・ノードを右クリックし，［**レポート セクションの追加**］を選択します。レポートに含める ALM エンティティを選択します。

c. **サブセクションを追加します。**関連情報のサブセクションを追加できます。たとえば，要件にリンクされた不具合のサブセクションや，不具合の添付ファイルのサブセクションを追加できます。

各セクションには複数のサブセクションを含めることができ，必要な場合はサブセクションの下にサブセクションを追加することもできます。

レポート・ツリーでセクションを右クリックし，［**レポート セクションの追加**］を選択します。

> **注：**サブセクションを追加できるのは，フルページ・テンプレートを割り当てたセクションに対してだけです。フルページ・テンプレートの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

3. **ドキュメント・レベル設定の定義**

［**ドキュメント**］ルート・レベルでは，テンプレートを割り当て，プロジェクト・レポートのデザインと内容全体に適用される設定を定義します。

a. ［設定］タブで，［**ドキュメント**］ルート・ノードを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［設定］タブ - プロジェクト・レポート」(851ページ)を参照してください。

b. ドキュメントの出力書式を設定します。

c. ドキュメント，スタイル，履歴の各テンプレートを割り当てるか，標準のテンプレートをそのまま使用します。テンプレート・タイプの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

d. ［**ドキュメント フィールド値の編集**］をクリックして，ドキュメント・テンプレートに定義されている，タイトル・ページ，ヘッダとフッタといったエリアに，カスタム・フィールドの値を入力します。

e. ベースライン・レポートを作成するには，［**ベースラインを選択**］を選択し，ベースラインを選択します。

ベースライン・レポートを作成するには，すべてのレポート・セクションがベースラインをサポートしている必要があります。

f. ［**テキストと画像添付ファイルを組み込む**］を選択すると，テキストと画像の添付ファイルがレ

ポートに埋め込まれます。

添付ファイルを表示するには，添付ファイルのサブセクションをレポートに追加する必要があります。

> **注：** このオプションを選択しない場合，テキストと画像の添付ファイルへのリンクがレポートに挿入されます。このリンクを使用すると，ファイルが別ウィンドウで開きます。ALMには，最新のバージョンの添付ファイルが表示されます。これらのファイルがレポートの最初の生成時以降に変更されている場合，表示される情報はレポートに含まれているその他の情報と矛盾する可能性があります。

g. ［**コンテンツの表を自動更新**］を選択すると，レポート出力の目次エントリがALMによって更新されます。

目次を表示するには，ドキュメント・テンプレートに［**TOC**］フィールドが含まれる必要があります。

4. **セクションの設定**

a. ［設定］タブで，レポート・ツリー内のセクションまたはサブセクションを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［設定］タブ - プロジェクト・レポート」(851ページ)を参照してください。

b. 必要に応じて，セクションのタイトルを変更します。

c. プロジェクト・テンプレートを割り当てるか，標準設定のテンプレートをそのまま使用します。

> **注：** ユーザ・グループの権限によっては，カスタム・テンプレートを割り当てられる場合もあります。カスタム・テンプレートの作成の詳細については，「カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法」(845ページ)を参照してください。

d. 該当する場合，データ・フィルタを定義して，セクションに含めるレコードを定義します。

e. 階層的に表示されるエンティティ(要件，テストなど)がトップレベル・セクションに含まれる場合は，レコードをレポート内で階層的に配列するかどうかを選択します。

f. 既存のグラフをレポートに追加するか，レポートで直接新しいグラフを作成します。

5. **テンプレート・レポートのプレビュー**

［**プレビュー**］をクリックして，レポートのプレビューを表示します。

プレビューには，レポートの各セクションのレコードが5個まで表示されます。プレビューは，［**ドキュメント**］ルート・ノードで選択した出力フォーマットで表示されます。

6. **テンプレート・レポートの生成**

［**生成**］をクリックします。レポート生成プロセスが開始されます。

レポート生成が完了すると，[**ドキュメント**]ルート・ノードで選択した出力フォーマットで表示されます。

レポートはクライアント・マシンの次のディレクトリに保存されます。

%Temp%\TD_80\＜ALM のパス＞\＜プロジェクト ID＞\Reports

＜プロジェクト ID＞ は ALM プロジェクトを表す文字列です。

7. **ALM の外部でのレポートの共有**

   ALM ユーザやその他の人が，レポートの読み取り専用版を ALM 外部で表示できるようにします。

   a. アナリシス・ツリーでレポートを右クリックし，[**アナリシス項目の共有**]を選択します。

   b. [アナリシス項目の共有]ダイアログ・ボックスで，共有オプションを選択します。詳細については，「[アナリシス項目の共有]ダイアログ・ボックス」(792ページ)を参照してください。

      選択したレポートの URL がクリップボードにコピーされます。

   c. URL を Web サイトまたは電子メールに貼り付けます。

   d. URL をクリックすると，レポートの読み取り専用版が Web ブラウザで開きますレポートにアクセスするたびに，設定した間隔後に最新の情報が表示されます。

      > **注：**レポート・データの更新頻度を変更するには，**REPORT_RESULTS_LIFESPAN** サイト設定パラメータを追加して設定します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

      利用可能な場所：アナリシス・ビュー・モジュール

カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法

このタスクでは，個人用のカスタム・テンプレートを作成する方法を説明します。ユーザ・グループの権限によっては，カスタム・テンプレートをレポートのセクションとサブセクションに割り当てられる場合もあります。

- 「既存のレポート・テンプレートのコピーの作成」(845ページ)
- 「新規カスタム・レポート・テンプレートの作成」(846ページ)

既存のレポート・テンプレートのコピーの作成

1. レポート・ツリーでレポート・セクションを選択し，変更するプロジェクトまたはカスタム・テンプレートの隣の[**テンプレートのダウンロード**]ボタンをクリックします。テンプレートのコピーがコンピュータのファイル・システムに保存され，Microsoft Word で開かれます。

2. ［テンプレート クリエータ］タブのコマンドを使用して，Microsoft Word でテンプレートを変更します。［テンプレート クリエータ］タブの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

3. テンプレート・ファイルを保存して閉じます。

4. 新しいカスタム・テンプレートをレポート・セクションに割り当てるには，レポート・セクションを選択します。次に，［**カスタム テンプレート**］を選択するか，［**カスタム テンプレートのアップロード** ］をクリックし，テンプレート・ファイルを選択します。

新規カスタム・レポート・テンプレートの作成

1. レポート・ツリーで，カスタム・テンプレートを作成するレポート・セクションを選択します。

2. **［テンプレート クリエータ］**をクリックします。Microsoft Word が開き，［**テンプレート クリエータ**］タブが表示されます。選択したレポート・セクションに対する新しいテンプレート・ファイルをデザインします。［テンプレート クリエータ］タブの使用の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

3. テンプレート・ファイルを保存して閉じます。

4. 新しいカスタム・テンプレートをレポート・セクションに割り当てるには，レポート・セクションを選択します。次に，［**カスタム テンプレート**］を選択するか，［**カスタム テンプレートのアップロード** ］をクリックし，テンプレート・ファイルを選択します。

定義済みのプロジェクト・レポート

要件，テスト計画，テスト・ラボ，不具合，ビジネス・コンポーネントの各モジュールでは，次の定義済みレポートが利用できます。

注：

- 必要な管理者権限があれば，アナリシス・ビュー・モジュールの［アナリシス メニュー］タブで定義済みレポートを設定できます。また，レポートの追加または定義済みレポートの削除も可能です。

- 標準設定では，定義済みプロジェクト・レポートにはフィルタ情報が表示されません。フィルタ情報を表示するには，［**セクション フィルタ**］フィールドを含めるように現在のテンプレートを編集するか，このフィールドを含めるレポートのテンプレートを新規に作成します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

本項の内容

- 「要件モジュールのレポート」(847ページ)

- 「テスト計画モジュールのレポート」(847ページ)

- 「テスト・ラボ・モジュールのレポート」(848ページ)
- 「不具合モジュールのレポート」(849ページ)
- 「ビジネス・コンポーネント・モジュールのレポート」(850ページ)

要件モジュールのレポート

要件モジュールでは，次のレポートを利用できます。

レポート	説明
標準要件レポート	現在の要件ビューに表示される要件が一覧表示されます。
表レポート	現在の要件ビューに表示される要件がグリッド形式で表示されます。 **注：** 表レポートには，子要件の階層とネストが表示されません。
要件とカバレッジ・テスト	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
要件とカバレッジテストとステップ	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。また，各テスト・カバレッジのテスト・ステップも表示されます。
要件とリンクされた不具合	現在の要件ビューに表示される要件が，リンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。
要件とトレーサビリティ	現在の要件ビューに表示される要件が，関連付けられている，追跡を終了する要件および追跡を開始する要件と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	要件ツリーまたはグリッドで現在選択されている要件が一覧表示されます。
選択項目のレポート (子を含める)	要件ツリーまたはグリッドで現在選択されている要件が，子要件を含めて一覧表示されます。

テスト計画モジュールのレポート

テスト計画モジュールでは，次のレポートを利用できます。

レポート	説明
標準テスト計画レポート	現在のテスト計画ビューのテストが一覧表示されます。
サブジェクト・ツリー・レポート	現在のテスト計画ビューのテストがサブジェクトごとに一覧表示されます。

レポート	説明
テストとデザイン・ステップ	デザイン・ステップも含め，現在のテスト計画ビューに表示されるテストが一覧表示されます。
テストとカバー済み要件	現在のテスト計画ビューに表示されるテストが要件カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
テストとリンクされた不具合	現在のテスト計画ビューに表示されるテストがリンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	テスト計画ツリーまたはグリッドで現在選択されているテストが一覧表示されます。
ビジネス・プロセス・テストとコンポーネント・ステップ	選択されたビジネス・プロセス・テスト内のすべてのフロー，グループ，反復，コンポーネントおよび手動ステップの関連パラメータの値が一覧表示されます。このレポートは次の用途に使用できます。 • プリントアウトからプリントアウトから手動でビジネス・プロセス・テストを実行できます。 • 監査のための詳細なレポートとして使用します。
ビジネス・プロセス・テストとコンポーネント・ステップおよびコンポーネントの詳細	コンポーネントの詳細とスナップショットを含む，選択されたビジネス・プロセス・テスト内のすべてのフロー，グループ，反復，コンポーネントおよび手動ステップの関連パラメータの値が一覧表示されます。このレポートは次の用途に使用できます。 • プリントアウトからプリントアウトから手動でビジネス・プロセス・テストを実行できます。 • 監査のための詳細なレポートとして使用します。
ビジネス・プロセス・テストとスクリプト	現在 ALM プロジェクトにあるすべてのビジネス・プロセス・テストとフロー(一部の詳細フィールド，テストまたはフローの説明，各テストまたはフローに含まれているコンポーネントなど) が一覧表示されます。このレポートには，グループ，反復，［**失敗時**］ステータス，ビジネス・プロセス・テスト内のフローのコンテンツに関する情報も含まれています。

テスト・ラボ・モジュールのレポート

テスト・ラボ・モジュールでは，次のレポートを利用できます。

テスト・セット・レポート

レポート	説明
現在のテスト・セット	現在のテスト・セットに表示されるテストが一覧表示されます。
クロス・テスト・セット	［テスト セット］リストに表示されるテスト・セットが，テストを除いて一覧表示されます。

レポート	説明
テスト・セット階層とテスト	テスト・セットの階層と各テスト・セットのステータスが一覧表示されます。
クロス・テスト・セットとテスト	［テスト セット］リストに表示されるテスト・セットが，テストを含め一覧表示されます。
現在のテスト・セットと失敗したテスト実行	現在のテスト・セットから，テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
クロス・テスト・セットと失敗したテスト実行	すべてのテスト・セットから，テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
実行通知	現在のテスト・セットに表示されているテストが，前回のテスト実行時の結果と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	実行グリッドで現在選択されているテスト・インスタンスの実行レポートを表示します。

テスト実行レポート

レポート	説明
クロス実行	［テスト実行］モジュールの現在のフィルタに一致する実行が一覧表示されます。
クロス実行とステップ	［テスト実行］モジュールの現在のフィルタに一致する実行が実行ステップとともに一覧表示されます。
テストごとの実行	［テスト実行］モジュールの実行がそれぞれのテストの下に一覧表示されます。
テスト・セットごとの実行	［テスト実行］モジュール内の実行が，それぞれのテスト・セットおよびテストの下に一覧表示されます。
選択項目のレポート	［テスト実行］モジュールで現在選択されているテスト実行の実行レポートを表示します。

不具合モジュールのレポート

不具合モジュールでは，次のレポートを利用できます。

レポート	説明
標準不具合レポート	不具合グリッドに表示される不具合が一覧表示されます。
表レポート	不具合グリッドの不具合がグリッド形式で表示されます。 **注：**表レポートには，不具合の説明とコメントが表示されません。

レポート	説明
不具合とリンクされたテスト実行	リンクされているテストおよびテスト実行結果と一緒に不具合が一覧表示されます。
修正済みまたは却下の不具合	「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザが検出した修正済みまたは却下の不具合	現在のユーザによって検出され，「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザに割り当てられた開始不具合	現在のユーザに割り当てられていて，「修正中」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
選択項目のレポート	不具合グリッドで現在選択されている不具合が一覧表示されます。

ビジネス・コンポーネント・モジュールのレポート

ビジネス・コンポーネント・モジュールでは，次のレポートを利用できます。

レポート	説明
標準コンポーネント・レポート	現在 ALM プロジェクトにあるすべてのコンポーネント（すべての詳細フィールド，コンポーネントの説明，履歴，スナップショットを含むかどうかなど）が一覧表示されます。
コンポーネント階層レポート	現在 ALM プロジェクトにあるコンポーネント（すべての詳細フィールド，コンポーネントの説明など）が一覧表示されます。古いコンポーネントとコンポーネント・リクエストは，このレポートには表示されません。
コンポーネントとステップ	現在 ALM プロジェクトにあるすべてのコンポーネント（一部の詳細フィールド，コンポーネントの説明，各コンポーネントのステップなど）が一覧表示されます。
コンポーネントと使用元	現在 ALM プロジェクトにあるすべてのコンポーネント（一部の詳細フィールド，コンポーネントの説明，各コンポーネントを使用するビジネス・プロセス・テストとフローなど）が一覧表示されます。
コンポーネントとアプリケーション領域	現在 ALM プロジェクトにあるすべてのコンポーネント（一部の詳細フィールド，コンポーネントの説明，各コンポーネントが使用するアプリケーション領域（存在する場合）など）が一覧表示されます。
選択項目のレポート	ツリー内で現在選択されているコンポーネントをリストします。

プロジェクト・レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

[設定]タブ - プロジェクト・レポート 851
[新規プロジェクト レポート]ダイアログ・ボックス 859
[レポート セクションの追加]ダイアログ・ボックス 859
[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集]ダイアログ・ボックス 860

[設定]タブ - プロジェクト・レポート

このタブでは，ドキュメント・レベルの設定を定義し，レポート・セクションを設定できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。 • アナリシス・ビュー・モジュールでプロジェクト・レポートを選択し，[**設定**]タブをクリックします。 • 必要な管理者権限を持っている場合，アナリシス・ビュー・モジュールの[アナリシス メニュー]タブでプロジェクト・レポートを選択し，[**設定**]タブをクリックします。
重要な情報	利用可能な設定オプションは，レポート・ツリーで選択されているセクションによって異なります。
関連タスク	• 「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「プロジェクト・レポートの概要」(842ページ) • 「[アナリシス ビュー]ウィンドウ」(780ページ)

[設定]タブ共通要素

次にユーザ・インタフェース要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	レポート・セクションの追加：[レポート セクションの追加]ダイアログ・ボックスが開き，レポートにセクションを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[レポート セクションの追加]ダイアログ・ボックス」を参照してください。 **注：** • サブセクションを追加できるのは，フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。 • 必要な場合，サブセクションの下にさらにサブセクションの階層を追加することもできます。 • 各レベルに複数のサブセクションを含めることができます。
	レポート・セクションの削除：選択したセクションを削除します。 **注：**セクションを削除すると，そのサブセクションもすべて削除されます。
	上に移動/下に移動：プロジェクト・レポートの中で，選択したレポートを上または下に移動できます。 **注：**選択したセクションは同じレベルのセクションから相対的に移動します。
	各レポート・セクションの最初の5個のレコードを含むレポートのプレビューを生成します。 プレビューは選択したレポート出力フォーマットで生成されます。
	選択したレポート出力フォーマットでレポートを生成します。

UI 要素	説明
テンプレート クリエータ	Microsoft Word が開いて[テンプレート クリエータ]タブが表示され，カスタム・テンプレート・ファイルをデザインできます。 カスタム・テンプレートを作成した後，[**カスタム テンプレート**]フィールドでレポートセクションに割り当てます。 **注 :** テンプレート・クリエータを有効にするには，Microsoft Word でマクロを利用可能にしておく必要があります。Word で **Office ボタン**をクリックしてから[**Word のオプション**]をクリックします。[**セキュリティ センター**] > [**セキュリティ センターの設定**] > [**マクロの設定**]を選択します。[**すべてのマクロを有効にする**]を選択します。
Zip でダウンロード	レポートをコンピュータにローカルに **.zip** ファイルとしてダウンロードできます。このファイルには，レポートに含まれるすべての添付ファイルが含まれています。 **注 :** HTML 形式のレポートの場合，開く前に圧縮されたフォルダからすべてのファイルを抽出する必要があります。 **ヒント :** この形式は，レポートを ALM にアクセスできないユーザに電子メールで送信する場合に使用する必要があります。
<レポート・セクション・ツリー>	レポートに含まれるセクションとサブセクションを表示します。[**ドキュメント**]ルート・ノードには，レポート全体のデザインと内容に適用される設定が含まれます。

[ドキュメント出力オプション]領域

レポートが生成されるファイル形式を定義できます。

重要な情報	• **利用可能な場所** :ドキュメント・ルート・ノード • [アナリシス メニュー]タブで，このオプションは無効になっていて，[**HTML**]に設定されています。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
HTML	Web ブラウザでレポートを表示する場合。
Docx	Microsoft Word 2007 以降でレポートを表示する場合。
Doc	Microsoft Word 2003 でレポートを表示する場合。
PDF	PDF でレポートを表示する場合。

[ドキュメント テンプレート]領域

重要な情報	利用可能な場所：ドキュメント・ルート・ノード

レポートにどのテンプレートを割り当てるかを定義できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ドキュメント・テンプレート	タイトル・ページ，ヘッダとフッタ，ページの向き，その他のドキュメント・レイアウトに関するフィールドを定義します。
スタイル・テンプレート	Microsoft Word のスタイルに適用されるフォーマット(表，見出し，段落など)を定義します。スタイル・テンプレートのスタイルは，レポート・セクションで使用されたテンプレートに定義されているスタイルに代わって使用されます。
履歴テンプレート	レポート・セクションで履歴情報を表示するときのスタイルを定義します。
テンプレートなし	テンプレートなしでレポート・セクションを生成し，そのサブセクションを直ちにレンダリングします。 このオプションは，親セクションをサブセクションにリンクする場合に役立ちます。 たとえば，レポートに**要件**セクションと**カバレッジ・テスト**・セクションが含まれている場合，[**テンプレートなし**]オプションを使用するそれらのセクションの間に**要件カバレッジ**・セクションを追加できます。レポートが生成されると，中間セクションなしでテストのカバレッジ要件の下にテストがすぐに表示されます。
	ドキュメント・フィールド値の編集：[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集]ダイアログ・ボックスが開き，ドキュメント・テンプレートに定義されている，タイトル・ページ，ヘッダとフッタといったエリアのフィールドに，値を入力できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集]ダイアログ・ボックス」(860ページ)を参照してください。

[ドキュメント追加オプション]領域

重要な情報	利用可能な場所：ドキュメント・ルート・ノード

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
コンテンツの表を自動更新	レポート出力の目次エントリを ALM に更新させます。 **注：** • 目次を表示するには，ドキュメント・テンプレートに［TOC］フィールドが含まれる必要があります。 • このオプションを選択せずに，［Doc］または［Docx］出力フォーマットを選択した場合，レポートを生成した後で Microsoft Word で手動で目次を更新できます。
テキストと画像添付ファイルを組み込む	プレーン・テキストと画像の添付ファイルをレポートに埋め込みます。 その他の種類の添付ファイル(ドキュメントやビデオなど) は，常にリンクで表示されます。 **注：** • 添付ファイルを表示するには，添付ファイルのサブセクションをレポートに追加する必要があります。 • このオプションを選択しない場合，プレーン・テキストと画像の添付ファイルへのリンクがレポートに挿入されます。このリンクを使用すると，ファイルが別ウィンドウで開きます。 • リンクにアクセスするには，REST API を使用します。公開の REST URL を使用してレポートを生成していない限り，REST API の使用には，REST 認証が必要になります。 • ALM には，最新のバージョンの添付ファイルが表示されます。これらのファイルがレポートの最初の生成時以降に変更されている場合，表示される情報はレポートに含まれているその他の情報と矛盾する可能性があります。

UI 要素	説明
ベースラインを選択	このオプションを選択すると，選択したベースライン・データのレポートが生成されます。 このオプションをクリアすると，現在のデータがレポートに記載されます。 **注：** • ベースライン・レポートを作成できるのは，レポートのすべてのセクションとサブセクションがベースラインをサポートする場合だけです。 • このオプションを選択すると，グラフをレポートに追加する機能が無効になります。 • このオプションは，［アナリシス メニュー］タブでは無効になっています。

［レポート セクションの詳細］領域

重要な情報	**利用可能な場所**：セクション・ノード

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	レポートのセクション・タイトルの名前。
エンティティ	セクションに含まれる ALM エンティティ。
関係タイプ	選択したセクションのエンティティと親セクションのエンティティとの間の関係を記述します。

［テンプレートの詳細］領域

現在選択されているレポート・セクションに割り当てるテンプレートを定義できます。テンプレートはフルページまたは表のレイアウトのどちらかです。サブセクションを追加できるのは，フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。レポート・テンプレートの詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

［フィルタ］領域

重要な情報	**利用可能な場所**：セクション・ノード

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
フィルタ状態	特定のモジュールの[アナリシス]メニューから生成されるレポートのフィルタ条件を設定できます。 • **カスタム**：[アナリシス メニュー]タブでカスタマイズされたフィルタを定義できます。 • **特殊フィルタ**：次の定義済みフィルタ処理オプションがあります。 **注：**レポートを生成するモジュールに対して異なるエンティティ・タイプを一覧表示するレポートにセクションを追加する場合は，[**ユーザ定義**]フィルタ・タイプを使用する必要があります。特殊フィルタを選択すると，セクションがレポートから除外されます。たとえば，不具合セクションを[**標準要件レポート**]に追加し，[**コンテキスト**]フィルタ処理オプションを選択すると，追加したセクションは，生成されたレポートに表示されません。 ▪ **コンテキスト**：モジュールで現在選択されているフィルタに基づいて情報をフィルタ処理します。 ▪ **選択**：モジュールで現在選択されているエンティティの情報のみが含まれます。 **注：**テスト・ラボ・モジュールで選択したエンティティは，選択したテスト実行インスタンスであり，選択したテスト・セットではありません。 ▪ **子を含めて選択**：階層エンティティの場合，このエンティティばかりでなく選択した親エンティティの情報が含まれます。 ▪ **現在のエンティティ・ベース**：モジュールで現在フォーカスしている項目の情報が含まれます。このオプションは，テスト・セット・レベルのテスト・ラボ・モジュールでレポートを生成するために使用します。 **利用可能な場所**：[アナリシス メニュー]タブ：このタブを表示するには，必要な管理者権限が必要です。
	フィルタ/ソートの設定：選択した条件に基づいてデータのフィルタ処理とソートを実行できます。詳細については，「[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックス」(79ページ)を参照してください。
	フィルタのクリア：すべてのフィルタとソートの優先順位をクリアします。
<フィルタ・ボックス>	現在の選択項目が表示されます。

[グラフ選択]領域

既存のグラフをレポートに追加するか，新しいグラフを直接レポートに作成できます。

重要な情報	• **利用可能な場所**：セクション・ノード **注：** グラフをレポートのサブセクションに追加することはできません。 • [ドキュメント追加オプション]領域で[**ベースラインを選択**]オプションを選択した場合，このオプションは利用できません。 • グラフを作成するための権限は，レポートの公開状態によって変わります。レポートが非公開の場合は，非公開グラフの管理権限が必要です。レポートが公開の場合は，グラフを作成，変更，削除する権限が必要です。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
選択	[グラフ選択]領域の右側に[グラフツリー]表示枠が表示されます。この表示枠には，アナリシス・ツリー内のグラフが表示されます。ツリーを展開して，グラフをグラフ・リストにドラッグします。
新規	グラフ・ウィザードが開き，グラフを直接レポートに作成できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「グラフ・ウィザード」(819ページ)を参照してください。 **注：** この方法を使用して KPI グラフを作成することはできません。
設定	[グラフ設定]ウィンドウが開き，軸データを定義してフィルタ・オプションを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[設定]タブ/ウィンドウ - グラフ」(805ページ)を参照してください。
表示	[グラフの表示]ウィンドウが開き，選択したグラフを表示してグラフ表示オプションを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[表示]タブ - グラフ / グラフ・ウィンドウ」(811ページ)を参照してください。
	上に移動/下に移動：プロジェクト・レポートの中で，選択したレポートを上または下に移動できます。
<グラフ・リスト>	レポートに含まれているグラフがリストされます。

[特別なプロパティ]領域

重要な情報	**利用可能な場所**：ALM で階層的に表示されるエンティティ(要件，テスト・フォルダなど)が含まれるトップレベル・セクション。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
階層を維持	レポートでレコードを階層の順序で一覧表示します。

[新規プロジェクト レポート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新規プロジェクト・レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. レポートを追加するフォルダを右クリックし，[**新規プロジェクト レポート**]を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成したレポートは，所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したレポートは，すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	• 「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「プロジェクト・レポートの概要」(842ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロジェクト・レポートの名前	アナリシス・ツリーとレポートのタイトルに表示されるレポートの名前。 **構文の例外**：レポート名は 255 文字を超えることができません。また，名前に次の文字は使用できません。\ ^ *

[レポート セクションの追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，プロジェクト・レポートに新しいセクションを追加できます。

アクセス方法	プロジェクト・レポートでルート・ノードまたはセクション・ノードを右クリックし，[**レポート セクションの追加**]を選択します。
重要な情報	サブセクションを追加できるのは，フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。

関連タスク	• 「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「プロジェクト・レポートの概要」(842ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
タイプ	新しいセクションに含まれるエンティティ。サブセクションの場合，利用可能なタイプは，親セクションのエンティティによって異なります。
関係	新しいセクションのエンティティと親セクションのエンティティとの間の関係を記述します。 **利用可能な場所**：セクション・ノード
名前	新しいセクションの名前。このフィールドは，レポートのセクション・タイトルとして使用されます。

[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，割り当てられたドキュメント・テンプレートに定義されているカスタム・マージ・フィールドの実際の値を入力できます。

アクセス方法	テンプレート・レポートで，[**ドキュメント**] ルート・ノードを選択し，[**ドキュメント フィールド値の編集**] をクリックします。
関連タスク	「プロジェクト・レポートを作成する方法」(842ページ)
参照情報	• 「プロジェクト・レポートの概要」(842ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
フィールド名	割り当てられたドキュメント・テンプレートに定義されているカスタム・マージ・フィールドのリスト。
フィールド値	選択したフィールドの代わりにレポートに表示されるテキスト。

第44章: Excel レポート

本章の内容

Excel レポートの概要 862
Excel レポートを生成する方法 864
Excel レポートのユーザ・インタフェース 866

Excel レポートの概要

ALM 12.00 では，Excel レポートを作成できません。前のバージョンの ALM からの既存の Excel レポートを表示および編集できます。

注： Excel レポートを作成するための機能を有効にするには，**ENABLE_CREATE_LEGACY_EXCEL_REPORT** サイト設定パラメータを設定します。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Performance Center Edition： Excel レポートは，Performance Center エンティティに対しては利用できません。

HP Application Lifecycle Management(ALM) のデータは Microsoft Excel にエクスポートできます。これにより，Excel で利用可能な機能を使ってデータを分析できるようになります。Excel レポートは，プロジェクト・データベースに対する SQL クエリで定義されたデータ・セットで構成されます。また，抽出されたデータに対して Visual Basic スクリプトを実行して，データの処理および分析を行うこともできます。

例

不具合モジュール・データを集計するピボット・テーブルを作成し，さまざまなユーザに割り当てられている不具合の数をステータス別に表形式で表示することができます。

Count of STATUS	STATUS			
ASSIGNED_TO	Closed	Open	Reopen	Grand Total
james_qc	3	6	1	10
mary_qc		13	1	14
peter_qc	5	9		14
Grand Total	8	28	2	38

また，パラメータを使用してレポートを作成することもできます。これにより，1 度作成するだけで多様なコンテキストで使用できる柔軟性の高いレポートを作成できるようになります。

注意： データ非表示フィルタが適用されているグループに属しているユーザは，Excel レポートで制限付きデータにアクセスできます。これに対処するには，Excel レポート・タスクの実行からユーザ・グループを除外します。ユーザ・グループとアクセス許可の管理の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

タスクの詳細については，「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) を参照してください。

本項の内容

- 「データベースの保護」(863ページ)
- 「SQL クエリのパラメータ」(863ページ)

- 「後処理スクリプトを作成する際のガイドライン」(864ページ)

タスクの詳細については，「Excel レポートを生成する方法」(864ページ)を参照してください。

データベースの保護

データベースの整合性が確保されるように，プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。データベース・レコードの追加，修正，または削除を行ってプロジェクト・データベースを変更するクエリは実行しないでください。

標準設定では，クエリが有効でプロジェクト・データベースを変更しないように，次の条件が満たされているかどうか検査されます。

- クエリが **SELECT** コマンドで始まっている。
- クエリに SQL ステートメントが 1 つだけ含まれている。
- クエリに次のコマンドが含まれていない(コメントは除く)：**INSERT**，**DELETE**，**UPDATE**，**DROP**，**CREATE**，**COMMIT**，**ROLLBACK**，**ALTER**，**EXEC**，**EXECUTE**，**MERGE**，**GRANT**，**REVOKE**，**SET**，**INTO**，**TRUNCATE**。

「サイト管理」で **SQL_QUERY_VALIDATION_ENABLED** パラメータと **SQL_QUERY_VALIDATION_BLACK_LIST** パラメータを使用することによって，この検証を実行するかどうか，そして，どのように実行するかをカスタマイズできます。

また，「サイト管理」で **REPORT_QUERY_RECORDS_LIMIT** および **REPORT_QUERY_TIMEOUT** パラメータを使用することで，データベースから取得可能な最大レコード数およびレポート用の SQL クエリが実行されるのを ALM が待つ時間の最大値(秒)もカスタマイズできます。

パラメータの設定の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

SQL クエリのパラメータ

Excel レポートの SQL クエリには，パラメータを含めることができます。各クエリ・パラメータに標準設定値を割り当てることが可能です。レポートを作成するときに，パラメータの値を入力するか，標準設定値で確定するように求められます。また，レポートを作成するたびに確認メッセージが表示されないように，常に標準設定値が使用されるように選択することもできます。

たとえば，一定期間内にプロジェクトに追加された要件の数のグラフが表示されたレポートを作成するとします。その場合，期間を変えて数回レポートを実行する方がいいかもしれません。期間の開始日と終了日のクエリ・パラメータがあるレポートを 1 つ作成すれば，複数のレポートを作成する手間を省くことができます。レポートを作成するたびに，期間の開始日と終了日を入力するように求められます。

最初に，パラメータ・リストにクエリ・パラメータを追加します。レポートのすべてのクエリでアクセスできるグローバル・パラメータを追加できます。また，特定のクエリでのみ利用可能なパラメータを追加することもできます。パラメータ・リストにパラメータを追加したら，クエリにパラメータを挿入します。

注意：

- SQL の識別名（テーブル名やカラム名など）にパラメータを使用することはできません。
- パラメータ値に SQL ステートメントを含めることはできません。

後処理スクリプトを作成する際のガイドライン

後処理スクリプトを作成するときは，次のガイドラインに従ってください。

- 後処理スクリプトには，**QC_PostProcessing** という名前のサブプロシージャを含める必要があります。このプロシージャは，スクリプトへのエントリ・ポイントとして機能します。このプロシージャは値を返すことはできません。また，引数を持つこともできません。
- Excel でレポート・データを使って作業する前に，まず，レポート・データが含まれている範囲を定義する必要があります。この範囲を定義するには，2 つの手順を実行します。
  - 最初に，データが含まれるワークシート・オブジェクトを作成して，レポート・データが含まれるワークシートを定義します。たとえば，ワークシートの名前が `Query1` の場合，`Set MainWorksheet = ActiveWorkbook.Worksheets("Query1")` というステートメントを使用できます。
  - レポート・データが含まれるワークシートを定義したら，データが含まれる範囲オブジェクトを作成して，データが含まれる範囲を定義します。たとえば，`MainWorksheet` という名前のワークシート・オブジェクトを定義した場合，`Set DataRange = MainWorksheet.UsedRange` というステートメントを使用できます。

  この範囲を定義したら，Visual Basic コードを使用して，範囲に含まれるデータを操作できます。
- 後処理スクリプトを実行する前に，Excel でスクリプトを実行できるように，Microsoft Excel のセキュリティ設定を行っておく必要があります。

  Office 2010：Excel で，［Microsoft Office］ボタンをクリックし，［**Excel のオプション**］をクリックします。［**セキュリティ センター**］＞［**セキュリティ センターの設定**］＞［**マクロの設定**］を選択します。［**VBA プロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する**］を選択します。Excel を閉じます。

  注意： Excel でマクロを有効にすると，Microsoft Visual Basic のコア・オブジェクト，メソッド，プロパティにアクセスできるようになるため，セキュリティ上の危険が生じる可能性があります。

Excel レポートを生成する方法

このタスクでは，ALM で Excel レポートを使用してデータを分析する方法を説明します。

ヒント： ALM デモ・プロジェクトには，Excel レポートのサンプルがあります。このレポートの SQL クエリと後処理スクリプトは，独自のクエリおよびスクリプト開発のたたき台として利用できます。

Excel レポートの詳細については，「Excel レポートの概要」(862ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(865ページ)
- 「アナリシス・ツリーへの Excel レポートの追加」(865ページ)
- 「SQL クエリの作成」(865ページ)
- 「後処理スクリプトの作成」(865ページ)
- 「Excel レポートの生成」(866ページ)

1. **前提条件**

   Microsoft Excel のサポート対象バージョンについては，『HP Application Lifecycle Management Readme』を参照してください。

2. **アナリシス・ツリーへの Excel レポートの追加**

   アナリシス・ツリーのフォルダに Excel レポートを追加します。

   a. **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。

   b. **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

   c. **新規 Excel レポートを作成します。** フォルダを右クリックし，[**新規 Excel レポート**]を選択します。[新規 Excel レポート]ダイアログ・ボックスに Excel レポートの名前を入力します。

3. **SQL クエリの作成**

   レポートに含めるプロジェクト・データを選択します。このデータは，SQL クエリを作成して定義します。Excel レポートでは，複数のクエリを作成できます。レポートを生成すると，各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。

   a. **クエリ・ビルダを開きます。** [設定]タブにある[**クエリ**]タブをクリックし，[**クエリ ビルダ**]をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[Excel レポート クエリビルダ]ダイアログ・ボックス」(869ページ)を参照してください。

   b. **SQL クエリを作成します。** SQL エディタにクエリを入力します。

   c. **SQL クエリに ALM エンティティを追加します。** [エンティティビュー]表示枠で ALM エンティティを選択します。

   d. **SQL クエリのパラメータを定義します。** SQL クエリのパラメータを使用して，Excel レポートの結果を入力したパラメータ値に基づいて変更します。[クエリビルダ]ダイアログ・ボックスで，[クエリパラメータ]タブのボタンを使用します。

4. **後処理スクリプトの作成**

Excel へのデータのエクスポート後に実行する Visual Basic スクリプトを作成できます。このスクリプトを使用して，Excel のデータを操作します。

たとえば，Excel の要件データをピボット・テーブルで表すことができます。また，不具合データに関する計算を行い，修正中の不具合の修復にかかる平均時間を割り出したり，エクスポートされたデータに基づいてグラフを作成したりできます。

［設定］タブにある［**後処理**］タブをクリックします。Visual Basic スクリプトを作成します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［後処理］タブ」(873ページ) を参照してください。

5. **Excel レポートの生成**

   Excel レポートを生成すると，SQL クエリで指定したデータがプロジェクト・データベースから抽出され，そのデータが Excel ワークブックに保存され，後処理スクリプトが実行されます。

   a. ［設定］タブにある［**生成設定**］タブをクリックします。Excel レポートの実行オプションを設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については，「［生成設定］タブ」(874ページ) を参照してください。

   b. ［**生成**］をクリックします。

Excel レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

［設定］タブ - Excel レポート 866
［クエリ］タブ 867
［Excel レポート クエリビルダ］ダイアログ・ボックス 869
［後処理］タブ 873
［生成設定］タブ 874
［新規 Excel レポート］ダイアログ・ボックス 875
［新規クエリパラメータ］/［クエリパラメータの編集］ダイアログ・ボックス 875

［設定］タブ - Excel レポート

このタブには，Excel レポートの設定のためのタブが含まれます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの［**ダッシュボード**］の下で，［**アナリシス ビュー**］を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，Excel レポートを選択します。 3. ［**設定**］タブをクリックします。

関連タスク	• 「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[クエリ] タブ	Excel にエクスポートするデータを定義する SQL クエリを作成できます。詳細については、「[クエリ] タブ」(867ページ) を参照してください。
[後処理] タブ	Excel へのデータのエクスポート後に Excel 上で実行する Visual Basic スクリプトを作成できます。詳細については、「[後処理] タブ」(873ページ) を参照してください。
[生成設定] タブ	Excel レポートの実行オプションを設定できます。詳細については、「[生成設定] タブ」(874ページ) を参照してください。

[クエリ] タブ

このタブでは、Excel にエクスポートするデータを定義する SQL クエリを作成できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの [**ダッシュボード**] の下で、[**アナリシス ビュー**] を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し、Excel レポートを選択します。 3. [設定] タブにある [**クエリ**] タブをクリックします。
重要な情報	• データベースの整合性が確保されるように、プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。詳細については、「データベースの保護」(863ページ) を参照してください。 • クエリ・ビルダには、SQL クエリを作成するための高度な機能があります。詳細については、「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(869ページ) を参照してください。
関連タスク	• 「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

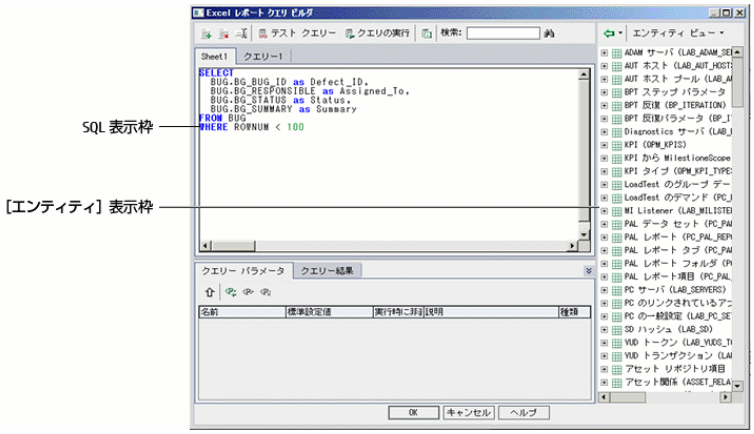
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
生成(G)	**生成**：Excel レポートを生成します。
クエリ ビルダ(Q)	**クエリ・ビルダ**：[Excel レポート クエリビルダ]ダイアログ・ボックスを開き，クエリのテストやクエリへのパラメータの追加といった，SQL クエリの作成のための拡張機能を提供します。詳細については，「[Excel レポート クエリビルダ]ダイアログ・ボックス」(869ページ)を参照してください。
	クエリの追加：新しいクエリを作成できます。「**Query ＜番号＞**」という標準設定の名前の新しいタブがクエリ・ビルダに追加されます。 レポートを生成すると，各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。
	削除：選択したクエリを削除します。
	クエリ名の変更：現在のクエリの名前を変更できます。 **注：** クエリで抽出されたデータが含まれている Excel ワークシートは，クエリと同じ名前になります。
	データベースの種類：プロジェクト・データベースに使用されるデータベースの種類を表示します。 SQL クエリは，プロジェクト・データベースの種類で使用される構文を使って作成する必要があります。
	検索：検索ボックスに入力したテキストをクエリから検索します。 **ヒント：** [**検索**]ボタンをもう一度クリックすると，次のテキストを検索できます。
<クエリ・パラメータ・グリッド>	クエリに利用できるパラメータのリストが表示されます。 **注：** クエリ・パラメータの追加や編集は，Excel レポート・クエリ・ビルダで行います。詳細については，「[Excel レポート クエリビルダ]ダイアログ・ボックス」(869ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
<SQL 表示枠>	Excel レポートに抽出されるデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます。 **構文の例外**：「@」と「¥」には特別な意味があり，プロジェクト・データベースに対して SQL クエリを実行する際，文字どおりに解釈されません。これらが文字どおりに解釈されるようにするには，「@」を「¥@」に，「¥」を「¥¥」に置き換える必要があります。たとえば，ALM データベースに対して `SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '@parameter@'` というステートメントを文字どおりに実行するには，`SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '\@parameter\@'` と入力する必要があります。

[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス

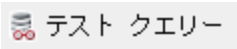
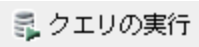
このダイアログ・ボックスでは，SQL クエリを作成できます。



アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，Excel レポートを選択します。 3. [設定]タブにある[**クエリ**]タブをクリックし，[**クエリ ビルダ**]ボタンをクリックします。
重要な情報	• データベースの整合性が確保されるように，プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。詳細については，「データベースの保護」(863ページ) を参照してください。 • SQL クエリにパラメータを含めることができます。詳細については，「SQL クエリのパラメータ」(863ページ) を参照してください。
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(864ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「SQL クエリのパラメータ」(863ページ)

SQL エディタ領域

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	クエリの追加 : 新しいクエリを作成できます。「**Query ＜番号＞**」という標準設定の名前の新しいタブがクエリ・ビルダに追加されます。 レポートを生成すると，各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。
	削除 : 選択したクエリを削除します。
	クエリ名の変更 : 現在のクエリの名前を変更できます。 **注 :** クエリで抽出されたデータが含まれている Excel ワークシートは，クエリと同じ名前になります。
	**テスト・クエリー**: クエリの最初の 10 個の結果を[クエリ結果]タブに表示します。クエリにパラメータが含まれている場合は，パラメータの標準設定値が使用されます。
	**クエリの実行** : クエリの結果を[クエリ結果]タブに表示します。クエリにパラメータが含まれている場合は，値の入力を求められます。
	データベースの種類 : プロジェクト・データベースに使用されるデータベースの種類を表示します。 SQL クエリは，プロジェクト・データベースの種類で使用される構文を使って作成する必要があります。
	検索 : 検索ボックスに入力したテキストをクエリから検索します。 **ヒント :** [**検索**]ボタンをもう一度クリックすると，次のテキストを検索できます。

UI 要素	説明
<SQL エディタ>	Excel レポートに抽出されるデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます。 **注：** プロジェクト・エンティティの間は，カンマで区切ります。 **構文の例外：**「@」と「¥」には特別な意味があり，プロジェクト・データベースに対して SQL クエリを実行する際，文字どおりに解釈されません。これらが文字どおりに解釈されるようにするには，「@」を「¥@」に，「¥」を「¥¥」に置き換える必要があります。たとえば，ALM データベースに対して `SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '@parameter@'` というステートメントを文字どおりに実行するには，`SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '\@parameter\@'` と入力する必要があります。Excel レポートに抽出されるデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます。
コピー/貼り付け	選択したテキストを SQL エディタの別の場所にコピーします。 **利用可能な場所：** クエリ・エディタの右クリック・メニュー
切り取り/貼り付け	選択したテキストを SQL エディタの別の場所に移動します。 **利用可能な場所：** クエリ・エディタの右クリック・メニュー

［エンティティ］表示枠

クエリに追加できる ALM データベース・フィールドおよびエンティティのリストが含まれています。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	エンティティをクエリに追加： 選択したプロジェクト・エンティティを SQL クエリに追加します。エンティティはカーソル位置に挿入されます。 エンティティ・タイトルで定義されたカラム・エイリアス付きでプロジェクト・エンティティを追加するには，［**エンティティをクエリに追加**］の矢印をクリックし，［**エンティティをクエリに追加（エンティティのタイトルをエイリアスとして使用）**］を選択します。 **利用可能な場所：**［エンティティ］表示枠
エンティティ ビュー ▾	**エンティティ・ビュー：**［エンティティ］表示枠内のフィールドとエンティティを，名前順，データベースのカラム名順，あるいはその両方の順序で表示できます。 **利用可能な場所：**［エンティティ］表示枠

[クエリー パラメータ]タブ

クエリに利用できるパラメータのリストが表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
⇧	**パラメータをクエリに追加**：選択したパラメータをSQL クエリに追加します。パラメータはカーソル位置に挿入されます。 **注：**テキスト値を示すパラメータの場合は，[SQL]表示枠で，パラメータを囲むように手動で一重引用符(')を追加する必要があります。たとえば，[SQL]表示枠に `WHERE BUG.BG_DETECTED_BY = @name@` という句が含まれている場合，`@name@` というテキストを `'@name@'` にする必要があります。 **利用可能な場所**：[クエリ パラメータ]タブ
<P+>	**新規クエリ・パラメータ**：[新規クエリ パラメータ]ダイアログ・ボックスが開き，パラメータのグリッドにパラメータを追加できます。詳細については，「[新規クエリ パラメータ]/[クエリ パラメータの編集]ダイアログ・ボックス」(875ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[クエリ パラメータ]タブ
<P>	**クエリ・パラメータの編集**：[クエリ パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開き，選択したパラメータを編集できます。詳細については，「[新規クエリ パラメータ]/[クエリ パラメータの編集]ダイアログ・ボックス」(875ページ)を参照してください。 **利用可能な場所**：[クエリ パラメータ]タブ
<P×>	**クエリ・パラメータの削除**：選択したパラメータをパラメータのグリッドから削除します。 **注意：**レポートのクエリで使用されているパラメータを削除すると，そのパラメータが含まれているクエリが有効ではなくなります。 **利用可能な場所**：[クエリ パラメータ]タブ

[クエリ—結果]タブ

SQL クエリのプレビュー結果を表示します。

[後処理]タブ

このタブでは，抽出されたデータが Excel にエクスポートされた後で実行される Visual Basic スクリプトを作成できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，Excel レポートを選択します。 3. [設定]タブにある[**後処理**]タブをクリックします。
重要な情報	後処理スクリプトを作成するときは，重要なガイドラインに従ってください。詳細については，「後処理スクリプトを作成する際のガイドライン」(864ページ) を参照してください。
関連タスク	• 「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
生成	**生成**：Excel レポートを生成します。
	検索：検索ボックスに入力したテキストを後処理スクリプトから検索します。 **ヒント**：[**検索**]ボタンをもう一度クリックすると，次のテキストを検索できます。
後処理の実行	Excel へのデータのエクスポート後に後処理スクリプトを実行するように ALM に指示します。レポートの生成時にスクリプトを実行したくない場合は，このオプションをクリアします。
<スクリプト・エディタ・ボックス>	Excel へのデータのエクスポート後に Excel 上で実行する Visual Basic スクリプトが表示されます。 **ヒント**：このスクリプトは，スクリプト・エディタ・ボックスにすでに表示されているテンプレート・スクリプトに基づいて作成します。

[生成設定]タブ

このタブでは，Excel レポートの生成のための設定を定義できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，Excel レポートを選択します。 3. [設定]タブにある[**生成設定**]タブをクリックします。
関連タスク	• 「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
生成(G)	**生成**：Excel レポートを生成します。 レポートのステータスが**準備未完了**の場合は，警告メッセージが表示されます。 レポートのクエリにパラメータが含まれている場合は，[レポート パラメータ]ダイアログ・ボックスが開きます。[**値**]カラムにパラメータ値を入力します。 定義した場所にレポートが保存されます。[**レポートを Excel で起動**]を選択した場合は，Excel が開いてレポートが表示されます。選択しなかった場合は，確認メッセージが表示されます。
レポートを Excel で起動	レポートの作成後に Excel でレポートを開くように ALM に指示します。このオプションを選択しない場合，保存されたレポートを後で Excel に読み込むことができます。
ステータス	レポートを作成する準備ができているかどうかをほかのユーザに知らせます。レポートのステータスで利用できるオプションは次のとおりです。 • **準備完了**：レポートを作成する準備ができていることを示します。 • **準備未完了**：レポートを作成する準備ができていないことを示します。ユーザがこのステータスのレポートを作成しようとすると，警告メッセージが表示されます。
レポートを次の名前で保存	データをエクスポートする Excel ファイルの場所と名前。 **ヒント：** 参照ボタンをクリックしてフォルダを選択できます。

[新規 Excel レポート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，新規 Excel レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. レポートを追加するフォルダを右クリックし，[**新規 Excel レポート**]を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成した Excel レポートは，所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成した Excel レポートは，すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	• 「Excel レポートを生成する方法」(864ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「Excel レポートの概要」(862ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
Excel レポートの名前	アナリシス・ツリーに表示されるレポートの名前。 **構文の例外**：レポート名は 255 文字を超えることができません。また，名前に次の文字は使用できません。\ ^ *

[新規クエリ パラメータ]/[クエリ パラメータの編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは，クエリ・パラメータの編集または新規作成を実行できます。

アクセス方法	1. Excel レポートで，[設定]タブにある[**クエリ**]タブをクリックし，[**クエリ ビルダ**]ボタンをクリックします。 2. [クエリー パラメータ]タブで，右クリックして[**パラメータの新規作成**]または[**パラメータの編集**]を選択します。
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(864ページ)
参照情報	「SQL クエリのパラメータ」(863ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
パラメータ名	パラメータの名前。 **注 :** パラメータ名を変更した場合，SQL クエリでそのパラメータが使用されているすべての場所に変更が自動的に適用されます。 **構文の例外 :** パラメータの名前には，下線文字以外の特殊文字は使用できません。
標準設定値	パラメータが標準設定で使用する値。
実行時に非表示	レポートを作成するときは常に標準設定値を使用するように ALM に指示します。レポートを作成するときに，標準設定値をそのまま使用するか変更するかの確認メッセージを表示する場合は，このオプションをクリアします。
グローバル・パラメータ	パラメータが現在の Excel レポートのすべてのクエリで利用可能であることを示します。
説明	パラメータの詳細な説明。

第45章: ビジネス・ビュー Excel レポート

本章の内容

ビジネス・ビュー Excel レポートの概要 878
ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法 878
ビジネス・ビュー Excel レポートのユーザ・インタフェース 880

ビジネス・ビュー Excel レポートの概要

ビジネス・ビューは1つのデータ層で，データベースの最上位に位置し，ビジネスの視点から有益な情報を示すプロジェクト・エンティティ・フィールドのみを表します。

たとえば，ベースライン・エンティティに基づくビジネス・ビューには，[**名前**]，[**説明**]，[**ベースライン ID**]の各フィールドが含まれています。これは，これらのフィールドが，ビジネスのみに特化した視点でベースライン情報を把握する必要があるコンシューマにとって重要になる可能性がある情報を提供するためです。同様に，ビジネス・ビューには[**添付**]と[**自動入力タイプ**]フィールドが含まれません。これらのフィールドはビジネス上それほど重要ではないからです。

ビジネス・ビューは，[**ベースライン**]や[**不具合**]などの単一エンティティに基づく場合もあれば，[**リンクされた要件を持つ不具合**]などのエンティティ間のより複雑な関係を示す場合もあります。

[プロジェクト カスタマイズ]では，事前定義されたビジネス・ビューに加えて新たにビューを作成できます。詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ビジネス・ビュー Excel レポートの作成と修正は Microsoft Excel で実行できます。こうして，Excel のあらゆる機能を使ってデータを分析してから，レポートを ALM にアップロードできます。

ビジネス・ビュー Excel レポートは，複数のプロジェクトのデータを使用して作成できます。

タスクの詳細については，「ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法」(878ページ)を参照してください。

ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法

このタスクでは，ビジネス・ビュー Excel レポートを使用して ALM のデータを分析する方法を説明します。

ビジネス・ビュー Excel レポートの詳細については，「ビジネス・ビュー Excel レポートの概要」(878ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(878ページ)
- 「アナリシス・ツリーへのビジネス・ビュー Excel レポートの追加」(879ページ)
- 「ビジネス・ビュー Excel レポートの作成」(879ページ)
- 「ALM へのビジネス・ビュー Excel レポートのインポート」(879ページ)
- 「ビジネス・ビュー Excel レポートの生成」(880ページ)

1. **前提条件**

   Microsoft Excel のサポート対象バージョンについては，『HP Application Lifecycle Management Readme』を参照してください。

> **注：** Microsoft Excel 2013 では，一度に1つの Business View Excel レポートしか開くことができません。

HP Application Lifecycle Management の[アドイン]ページから HP ALM Business Views Microsoft Excel add-in をインストールします。ALM の[アドイン]ページには，[**ヘルプ**]＞[**アドイン**]からアクセスできます。

2. **アナリシス・ツリーへのビジネス・ビュー Excel レポートの追加**

   ビジネス・ビュー Excel レポートをアナリシス・ツリーのフォルダに追加します。

   a. **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。

   b. **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし，[**新規フォルダ**]を選択します。

   c. **新規 Excel レポートを作成します。** フォルダを右クリックし，[**新規ビジネス ビュー Excel レポート**]を選択します。[新規ビジネス ビュー Excel レポート]ダイアログ・ボックスにビジネス・ビュー Excel レポートの名前を入力します。

   > **注：** HP ALM Business Views Microsoft Excel Add-in に新しいバージョンがある場合は，マシン上のアドインを更新するダイアログ・ボックスが開きます。

3. **ビジネス・ビュー Excel レポートの作成**

   ビジネス・ビュー Excel レポートを Excel で作成します。

   a. **Excel を開きます。** ALM の Analysis モジュールの[設定]タブで，[**新規 Excel**]をクリックします。Excel が開いて，リボンに[HP ALM]タブが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については，『Business Views Microsoft Excel Add-in User Guide』を参照してください。

   b. **ビジネス・ビュー Excel レポートを作成します。** Excel で，新しいビジネス・ビュー Excel レポートを作成します。タスクの詳細については，『Business Views Microsoft Excel Add-in User Guide』を参照してください。

4. **ALM へのビジネス・ビュー Excel レポートのインポート**

   ビジネス・ビュー Excel レポートは，Excel から ALM に直接アップロードできます。タスクの詳細については，『Business Views Microsoft Excel Add-in User Guide』を参照してください。

   また，Excel でレポートをファイルとして保存し，後で ALM にアップロードすることもできます。ALM でファイルをアップロードするには，次の手順を実行します。

   a. ALM の Analysis モジュールの[設定]タブで，をクリックします。

   b. **ビジネス・ビュー Excel レポートを選択します。** 検索ウィンドウで目的のファイルを探し，[**開く**]

をクリックします。選択したファイル名が[**ファイル名**]フィールドに表示されます。

5. **ビジネス・ビュー Excel レポートの生成**

   ビジネス・ビュー Excel レポートを生成すると，すべてのデータが更新され，Excel ファイルが保存され，そのファイルが Excel で開きます。

   a. ALM の**アナリシス・ビュー**で，をクリックします。

   b. [設定]タブで[**生成**]をクリックします。

   c. **ビジネス・ビュー Excel レポートを保存します。**検索ウィンドウで，レポートを保存する場所を探し，[**保存**]をクリックします。レポートが保存され，Excel で開きます。

ビジネス・ビュー Excel レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

[設定]タブ - ビジネス・ビュー Excel レポート 880

[設定]タブ - ビジネス・ビュー Excel レポート

このタブでは，Excel を開いて，ビジネス・ビュー Excel レポートの設定と生成を行えます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの[**ダッシュボード**]の下で，[**アナリシス ビュー**]を選択します。 2. アナリシス・ツリーを展開し，ビジネス・ビュー Excel レポートを選択します。 3. [**設定**]タブをクリックします。
関連タスク	• 「ビジネス・ビュー Excel レポートの生成方法」(878ページ) • 「ALM でデータを分析する方法」(778ページ)
参照情報	• 「ビジネス・ビュー Excel レポートの概要」(878ページ) • 「[アナリシス ビュー] ウィンドウ」(780ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
生成	選択したビジネス・ビュー Excel レポートを Excel で生成します。

UI 要素	説明
新規 Excel	Excel を開いて，新しいビジネス・ビュー Excel レポートを作成します。
アドインのインストール	Business View Excel Add-in を Excel にインストールまたは Excel からアンインストールします。 **注 :** これでインストールされるのは，すべてのユーザ用ではなく特定のユーザ用のアドインのみです。
Excel レポートファイルのアップロード	ビジネス・ビュー Excel レポートを ALM にアップロードできます。

第46章: ライブ・アナリシス・グラフ

本章の内容

ライブ・アナリシス・グラフの概要 884
ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法 884
ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース 885

ライブ・アナリシス・グラフの概要

ライブ・アナリシスでは，次の内容を示す動的なチャートを作成して表示できます。

- テスト計画モジュールのテスト・サブジェクト・データ。
- テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・フォルダ・データ。
- ビジネス・コンポーネント・モジュールのビジネス・コンポーネント・サブジェクト・フォルダ。

各モジュールでは，最大 2 個のライブ・アナリシス・グラフを作成できます。

ライブ・アナリシス・グラフは，「グラフおよびダッシュボード・ページ」(793ページ)で説明しているグラフとは異なり，変更のあったデータを表示するためにグラフを作成し直す必要がありません。また，グラフのレイアウトや設定は，同じモジュール内のすべてのフォルダに対して保持されます。これにより，グラフのデザインを指定し直さなくても，異なるフォルダに対して同じグラフによる分析を表示できます。

タスクの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)を参照してください。

ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法

このタスクでは，テスト・サブジェクト，テスト・セット，ビジネス・コンポーネントに対する自動生成グラフを作成して表示する方法を説明します。

Excel レポートの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフの概要」(884ページ)を参照してください。

ライブ・アナリシス・グラフの生成方法に関するムービーを表示するには，ALM オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(884ページ)
- 「ライブ・アナリシス・グラフの作成」(885ページ)
- 「ライブ・アナリシス・グラフの表示」(885ページ)

1. **前提条件**

   テスト計画ライブ・アナリシス・グラフの場合，テスト計画モジュールでテスト・サブジェクト・フォルダが定義されていること。

   テスト・ラボ・ライブ・アナリシス・グラフの場合，テスト・ラボ・モジュールでテスト・セット・フォルダが定義されていること。

   ビジネス・コンポーネント・ライブ・アナリシス・グラフの場合，ビジネス・コンポーネント・モジュールでコンポーネント・サブジェクト・フォルダが定義されていること。

2. **ライブ・アナリシス・グラフの作成**

   a. サイドバーの[**テスト**]の下で，[**テスト計画**]，[**テスト ラボ**]，または[**ビジネス コンポーネント**]を選択します。

   b. モジュール・ツリー内のフォルダを選択します。

   c. [**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。

   d. グラフを表示する表示枠で[**グラフの追加**]リンクをクリックします。ウィザードに従って，ライブ・アナリシス・グラフをデザインします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ)を参照してください。

3. **ライブ・アナリシス・グラフの表示**

   ライブ・アナリシス・グラフの表示方法は変更できます。これには，グラフの全画面表示への最大化，グラフの外観の変更，グラフ・データへのドリルダウンが含まれます。

   a. サイドバーの[**テスト**]の下で，[**テスト計画**]，[**テスト ラボ**]，または[**ビジネス コンポーネント**]を選択します。

   b. モジュール・ツリー内のフォルダを選択します。

   c. [**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[ライブ アナリシス]タブ」(885ページ)を参照してください。

ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース

本項の内容

[ライブ アナリシス]タブ 885
ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード 887

[ライブ アナリシス]タブ

このタブでは，テスト・サブジェクト，テスト・セット・フォルダ，ビジネス・コンポーネント・サブジェクトに対するライブ・アナリシス・グラフを作成して表示できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの，[**テスト**]の下の[**テスト計画**]，[**テスト ラボ**]，[**ビジネス コンポーネント**]のいずれかを選択します。 2. モジュール・ツリーでグラフを選択し，[**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。

重要な情報	• ライブ・アナリシス・グラフは，作成したユーザのユーザ・ログインに対して一意です。プロジェクトの各ユーザは，自分だけが表示できてほかのユーザは表示できないライブ・アナリシス・グラフを作成できます。 • ライブ・アナリシス・グラフは，選択したフォルダの直下にあるノードのみを表します。選択したフォルダの子フォルダの下位階層にあるテスト，テスト・セット，ビジネス・コンポーネントは含まれません。 • グラフに表示されるデータには，モジュールに対して設定されているフィルタが反映されます。
関連タスク	「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)
参照情報	「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は，山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
グラフの追加	ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザードが起動し，ライブ・アナリシス・グラフをデザインできます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ)を参照してください。
	グラフを全画面で表示：現在のグラフを全画面モードに最大化します。 **ヒント：**通常の表示に戻るには，[**閉じる**]ボタンをクリックします。
	グラフの外観を設定：[グラフの外観]ダイアログ・ボックスが開き，現在のグラフのタイトル，色，表示を変更できます。詳細については，「[グラフの外観]ダイアログ・ボックス」(830ページ)を参照してください。
	グラフの削除：現在のライブ・アナリシス・グラフを[ライブ アナリシス]タブから削除します。 **注：**フォルダに対して2つのライブ・アナリシス・グラフを表示している場合，新しいグラフを作成するには，まず既存のグラフのいずれかを削除する必要があります。
<グラフ領域>	グラフ領域では次の動作を実行できます。 **ドリル・ダウン：**データを詳細に分析するには，グラフの棒または扇形をクリックします。[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[結果のドリルダウン]ダイアログ・ボックス」(831ページ)を参照してください。 **色の設定**：グラフの色を変更するには，棒または線を右クリックします。開いた[色の設定]ダイアログ・ボックスで，いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。

UI 要素	説明
<凡例>	グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。 **色の設定**：カテゴリを右クリックして色を変更できます。開いた[色の設定]ダイアログ・ボックスで，いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。

ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード

このウィザードでは，テスト・サブジェクト，テスト・セット・フォルダ，ビジネス・コンポーネント・サブジェクトに対するライブ・アナリシス・グラフを作成できます。

アクセス方法	1. ALM サイドバーの，[**テスト**]の下の[**テスト計画**]，[**テスト ラボ**]，[**ビジネス コンポーネント**]のいずれかを選択します。 2. モジュール・ツリーでグラフを選択し，[**ライブ アナリシス**]タブをクリックします。 3. グラフを表示する表示枠で[**グラフの追加**]リンクをクリックします。
重要な情報	表示するデータを定義すると，以降は，グラフの作成対象であるフォルダ内のテストまたはテスト・セットにおいてデータが変更されるたびにグラフが自動的に更新されます。
関連タスク	「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(884ページ)
ウィザード・マップ	ウィザードの構成は次のとおりです。 「[グラフの種類を選択]ページ」(887ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(888ページ)
参照情報	「[ライブ アナリシス]タブ」(885ページ)

[グラフの種類を選択]ページ

このウィザード・ページでは，ライブ・アナリシス・グラフの種類を選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ)
ウィザード・マップ	「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ) には次が含まれます。 「[グラフの種類を選択]ページ」(887ページ) > 「[グラフ属性の選択]ページ」(888ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
説明	選択したグラフ・タイプの説明。

UI 要素	説明
エンティティ	グラフの対象となるALMエンティティ。
グラフ・タイプ	表示するグラフの種類を選択します。 **サマリ・グラフ**：テスト・サブジェクトのテストの数，フォルダ内のテスト・セットのテストの数，またはビジネス・コンポーネント・サブジェクトのコンポーネントの数を示します。 **進行状況グラフ**：一定時間内のある時点において，それまでにテスト・サブジェクト，フォルダ内のテスト・セット，またはビジネス・コンポーネント・サブジェクトのコンポーネントに蓄積されたテストの数を示します。 **トレンド・グラフ**：テスト計画モジュールでは，選択したテスト・サブジェクト・フォルダ内の，特定のテスト計画フィールドに加えられた変　の履歴を，表示期間ごとに示します。ビジネス・コンポーネント・モジュールでは，一定時間内の各点において，プロジェクトの特定のビジネス・コンポーネント・フィールドに加えられた変更の履歴を示します。

［グラフ属性の選択］ページ

このウィザード・ページでは，ライブ・アナリシス・グラフの属性を設定できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については，次を参照してください。「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ)
ウィザード・マップ	「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(887ページ) には次が含まれます。 「［グラフの種類を選択］ページ」(887ページ) > 「［グラフ属性の選択］ページ」(888ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
グループ化フィールド	グラフでテストまたはコンポーネントをグループ分けするために使用するフィールド。 **注：** 進行状況グラフの場合，履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴の有効化の詳細については，『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
X 軸フィールド	サマリ・グラフで，グラフのX軸に値を表示するフィールド。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ユーザーズ・ガイド (ALM 12.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。

Java™
COMPATIBLE